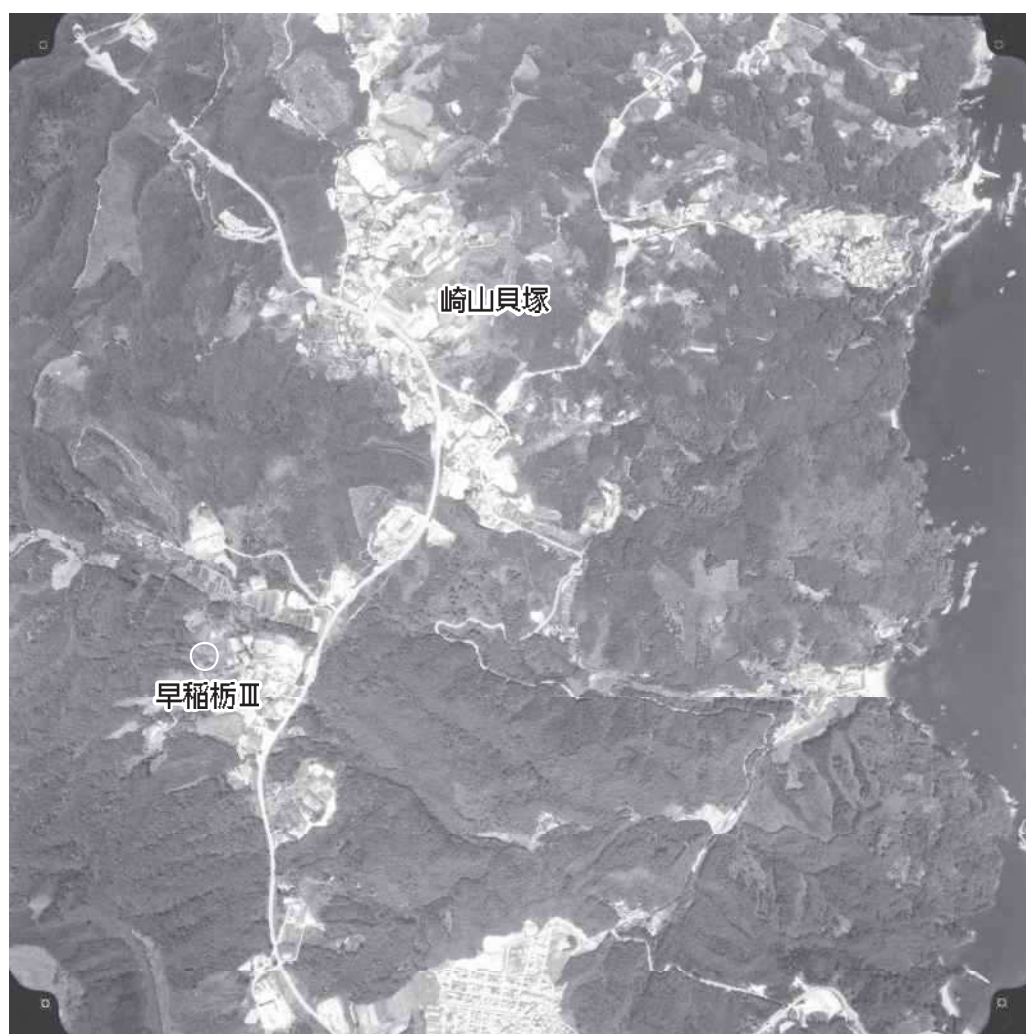


早稲栃Ⅲ遺跡

— 果樹園改良事業(個人)関係発掘調査報告書 —



2021.2

岩手県宮古市教育委員会

序 文

三陸地方の沿岸部には、数多くの遺跡が存在しており、われわれの住む宮古市にも、先人たちが残した貝塚、館跡、集落跡など682カ所の遺跡が存在することが知られております。

これらの遺跡は、数千年前の縄文時代から古代、さらに近世までの宮古の歴史を現代のわれわれに語り伝えてくれる貴重な財産であります。わたしたちはこれらの遺跡を、正しく認識するとともに、これを後世に伝え残していくことが責務と考えます。

本書は、果樹園改良工事に伴う発掘調査の結果をまとめたものです。早稲枋地区ではこれまでの調査で、主に縄文時代の遺跡が見つかっていましたが、今回の調査では縄文時代の集落にくわえて古代の住居跡が出土しております。最近の調査では早稲枋Ⅱ遺跡など周辺の遺跡から中世の製鉄炉跡などが出土しており、崎山地区の新たな一面が明らかになってきております。

この遺跡の調査記録が、地域史の資料として活用されることを願うとともに、これまでの発掘調査および本書の刊行にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げ、本書の序文といたします。

令和3年2月

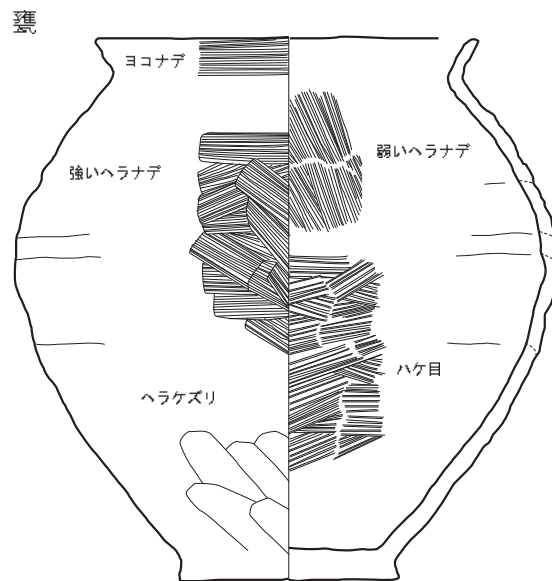
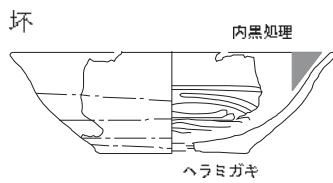
宮古市教育委員会教育長

伊藤 晃二

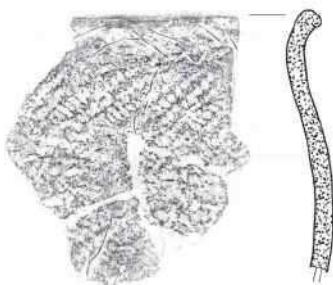
例 言

1. 本書は、果樹園改良工事（個人事業）に伴う早稲枋Ⅲ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査主体は宮古市教育委員会である。発掘調査は竹下が担当し、報告書の執筆、編集は阿部が担当した。その他担当職員はこれを補佐した。
3. 土層の観察、表記にあたっては、『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著 1990 年度版）を使用した。
4. この発掘調査によって出土した遺物及び調査記録資料は、宮古市教育委員会で保管している。

凡 例



胎土の繊維を含む土器



目 次

序文

例言

目次

1	調査経過	1
1-1	調査に至る経過	
1-2	調査要旨	
1-3	調査体制	
2	遺跡の立地環境	2
2-1	遺跡の立地と周辺の遺跡	2
2-2	遺跡の立地と周辺の遺跡（図3）	3
3	調査結果	10
3-1	基本層序	10
3-2	検出された遺構と遺物	10
	平成7年度（1995）調査区	10
	平成8年度（1996）調査区	49
	平成9年度（1997）調査区	157
4	調査のまとめ	252
4-1	平安時代の遺構	
4-2	縄文時代の遺構	
5	自然科学分析－HH01 竪穴住居跡出土遺物－	257
	炭化材樹種同定報告	258
	種実自然科学分析	261
	写真図版	265
	報告書抄録	295
	宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧	296

図版目次

図 1	宮古市位置図	2
図 2	地形分類図と遺跡分布	3
図 3	周辺の遺跡	4
図 4	調査区と遺跡の周辺の地形	5
図 5	早稲栃Ⅲ遺跡調査区全体図	7
図 6	平成 7 年度（1995）調査区遺構配置図	9
図 7	JH01 竪穴住居跡 JK01 土坑跡平・断面	11
図 8	JK01 土坑跡断面	11
図 9	JH01 竪穴住居跡炉跡平・断面	12
図 10	XF01 焼土平・断面	12
図 11	JH01 竪穴住居跡出土遺物	12
図 12	JH02 JH03 竪穴住居跡平・断面	13
図 13	JH02 竪穴住居跡出土遺物	14
図 14	JH04 竪穴住居跡 JK02 土坑跡平・断面	16
図 15	JK02 土坑跡平・断面	18
図 16	JH04 竪穴住居跡炉跡平・断面	18
図 17	JH04 竪穴住居跡出土遺物（1）	19
図 18	JH04 竪穴住居跡出土遺物（2）	20
図 19	XK01 土坑跡平・断面	21
図 20	JH05 竪穴住居跡平・断面	23
図 21	JH05 竪穴住居跡炉跡平・断面	24
図 22	JH05 竪穴住居跡出土遺物（1）	25
図 23	JH05 竪穴住居跡出土遺物（2）	26
図 24	JH06 竪穴住居跡出土遺物	27
図 25	JH06 JH07 竪穴住居跡平・断面	28
図 26	JH07 竪穴住居跡出土遺物	29
図 27	JH08 竪穴住居跡 XK04 XK05 土坑跡平・断面	31
図 28	JH08 竪穴住居跡出土遺物	32
図 29	XK04 土坑跡出土遺物	32
図 30	JH09 JH10 竪穴住居跡 XK06 土坑跡平・断面	34
図 31	JH10 竪穴住居跡炉跡平・断面	34
図 32	JH09 JH10 竪穴住居跡出土遺物	35
図 33	JH11 JH12 竪穴住居跡 JF01 炉跡平・断面	38
図 34	JH12 竪穴住居跡炉跡平・断面	39
図 35	JH12 竪穴住居跡埋設土器平・断面	39
図 36	JF01 炉跡平・断面	39

図 37	JH12 竪穴住居跡出土遺物 (1)	40
図 38	JH12 竪穴住居跡出土遺物 (2)	41
図 39	JH12 竪穴住居跡出土遺物 (3)	42
図 40	JH11 竪穴住居跡出土遺物 (1)	43
図 41	JH11 竪穴住居跡出土遺物 (2)	44
図 42	遺構外出土遺物 1995 (1) 表土	46
図 43	遺構外出土遺物 1995 (2) 表土 検出面	47
図 44	平成 8 年度 (1996) 調査区遺構配置図	48
図 45	JH13 JH30 竪穴住居跡 JK03 土坑跡平・断面	50
図 46	JH13 竪穴住居跡炉跡平・断面	51
図 47	JH13 竪穴住居跡断面	52
図 48	JH13 竪穴住居跡焼土 A・B 平・断面	52
図 49	XF02 XF03 焼土平・断面	54
図 50	JH13 竪穴住居跡出土遺物 (1)	55
図 51	JH13 竪穴住居跡出土遺物 (2)	56
図 52	JH30 竪穴住居跡出土遺物	57
図 53	JK03 土坑跡出土遺物	57
図 54	JH14 竪穴住居跡 JK04～JK07 XK08 土坑跡平・断面	59
図 55	JH14 竪穴住居跡炉跡平・断面	60
図 56	JH14 竪穴住居跡出土遺物 (1)	62
図 57	JH14 竪穴住居跡 (2) JK04 土坑跡出土遺物	63
図 58	JK07 土坑跡出土遺物	64
図 59	JH46 竪穴住居跡炉跡平・断面	66
図 60	JH35 竪穴住居跡出土遺物	67
図 61	JH15 JH16 竪穴住居跡 JK08 XK09 XK10 土坑跡平・断面	69
図 62	JH15 JH16 竪穴住居跡 JK08 XK09 土坑跡出土遺物	70
図 63	JH17 竪穴住居跡 XK11 XK12 土坑跡平・断面	72
図 64	XF04 焼土平・断面	72
図 65	JH17 竪穴住居跡出土遺物	73
図 66	JH18 竪穴住居跡平・断面	75
図 67	JH18 竪穴住居跡炉跡平・断面	76
図 68	JF02 炉跡平・断面	76
図 69	JH18 竪穴住居跡出土遺物 (1)	78
図 70	JH18 竪穴住居跡出土遺物 (2)	79
図 71	JH18 竪穴住居跡出土遺物 (3)	80
図 72	JH18 竪穴住居跡出土遺物 (4)	81
図 73	JH19 竪穴住居跡 JK10 JK11 JK12 土坑跡平・断面	83
図 74	JH19 竪穴住居跡炉跡平・断面	84
図 75	JK11 土坑跡埋設土器平・断面	84
図 76	JH19 竪穴住居跡出土遺物 (1)	86

図 77	JH19 竪穴住居跡出土遺物 (2)	87
図 78	JK10 JK12 土坑跡出土遺物	87
図 79	JH20 竪穴住居跡平・断面	88
図 80	JH20 竪穴住居跡出土遺物	89
図 81	JH21 竪穴住居跡平・断面	90
図 82	JH21 竪穴住居跡出土遺物	91
図 83	粘土採掘土坑平面	93
図 84	粘土採掘土坑断面	94
図 85	JX01 埋設土器平・断面	94
図 86	JX01 粘土採掘土坑跡出土遺物 (1)	96
図 87	JX01 粘土採掘土坑跡出土遺物 (2)	97
図 88	JX01 粘土採掘土坑跡出土遺物 (3)	98
図 89	JX01 粘土採掘土坑跡出土遺物 (4)	99
図 90	JX01 粘土採掘土坑跡出土遺物 (5)	100
図 91	JX01 粘土採掘土坑跡出土遺物 (6)	101
図 92	JH22 竪穴住居跡平・断面	103
図 93	JH22 竪穴住居跡断面	104
図 94	JH22 竪穴住居跡焼土平・断面	104
図 95	JH22 竪穴住居跡出土遺物 (1)	106
図 96	JH22 竪穴住居跡出土遺物 (2)	107
図 97	JH22 竪穴住居跡 JK22 土坑跡出土遺物 (3)	108
図 98	JH22 竪穴住居跡 JK22 土坑跡出土遺物 (4)	109
図 99	JH22 竪穴住居跡出土遺物 (5)	110
図 100	JH23 竪穴住居跡平・断面	110
図 101	JH23 竪穴住居跡柱穴 JK14 XK17 土坑跡断面	113
図 102	JH23 竪穴住居跡炉跡平・断面	114
図 103	JH23 竪穴住居跡出土遺物 (1)	115
図 104	JH23 竪穴住居跡出土遺物 (2)	116
図 105	JH23 竪穴住居跡出土遺物 (3)	117
図 106	JH24 JH25 竪穴住居跡 JK17 JK18 土坑跡平・断面	119
図 107	JH24 竪穴住居跡出土遺物	121
図 108	JH25 竪穴住居跡出土遺物	121
図 109	JH26 竪穴住居跡 JK16 土坑跡平・断面	122
図 110	JH26 竪穴住居跡出土遺物	123
図 111	JH27 竪穴住居跡 JK19 土坑跡 X 遺構平・断面	125
図 112	JH27 竪穴住居跡 (新) 炉跡平・断面	126
図 113	JH27 竪穴住居跡 (旧) 炉跡平・断面	126
図 114	JH27 竪穴住居跡出土遺物	128
図 115	JH28 竪穴住居跡平・断面	130
図 116	JH28 竪穴住居跡炉跡平・断面	131

図 117	JH28 竪穴住居跡出土遺物 (1)	132
図 118	JH28 竪穴住居跡出土遺物 (2)	133
図 119	JH28 竪穴住居跡出土遺物 (3)	134
図 120	JK15 土坑跡平・断面	135
図 121	JK15 土坑跡出土遺物	135
図 122	JH29 竪穴住居跡平・断面	137
図 123	JH29 竪穴住居跡炉跡平・断面	138
図 124	JH29 竪穴住居跡出土遺物 (1)	139
図 125	JH29 竪穴住居跡出土遺物 (2)	140
図 126	JH31 竪穴住居跡 JF03 炉跡 JK13 土坑跡平・断面	142
図 127	JK13 土坑跡出土遺物	142
図 128	JH31 竪穴住居跡炉跡平・断面	143
図 129	JF03 炉跡平・断面	143
図 130	JF03 炉跡出土遺物	143
図 131	JH31 竪穴住居跡出土遺物	144
図 132	JF04 炉跡平・断面	145
図 133	JF04 炉跡出土遺物	145
図 134	遺構外出土遺物 1996 (1) 表土	147
図 135	遺構外出土遺物 1996 (2) 表土	148
図 136	遺構外出土遺物 1996 (3) 表土	149
図 137	遺構外出土遺物 1996 (4) 表土	150
図 138	遺構外出土遺物 1996 (5) 表土	151
図 139	遺構外出土遺物 1996 (6) 検出面	152
図 140	遺構外出土遺物 1996 (7) 検出面	153
図 141	平成 9 年度 (1997) 調査区遺構配置図	155
図 142	HH01 竪穴住居跡平・断面	158
図 143	HH01 貝層平・断面	159
図 144	HH01 竪穴住居跡平・断面	162
図 145	HH01 竪穴住居跡カマド (新) 平・断面	163
図 146	HH01 焼土 A・B 平・断面	164
図 147	HH01 竪穴住居跡カマド (旧) 焼土 C 平・断面	165
図 148	HH01 竪穴住居跡出土遺物 (1)	167
図 149	HH01 竪穴住居跡出土遺物 (2)	168
図 150	HH01 竪穴住居跡出土遺物 (3)	169
図 151	HH01 竪穴住居跡出土遺物 (4)	170
図 152	HH01 竪穴住居跡出土遺物 (5)	171
図 153	HH01 竪穴住居跡出土遺物 (6)	172
図 154	HH02 竪穴住居跡平・断面	174
図 155	HH02 P 1 土坑跡平・断面	175
図 156	HH02 カマド平・断面	176

図 157	HH02 竪穴住居跡出土遺物 (1)	178
図 158	HH02 竪穴住居跡出土遺物 (2)	179
図 159	HH02 竪穴住居跡出土遺物 (3)	180
図 160	HH03 竪穴住居跡平・断面	182
図 161	HH03 竪穴住居跡カマド平・断面	183
図 162	HH03 竪穴住居跡出土遺物 (1)	185
図 163	HH03 竪穴住居跡出土遺物 (2)	186
図 164	HH04 竪穴住居跡出土遺物	187
図 165	HH04 竪穴住居跡平・断面	188
図 166	HH05 竪穴住居跡平・断面	190
図 167	HH05 竪穴住居跡断面	191
図 168	HH05 竪穴住居跡カマド平・断面	192
図 169	HH05 竪穴住居跡出土遺物 (1)	194
図 170	HH05 竪穴住居跡出土遺物 (2)	195
図 171	HH05 竪穴住居跡出土遺物 (3)	196
図 172	JH32 JH33 竪穴住居跡平・断面	198
図 173	JH32 竪穴住居跡炉跡平・断面	199
図 174	JH32 竪穴住居跡出土遺物 (1)	200
図 175	JH32 竪穴住居跡出土遺物 (2)	201
図 176	JH33 竪穴住居跡炉跡平・断面	202
図 177	JH33 竪穴住居跡出土遺物 (1)	203
図 178	JH33 竪穴住居跡出土遺物 (2)	204
図 179	JH34 竪穴住居跡平・断面	206
図 180	JH34 竪穴住居跡炉跡平・断面	207
図 181	JH34 竪穴住居跡出土遺物 (1)	208
図 182	JH34 竪穴住居跡出土遺物 (2)	209
図 183	JH34 竪穴住居跡出土遺物 (3)	210
図 184	JH34 竪穴住居跡出土遺物 (4)	211
図 185	JH35 竪穴住居跡 JF05 JF06 炉跡 XK18 土坑跡平・断面	213
図 186	JH35 竪穴住居跡炉跡 JF06 炉跡平・断面	214
図 187	JF05 炉跡平・断面	214
図 188	JH35 竪穴住居跡出土遺物	215
図 189	XK13 XK14 XK15 XK16 土坑跡平・断面	216
図 190	XK13 土坑跡出土遺物	216
図 191	JH36 竪穴住居跡出土遺物	217
図 192	JH36 JH37 竪穴住居跡平・断面	218
図 193	JH37 炉跡平・断面	220
図 194	JH38 竪穴住居跡平・断面	221
図 195	JH38 竪穴住居跡炉跡平・断面	222
図 196	JH38 竪穴住居跡出土遺物 (1)	223

図 197	JH38 竪穴住居跡出土遺物 (2)	224
図 198	JH39 竪穴住居跡平・断面	226
図 199	JH39 竪穴住居跡炉跡平・断面	227
図 200	JH39 竪穴住居跡出土遺物 (1)	228
図 201	JH39 竪穴住居跡出土遺物 (2)	229
図 202	JH40 竪穴住居跡出土遺物	230
図 203	JH40 竪穴住居跡平・断面	231
図 204	JH40 竪穴住居跡炉跡平・断面	232
図 205	JH41 竪穴住居跡 XK19 土坑跡平・断面	234
図 206	JH41 竪穴住居跡炉跡平・断面	235
図 207	JH41 竪穴住居跡出土遺物 (1)	236
図 208	JH41 竪穴住居跡出土遺物 (2)	237
図 209	JH43 竪穴住居跡出土遺物	238
図 210	JH42 JH43 竪穴住居跡平・断面	239
図 211	JH44 竪穴住居跡出土遺物	240
図 212	JH44 竪穴住居跡平・断面	241
図 213	JH44 竪穴住居跡炉跡平・断面	242
図 214	JH45 竪穴住居跡 JK20 土坑跡平・断面	244
図 215	JH45 竪穴住居跡炉跡平・断面	245
図 216	JH45 竪穴住居跡出土遺物	245
図 217	遺構外出土遺物 1997 (1) 表土	247
図 218	遺構外出土遺物 1997 (2) 表土	248
図 219	遺構外出土遺物 1997 (3) 検出面	249
図 220	遺構外出土遺物 1997 (4) 検出面	250
図 221	遺構外出土遺物 1997 (5) 検出面	251

写真図版目次

写真図版 1	平成 7 年度 (1995) 調査区 (東から) JH01 竪穴住居跡	267
写真図版 2	JH02、03 竪穴住居跡 JH04 竪穴住居跡	268
写真図版 3	JH05 竪穴住居跡 JH06、07 竪穴住居跡	269
写真図版 4	JH08 竪穴住居跡 JH10 竪穴住居跡	270
写真図版 5	JH11、12 竪穴住居跡 JH12 竪穴住居炉跡	271
写真図版 6	平成 8 年度 (1996) 調査区全景 JH13 竪穴住居跡	272
写真図版 7	JH17 竪穴住居跡 JH20 竪穴住居跡	273
写真図版 8	JX01 粘土採掘土坑跡 JX01 粘土採掘土坑跡土層断面	274
写真図版 9	JX01 粘土採掘土坑跡 埋嚢 JH22 竪穴住居跡	275
写真図版 10	JH23 竪穴住居跡 JH27 竪穴住居跡	276
写真図版 11	JH28 竪穴住居跡 JH29 竪穴住居跡	277

写真図版 12	JH31 竪穴住居跡 JH46 竪穴住居跡	278
写真図版 13	JF03 炉跡 JF04 炉跡 JK15 土坑跡 JK16 土坑跡	279
写真図版 14	平成9年度(1997)調査区(東から) HH01 竪穴住居跡	280
写真図版 15	HH01 竪穴住居跡貝層 HH02 竪穴住居跡	281
写真図版 16	HH02 竪穴住居跡カマド HH05 竪穴住居跡	282
写真図版 17	JH32、33 竪穴住居跡 JH34 竪穴住居跡	283
写真図版 18	JH38 竪穴住居跡 JH40 竪穴住居跡	284
写真図版 19	JH44 竪穴住居跡 JH45 竪穴住居跡	285
写真図版 20	坏・土師器(1)	286
写真図版 21	土師器(2)	287
写真図版 22	縄文土器(1)	288
写真図版 23	縄文土器(2)	289
写真図版 24	縄文土器(3)	290
写真図版 25	縄文土器(4)	291
写真図版 26	土偶・石製品	292
写真図版 27	鉄製品	293

挿図目次

挿図 1	坏・土師器	253
挿図 2	縄文土器(1)	254
挿図 3	縄文土器(2)	255
挿図 4	時期別遺構配置図	256

付表目次

表 1	貝層集計表	160
-----	-------	-----

1 調査経過

1-1 調査に至る経過

今回の調査は果樹園改良工事に伴い、早稲枋Ⅲ遺跡包蔵地内で実施された事前調査である。改良工事予定地は、遺跡包蔵地内であることから、工事に先立って、宮古市教育委員会と工事主体者の間で協議が行われた。平成7年6月に交わされた協定書では、調査は工事による切土部分を対象とし、調査期間は平成7年6月から平成9年12月までの3ヵ年計画で実施されることが決められた。

1-2 調査要旨

遺跡名 早稲枋Ⅲ遺跡 遺跡コード番号 LG23-0369

調査地点 宮古市大字崎楯ヶ崎第5地割17番

調査期間 平成7年6月12日～ 9月27日

平成8年6月10日～12月24日

平成9年7月 1日～12月26日

調査面積 1820 m²

出土遺構、遺物 竪穴住居跡（平安時代 5棟、縄文時代 46棟）、土坑跡 38基
土師器、鉄製品、縄文土器、石器、土製品

調査体制（平成9年度）

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 中屋定基

調査総括 浦野光廣 宮古市教育委員会社会教育課長

事務担当 田鎖春雄 // 社会教育課社会教育係長

野崎政博 // 社会教育課社会教育主事

調査員 竹下将男 // 社会教育主任（発掘調査担当）

高橋憲太郎 // 社会教育主任

鎌田祐二 // 社会教育主任

加納由美 // 社会教育主事

阿部 豊 // 社会教育課埋蔵文化財調査員（編集、執筆担当）

工藤剛司 // 社会教育埋蔵文化財調査員

発掘作業員 中嶋正裕 松尾喜一郎、福士祐二、小野寺清治郎、中村京平、館崎登、小林尚市、
小幡早苗

資料整理 中嶋正裕、 平山早予子、福士祐二、佐々木 厚子、松本 理恵、畠山 憲子、
山崎 日々雄、小成 鷹介、佐々木 則義

宮古市は平成17年6月に田老町、新里村と合併し、その際文化係は生涯学習課から独立して文化課となった。

調査体制（令和2年度）

調査主体 伊藤 晃二 宮古市教育委員会 教育長

調査総括 藤田 浩司 宮古市教育委員会 文化課長

事務担当 安原 誠 埋蔵文化財センター 所長

江口 邦泰 埋蔵文化財センター 主任文化財調査員

調査員 阿部 豊 埋蔵文化財センター 埋蔵文化財発掘調査員（会計年度職員）編集担当

鹿島 直樹 埋蔵文化財センター 埋蔵文化財発掘調査員（会計年度職員）

武井 恵 埋蔵文化財センター 埋蔵文化財調査員（会計年度職員）

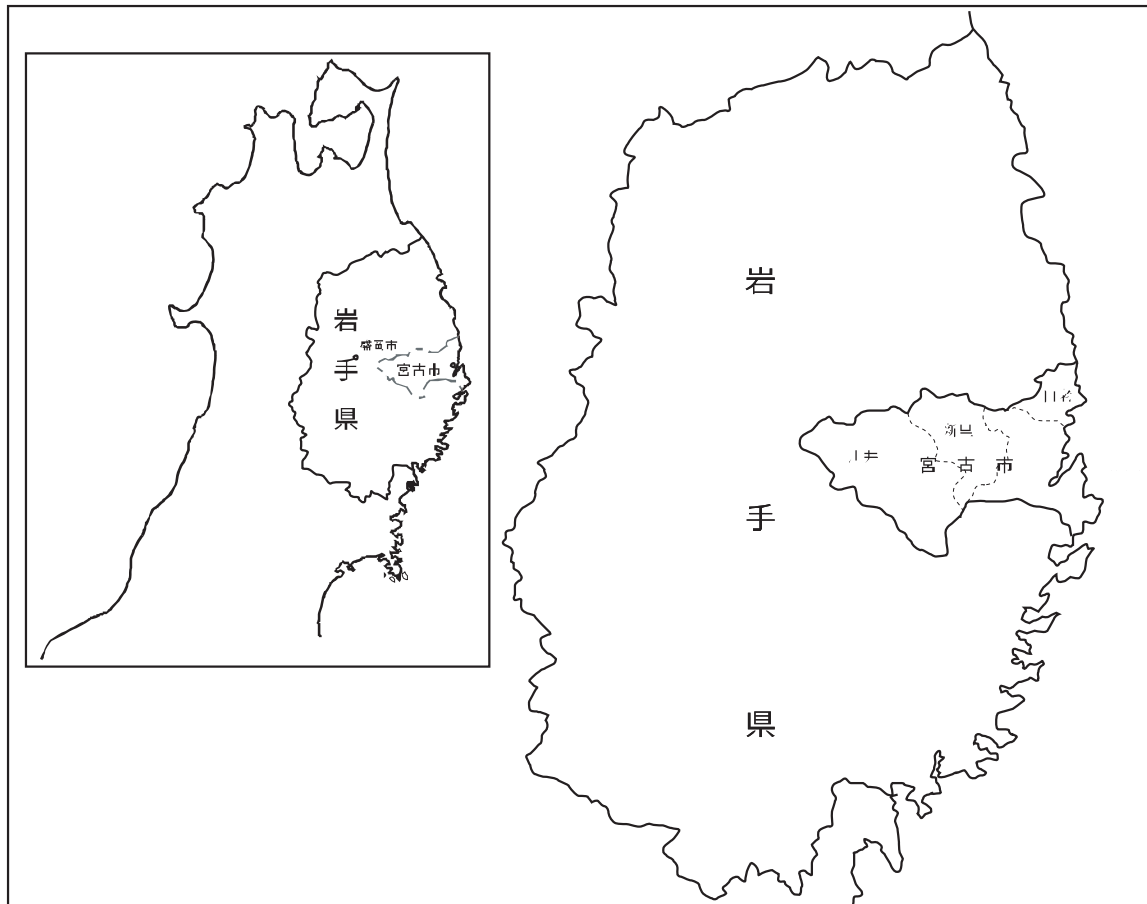


図 1 宮古市位置図

2 遺跡の立地環境

2-1 遺跡の立地と周辺の遺跡

宮古市は岩手県沿岸部のほぼ中央に位置し、中心市街地は閉伊川の河口部に形成される東部で宮古湾が深く入り込み、重茂半島が太平洋に張出し、本州最東端の鮎ヶ崎を有する。市域は、平成17年の北の田老町、西の新里村との合併で広がり、さらに平成22年の内陸部の川井村との合併で大きく広がった。

市内の地形は大部分が丘陵と山地で占められ、平野と低地は北上山地から東流する閉伊川の流域と南の山田町から北流する津軽石川の流域、およびこれらの支流域にわずかに見られるのみである。宮古湾から津軽石川に至る津軽石断層を境として、東部には十二神山（731 m）を最高位とする重茂半島の山地帯がある。またその西部には、北上山地から続く丘陵・山地となっており、これらが閉伊川にそって南北に分断される。山地帯の縁辺に形成された丘陵地は、小河川により樹枝状に開析され、その末端は尾根状を呈する。これらの丘陵地や山麓の緩斜面には多くの遺跡が分布している。現在合併した地域の遺跡部分布調査が行われているが、これまで680余りの遺跡が報告されている。

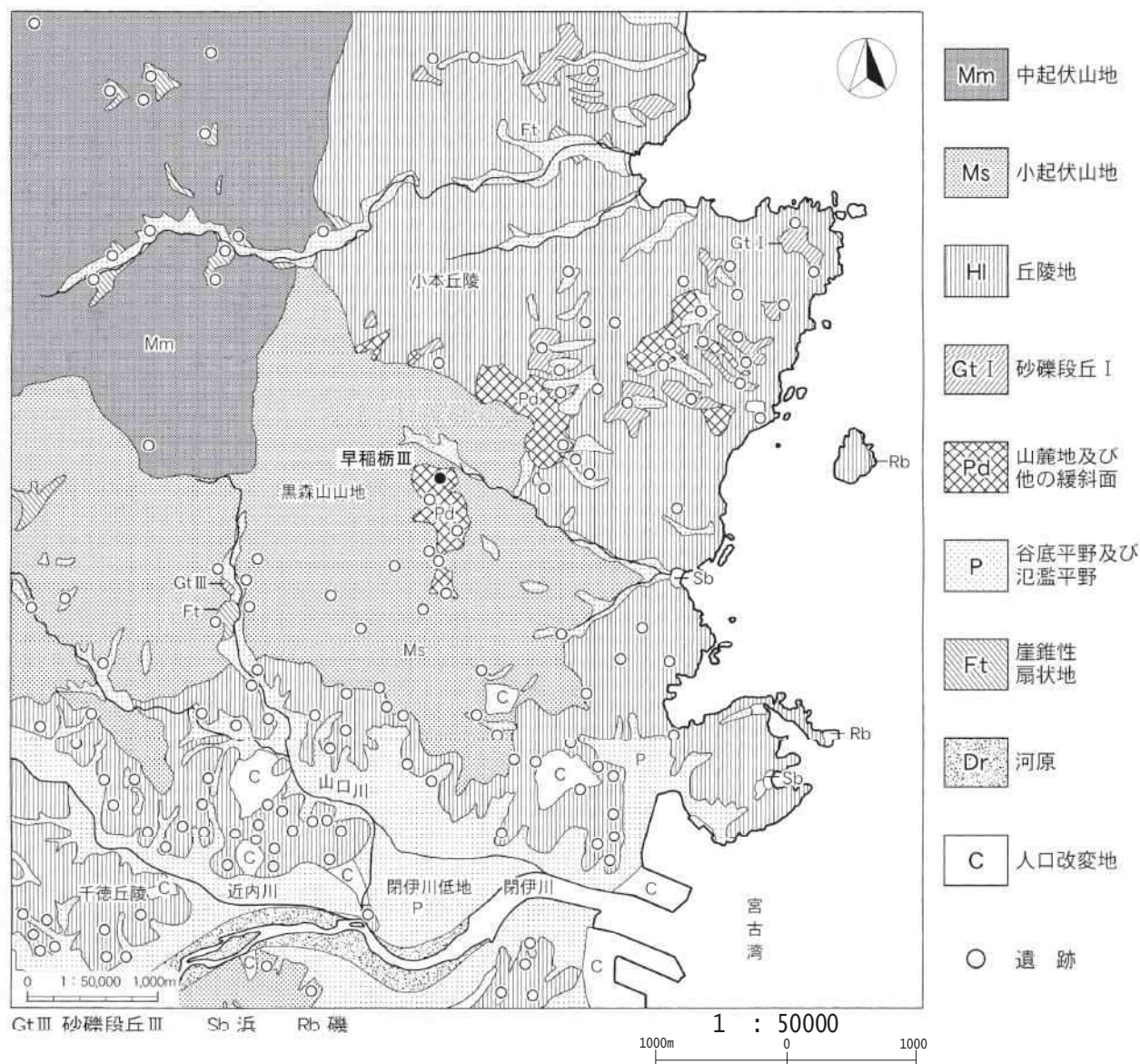
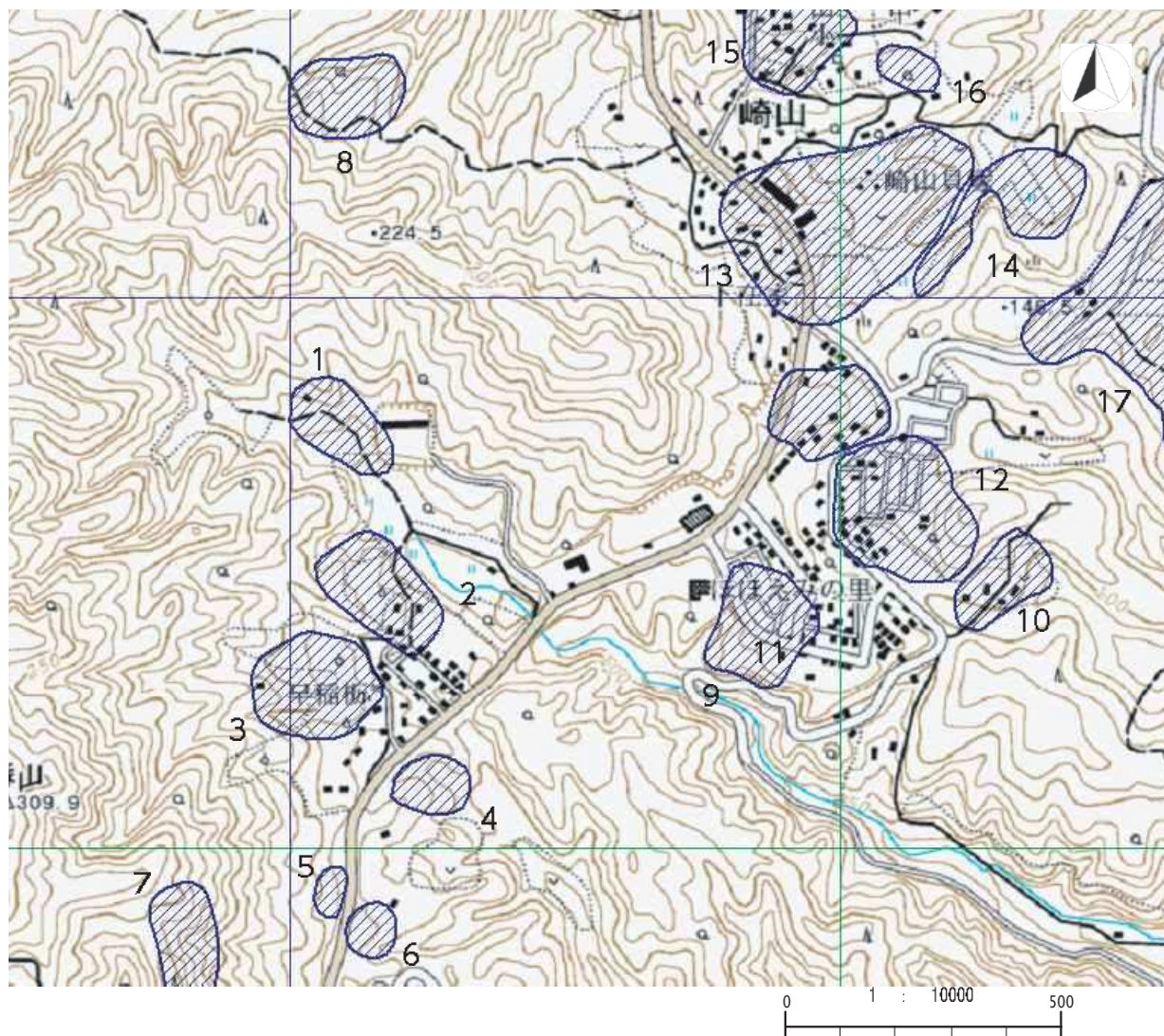


図2 地形分類と遺跡分布図

2-2 遺跡の立地と周辺の遺跡（図3）

早稲枋Ⅲ遺跡は、宮古市北部の崎嶇ヶ崎地区に位置し、市街地からは国道45号線を4kmほど北上した西側の黒森山山地である。北側に沢が海岸に向かって流れているが、早稲枋Ⅲ遺跡はその沢に平行して延びる尾根上にある。

早稲枋Ⅲ遺跡の周縁は濃密に遺跡が分布する。北東の「崎山貝塚」をはじめ「早稲枋Ⅱ遺跡」などおもに縄文時代の遺跡に囲まれる。しかし調査例はまだ少ないながら、「萩沢Ⅱ遺跡 1993」や「早稲枋Ⅱ遺跡 2020」の製鉄炉跡、そして本書の平安時代の集落跡などが出土し、さらに「下在家Ⅰ遺跡 2003」では近世の集落跡が発見されるなど、崎山地区の新たな一面が明らかになってきている。



番号	遺 跡 名	遺跡コード	時 代
1	早稲栃Ⅱ (わせとち2)	L G24-0020	縄文 (前・中期)
2	早稲栃糠森 (わせとちぬかもり)	L G24-0040	縄文 (前・中期)
3	早稲栃Ⅲ (わせとち3)	L G23-0369	縄文 (前・中期)、平安
4	早稲栃Ⅳ (わせとち4)	L G24-0081	縄文
5	南沢 (みなみざわ1)	L G24-1000	縄文
6	早稲栃Ⅴ (わせとち5)	L G24-1010	縄文
7	黒森 (くろもり)	L G23-1326	古代
8	長平 (ながたいら)	L G14-2071	縄文 (中期)
9	大石 (おおいし)	L G24-0057	縄文
10	塚場 (つかば)	L G24-0142	縄文 (後期)
11	下在家Ⅰ (しもざいけ1)	L G24-0018	縄文 (中期)・近世
12	下在家Ⅱ (しもざいけ2)	L G24-0130	縄文
13	崎山貝塚 (さきやまいかいづか)	L G24-2079	縄文 (前期～後期)
14	千束長根 (せんぞくながね)	L G24-2183	縄文 (前期～後期)
15	トロノ木Ⅰ (とろのき1)	L G24-2048	縄文 (中期)、近世
16	トロノ木Ⅱ (とろのき2)	L G24-2150	縄文 (中期)
17	白石 (しろいし)	L G14-2195	縄文 (中・後期)

図3 周辺の遺跡

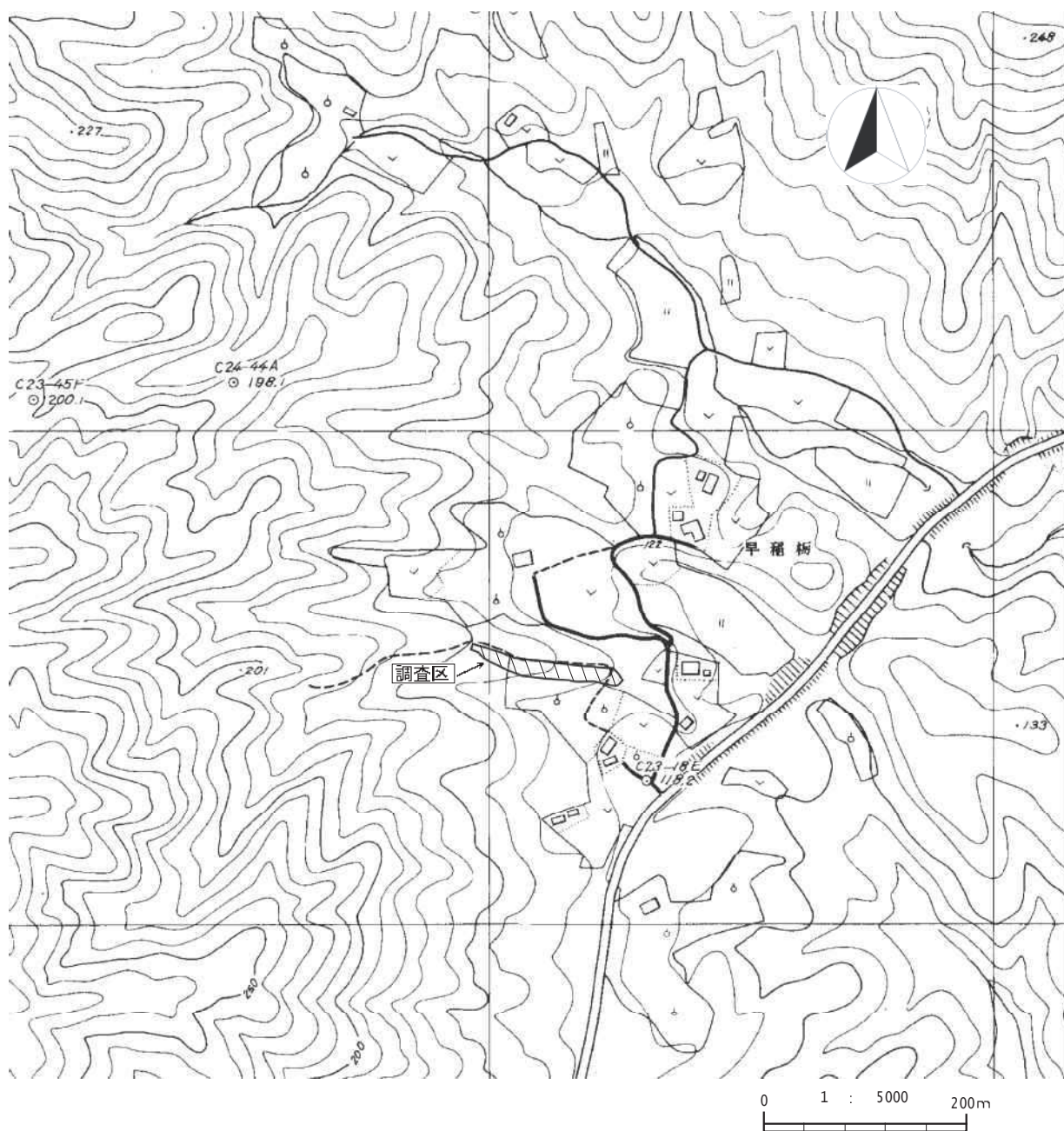


図4 調査区と遺跡の周辺の地形

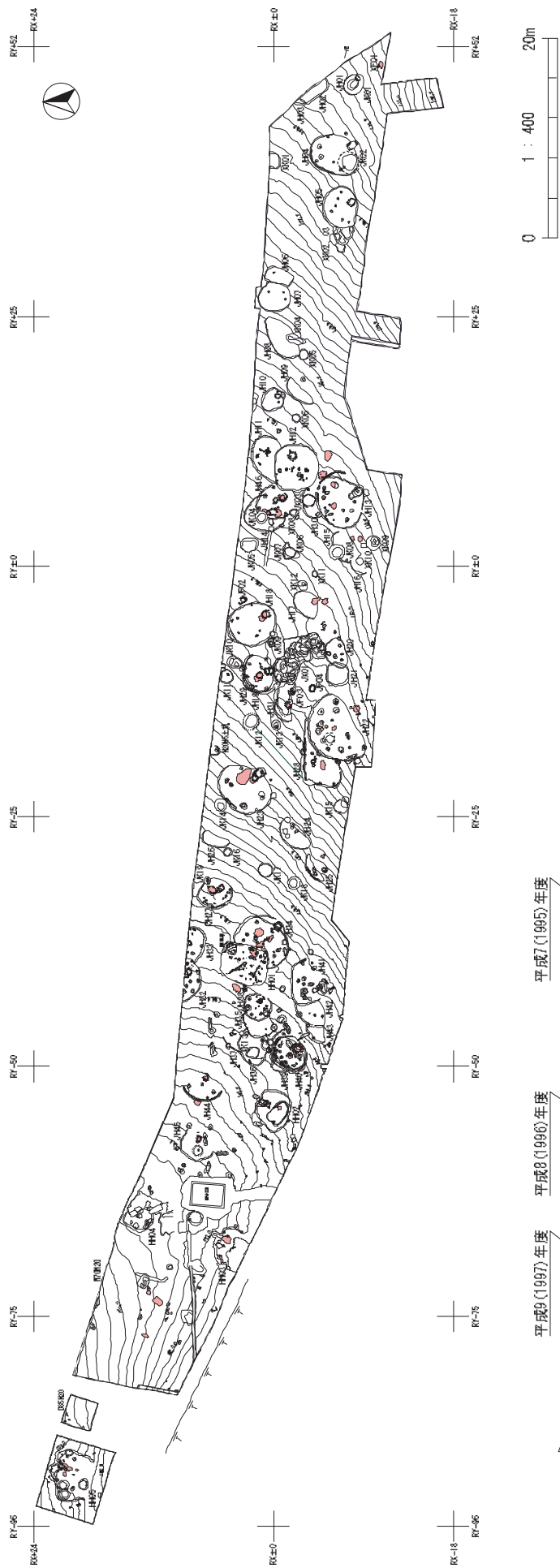


図 5 早稲柄Ⅲ遺跡調査区全体図

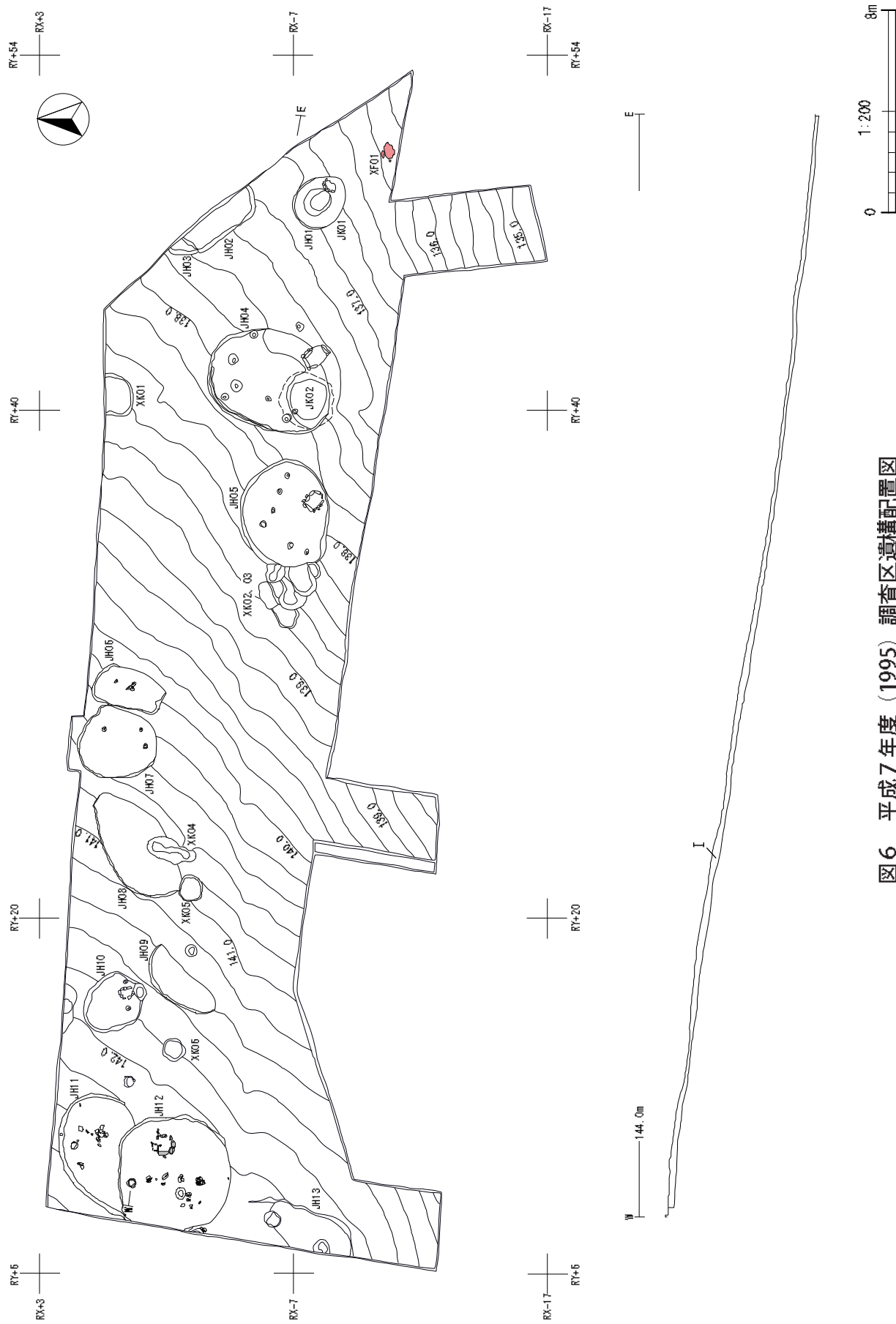


図 6 平成 7 年度 (1995) 調査区遺構配置図

3 調査結果

3-1 基本層序

調査地区は東向きに延びる尾根の上にあり、標高は140m前後である。東西の標高差は約15mである。

基本堆積層は1層である。斜面で2層に細別される。I層は黄褐色土混じる暗褐色土である。I b層には細礫が混入する。地山は黄褐色土であり、今回の調査で出土した遺構は、地山面から検出している。

3-2 検出された遺構と遺物

調査は三カ年にわたって行われ、調査年度の順に従って記述していく。

<平成7年度(1995)調査>(図6)

JH01 竪穴住居跡、JK01 土坑跡(図7)

JH01は調査区の東端に位置する。平面形は楕円形である。規模は南北2.3m、東西2.0mを測る。柱穴跡、溝跡などは検出していない。埋土は3層に分かれる。床面南寄りに石囲炉を設ける。

炉跡(図9)

平面形は方形である。規模は、南北40cm、東西60cmを測る。F層が焼土層である。方形の掘り込み、炉石の据跡を確認している。

出土遺物(図11)

1は隆沈線で施文された縄文土器片である。

時期は周辺の出土状況からおおむね縄文時代中期に伴う。

JK01 土坑跡(図7、8)

JK01の床面中央に位置する。埋土堆積状況から、JH01に切られる。平面形は楕円形である。規模は南北1.1m、東西0.9m、深さ0.8mを測る。遺物は出土していない。

XF01 焼土(図7、10)

JH01の南東に位置する。平面形は不整楕円形である。規模は、東西60cm、南北40cmである。焼土F層は微量の木炭を含む。遺物は出土していない。

時期は、出土状況から縄文時代中期に伴う。

平成7年度(1995)調査区土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
表土耕作土	I 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 7%粉状	軟質、しまりなし、畑ウネ状に落ち込む

JH01竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 2%粉状	縄文土器
竪穴埋土	B 10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土(焼土) 2~3%粒状	木炭2%
竪穴埋土	C 10YR5/6 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、木炭1%

JK01土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土混土	E 10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土(焼土) 5%粉粒状 10YR4/4 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、木炭
焼土	F 5YR4/8 赤褐色壤土(焼土)	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	かなり硬質、塊状構造(厚さ8~10cm)
土坑埋土	G 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	5YR4/8 赤褐色壤土(焼土) 2%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状 10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	
土坑埋土	H 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状 10YR4/4 褐色壤土 3%硬塊状	

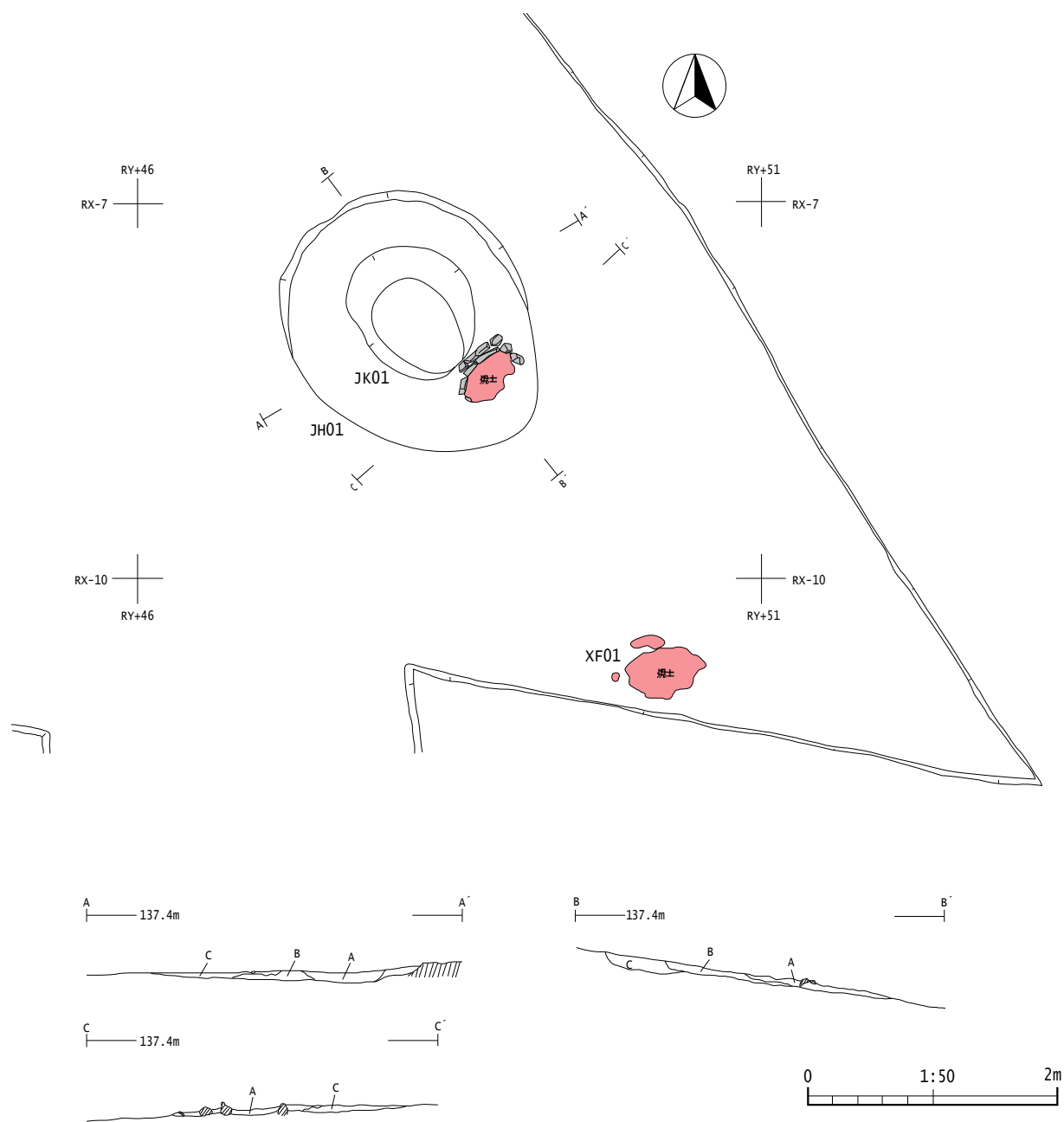


图7 JH01竖穴住居跡 JK01土坑跡平・断面

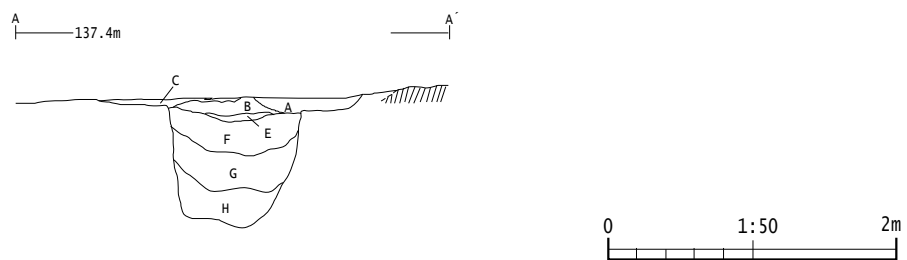


图8 JK01土坑跡断面

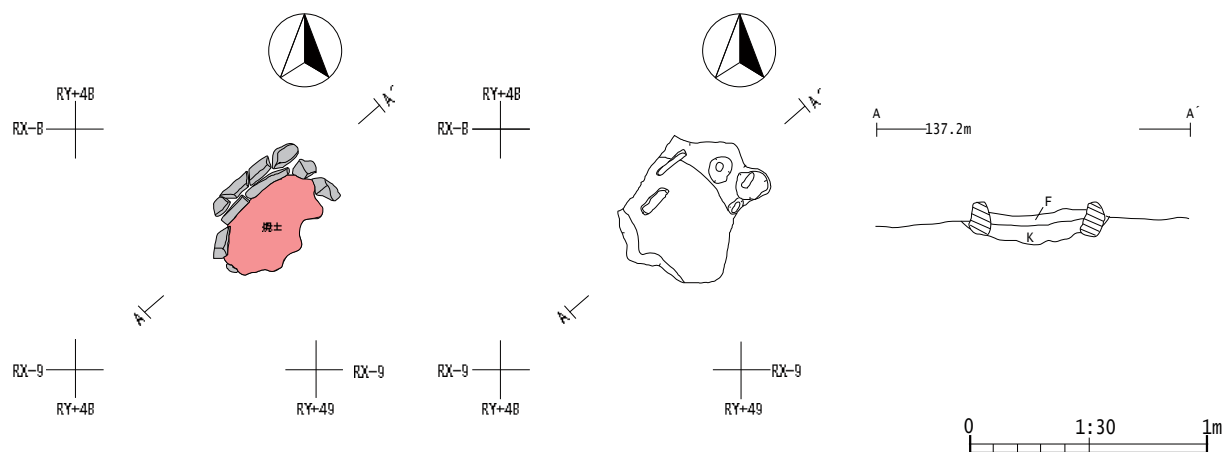


図9 JH01竪穴住居跡炉跡平・断面

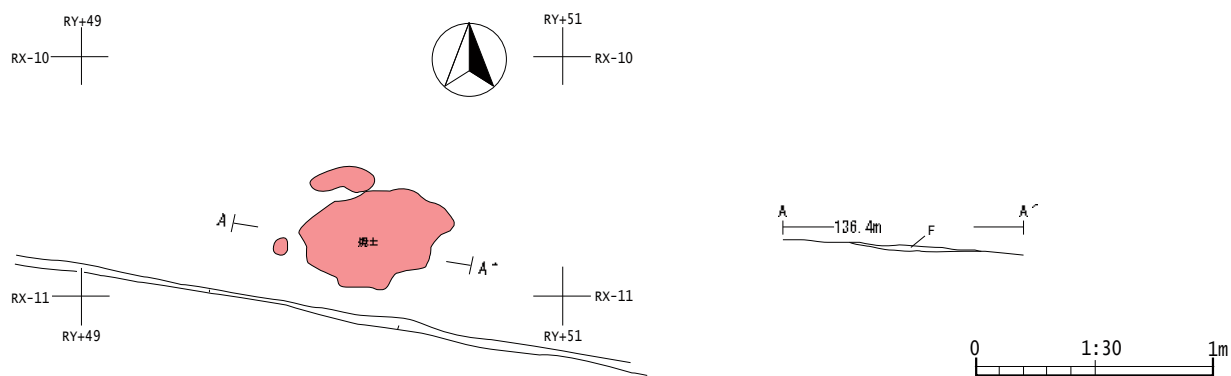


図10 XF01焼土平・断面

JH01竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土混土	F	10YR 4/6 褐色シルト質壤土	5YR4/8 赤褐色焼土 40%粒状	
炉構築土	K	10YR 5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%粉状	やや硬質

XF01焼土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土	F	5YR4/6 赤褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	木炭微量

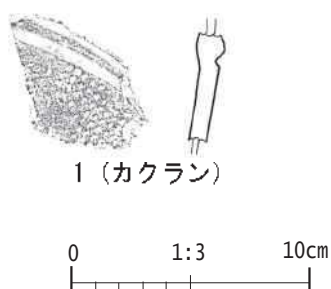


図11 JH01竪穴住居跡出土遺物

JH02、JH03 竪穴住居跡

調査区の北東端に位置する。JH02はJH03を切る。

JH02 竪穴住居跡 (図12)

竪穴の西側のみの検出である。平面形は隅丸方形と推定される。規模は、南北3.5mを測る。埋土は2層に分かれる。柱穴、溝跡などは検出していない。

出土遺物 (図13)

1は縄文土器の口縁部である。

JH03 竪穴住居跡 (図12)

JH02の北に位置し、JH02に切られる。平面形、規模は不明である。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

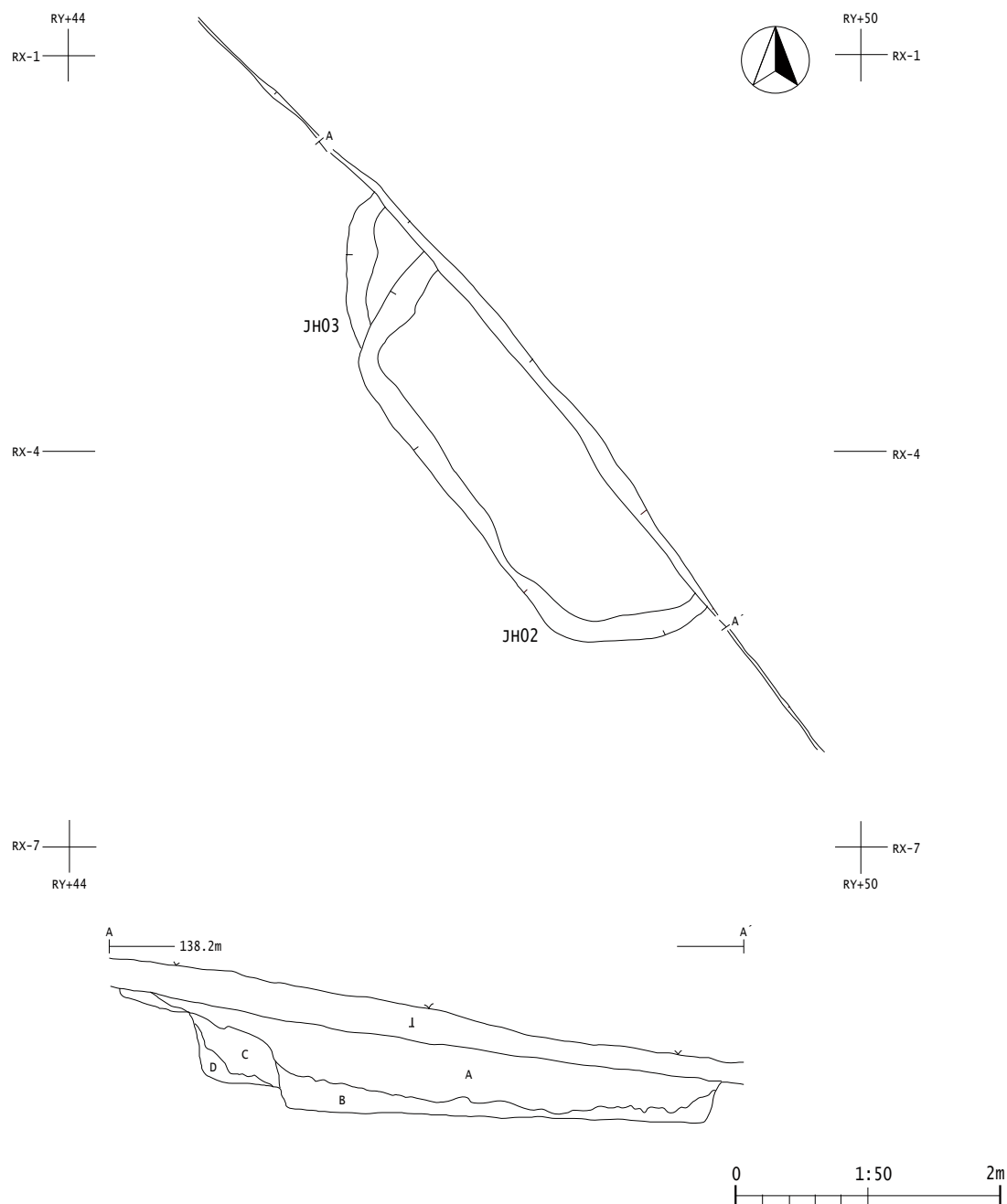


図12 JH02 JH03竪穴住居跡平・断面

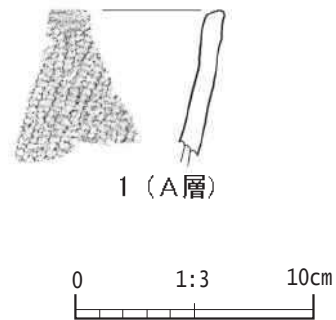


図13 JH02竪穴住居跡出土遺物

JJH02、03竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR 4/6褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性ややあり、木炭粉2%
竪穴埋土	B 10YR 4/6褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 3%塊状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粒状	やや硬質、しまりあり、木炭微量(A層より少ない)
竪穴埋土	C 10YR 5/6黄褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 3%粉状	硬質、しまりあり
竪穴埋土	D 10YR 5/6黄褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	硬質、しまりあり

J H 0 4 竪穴住居跡、J K 0 2 土坑跡

J H 0 2 の東側に位置する。J H 0 4 は J K 0 2 を切る。

J H 0 4 竪穴住居跡 (図14)

平面形は隅丸方形である。規模は、南北5.0m、東西3.5mを測る。埋土は3層に分かれる。床面南東隅に石囲炉を設ける。床面周縁部で柱穴状の土坑跡を確認し、北西隅からは周溝を検出している。

炉跡 (図16)

方形の石囲炉である。規模は、南北1.0m、東西0.7mを測る。F層が焼土層である。方形の掘り込み、炉石の据跡を確認している。

出土遺物 (図17)

1～14は縄文土器である。

1は沈線による区画、無文帯を伴う体部片である。2は斜縄文で施文された口縁部である。

3、4は沈線による楕円状の区画、充填縄文をともなう。5は横位沈線を伴い、6は横位無文帯を伴う。7は斜縄文で施文される。8、9は沈線による区画、充填縄文を伴う体部片である。10、11は隆沈線で施文された体部片である。12は、3の口縁部と同施文の底部である。3と同一個体と思われる。

13は撚糸文で施文される。14は縄文に斜の条痕が重なる。

15～17は剥片石器である。15は凹基、16、17は凸基の石鏃である。

18、19は礫石器である。18は角礫の砥石である。4面の磨面をもち、1面にV字状の擦痕を残す。19は敲打磨石である。磨面は1面である。

時期は縄文時代中期に伴う。

J K 0 2 土坑跡 (図15)

J H 0 4 の床面南側に位置する。平面形が円形のフラスコ形土坑である。規模は、口径1.5m、底径2.3m、深さ1.6mを測る。埋土は6層に大別される。

出土遺物 (図18-20)

20は隆沈線で施文された口縁部である。

時期は縄文時代中期に伴う。

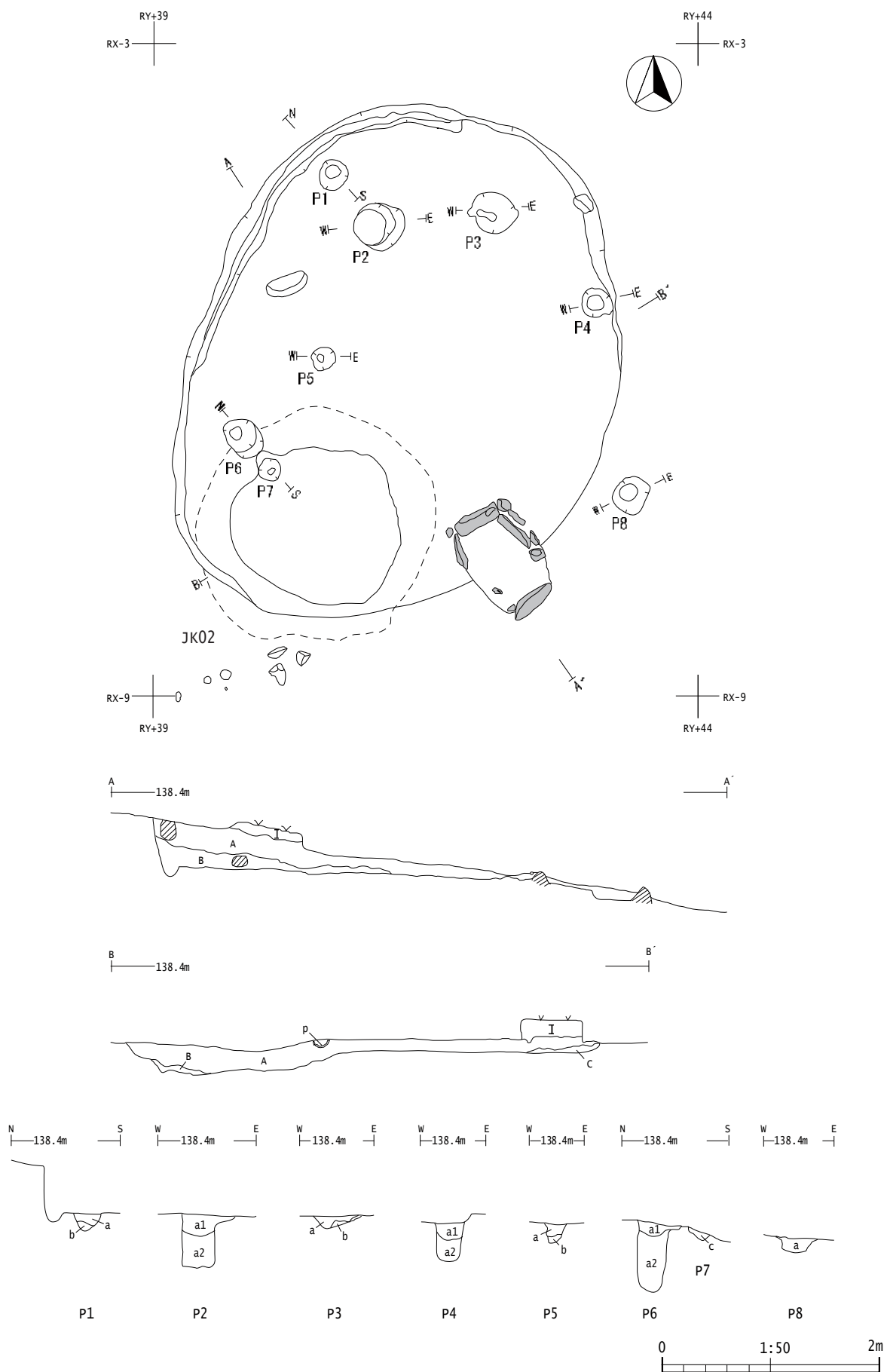


图14 JH04竖穴住居跡 JK02土坑跡平・断面

JH04竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 3%粉状	やや軟質、木炭粉2%
竪穴埋土	B	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%塊状	軟質、かなり硬い塊状構造(径3~5cm)
竪穴埋土	C	10YR5/8 黄褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%塊状	軟質
耕作攪乱土	I	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 3%粉粒状	

JH04竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR 4/6褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%硬塊状(径10cm) 10YR4/4 褐色シルト質壤土 2%大塊状(径3~4cm)	やや軟質、木炭粉微量
	b	10YR 5/6黄褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%塊状(径1cm)	a層より軟質
柱穴P2埋土	a 1	10YR 4/6褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%塊状(径1cm)	a 2層より硬質、木炭粉微量
	a 2	10YR 4/6褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	a 1層より軟質
柱穴P3埋土	a	10YR 4/6褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%塊状(径2~3cm)	やや硬質
	b	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	軟質
柱穴P4埋土	a 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%塊状	軟質
	a 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 2%粉状	軟質、粘性ややあり
柱穴P5埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR4/4 褐色シルト質壤土 3%塊状	硬さはb層と同じ、ややしまりあり 炭
	b	10YR5/6 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 3%粉状	硬さはa層と同じで、ややしまっている
柱穴P6埋土	a 1	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、木炭粉微量
	a 2	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	木炭粉微量
柱穴P7埋土	c	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、塊状構造、木炭粉微量
柱穴P8埋土	a	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、他の柱穴埋土とは色調を異にする

JK02土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 10%硬塊状(径10~20mm) 10YR4/4 褐色壤土 2%粉状	硬質、塊状構造、木炭粉
土坑埋土	B 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粒状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	木炭
土坑埋土	B 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	木炭、花崗岩礫(径3cm)
土坑埋土	C 2	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 7%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒状	
土坑埋土	C 3	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%硬粒状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	木炭
土坑埋土	D	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%硬粒状 10YR4/4 褐色壤土 1%塊状	木炭、礫
土坑埋土	E 1	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 20%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%塊状	
土坑埋土	E 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 7%粉状	花崗岩礫(径2cm、こぶし大)と、花崗岩砂が層状に入る(層下面)
土坑埋土	E 3	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 10%粒状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	花崗岩礫(こぶし大)
土坑埋土	F 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	土器、木炭
土坑埋土	F 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒状(径1~2cm)	他の層に比べやや硬い層、木炭

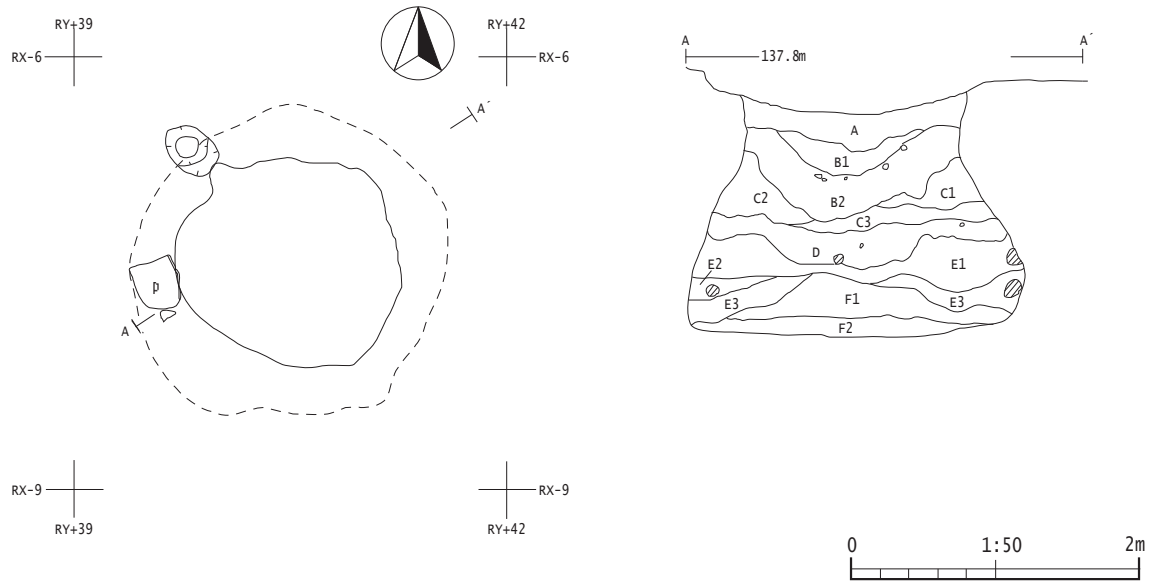


図15 JK02土坑跡平・断面

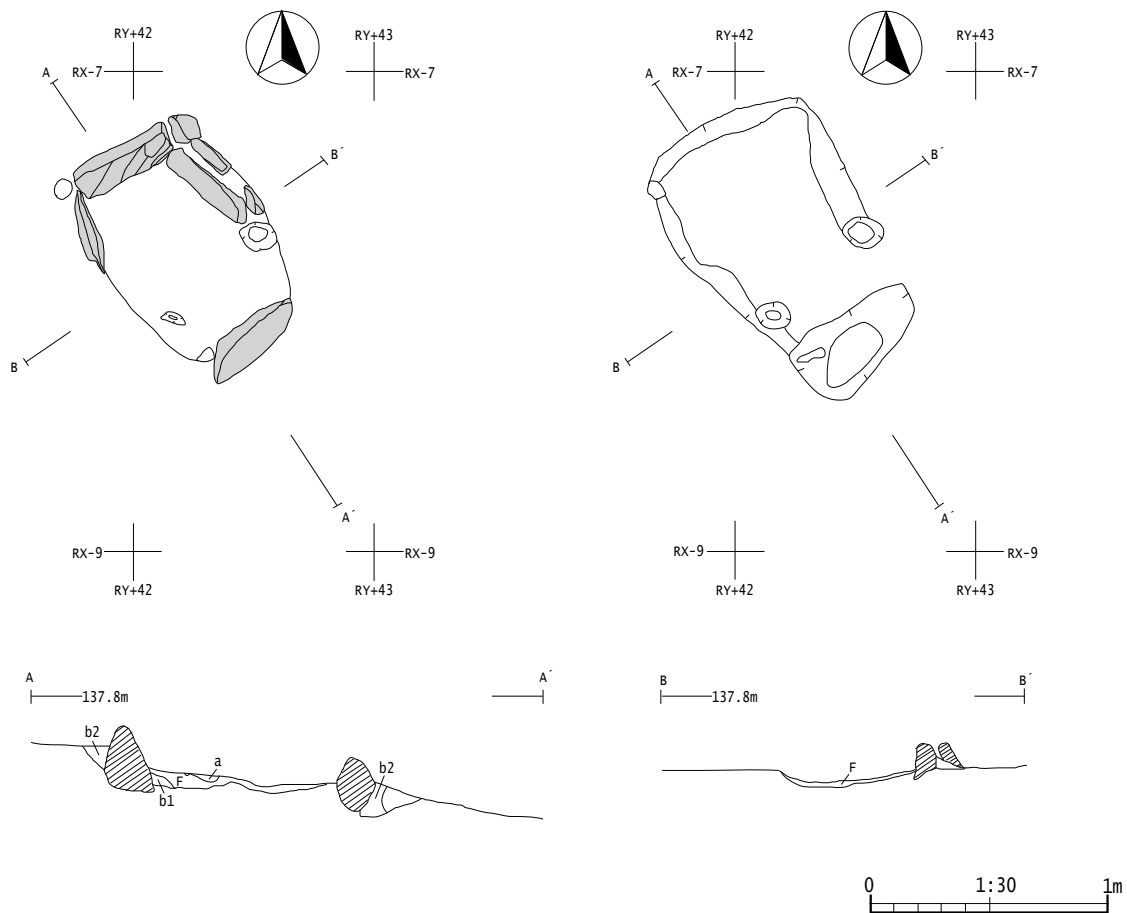


図16 JH04竪穴住居跡炉跡平・断面

JH04竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	5YR4/6 赤褐色壤土(焼土) 1%粒状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	
焼土	F 5YR4/6 赤褐色壤土焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉粒状	
炉跡埋土	b 1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	

〈検出面〉



〈埋土〉



〈床面〉

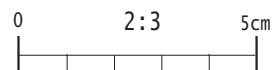
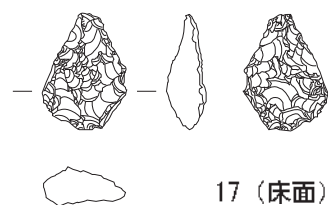
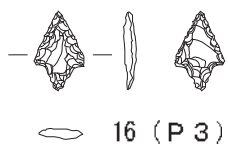
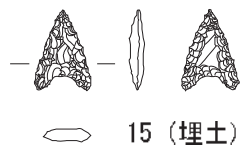
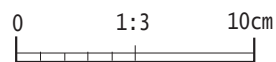
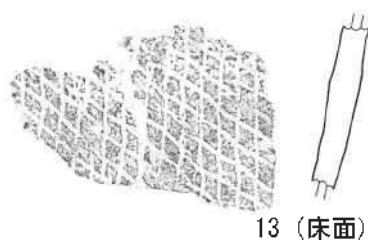
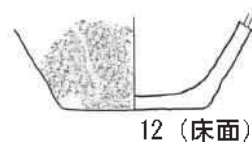
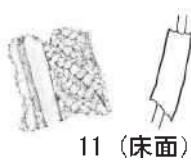
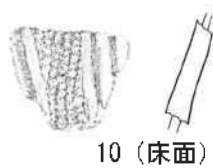
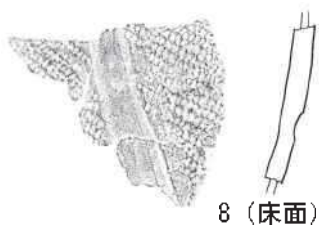
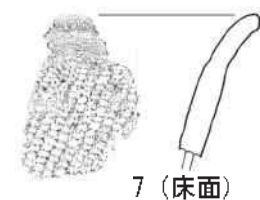
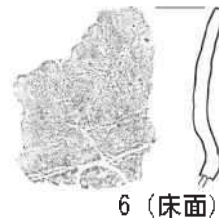
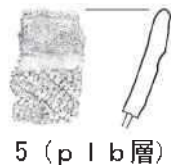
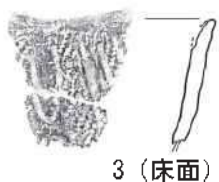


図17 JH04竪穴住居跡出土遺物 (1)

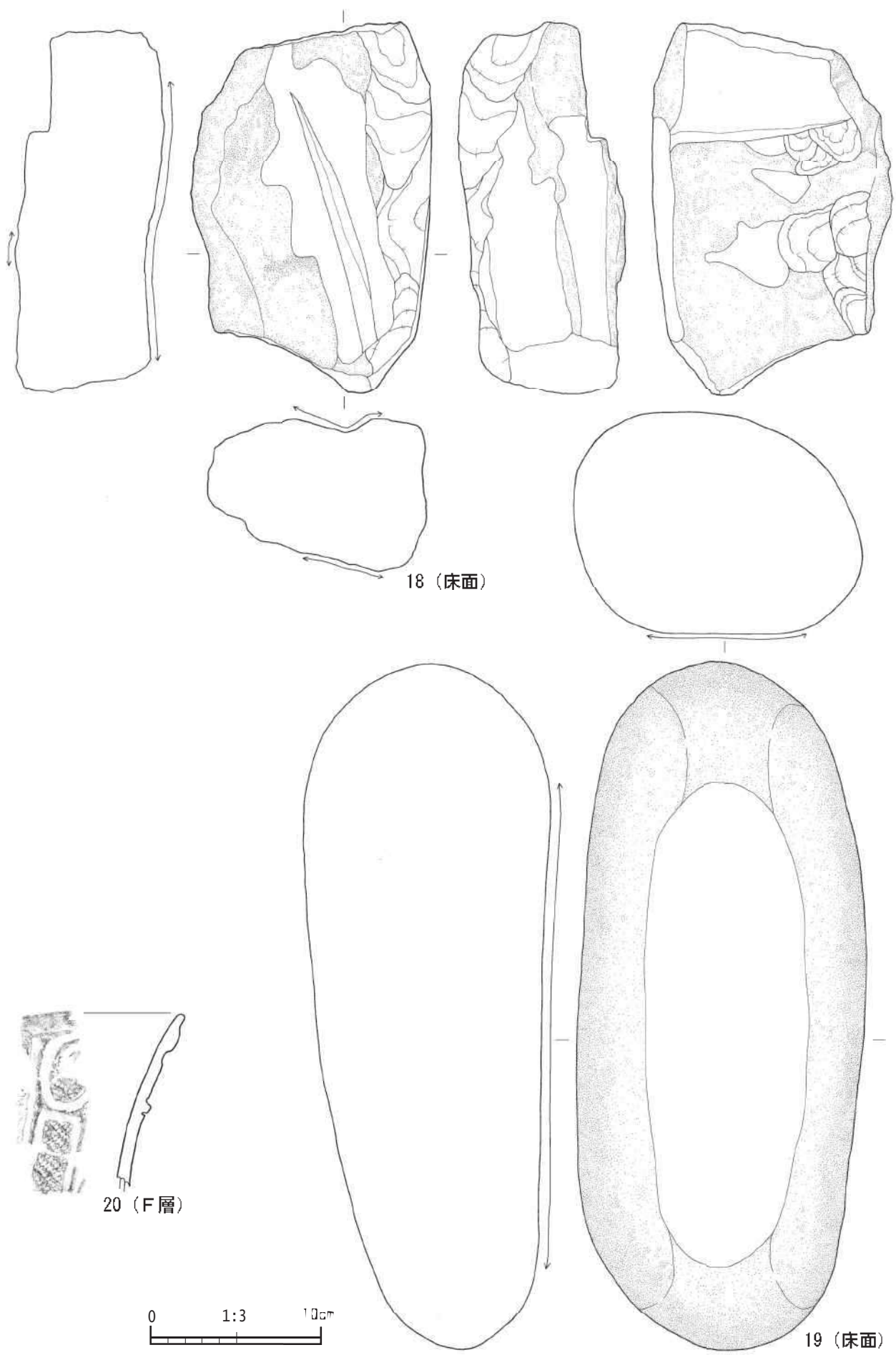


圖18 JH04豎穴住居跡出土遺物 (2)

XK01土坑跡（図19）

JH04の北側に位置する。平面形は不整円形である。規模は東西1.1m、深さ20cmを測る。埋土は3層に分かれ、C層が木炭層である。土器の遺物は出土していない。

時期は不明である。

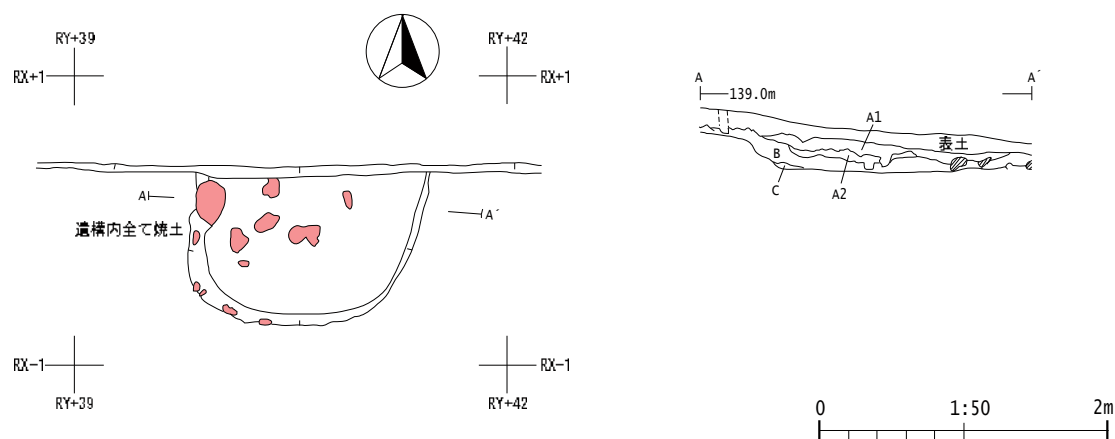


図19 XK01土坑跡平・断面

XK01土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 1	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状 10YR4/4 褐色壤土 2%粉状	木炭細粉3%
土坑埋土	A 2	10YR2/3 黒褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	木炭粉7%(A 1の木炭粉より大きい)
土坑埋土	B	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	木炭1%
木炭層	C	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粒状	木炭50%

JH05 竪穴住居跡、XK02, 03 土坑跡

JH05はJH04の東側に位置する。西側を小土坑群(XK02、03)に切られる。

XK02、03 土坑跡 (図20)

小土坑群は、平面形は不定形で、底部には凹凸があり、明瞭な掘方をもたない。後述する粘土採掘土坑跡JX01(1996年調査区)と同じ性質の遺構群と思われる。

出土遺物(図22-1)

1は坯の底部か。高台状に成形される。黒処理されておらず、調整痕もない土師質の土器である。時期は古代に伴う可能性がある。

JH05 竪穴住居跡 (図20)

平面形は楕円形である。規模は東西4.2m、南北3.4mである。埋土は2層に大別される。床面中央の南端に石囲炉を設ける。床面から小土坑跡が6基検出したが、周溝は検出していない。

炉跡(図21)

方形の石囲炉である。規模は、南北80cm、東西70cmである。F2層が焼土層である。方形の掘り込みと炉石の据跡を確認している。

出土遺物(図22、23)

<埋土> 2～13は縄文土器である。

2～5は口縁部である。横位の円形刺突列の下に沈線で隅丸方形を区画し、縄文を充てる。3は隆帯を巡らし、撚糸文を施す。4、5は斜縄文で施文される。6～9は体部片である。6、7は縦位沈線による区画と無文帯を伴う。8、9は隆沈線によって施文される。10は底部である。網代痕を残す。

<床面> 11、12はいずれも隆沈線で施文された体部片である。

13は剥片石器である。凹基の石鏃である。

14～18は礫石器である。14～17は砥石である。18は円礫の縁辺部に刃を作り出す。チョッパー的機能が想定される。

時期は縄文時代中期に伴う。

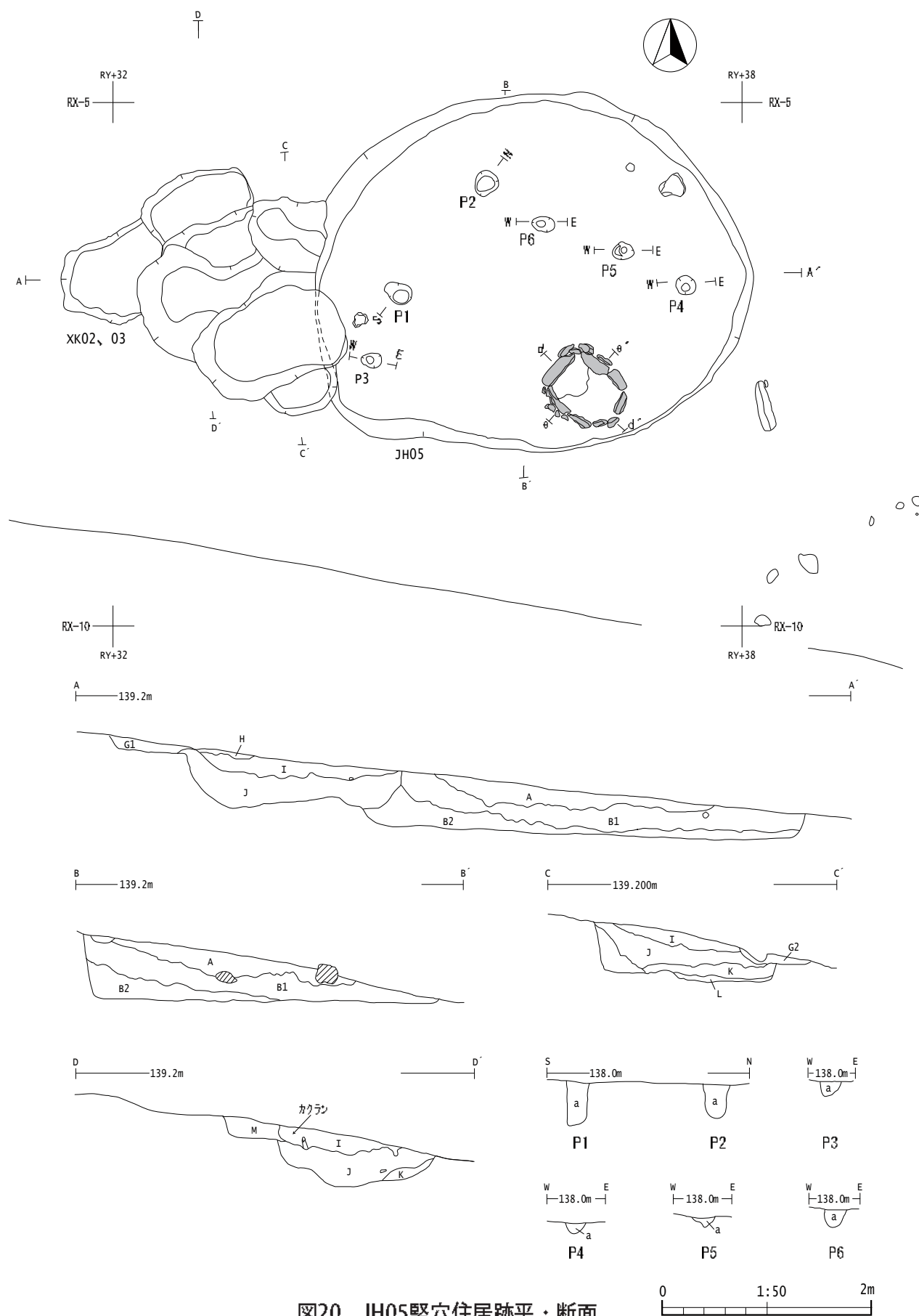


図20 JH05竪穴住居跡平・断面

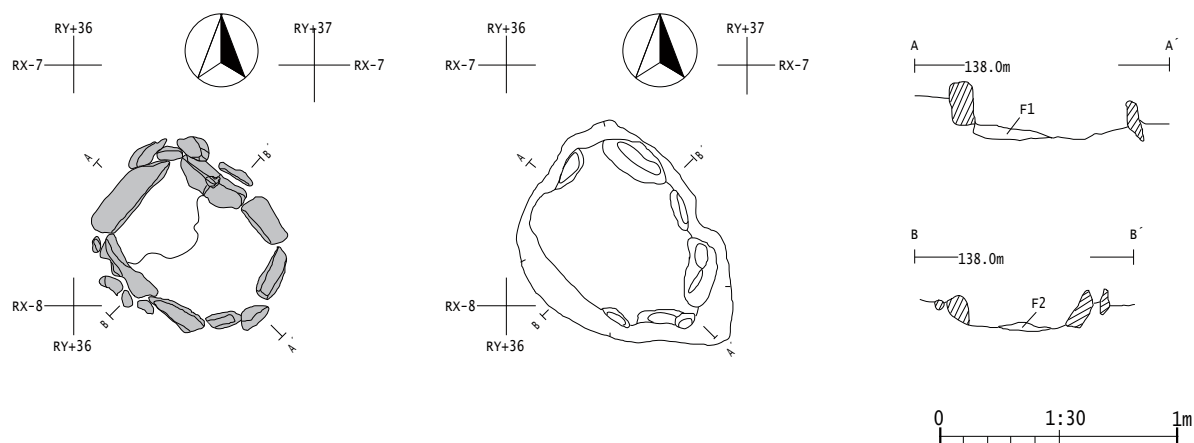


図21 JH05竪穴住居跡炉跡平・断面

JH05竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 3%粉状 10YR3/3 暗褐色壤土 7%粉状	やや軟質、粘性少し、土器多量、木炭粉(径5mm)3%
竪穴埋土	B 1 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土 1%粒状 10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや軟質(A層より軟)、粘性少々、土器、木炭1%
竪穴埋土	B 2 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土 5%粒状	硬質、粒状構造、木炭微量
土坑埋土	G 1 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR6/6 明黄褐色シルト質壤土 2~3%粒状	軟質(攪乱の可能性あり、ただし新しいものは出ていない)
土坑埋土	G 2 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR6/6 明黄褐色シルト質壤土 2%粒状	軟質(攪乱の可能性あり、ただし新しいものは出ていない)
土坑埋土	H 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 10%粉粒状	やや硬質、G 1を埋土とする浅い土坑の排土と考えられる
土坑埋土	I 10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR6/8 明黄褐色軽壤土 2%粒状	やや軟質、木炭1%(やや大きな木炭粒)
土坑埋土	J 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土 3%硬粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	木炭粉1%
土坑埋土	K 10YR5/8 黄褐色壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土 3%硬粒塊状 5YR4/8 赤褐色壤土 1%粒状	特に硬いわけではない
土坑埋土	L 10YR3/2 黒褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土 3%粒状 10YR6/8 明黄褐色壤土 1%細粒状、粉状	木炭粉30~40%
土坑埋土	M 10YR4/6 褐色壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土 3%粒状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、粘性弱、木炭粉1%(やや少なめ)

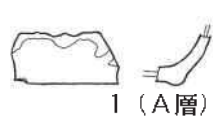
JH05竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P 1埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粒状 10YR4/4 褐色シルト質壤土 2%粒状	軟質、木炭
柱穴P 2埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粒状 10YR4/4 褐色シルト質壤土 3%塊状	木炭微量
柱穴P 3埋土	a 10YR5/6 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%粉状 10YR4/4 褐色シルト質壤土 2%粉状	
柱穴P 4埋土	a 10YR5/6 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 3%粉状	木炭
柱穴P 5埋土	a 10YR5/6 黄褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 2%粒状	
柱穴P 6埋土	a 10YR5/6 黄褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 3%粒状	

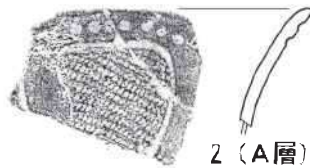
JH05竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	F 1 10YR5/6 黄褐色壤土	10YR6/8 明黄褐色壤土 1%粉状 10YR3/4 暗褐色土 2%粉状	
焼土混土	F 2 10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土 3%粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	木炭

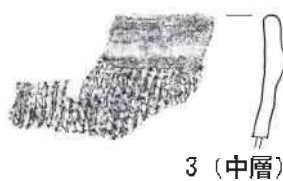
〈埋土〉



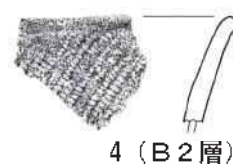
1 (A層)



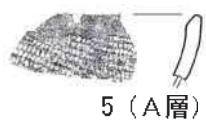
2 (A層)



3 (中層)



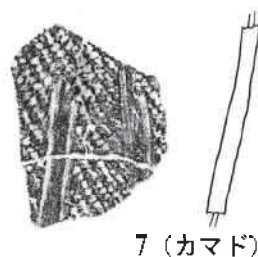
4 (B2層)



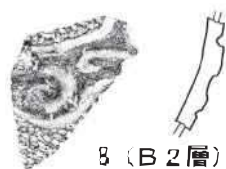
5 (A層)



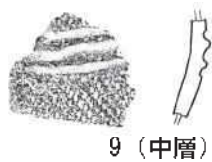
6 (カマド)



7 (カマド)



8 (B2層)



9 (中層)



10 (A層)

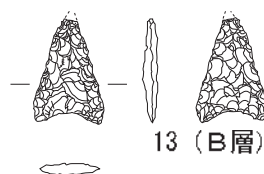
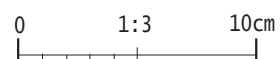
〈床面〉



11 (床面)



12 (床面)



13 (B層)



図22 JH05竪穴住居跡出土遺物 (1)

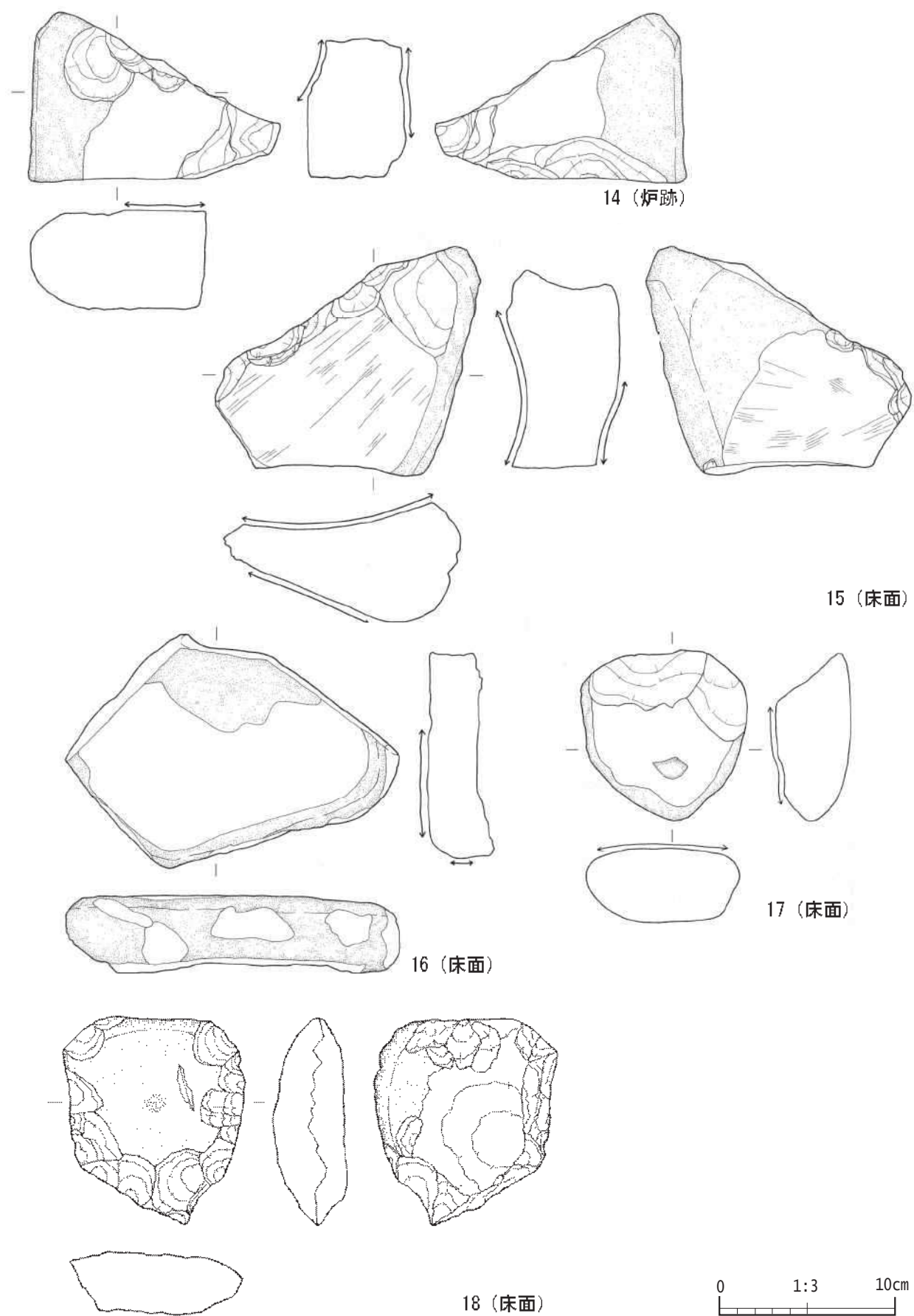


图23 JH05竖穴住居跡出土遺物 (2)

JH06、JH07 竪穴住居跡

調査区中央の北側に位置する。

JH06 竪穴住居跡 (図25)

平面形は隅丸方形である。規模は、南北2.8m、1.5mを測る。埋土は2層に分かれる。床面中央で小土坑跡を2基検出する。炉跡、周溝などは検出していない。

出土遺物 (図24)

1は沈線による区画、「磨り消し」を伴う体部片である。2の底部は、底面に条痕を残す。3は縄文の圧痕を残す体部片である。

4、5は剥片石器である。4は凹基の石鏃である。5は不定形の石器である。側縁に凸刃、底辺に直刃を調整する。

時期は縄文時代中期に伴うものと思われる。

JH07 竪穴住居跡 (図25)

JH06の西に位置する。平面形は円形である。規模は、径3.0mを測る。埋土は2層に分かれる。床面から小土坑跡3基検出している。炉跡、周溝などは出土していない。

出土遺物 (図26)

1～5は縄文土器である。1は斜縄文で施文された口縁部である。2は原体圧痕と思われる。3は撚糸文で施文される。4はS字状連鎖文を伴う。5は条痕文を伴う。

6、7は剥片石器の石鏃である。6は平基、7は凹基である。

時期は、縄文時代前期に伴う。

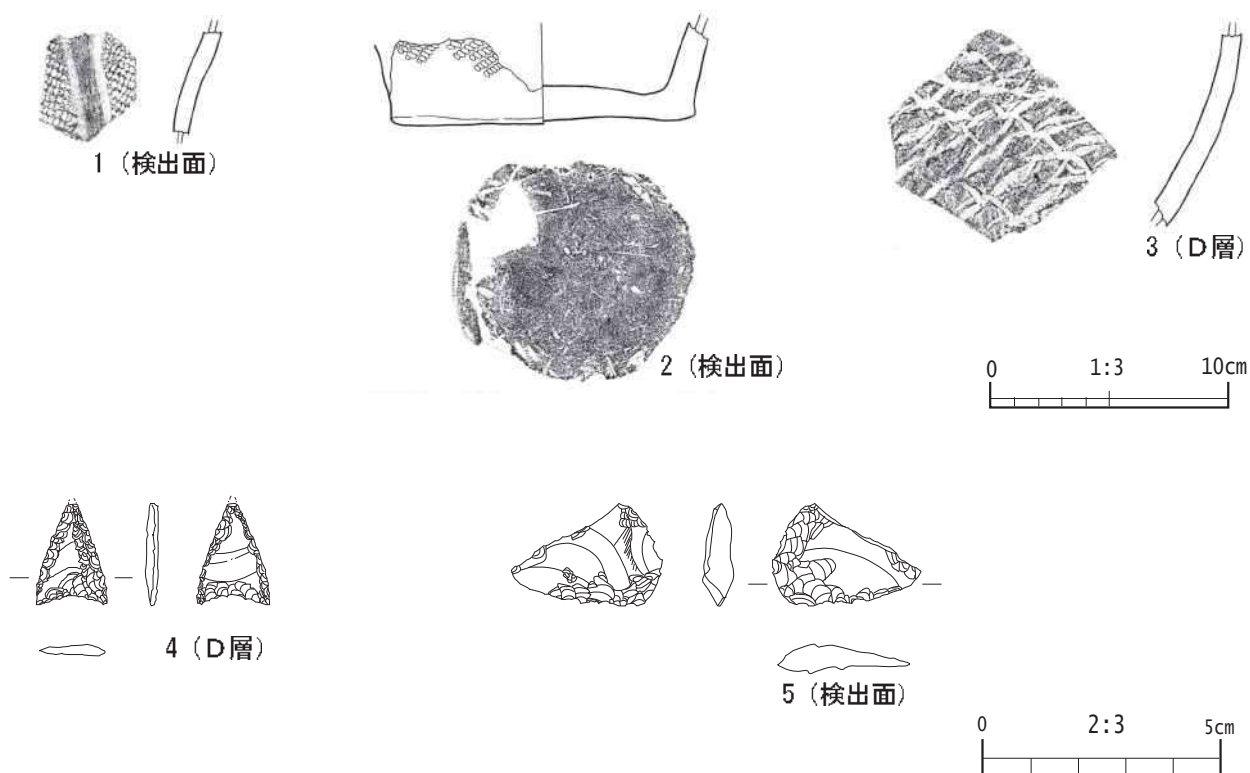


図24 JH06竪穴住居跡出土遺物

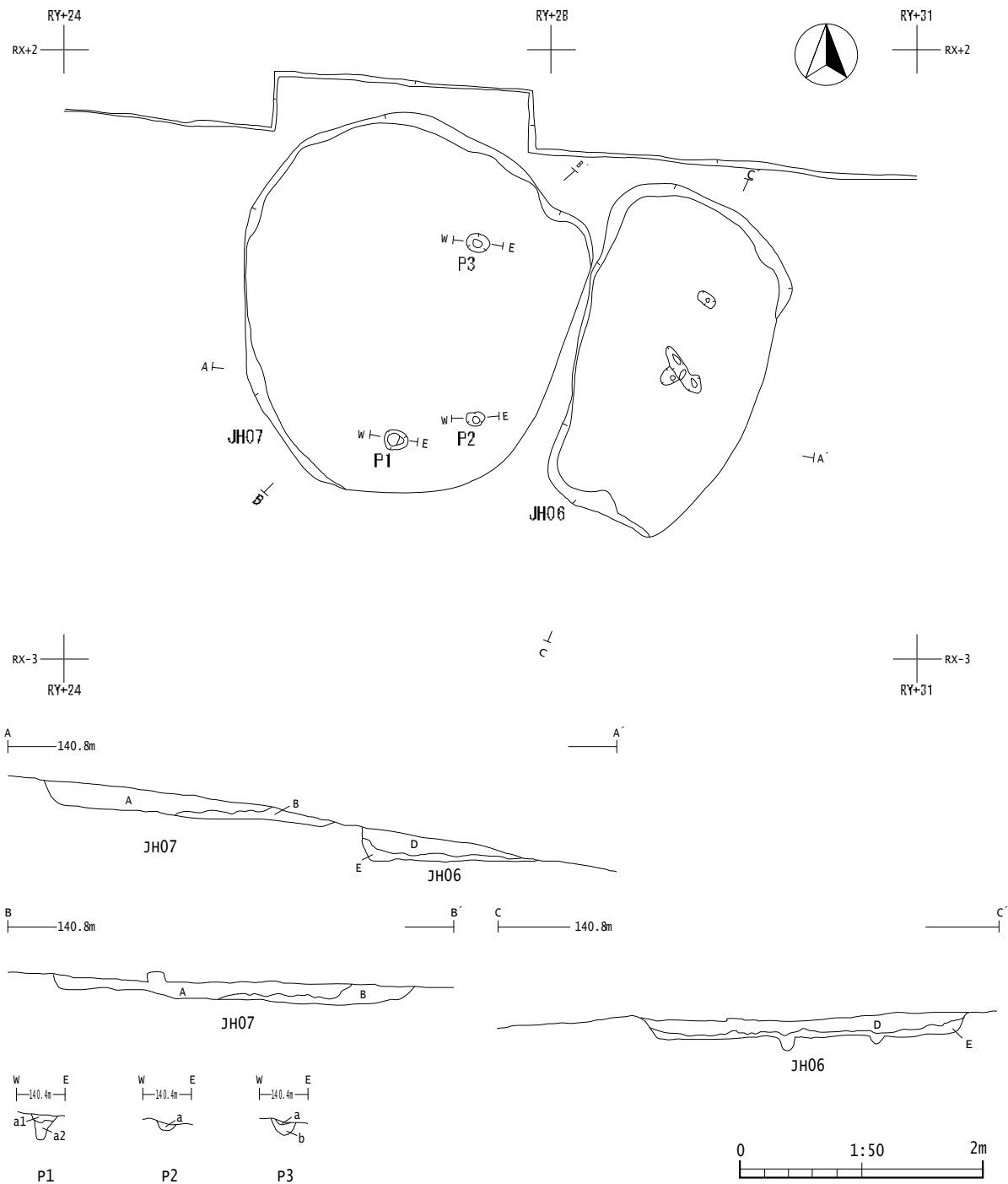


図25 JH06 JH07竪穴住居跡平・断面

JH06 JH07竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、均一土、炭
竪穴埋土	B	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状 10YR4/6 褐色壤土 1%硬塊状(径1~2cm)	やや軟質、炭
竪穴埋土	D	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状及び塊状(径0.5~2cm)	DとEは硬さ、しまりは同じぐらい
竪穴埋土	E	10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	木炭粉微量(D層より少ない)

JH07竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	軟質、しまり弱
	a 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	軟質、木炭微量
柱穴P2埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色土 2%粒状	木炭
柱穴P3埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色土 3%粒状	軟質、やや粘性あり、木炭
	b			

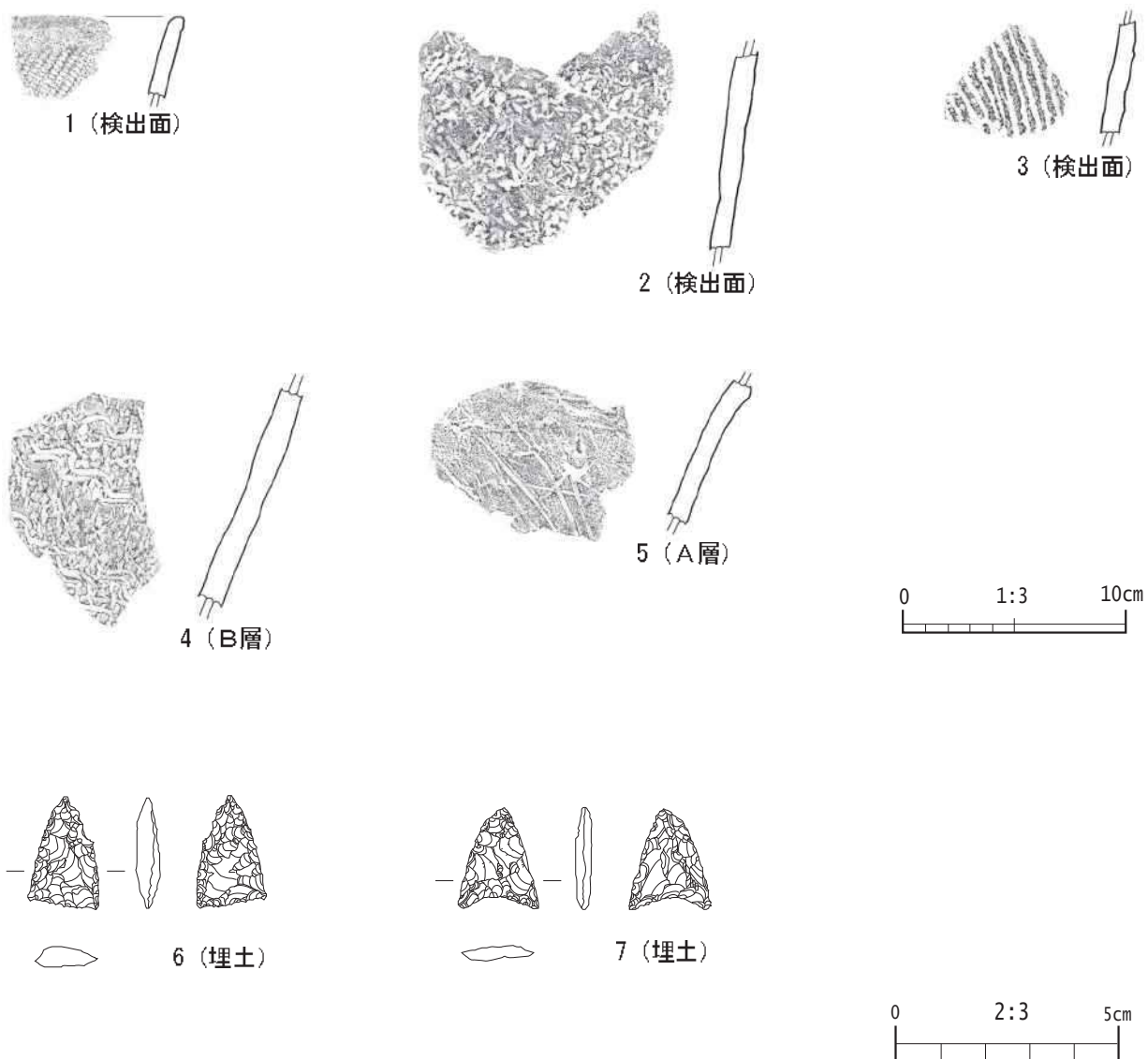


図26 JH07竪穴住居跡出土遺物

J H 0 8 竪穴住居跡、X K 0 4、0 5 土坑跡

J H 0 8 は J H 0 7 の西側に位置する。土坑跡は J H 0 8 の南に位置し、切り合い関係は不明である。

J H 0 8 竪穴住居跡 (図27)

平面形は楕円形である。規模は、東西5.0m、南北2.5mを測る。埋土は2層に分かれる。炉跡、柱穴跡、周溝などは検出していない。

出土遺物 (図28)

1～6は縄文土器である。いずれも隆沈線で施文された口縁部(1)と体部(2、3)である。4は表裏に条痕を施された体部片である。5は、小型鉢の底部である。6は深鉢の底部である。底面は無文である。

7は礫石器である。小型の磨製石斧である。

8、9は剥片石器である。8は石匙である。9は平基の石鏃である。

時期は、縄文時代中期に伴う。

X K 0 4 土坑跡 (図27)

平面形は長楕円形である。規模は、南北2.0m、東西0.8m、深さ0.5mを測る。断面形はV字状を呈し、落とし穴状の遺構である。埋土は3層に分かれる。

出土遺物 (図29)

1は深鉢の底部である。底面に網代痕を残す。

時期は、縄文時代中期に伴う。

X K 0 5 土坑跡 (図27)

平面形は円形である。規模は、径約1.0m、深さ15cmを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

時期は不明である。

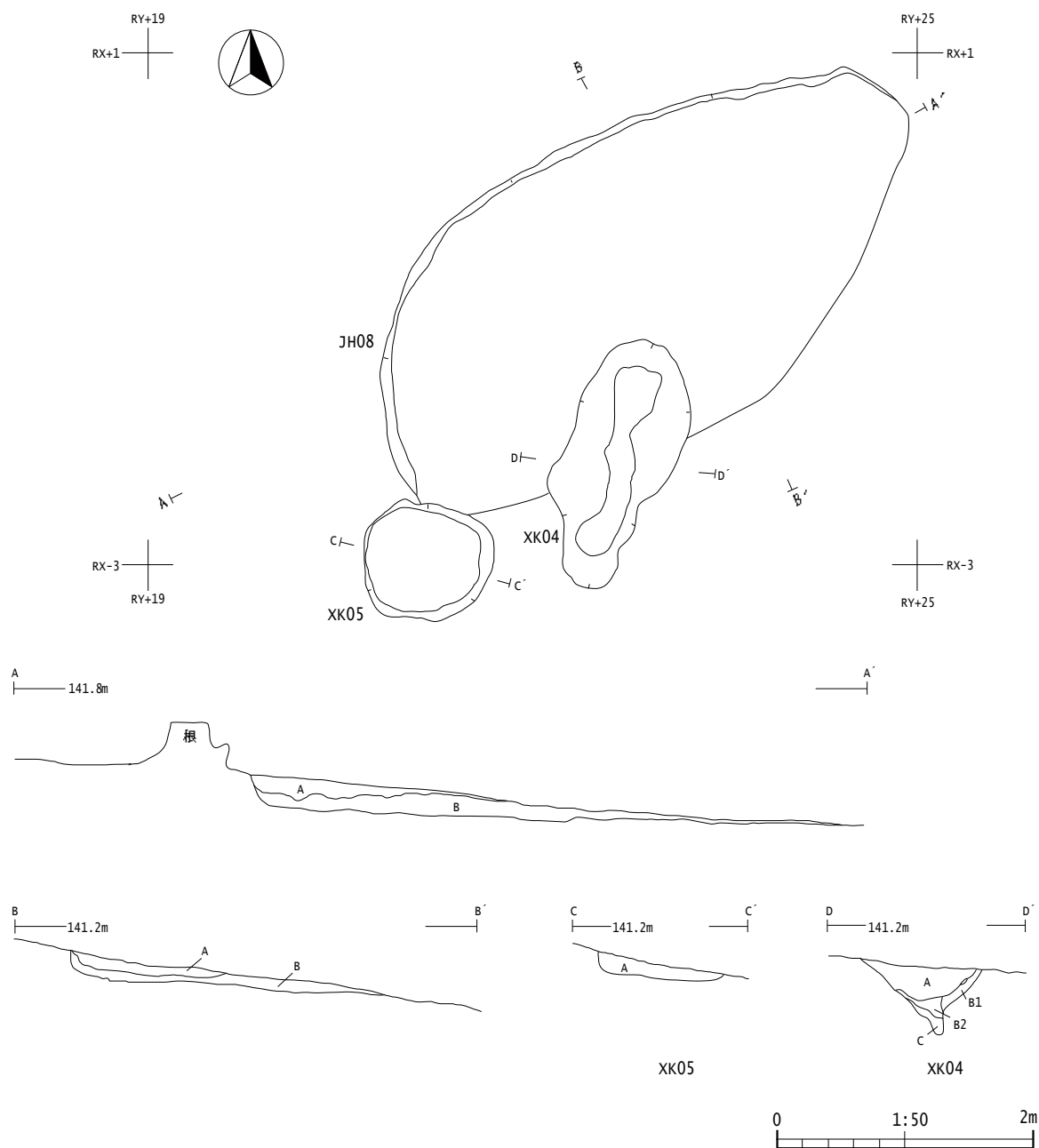


図27 JH08竪穴住居跡 XK04 XK05土坑跡平・断面

JH08竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	焼土粒状(部分的)、遺物多量、木炭
竪穴埋土	B 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%塊状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	やや軟質、土器、木炭微量(A層よりは少ない)

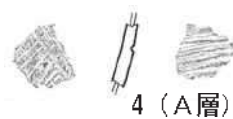
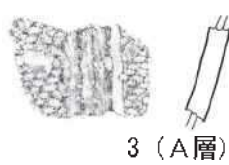
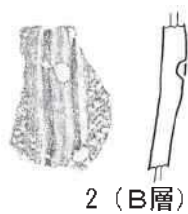
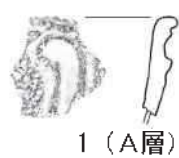
XK04土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状 10YR4/6 褐色壤土5%粉状	土器多量
土坑埋土	B 1 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 7%塊状 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 2%塊状	土器
土坑埋土	B 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	
土坑埋土	C 1 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色 2%粉状	軟質、地山とはほぼ同色であるがやや褐色土

XK05土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR4/4褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状 (最大径2cm)	やや軟質、粘性ややあり、XK06に比べ基本土やや暗く粘性あり、木炭微量

〈埋土〉



〈床面〉

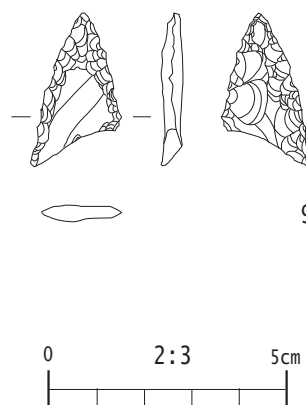
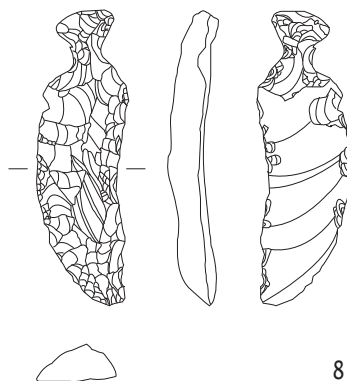
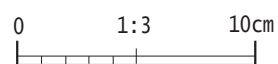
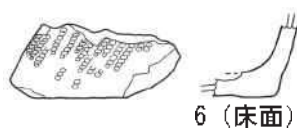


図28 JH08竪穴住居跡出土遺物

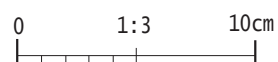
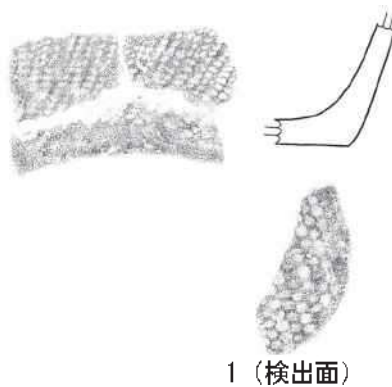


図29 XK04土坑跡出土遺物

J H 0 9 竪穴住居跡 (図30)

J H 0 8 の西側に位置する。平面形は長楕円形である。規模は、東西3.4m、南北1.3mを測る。埋土は2層に分かれる。竪穴の東南で小土坑跡1基 (P 1) を検出している。炉跡、周溝は出土していない。

出土遺物 (図32)

1 は結節縄文で施文された体部片である。胎土は繊維を含む。

J H 1 0 竪穴住居跡 (図30)

J H 0 9 の北西に位置する。平面形は不整円形である。規模は、南北2.4m、東西2.2mを測る。埋土は2層に細分される。床面南東の端に石囲炉を設ける。炉の両側で小土坑跡を検出している。周溝は検出していない。

炉跡 (図31)

正方形の石組である。規模は、55cm×55cmを測る。炉石を据えた方形の掘込みと前庭部の掘込みを確認している。

出土遺物 (図32)

2 は斜縄文を施された深鉢の口縁部である。

X K 0 6 土坑跡 (図30)

J H 1 0 の南に位置する。平面形は円形である。規模は、径0.9m、深さ15cmである。埋土は1層である。遺物は出土していない。

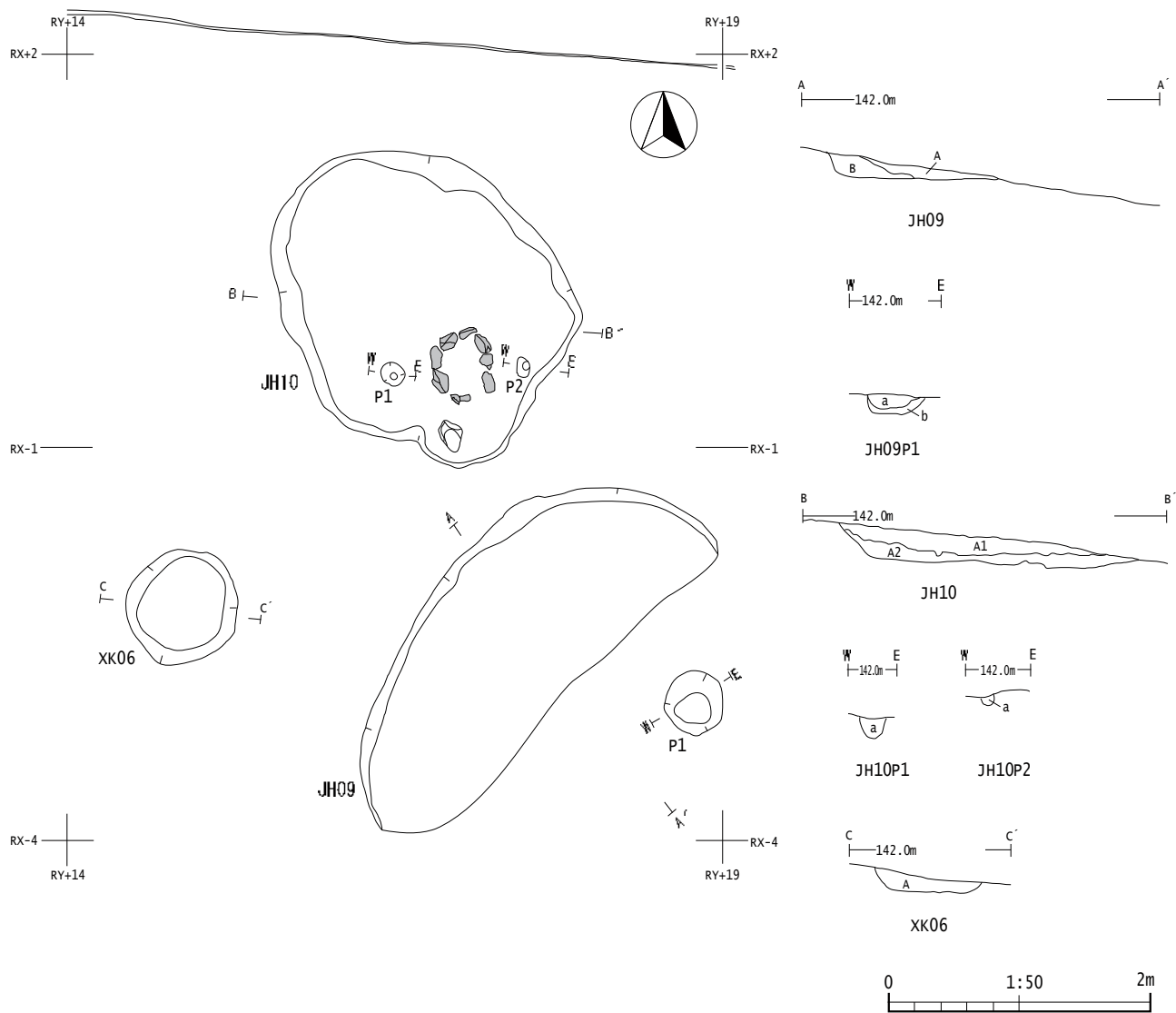


图30 JH09 JH10竖穴住居迹 XK06土坑迹平·断面

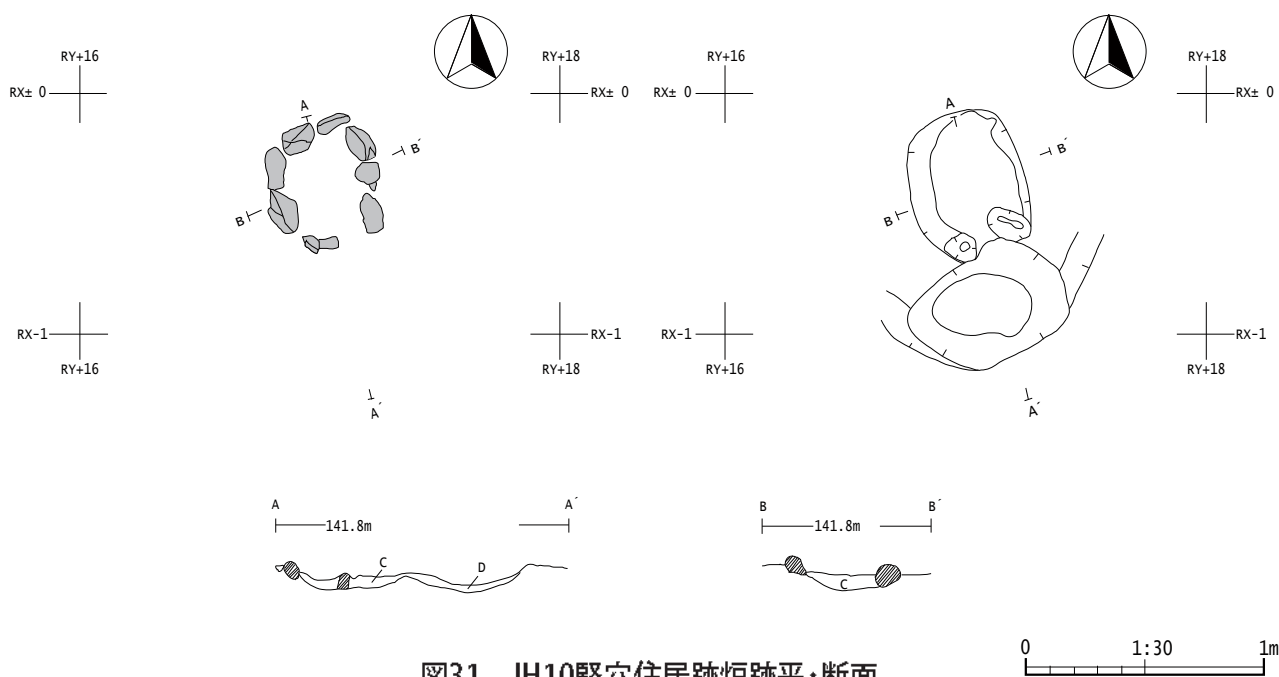


图31 JH10竖穴住居迹炉迹平·断面

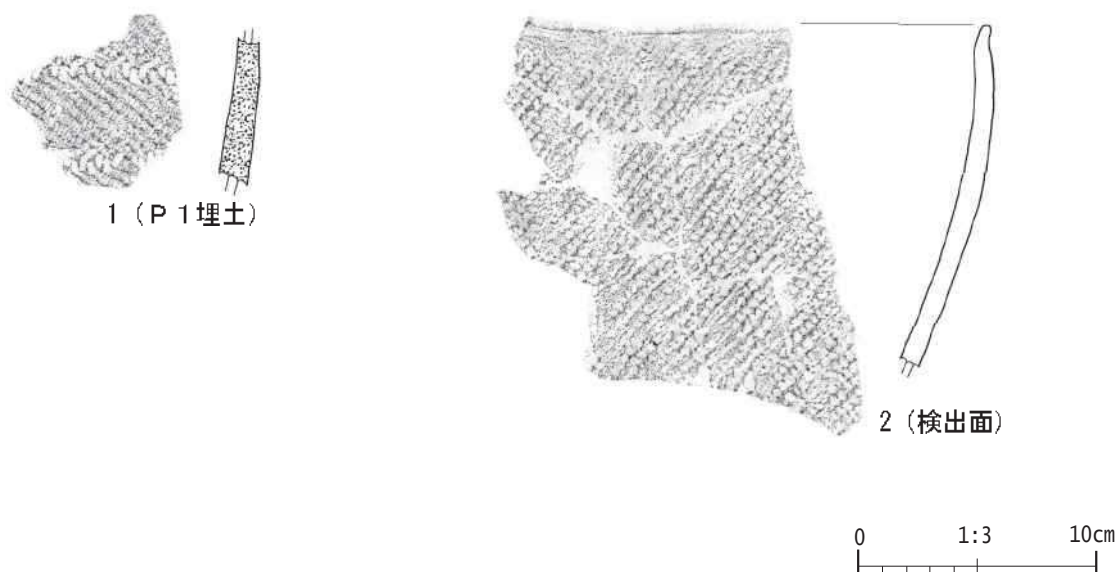


図32 JH09 JH10竪穴住居跡出土遺物

JH09竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりややなし
竪穴埋土	B	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 5%塊状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	硬い塊状構造

JH09竪穴住居跡土坑跡埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまり弱、木炭(a層より多い)

JH10竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりややあり、木炭粉
竪穴埋土	A2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	木炭粉

JH10竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	きわめて軟質
柱穴P2埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	

JH10竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	C	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3~5%粉粒状	A2と似ている、木炭
炉前底部埋土	D	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 5%粉状	粘性少々、木炭

XK06土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	注記なし		

JH11、JH12 竪穴住居跡、JF01 炉跡

調査区の西端に位置する。JH12はJH11を切る。

JH12 竪穴住居跡 (図33)

平面形は隅丸正方形である。規模は、4.5m×4.5mを測る。埋土は1層である。床面東側の中央に石囲炉を設ける。床面から小土坑跡を2基検出する。そのうち1基は埋甕である(P1)。周溝は検出していない。

炉跡 (図34)

方形の石囲炉である。炉の北側にさらに小型の方形石組が付属する。規模は、東西90cm、南北70cmを測る。F1、F2層が焼土層である。北側の石組も炉として使用されている。

方形の掘方、炉石の掘跡を確認している。

埋甕 (P1) (図35)

埋甕は砥石で覆われた状態で出土している。

出土遺物 (図37～39)

1～14は縄文土器である。

＜検出面＞ 1は深鉢の頸部～体部である。沈線による区画に縄文を充填、無文帯を設ける。

＜埋土＞ 2、3は口縁部である。2は沈線による区画に縄文を充填し、周りに刺突列を施す。裏面に突帯をめぐらす。3は斜縄文で施文される。4～6は体部片である。4は沈線による区画、磨り消し縄文を伴い、5は隆沈線で施文される。6は粘土紐の貼付により施文される。

＜床面＞ 7～9は口縁部である。7、8は沈線に区画と充填縄文を伴い、その上に円形刺突列を施す。裏面に突帯がめぐる。9は表を斜縄文で飾り、裏面には隆帯で渦文を施す。10～13は体部である。10、11は沈線による区画と縄文を伴い、12、13は隆沈線で施文される。14はP1の埋設土器である。斜縄文で施文される。砥石(16)に覆われた状態で出土している。

15～21は石器である。

15は剥片石器である。石錐である。

16～21は礫石器である。

16、17は砥石である。16はP1の埋甕を覆っていた砥石である。18は作りかけの磨製石斧である。19は側面を両側から刃状に剥離調整する。20は敲打磨石である。両側に調整磨面をもつ。

21は全面に敲打痕を残す円礫である。

JH11 竪穴住居跡 (図33)

JH12に切られる。平面形は隅丸方形と推測される。規模は、南北3.8mを測る。埋土は3層に細別される。床面から土坑跡1基検出している。炉跡、周溝は出土していない。

出土遺物 (図40、41)

1～8は縄文土器である。

＜埋土＞ 1～3は口縁部である。いずれも斜縄文で施文される。4～6は体部である。4、5は沈線による区画と充填縄文を伴い、6は隆沈線で施文される。

＜床面＞ 7の口縁部は斜縄文で施文される。8は口縁部である。沈線で縄文、無文を分ける。

9～13は石器である。

9～12は剥片石器である。9は石匙である。10は無茎の石鏃である。11、12は不定形の石器である。側縁に刃部を調整する。

13は礫石器である。敲打磨石である。端部に敲打痕を残す。

JF01 炉跡 (図36)

JH11の東に位置する。平面形は円形である。東側に石を組む。規模は、径40cmを測る。F層は焼き締まった焼土層である。遺物は出土していない。

西側の竪穴JH11、JH12との関係は不明である。

JH11 JH12竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粒状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	木炭
竪穴埋土	A2 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%塊状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状	硬質、遺物多量、木炭
竪穴埋土	B1 10YR4/6 褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 5%粉状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	木炭微量
竪穴埋土	B2 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 7%塊状粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	土器、木炭粉
竪穴埋土	B3 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%塊状 10YR4/4 褐色壤土 3%粉状	

JH11竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粒状 5YR4/6 赤褐色壤土 1%粒状	やや硬質、木炭3%

JH12竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粒状 10YR4/4 褐色シルト質壤土 2%粉状	木炭、底面に板状の石あり
	a2		
柱穴P2埋土	a1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粒状 10YR4/4 褐色シルト質壤土 1%粉状	軟質、木炭粉1%
	a2 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	

JH12竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、粘性あり、しまり弱、木炭粒3%、5YR4/6 赤褐色焼土粉1%
炉跡埋土	b 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3%粉状 2.5YR4/8 赤褐色焼土 7%粉状	やや軟質、粘性ややあり、ややしまりあり
炉跡埋土	c 10YR4/6 褐色シルト質壤土	5YR4/6 赤褐色シルト質壤土(焼土粉) 5%粉状	
炉跡埋土	d 5YR4/6 赤褐色シルト質壤土焼土		やや硬質、しまりあり
炉跡埋土	F1 2.5YR4/8 赤褐色焼土純層		硬質、しまりあり、赤褐色が弱くなる原位置焼土である
炉跡埋土	F2 5YR4/8 赤褐色焼土		硬質、しまりあり、漸移的に赤褐色がうすくなる
炉跡埋土	G 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土(焼土) 2%	焼土+シミ少々あり、硬い炉構築土

JH12竪穴住居跡埋設土器土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土粉粒状(最大径2cm) 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	軟質、やや粘性あり、全体に粉粒状構造
	b 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、木炭

JF01炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土	F 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状 5YR4/6 赤褐色シルト質壤土(焼土) 1%粉粒状	木炭2%

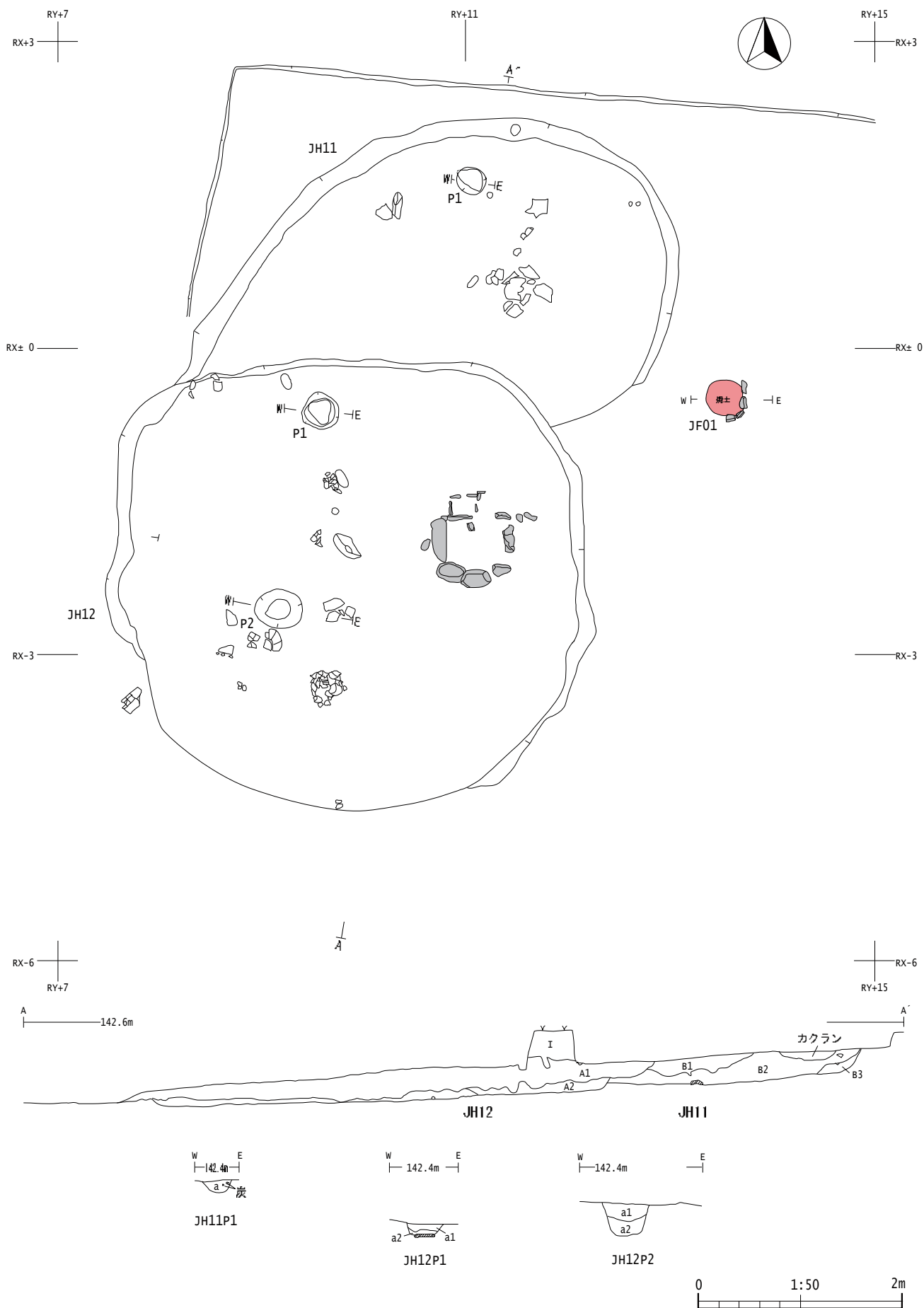


図33 JH11 JH12竪穴住居跡 JF01炉跡平・断面

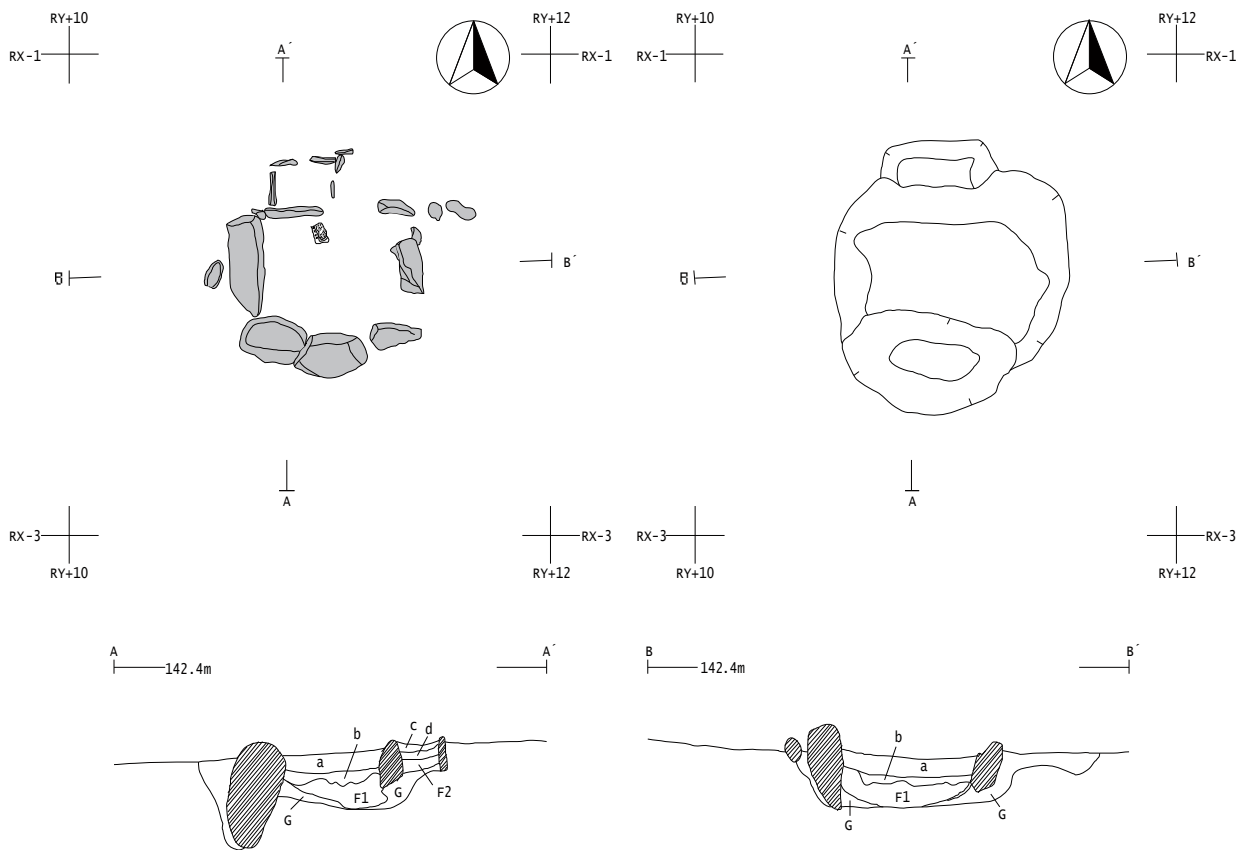


图34 JH12竖穴住居迹炉迹平·断面

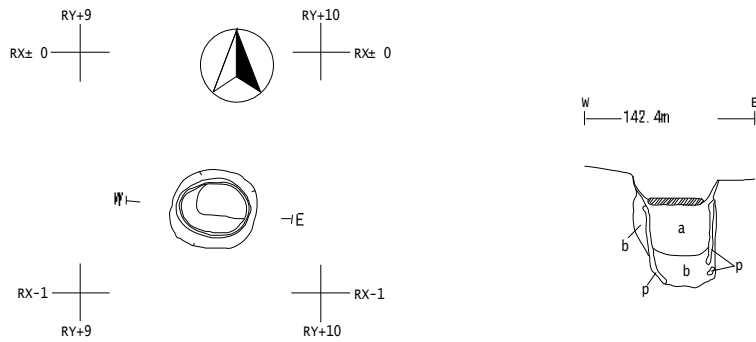


图35 JH12竖穴住居迹埋设土器平·断面

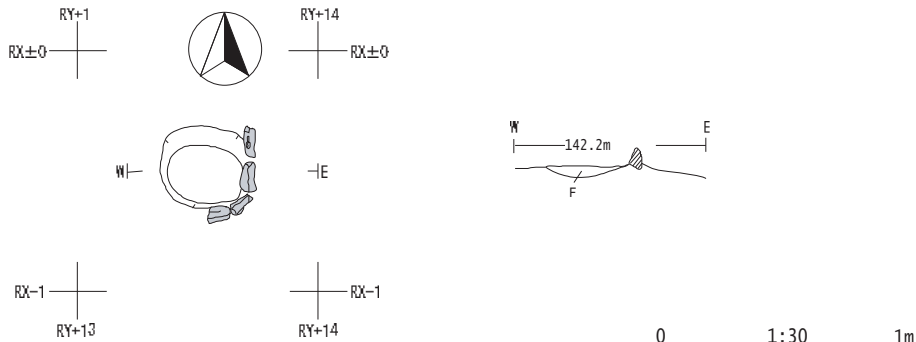
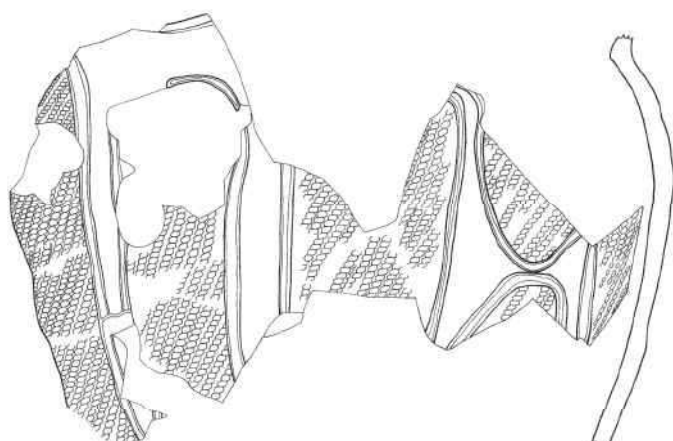


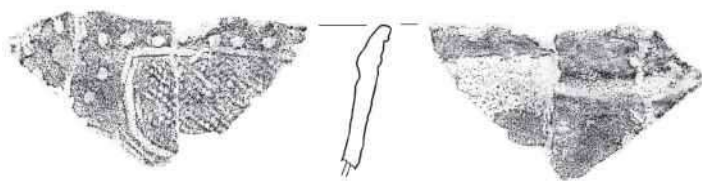
图36 JF01炉迹平·断面

〈検出面〉

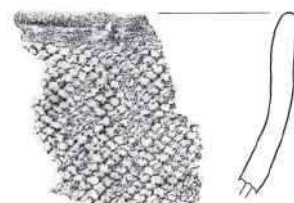


1 (検出面)

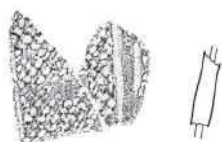
〈埋土〉



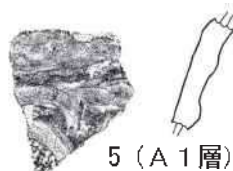
2 (A 2層)



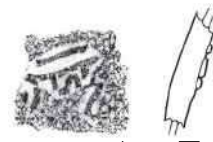
3 (A 1層)



4 (A 2層)

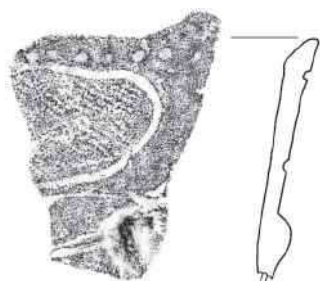


5 (A 1層)

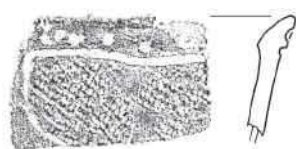


6 (A 1層)

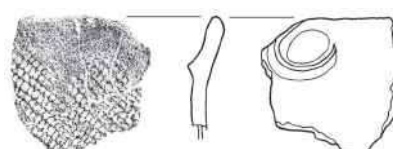
〈床面〉



7 (床面)



8 (炉跡)



9 (床面)

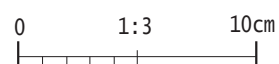


図37 JH12竪穴住居跡出土遺物 (1)

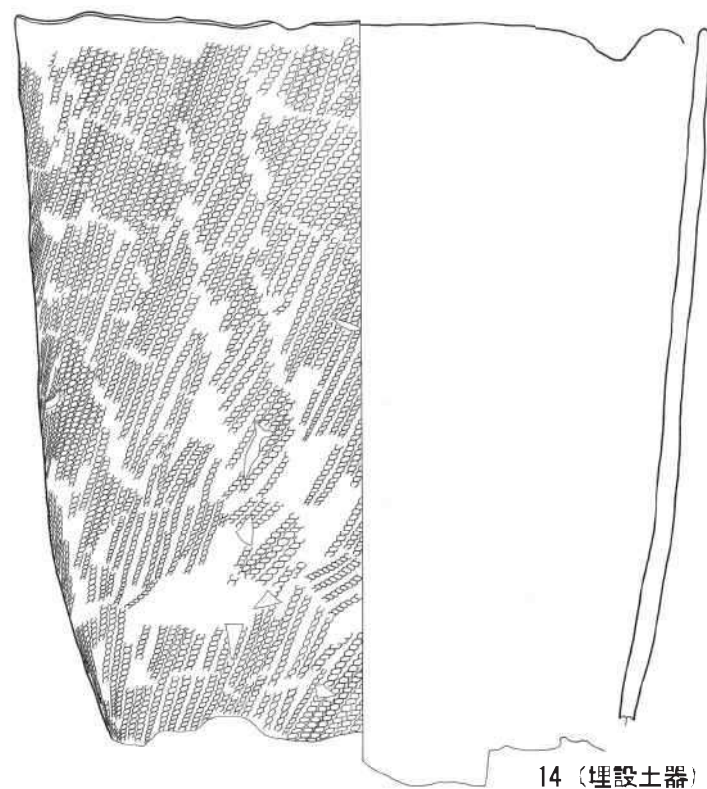
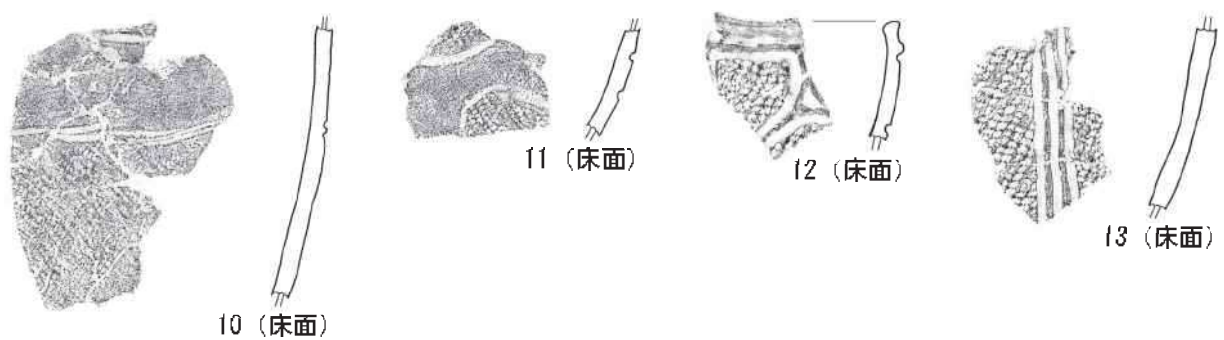


図38 JH12竪穴住居跡出土遺物 (2)

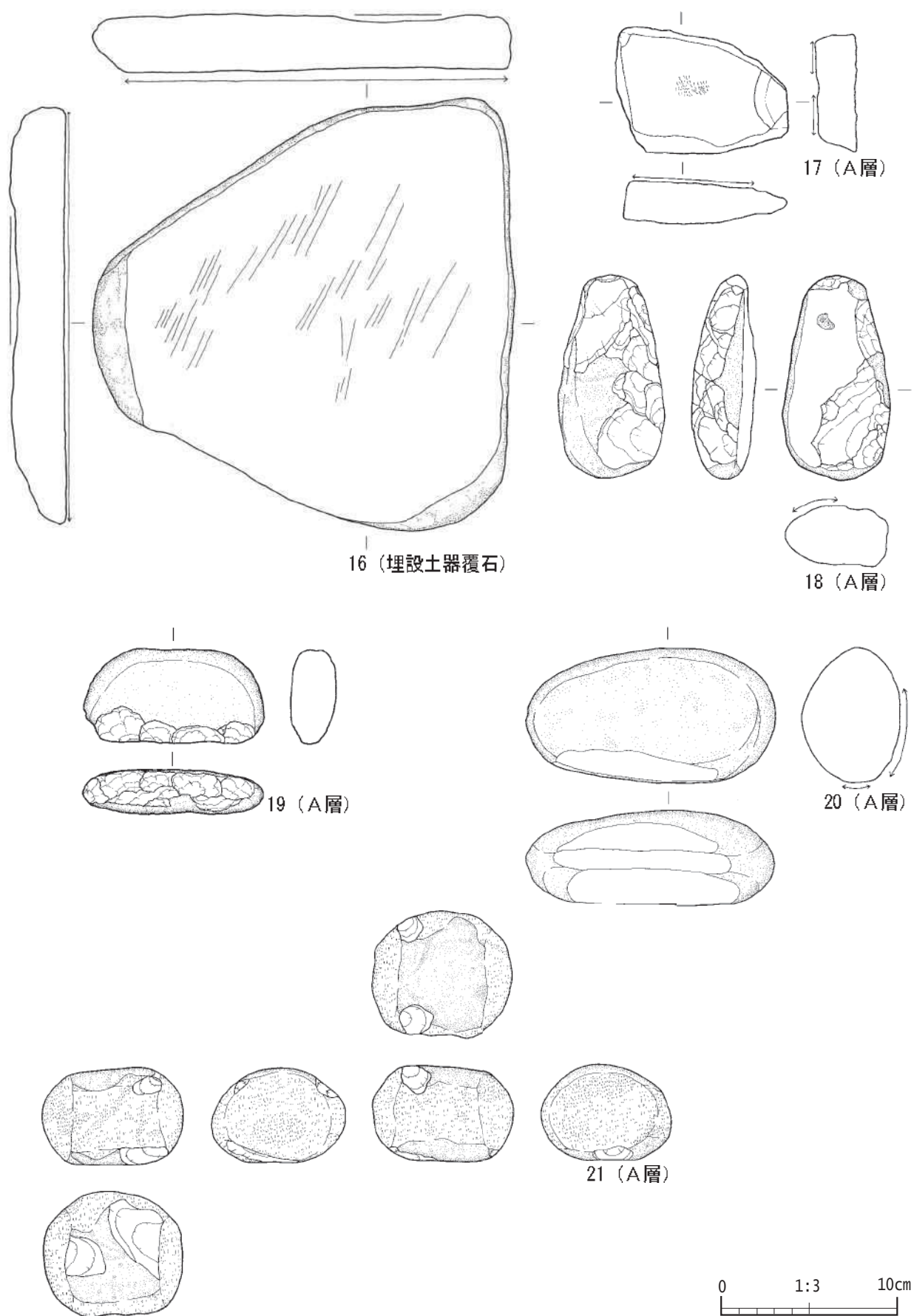
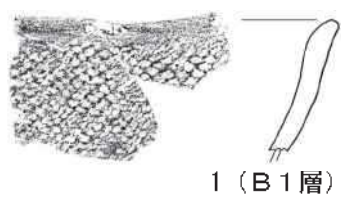
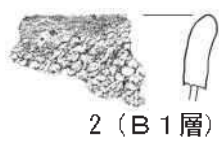


图39 JH12竖穴住居跡出土遺物 (3)

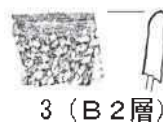
〈埋土〉



1 (B 1層)



2 (B 1層)



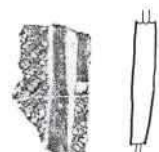
3 (B 2層)



4 (B 2層)

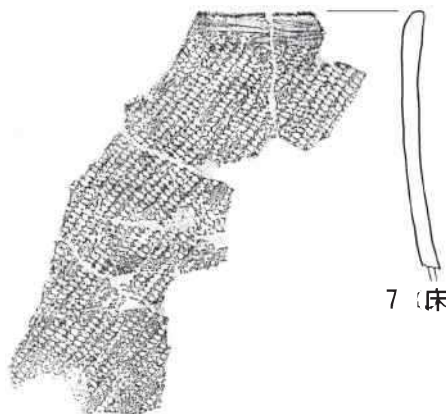


5 (B 1層)

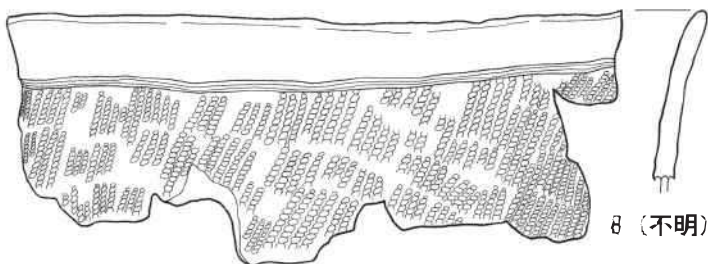


6 (B 1層)

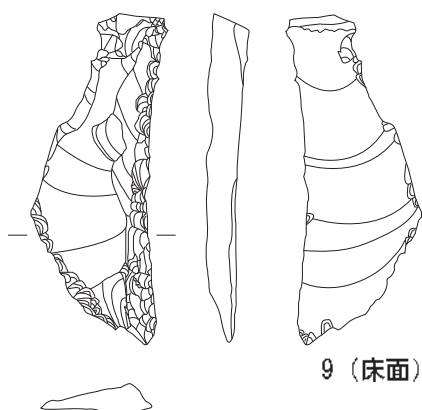
〈床面〉



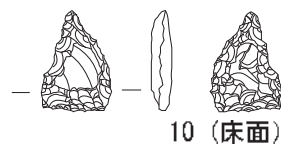
7 (床面)



8 (不明)



9 (床面)



10 (床面)

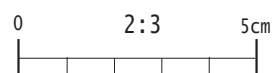


図40 JH11竪穴住居跡出土遺物 (1)

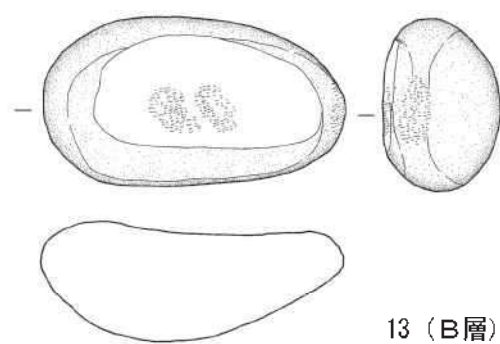
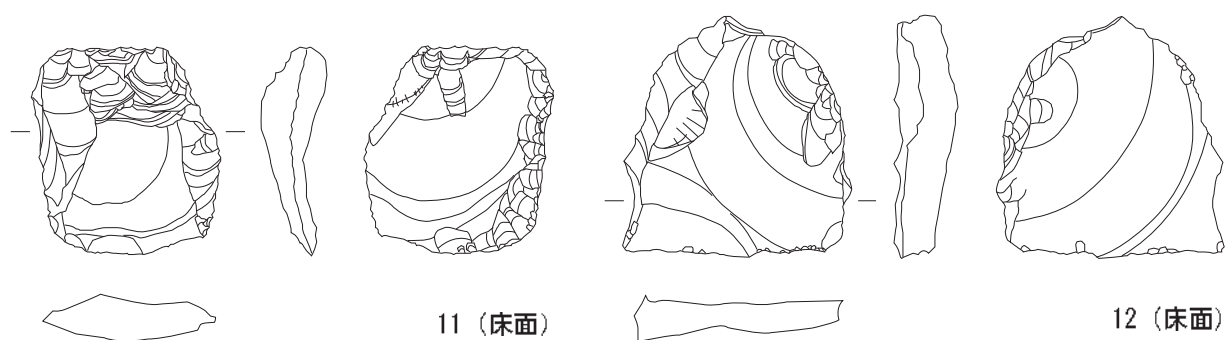


圖41 JH11豎穴住居跡出土遺物 (2)

遺構外出土遺物（1995年度調査区）

＜表土層＞（図42、43）

1～9は縄文土器である。1～4は口縁部である。1、2は沈線で区画し、縄文を施文する。3、4は縄文に沈線で描く。5は磨り消し縄文を伴う。6、8は隆沈線で施文する。7は羽状縄文が施され、胎土は繊維を含む。9の底面は無文である。

縄文時代中期（1～6、8）、縄文時代前期（7）に伴う

10～20は石器である。

10～19は剥片石器の石鏃である。10～14は平基の石鏃である。15～17は凹基の石鏃である。18、19は凸基の石鏃である。20は礫石器の石筥である。

＜検出面＞（図43）

21～25は縄文土器である。21、22は沈線による区画と充填縄文を伴う。23は隆線で渦文を施す。24は複合口縁である。25は粘土紐の貼付で施文される。

縄文時代中期（21～24）、縄文時代前期（25）に伴う。

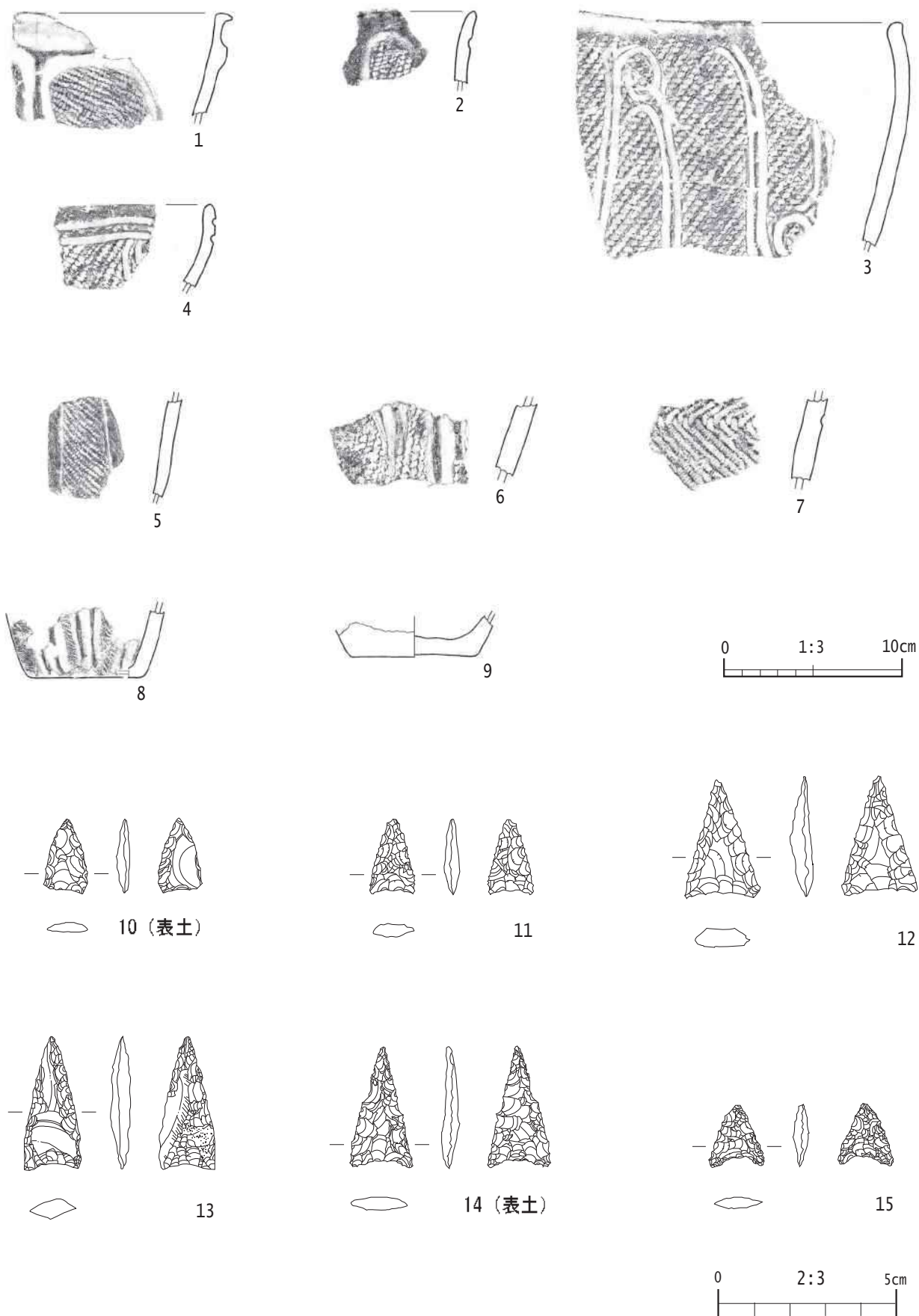


图42 遺構外出土遺物1995 (1) 表土

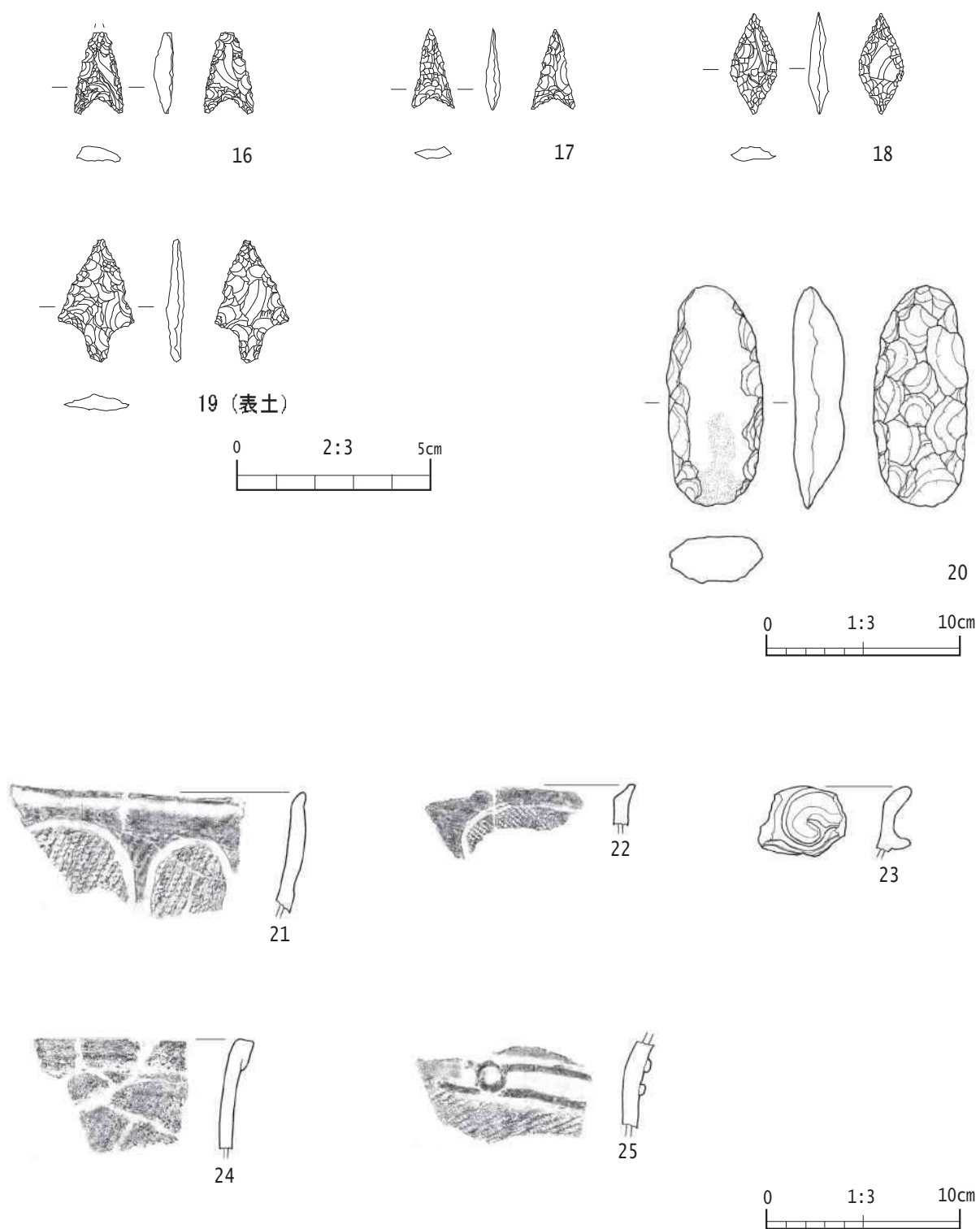


図43 遺構外出土遺物1995(2) 表土 検出面

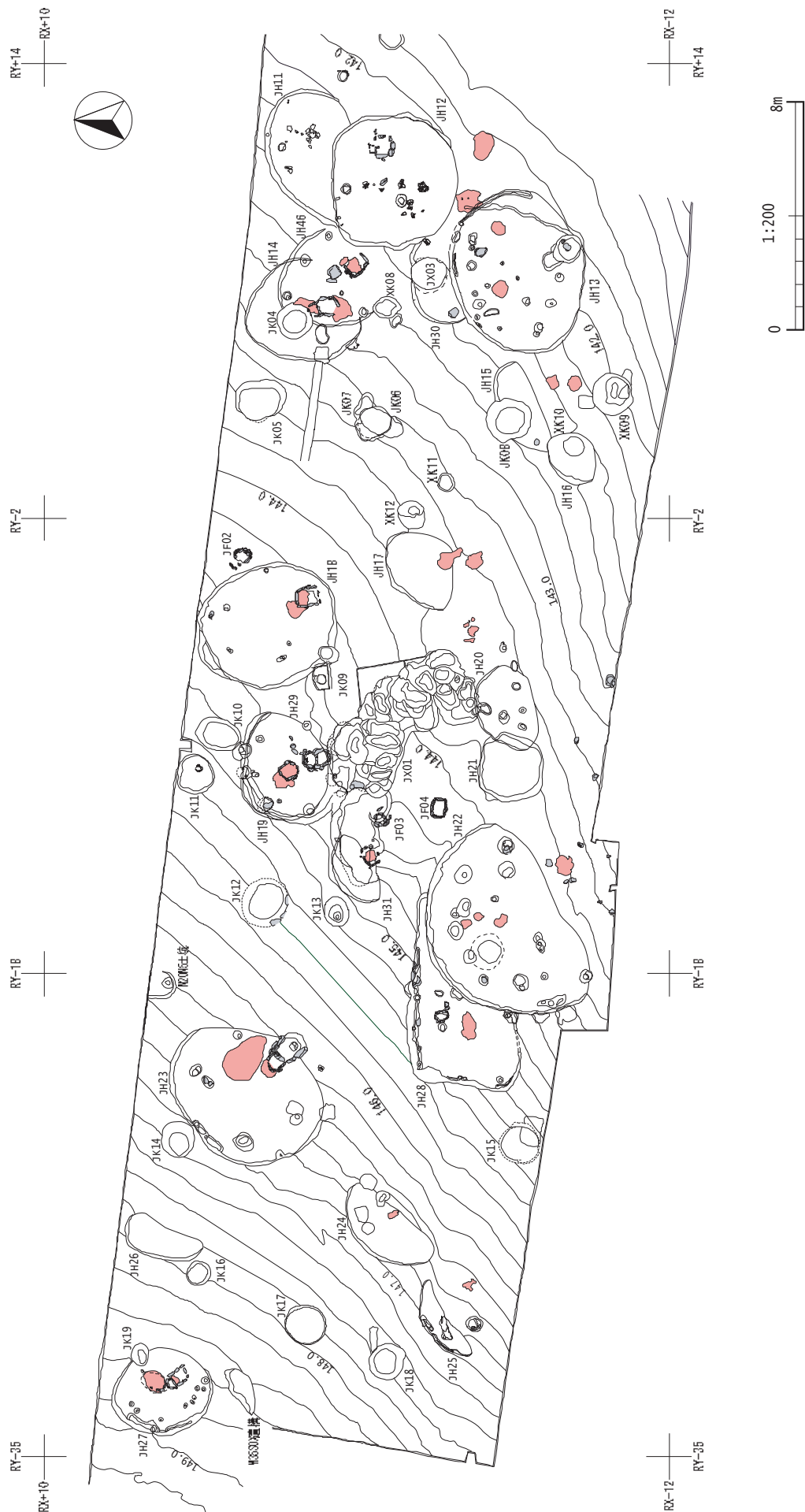


図44 平成8年度(1996) 調査区遺構配置図

＜平成8年度（1996）調査区＞（図44）

JH13、JH30 竪穴住居跡、JK03 土坑跡

JH13はJH12の南に位置し、JH12、JH30を切る。

JH13 竪穴住居跡（図45）

平面形は楕円形である。規模は南北4.8m、東西5.6mを測る。埋土は3層に分かれる。床面南東端に炉を設ける。床面の周縁部で土坑跡、東側で周溝を検出している。また床面の二カ所（焼土A、B）、遺構外東側で二カ所（XF02、03）で焼土遺構を検出している。床面の東側で南北に延びる段差状の遺構を検出したが、旧竪穴の遺構と思われる。

炉跡（図46）

二部から成る複式炉と推定される。掘方の平面形は北側が方形、南側が円形である。北側が前庭部と思われる。規模は、南北1.6m、幅は、北側が0.6m、南側は径約1.0mを測る。b層底面は固く焼き締まる。

焼土A（図48）

床面中央に位置する。平面形は不整円形である。規模は、径50cmを測る。F層はくぼみ状の固い焼土層であるが、漸移層がなく、二次的堆積である。

焼土B（図48）

焼土Aの東に位置する。平面形は不整円形である。規模は、径50cmを測る。F層は、焼土Aと類似する焼土層である。二次的堆積である。

出土遺物（図50、51）

1～18は縄文土器である。

＜埋土＞ 1～5は深鉢の口縁部である。1、2は沈線による区画と磨り消しを伴う。3は横位の沈線と刺突列を伴う。4は隆沈線で施文され、5は橋状把手を伴う。6～12は体部片である。いずれも沈線による区画、充填縄文、帯状無文帯を伴う。13は小型鉢の底部である。底面の一部に縄文が施される。

＜床面＞ 14は口縁部である。斜縄文で施文される。15～18は体部片である。いずれも隆沈線で施文される。

19は土製品である。中心を穿孔された小型円盤である。片面を縄文で施文される。

20、21は礫石器である。20は側縁に敲打痕、側面に磨面をもつ敲打磨石である。21は側縁全体に敲打痕を残す円礫である。

時期は縄文時代中期に伴う。

XF02、XF03 焼土

XF02 焼土（図45、49）

JH13の東壁際に位置する。周溝に切られる。平面形は不整方形である。規模は、南北90cm、東西70cmを測る。底面は固く焼き締まる。遺物は出土していない。

XF03 焼土（図45、49）

XF02 焼土の東に位置する。平面形は不整楕円形である。規模は、東西1.0m、南北0.7mを測る。F層がやや締まった焼土層である。層厚4cmを測る。底面は焼けている。遺物は出土していない。

いずれも時期は不明である。

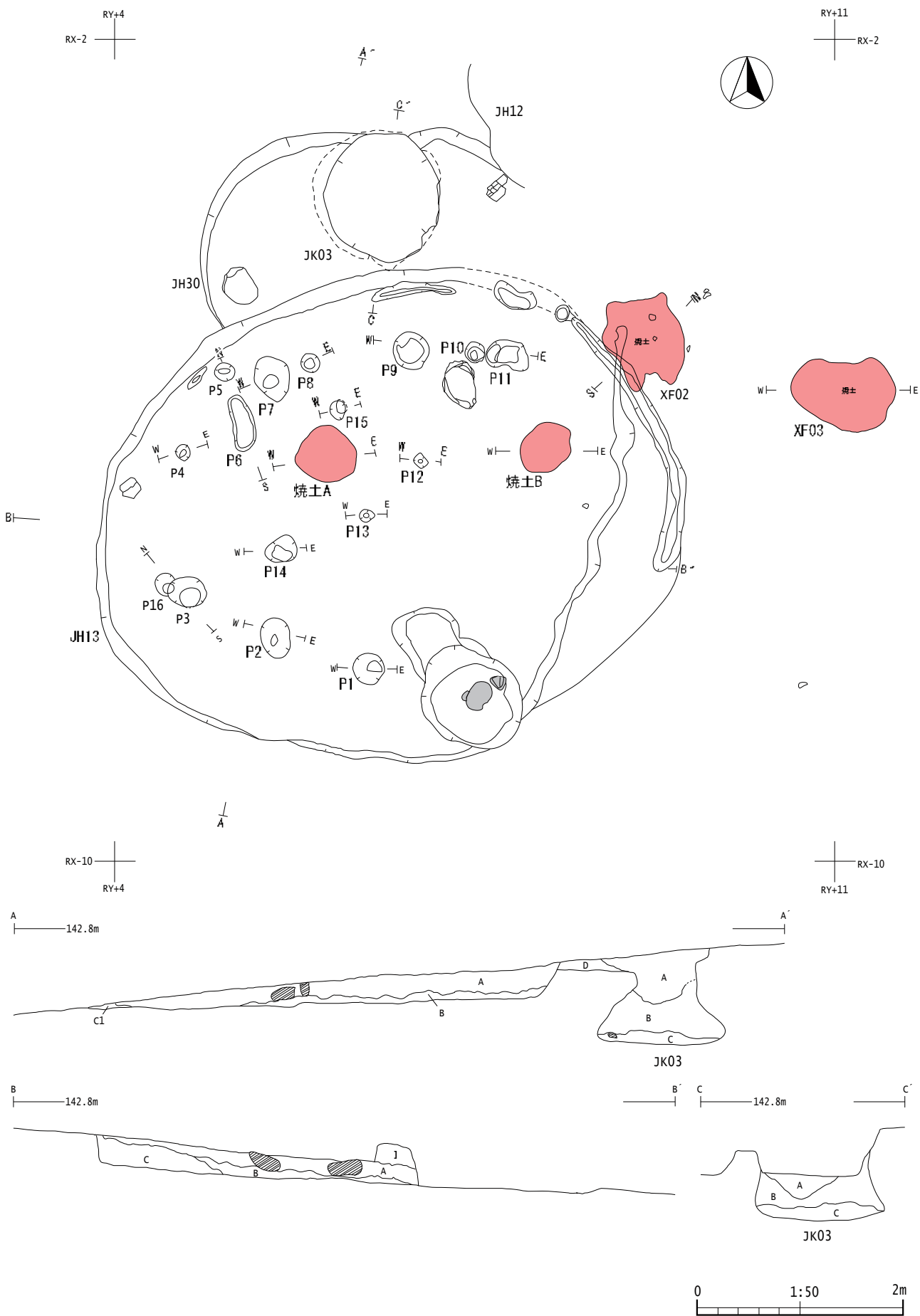


图45 JH13 JH30竖穴住居迹 JK03土坑迹平·断面

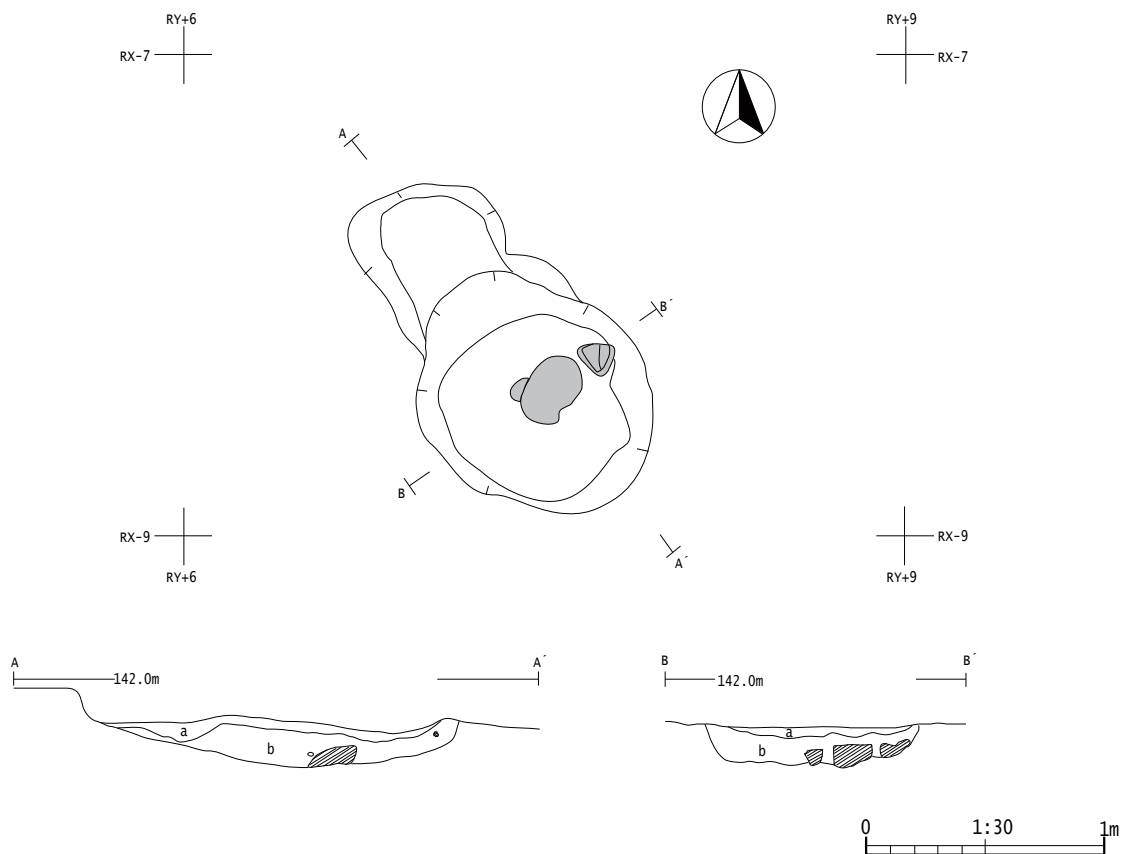


図46 JH13竪穴住居跡炉跡平・断面

JH30 竪穴住居跡 (図45)

JH13の北に位置する。JH13とJK03に切られる。北西部の壁のみの検出である。平面形は隅丸方形と思われる、規模は不明である。炉跡、柱穴、周溝などは検出していない。

出土遺物 (図52)

1～5は縄文土器である。

1～4は口縁部である。1は沈線による区画、充填縄文で施文される。2は条痕文で施文される。

3、4の口縁部、5の体部片は、隆沈線による渦文で施文される

時期は縄文時代中期に伴う。

JK03 土坑跡 (図43)

JH13の北に位置する。JH30を切る。

フラスコ形の土坑である。規模は、口径1.0m、頸部径0.6m、底部径1.3m、深さ0.9mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物 (図53)

1は礫石器の磨石である。全面に磨面をもつ。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

JH13竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、木炭
炉跡埋土	b 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、木炭粉微量、底面はカリカリに焦けている面がある。

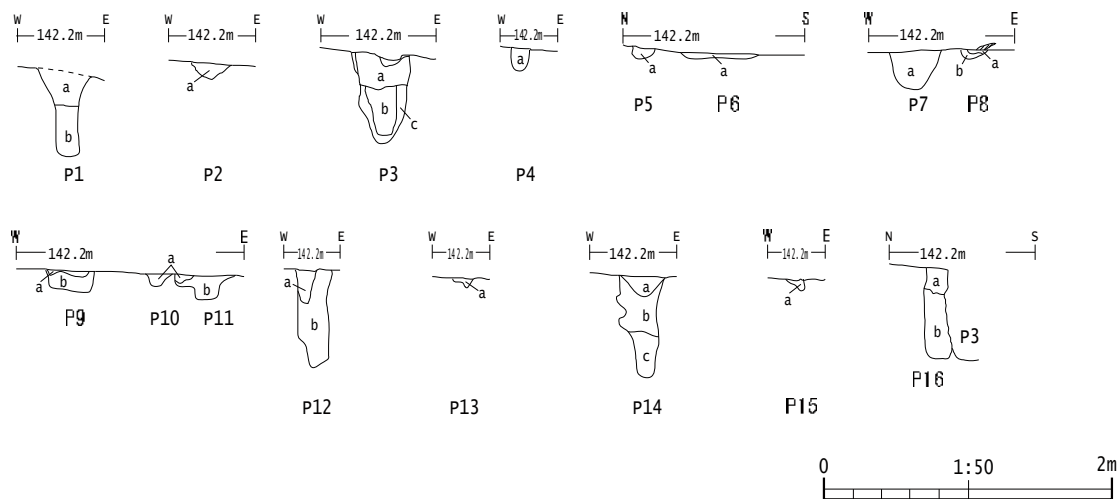


图47 JH13竖穴住居跡断面

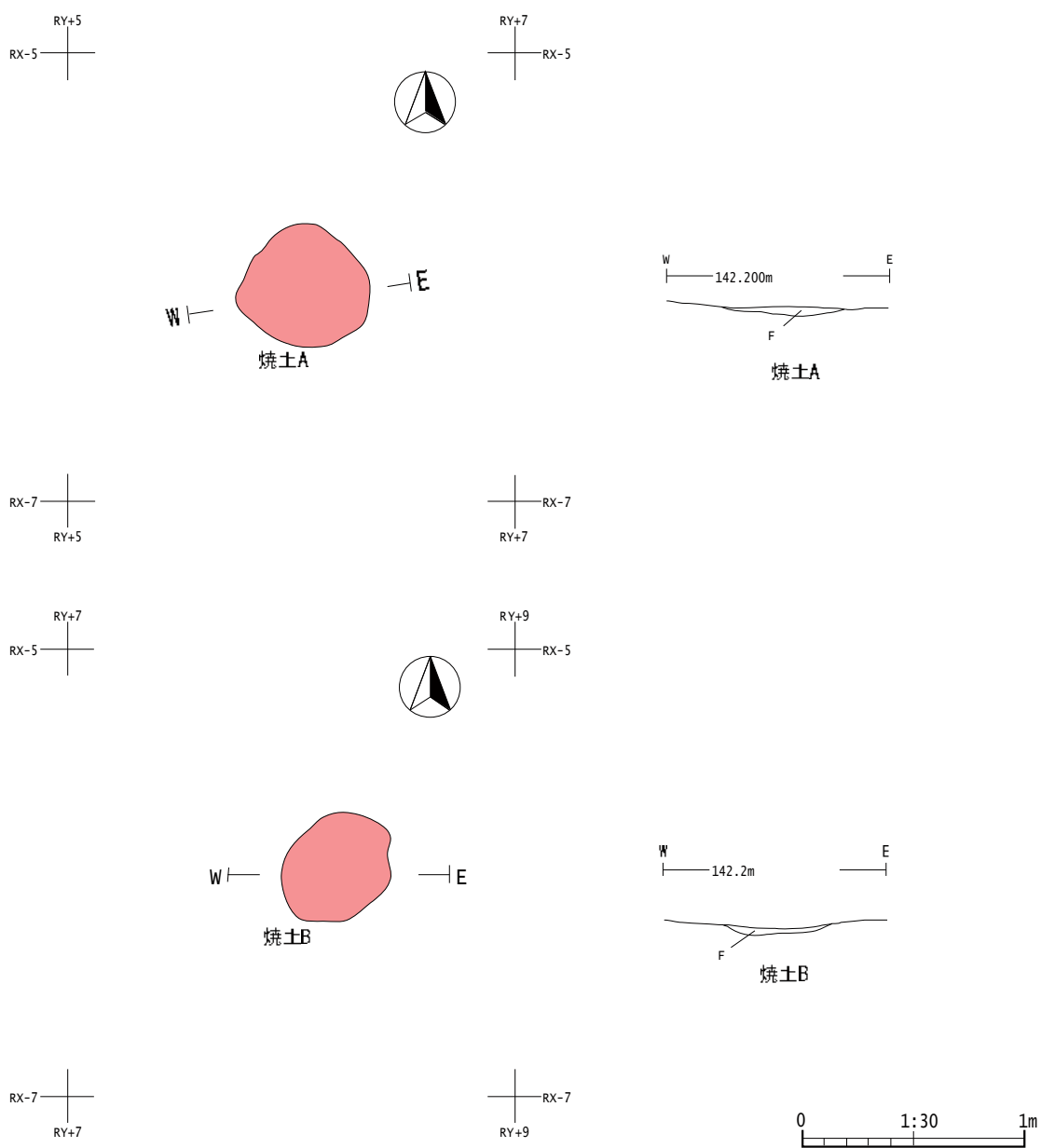


图48 JH13竖穴住居跡烧土A·B平·断面

JH13竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土	10YR4/4 褐色シルト質植壤土 15%塊状 10YR2/3 黒褐色シルト質植壤土 3%粉粒状	やや軟質、粘性ややあり、塊状構造(人高的な埋土層とみられる)、木炭粉2%、大型角礫
竪穴埋土	B 10YR2/3 黒褐色シルト質植壤土	10YR4/6 褐色植壤土 2%粒状 2.5YR4/8 赤褐色シルト質植壤土(堆土) 3%粒状	軟質、粘性ややあり、木炭粒または塊(2~3cm)を特徴的に多く含む、木炭灰土粒を含む腐葉層で北側から流入した層、底面は焼けておらず西側でC層の介在が見られることから焼失家屋ではない
竪穴埋土	C 10YR4/6 褐色植壤土	10YR5/8 黄褐色植壤土 3%粒状 10YR4/4 褐色シルト質植壤土 2%粉状	軟質、粘性あり、木炭粉微量 竪穴の西側部分にのみ見られる埋土で西から流入しておりこの層の上にB層がのる

JK03土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 3%粉状 10YR6/8 明黄褐色シルト質植壤土 3%粉粒状	軟質、粘性ややあり、しまり弱、木炭粉2%
土坑埋土	B 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質植壤土 5%粉粒状 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 2%粉粒状	軟質、粘性あり、しまり弱、木炭粉をA層より少なく含む
土坑埋土	C 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質植壤土 3% 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 2%	A、B層より少し硬く、しまり少々あり、木炭をB層より少なく含む

JH13竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 b 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR4/6 褐色シルト質植壤土 3%粒状 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 2%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 3%粒状	やや軟質、粘性あり、粉粒状構造、木炭粒塊5% 軟質、粘性あり、粉粒状構造 a層に木炭を多く含む竪穴埋土最下層と同一か
柱穴P2埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質植壤土 2%粉状	やや軟質、木炭微量、褐色土埋土で軽く立ち上がり底面は変走していない(aはc層か)
柱穴P3埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 b 10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 c 10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 1%粉状 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 3%粒状 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 3%粉状	やや軟質、粘性ややあり、木炭微量(c層が竪穴埋土最下層) 軟質、粘性あり 軟質、粘性あり
柱穴P4埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 2%粒状	軟質、粒状構造、粘性ややあり、木炭微量
柱穴P5埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 2%粒状	やや硬質、やや粘性あり、堆土粒微量
柱穴P6埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土	10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質植壤土 3%粉粒状	やや硬質、やや粘性あり、木炭微量
柱穴P7埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 5%粉状塊状 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 3%粉状	やや硬質、粘性ややあり、木炭微量、全体に混入した土層
柱穴P8埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 b 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 粉状 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 3%粉状	やや軟質、木炭5% やや軟質
柱穴P9埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 b 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 2%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 3%粉状 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 2%粉状	やや硬質、木炭多量 やや硬質
柱穴P10埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 3%粉状	やや硬質、木炭微量
柱穴P11埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 b 10YR4/6 褐色シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 2%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 7%粉状 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 1%粉状	やや硬質、木炭 やや硬質、土器、石岡炉
柱穴P12埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 b	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 1%	やや軟質、木炭多量
柱穴P13埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 1%含む	木炭2%
柱穴P14埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 b 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 c 10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 d	10YR4/6 褐色シルト質植壤土 2%粉状 10YR4/6 褐色シルト質植壤土 3% 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土 1%粉状	軟質、木炭粒塊5% 軟質、木炭微量、柱痕となるかもしれないが判断つかず、ダメオシで確認のこと やや硬質、しまりあり
柱穴P15埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質植壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質 1%粉状	軟質、攪乱である
柱穴P16埋土	a 10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 b 10YR4/6褐色	10YR4/6 褐色シルト質植壤土 1%粉状 10YR3/4 暗褐色植土 3%粉状	硬質、a層は床面構成土である、P-13より硬くしまりあり、 軟質、しまりなし、全体に粉粒状
焼土A	F 5YR4/8 赤褐色焼土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 3%粒状	硬質、上面凹凸あり、粒塊状の焼土の堆積原位置の焼土ではない、染み込み漸移層がない、焼土層(層厚2cm)
焼土B	F 5YR4/8 赤褐色焼土シルト質植壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壤土 2%粒状	やや硬質、粘性あり、しまりあり、最大径2cm

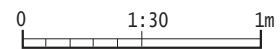
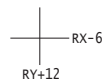
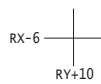
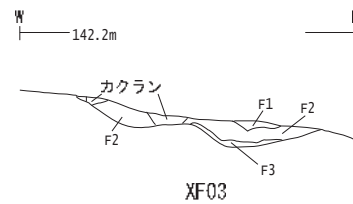
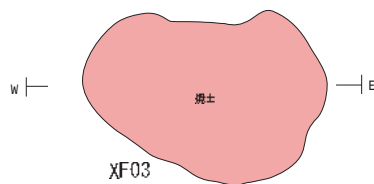
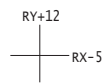
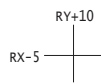
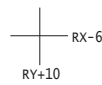
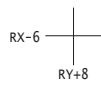
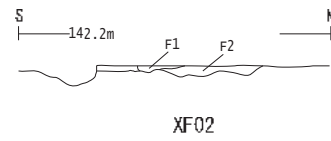
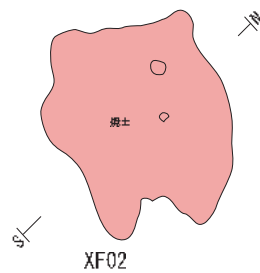
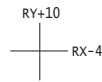
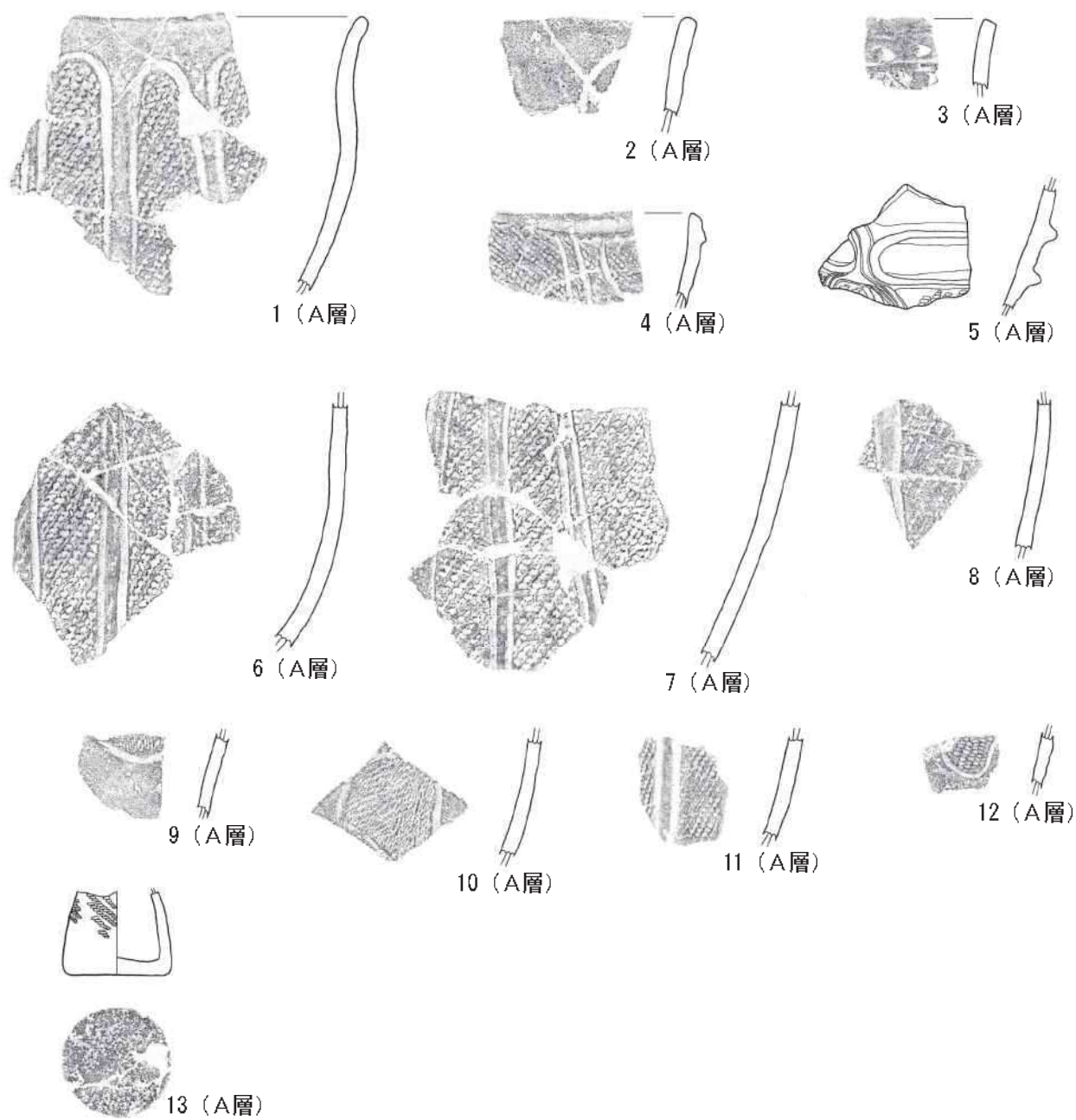


図49 XF02 XF03焼土平・断面

XF02 XF03焼土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
XF02	F1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	5YR4/8 赤褐色 2%焼土粒 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、粘性あり、木炭
	F2 5YR4/8 赤褐色焼土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、粘性あり、焼土(粉粒状構造)
XF03	F1 10R4/8 赤色シルト質壤土	2.5YR4/8 赤褐色焼土 5%粉状	やや硬質、しまりあり
	F2 2.5YR4/8 赤褐色焼土層	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	
	F3 10YR4/6 褐色シルト質壤土	2.5YR4/8 赤褐色焼土 5%塊状	ややしまりあり

〈埋土〉



〈床面〉



0 1:3 10cm

图50 JH13竖穴住居跡出土遺物 (1)

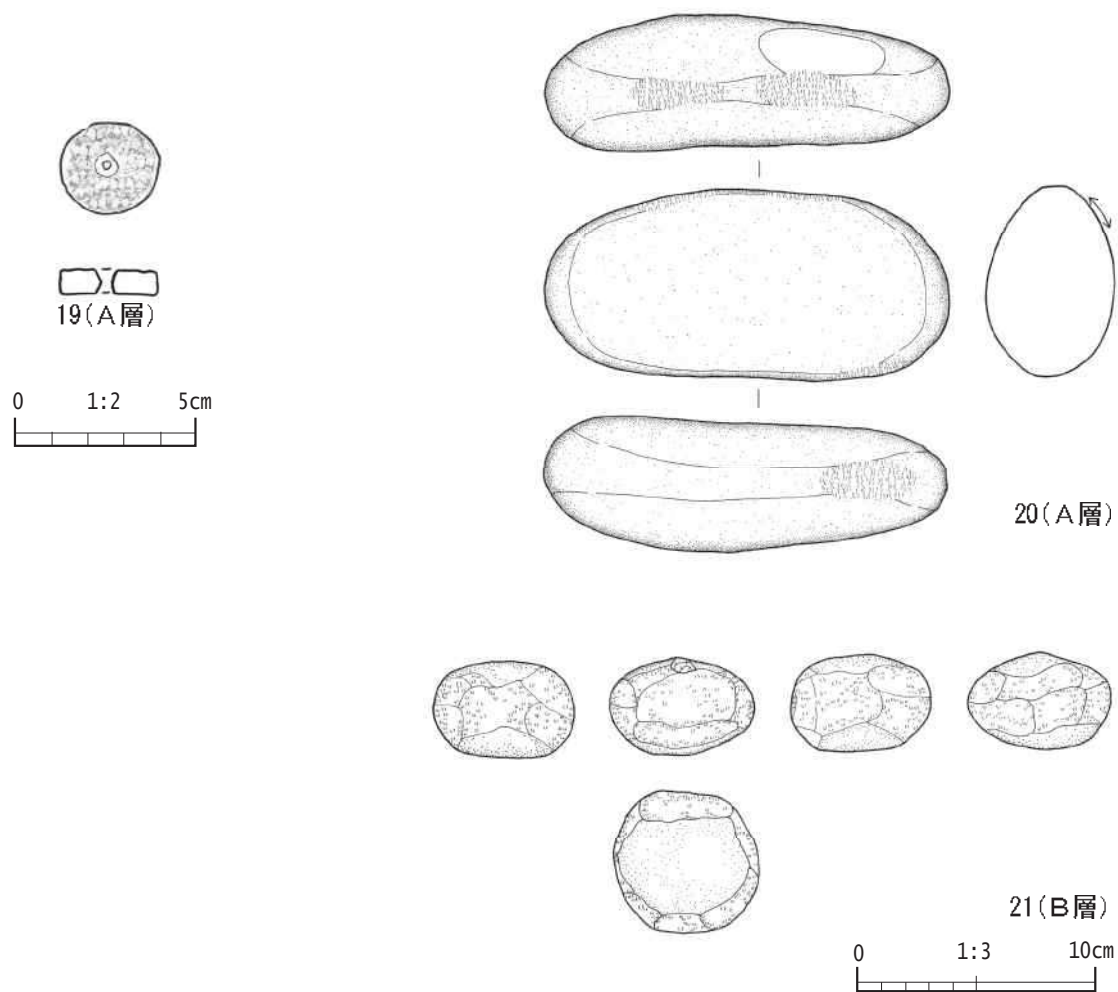


图51 JH13豎穴住居跡出土遺物 (2)

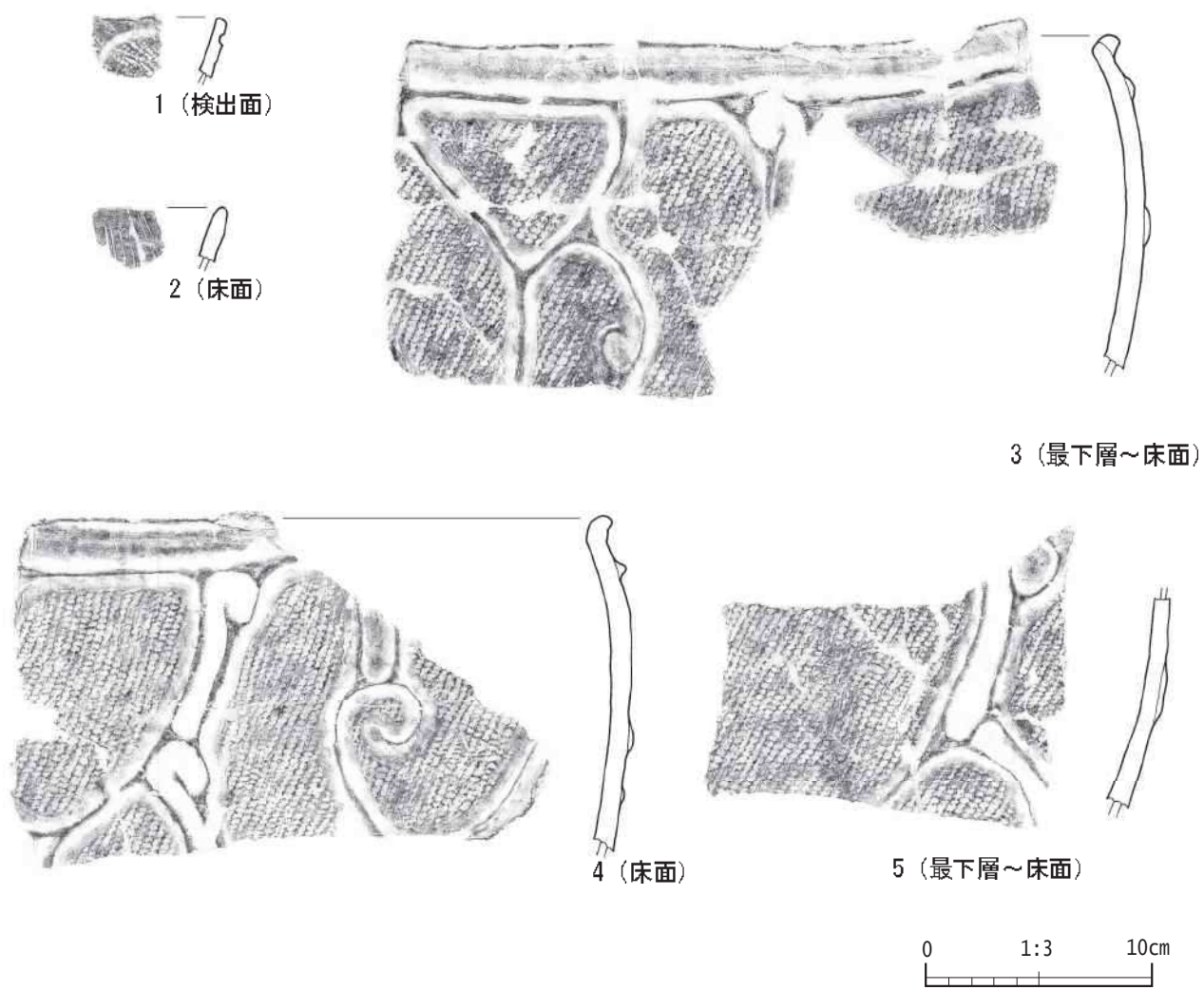


図52 JH30竪穴住居跡出土遺物

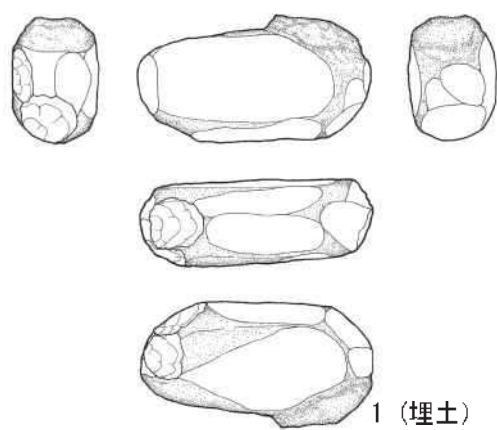


図53 JK03土坑跡出土遺物

J H 1 4 竪穴住居跡、J K 4、J K 0 5、J K 0 6、J K 0 7 土坑跡

J H 1 4 竪穴住居跡 (図54)

J H 1 3 の北に位置する。J K 0 4 に切られ、J H 3 5 を切る。

平面形は不整形円形である。規模は、南北4.0m、東西3.6mを測る。埋土は2層に分かれる。床面南東寄りに炉を設ける。床面から小土坑を3基検出している。周溝は出土していない。

炉跡 (図55)

方形の石囲炉である。北側に前庭部の石組が並ぶ複式炉である。規模は、南北1.0m、東西0.7mを測る。a層は焼土を含むが、下面は明瞭に焼けてはいない。

出土遺物 (図56、57)

1～14は縄文土器である。

＜検出面・埋土＞ 1は深鉢の口縁部である。斜縄文で施文される。2～4は体部片である。いずれも隆沈線で施文される。5～9は口縁部である。5は2本の平行沈線と縄文で施文される。6は隆線と縄文で施文される。7～8は斜縄文で施文される。10～14は体部片である。10、11は沈線による区画と充填縄文で施文され、12～14は隆沈線で施文される。

15、16は剥片石器の石鏃である。無茎石鏃である。17～19は礫石器である。17、18は砥石である。

時期は縄文時代中期に伴う。

J K 0 4 土坑跡 (図54)

J H 1 4 の中央に位置する。J H 1 4 を切る。平面形は円形である。規模は、径1.2m、深さ0.7mを測る。埋土は4層に分かれる。

出土遺物 (図57)

19は礫石器の砥石である。2面の磨面をもつ。

J K 0 5 土坑跡 (図54)

J H 1 4 の西に位置する。平面形は不整形円形である。規模は、南北1.8m、東西1.4m、深さ0.5mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

J K 0 6、J K 0 7 土坑跡 (図54)

J H 1 4 の南西に位置する。J K 0 7 はJ K 0 6 を切る。いずれもフラスコ形の土坑である。

J K 0 6 土坑跡 (図54)

平面形は円形である。規模は、口径0.9m、底径1.1m、深さ0.8mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

J K 0 7 土坑跡 (図58)

平面形は不整形円形である。規模は、口径0.8m、底径1.3m、深さ0.8mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物 (図58)

1～4は縄文土器である。1は斜縄文で施文される口縁部である。2は複合口縁で、斜縄文で施文される。3は沈線で無文、縄文を分ける。4は隆沈線を伴う。

5～7は礫石器である。5は砥石である。6は敲打磨石である。両側に調整磨面をもつ。7は表裏にくぼみをもつ凹石である。

J K 0 6、0 7 共に縄文時代中期に伴う。

X K 0 8 土坑跡 (図54)

J H 1 4 の南に位置する。平面形は不整形円形の浅い土坑である。規模は、径0.8m、深さ0.2mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

時期は不明である。

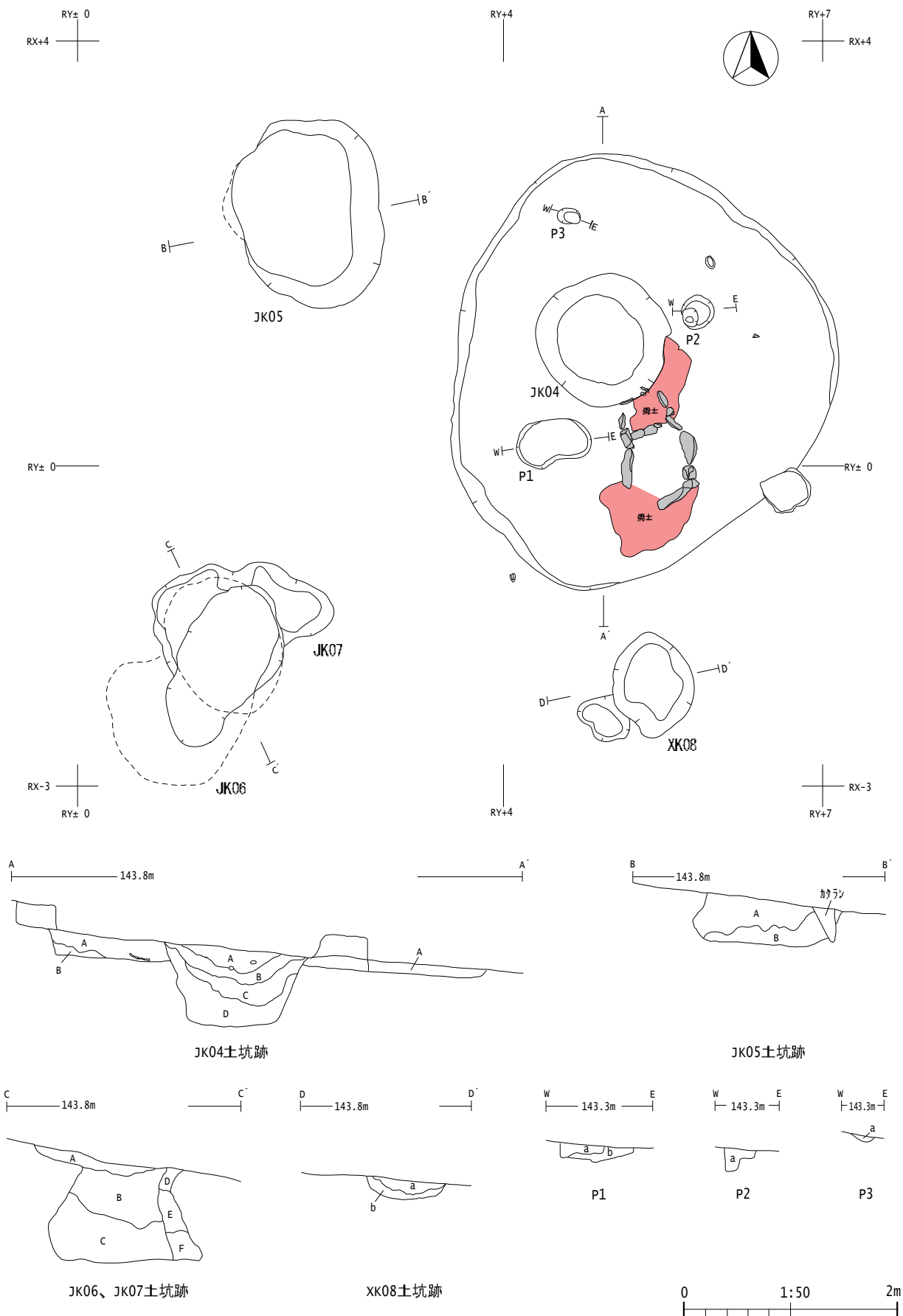


図54 JH14竪穴住居跡 JK04～JK07 XK08土坑跡平・断面

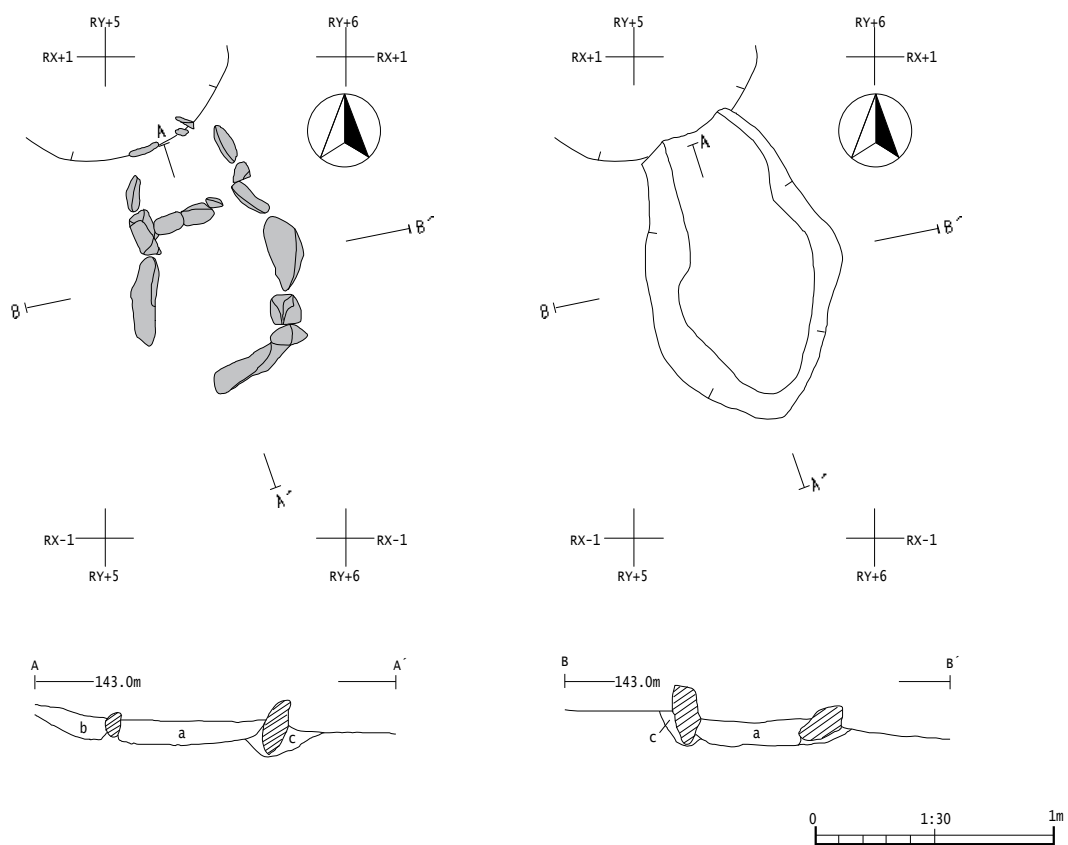


图55 JH14竖穴住居迹炉迹平·断面

JH14竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまり弱、土器、木炭
竪穴埋土	B 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 5%粉状 10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土 5%塊状	しまりなし

JH14竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり、やや粘性あり、木炭微量
	b 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 3%粉状	軟質、しまりやや弱、やや粘性あり、木炭3%
柱穴P2埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、ややしまりあり、木炭微量
柱穴P3埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3%	軟質、木炭

JK04土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR2/3 黒褐色壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 5%塊状 10YR4/6 褐色シルト質壤土 2%粉粒状	軟質、粘性ややあり、木炭粒微量、礫(径4~5cm)微量
土坑埋土	B 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%粉状	軟質、粘性ややあり、木炭粉微量
土坑埋土	C 10YR3/3 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 1%粉状	軟質、粘性ややあり
土坑埋土	D 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%塊状	軟質、粘性ややあり

JK05土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状 10YR4/4 褐色壤土 2%粉状	やや硬質、木炭粒微量、粘性少々あり
土坑埋土	B 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%層状(厚さ5~10mm)	硬質、粘性ややあり、木炭粉微量

JK06 JK07土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 注記なし		
土坑埋土	B 注記なし		
土坑埋土	C 注記なし		
土坑埋土	D 注記なし		
土坑埋土	E 注記なし		
土坑埋土	F 注記なし		

XK08土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 3%粉粒状 10YR4/4 褐色壤土 3%粉状	やや硬質、やや粘性あり、木炭粉微量
土坑埋土	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 7%塊状	硬質、粘性ややあり、土器少量、木炭粉微量

〈検出面、埋土〉



〈床面〉

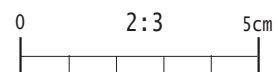
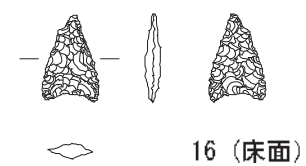
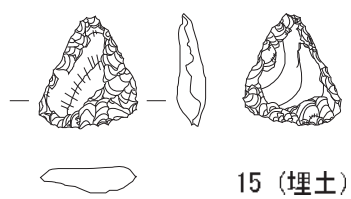
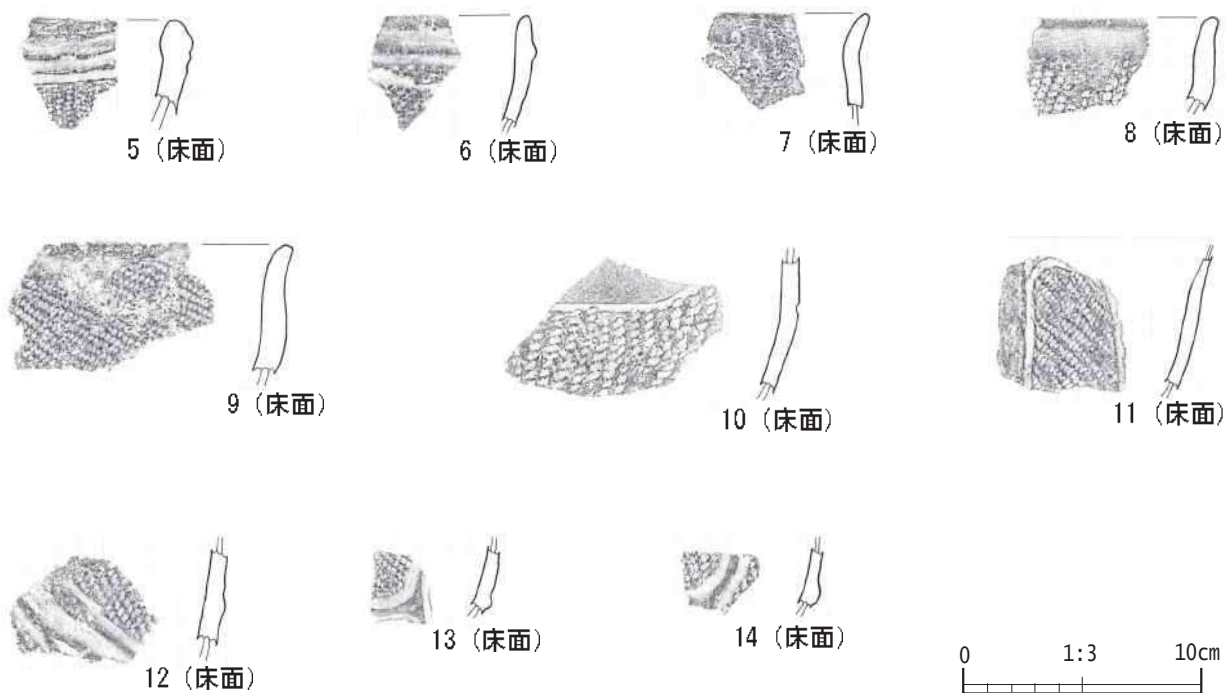


図56 JH14竪穴住居跡出土遺物(1)

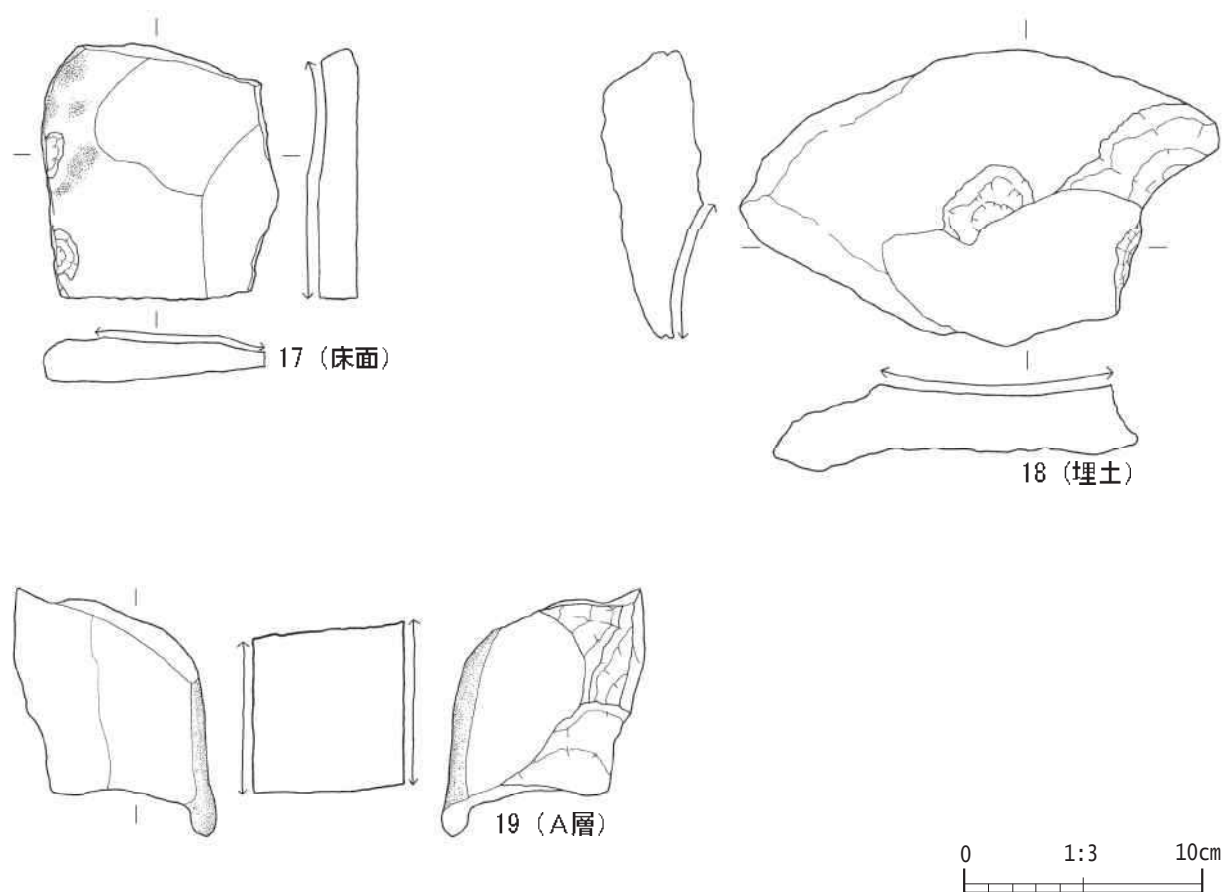


图57 JH14竖穴住居跡(2) JK04土坑跡出土遺物

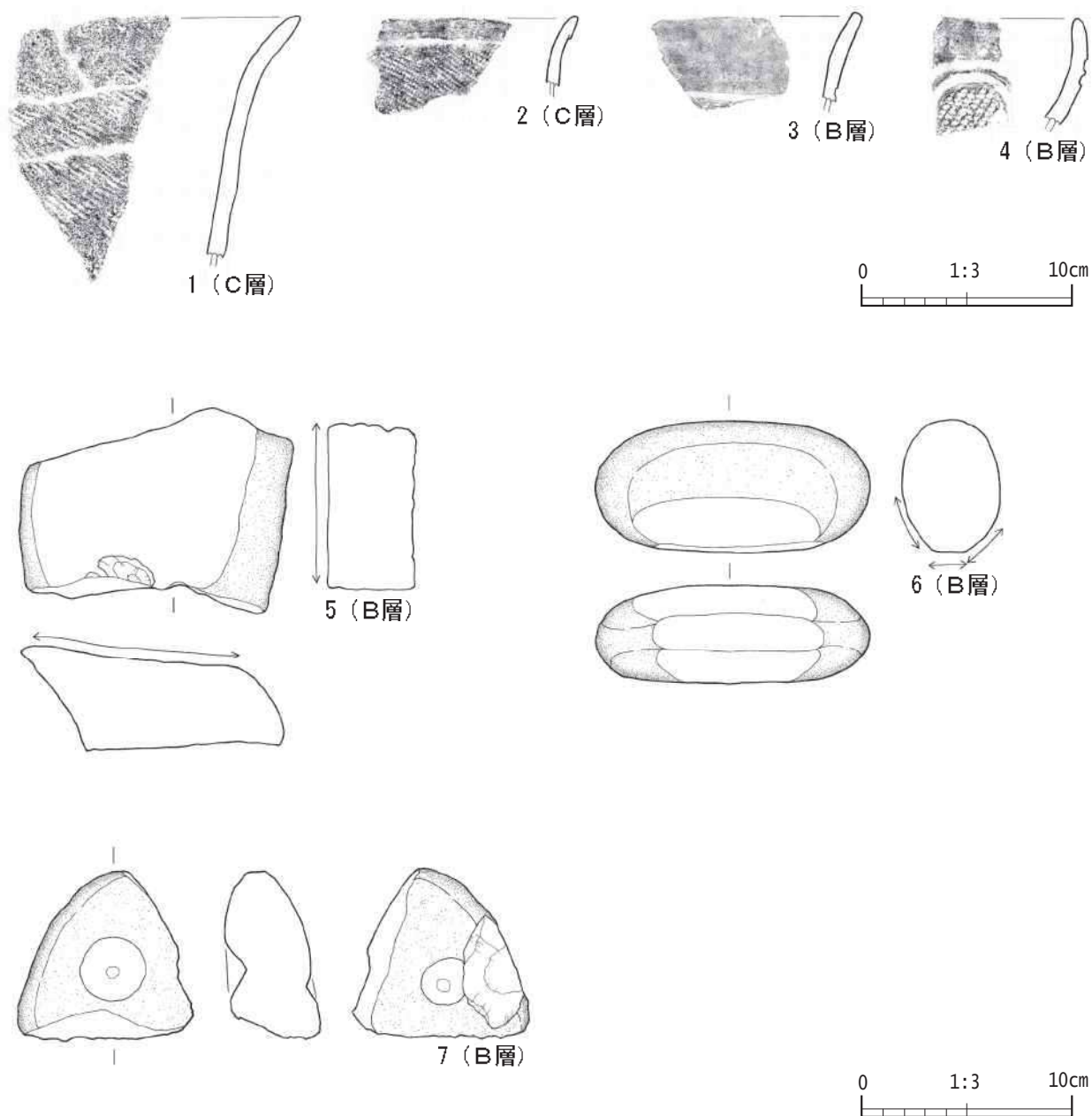


圖58 JK07土坑跡出土遺物

JH46 竪穴住居跡 (図59)

JH14と重複し、JH14とJK04に切られる。平面形は円形である。埋土は1層である。床面の南東端に炉を設ける。床面から小土坑跡4基検出している。周溝は出土していない。

炉跡 (図59)

方形の石囲炉である。規模は、南北1.0m、東西0.6mを測る。F層が焼土層である。方形の掘方を確認している。

出土遺物 (図60)

1～3は縄文土器である。深鉢の口縁部である。

1は沈線による区画と磨り消し縄文を伴う。2は隆沈線で施文される。3は斜縄文で施文される。

4～6は礫石器である。4、5は砥石である。6は打製石斧である。未調整部を残す。

時期は縄文時代中期に伴う。

JH46竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a1	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、粉状構造、木炭粉1%
	a2	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少、粉状構造木炭微量
柱穴P2埋土	a1	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土 5%粒状(径1~2cm)	やや軟質、土器、木炭微量
	a2	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまり弱、木炭(a1よりは少ない)
柱穴P3埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 15%	やや軟質、木炭粉1%
柱穴P4埋土	a1	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土 3%粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉1%
	a2	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土 7%粉状	木炭粉1%、石器(石斧小型)

JH46竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土	F1	5YR4/8 赤褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状	やや硬質、しまりあり、木炭粉微量
炉石構築土	K	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり

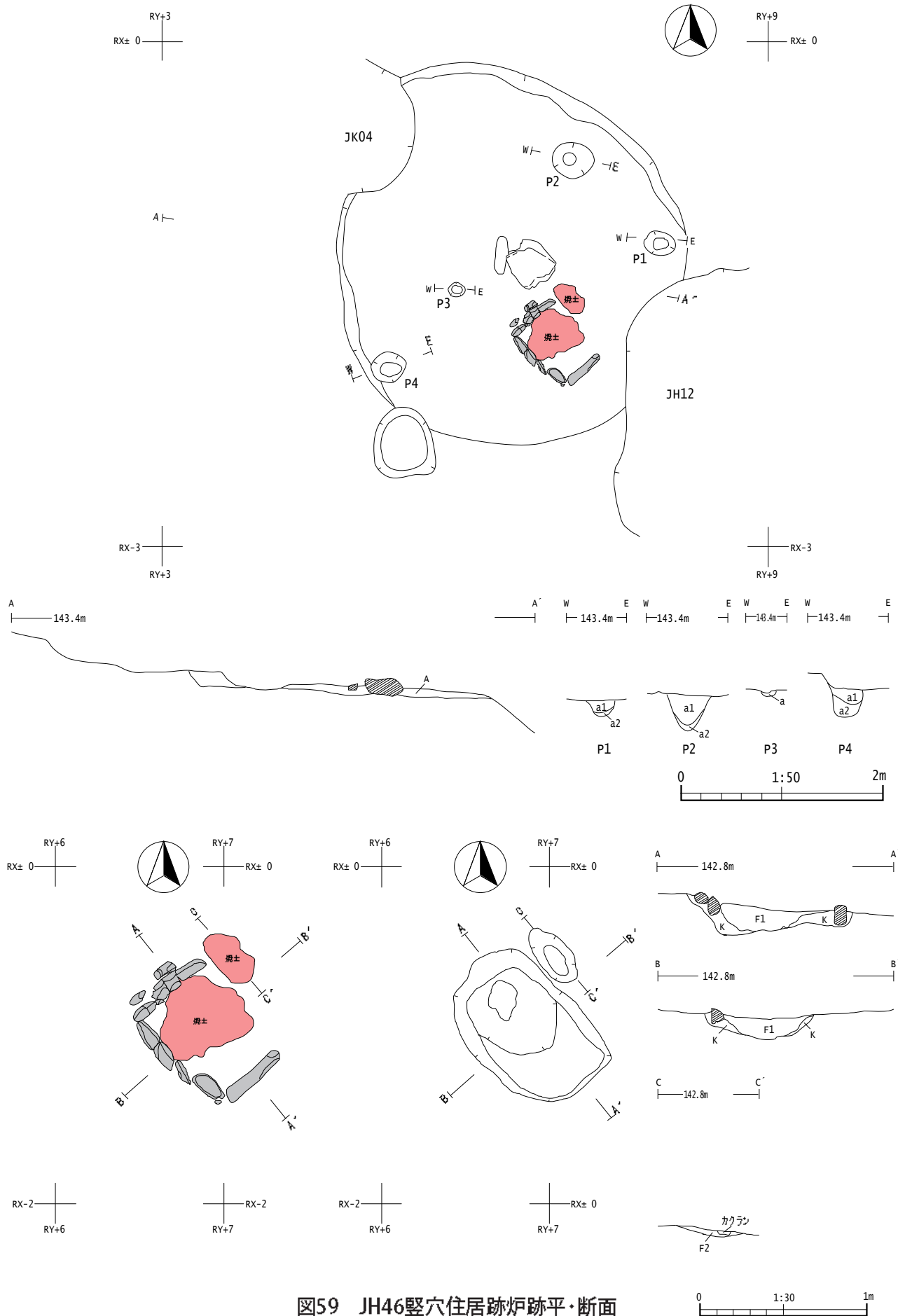


図59 JH46竪穴住居跡炉跡平・断面

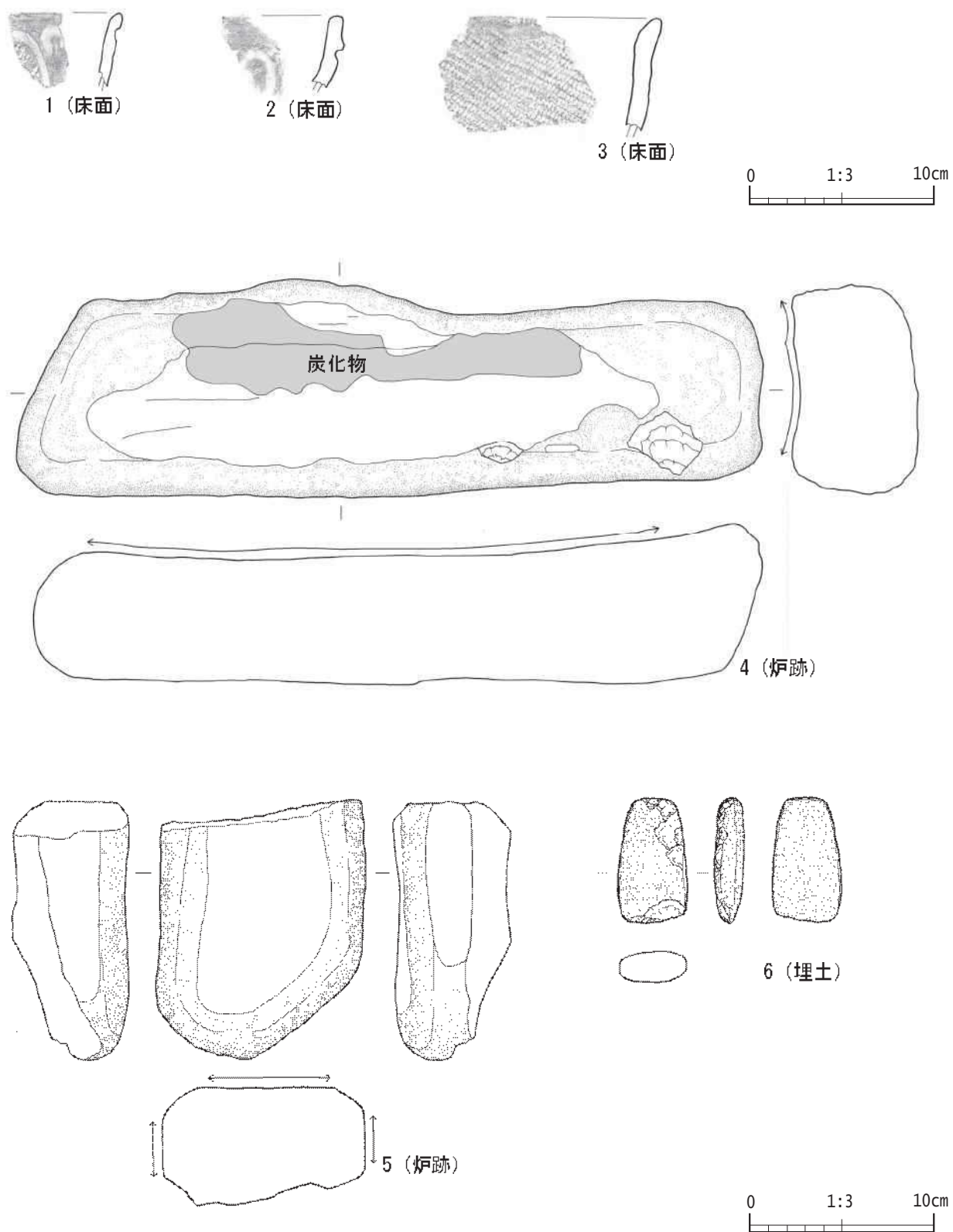


图60 JH35竖穴住居跡出土遺物

JH15、JH16 竪穴住居跡、JK08、JK09、XK10 土坑跡

JH13 の西に位置する竪穴住居跡、土坑跡である。

JH15 竪穴住居跡 (図61)

JH15 は JH16 と JK08 に切られる。平面形は楕円形と推測される。規模は、東西3.5mを測る。埋土は1層である。炉跡、柱穴、周溝などは検出していない。

出土遺物 (図62)

1 は縄文土器である。深鉢の底部で、底面に網代痕を残す。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

JK08 土坑跡 (図61)

平面形は円形である。規模は、径1.5m、深さ0.9mである。埋土は3層に分かれる。

出土遺物 (図62)

4 は縄文土器である。深鉢の底部である。底面は磨滅し不明瞭である。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

JH16 竪穴住居跡 (図61)

壁の北西部のみの検出である。平面形は円形と推測されるが、規模は不明である。埋土は1層である。床面から炉、柱穴などの遺構は検出していない。

出土遺物 (図62)

2 は縄文土器である。深鉢の頸部である。沈線により区画され、下半が斜縄文で施文される。

3 は剥片石器である。凹基の石鏃である。

時期は縄文時代中期に伴う。

XK10 土坑跡 (図61)

JH16 の東に位置する。平面形は円形である。規模は、径70cm、深さ10cmを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

時期は不明である。

XK09 土坑跡 (図61)

XK10 の東に位置する。平面形は円形である。底面は傾斜し、平坦ではない。規模は、径1.4m、深さは最深部0.4mである。埋土は1層である。

出土遺物 (図62)

5 は縄文土器である。深鉢の口縁部である。波状の複合口縁である。斜縄文で施文される。

時期は、縄文時代中期に伴う。

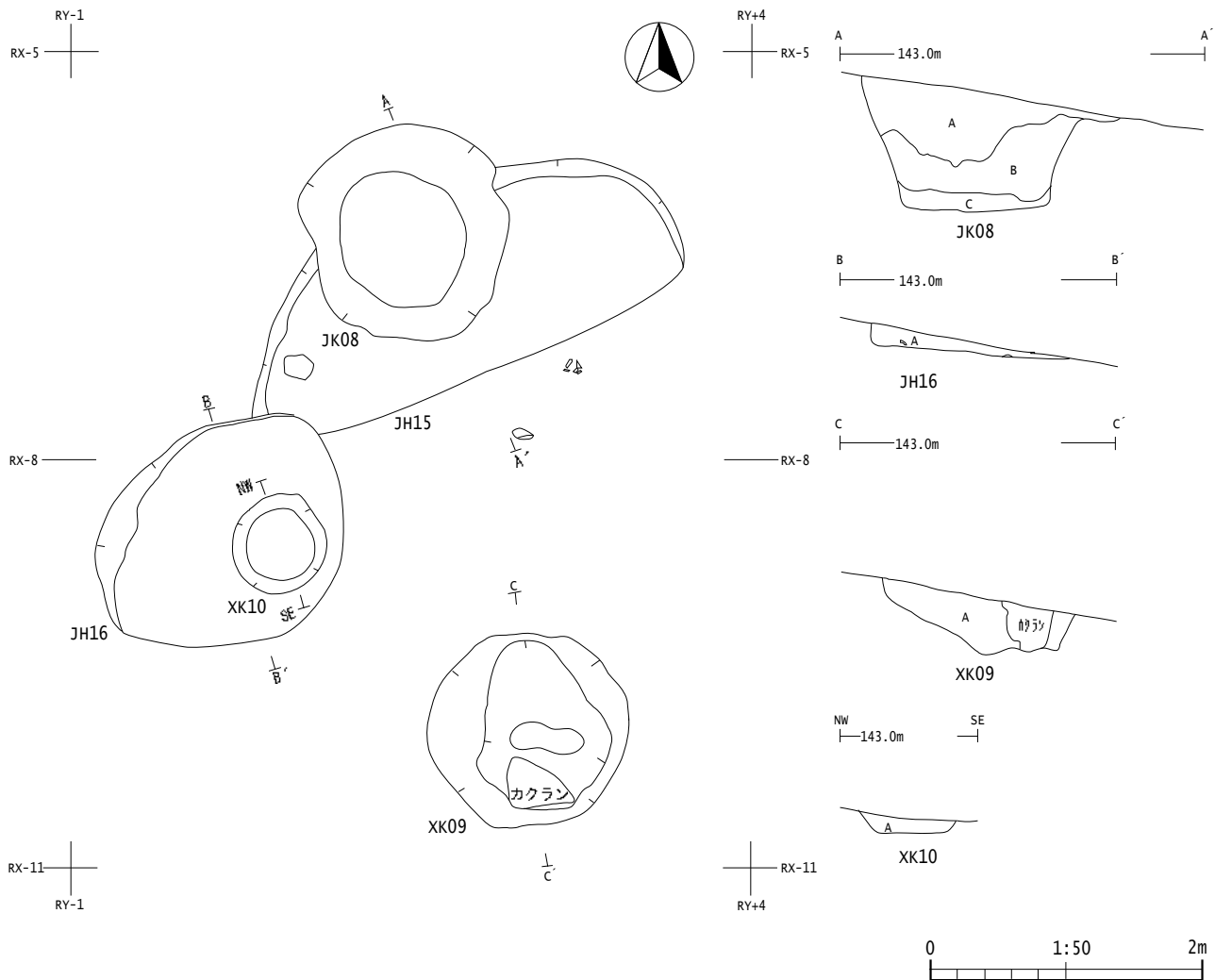


図61 JH15 JH16竪穴住居跡 JK08 XK09 XK10土坑跡平・断面

JK08土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土 A	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、粘性ややあり、粉状構造
土坑埋土 B	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%塊状	やや軟質
土坑埋土 C	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 2%粒状	やや軟質、しまりややあり

JH16竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土 A	10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、粘性少々あり、土器少量、木炭粉

XK09土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土 A	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%粉状	軟質、粘性あり

XK10土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土 A	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR4/6 褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまり弱

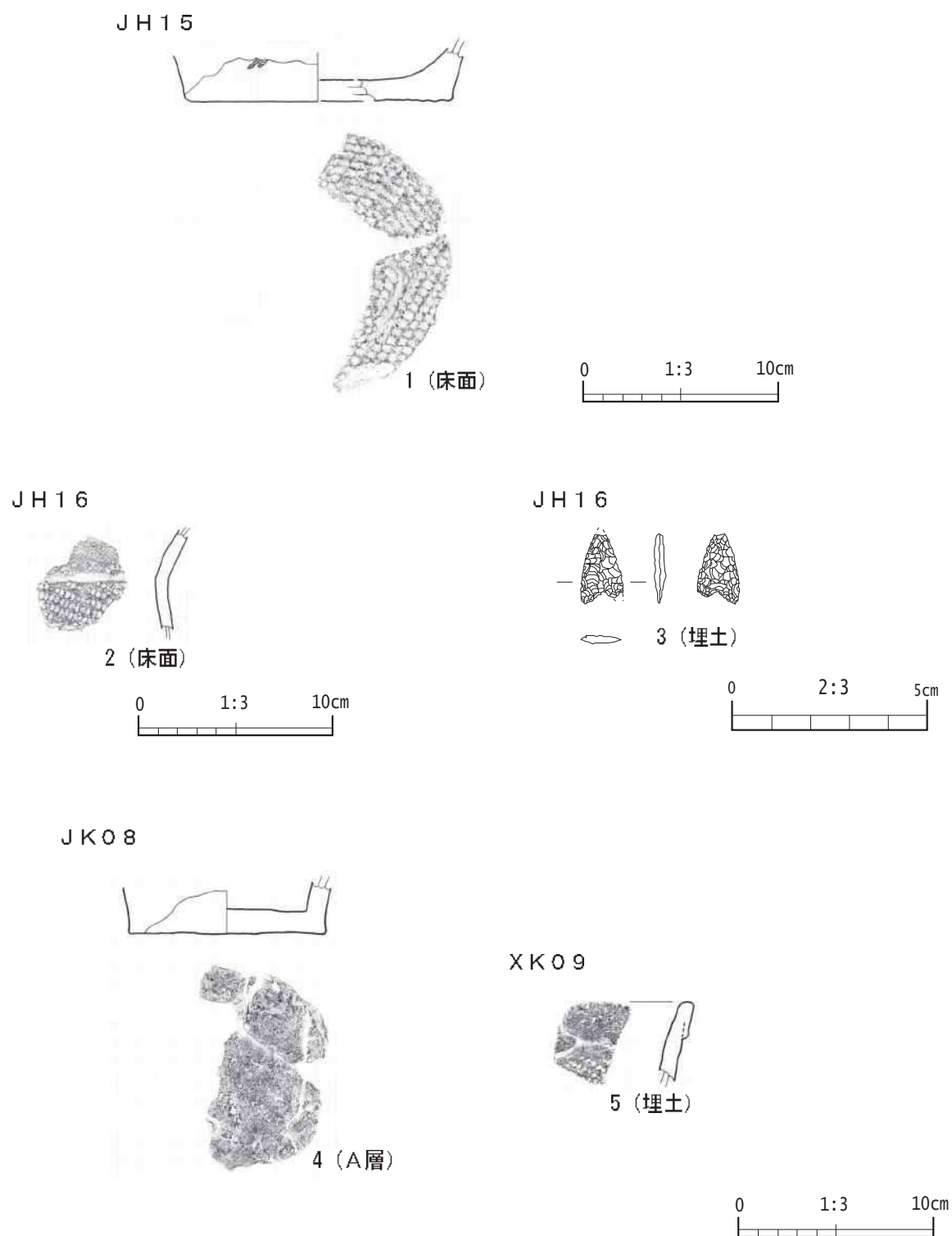


圖62 JH15 JH16豎穴住居跡 JK08 XK09土坑跡出土遺物

JH17 竪穴住居跡、XF04 焼土、XK11、XK12 土坑跡

JH15 の北西に位置する竪穴住居跡、土坑跡である。

JH17 竪穴住居跡 (図63)

平面形は楕円形と推測する。規模は、東西3.0mである。埋土は2層に分かれる。

炉、柱穴、周溝等の遺構は検出していない。

出土遺物 (図65)

1～8は縄文土器である。深鉢の口縁部 (2～4)、体部片 (1、5～8) である。いずれも隆沈線で渦文が施される。

9は礫石器である。2面の磨面をもつ砥石である。

時期は、縄文時代中期に伴う。

XF04 焼土 (図64)

JH17 の南に位置する。平面形は不整形である。規模は、径30cmである。F層がやや硬く焼き締まった焼土層である。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

XK12 土坑跡 (図63)

JH17 の東に位置する。平面形は円形である。底面は東側がやや深く掘り込まれている。規模は、径1.0m、深さは、最深部で20cmである。埋土は1層である。遺物は出土していない。

時期は不明である。

XK11 土坑跡 (図63)

XK12 の南東に位置する。平面形は円形である。規模は、径60cm、深さ10cmである。埋土は1層である。遺物は出土していない。

時期は不明である。

JH17竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 5%粉状	やや軟質、粘性少々あり、粉状構造
竪穴埋土	B1 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR2/3 黒褐色壤土 3%粉状 10YR4/6 褐色壤土 粉状	やや軟質、粘性少々あり
竪穴埋土	B2 10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土(焼土) 10%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状	やや軟質、粘性少々あり、焼土混入

XF04焼土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土埋土	F 2.5YR4/8 赤褐色焼土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉粒状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、ややしまりあり
焼土埋土	G 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 5%粉状 2.5YR4/8 赤褐色 1%粒状	やや硬質、しまりあり、木炭粉1%

XK11土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、粘性少々あり、木炭微量

XK12土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、粘性少々あり

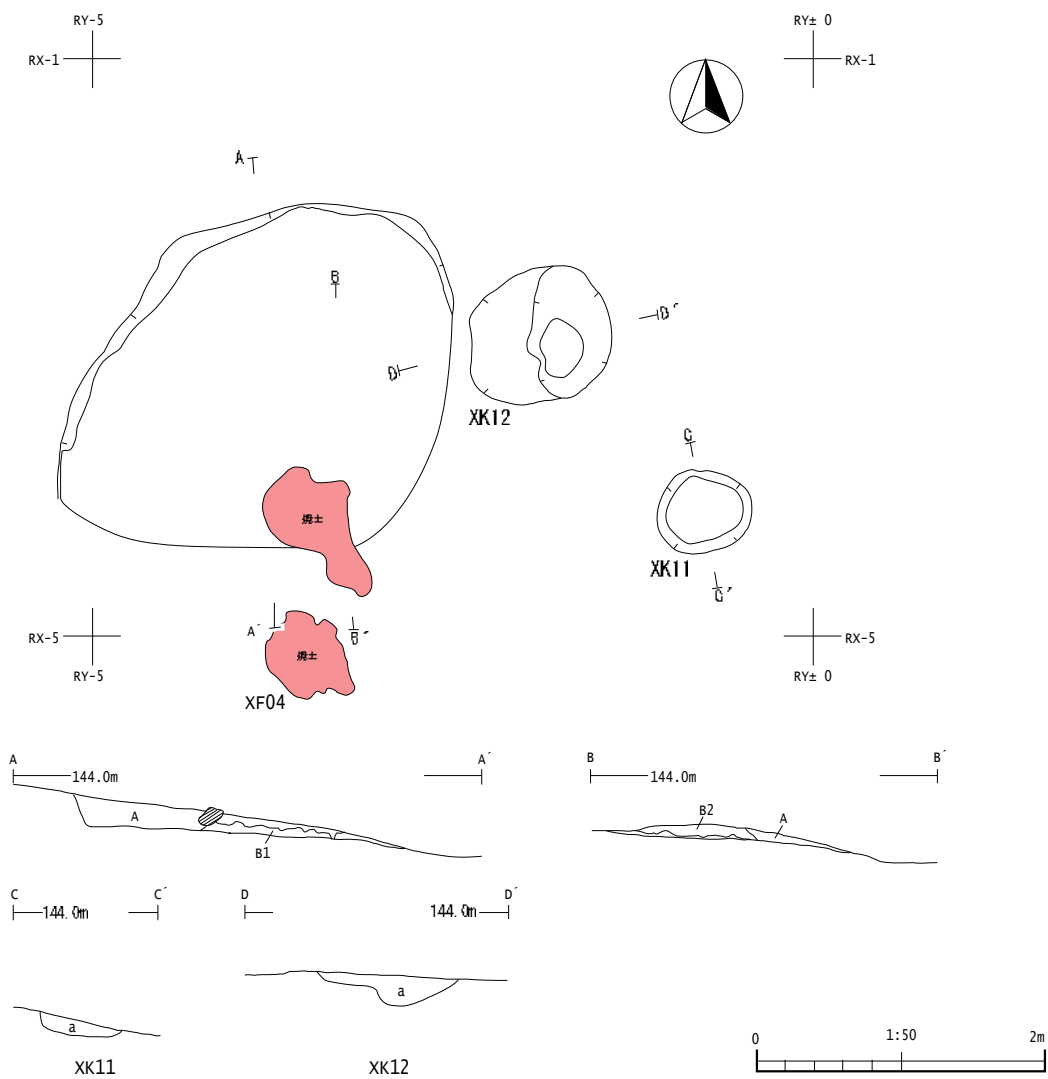


图63 JH17竖穴住居跡 XK11 XK12土坑跡平·断面

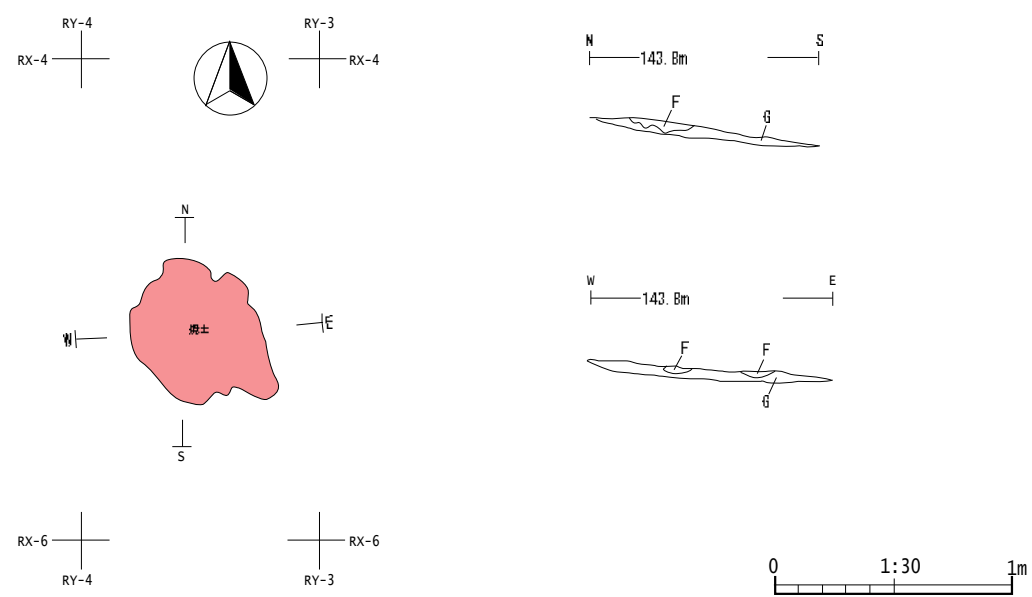
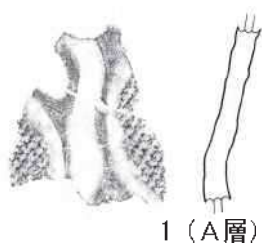


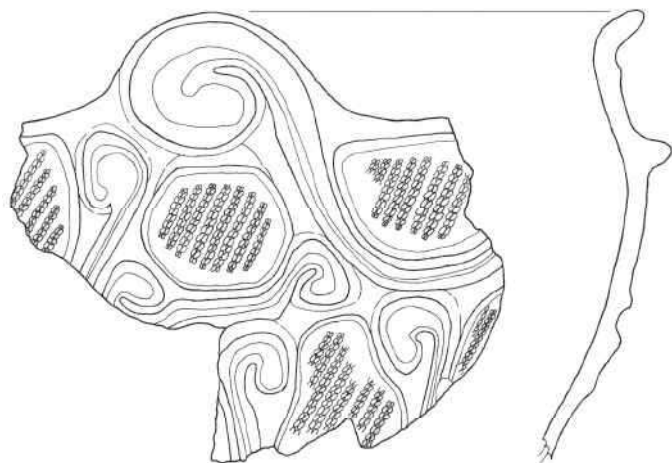
图64 XF04燒土平·断面

〈埋土〉

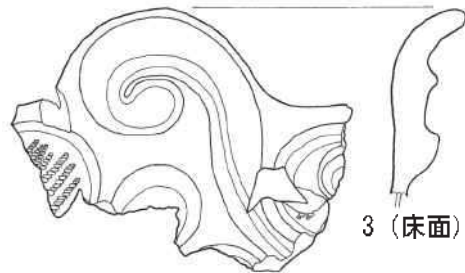


1 (A層)

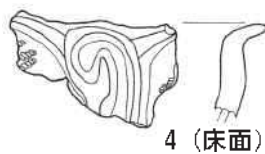
〈床面〉



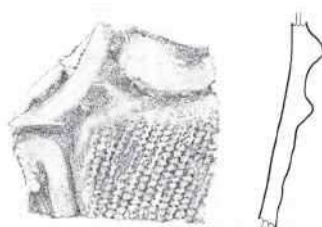
2 (床面)



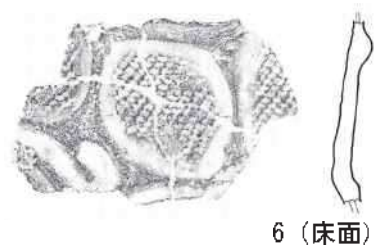
3 (床面)



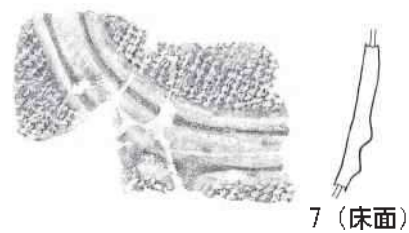
4 (床面)



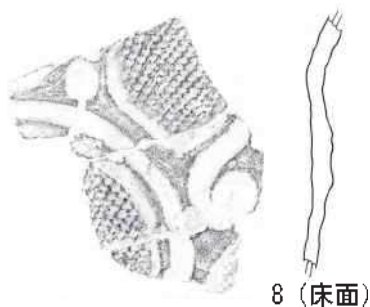
5 (床面)



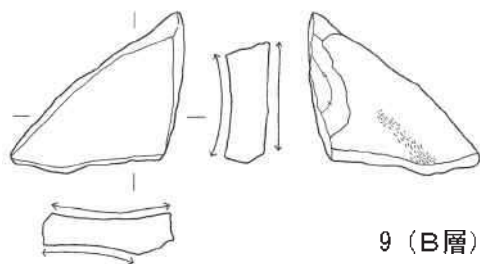
6 (床面)



7 (床面)



8 (床面)



9 (B層)

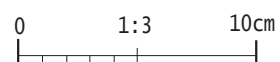


图65 JH17竖穴住居跡出土遺物

J H 1 8 竪穴住居跡、J F 0 2 炉跡

J H 1 8 竪穴住居跡 (図66)

J H 1 7 の北西に位置する。平面形は楕円形である。規模は南北5.1m、東西4.2mを測る。埋土は3層に分かれる。床面南東寄りに炉を設ける。床面周縁で小土坑6基を検出している。周溝は出土していない。

炉跡 (図67)

方形の石囲炉である。規模は、南北90cm、東西70cmである。F層が固く焼き締まった焼土層である。隅丸方形の掘方を確認している。

出土遺物 (図69～72)

1から34は縄文土器である。

＜埋土＞ 1は小型の鉢である。沈線で区画し、縄文を施す。さらに把手状の突起を体部に付ける。2～8は口縁部である。2～4は沈線で区画し、縄文を施す。5、6は隆沈線で施文する。7、8は斜縄文で施文される。9～22は体部片である。9～14は沈線による区画と縄文で施文される。15は結節縄文で施文され、無文帯をもつ。10～21は隆沈線と縄文で施文される。22は撚糸文で施文される。23は底部である。底部に木葉痕を残す。

＜床面＞ 24は隆沈線で施文された口縁部である。25～34は体部片である。25、28は沈線による区画と縄文で施文される。29～34は隆沈線と縄文で施文される。

35～43は剥片石器である。35～30は石鏃である。35は平基、36～38は凹基である。

39、40は石匙である。41～43は不定形石器である。41、42は側縁に凸刃を作り、43は凹刃を調整する。

44～48は礫石器である。44～47は砥石である。48は磨石である。

時期は縄文時代中期に伴う。

J K 0 9 土坑跡 (図66)

J H 1 8 の南西に位置する小土坑跡である。平面形は円形である。規模は、径35cm、深さ25cmを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

時期は不明である。

J F 0 2 炉跡 (図68)

J H 1 8 の北に位置する。方形の石囲炉である。規模は、南北60cm、東西60cmを測る。c層が焼土を含む層であるが、軟質で、焼き締まってはいない。

出土遺物 (図72)

49、50は縄文土器である。49は沈線による区画と円形刺突列を伴う。50は撚糸文を施す。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

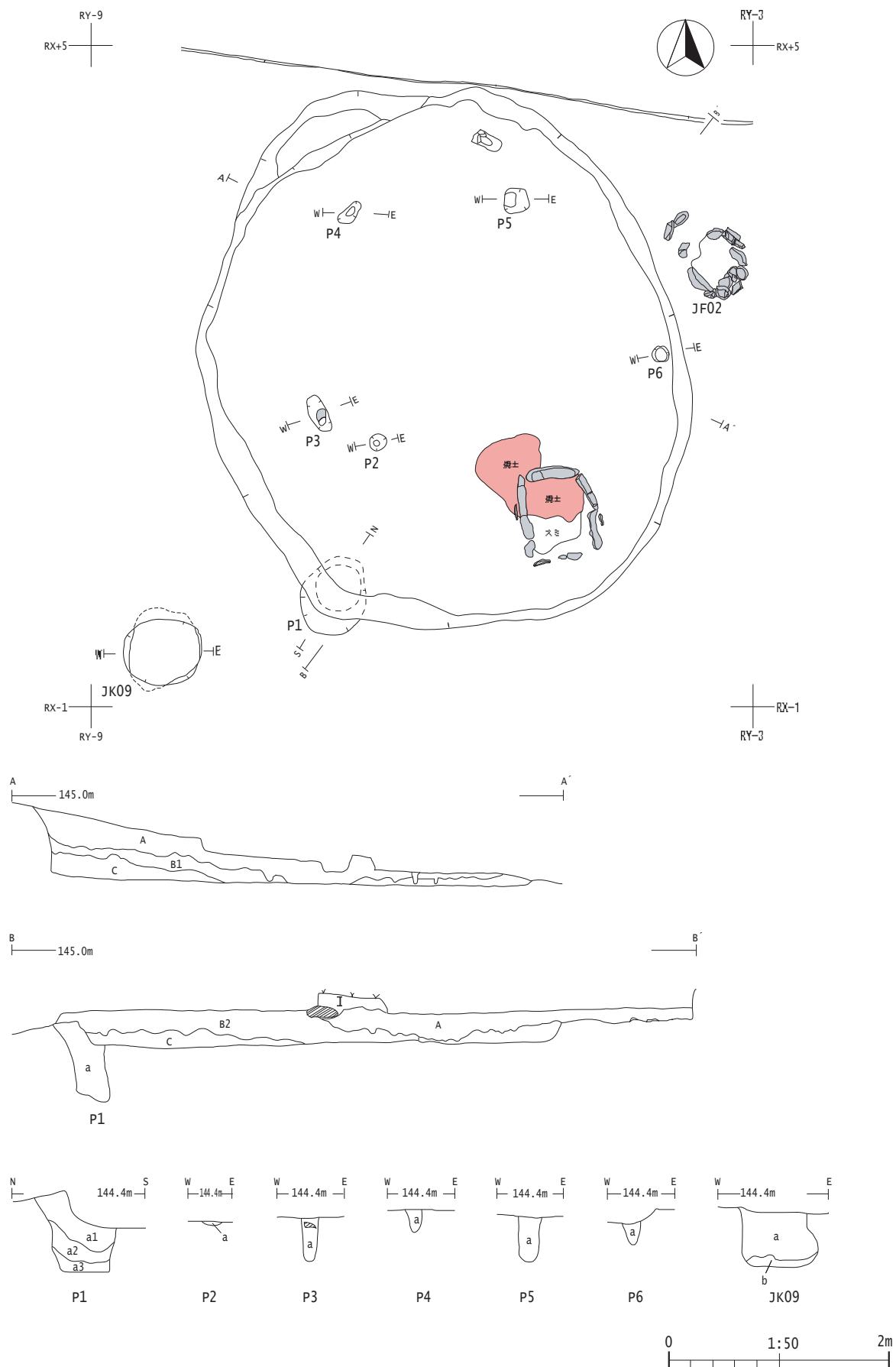


图66 JH18竖穴住居跡平・断面

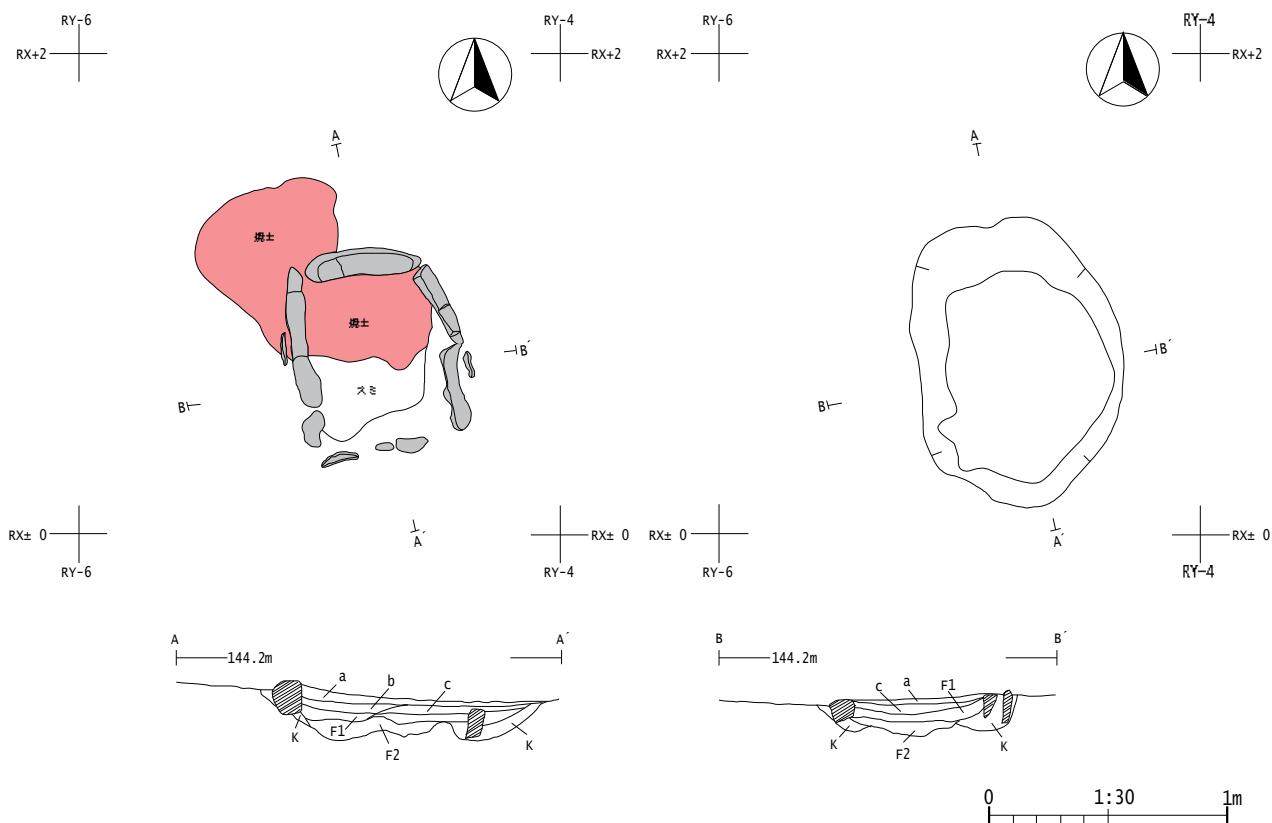


図67 JH18竪穴住居跡炉跡平・断面

JH18竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、木炭微量
炉跡埋土	F1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状 5YR4/8 赤褐色壤土 3%粉状	軟質、しまり弱、木炭3%
炉跡焼土	F2	5YR4/8 赤褐色焼土		硬質、しまりあり
構築土	K	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粒状	やや硬質、ややしまりあり

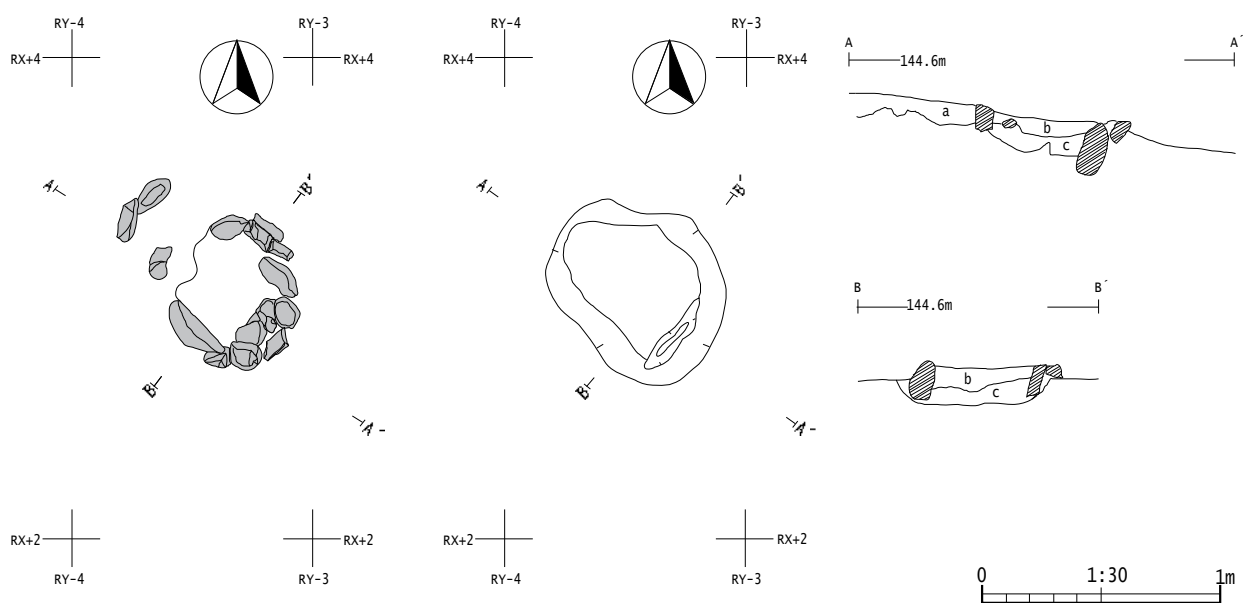


図68 JF02炉跡平・断面

JF02炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、
炉跡埋土	b	10YR3/4 暗褐色壤土	5YR4/8 赤褐色焼土粉 極少量含む 10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	軟質、木炭粉微量
炉跡埋土	c	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭1%

JH18竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色 5%粉粒状	軟質、しまり弱、粘性少々あり、木炭3%
竪穴埋土	B 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 5%塊状	全体的にやや硬質、しまりあり、黄褐色硬塊状(こぶし大)で流入しており、塊状構造
竪穴埋土	B 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 3%粉状 10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、B 1層とは異なり塊状の混入は無く木炭を少量含んでいる、B 1層よりは軟質である
竪穴埋土	C	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 3%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	B 1層よりは軟質であるが基本土が全体的に粒状(径1~3cm)である、底面はかなり固くしまっており明確に識別できる、木炭粉微量

JH18竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、土器、木炭粉
	a 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉2%
	a 3	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粒状	やや硬質、木炭粉5%
柱穴P2埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、木炭
柱穴P3埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%	軟質、粘性強い
柱穴P4埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状	軟質、粘性ややあり、木炭粉
柱穴P5埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	軟質、粘性あり、木炭粉
柱穴P6埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	軟質、木炭粉

JK09土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 3%粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、木炭粒(径3~10mm)5%
土坑埋土	b	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 2%粉状 10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、木炭粒を3%、土器

〈埋土〉

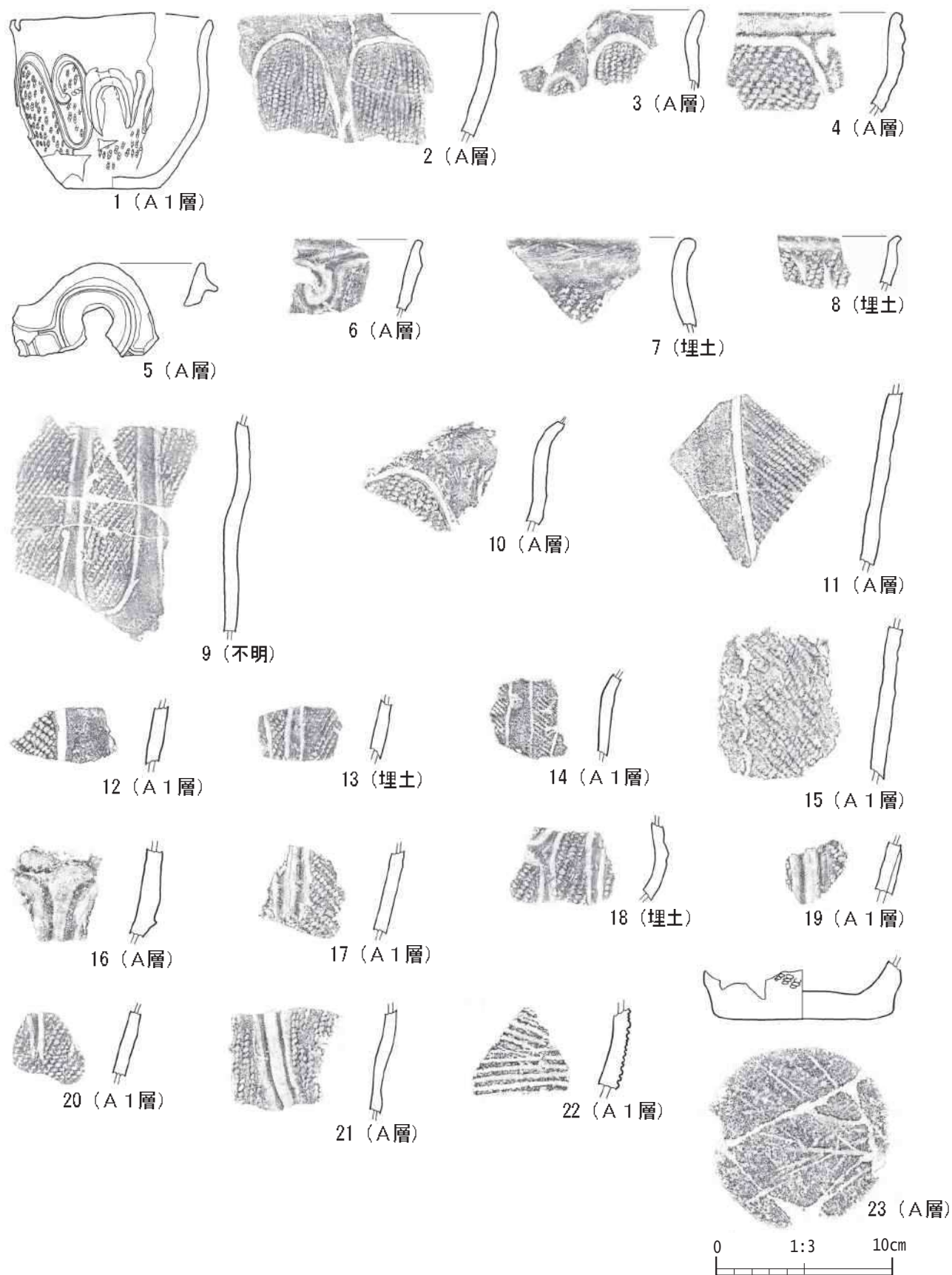


図69 JH18竪穴住居跡出土遺物 (1)

〈床面〉

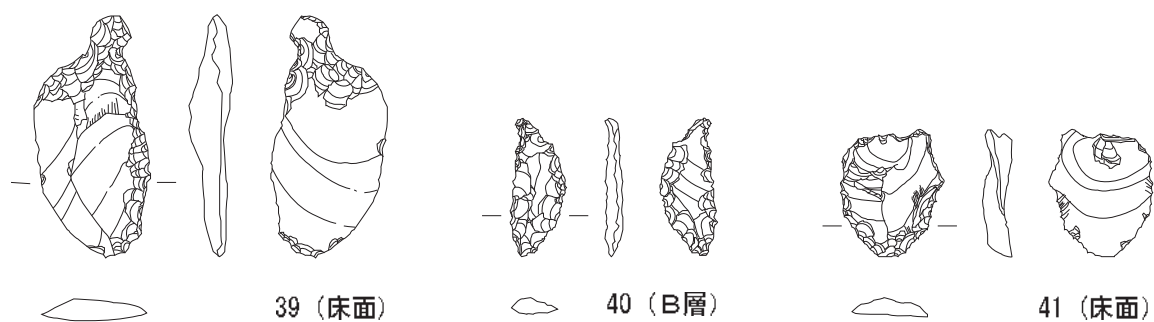
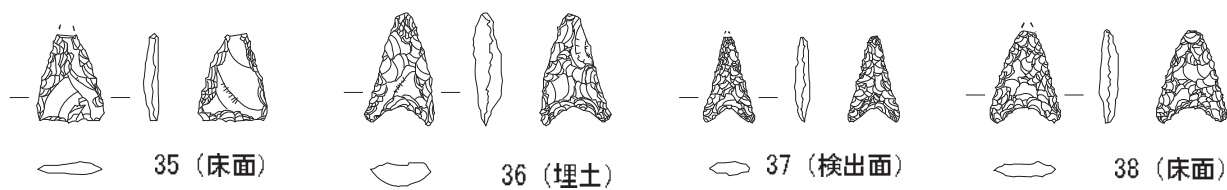
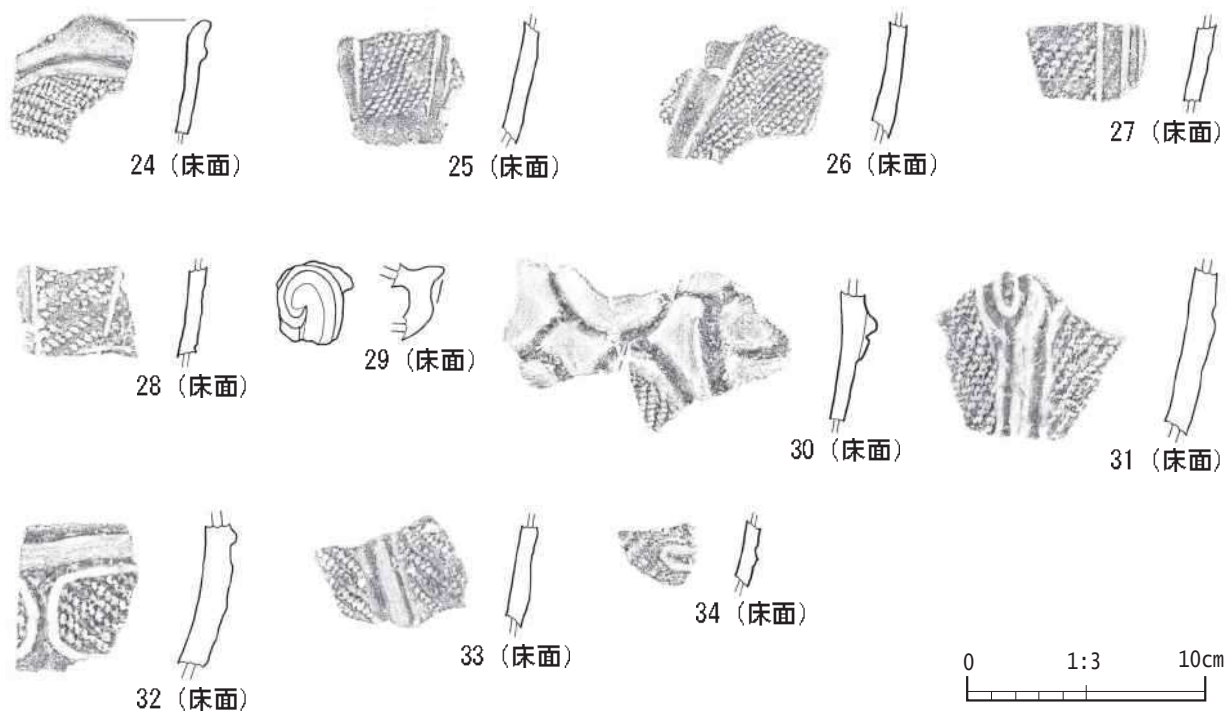


図70 JH18竪穴住居跡出土遺物(2)

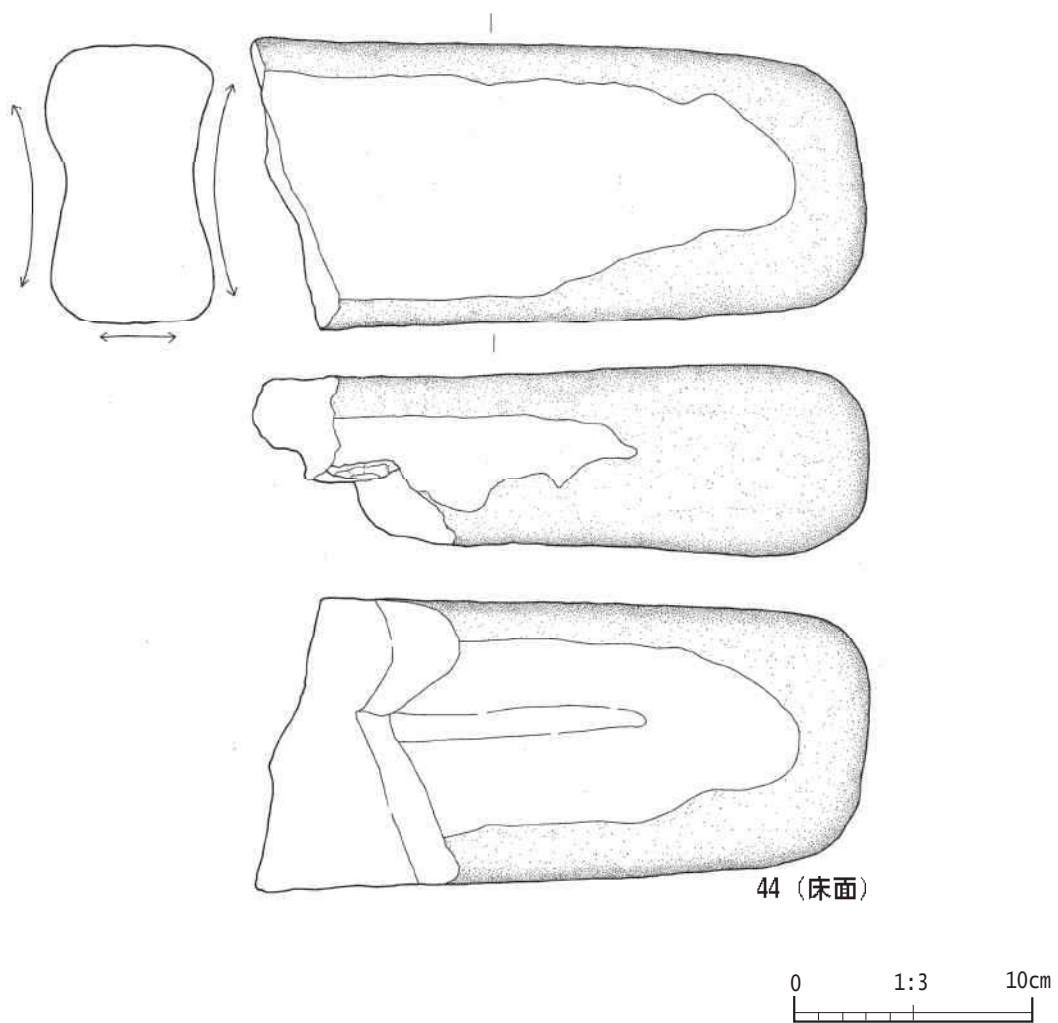
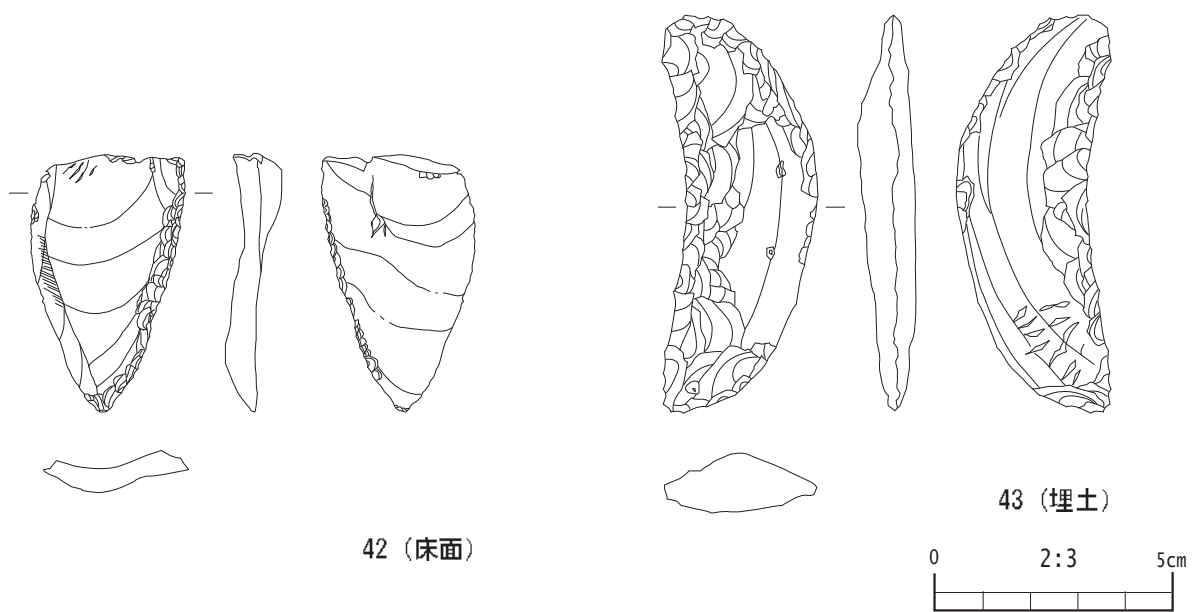


图71 JH18豎穴住居跡出土遺物 (3)

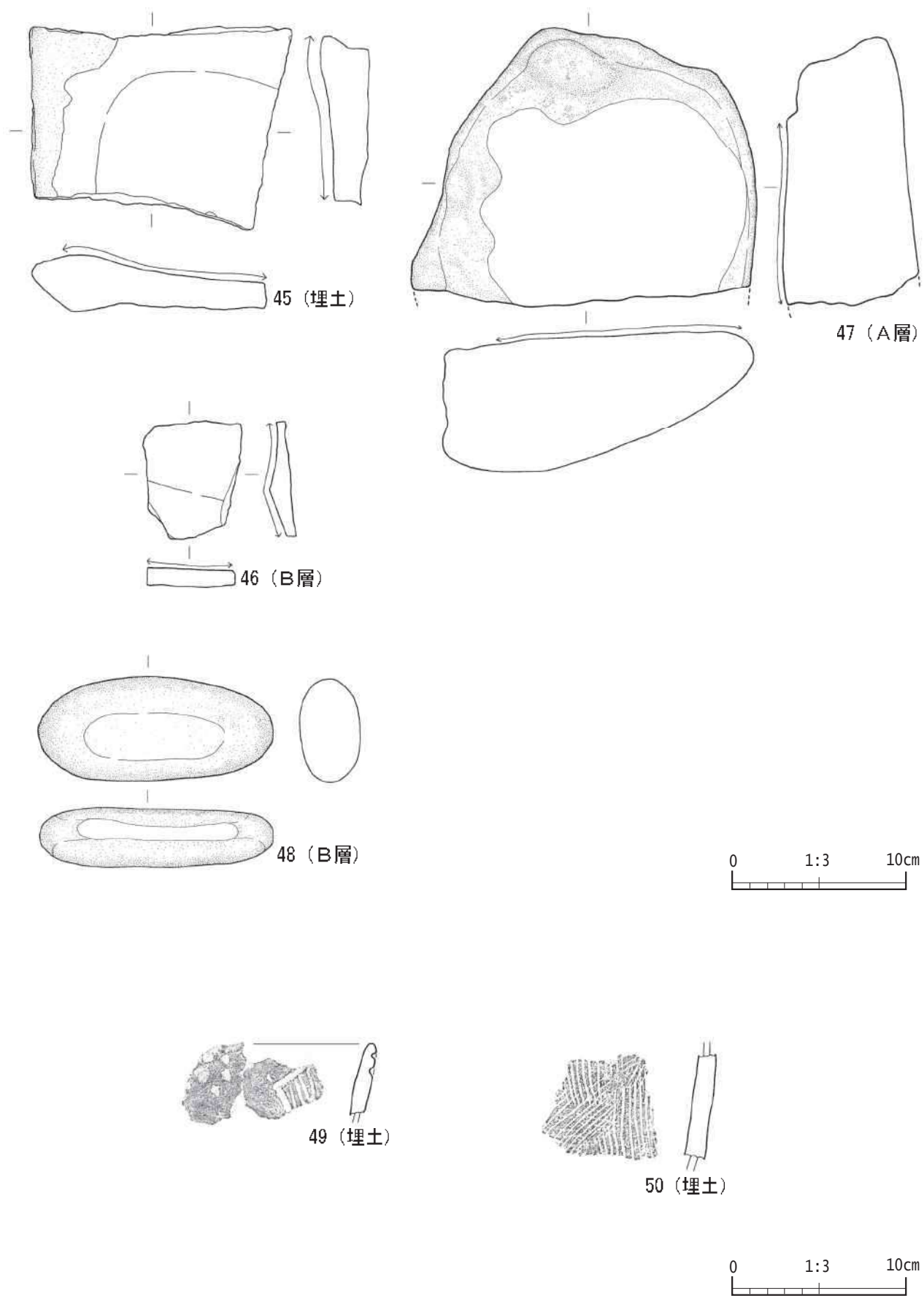


图72 JH18竖穴住居跡出土遺物(4)

J H 1 9 竪穴住居跡、J K 1 0、J K 1 1、J K 1 2 土坑跡

J H 1 9 竪穴住居跡 (図73)

J H 1 8 の西に位置する。後述する J H 2 9 と重複し、J H 2 9 を切る。平面形は隅丸方形と推測する。規模は、南北2.8m、東西3.5mを測る。埋土は2層に大別される。炉を床面中央に設ける。柱穴跡、周溝は検出していない。

炉跡 (図74)

正方形に近い石囲炉である。規模は、60cm×60cmを測る。F 1 層がやや軟質な焼土層である。方形の掘方、炉石の据跡を確認している。

出土遺物 (図76、77)

1～6は縄文土器である。1は沈線で区画し、縄文を施文する口縁部である。2～4は体部片である。2は沈線で区画し、縄文を施文する。3は隆線で施文する。4は斜縄文で施文される。5は刺突列で施文された口縁部である。6は沈線で区画し、縄文で施文する体部片である。

7～9は礫石器である。7、8は砥石である。8は磨面に細長いくぼみを残す。9は石製品の石皿である。裏面に脚部が残る。

時期は、縄文時代中期に伴う。

J K 1 0 土坑跡 (図73)

J H 1 9 の北に位置する。平面形は楕円形である。規模は、南北1.5m、東西1.1mを測る。埋土は2層に分かれる。

出土遺物 (図78)

1は深鉢の体部片である。沈線で区画し、縄文を施文する。

時期は、縄文時代中期に伴う。

J K 1 1 土坑跡 (図73、75)

J K 1 0 の西に位置する。平面形は不整円形である。規模は、径1.3m、深さ0.2mを測る。埋土は1層である。床面で埋甕を検出する。埋められた深鉢は細かく碎け、復元できなかったが、斜縄文のみで施文された土器であることは確認している。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

J K 1 2 土坑跡 (図73)

J H 1 9 の西に位置するフラスコ形の土坑である。平面形は楕円形である。規模は、口径1.1m×1.3m、底径1.8m×1.6m、深さ0.8mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物 (図78)

2は剥片石器である。石匙の下半部である。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

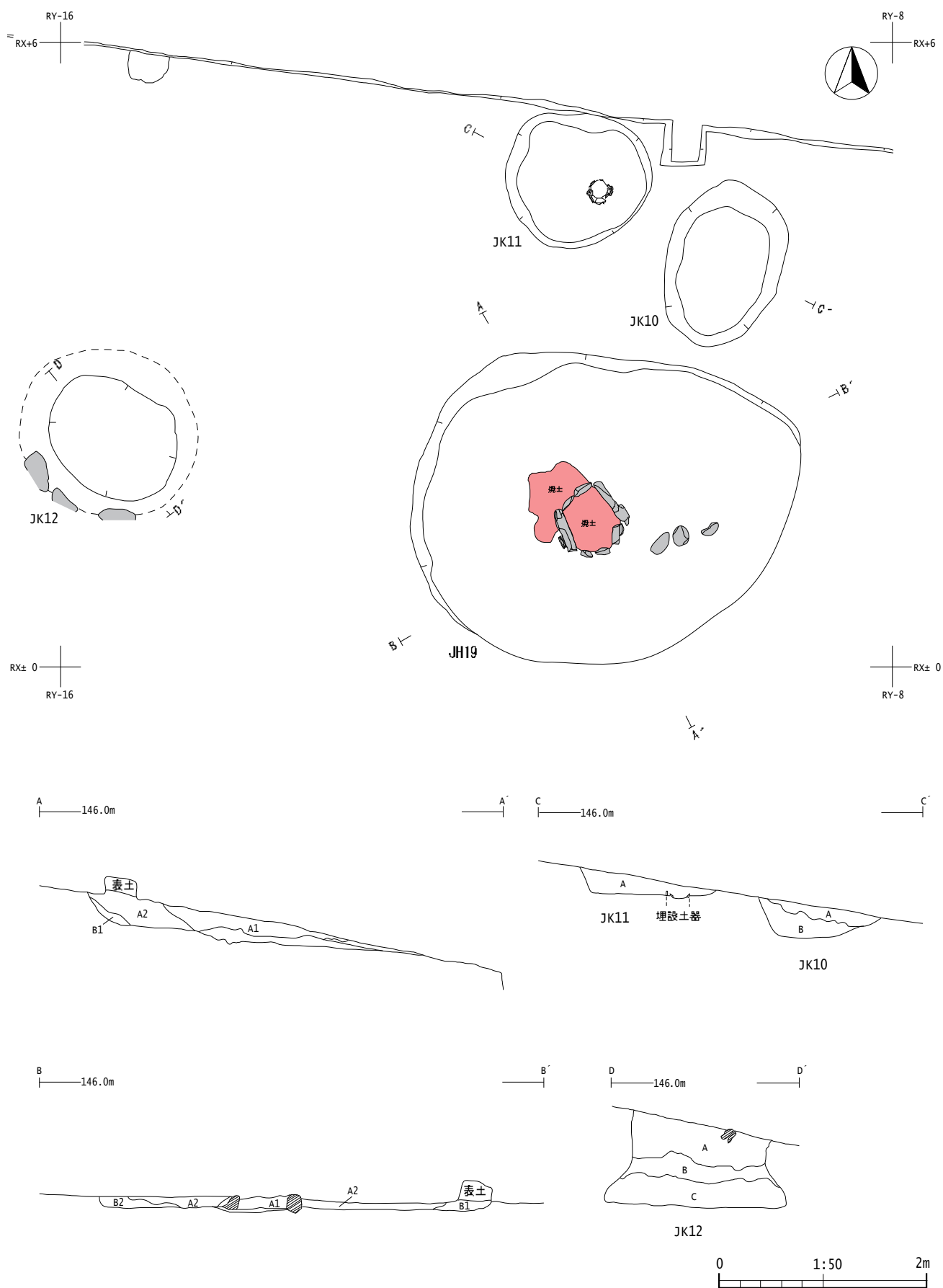


图73 JH19竖穴住居跡 JK10 JK11 JK12土坑跡平·断面

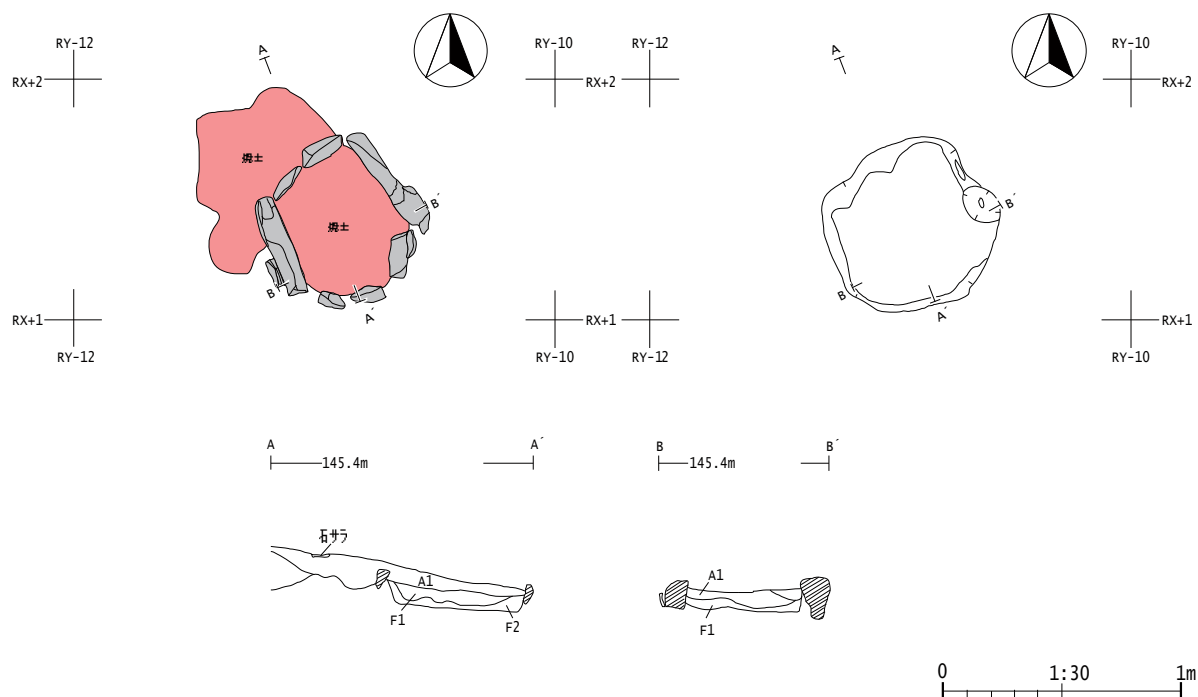


図74 JH19竪穴住居跡炉跡平・断面

JH19竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土	F1 10YR4/6 褐色焼土	10YR5/8 黄褐色シルト質焼土 1%粉状	やや軟質、木炭微量
焼土	F2 5YR4/8 赤褐色焼土	10YR3/4 暗褐色焼土 2%粉状	やや軟質、しまり弱、木炭微量

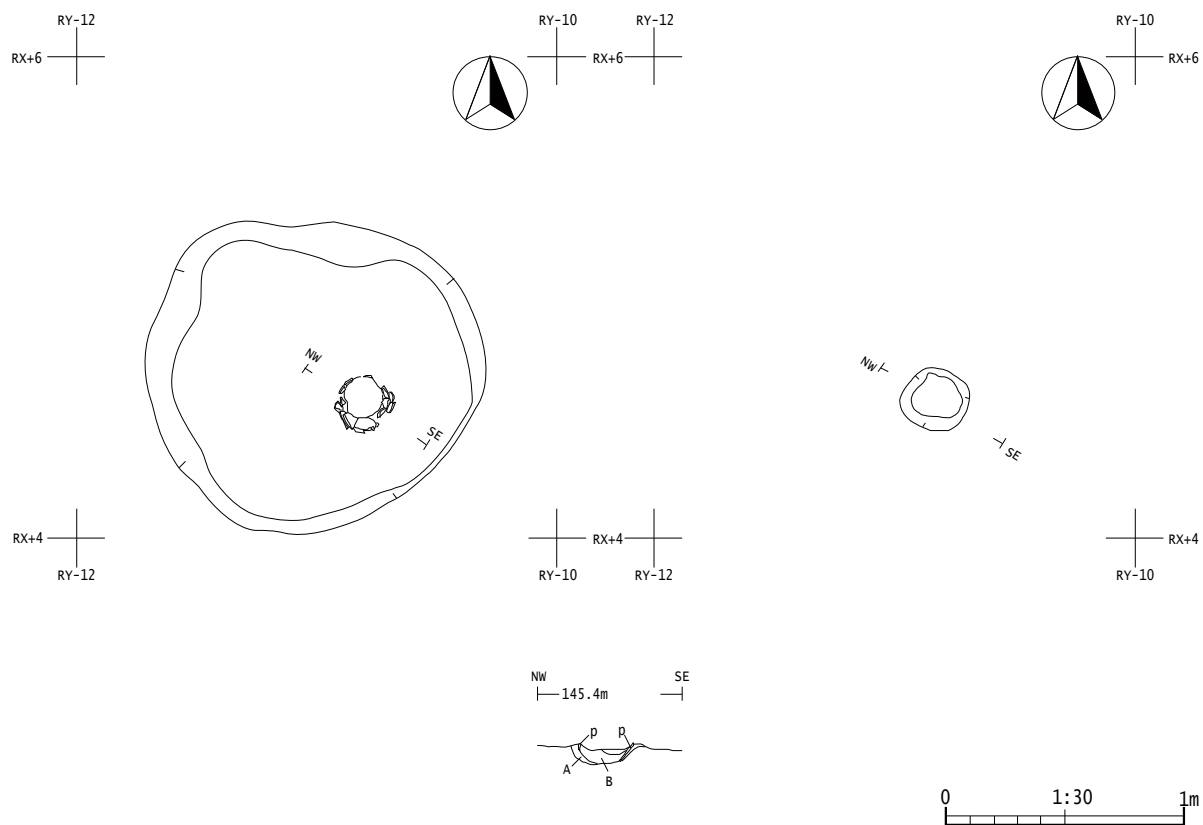


図75 JK11土坑跡埋設土器平・断面

JH19竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物	
竪穴埋土	A 1	10YR4/6 褐色シルト質壤土	5YR4/8 赤褐色壤土・粘土 3%粉粒状 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 2%粉状	軟質、粘性少々あり、木炭粉、炉石使用後の埋土
竪穴埋土	A 2	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉粒状	土器、木炭粉(A層より少々多い)
竪穴埋土	B 1	10YR5/8 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%粉状	やや硬質、しまり弱、ボロボロ地山に褐色が粉状に含まれる
竪穴埋土	B 2	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、粘性あり、木炭微量

JK10土坑跡土層観察表

層 名		基 本 土	混 入 土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 5%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	軟質、しまり弱、粘性少々あり
土坑埋土	B	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、木炭微量

JK11土坑跡土層観察表

層 名		基 本 土		混 入 土		固さ・構造・混入物	
土坑埋土	A	10YR4/6 褐色壤土		10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状		やや軟質、粘性少々あり、粉状構造、埋設土器	

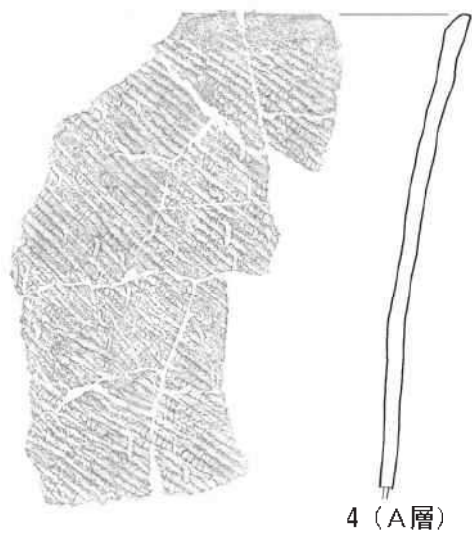
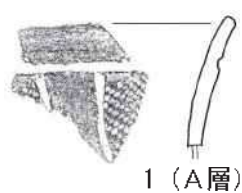
JK11土坑跡埋設土器土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、粘性少々あり、粉状構造、埋設土器
埋設土器埋土	B	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	軟質

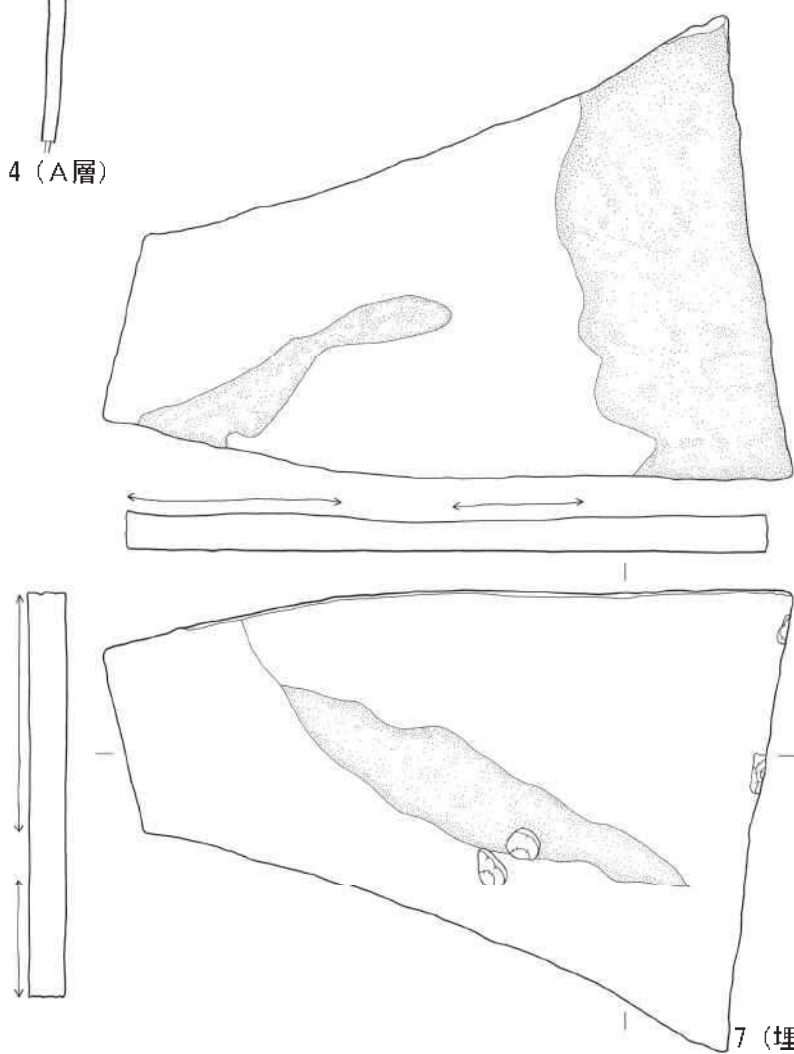
JK12土坑跡土層観察表

R12土坑跡1土層観察表				
層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%塊状 10YR4/4 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、粘性弱、しまりあり、塊状構造、木炭微量、礫(花崗岩)
土坑埋土	B	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 5%粉状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粒状	やや軟質、粘性ややあり、粉粒状構造
土坑埋土	C	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%塊状	やや軟質、粘性弱、塊状構造

〈検出面、埋土〉



〈床面〉



0 1:3 10cm

図76 JH19竪穴住居跡出土遺物 (1)

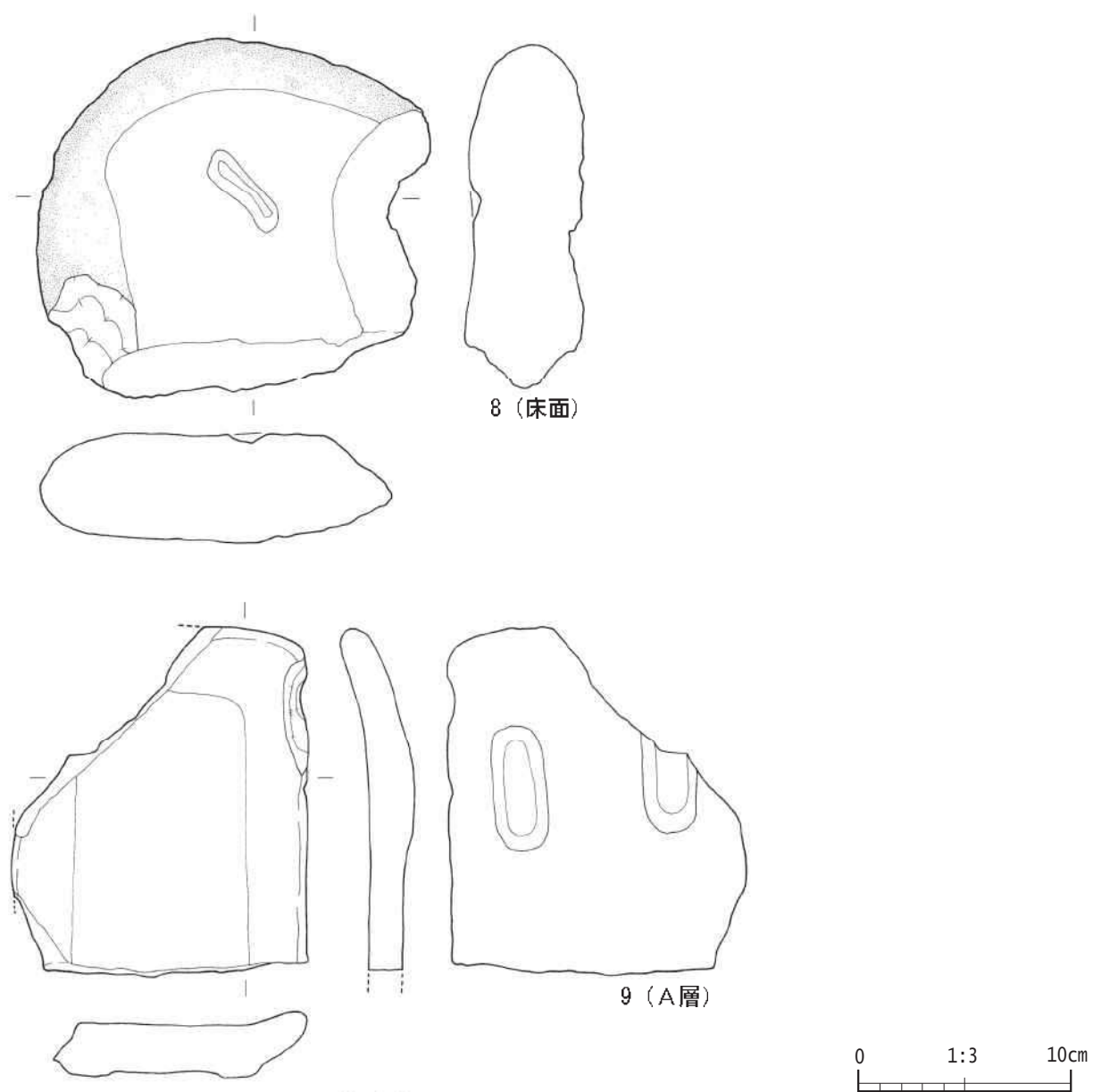


図77 JH19竪穴住居跡出土遺物 (2)

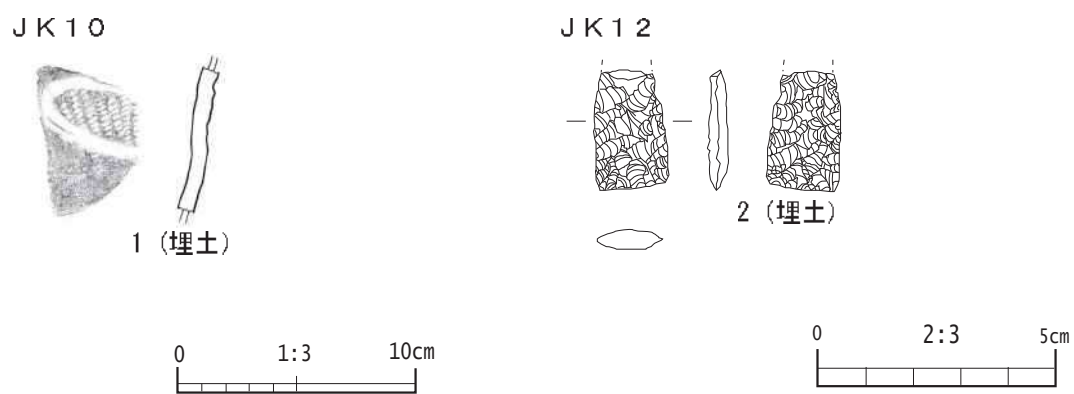


図78 JK10 JK12土坑跡出土遺物

JH20 竪穴住居跡 (図79)

JH19の南に位置する。JH21を切る。

平面形は円形と推測される。規模は、東西3.0mである。埋土は2層に分かれる。小土坑跡を竪穴内外で5基検出している。炉跡、周溝は検出していない。

出土遺物 (図80)

1～6は縄文土器である。1、2は口縁部である。1は条痕で施文される。2はS字状連鎖文が施される。3～5は沈線で区画し、縄文を施文する体部片である。6は原体圧痕で施文された体部片である。

7は礫石器である。磨製石斧の未製品である。

時期は、縄文時代中期に伴う。

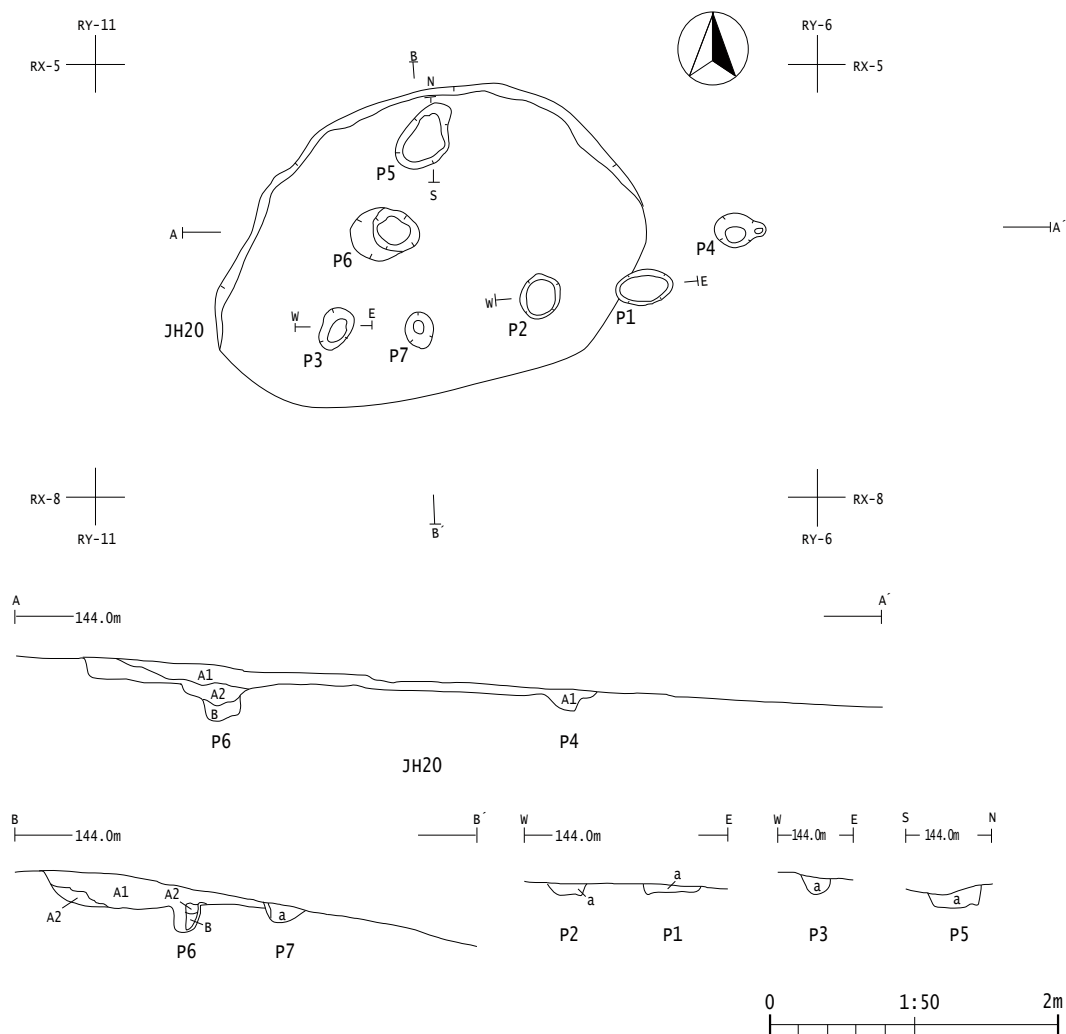
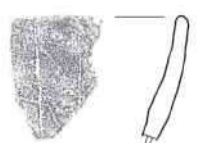


図79 JH20竪穴住居跡平・断面

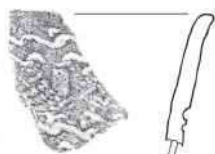
JH20竪穴住居跡土層観察表

層 名		基 本 土		混 入 土		固さ・構造・混入物	
竪穴埋土	A 1	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/8	黄褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりややあり、粘性少、	
竪穴埋土	A 2	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/8	黄褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまりややあり、粘性少、木炭粉微量	
竪穴埋土	B	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/8	黄褐色壤土 5%粒状	やや軟質、しまりややあり、粘性少、木炭粉微量	

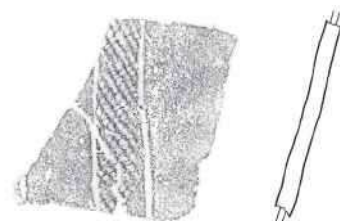
〈埋土〉



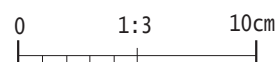
1 (A層)



2 (A層)



3 (A層)



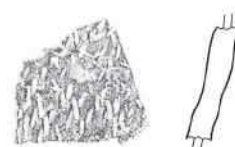
〈床面〉



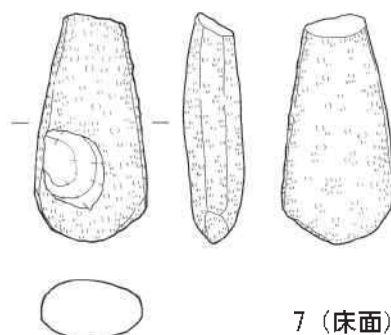
4 (床面)



5 (床面)



6 (床面)



7 (床面)

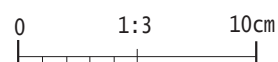


図80 JH20竪穴住居跡出土遺物

JH20竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR4/6 褐色	10YR5/8 黄褐色壤土 3%	木炭粉
柱穴P2埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 2%粉状	やや軟質
柱穴P3埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 3%粒状	やや軟質、しまりやや弱
柱穴P4埋土	A1 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりややあり、粘性少、
柱穴P5埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 1%粉状 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 2%粉状	軟質、粘性ややあり
柱穴P6埋土	B 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 5%粒状	やや軟質、しまりややあり、粘性少、木炭粉微量
柱穴P7埋土	a 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 2%粉状	軟質、しまり弱

JH21 竪穴住居跡 (図81)

JH20の西に位置する。JH20に切られる。平面形は不整形である。規模は、南北2.2m、東西2.4mを測る。埋土は3層に分かれる。炉跡、柱穴跡、周溝などは検出していない。

出土遺物 (図82)

1～7は縄文土器である。1～4は口縁部である。1は波状口縁で、山形の突起をもつ。口唇部に粘土紐が貼付される。体部はS字状連鎖文で施文される。2は刻みの入った突起が口唇部に貼付され、体部はS字状連鎖文で施文される。3は結節縄文で施文される。4は斜縄文で施文され、胎土は繊維を含む。5は斜縄文で施文された底部である。6は粘土紐が波状に貼付された体部片である。7は小形鉢の底部である。底面は磨滅し、不明瞭である。

8は剥片石器である。平基の石鏃である。

時期は、縄文時代前期に伴う。

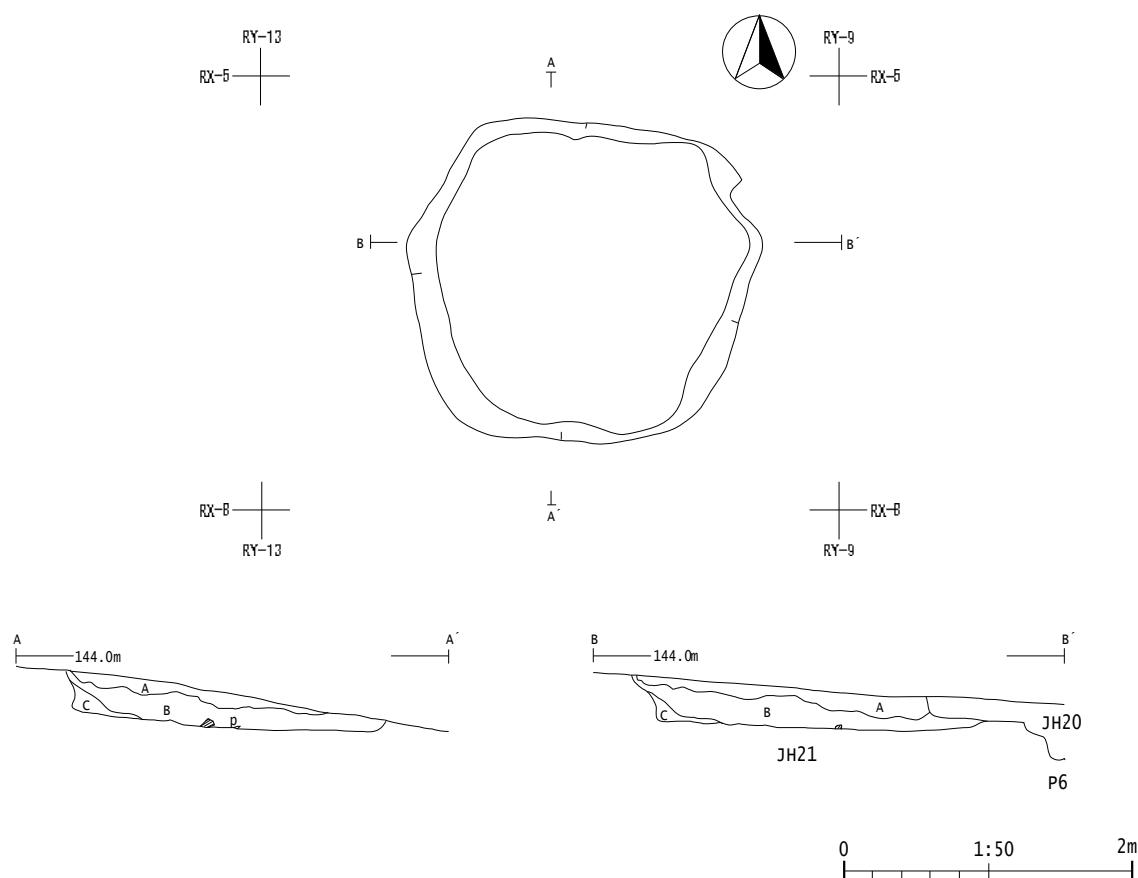


図81 JH21竪穴住居跡平・断面

H21竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、木炭微量
竪穴埋土	B 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉粒状	やや硬質、しまりややあり
竪穴埋土	C 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土 3%粒状	やや軟質、しまり弱、木炭粉微量

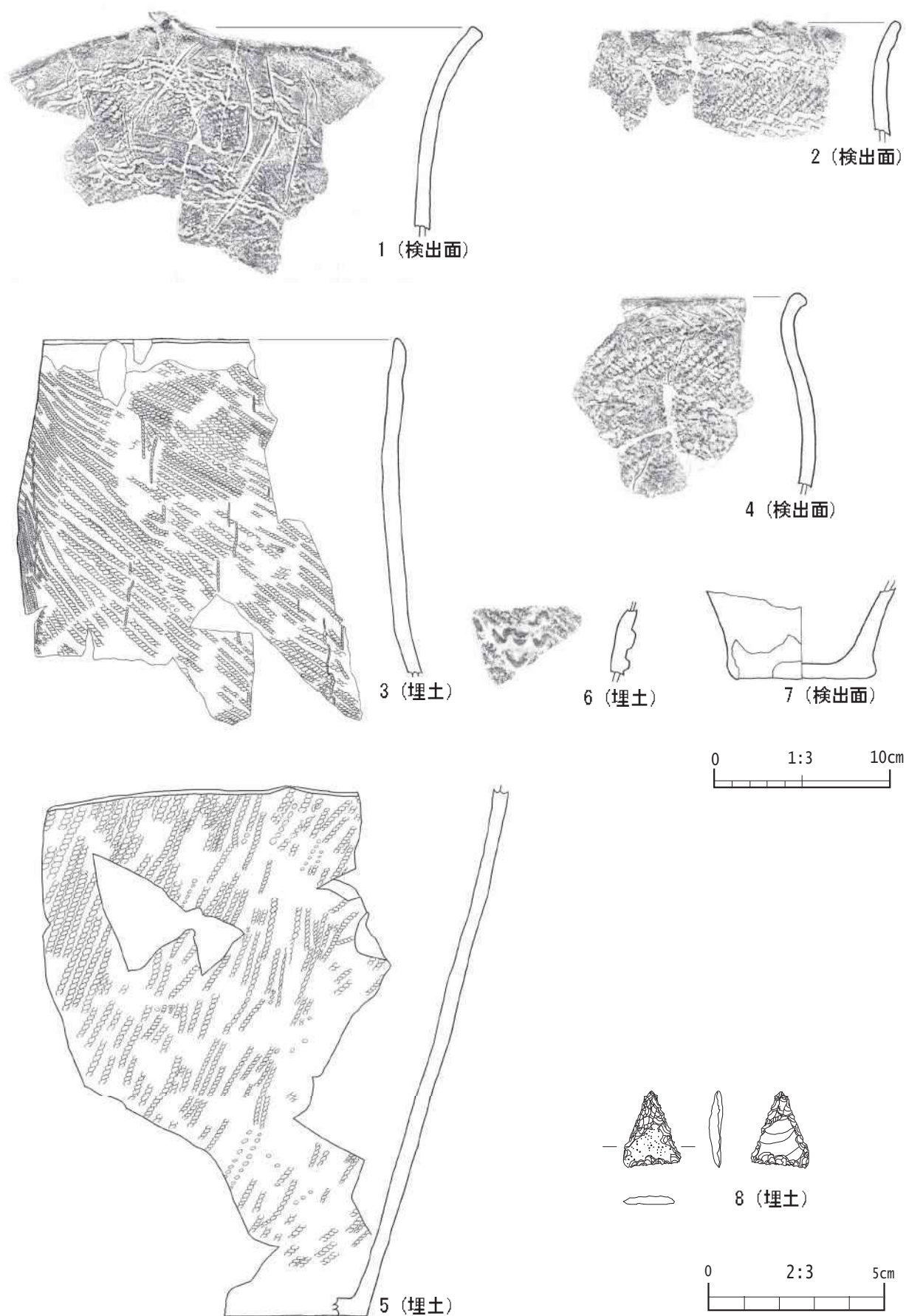


図82 JH21竪穴住居跡出土遺物

JX01 粘土採掘土坑跡（図83～85）

調査区中央に位置する。JH19、JH31、JH20に切られ、JH29を切る？。平面形は不定形な円形で、とくに掘方をもたない小土坑群である。等高線に直交する方向に、延長約9.0m、幅約2.0m、最深部で1.0mまで掘り下げる。埋土は20層に分かれる。上層で埋甕（図85、88）を検出し、下層では焼土を多量に含んだ堆積層（F層）を検出している。

出土遺物（図86～91）

1～41は縄文土器である。

＜検出面＞ 1～11は口縁部である。1～4は沈線で区画し、縄文を施文する。5は頸部に隆帯を巡らし、環状の把手をつける。6、7は隆沈線で施文される。8は粘土紐を波状に貼付する。9は口唇部に指頭圧痕が入り、体部は撚糸文で施文される。10、11は斜縄文で施文される。12～20は体部片である。12～15は沈線で区画し、縄文を施文する。16は刺突列で施文される。17～19は隆沈線で施文される。20は原体圧痕で施文される。

＜埋土＞ 21～33は口縁部である。21～23は沈線で区画し、縄文を施す。24～26は隆沈線で施文される。27は沈線のための施文である。28～32は斜縄文で施文される。33は撚糸文で施文される。34～37は体部片である。34、35は沈線で区画し、縄文を施す。36、37は隆沈線で施文される。

＜床面＞ 38は隆沈線で施文された口縁部である。39は底部である。底面は無文である。

40はM層から出土した埋甕である。40は山形口縁で、頂部に穿孔を伴った渦文を施す。体部は沈線で区画し、縄文を施す。41は同区域から出土した一括土器である。隆沈線による渦文で全体を覆う。

42～46は剥片石器である。42～45は石鏃である。42、43は平基、44は凹基、45は凸基である。46は石匙である。

47～55は礫石器である。47～49は磨製石斧、50は打製石斧である。51は敲石である。52は磨石である。53～55は砥石である。

時期は、縄文時代中期に伴う。

RX-1
RY-16

RX-11
RY-11

RX-1
RY-5

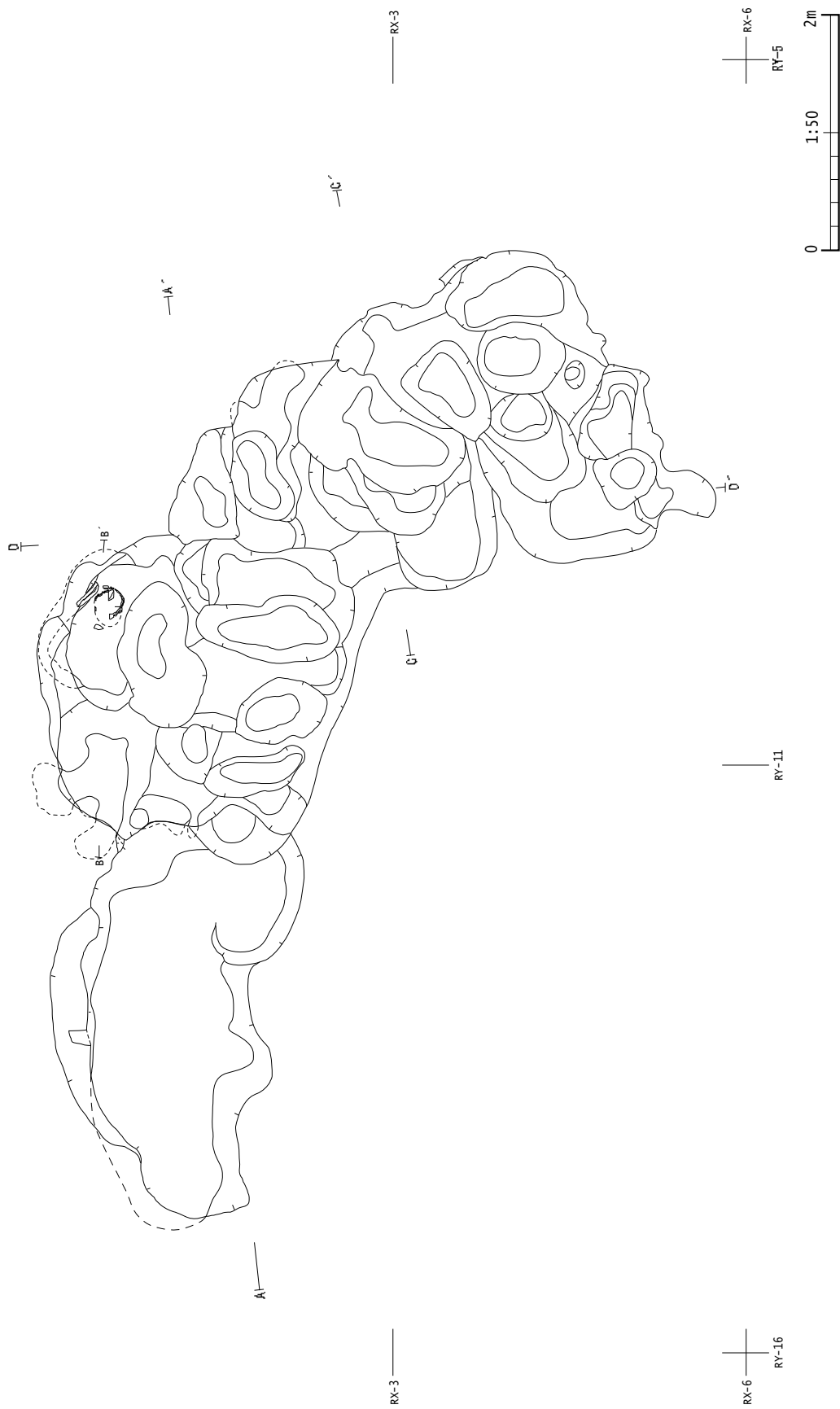


图83 粘土採掘土坑平面

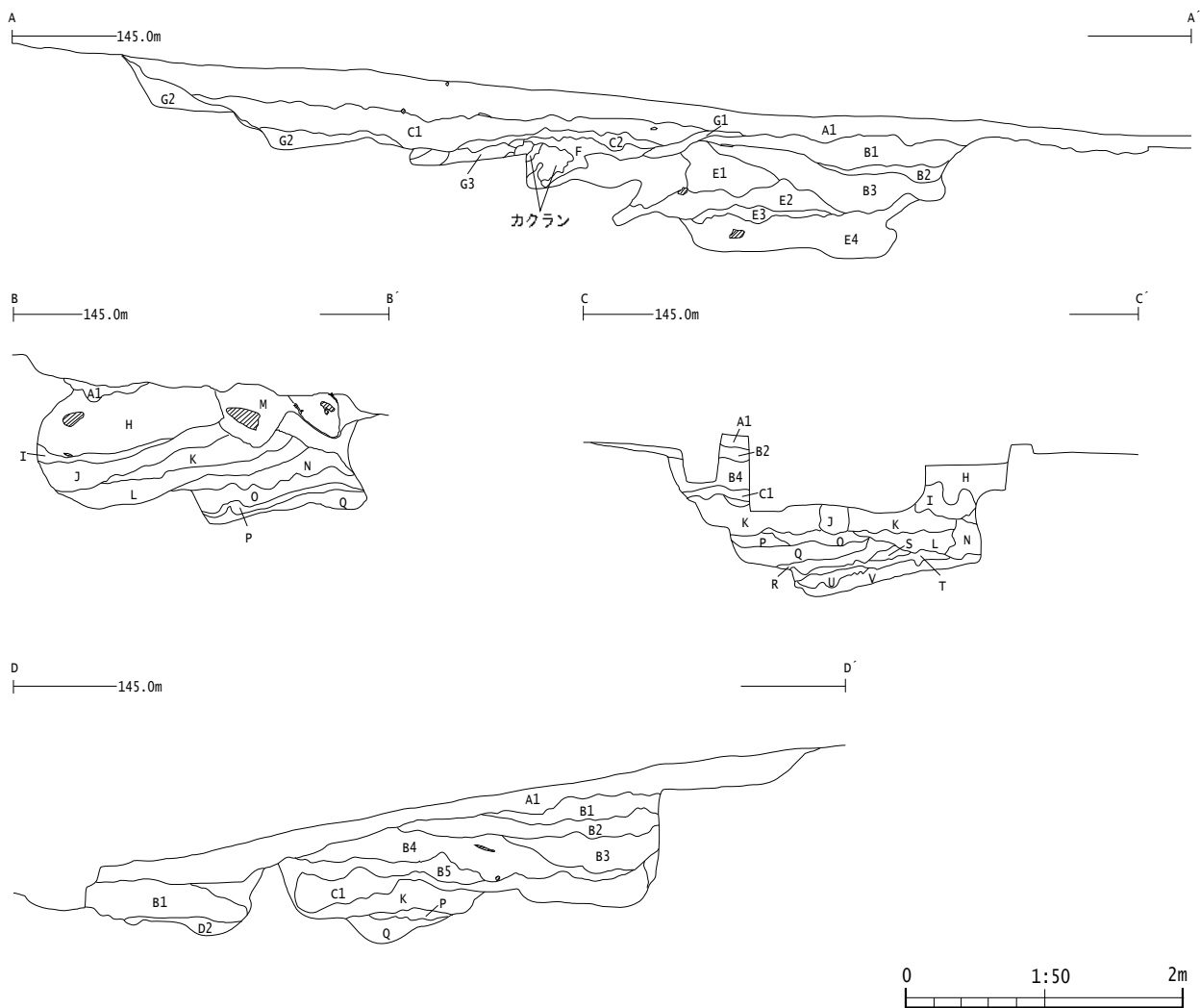


図84 粘土採掘土坑断面

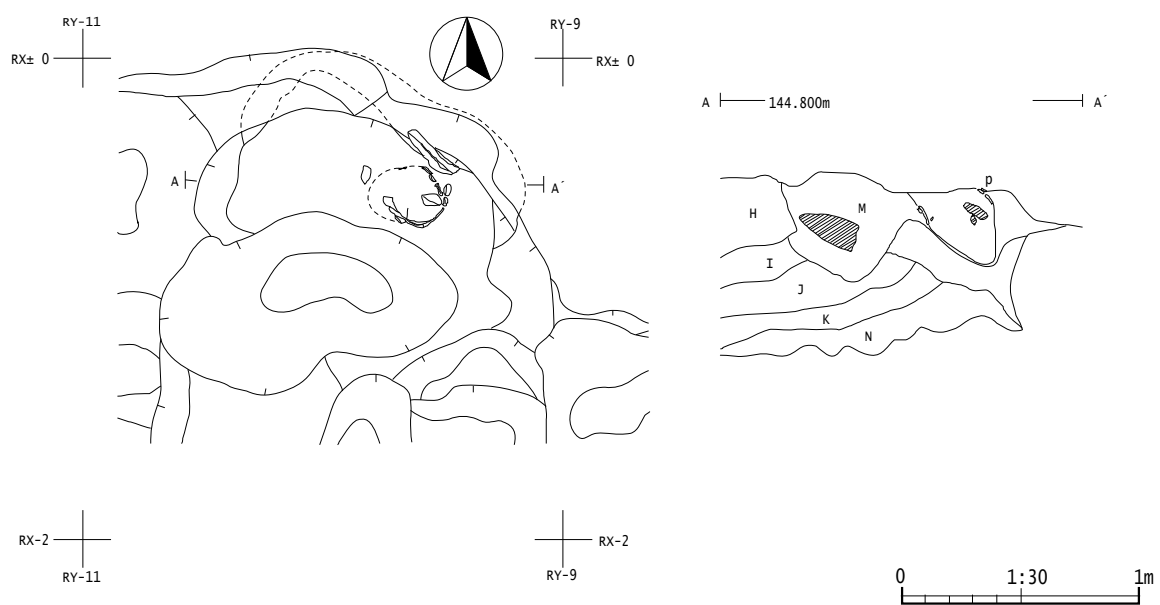


図85 JX01埋設土器平・断面

JX01粘土採掘土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少々、木炭
埋土	B 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまり弱、粘性少、木炭2%(A層より多量)
埋土	B 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまり弱、粘性少、木炭微量
埋土	B 3	10YR4/6 褐色	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉1%
埋土	B 4			
埋土	C 1			
埋土	C 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒塊状 5YR5/8 明赤褐色 3%粘土粉	やや軟質、ややしまり弱
埋土	E 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 10%粒塊状	やや軟質、木炭粉2%
埋土	E 2	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色 2%粉状	やや硬質、しまりあり
埋土	E 3	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 7%粉粒状	やや軟質、しまり弱
埋土	E 4	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粒塊状	やや硬質、しまりあり、粘性あり、木炭微量
埋土	G 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまり弱、木炭粉
埋土	G 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粒塊状	やや軟質、ややしまり弱、木炭粉微量
埋土	G 3	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、ヨゴレ地山
焼土	F	5YR5/8 赤褐色焼土	10YR4/6 褐色壤土 10%粉状	やや軟質、焼土は塊状粒状で流入焼土とみられる
土坑埋土	H	10YR5/8 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱
土坑埋土	I	10YR5/8 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 5%粉状	軟質、しまり弱
土坑埋土	J	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 3%粉粒状	軟質、木炭粉1%
土坑埋土	K	10YR5/8 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色 1%粉状	やや硬質、しまりあり、礫
土坑埋土	L	10YR5/8 黄褐色	10YR4/6 褐色 3%粉状	軟質、しまり弱
土坑埋土	N	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 2%粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	軟質、全体に粉粒状
土坑埋土	O	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色壤土 5%粉粒状	軟質、しまり弱
土坑埋土	P	10YR5/8 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり
土坑埋土	Q	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 10%粉粒状	やや軟質、木炭粉
土坑埋土	R	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 7%粉粒状	軟質、しまり弱、木炭粉
土坑埋土	S	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%	軟質
土坑埋土	T	10YR5/8 黄褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、
土坑埋土	U	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや硬質
土坑埋土	V	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒状	軟質
埋設土器埋土	M	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粒状	軟質、しまり弱、粘性少々あり、木炭微量、焼土粒微量、礫(花崗岩)

〈検出面〉

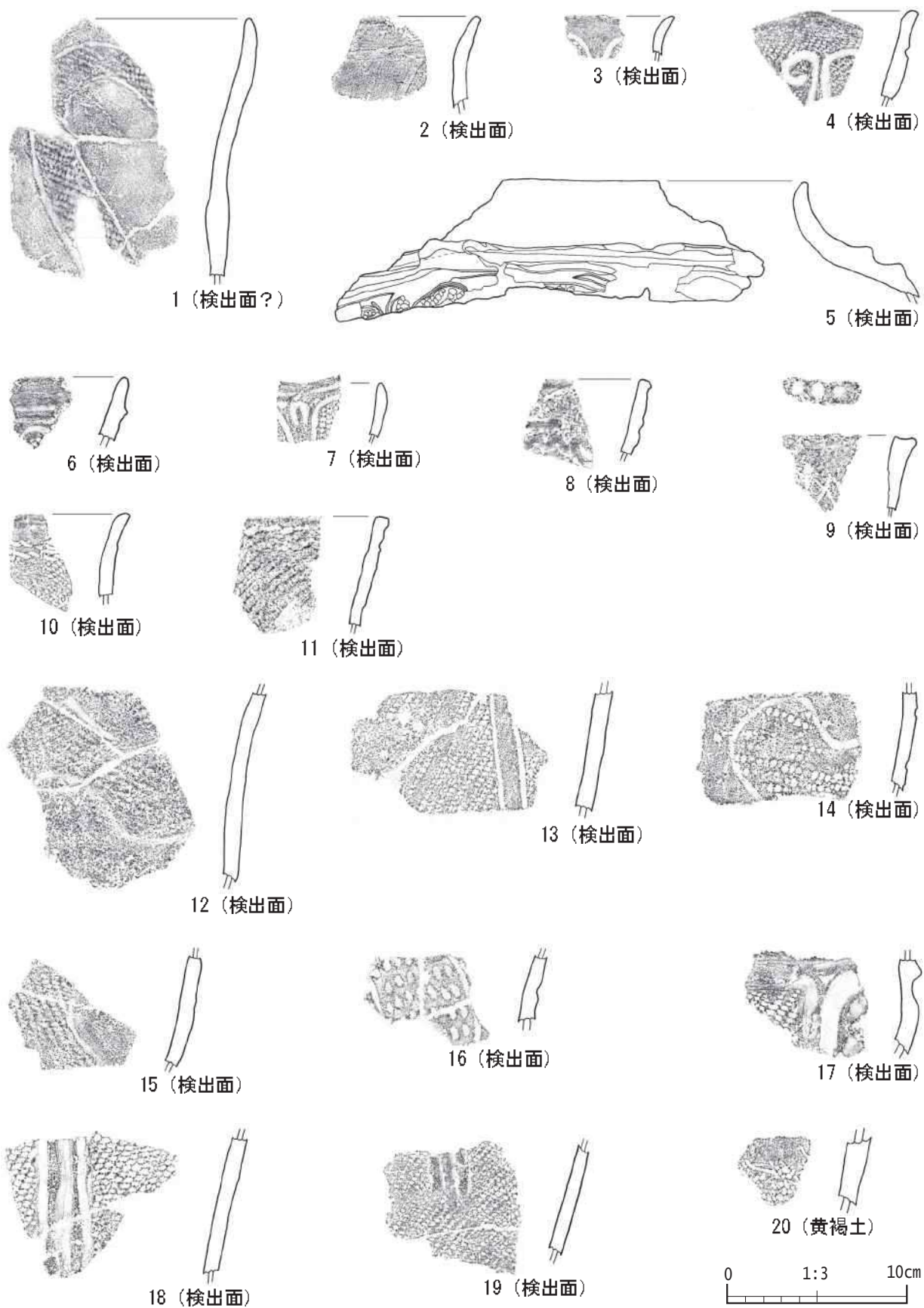


図86 JX01粘土採掘土坑跡出土遺物 (1)

〈埋土〉

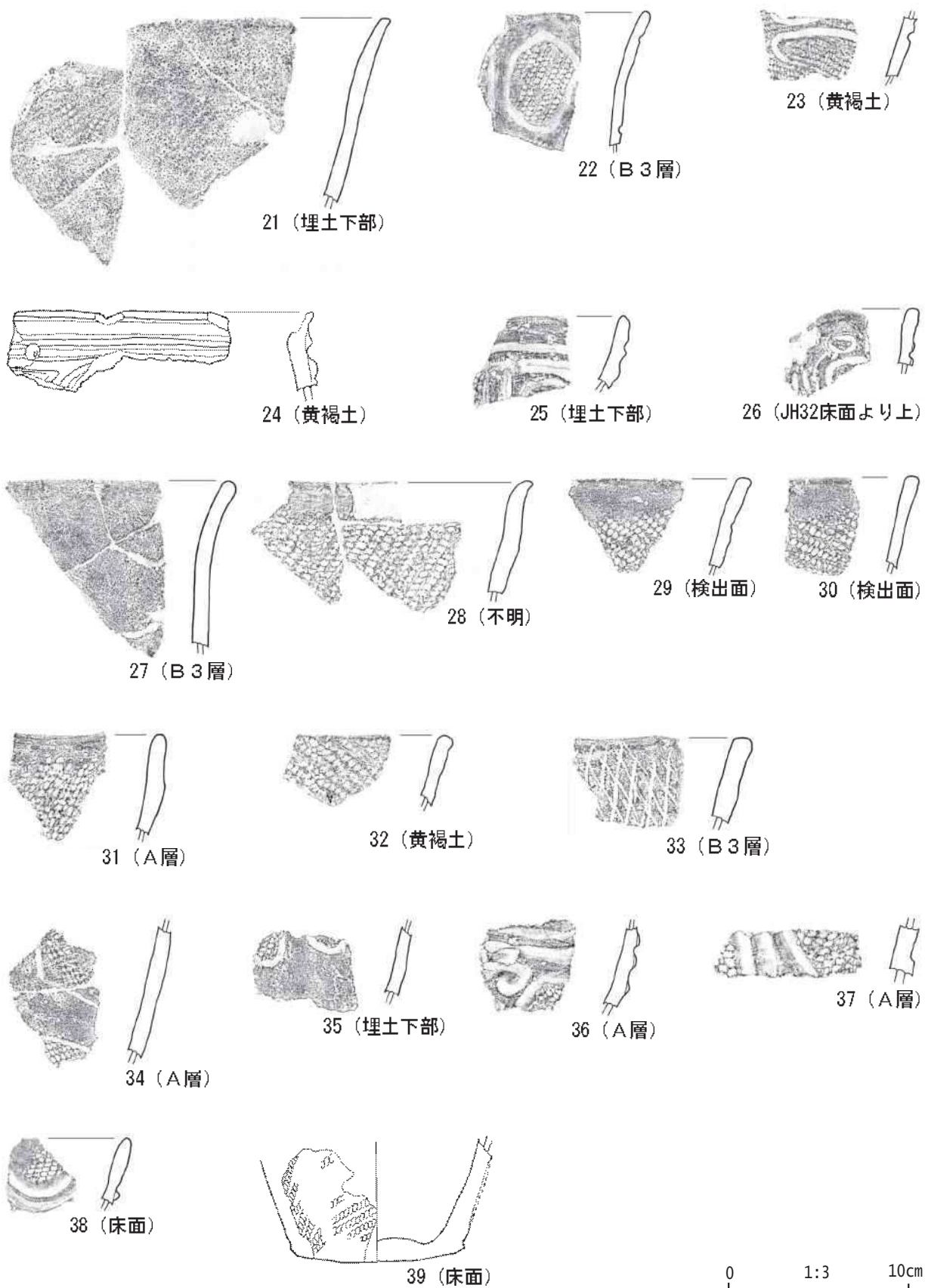
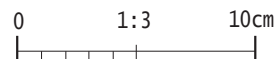


図87 JX01粘土採掘土坑跡出土遺物(2)



40



40の展開図

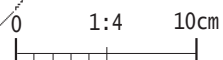


図88 JX01粘土採掘土坑跡出土遺物 (3)

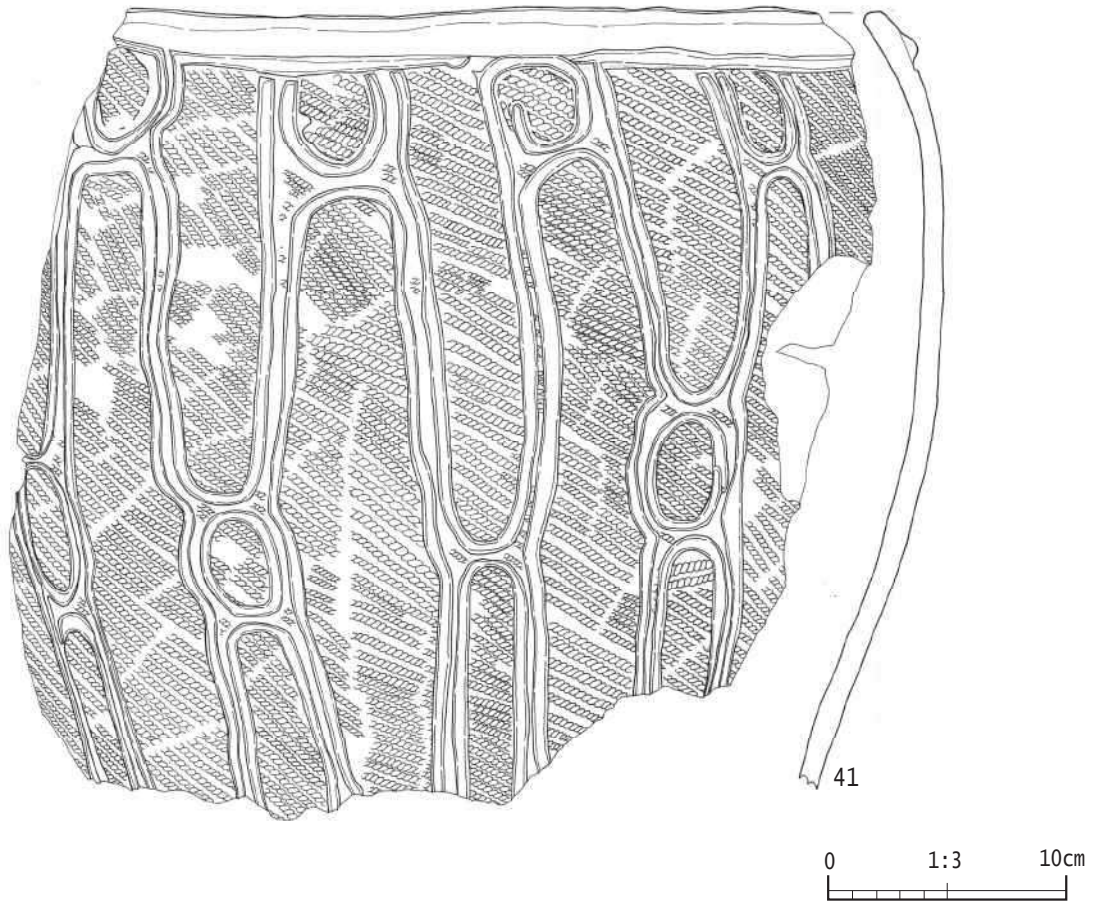


图89 JX01粘土採掘土坑跡出土遺物 (4)

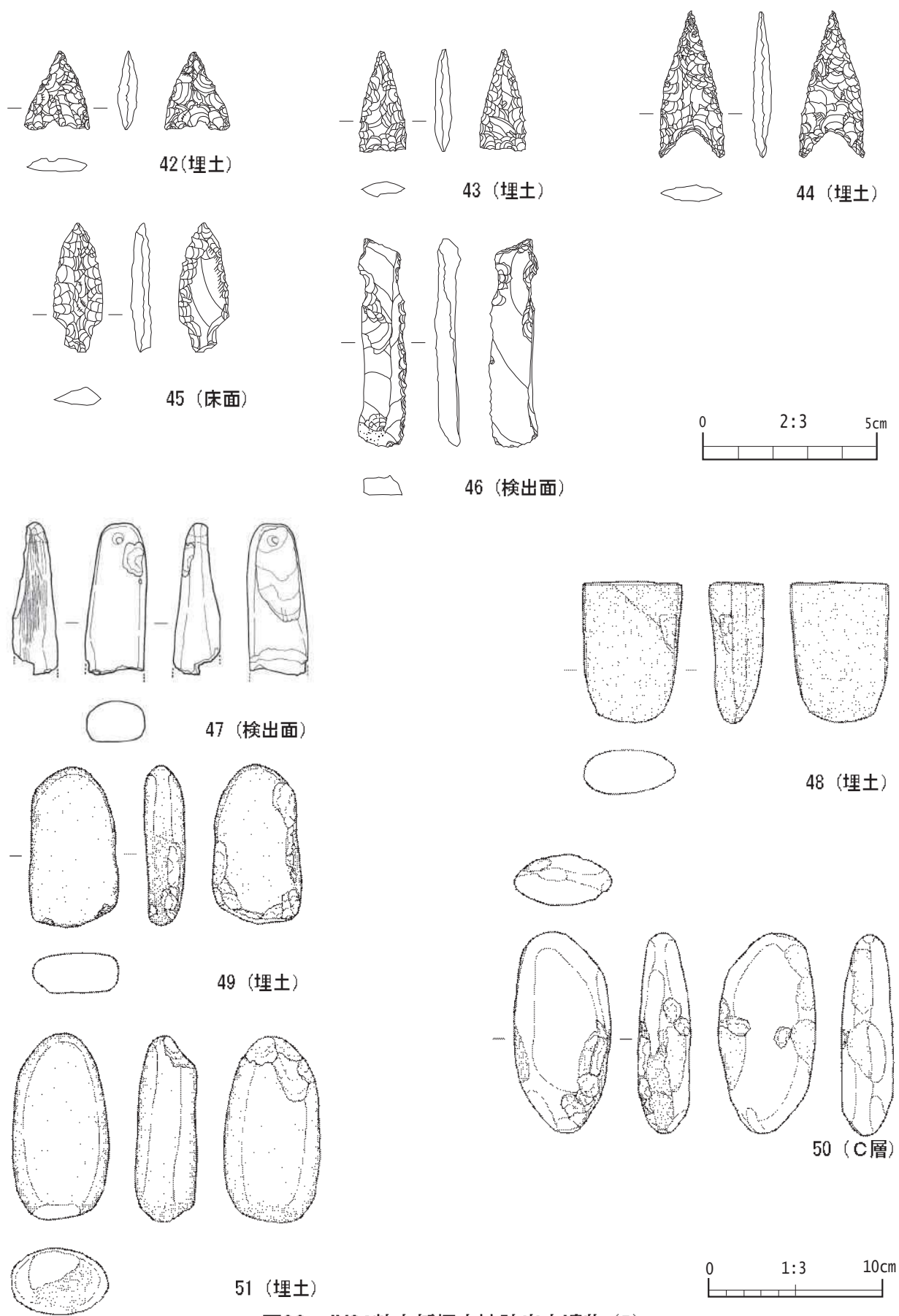


図90 JX01粘土採掘土坑跡出土遺物 (5)

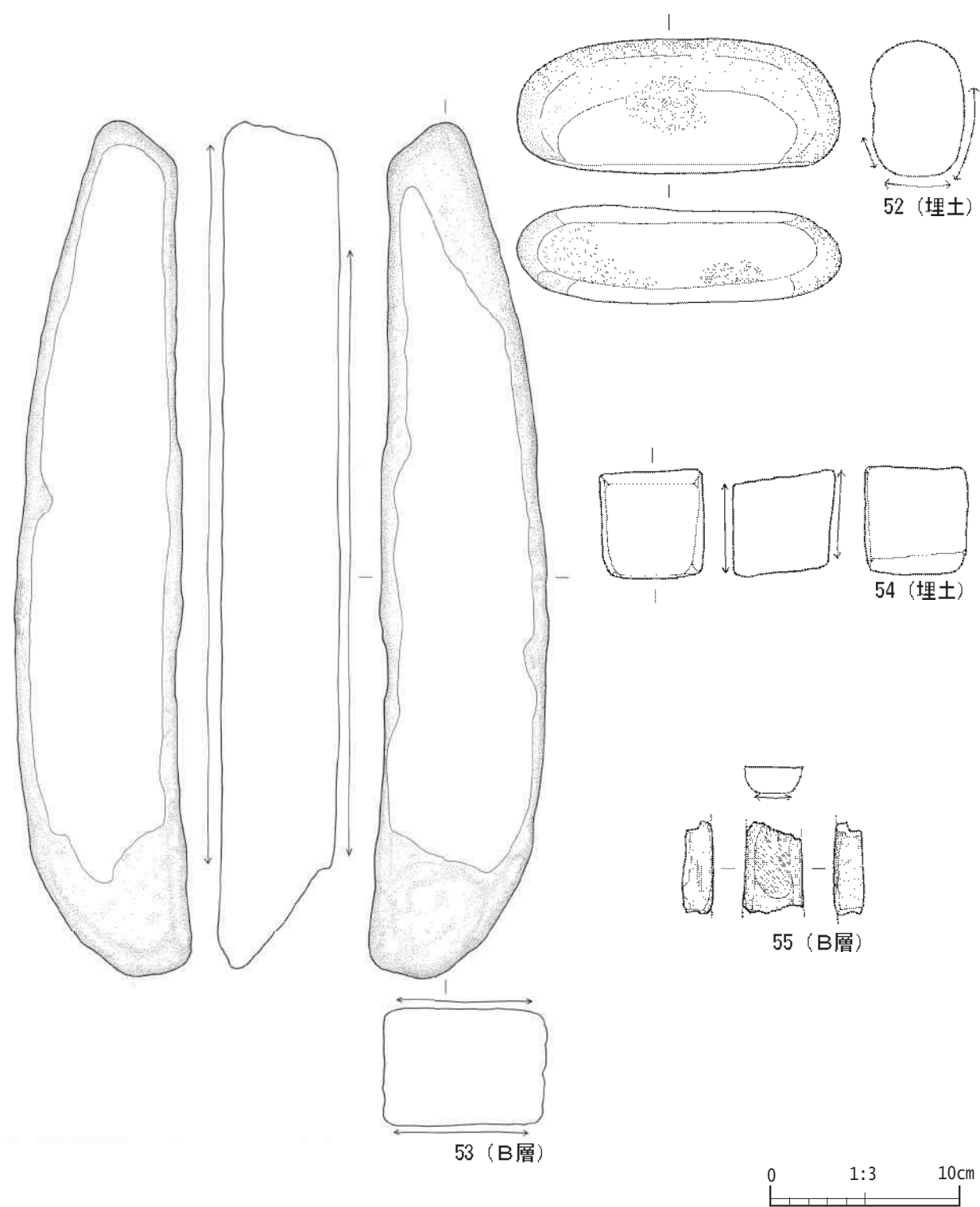


图91 JX01粘土採掘土坑跡出土遺物 (6)

J H 2 2 竪穴住居跡、J K 2 2 土坑跡 (図92、93)

J X 0 1の南西に位置する。後述するJ H 2 8を切る。平面形は円形である。規模は、東西7.0mを測る。埋土は2層に大別される。床面の中央南東端で炉跡、北西寄りで大形土坑跡(J K 2 2)を検出する。床面の周縁部では13基の小土坑跡が出土し、西の壁際で溝跡を検出している。

炉跡 (図94)

西側に石組、東側に焼土という構成で、石組で囲んだ形跡は確認していない。焼土は、平面形は楕円である。規模は、東西70cm、南北50cmを測る。F層がやや固く焼き締まった焼土層である。

J K 2 2 土坑跡 (図92)

平面形が円形のフラスコ形土坑である。規模は、口径0.8m、底径1.1m、深さ1.1mを測る。埋土は2層に分かれる。

出土遺物 (図95～99)

1～73は縄文土器である。

＜埋土＞ 1～17は口縁部である。1～4は沈線で区画し、縄文を施文する。4は刺突列が加わる。5～9は隆沈線で施文される。10～13は斜縄文で施文される。14、15は口唇部に粘土紐が貼付される。14は頸部に鋸歯文が描かれる。16は口唇部に粘土紐が貼付され、頸部には粘土紐が波状に貼付される。17はS字状連鎖文で施文される。

18～58は体部片である。18～23は平行沈線を施される。20、21は沈線間を縦位沈線で連絡する。22、23の沈線は格子状に交わる。24～44は沈線で区画し、縄文を施す。45～53は隆沈線で施文する。54は沈線で鋸歯文が施文される。55は撚糸文である。56は粘土紐が波状に貼付される。57はS字状連鎖文で施文され、58は原体圧痕である。59～62は底部である。59は隆沈線で施文される。60は沈線で施文する。61は底面に縄文を残す。62は底面に網代痕を残す。

＜床面＞ 63は斜縄文で施文された口縁部である。64は沈線で区画し、縄文を施文する体部片である。65～67は口縁部～体部である。65は沈線で区画し、縄文を施す。66、67は斜縄文で施文する。68～71は体部片である。68～70は沈線で区画し、縄文を施す。71は隆沈線で施文される。72、73は底部である。底面に72は木葉痕、73は網代痕を残す。

74～76は剥片石器である。74は平基の石鏃の基部である。75は石匙の先端部である。76は石錐である。

77～81は礫石器である。77は砥石である。78はくぼみ石である。磨面のほかに二カ所のくぼみをもつ。79、80は敲打磨石である。81は磨製石斧の刃部である。

時期は縄文時代中期に伴う。

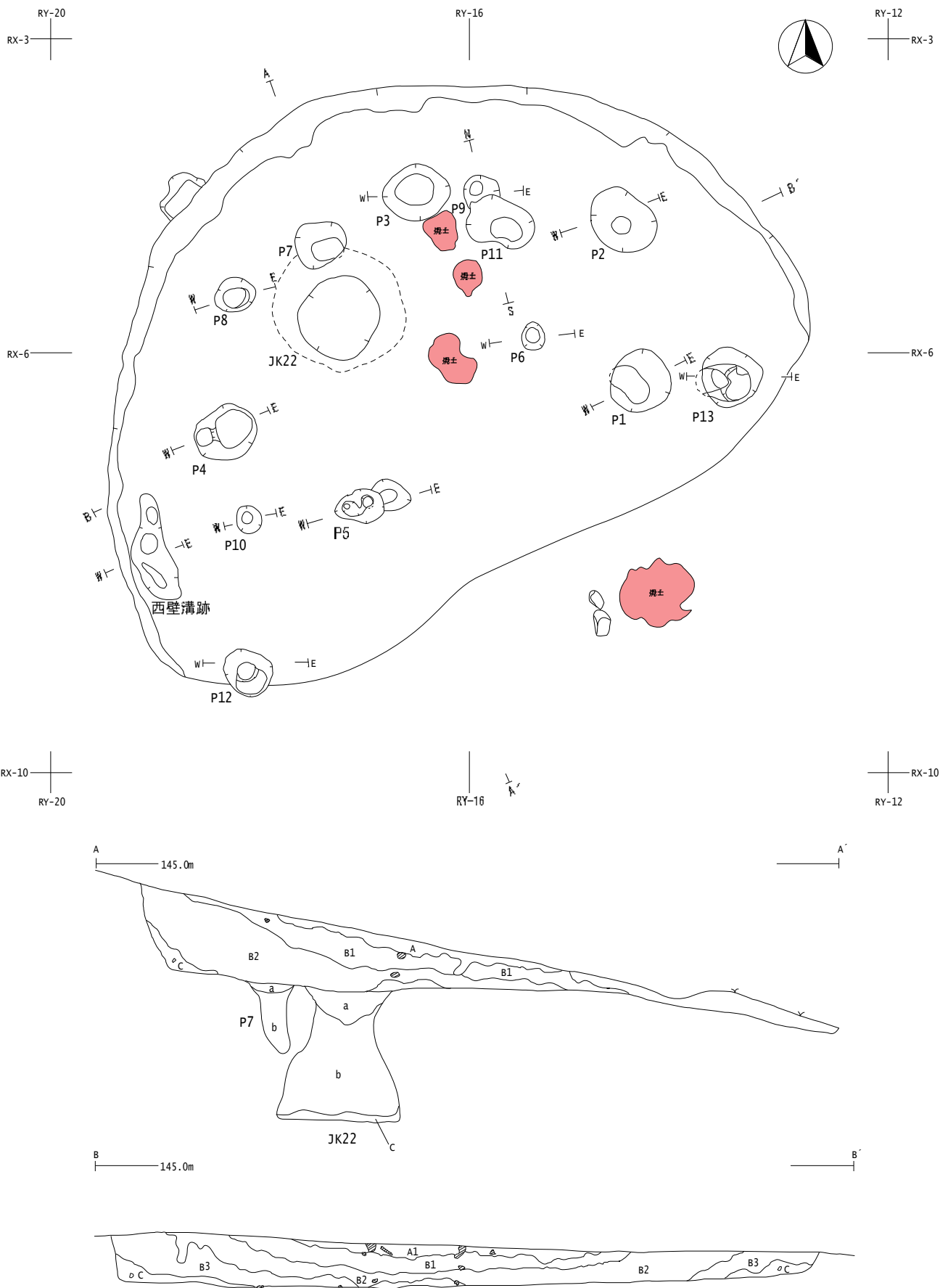


图92 JH22竖穴住居跡平·断面

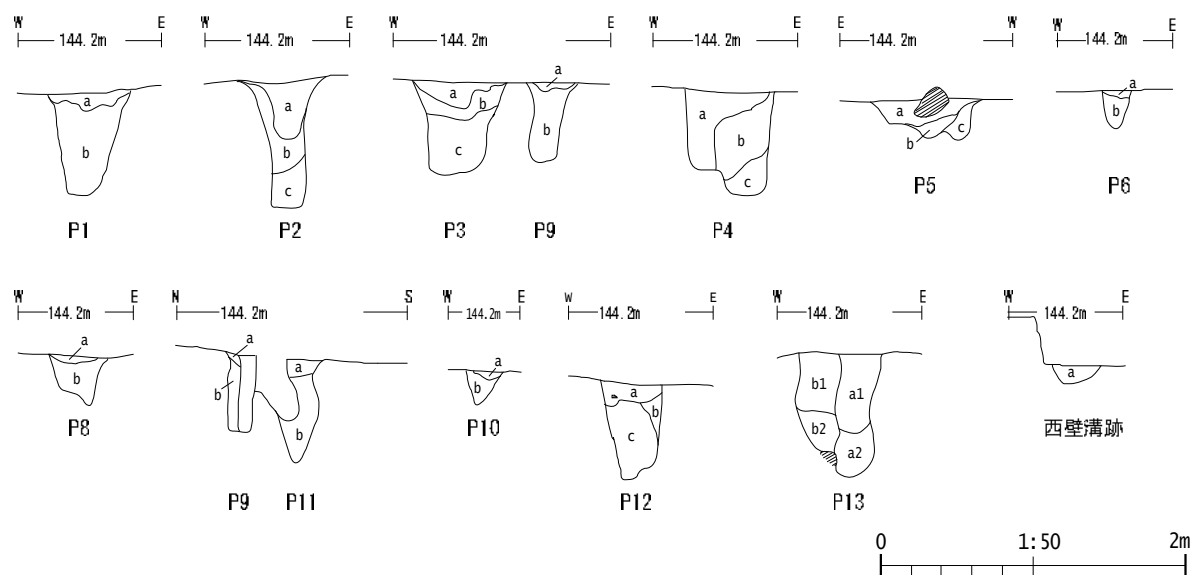


図93 JH22竪穴住居跡断面

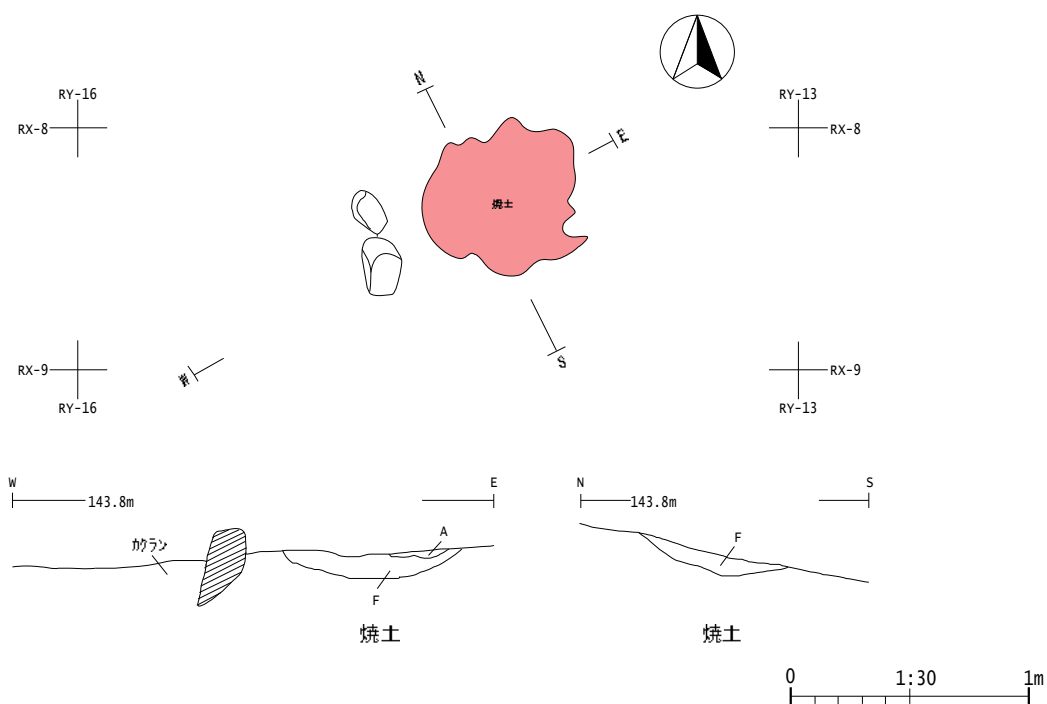


図94 JH22竪穴住居跡焼土平・断面

JH22竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 5%粉状	やや軟質、粘性少、木炭微量
竪穴埋土	B 1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土 3%塊状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%塊状	やや軟質、粘性ややあり、木炭微量
竪穴埋土	B 2 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 1~3%粉状	やや軟質、粘性少、木炭やや多量
竪穴埋土	B 3 10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 7%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒状	やや硬質、木炭3%
竪穴埋土	C 10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 3%	やや軟質、粘性ややあり、木炭をかなり多く含む層で焼土粒が含まれる

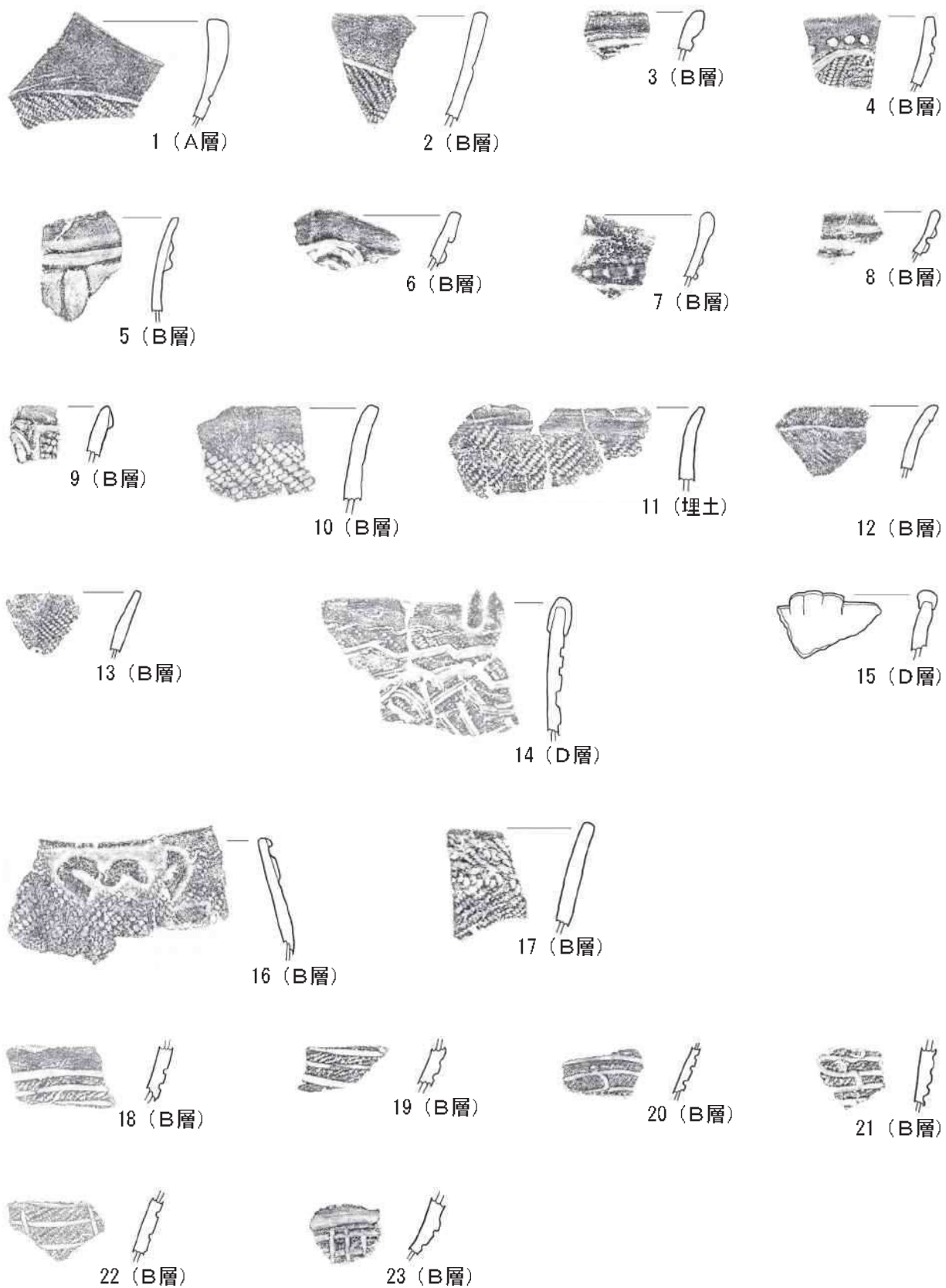
JH22竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	A 10YR4/6 褐色シルト質壤土	2.5YR4/8 赤褐色焼土 3%粒状 10YR5/8 黄褐色壤土 2%粉状	やや軟質
焼土	F 2.5YR4/8 赤褐色焼土(純焼土)	10YR5/8 黄褐色壤土 1%粉状	やや硬質、しまりあり

JH22竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層 名		基 本 土	混 入 土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 2%粉状	やや軟質、しまりややあり、木炭1%
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 5%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりややあり、土器、木炭微量
柱穴P2埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	軟質、しまり弱、木炭粉焼土粒2%
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 10%	やや軟質
	c	10YR5/8 黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色壤土 5%粉状	軟質、やや軟質
柱穴P3埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 1% 5YR4/8 赤褐色砂壤土(焼土) 3%粉状	やや軟質、木炭粒焼3%
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粉状	木炭粉微量
	c	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 2%粉状	やや軟質、しまり弱、木炭粉微量
柱穴P4埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 2%	軟質、木炭粉焼土粉1%、柱痕と抜きとりと見られる
	b	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 15%塊状(粉状の塊) 10YR4/6 褐色壤土 3%塊状	硬質、しまりあり、土器、木炭粉2%
	c	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 1%粉状	やや軟質、粘性あり、木炭粉微量
柱穴P5埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 2%粉状	やや軟質、木炭粉
	b	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粉状	やや軟質、木炭粉
	c	10YR5/8 黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土 15%塊状	木炭微量
柱穴P6埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり、木炭粉1%
	b	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 5%粉状	やや軟質、木炭微量
柱穴P7埋土	a	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%	軟質、木炭微量
	b	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 5%粉状	やや軟質、粘性ややあり
フラスコビットJK22	a	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 2%粉状	軟質、粘性少々、木炭1%、焼土少量
	b		10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粉状	木炭粒3%、一括土器
柱穴P8埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 2%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、木炭粉2% 焼土粒微量
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 5%粉状	やや硬質、しまりあり、木炭
柱穴P9埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 1%	やや硬質、しまりあり、木炭粉微量、焼土粉微量
	b	10YR4/6 褐色	10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粒状	軟質、しまり弱
柱穴P10埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 1%粉状 2.5YR4/8 赤褐色焼土 2%粒状	やや硬質、しまりあり、木炭粒2%
	b	10YR3/4 暗褐色	10YR5/8 黄褐色砂壤土 10%	a層よりは軟質、しまり弱、木炭粉微量
柱穴P11埋土	a		10YR3/4 暗褐色壤土 5%粉状 10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粉状	やや軟質、木炭粒3%
	b	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粉粒状	やや軟質、木炭粉微量
	c		10YR5/8 黄褐色砂壤土 1%粉状	硬質、しまりあり、粘性少々あり
柱穴P12埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 7%粉状	やや軟質
	b	10YR5/8 黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色壤土 3%粉状	やや硬質
	c	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 3%粉状	軟質、木炭微量
柱穴P13埋土	a 1	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 5%粉状	やや硬質、ややしまりあり、木炭粉2%、下半部で木炭粉は少なくなる
	a 2	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 1%粉状	やや硬質、ややしまりあり
	b 1	10YR5/8 黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状 10YR6/8 明黄褐色砂壤土 7%粉状	硬質、しまりあり、木炭粉微量
	b 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR6/8 明黄褐色砂壤土 1%粉状	やや硬質、ややしまりあり
西壁溝跡	a			

〈埋土〉



0 1:3 10cm

图95 JH22竖穴住居跡出土遺物 (1)

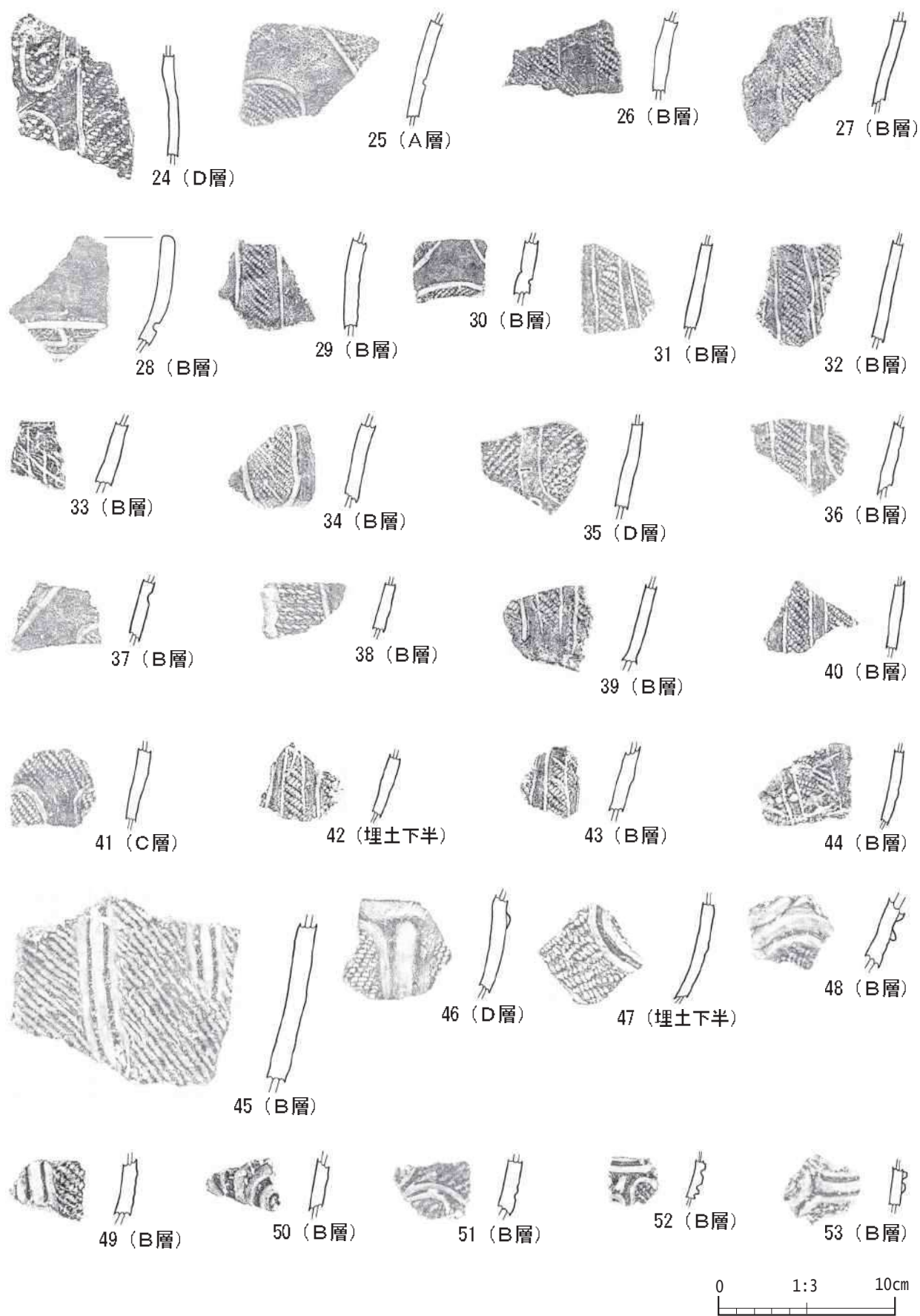


図96 JH22竪穴住居跡出土遺物 (2)

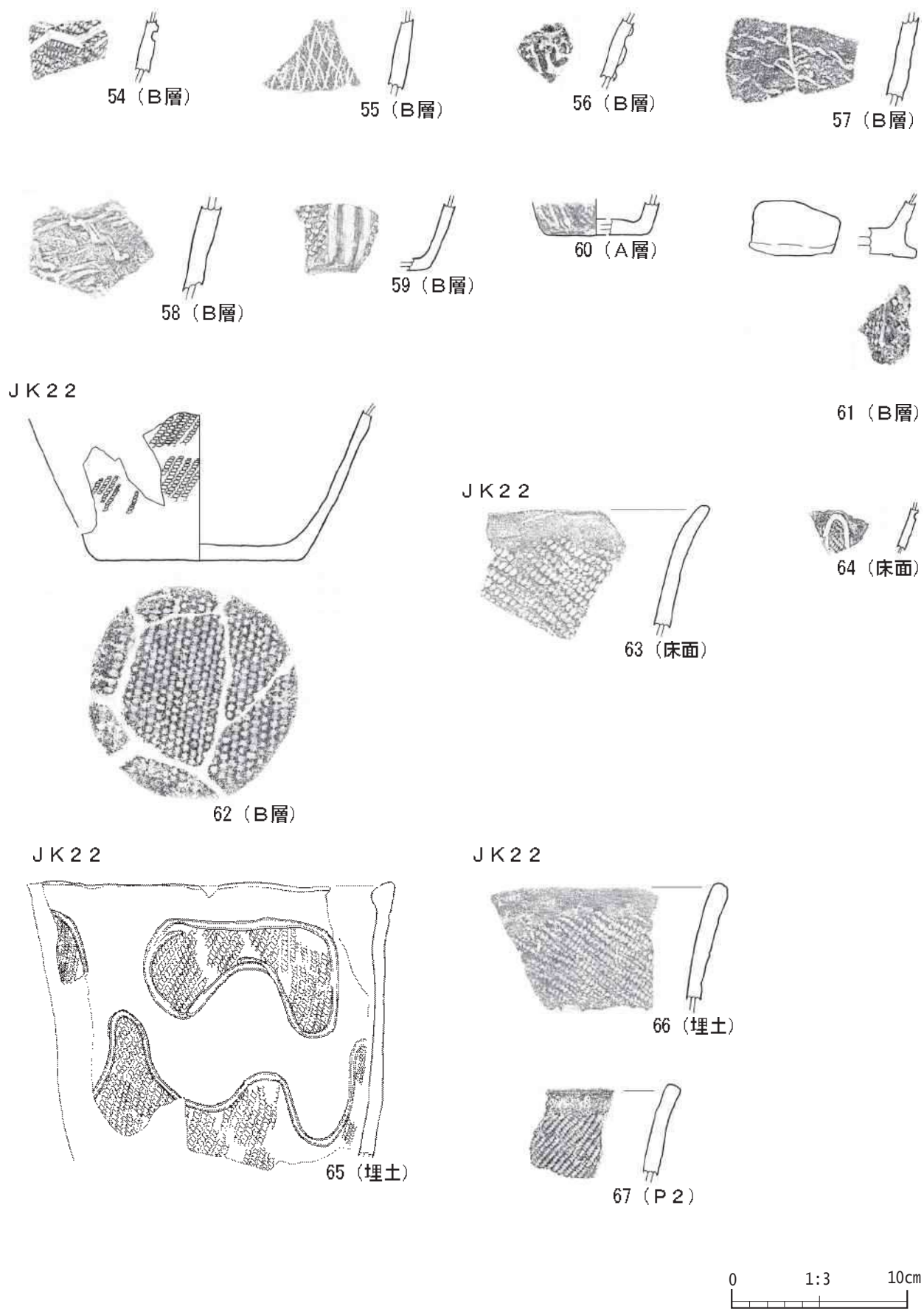


图97 JH22竖穴住居跡 JK22土坑跡出土遺物 (3)

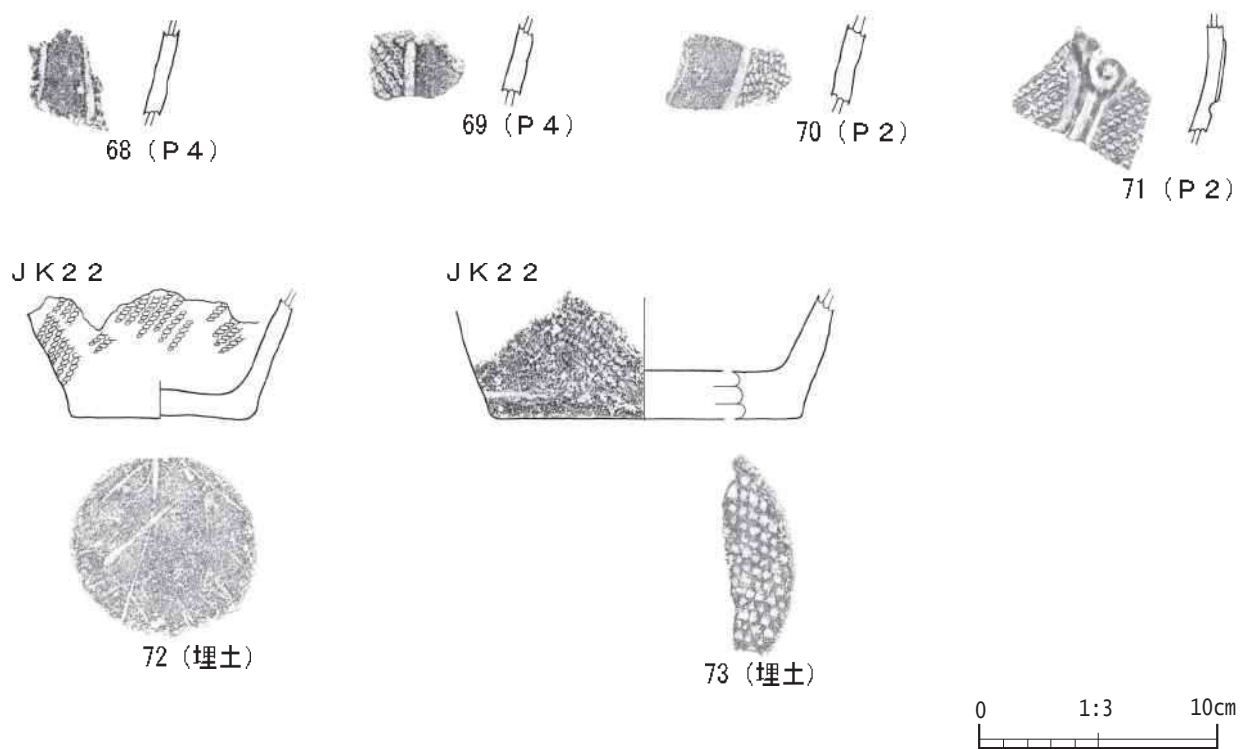


图98 JH22竖穴住居跡 JK22土坑跡出土遺物(4)

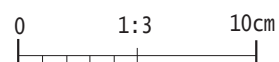
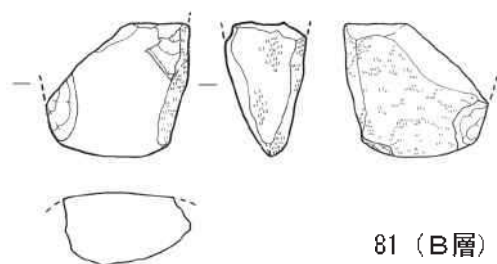
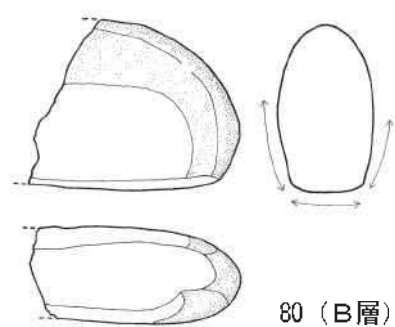
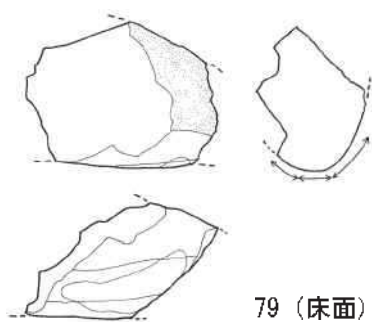
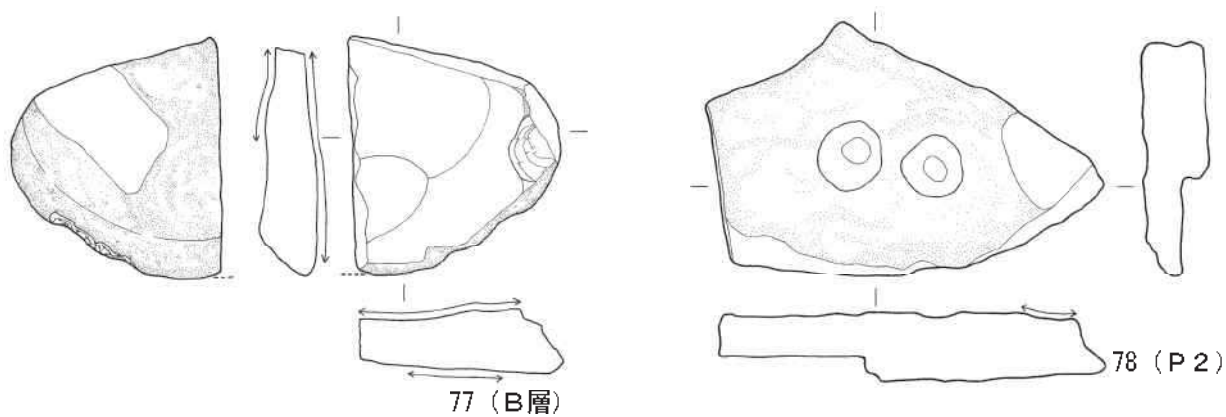
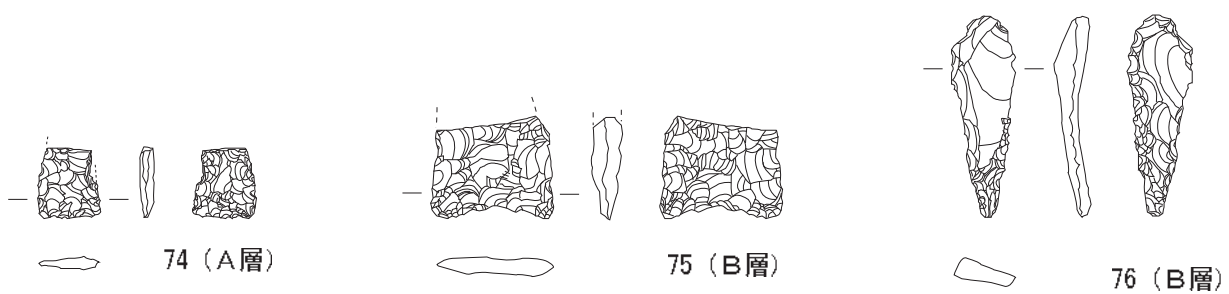


图99 JH22竖穴住居跡出土遺物(5)

J H 2 3 竪穴住居跡、J K 1 4、X K 1 7 土坑跡

J H 2 3 竪穴住居跡（図100、101）

J H 2 8 の北西に位置する。平面形は楕円形と推測される。規模は、東西5.8m、南北推計5.0mを測る。埋土は3層に分かれる。床面の中央、南東隅に炉を設ける。床面の周縁で小土坑跡4基を検出している。北西の壁際で溝跡を検出している。

炉跡（図102）

方形石組の複式炉である。規模は、南北1.6m、東西最大幅1.0mを測る。r 2層が軟質な焼土層である。方形の掘方、炉石の据方を確認している。

出土遺物（図103～105）

1～30は縄文土器である。

＜埋土＞ 1は浅鉢である。口縁部に沈線をめぐらし、下半を縄文で埋める。2～5は口縁部である。2は隆帯で施文される。3は斜縄文で施文される。4は原体圧痕に施文である。5は条痕と沈線で施文される。6～19は体部片である。6～9は沈線で区画し、縄文を施文する。11～14は隆沈線で施文される。15は横位の沈線で無文帯と縄文を区画する。16は粘土紐が貼付される。17、18は撚糸文で施文される。19は原体圧痕で施文する。20の小形鉢は無文で、底面に網代痕を残す。

＜床面＞ 21～24は口縁部である。21は沈線でL字状の区画を施し、縄文を施す。22、23も沈線による区画と縄文で施文する。24は撚糸文で施文される。25～29は体部片である。25は平行沈線で文様帯を区画する。26、27は沈線による区画と縄文で施文する。28、29は隆沈線による施文である。30の底部は、底面に網代痕を残す。

31～33は剥片石器である。31は石匙である。32は凹基の石鏃、33は凸基の石鏃である。

34～37は礫石器である。34、35は敲打磨石である。両側面に調整磨面をもつ。36、37は砥石である。

時期は縄文時代中期に伴う。

J K 1 4 土坑跡（図100）

J H 2 3 の北に位置する。平面形は円形である。規模は、径1.2m、深さ1.0mを測る。埋土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

X K 1 7 土坑跡（図100、101）

J H 2 3 の北東に位置する。平面形は楕円形と推測される浅い土坑である。底面南側に小土坑が掘られる。規模は、東西0.9mである。遺物は出土していない。

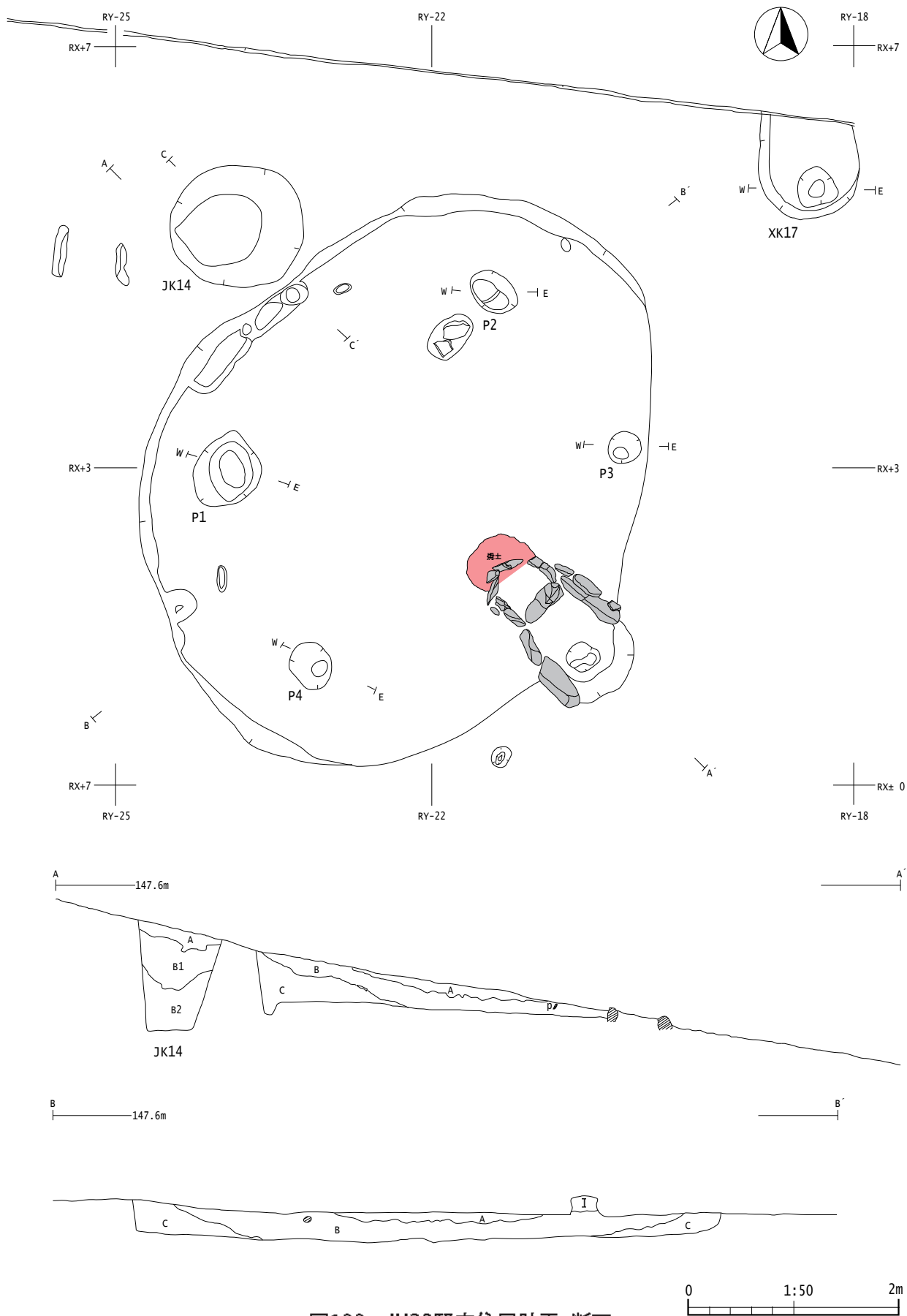


图100 JH23竖穴住居跡平·断面

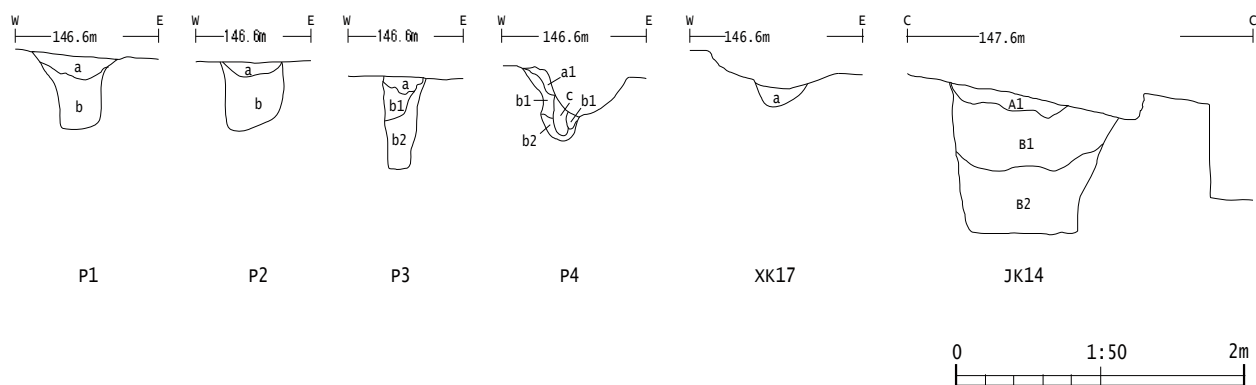


図101 JH23竪穴住居跡柱穴 JK14 XK17土坑跡断面

JH23竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少、木炭粉、全体に明るい地山を含んでいる
竪穴埋土	B 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	やや軟質、粘性やや少、木炭1%
竪穴埋土	C 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 1%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性あり、土器、木炭微量

JH23竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	軟質、粘性少、木炭粉1%
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%塊状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	軟質、粘性少、しまり弱、木炭粉微量
柱穴P2埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	軟質、木炭粉2%
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	軟質、木炭、粘性弱、P1,P2の埋土はa、b層ともほぼ同様の状況である全体にボクボク
柱穴P3埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	軟質、しまり弱、やや粘性あり
	b1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	軟質、しまり弱
	b2 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 7%塊状	やや硬質、塊状構造、しまり弱
柱穴P4埋土	a1 10YR4/6 褐色砂質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 10%塊状	軟質、中、塊状構造、攪乱穴の壁?
	b1 10YR5/6 黄褐色砂質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3%粒~塊状 10YR5/8 黄褐色砂質壤土 1%粒~塊状	中、中、塊状構造、極微量の炭片
	b2 10YR5/8 黄褐色砂質壤土	10YR4/4 褐色砂質壤土 5%粒状	中、中、塊状構造
	c 10YR4/4~10YR4/6 褐色砂質壤土	10YR5/8 黄褐色砂質壤土 1%粒状	中~軟、疎~中、塊状構造、柱痕跡?

JK14土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、粘性ややあり、粉状構造、土器、木炭粉粒(径3~5mm)を特徴的に3%含む
土坑埋土	B1 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、基本土は塊状のボロボロ土
土坑埋土	B2 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり、B1層よりやや黄色が強く少々砂の流入が高い

XK17土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	a 注記なし		

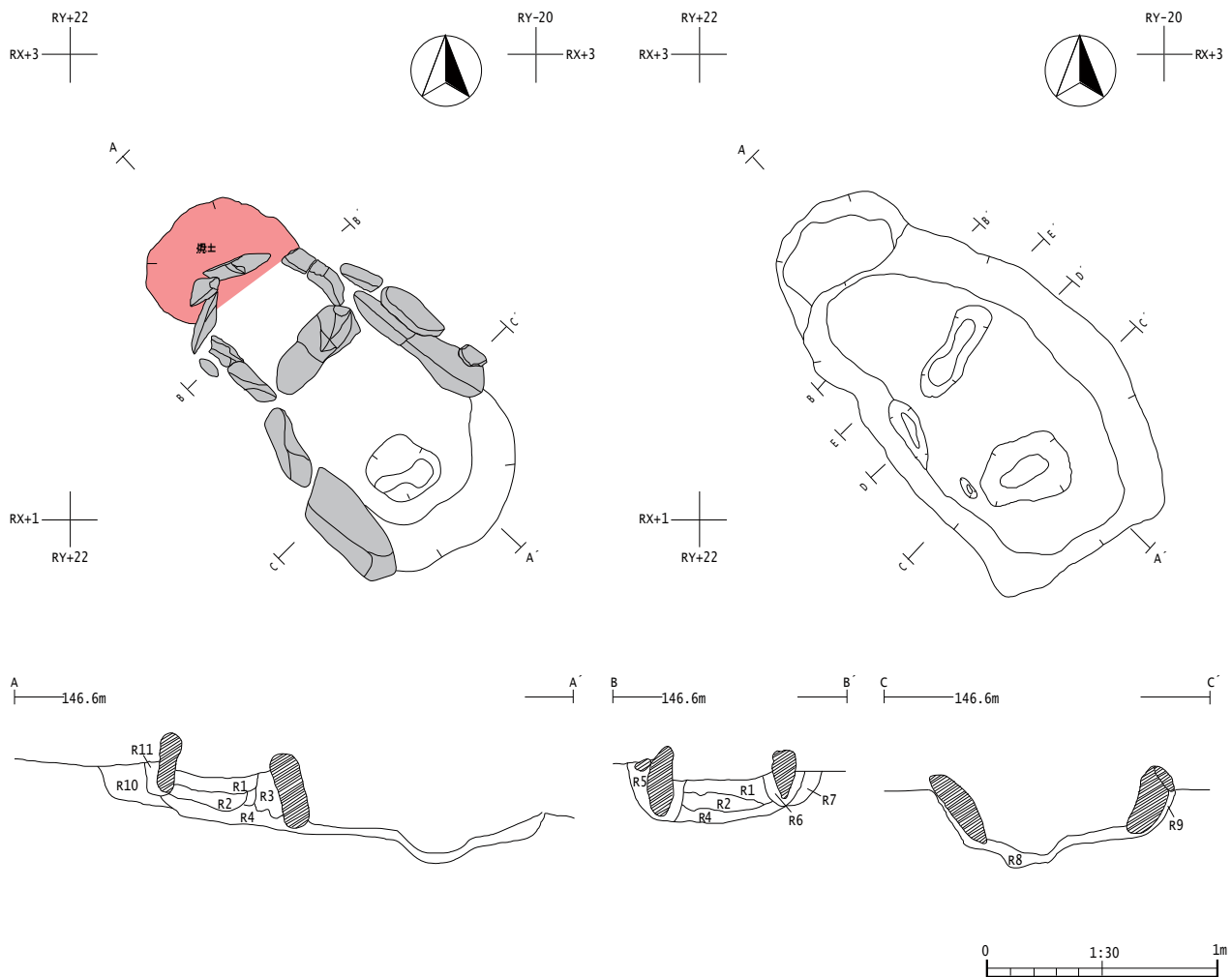


図102 JH23竪穴住居跡炉跡平・断面

JH23竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	R 1 10YR3/2 黒褐色シルト質埴土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 15%塊～粒状 10YR2/2 黒褐色シルト質埴土 3%粒状	軟質、中、塊状構造、埴土粒を極少量混ざる
炉跡焼土	R 2 2.5YR4/8 赤褐色焼土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 5%粒状 5YR5/6 明赤褐色焼土 7%粒～小塊状	軟質、中～疎、塊状構造、埴土→R 4層にその浸透あり
炉跡埋土	R 3 10YR3/3 暗褐色シルト質埴土	2.5YR4/8 赤褐色焼土 2%粒状	軟質、中、塊状構造、石の掘りこみ穴
炉跡埋土	R 4 10YR5/8 黄褐色砂質埴土	7.5YR5/6 明褐色焼土 10%浸透層 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 5%塊状	中～固、中～密、塊状構造
炉跡埋土	R 5 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土	10YR5/6 黄褐色砂質埴土 5%粒～小塊状	中、中、塊状構造、石の穴
炉跡埋土	R 6 10YR4/4 褐色シルト質埴土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴土 3%粒塊状 10YR5/8 黄褐色砂質埴土 1%粒状	軟～中、中、塊状構造、石の穴
炉跡埋土	R 7 10YR4/6 褐色砂質埴土	10YR5/8 黄褐色砂質埴土 20%粒～小塊状	中、中～疎、塊状構造、掘り形埋土
炉跡埋土	R 8 10YR5/6 黄褐色砂質埴土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 3%塊状(床面近く)	中、中、塊状構造、掘り形埋土
炉跡埋土	R 9 10YR4/6 褐色シルト質埴土	10YR5/6 黄褐色砂質埴土 10%粒状	軟～中、中、塊状構造、掘り形埋土
炉跡埋土	R 10 2.5YR4/8 赤褐色焼土	10YR4/4 褐色シルト質埴土 5%塊状 10YR5/6 黄褐色砂質埴土 3%塊～粒状 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 10%塊～粒状	軟質、中、塊状構造、I部の埴土層
炉跡埋土	R 11 10YR3/3～3/4 暗褐色シルト質埴土	2.5YR4/8 赤褐色焼土 3%粒状	軟質、疎、塊状構造

〈埋土〉

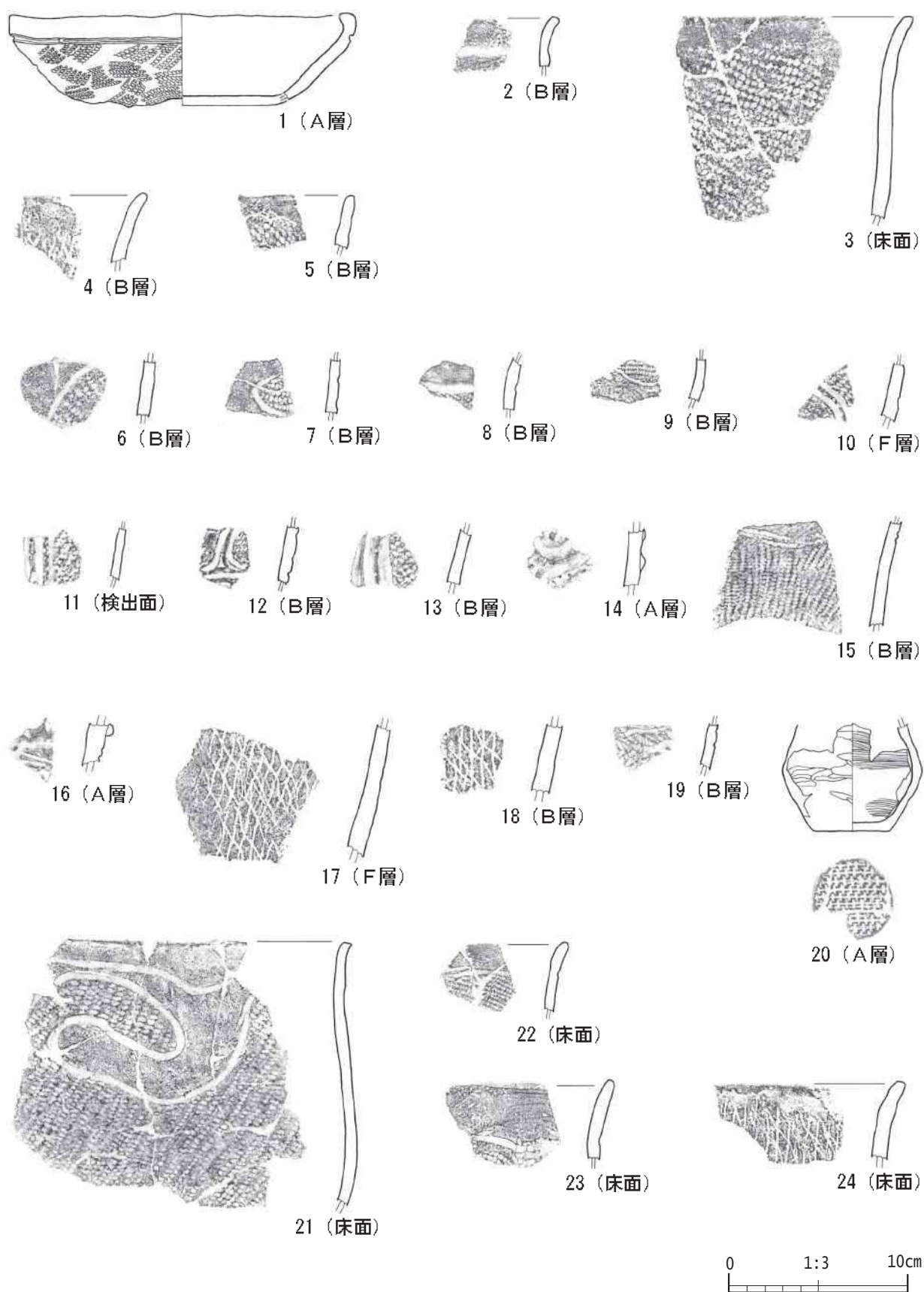


図103 JH23竪穴住居跡出土遺物(1)

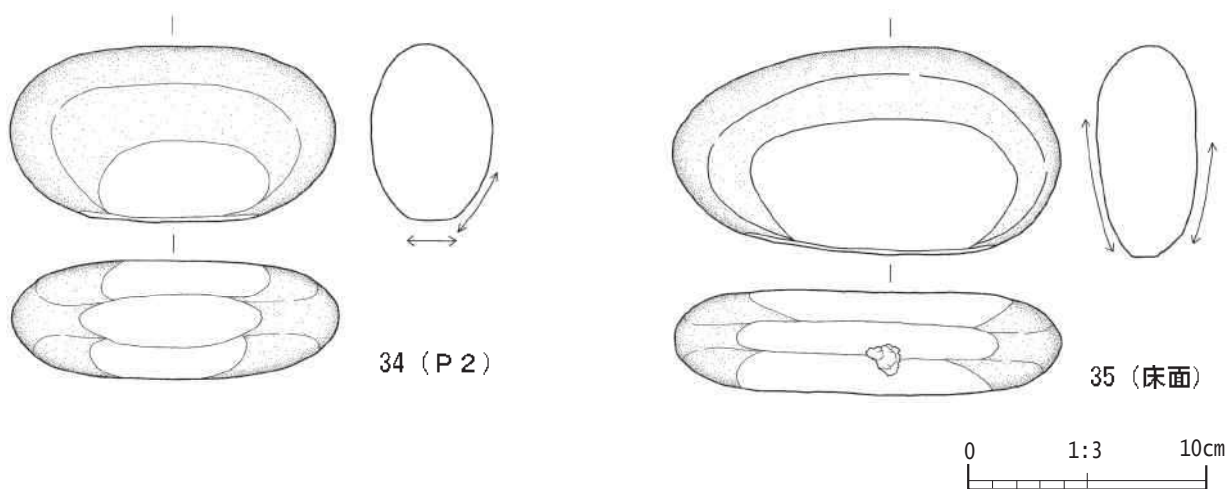
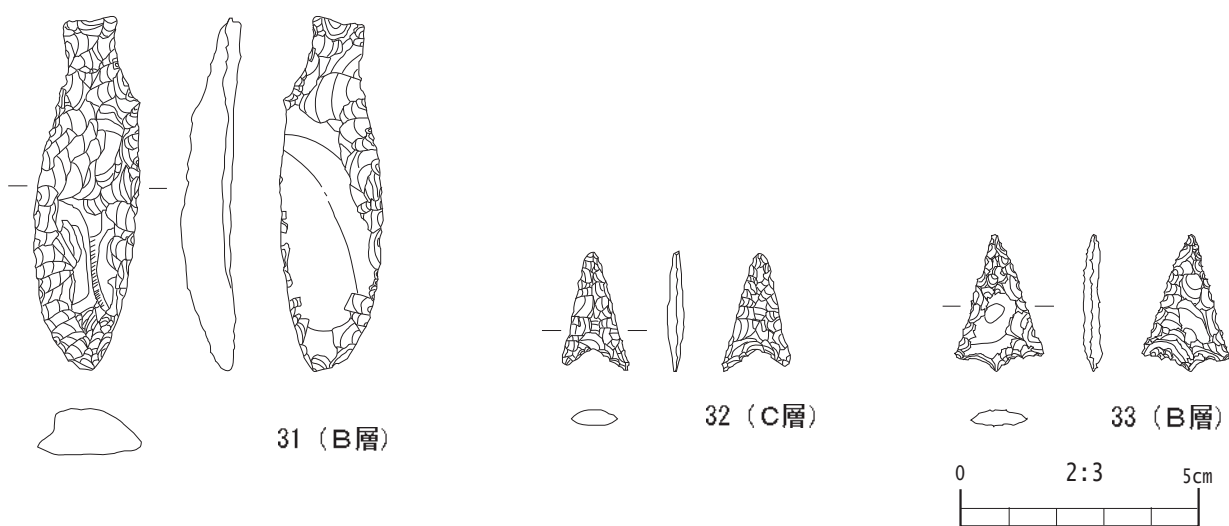
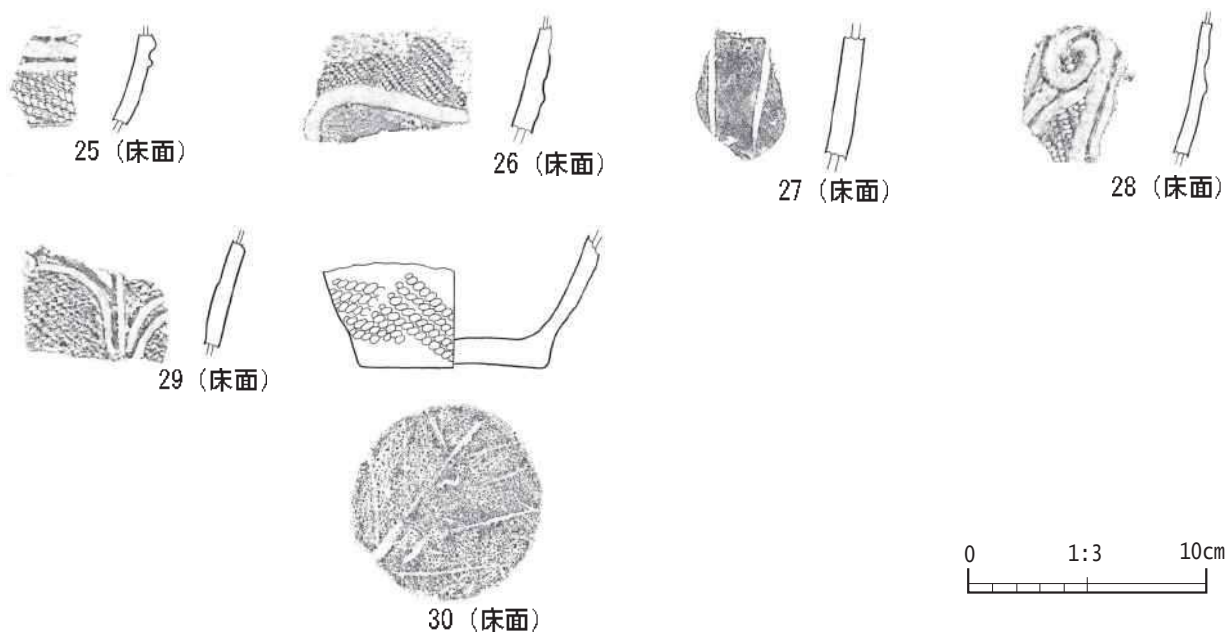


圖104 JH23豎穴住居跡出土遺物 (2)

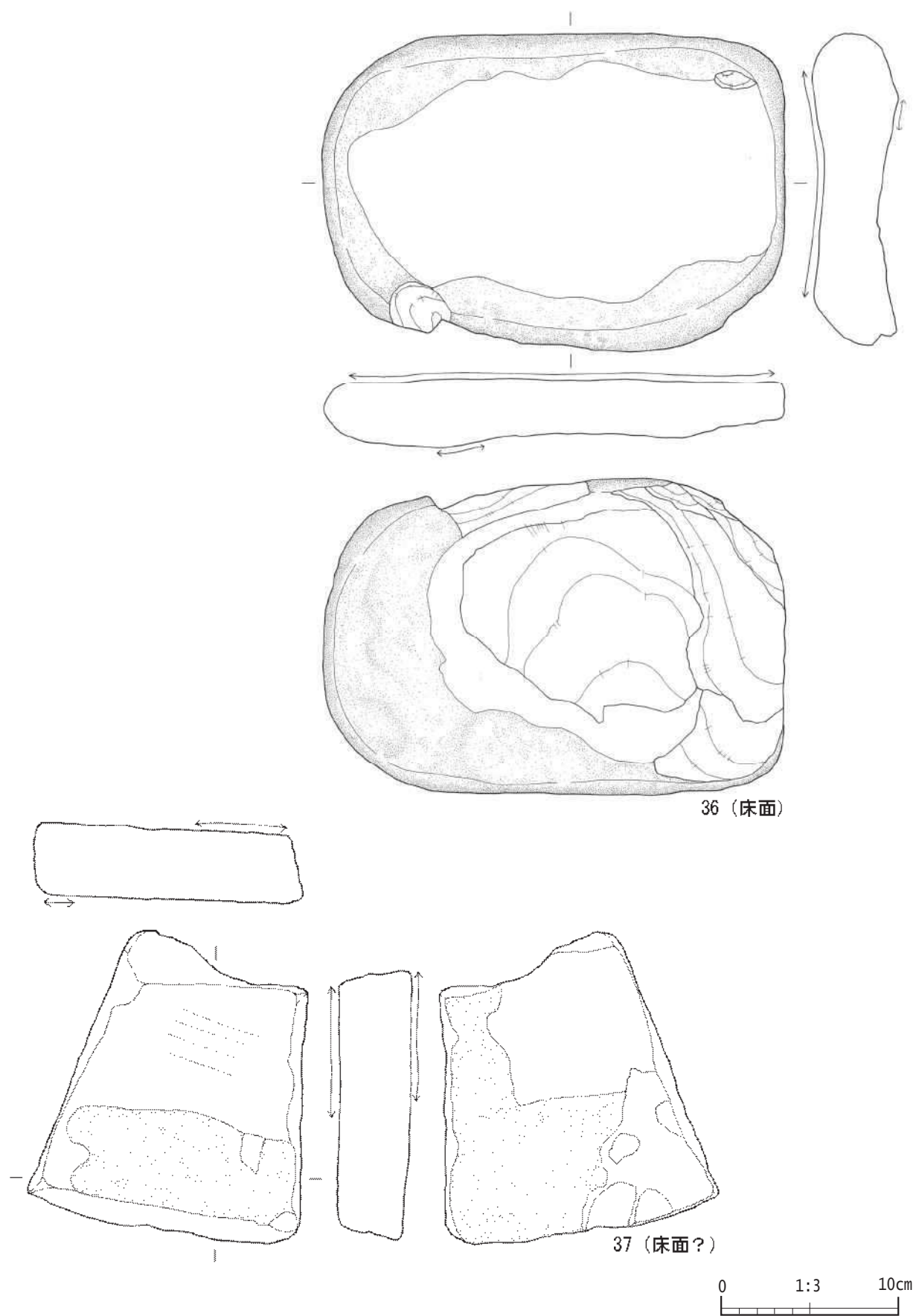


図105 JH23竪穴住居跡出土遺物 (3)

J H 2 4、J H 2 5 竪穴住居跡、J K 1 7、J K 1 8 土坑跡

J H 2 4 竪穴住居跡 (図106)

J H 2 3 の南西に位置する。平面形は楕円形をなすものと推測される。規模は、南北3.7mを測る。埋土は2層に分かれる。床面から小土坑跡1基を検出している。炉跡、周溝などは出土していない。

出土遺物 (図107)

1～10は縄文土器である。

1～4は口縁部である。1は浅鉢である。平行沈線を長方形に区画する。2の小形鉢は、山形口縁である。沈線で、縄文と無文帯を区画する。3は隆沈線による施文である。4の口縁部は無文である。5～8は体部片である。5は沈線よる区画と縄文を伴い、6～8は隆沈線で施文される。9は隆沈線で施文された口縁部である。10は粘土瘤と隆帯を貼り付け、隆帯には刻みが入る頸部である。

時期は縄文時代中期に伴う。

J H 2 5 竪穴住居 (図106)

J H 2 4 の南西に位置する。平面形は楕円形をなすものと推測される。規模は、東西3.0mを測る。埋土は2層に分かれる。床面からは、小土坑跡3基、壁際で周溝が確認されている。炉跡は検出していない。

出土遺物 (図108)

1、2は縄文土器である。

1は斜縄文で施文された口縁部である。2は隆沈線を伴う体部片である。

3は礫石器である。両側面に調整磨面を伴う敲打磨石である。

時期は縄文時代中期に伴う。

J K 1 7 土坑跡 (図106)

J H 2 4 の北西に位置する。平面形は円形である。規模は、径1.4m、深さ1.0mを測る。埋土は3層に大別される。遺物は出土していない。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

J K 1 8 土坑跡 (図106)

J H 2 5 の北西に位置する。平面形は不整円形である。規模は、径1.2m、深さ0.3mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

時期は不明である。

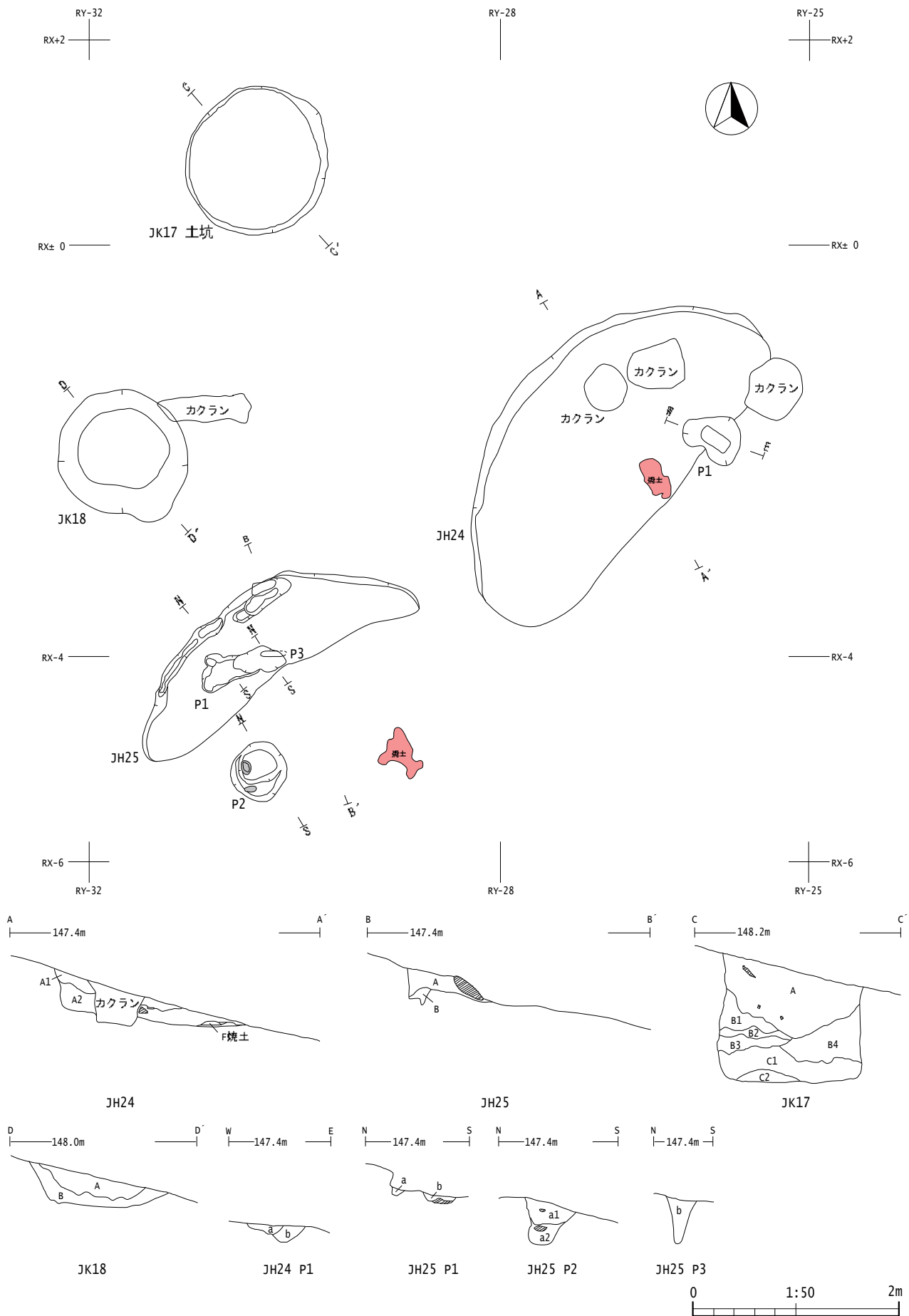


図106 JH24 JH25竪穴住居跡 JK17 JK18土坑跡平・断面

JH24竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 1	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、粘性少、粉状構造、木炭粉
竪穴埋土	A 2	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや硬質、粉粒状構造、土器礫、木炭粉
焼土	F	2.5YR4/6 赤褐色焼土	10YR4/4 褐色壤土 1%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや硬質

JH24竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状 10R5/8 黄褐色壤土 5%塊状	やや軟質、粘性少々あり、土器、木炭微量
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状 10R5/8 黄褐色 2%粉粒状	やや軟質、粘性少々あり

JH25竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状	やや硬質、粘性ややあり、土器、木炭粉微量
竪穴埋土	B	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粒状	やや軟質、粘性ややあり、土器

JH25竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴P1埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	硬質、しまりあり、土器少量、木炭粒
	b	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%塊状	やや硬質、しまりあり、土器、木炭粒、礫少量
柱穴P2	a 1	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%塊状 (径2-3cm) 10YR4/4 褐色シルト質壤土 1%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性ややあり、土器、木炭粉微量、焼土粒少量、風化砂岩、花崗岩 S 1
	a 2	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり、粉状構造=基本土が全体に粉状である、風化花崗岩 S 2

JK17土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%塊状～粒状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、粘性ややあり、粉粒状構造、一部塊状構造、土器片、木炭粒(径3-5mm)2%、礫(同質)、焼土粒、一括埋土で層状の構造は見られない、
土坑埋土	B 1	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、粘性あり、少々褐色土を混ざる
土坑埋土	B 2	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状 10YR4/6 褐色壤土 1%粒状	やや軟質、粘性ややあり
土坑埋土	B 3	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、粘性あり、粉粒状構造、土器
土坑埋土	B 4	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、粘性ややあり、粉状構造
土坑埋土	C 1	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 3%塊状 10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、粘性ややあり、塊状構造、木炭粉微量
土坑埋土	C 2	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 1%粒状 10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	硬質、木炭粉微量

JK18土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒状 10YR	やや硬質、粘性ややあり
土坑埋土	B	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 2%粉状	硬質、粘性あり、全体に塊状のかたまり、塊状構造で隙間に混入土が少々入る

〈埋土〉

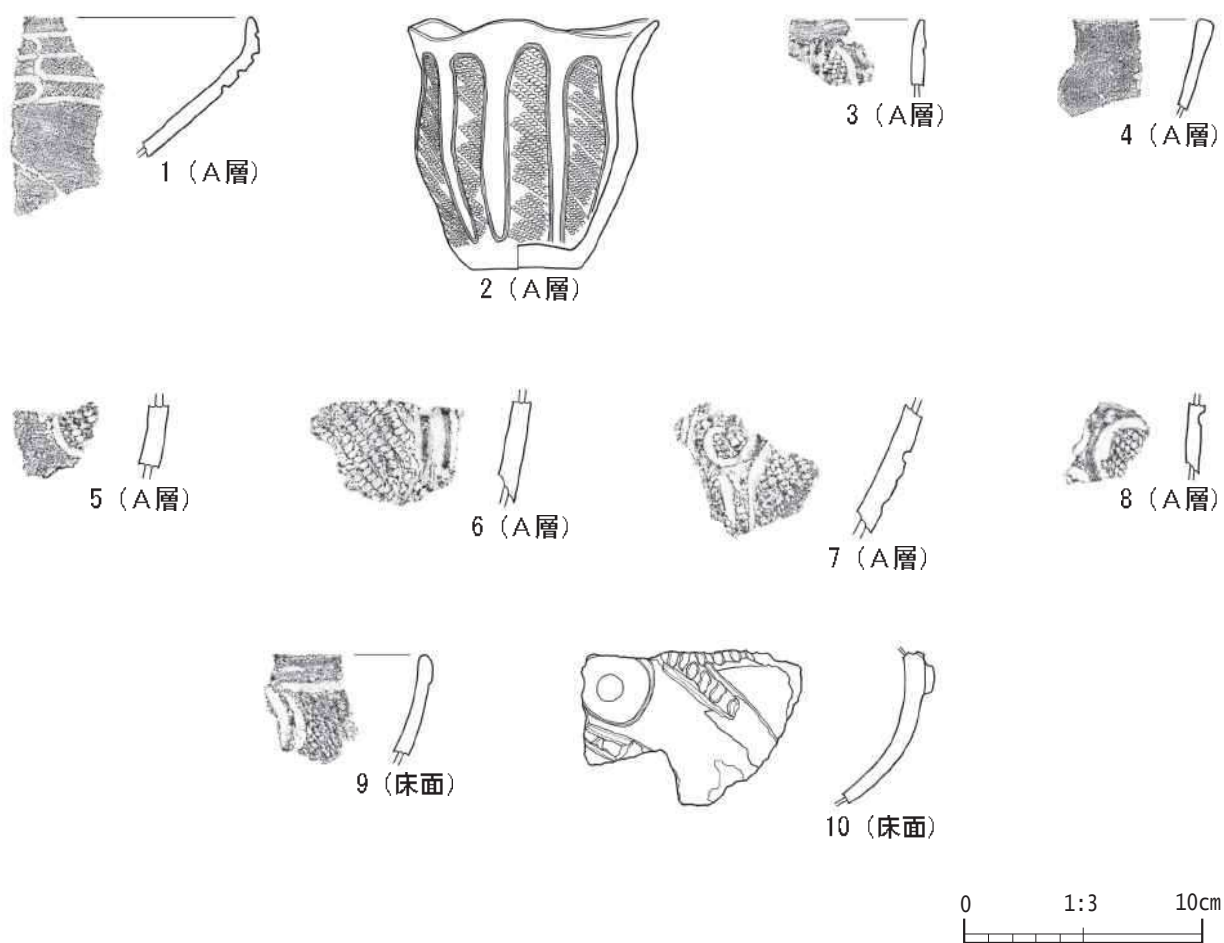


图107 JH24竖穴住居跡出土遺物

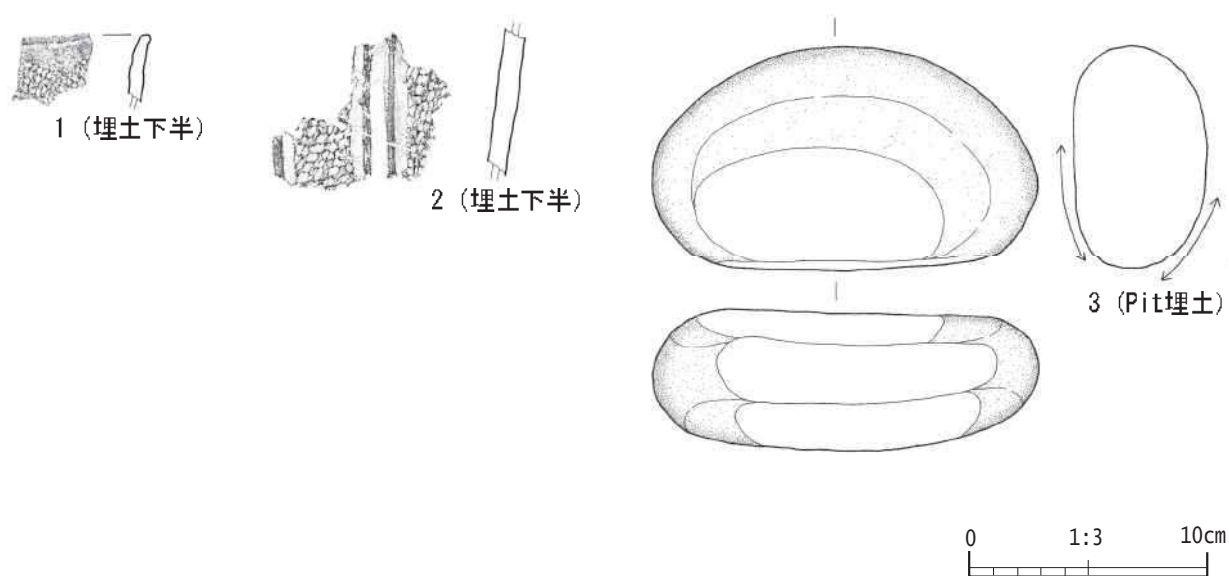


图108 JH25竖穴住居跡出土遺物

J H 2 6 竪穴住居跡、J K 1 6 土坑跡

J H 2 6 竪穴住居跡（図109）

J H 2 3 の西に位置する。平面形は隅丸方形と推測される。規模は、南北2.8mを測る。埋土は1層である。炉跡、柱穴跡、周溝は確認していない。

出土遺物（図110）

1は縄文土器の頸部である。隆帯をめぐらし、沈線で施文する。2は礫石器の砥石である。磨面に溝跡を残す。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

J K 1 6 土坑跡（図109）

J H 2 6 の南に位置する。平面形は円形である。規模は、0.9m、深さ0.9mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は縄文土器片が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期は不明である。

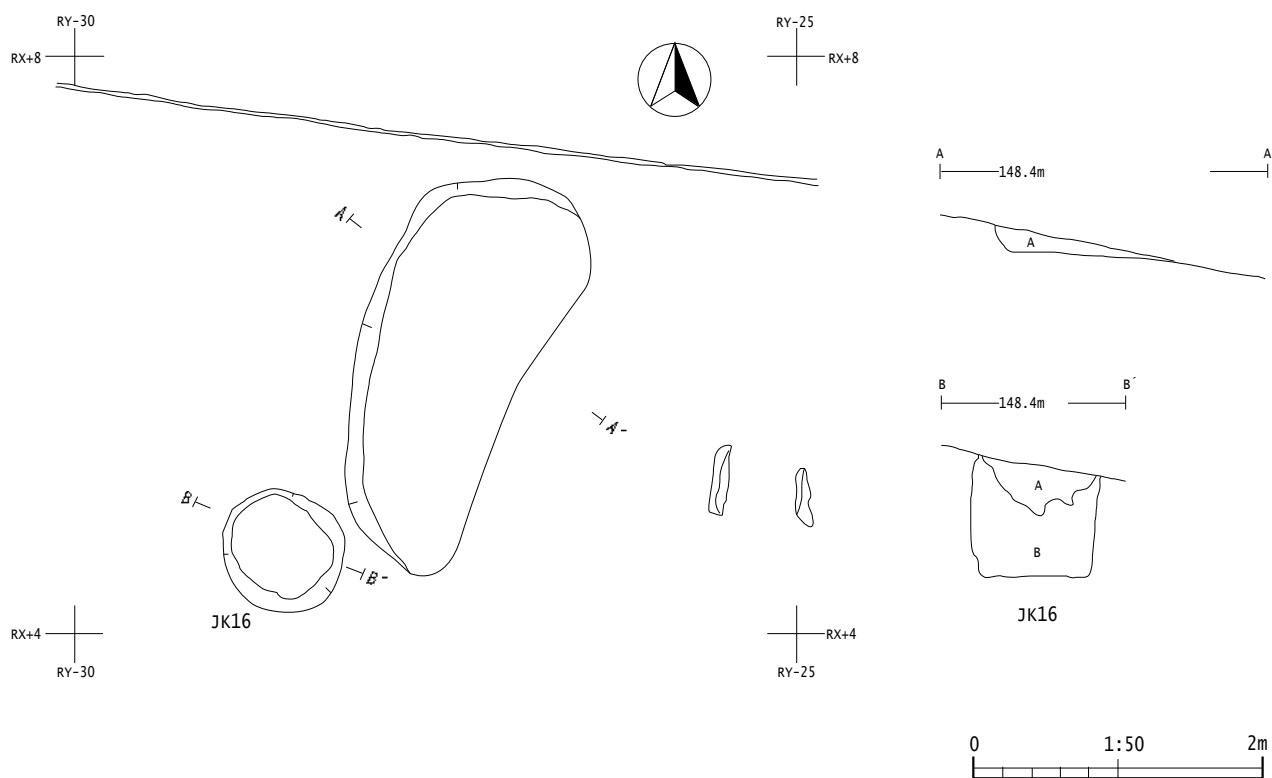


図109 JH26竪穴住居跡 JK16土坑跡平・断面

JH26竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり、木炭粉1%

JK16土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性少々あり、土器、木炭粉1%
土坑埋土	B 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%塊状（こぶし大）	やや硬質、しまりあり、木炭

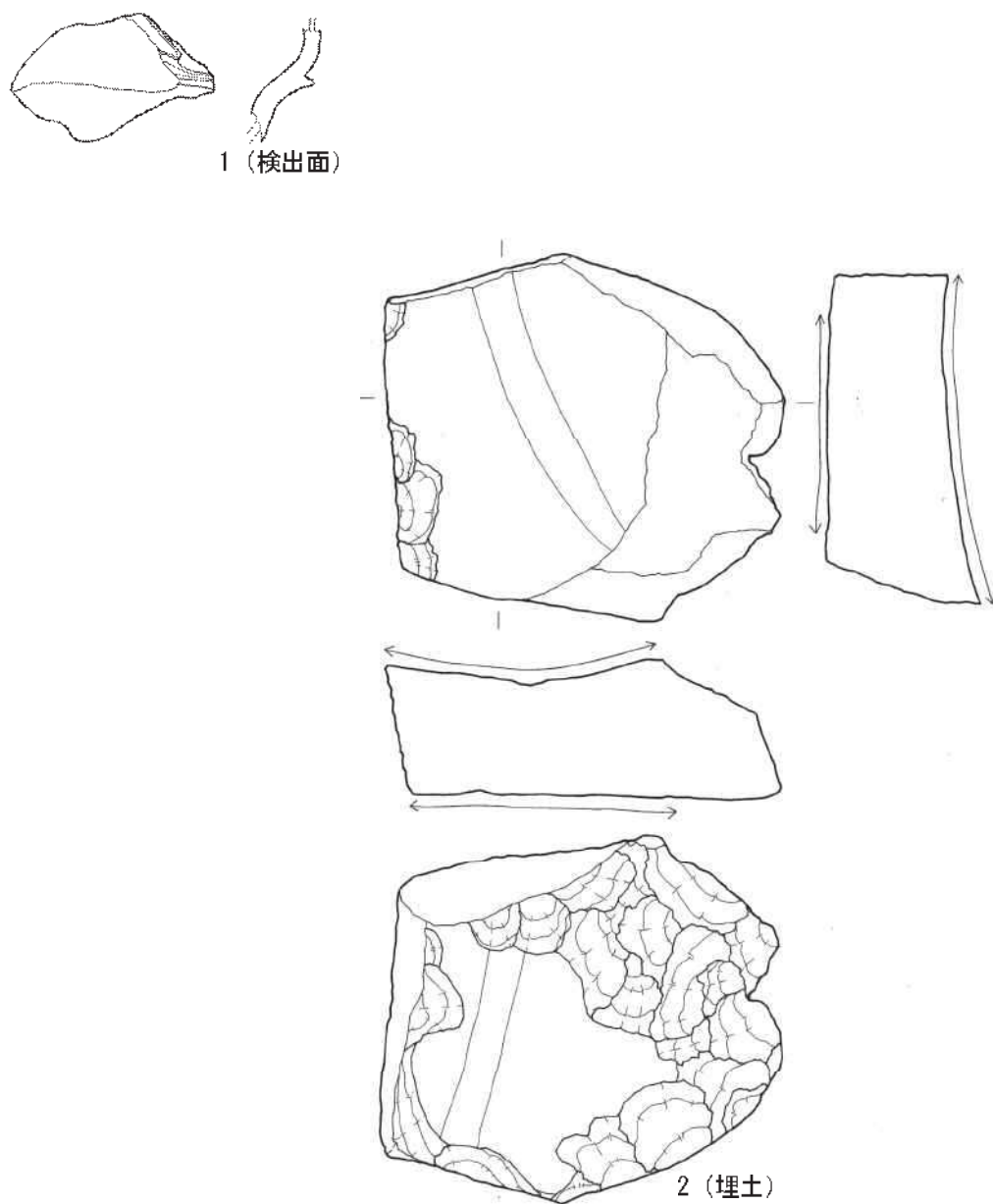


图110 JH26竖穴住居跡出土遺物

J H 2 7 竪穴住居、J K 1 9 土坑跡

J H 2 7 竪穴住居 (図111)

J H 2 6 の西に位置する。平面形は楕円形である。規模は、南北3.6m、東西3.0mを測る。埋土は3層に分かれる。床面中央、東寄りに炉を設ける。炉の北側で旧炉跡を検出している。床面周辺で小土坑跡、西壁際で周溝を検出している。

炉跡 (新) (図112)

方形の石囲炉である。西側に前庭部を設けた複式炉である。主軸方向は北西である。規模は、南北0.9m、東西0.5mを測る。F層がやや固く焼き締まった焼土層である。方形の掘方、石の据方を確認している。

炉跡 (旧) (図113)

南側の石組が残されており、石囲炉であったと推測される。主軸方向は北東である。掘方の規模は、南北1.0m、東西0.6mである。F層が焼土層である。

出土遺物 (図114)

1～14は縄文土器である。

＜埋土、検出面＞ 1～7は口縁部である。1、2は環状の突起である。3～6は隆沈線で施文される。7は斜縄文で施文される。8～11は体部片である。8、9は沈線で区画し、縄文を施文する。10、11は隆沈線で施文される。

＜床面＞ 12は沈線で区画、縄文を施文する。頸部に環状の把手が付く。13、14は沈線で区画し、縄文を施文する。

15～17は剥片石器である。15は平基の石鏃である。16、17は凹基の石鏃である。

時期は縄文時代中期に伴う。

J K 1 9 土坑跡 (図111)

J H 2 7 の北に位置し、J H 2 7 を切る。平面形は楕円形である。規模は、東西0.8m、南北0.6m、深さ0.4mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

時期は不明である。

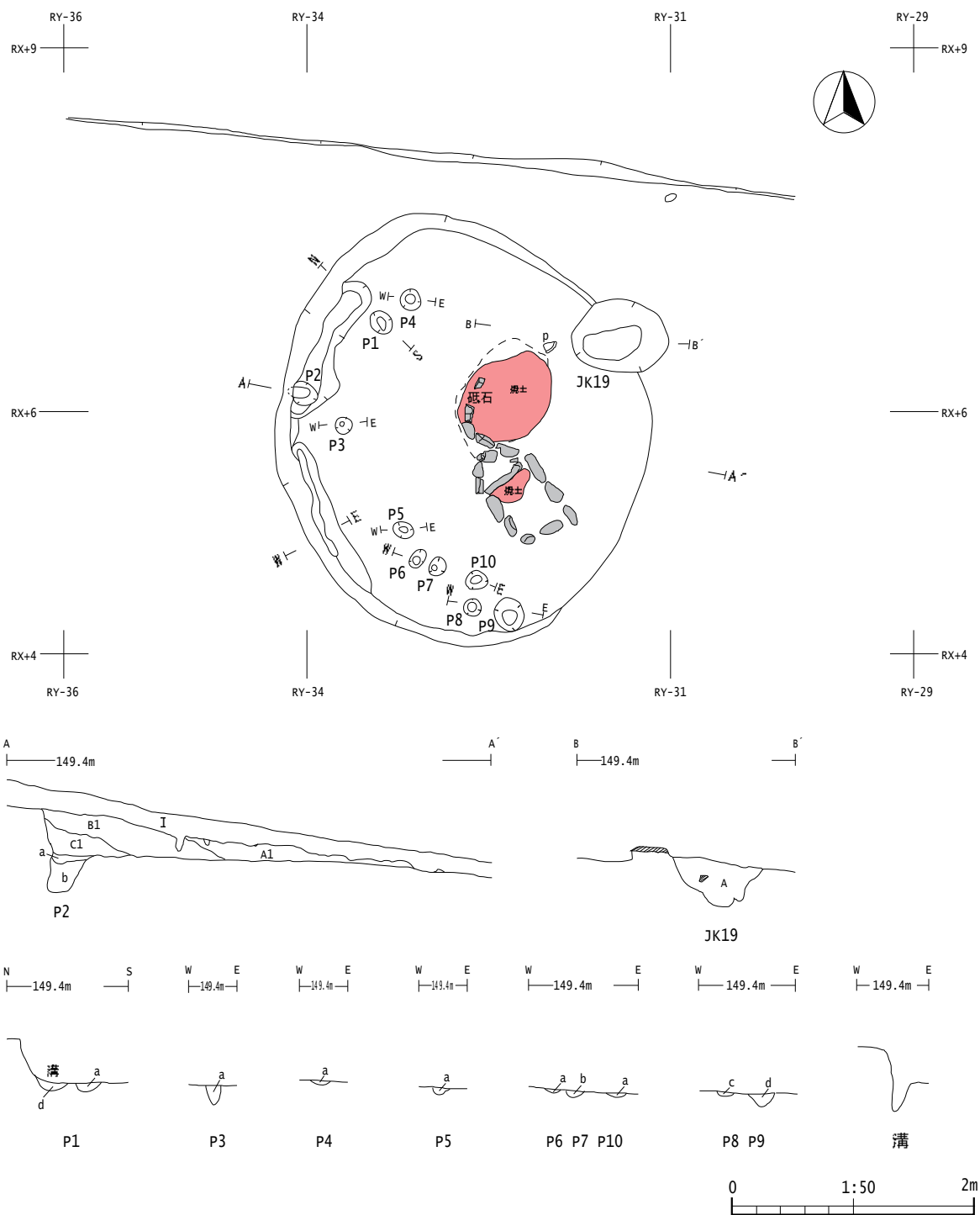


图111 JH27竖穴住居跡 JK19土坑跡X遺構平・断面

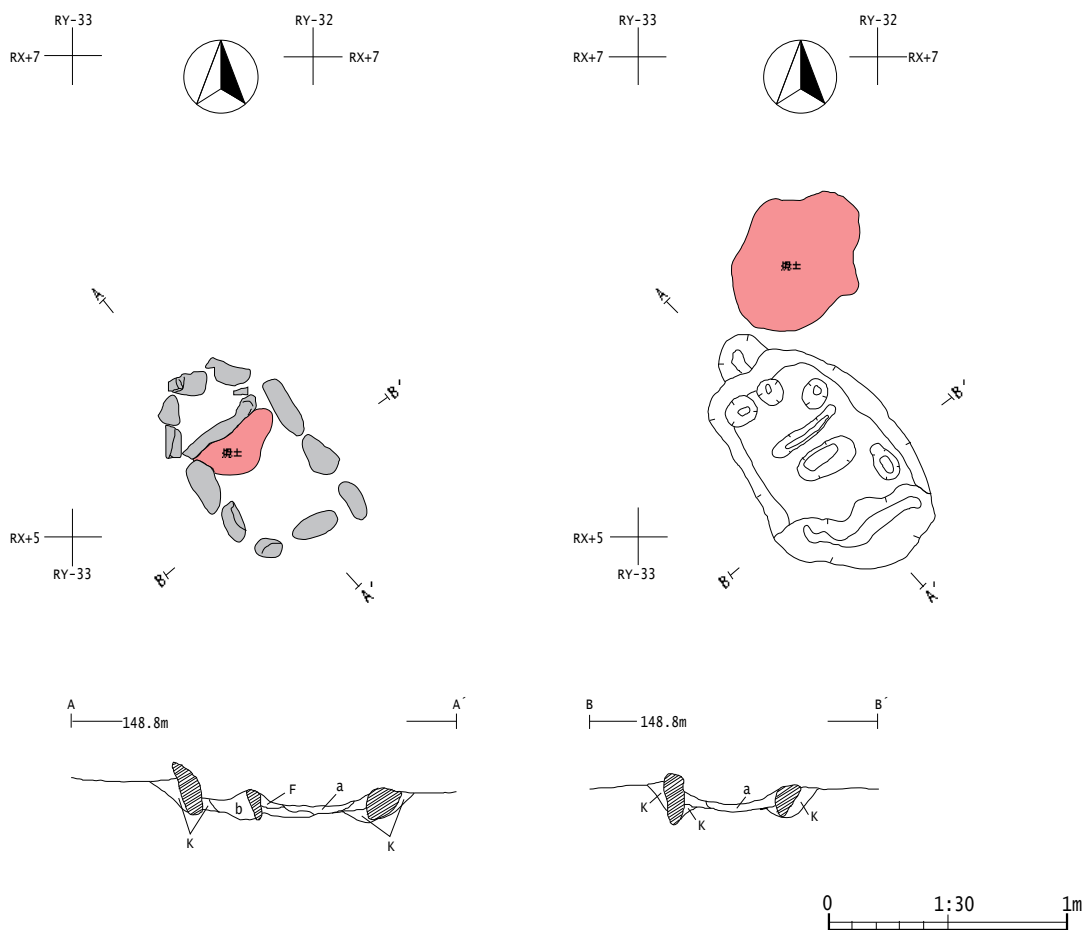


图112 JH27竖穴住居迹(新)炉迹平·断面

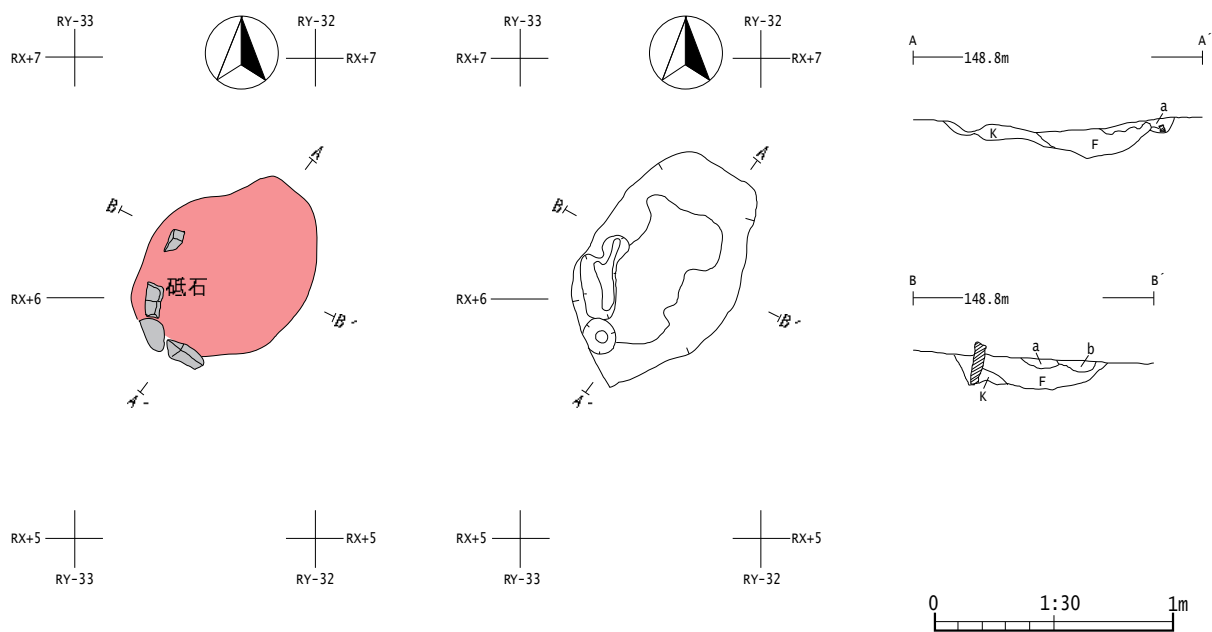


图113 JH27竖穴住居迹(旧)炉迹平·断面

JH27竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A1	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまり弱、木炭粉微量
竪穴埋土	B1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、木炭粉1%
竪穴埋土	C1	10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状 10YR5/8 黄褐色 2%粉状	やや軟質、木炭粉

JH27竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
壁下溝埋土	d	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
柱穴P2埋土	a	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
	b	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性大、木炭粉微量
柱穴P3埋土	a	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色 3%粒状	軟質、しまり弱、粘性中
柱穴P4埋土	a	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
柱穴P5埋土	a	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
柱穴P6埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中
柱穴P7埋土	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粒状	やや軟質、しまり弱、粘性中
柱穴P8埋土	c	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中
柱穴P9埋土	d	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまり弱、粘性中
柱穴P10埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中

JH27竪穴住居跡(新)炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中
炉跡埋土	b	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中、木炭粉微量
焼土	F	10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色焼土 10%粉状	やや軟質、しまりあり
構築土埋土	K	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりややあり、粘性中

JH27竪穴住居跡(旧)炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中、木炭粉微量
炉跡埋土	b	10YR4/6 褐色	10YR3/4 暗褐色壤土 5%	軟質、しまり弱、攪乱か
焼土	F	2.5YR4/8 赤褐色焼土		
構築土埋土	K	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 5%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性大

JK19土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR2/3 黒褐色壤土 2%粉状 10YR4/6 褐色壤土 3%粉状	やや軟質、粘性やや少ない、木炭粉、礫

〈埋土、検出面〉

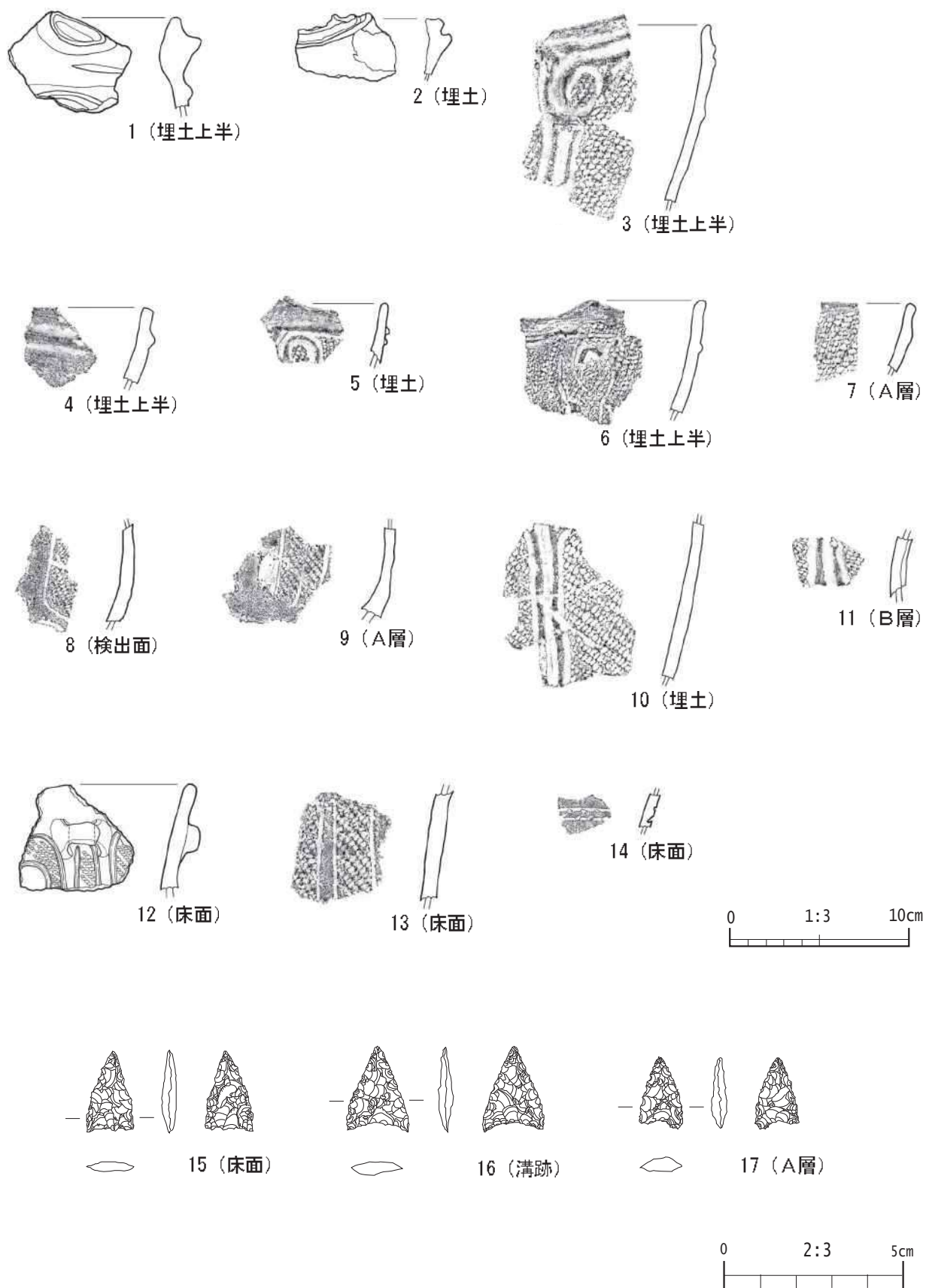


図114 JH27竪穴住居跡出土遺物

J H 2 8 竪穴住居跡 (図115)

J H 2 2 の西に位置する。J H 2 2 に切られる。平面形は長方形である。規模は、東西6.5m、南北4.0mを測る。埋土は3層に大別される。床面中央北寄りに炉跡を設ける。周縁部で小土坑跡、周溝を検出している。

炉跡 (図116)

方形の石囲炉である。規模は、南北50cm、東西40cmである。F2層がやや軟質な焼土層である。方形の掘方を確認している。

出土遺物 (図117～119)

1～32は縄文土器である。

1～16は口縁部である。1～3は隆沈線で施文される。4は斜縄文で施文される。5は隆帯に刺突列が入る。6は三列の平行刺突列である。7は口唇部と頸部に粘土紐が貼付される。8は平行沈線の下に沈線で山形文が描かれる。9～11は口唇部に指頭圧痕が施される。11～14はS字状連鎖文で施文される。17～27は体部片である。17～19は沈線で区画し、縄文を施す。20、21は粘土紐を貼付する。22～24は羽状縄文である。25～27は原体の圧痕と思われる。

28～32は底部である。28は底面に木葉痕を残す。29、30は底面に網代痕を残す。31の底面は無文である。32は尖底土器の底部である。胎土は繊維を含む。

33～38は剥片石器である。33～37は平基の石鏃である。38は石匙である。

39～41は礫石器である。39、40は磨製石斧である。41は端部に打痕をもつ敲石である。時期は縄文時代前期に伴う。

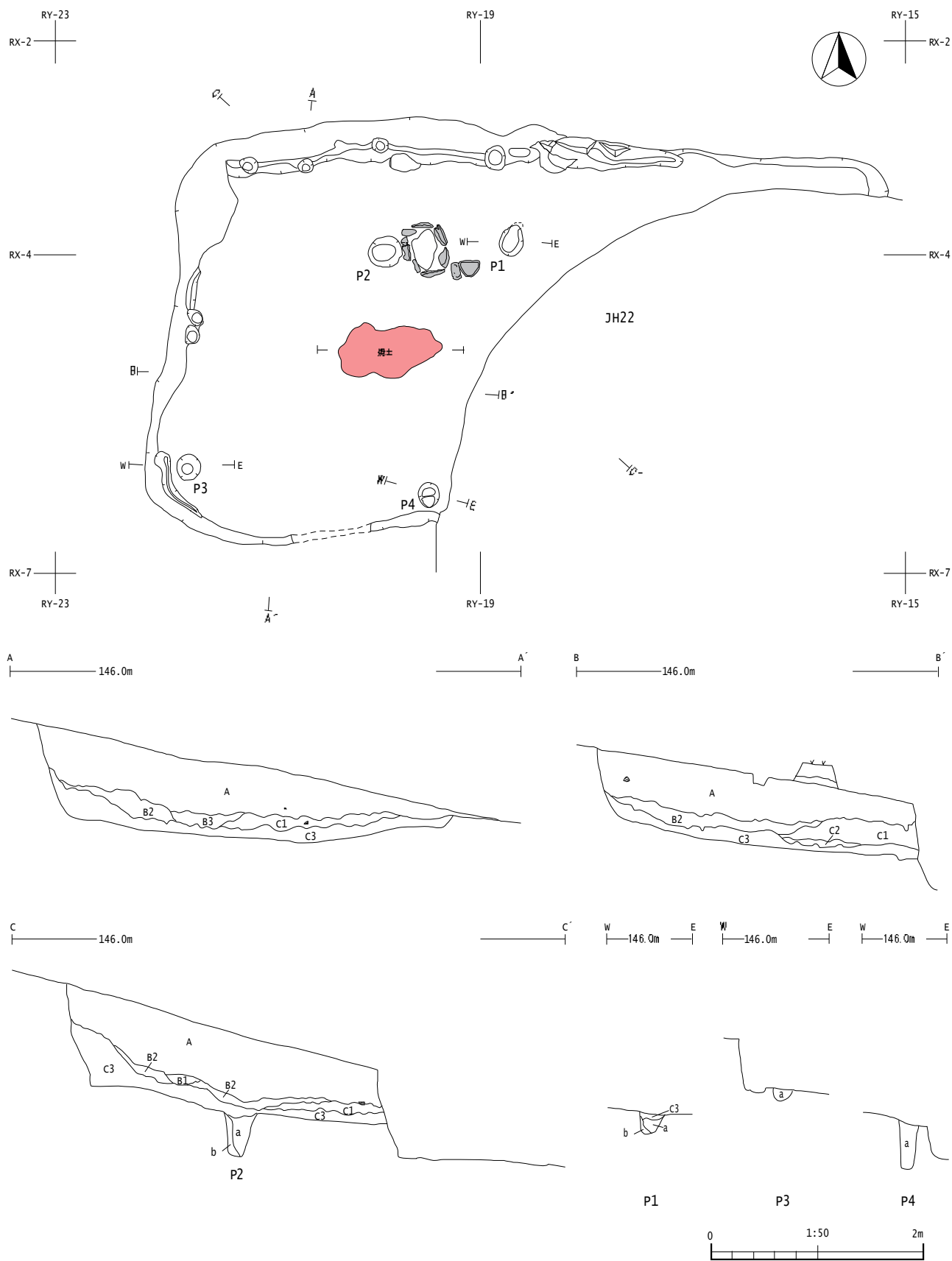


图115 JH28竖穴住居跡平·断面

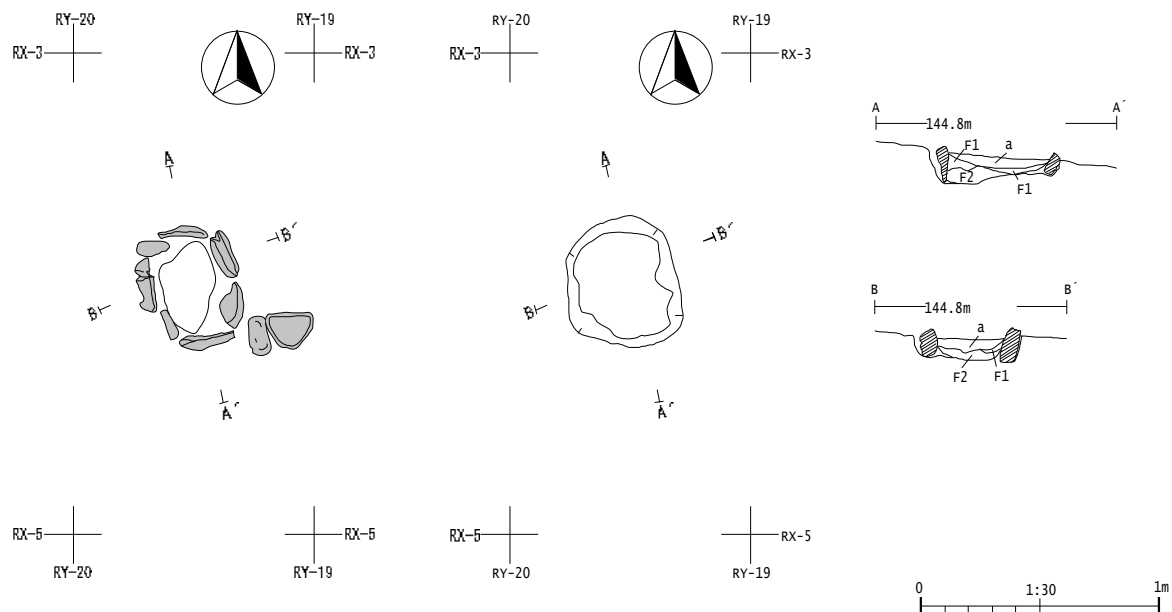


図116 JH28竪穴住居跡炉跡平・断面

JH28竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少、木炭粉1%
焼土	B 1 2.5YR4/8 赤褐色焼土	10YR4/6 褐色壤土 5%粉状	
木炭・焼土含層	B 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状 2.5YR4/8 赤褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉多量(3~10%)
	B 3		
竪穴埋土	C 1 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 5%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少、木炭微量
焼土混土	C 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状 5YR4/8 赤褐色壤土 5%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、粘性少
竪穴埋土	C 3 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや硬質、しまりあり、木炭粉微量

JH28竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 2%	軟質
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり
柱穴P2埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%粒状 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3%粉状	全体に軟質、しまり弱、粘性ややあり
	b 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 2%粉状	a層より硬質、ややしまりあり

JH28竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	軟質、粘性あり、木炭微量
炉跡埋土	F 1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 3% 5YR4/6 赤褐色壤土焼土 5%粉粒状	軟質、しまりやや弱
炉跡埋土	F 2 5YR4/6 赤褐色壤土(焼土)	10YR4/6 褐色 2%粉状	やや硬質、しまりあり

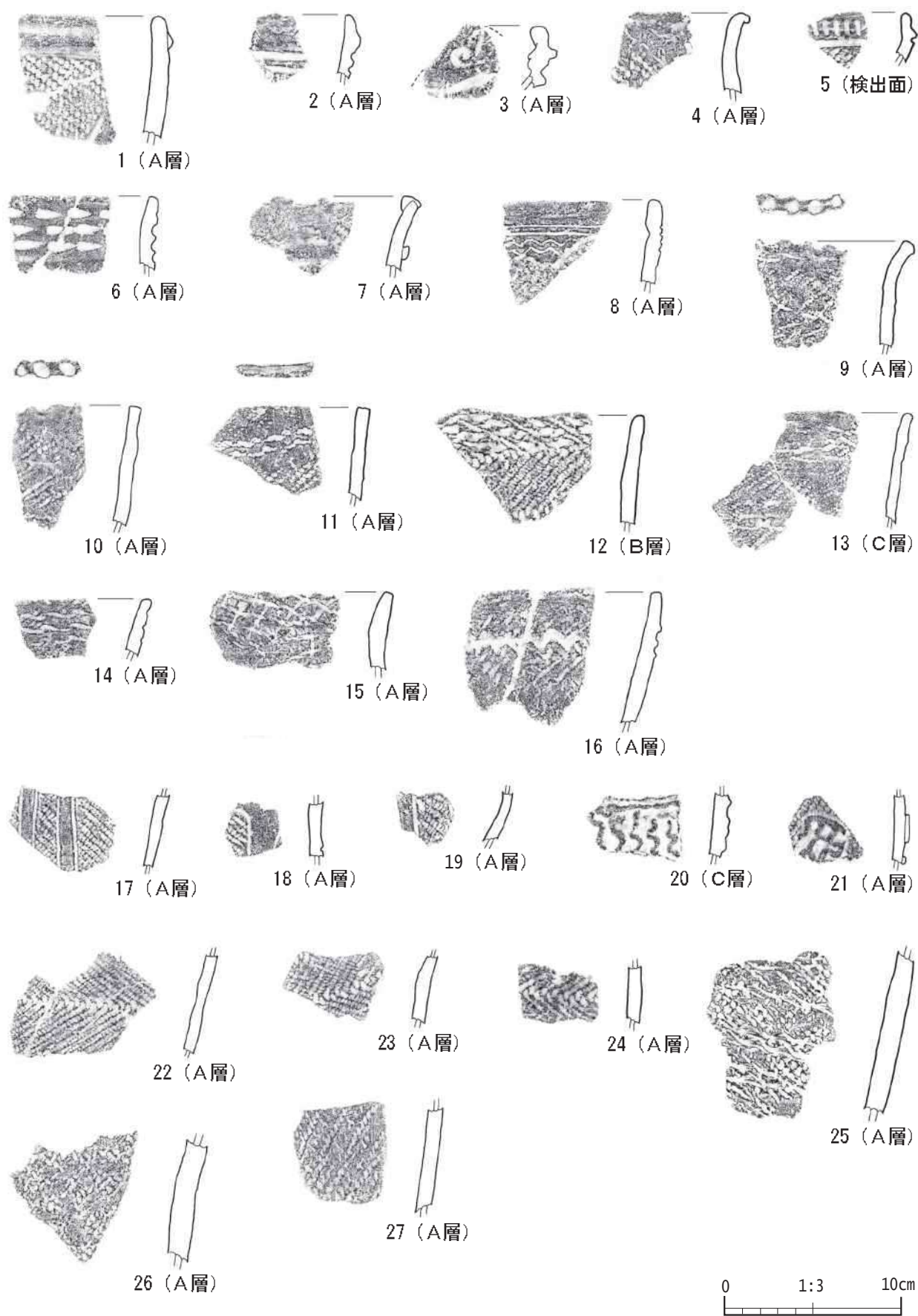


図117 JH28竪穴住居跡出土遺物 (1)

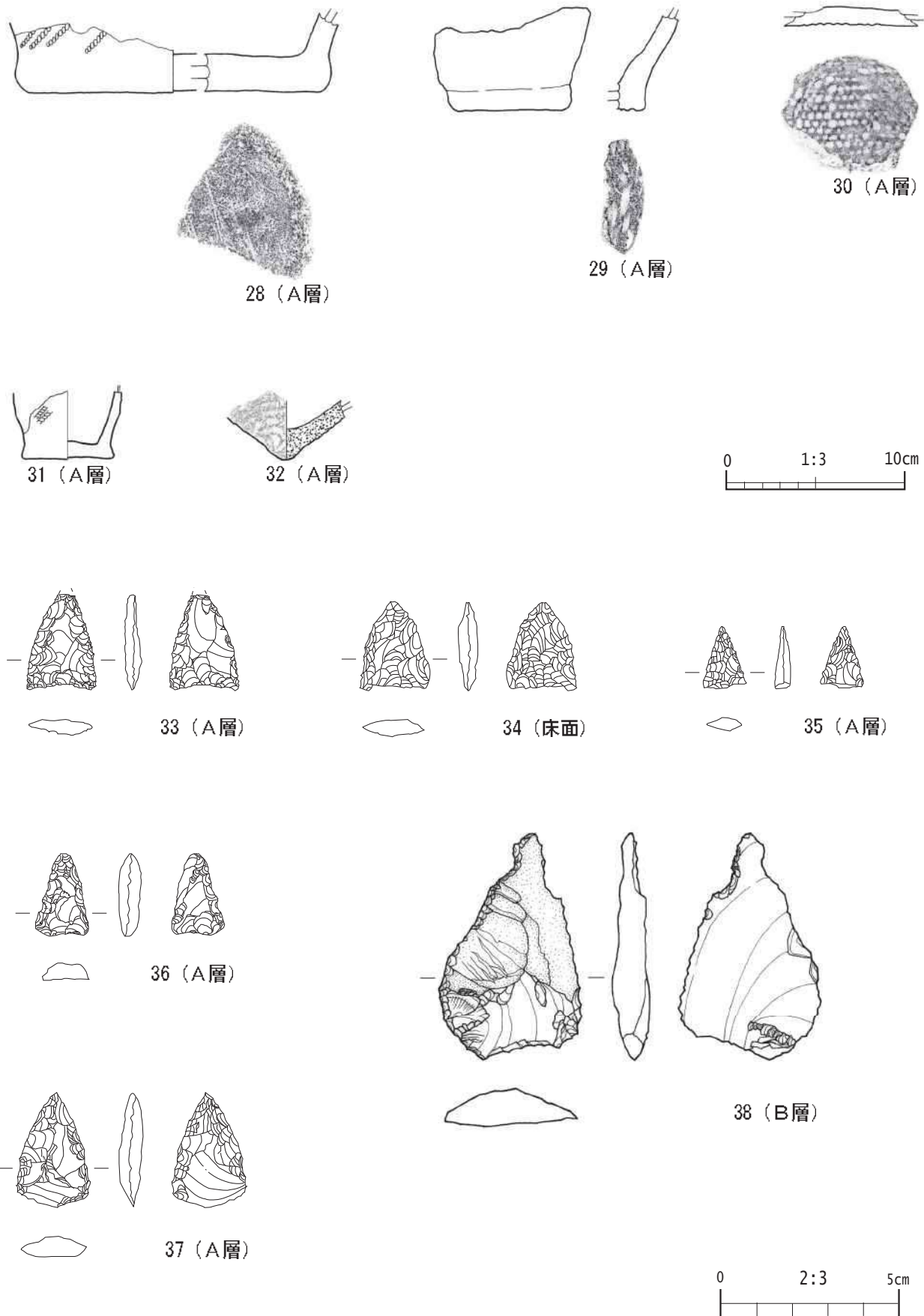


圖118 JH28豎穴住居跡出土遺物 (2)

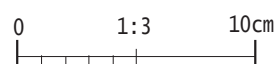
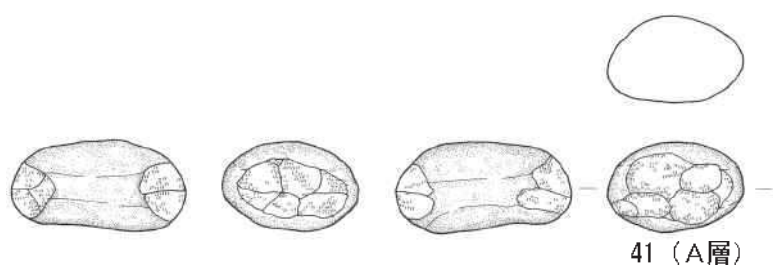
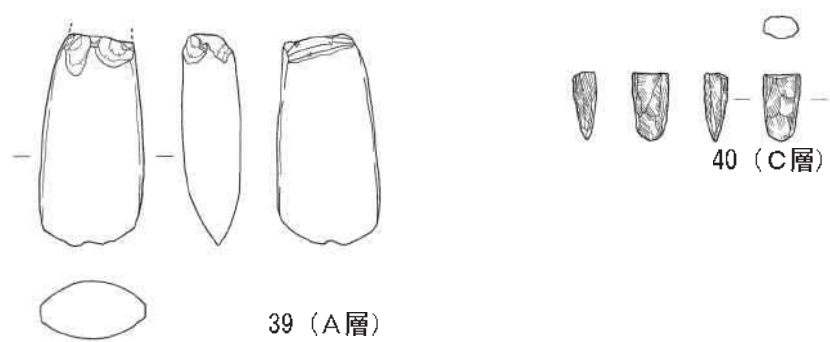


図119 JH28竪穴住居跡出土遺物 (3)

JK15土坑跡（図120）

JK15の南西に位置する。平面形は円形のフラスコ形の土坑である。規模は、上面径1.3m、底面径1.5m、深さ0.8mを測る。埋土は3層に大別される。

出土遺物（図121）

1は縄文土器の体部片である。沈線で縄文、無文を区画する。

縄文時代中期に伴うものと推測される。

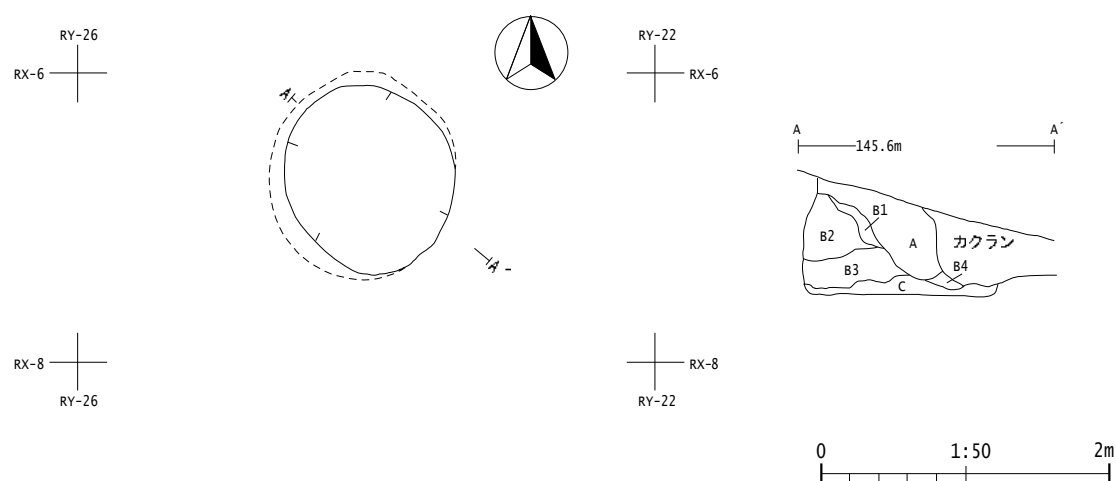


図120 JK15土坑跡平・断面

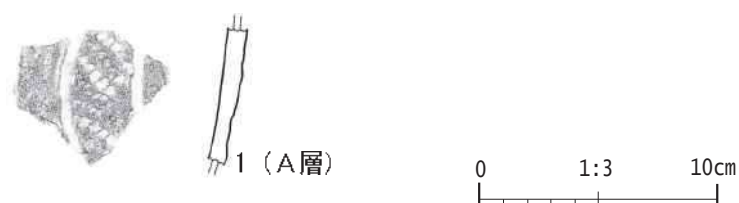


図121 JK15土坑跡出土遺物

JK15土坑跡土層観察表

層 名		基 本 土	混 入 土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A	10YR4/6 褐色シルト質植壊土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壊土 3%粉状 10YR4/4 褐色シルト質植壊土 2%粉状	やや軟質、粘性ややあり、粉状構造、木炭粒(径3~5mm)1%
土坑埋土	B 1	10YR4/6 褐色シルト質植壊土	10YR5/8 黄褐色植壊土 5%粉粒状	やや硬質、粘性あり、粉粒状構造、木炭粒微量
土坑埋土	B 2	10YR5/8 黄褐色植壊土	10YR4/6 褐色シルト質植壊土 1%粉状	やや硬質、粘性ややあり
土坑埋土	B 3	10YR4/6 褐色シルト質植壊土	10YR5/8 黄褐色植壊土 10%粉状	やや硬質、粘性あり
土坑埋土	B 4	10YR4/6 褐色シルト質植壊土	10YR5/8 黄褐色植壊土 15%塊状	やや硬質、粘性あり
土坑埋土	C	10YR4/4 褐色シルト質植壊土	10YR5/8 黄褐色シルト質植壊土 1%粉状 10YR3/4 暗褐色植壊土 1%粉状	硬質、やや粘性あり

J H 2 9 竪穴住居跡 (図122)

J H 1 9 と重複し、J H 1 9 に切られる。平面形は楕円形である。規模は、東西4.2m、南北3.0mを測る。埋土は2層に大別される。床面南東端に炉を設ける。床面の周縁部、壁で小土坑跡9基を検出している。周溝は検出していない。

炉跡 (図123)

方形の複式炉である。規模は、南北1.0m、東西0.8mを測る。北側のK 1が焼土混じりのやや軟質な焼土層である。北側の炉で埋甕を検出している。方形の掘方、土器、炉石の掘方を確認している。

出土遺物 (図124、125)

1～7は縄文土器である。

1は体部片である。沈線区画の連絡部分に貼瘤が施される。2は口縁部である。口唇部に圧痕列が施され、S字状連鎖文を伴う。

3、4は埋設土器である。3は斜縄文を施され、体部にL字状の沈線が入る。4は口縁部である。沈線が無文帯を区画し、縄文が施される。5、6はP 4から出土した口縁部、頸部である。5は斜縄文で施文される。6は沈線で区画、縄文を施文し、隆線の貼付を施す。7は底部である。底面に網代痕を残す。

8、9は礫石器である。砥石である。

時期は縄文時代中期に伴う。

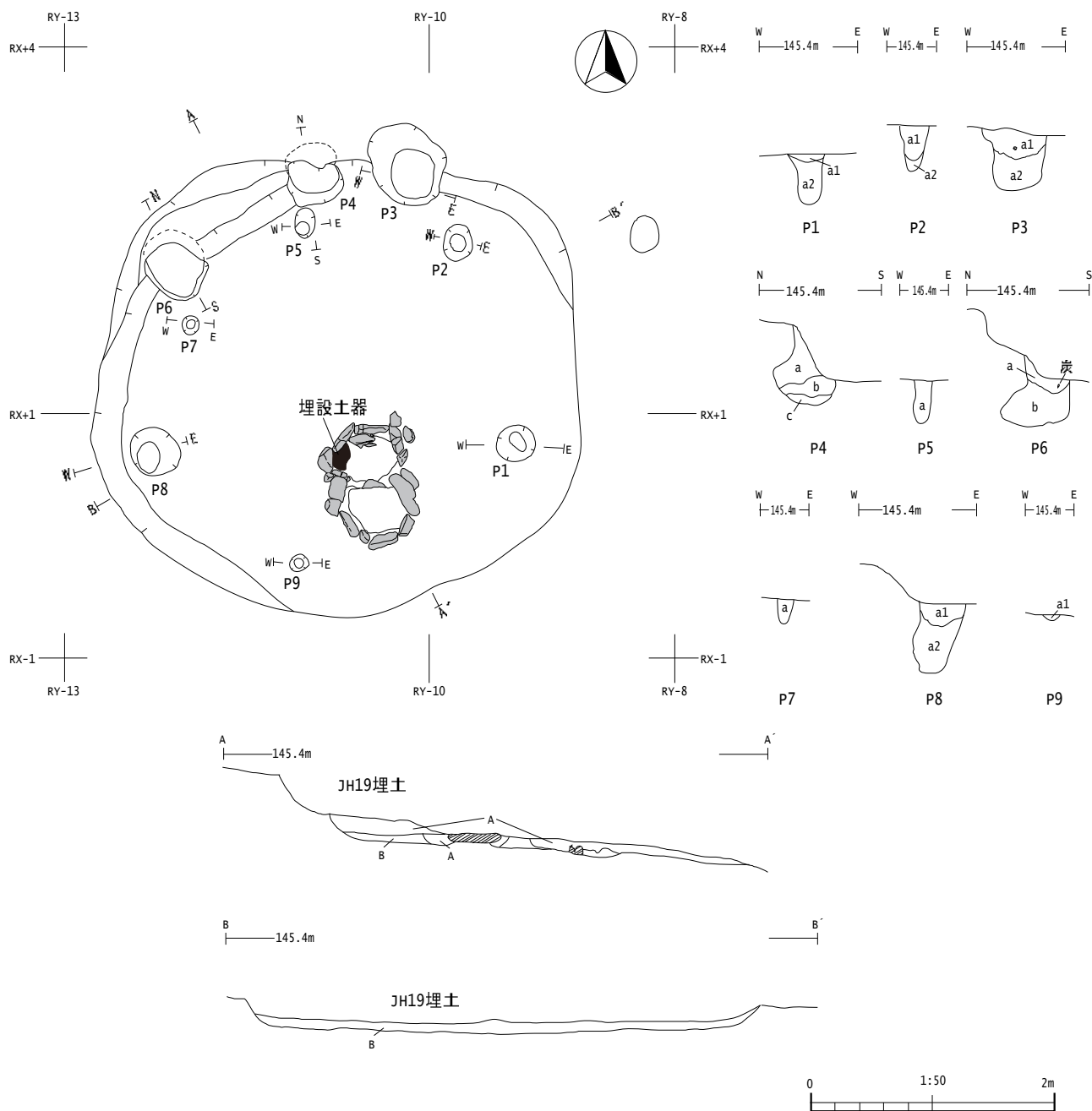


図122 JH29竪穴住居跡平・断面

JH29竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土 5%粉粒状	やや硬質、ややしまりあり、粘性弱、木炭粉微量
竪穴埋土	B	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、木炭粉を1%(A層より多量)

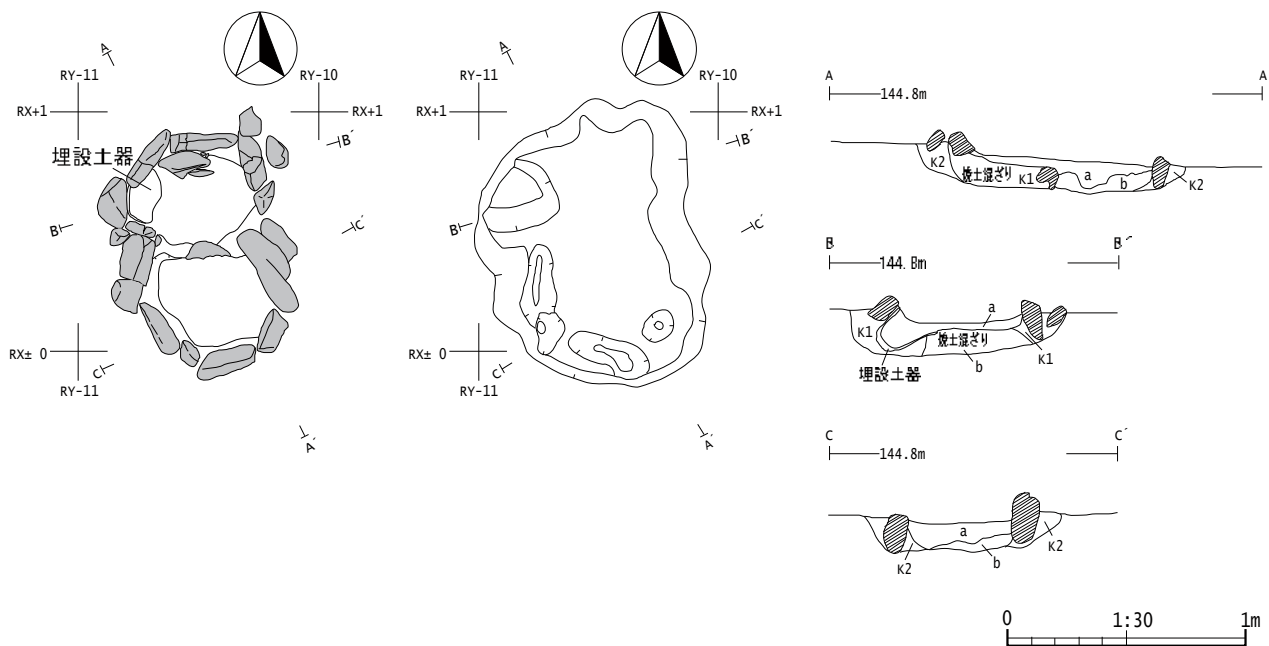


図123 JH29竪穴住居跡炉跡平・断面

JH29竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭2%、木炭粉(径1~5mm)
	a 2 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉粒状	軟質、しまり弱、木炭1%、木炭粉(径1~5mm)
柱穴P2埋土	a 1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粒塊状	やや軟質、しまりやや弱、木炭1%
	a 2 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	木炭1%
柱穴P3埋土	a 1 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭2%
	a 2 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状	やや軟質、木炭微量
柱穴P4埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状(径2~5mm)	やや軟質、木炭2%
	b 10YR4/6 褐色シルト質壤土	5YR5/8 明赤褐色壤土粒 3%粒状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%塊状	軟質、木炭1%
	c 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粒塊状	軟質、木炭粉微量
柱穴P5埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状均一	やや軟質、しまりやや弱
柱穴P6埋土	a 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、木炭微量
	b 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%	軟質、木炭微量
柱穴P7埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉状	やや軟質、木炭粉1%
柱穴P8埋土	a 1 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色 5%粉粒状	やや軟質、木炭微量
	a 2 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、木炭微量
柱穴P9埋土	a 1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色 3%粒状	やや軟質、木炭粉1%

JH29竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a 10YR4/6 褐色壤土~シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粒状	やや軟質、木炭粉1%
炉跡埋土	b 10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色 3%粉粒状	
構築土	K 1 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 7%粉状 5YR/5/8 明赤褐色壤土 5%粒塊状	やや硬質、しまりあり、粘性ややあり
構築土	K 2 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 5%	やや硬質、しまりあり、粘性ややあり

〈埋土〉

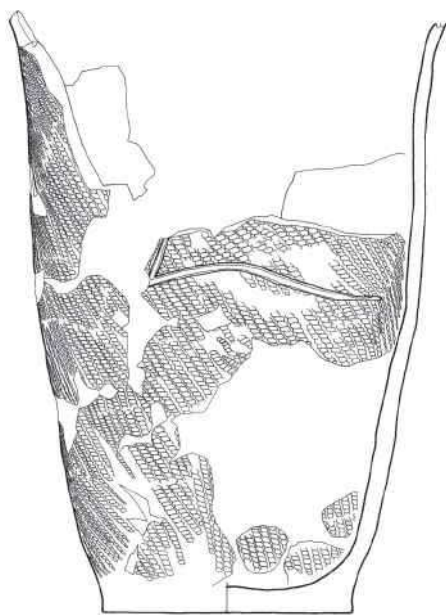


1 (埋土)



2 (B層)

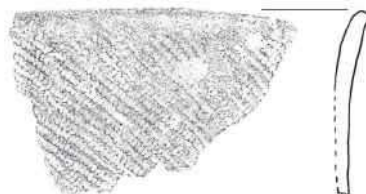
〈埋設土器、床面など〉



3 (炉埋設土器)



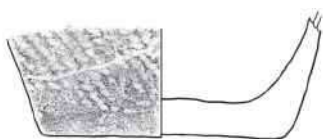
4 (埋設土器片)



5 (P 4)



6 (P 4)



7 (床面)

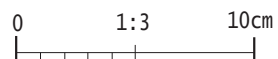


図124 JH29竪穴住居跡出土遺物 (1)

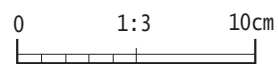
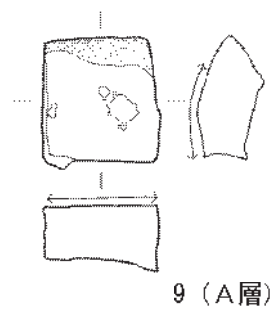
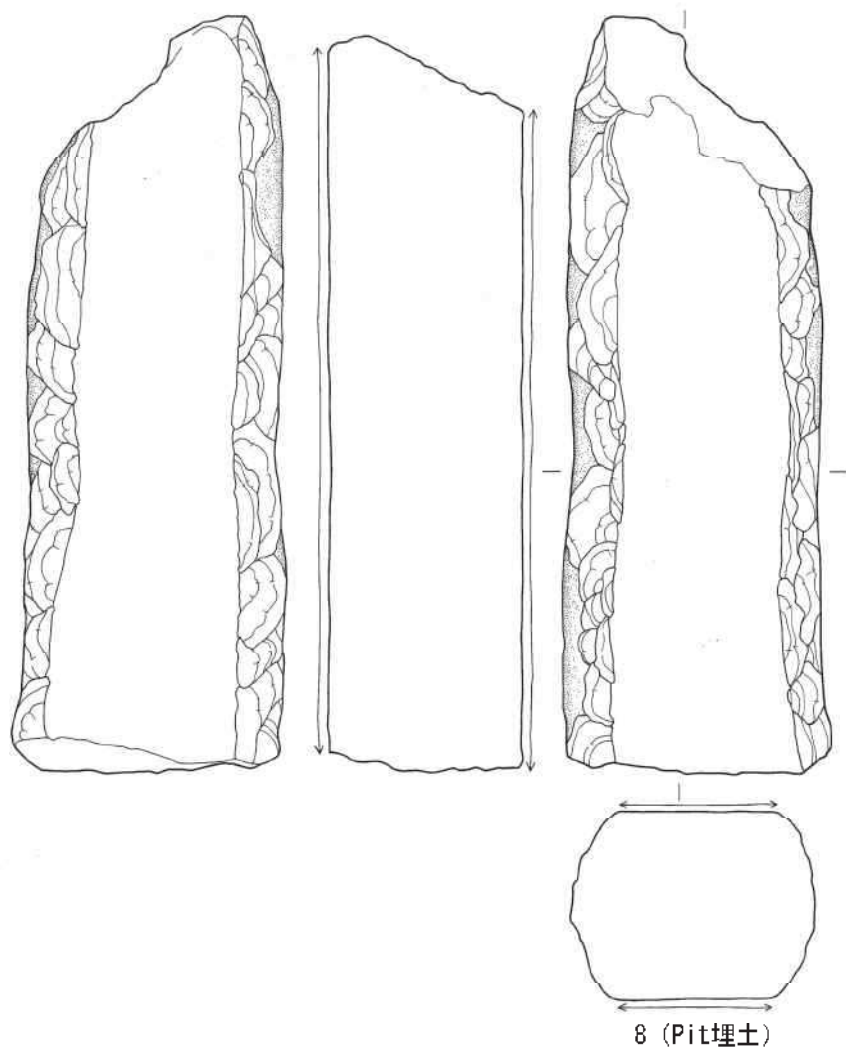


図125 JH29竪穴住居跡出土遺物 (2)

J H 3 1 竪穴住居跡、J K 1 3 土坑跡

J H 3 1 竪穴住居跡 (図126)

J H 1 9 の南西に位置する。平面形は楕円形と推測する。規模は、東西2.6m、南北2.0mを測る。埋土は1層である。床面中央、南東端に炉を構える。柱穴跡、周溝は検出していない。

炉跡 (図128)

方形の石囲炉である。規模は、東西80cm、南北60cmを測る。炉石の据方を確認している。

出土遺物 (図131)

1～4は縄文土器である。1～3は口縁部である。1、2は隆沈線で渦文が施される。3は斜縄文で施文される。4は底部である。底面に網代痕を残す。

5は剥片石器である。平基の石鏃である。

時期は縄文時代中期に伴う。

J K 1 3 土坑跡 (図126)

J H 3 1 の北西に位置する。平面形は円形である。広めに浅く掘り込み、さらに中心を柱穴状に深く掘る。規模は、径1.0m、深さ0.9mを測る。埋土は3層に分かれる。

出土遺物 (図127)

1は礫石器である。砥石である。

時期は、縄文時代中期に伴うものと推測される。

J F 0 3 炉跡 (図126、129)

J H 3 1 の東に位置する。北東部に前庭部をもつ方形の石囲炉である。規模は、東西1.2m、南北0.6mを測る。F層が焼土層である。炉石の据方を確認している。

出土遺物 (図130)

1～4は縄文土器である。1～3は沈線で区画、縄文と無文を分かち。4は沈線と刺突列を伴う。

J H 3 1 との関係は不明である。

時期は縄文時代中期に伴う。

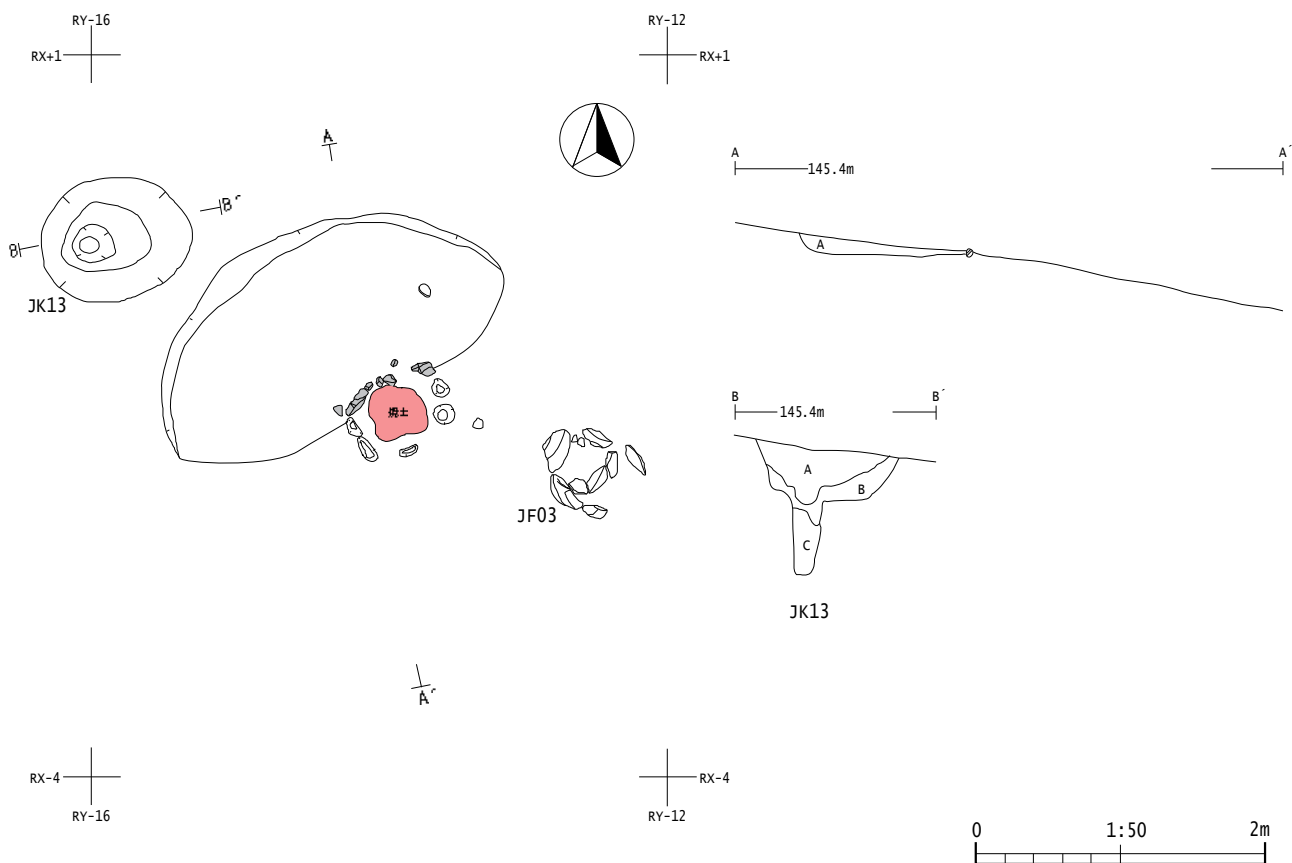


図126 JH31竪穴住居跡 JF03炉跡 JK13土坑跡平・断面

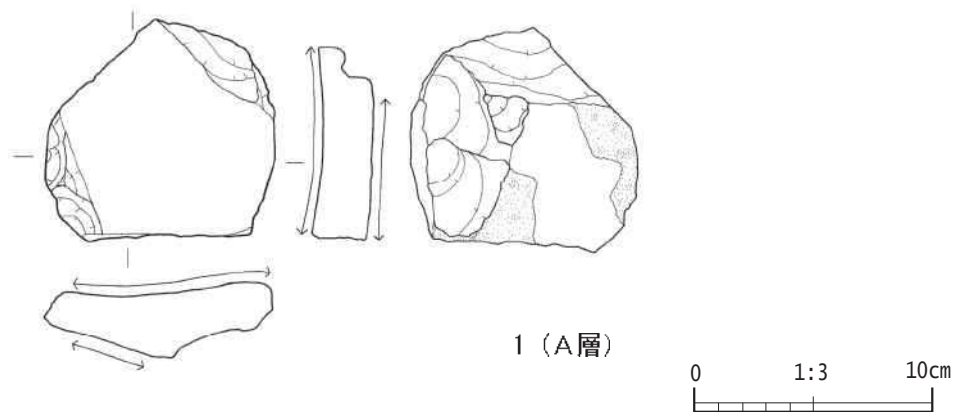


図127 JK13土坑跡出土遺物

JH31竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや硬質、粘性ややあり、粉粒状構造、木炭1%

JK13土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粒状	やや軟質、粘性ややあり、粉粒状構造、木炭1%
土坑埋土	B 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、粘性ややあり、粉状構造、木炭微量
土坑埋土	C 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 1%粉状	やや硬質、全体に塊状構造、全体にボロボロ土

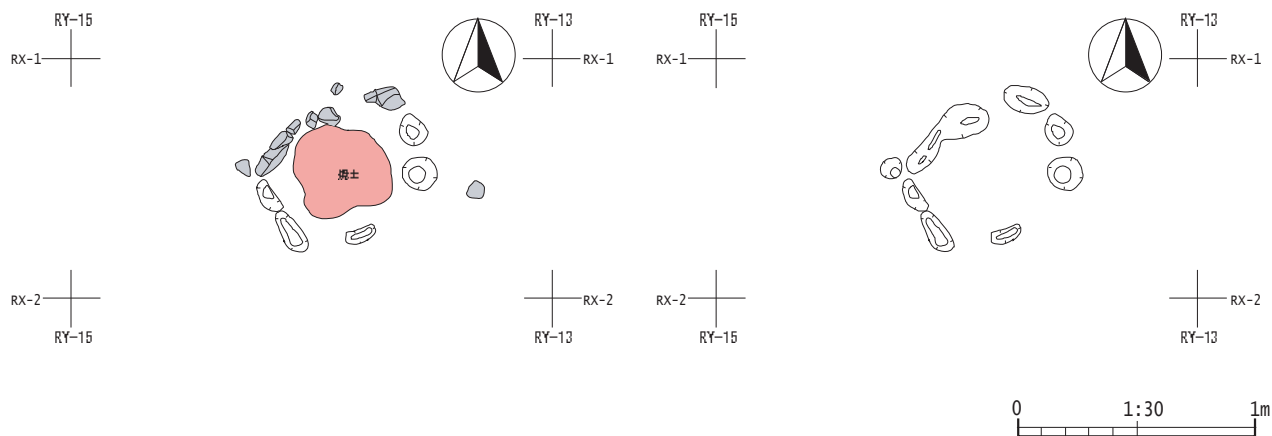


図128 JH31竪穴住居跡炉跡平・断面

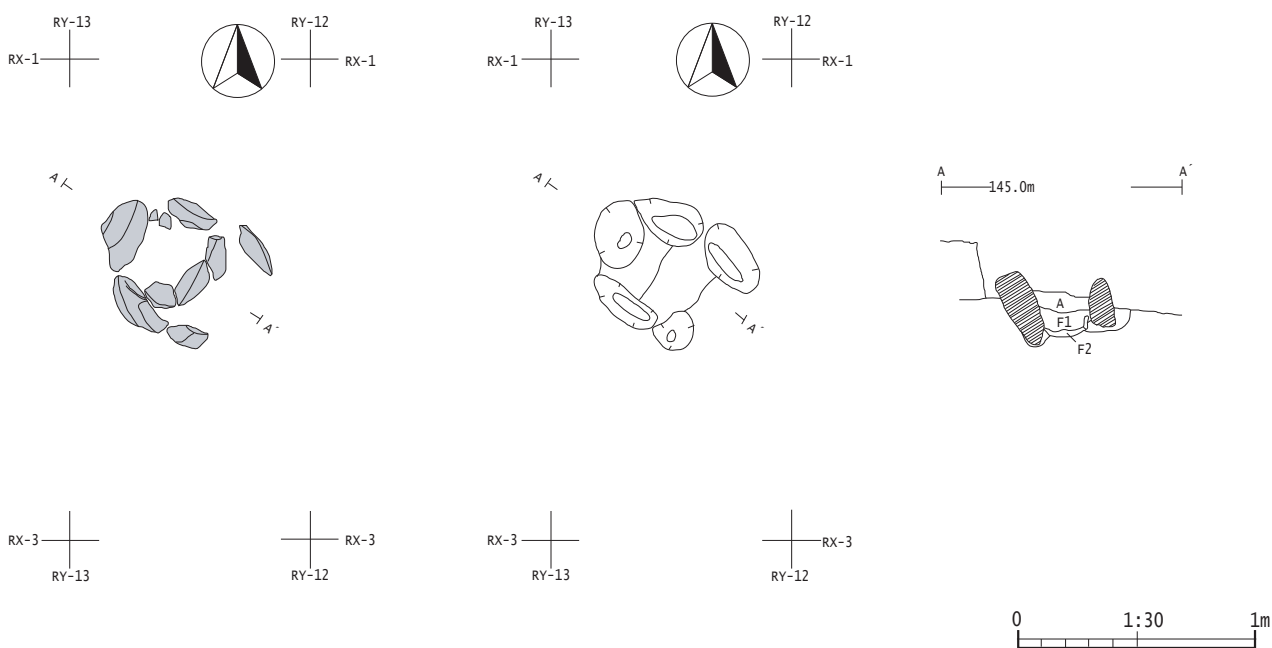


図129 JF03炉跡平・断面

JF03炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土混土	A 10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土(焼土) 3%粉状	やや軟弱、しまりやや弱
焼土	F1 5YR4/8 赤褐色焼土		やや硬質、しまりあり
焼土面	F2 5YR4/8 赤褐色焼土		

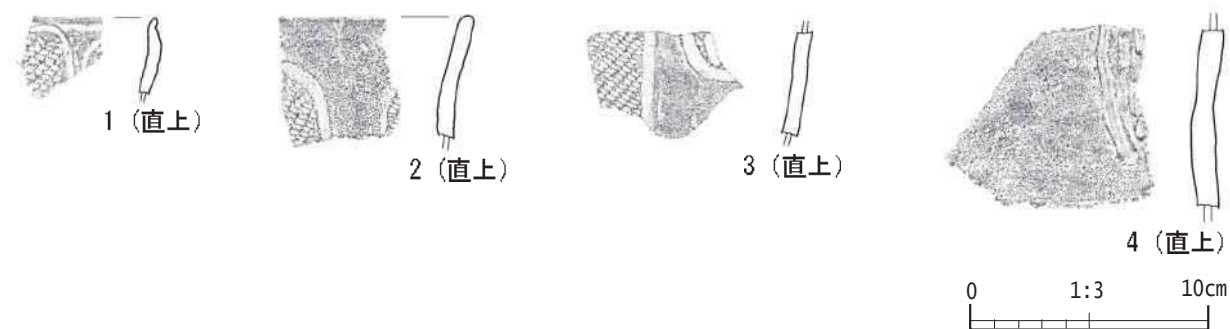


図130 JF03炉跡出土遺物

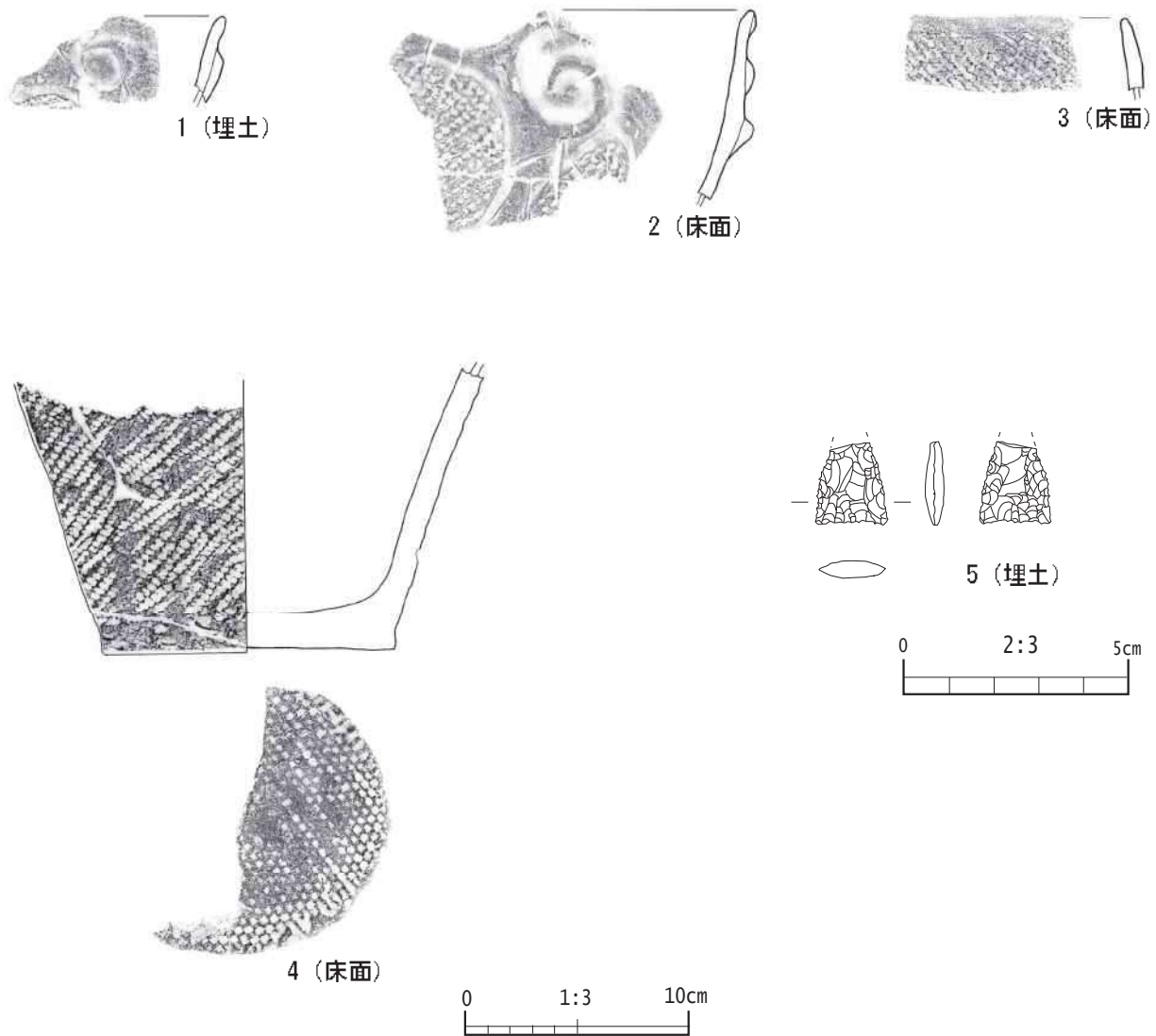


图131 JH31竖穴住居跡出土遺物

J F 0 4 炉跡 (図132)

J H 3 1 に南に位置する。方形の石囲炉である。規模は、東西70cm、南北60cmを測る。F層が、やや硬く焼き締まった焼土層である。周辺の遺構との関係は不明である。

出土遺物 (図133)

1 は礫石器である。両側面に調整磨面をもつ敲打磨石である。

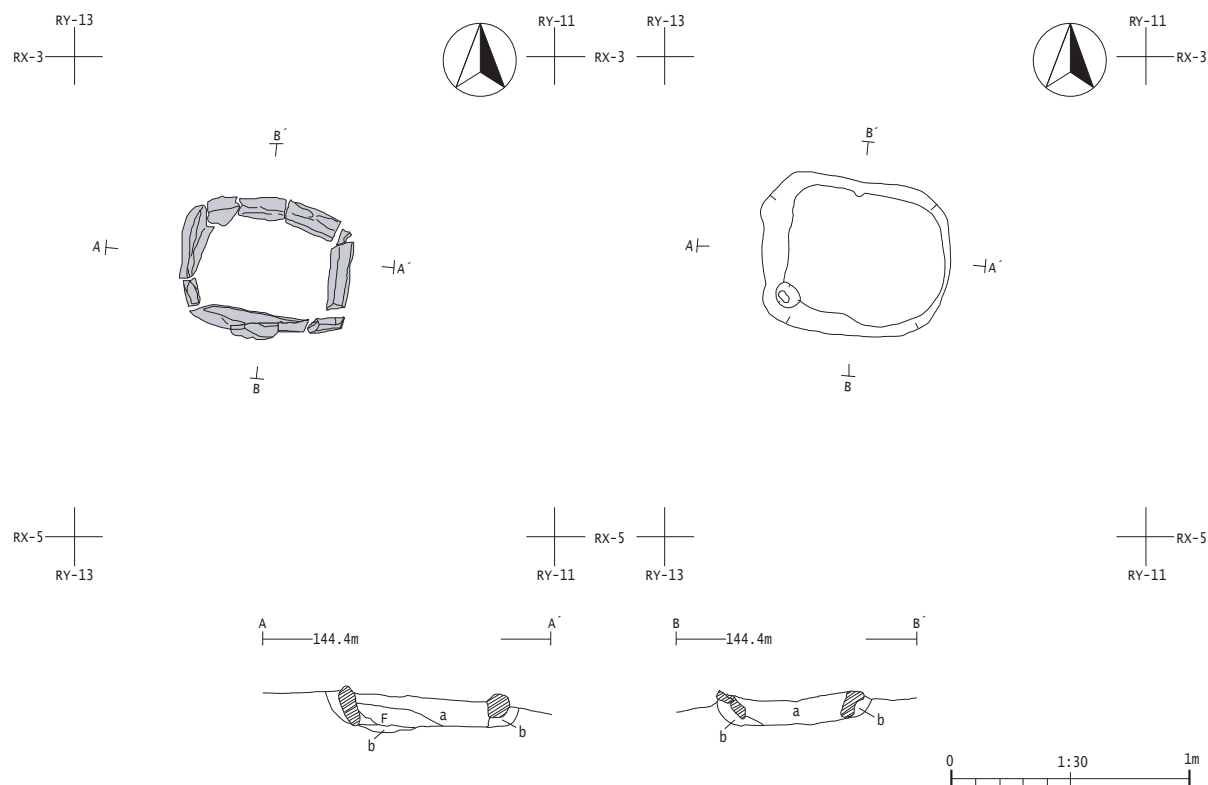


図132 JF04炉跡平・断面

JF04炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 2%	木炭微量
炉跡埋土	b	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%	硬質
焼土	F	5YR4/8 赤褐色焼土	10YR4/6 褐色 1%粉状	やや硬質、しまっている

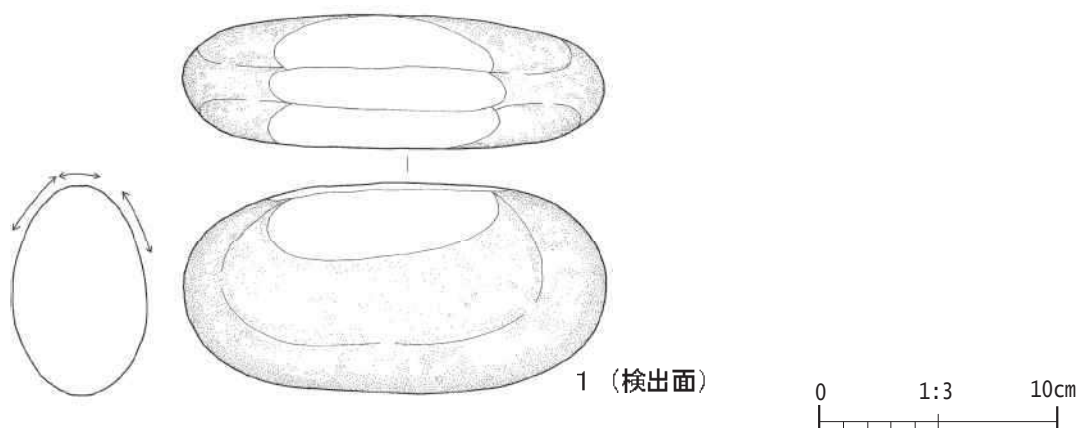


図133 JF04炉跡出土遺物

遺構外出土遺物＜平成6年度（1996）調査区＞

＜表土＞（図134～138）

1は土師質土器片である。内黒処理されて、透明釉がかけられる。高台をもつ・調整、切り離し痕は不明瞭である。

2～3 2は縄文土器である。2、3は平行沈線で縄文、無文を区画する。4は沈線と刺突列で施文する。5～1 4は沈線で区画、縄文を充填する口縁部、体部である。1 5～1 9は隆沈線で施文する口縁部、体部である。2 0、2 1は斜縄文で施文される口縁部である。2 2は複合口縁である。2 3は口唇部に溝が入り、刻み目が並ぶ。2 4は横位隆帯に沿って刺突列が並ぶ。2 5は粘土紐が貼付される。2 6～2 8はS字状連鎖文と斜縄文で施文される。2 9は撚糸文を施す。3 0は原体圧痕か。胎土に細礫が多く混じる。3 1、3 2の底部である。3 1は網代痕、3 2は木葉痕を残す。

縄文時代後期（2、3）、縄文時代中期（4～2 2）、縄文時代前期（2 5～3 0）に伴う。

3 3～5 1は石器である。

3 3は石製品である。細い棒状で、両端に穿孔される。穂積具か。

3 4、3 5は剥片石器である。3 4は平基の石鏃である。3 5は不定形の石器で、側縁に凸刃を調整する。

3 6～5 1は礫石器である。3 6～4 0は石斧である。4 1は石篋である。4 2、4 3は調整痕を残す楕円礫である。4 4～4 6は磨石である。4 7はくぼみをもつ楕円礫である。4 8、4 9は敲打磨石である。5 0、5 1は砥石である。

＜検出面＞（図139、140）

5 2～6 8は縄文土器である。5 2～5 4は縄文に沈線で区画文を描く。5 5～5 9は沈線で区画し、縄文を充填する。6 0～6 2は隆沈線と縄文で施文する。6 3は円形刺突列で施文する。6 4は粘土紐の貼付である。6 5はS字状連鎖文を伴う。6 6、6 7は斜縄文で施文される。6 8の底部は底面に網代痕を残す。

縄文時代後期（5 2～5 4）、縄文時代中期（5 5～6 3）、縄文時代前期（6 4、6 5）に伴う。

6 9～7 6は石器である。6 9～7 1は剥片石器である。6 9は凹基の石鏃である。7 0は平基の石鏃である。7 1は石匙である。7 2～7 6は礫石器である。7 2～7 4は敲打磨石である。7 5、7 6は砥石である。7 7は石製品の石皿である。

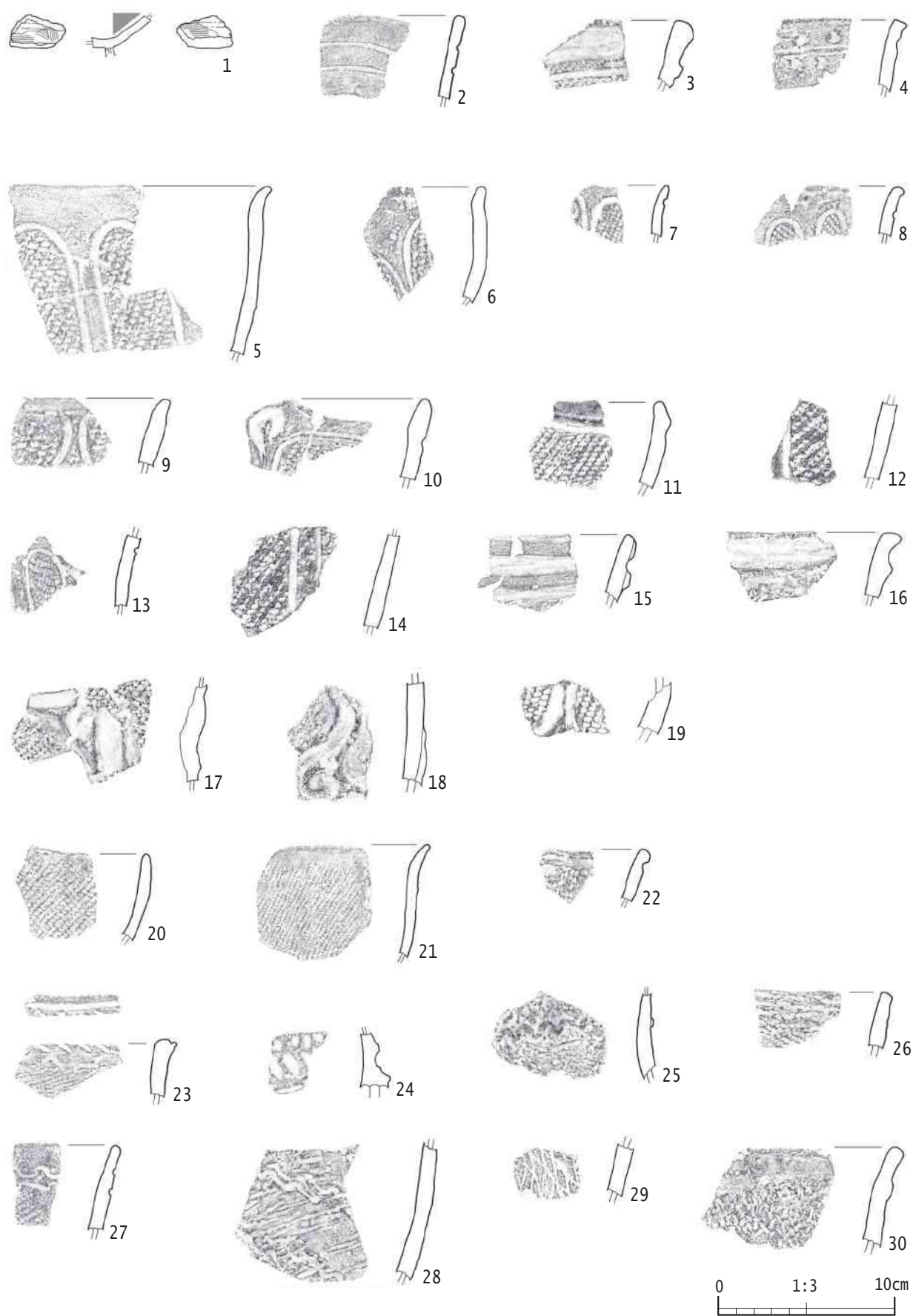
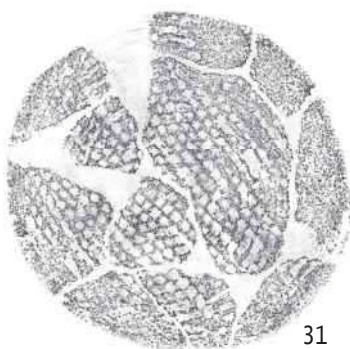
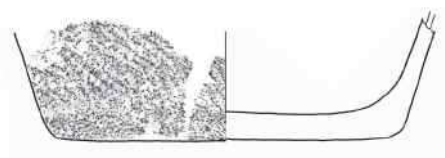


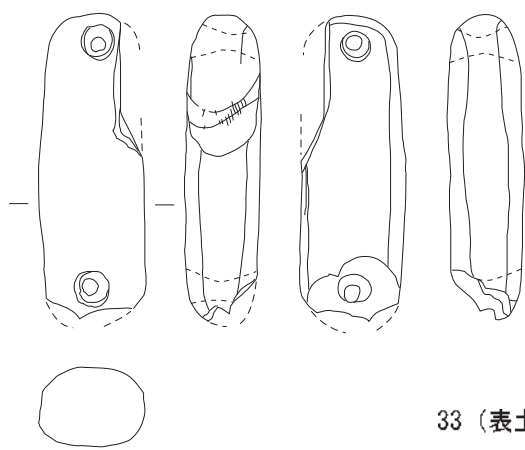
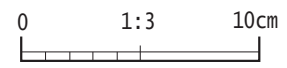
图134 遺構外出土遺物1996(1)表土



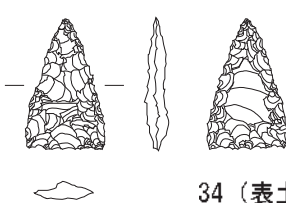
31



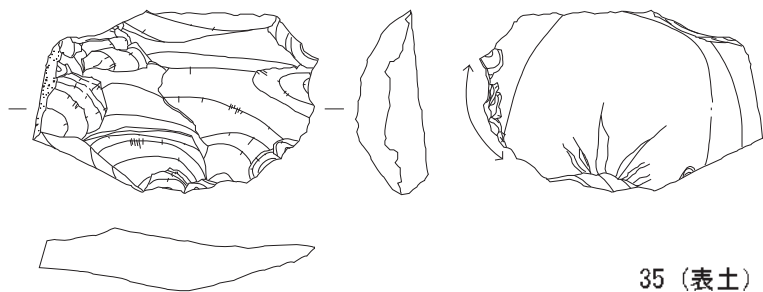
32



33 (表土)



34 (表土)



35 (表土)

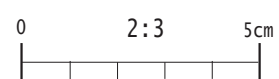


图135 遺構外出土遺物1996 (2) 表土

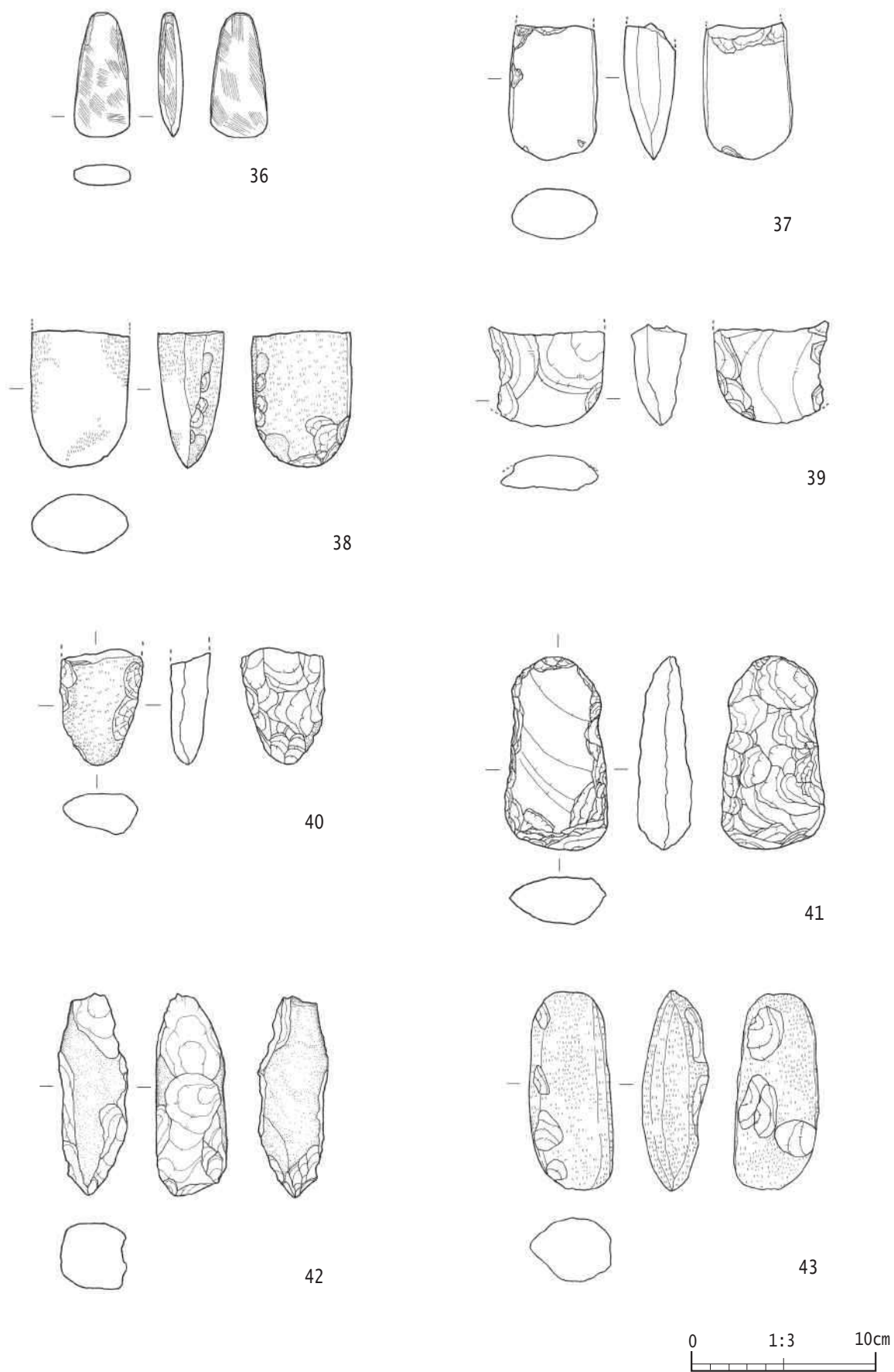


图136 遺構外出土遺物1996 (3) 表土

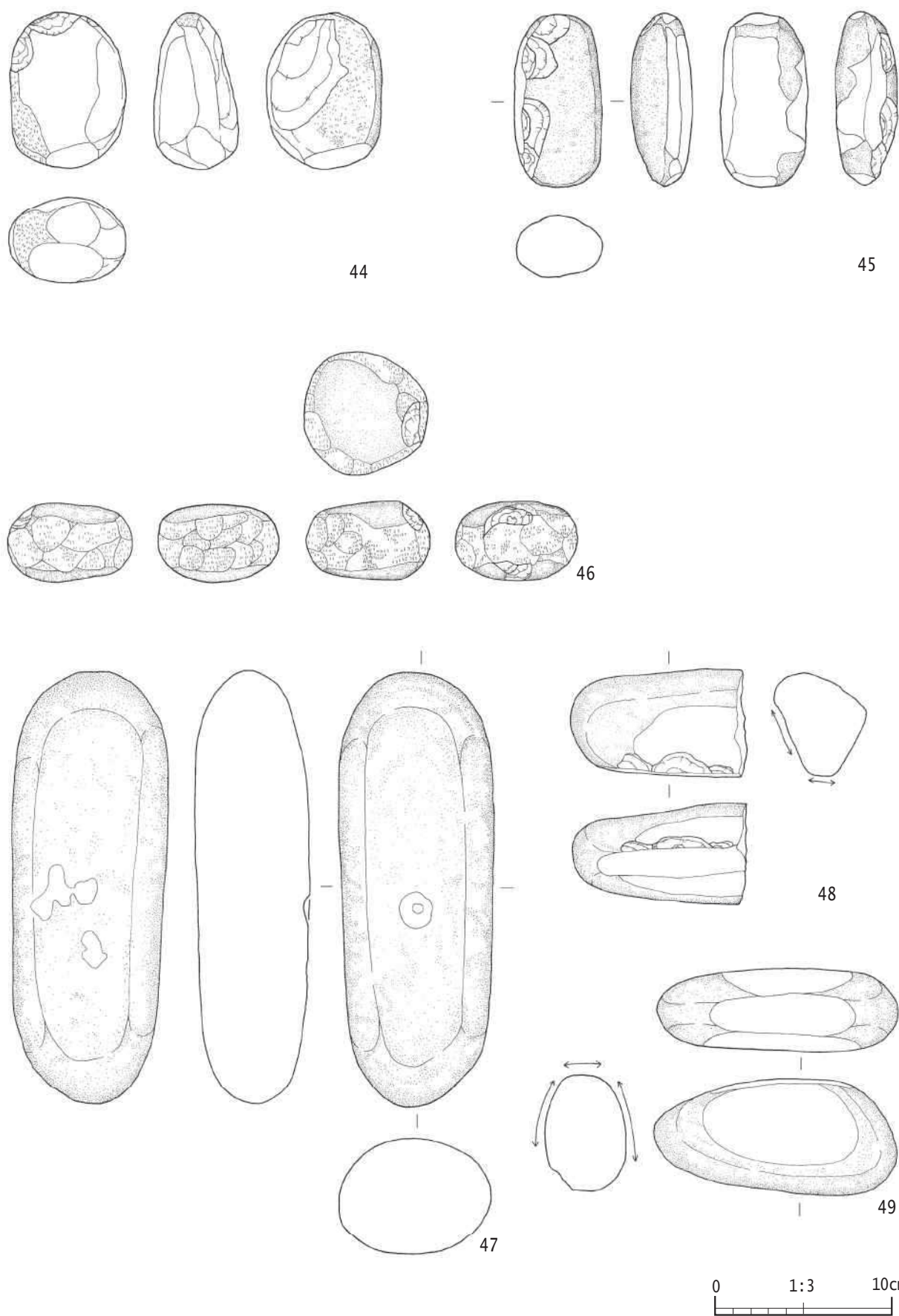


图137 遺構外出土遺物1996 (4) 表土

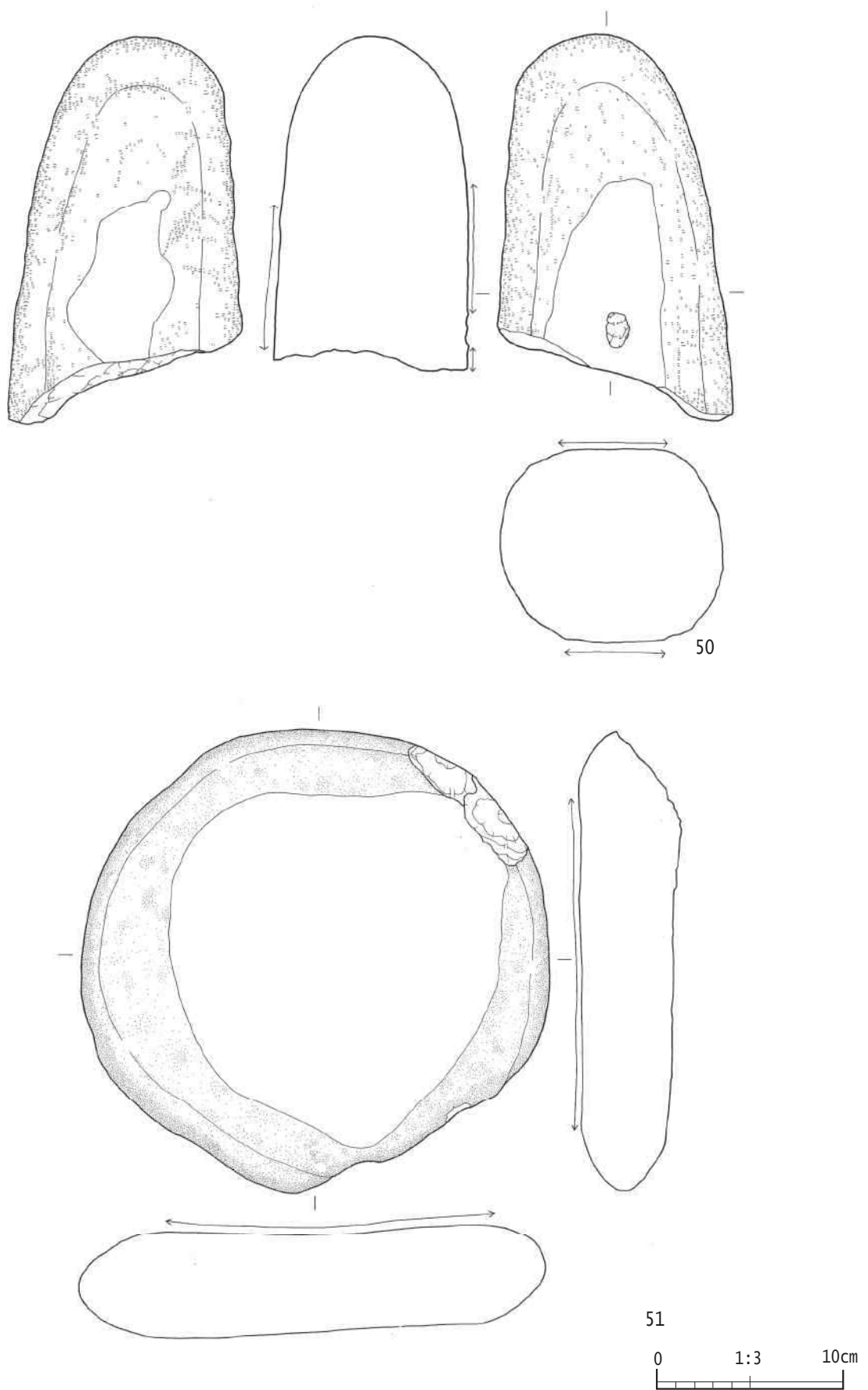


图138 遺構外出土遺物1996 (5) 表土

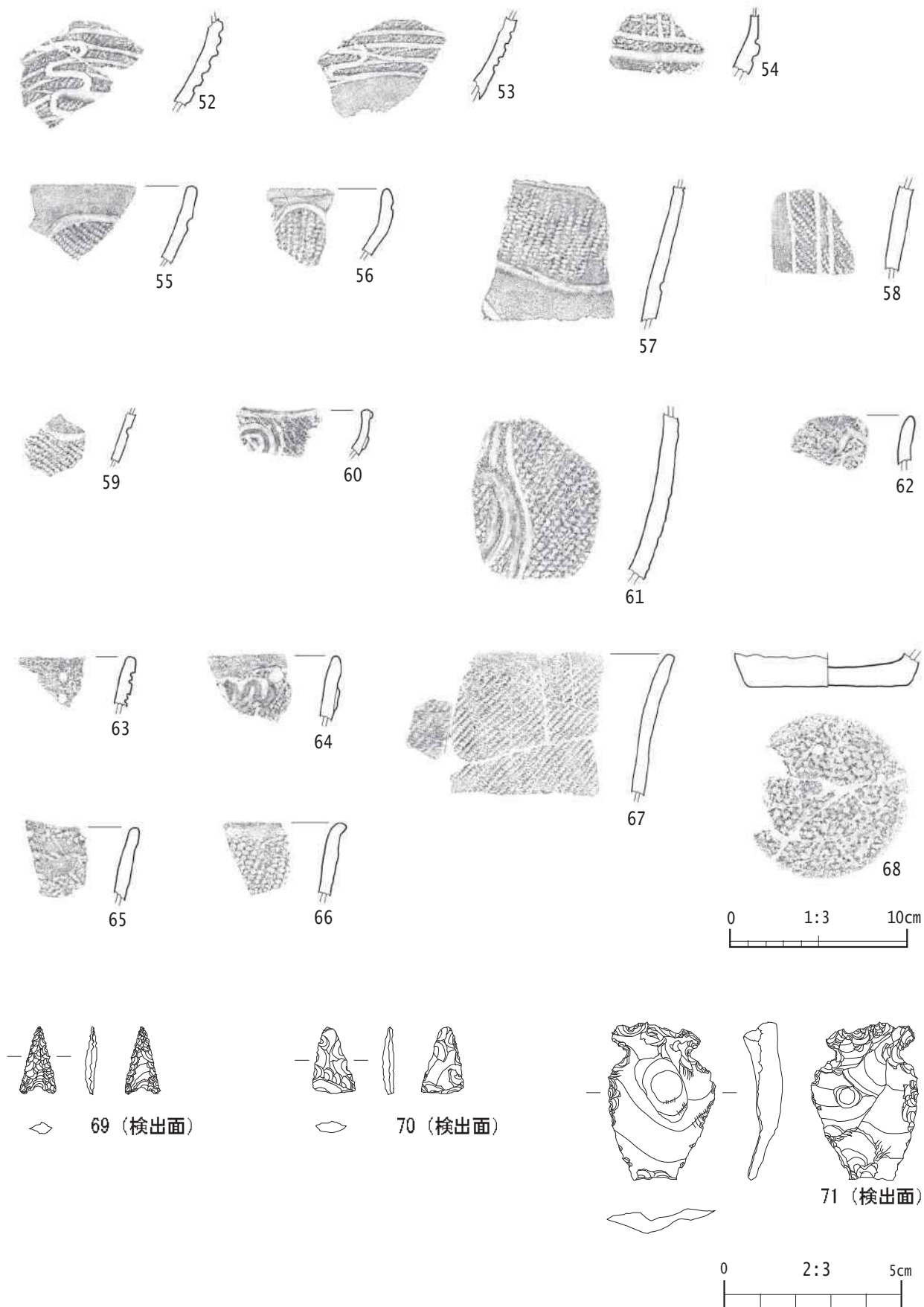


図139 遺構外出土遺物1996 (6) 検出面

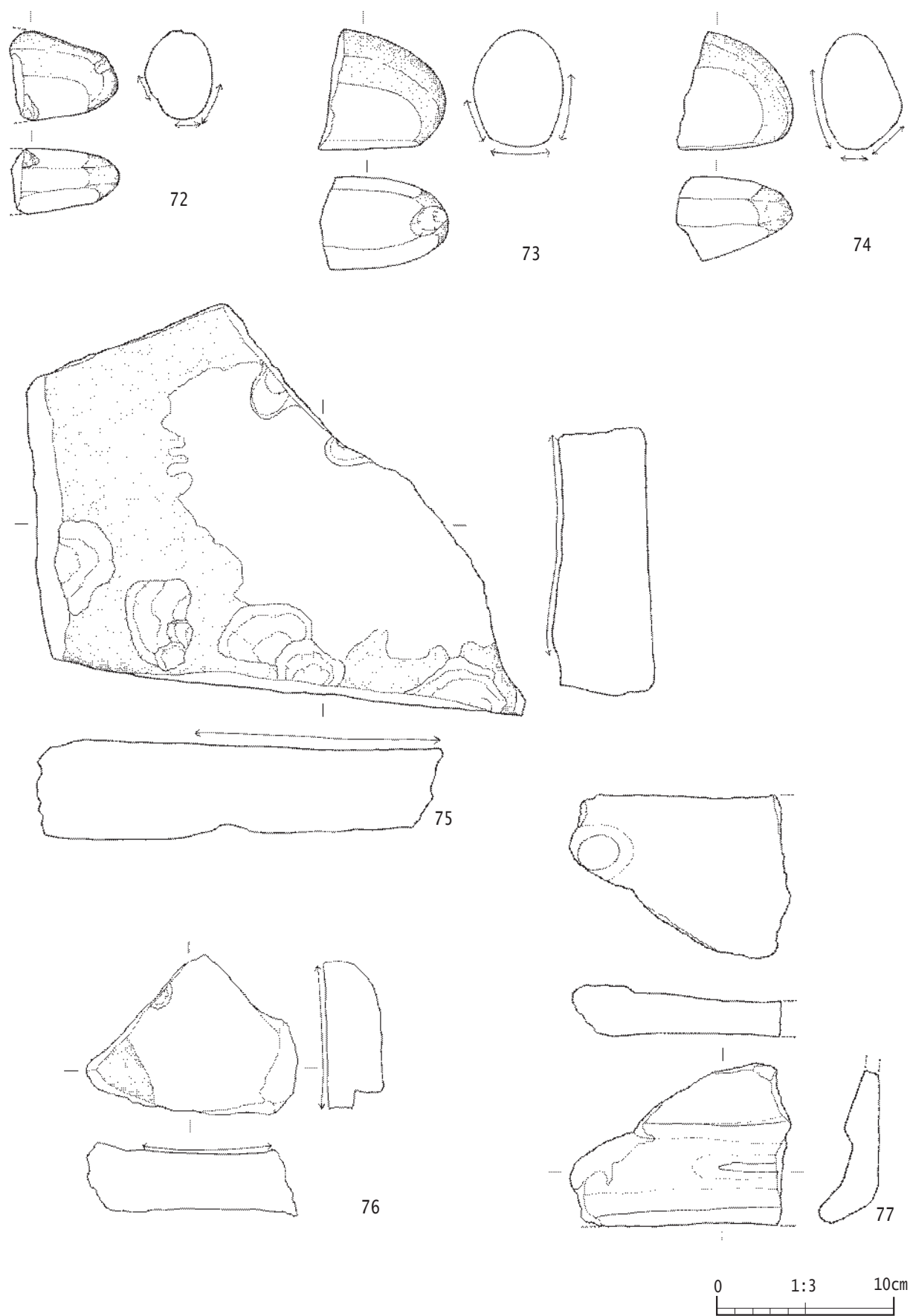


図140 遺構外出土遺物1996 (7) 検出面

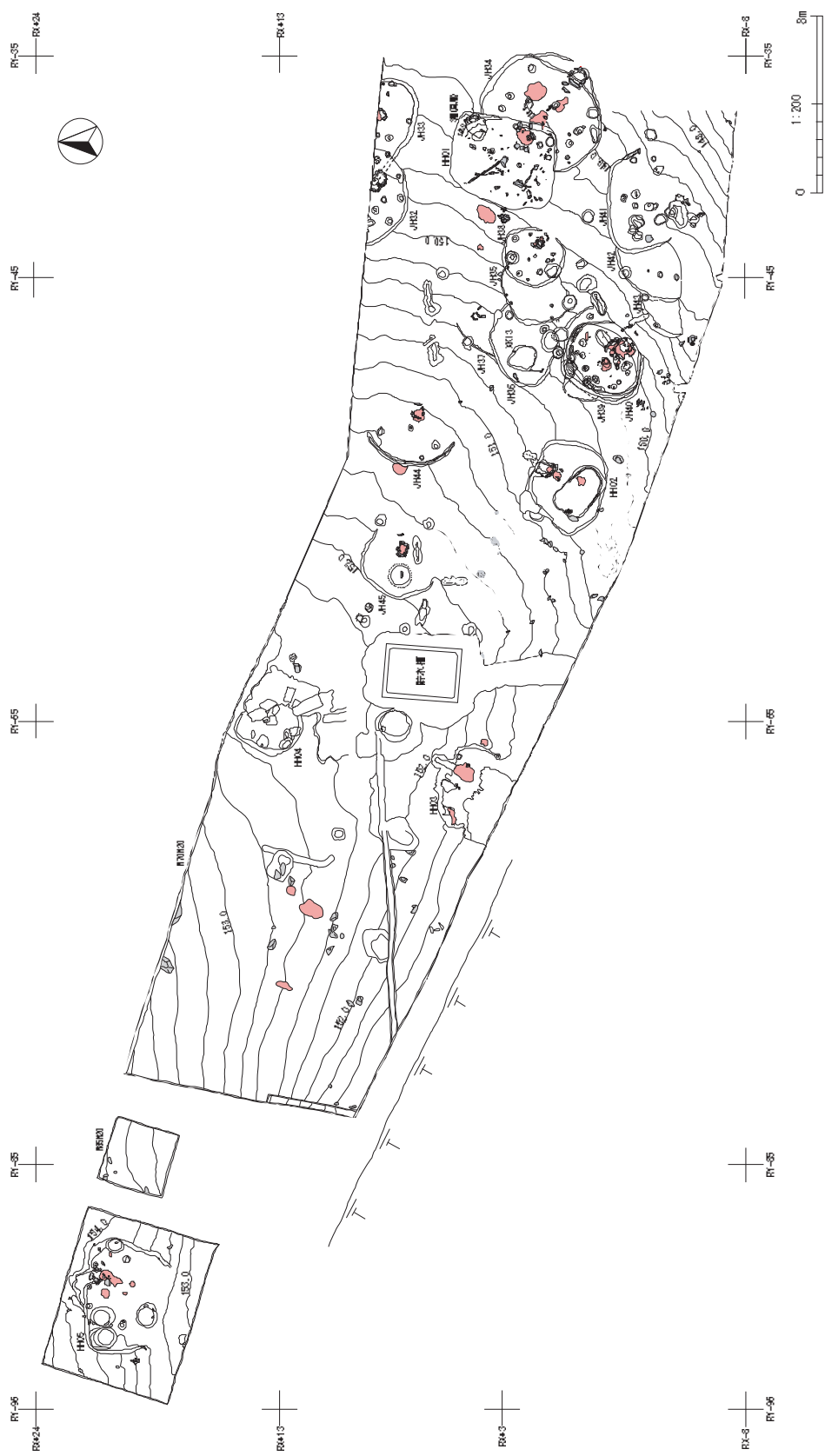


図141 平成9年度(1997)調査区遺構配置図

<平成9年度（1997）調査区>

本調査区からは平安時代と縄文時代の竪穴住居跡が出土している。

平安時代（HH01～HH05 竪穴住居跡）

HH01 竪穴住居跡（図142、144）

調査区東端に位置する。後述するJH34を切る。平面形は隅丸方形である。規模は、南北4.7m、東西4.0mを測る。埋土は3層に大別される。北東隅の壁際から貝層が出土し、床面からは炭化材が出土している。東壁にカマドが設けられ、西壁からは旧カマド跡が出土している。

貝層、炭化材（図142、143）

貝層は竪穴北東隅の壁際に位置する。貝類は、下の土坑跡が埋まった時点で廃棄されている。貝層は25層に細別される。貝類には、ムラサキインコガイ、イガイ、マキガイ、アワビなどが含まれ、それにウニなどが混じる。なかでもムラサキインコガイの出土量が目立つ。この他に種実遺存体も含まれており、イネ、アワ、ヒエなどが確認されている（表1）。

床面からは、木材状の炭化材が出土している。分析の結果、ヤナギ、コナラ、エゴノキなどが確認されている（巻末自然科学分析）。

カマド跡、焼土（図144）

竪穴東西の壁で新旧のカマド跡を検出している。床面からは焼土遺構が3基検出している。

カマド跡新（東壁）（図145）

東壁のやや南寄りに位置する。割り貫き式である。煙道は下降気味に掘られる。K15層が固く焼き締まった焼土層である。

焼土A、B（図146）

焼土A 平面形は円形である。規模は、径25cm、層厚2cmを測る。

焼土B 平面形は円形である。規模は、径20cm、層厚2cmを測る。

いずれも遺物は出土していない。

旧カマド、焼土C（図147）

西壁のやや南寄りに位置する。割り貫き式である。煙道はやや下降して掘られ、煙出しもやや傾斜する。煙出しには多数の礫が詰め込まれていた。

焼土Cは旧カマドの東に位置する。平面形は楕円形である。規模は、70cm×50cm、層厚は5cmを測る。遺物は出土していない。

出土遺物（図148～153）

<埋土> 1～6は土師器甕の口縁部である。いずれも短い口縁部である。1～4の体部の膨らみは弱く、5、6は体部が膨らむ。

7～18は縄文土器である。7～9は口縁部である。1は円形孔をもつ突起部で、口唇部に溝が入る。8は横位の隆帯の下半に縄文が入る。9は斜縄文で施文される。10～18は体部片である。10、11は縄文に沈線の区画文が入る。12は沈線で施文され、縄文はない。13、14は沈線で区画し、縄文を施す。15、16は隆沈線で施文される。17、18は爪形文で施文される。

<床面> 19は土師器の坏である。ロクロ成形、内黒処理される。ややまるみをもち、口縁部は直に立ち上がる。底面は回転糸切である。内面底部にわずかにミガキ調整痕を残す。

20～48は土師器に甕である。口縁部はいずれも短く、21、25は長胴型の甕である。23、24、27、28は胴部が張出す。45～48は底部である。45、47、48の張出は弱く、46は張出を持たない。

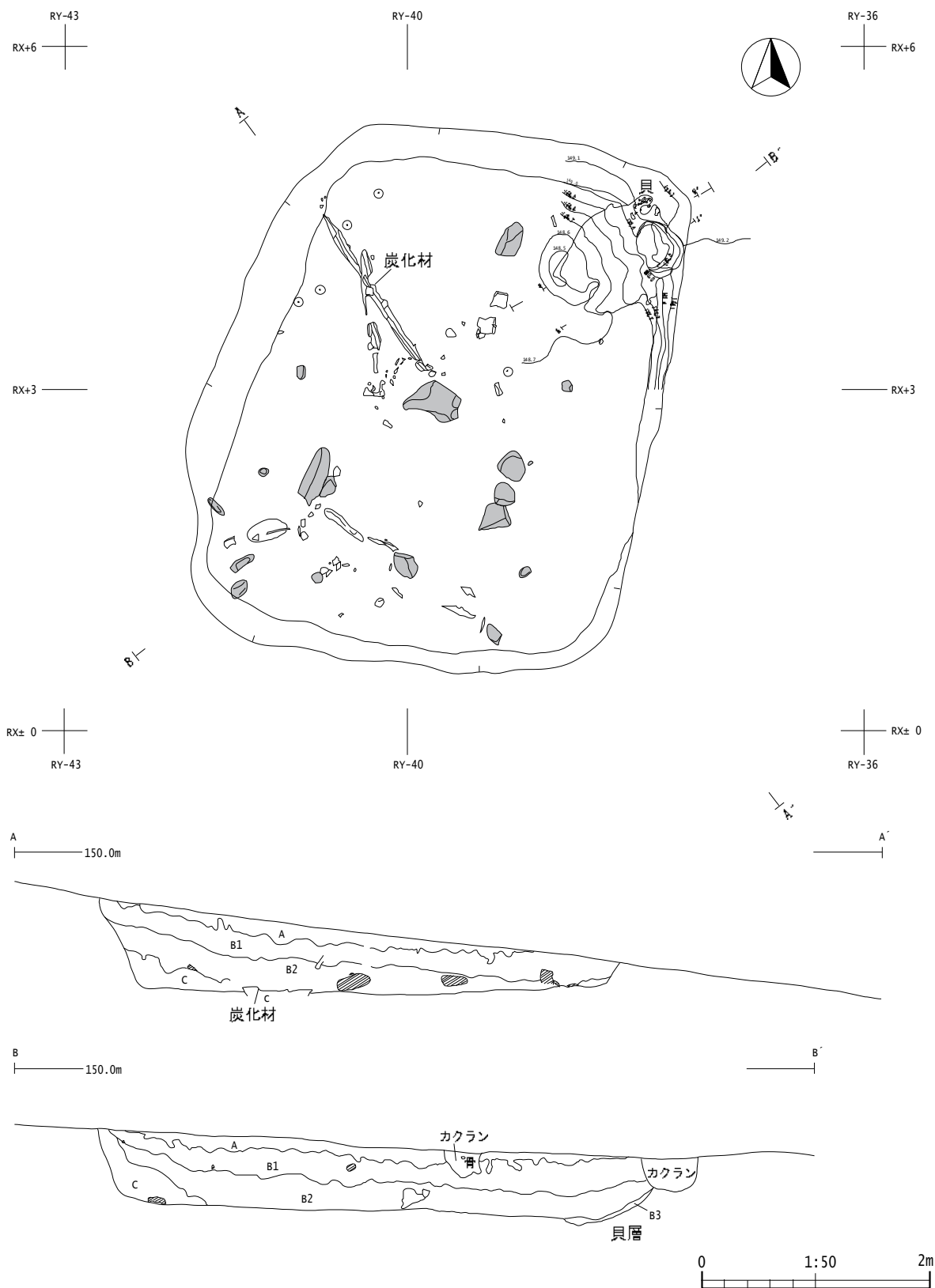


図142 HH01竪穴住居跡平・断面

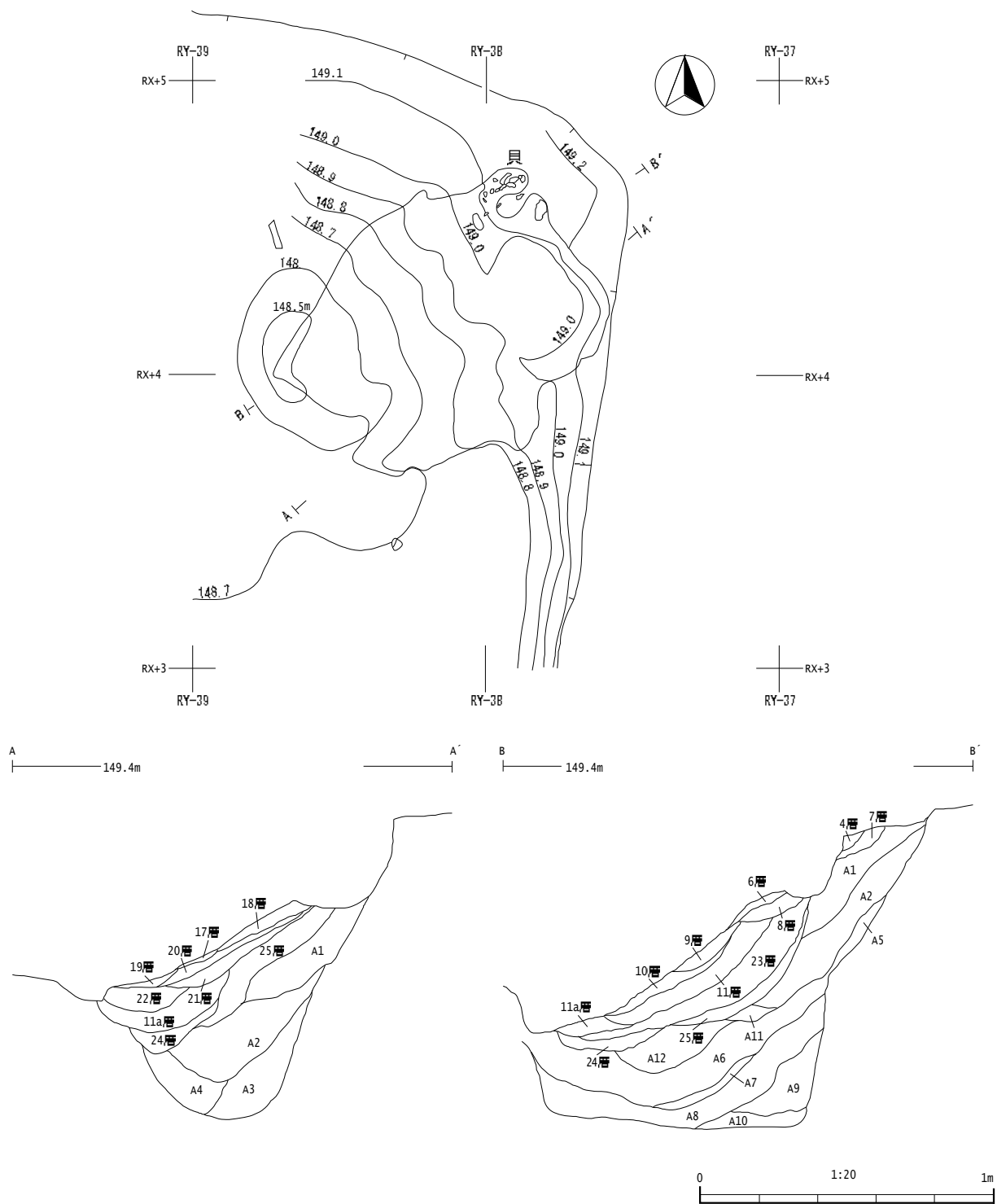


図143 HH01貝層平・断面

種名 層位	二 枚 貝 綱											
	ムラサキインコガイ			イ ガ イ			マ キ ガ イ		ウ ニ		ア ワ ビ	
	L	R	g	L	R	g	個	g	個	g	個	g
なし	396	0	94	67	0	25	49	14	8	4		
	0	387	94	0	64	35						
1層	34	0	10	7	0	1	4	1				
	0	26	5	0	6	1						
2層	45	0	5	20	0	10			1	1		
	0	42	10	0	11	1						
3層	2	0	1	1	0	1	2	1				
				0	4	1						
4層	206	0	45	26	0	10	17	2				
	0	193	40	0	27	6						
5層	188	0	60	33	0	10	19	5				
	0	215	75	0	30	25						
6層	312	0	130	53	0	35	127	21	2	1	1	15
	0	295	120	0	68	50						
7層	4	0	1									
	0	6	1									
8層	1962	0	820	206	0	220	678	110	15	2		
	0	2061	835	0	138	140						
9層	801	0	331	184	0	200	656	110	12	3		
	0	771	341	0	183	215						
10層	1144	0	550	177	0	266	715	110	19	3	2	5
	0	1175	575	0	188	251						
11層	2445	0	1160	554	0	756	921	135	30	4	1	5
	0	2914	1366	0	404	276						
11a層	687	0	270	200	0	345	230	50	2	1	1	15
	0	862	410	0	221	450						
12層	6	0	1				1	1				
	0	2	1	0	2	1						
13層	47	0	10				3	1				
	0	55	15	0	19	2						
14層	8	0	1	2	0	11	2	1				
	0	8	1									
15層	329	0	106	57	0	45	49	10	2	1		
	0	341	121	0	56	50						
16層	316	0	92	50	0	66	78	16	1	1		
	0	399	106	0	52	66						
17層	343	0	100	83	0	50	57	15	5	1		
	0	246	100	0	93	90						
18層	325	0	110	100	0	125	286	45	9	2		
	0	344	135	0	107	95						
19層	134	0	45	37	0	55	43	5	1	1		
	0	150	40	0	29	35						
20層	995	0	450	218	0	471	424	90	59	3		
	0	822	320	0	275	491						
21層	1027	0	540	375	0	360	561	85	71	3		
	0	1065	521	0	259	356						
22層	897	0	416	252	0	336	817	86	24	2		
	0	1372	474	0	253	356						
23層	1136	0	490	222	0	280	322	35	89	2		
	0	1080	465	0	237	285						
24層	348	0	116	142	0	150	126	12	41	4		
	0	360	141	0	164	180						
25層	343	0	145	68	0	100	136	8	26	4		
	0	300	80	0	82	91						
26層 (AⅡ層)	1	0	1	10	0	2	11	2	2	2		
	0	10	7	0	5	5						
27層				1	0	5						
				0	1	1						
合計	14,085	15,501	12,499	2,939	2,978	7,490	6,334	971	419	45	5	40

表1 貝層集計表

HH01竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR2/3 黒褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 7%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少ない、粉状構造、埋土最上層ややくぼみの状態で堆積した黒褐色土
竪穴埋土	B 1	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%粉状 10YR2/3 黒褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり、粉状構造、木炭粉微量、縄文土器＞土師器少量
竪穴埋土	B 2	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 10%粉粒状	やや軟質、しまり弱、粘性少々あり、木炭塊、大型礫土師器＞縄文土器
竪穴埋土	B 3	10YR3/3 暗褐色	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	軟質、しまり少、粘性少ない
竪穴埋土	C	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 10%粉粒状	やや硬質、ややしまりあり、粘性あり、木炭粉微量、竪穴の最初の埋設土の壁際に流れ込んだ土層である

HH01貝層土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
1層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 5%塊状	軟質、疎、塊状構造、貝層
2層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造
3層		10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土 10%塊状	軟質、疎、塊状構造
4層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土	10YR4/4 シルト質壤土 2%粒-塊状	軟質、疎、塊状構造、若干のスミ片混じる
5層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造
6層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 1%粒-小塊状	軟質、疎、塊状構造
7層		10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土 5%塊-粒状	中、中、塊状構造、若干の破砕貝片入る
8層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造
9層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造
10層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造
11層				11層目≠貝層の終わり
12層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 10%粒-塊状	軟質、疎、塊状構造、土層に貝片が混じる程度→11層目の廻りのこと
13層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造、12層目と同じ
14層		10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 10%粒-塊状	軟質、疎、塊状構造、竪穴壁際の土層になる
15層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色砂質壤土 15%塊状	軟質、疎、塊状構造
16層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%塊状	軟質、疎、塊状構造、スミ片やや多し
17層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 10%塊状	軟質、疎、塊状構造、スミ片多し、ほとんど貝殻だけの層
18層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造、スミ片少量
19層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造、スミ片若干
20層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	7.5YR4/6 褐色壤土 5%塊状	軟質、疎、塊状構造、スミ片大きめのあり
21層		10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 10%粒状	軟質、疎、塊状構造、スミ片やや多め
22層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造
11a層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%塊状	軟質、疎、塊状構造、スミの破片多い(他の層に比べて)、スミ粉
23層		10YR3/1 黒褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造、多量のスミ粉状に含む
24層		10YR3/2 黒褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 10%塊状	軟質、疎、塊状構造、土師器片2片、貝層はこれで終わり
25層				ムラサキインコ貝完形品主体、イガイも含まれる、土が多い(混入土層)

HH01貝層土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
	A 1	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR3/2 黒褐色シルト質壤土 3%粒-小塊状	軟質、疎、塊状構造、攪乱が著しい
	A 2	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂質壤土 1%粒状	中、軟質、中、塊状構造、極くこまかいスミ片微量
	A 3	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂質壤土 5%粒-小塊状	中、中、塊状構造
	A 4	10YR4/4 褐色	10YR5/8 黄褐色砂質壤土 1%粒-小塊状	軟質、中、疎、塊状構造
	A 5	10YR5/8 黄褐色砂質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 10%塊状	中、中、塊状構造、壁の崩壊土
	A 6	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂質壤土 2%粒状	軟質、疎、塊状構造、微量のスミ片入る(細かいスミ片)
	A 7	10YR4/6 褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造
	A 8	10YR3/2 黒褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂質壤土 5%粒-小塊状 10YR4/6 褐色シルト質壤土 7%粒-小塊状	軟質、疎、塊状構造、大きなスミ片、塵土塊入る
	A 9	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂質壤土 1%粒状	軟質、疎、塊状構造
	A 10	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/8 黄褐色砂質壤土 2%粒状	軟質、疎、塊状構造
	A 11	10YR4/4 褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造、貝を含む層
	A 12	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土		軟質、疎、塊状構造

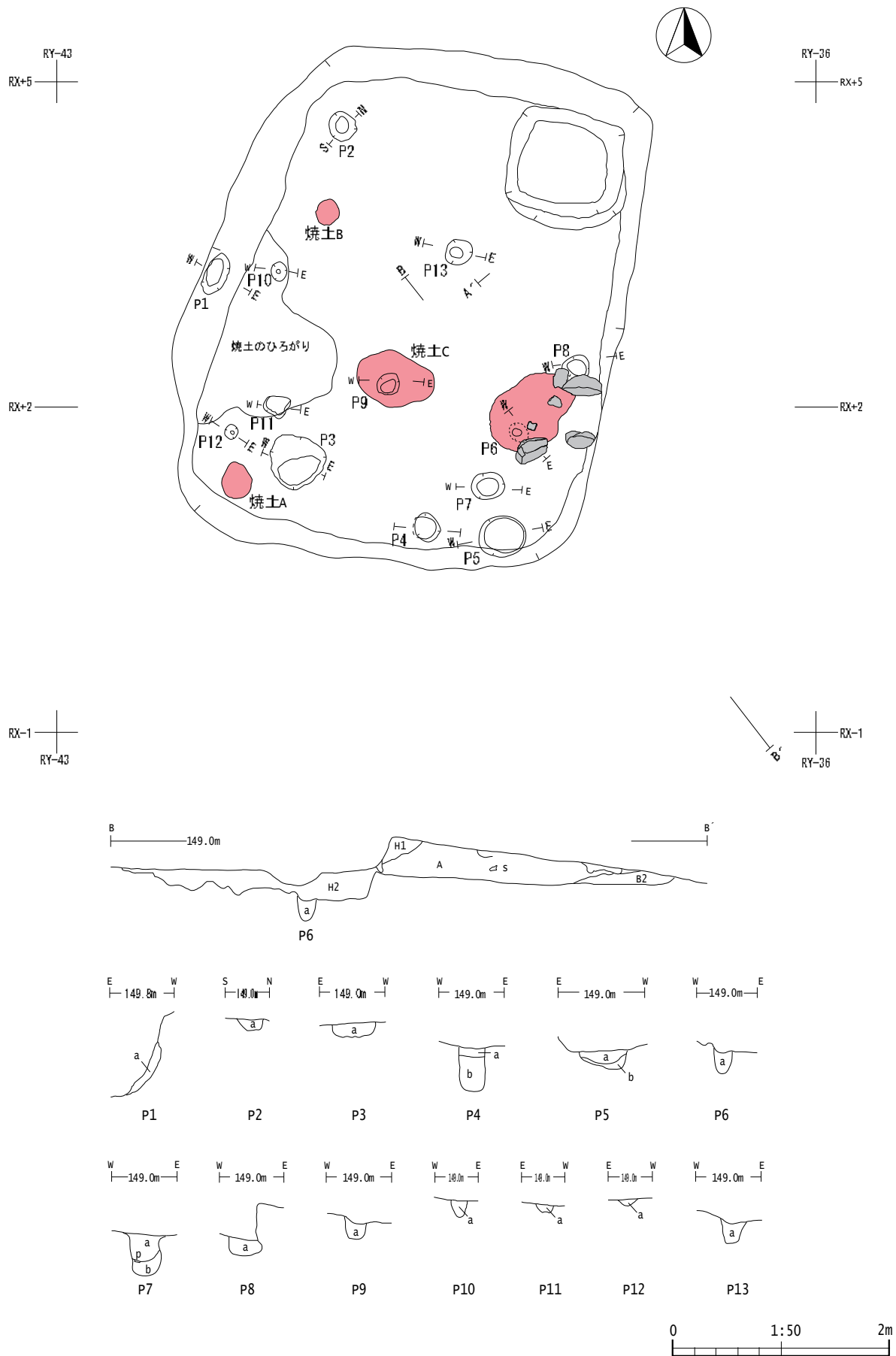


図144 HH01竪穴住居跡平・断面

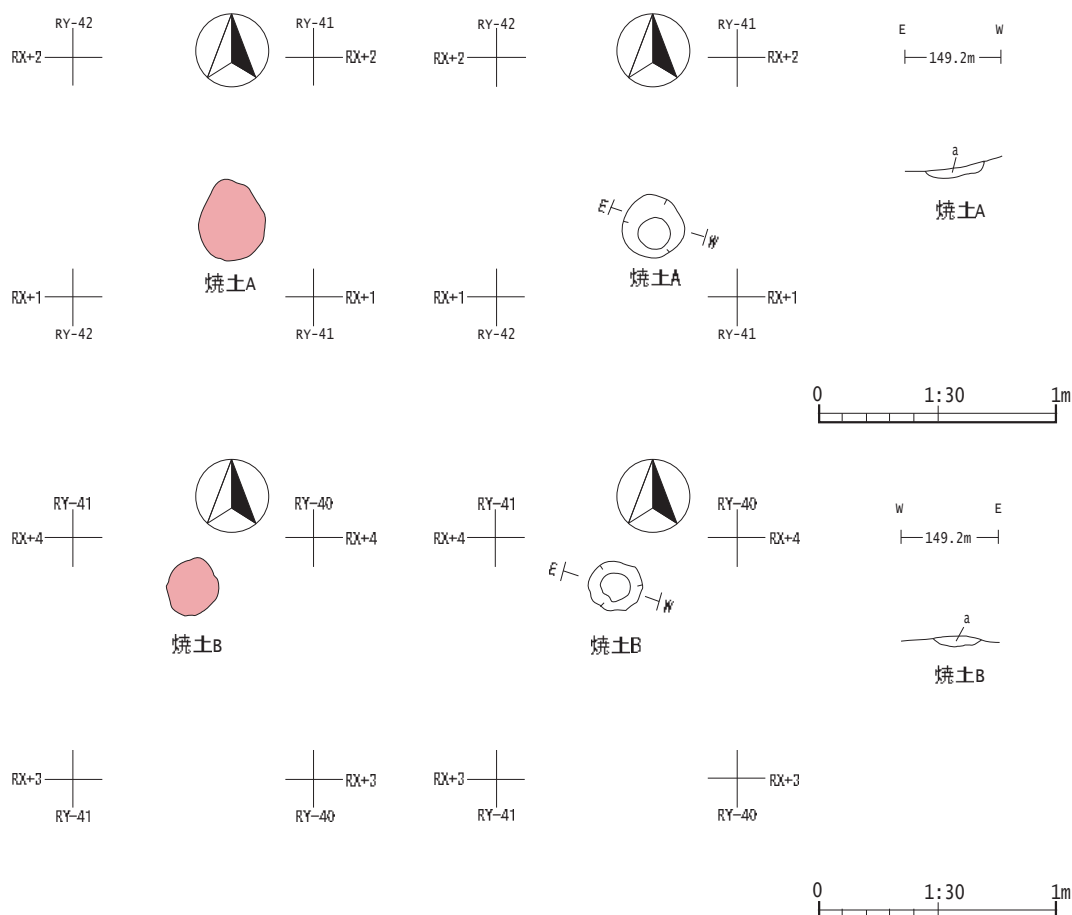


図146 HH01焼土A・B平・断面

49は縄文土器である。平行沈線間に刺突列が入る。

50、51は礫石器である。50は砥石である。51は石斧の未製品と思われる。

52、53は石製品である。52は石皿である。53は块状耳飾りである。

54～56は剥片石器である。54は平基の石鏃である。55は基部を残す石鏃である。56は柳葉形の石槍である。

57、58は鉄製品である。57は二カ所に穿孔される鉄鏃である。58は細く、薄い板状で、両端に穿孔される。穂積具か。

59は土製品である。胎土は赤褐色に焼け、明瞭な輪積痕を残す。筒状の製品と推測するが、用途は不明である。

HH01竪穴住居跡焼土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土A埋土	a 7.5YR4/6 褐色焼土		軟質～中、中、塊状構造、浅い、薄い
焼土B埋土	a 7.5YR4/6 褐色焼土		軟質～中、中、塊状構造、浅い、薄い
焼土C埋土	a 1 10YR3/3 暗褐色シルト質埋土	7.5YR4/6 褐色焼土 5%小塊状 10YR5/8 黄褐色砂質埋土 1%小塊状	中、中、塊状構造、若干のスミ片含む
	b 5YR4/8 赤褐色焼土	10YR5/8 黄褐色砂質埋土 1%粒状	中、中～密、塊状構造、床面はガチガチで焼土の浸透も見られ火をうけた状態

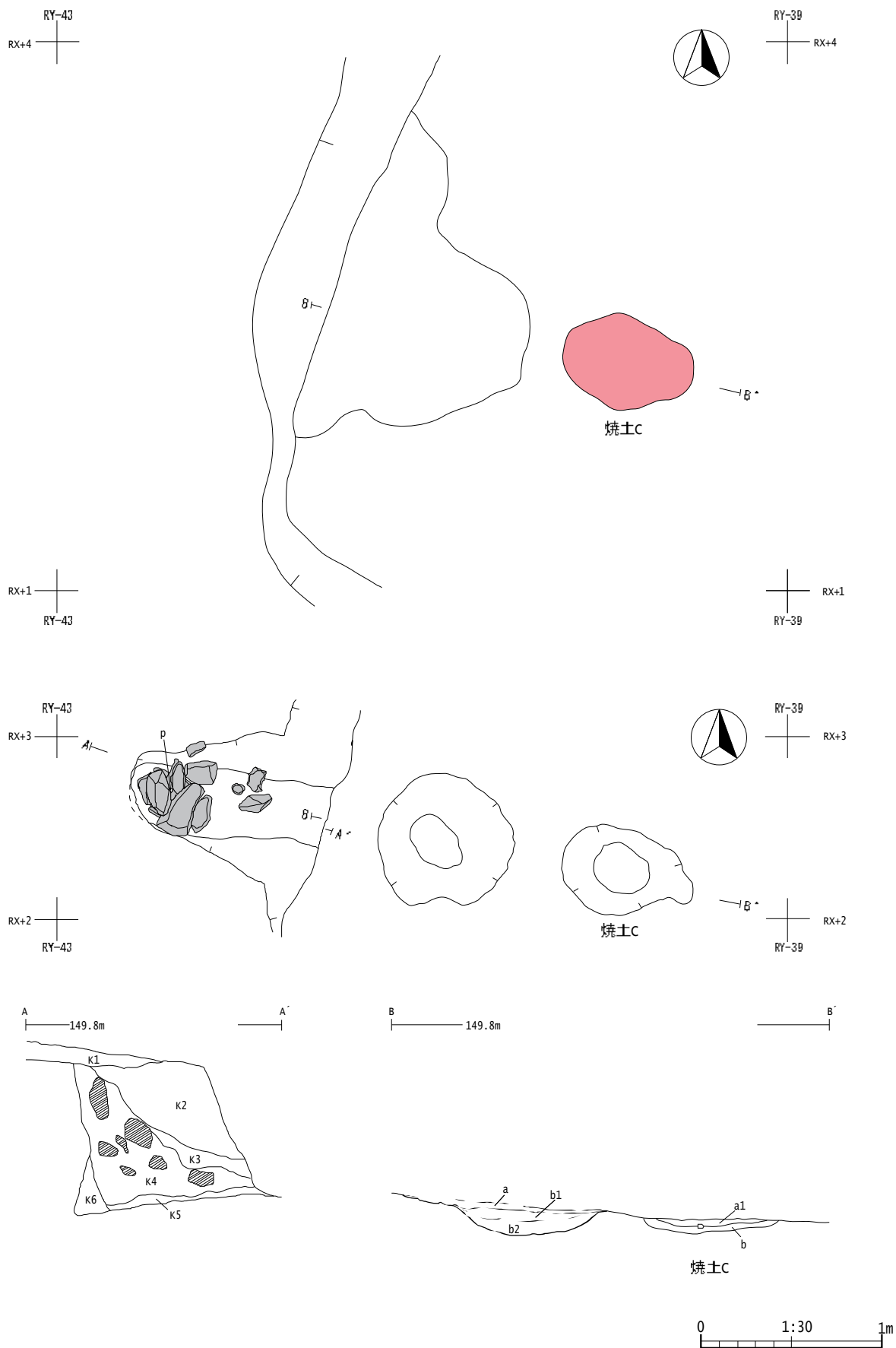


図147 HH01竪穴住居跡カマド(旧) 焼土C平・断面

HH01竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土	10YR5/8 黄褐色砂質粘土 2%粒状	軟質、疎、塊状構造
柱穴P2埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質粘土	10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 15%塊状 10YR5/8 黄褐色砂質粘土 5%粒状	軟質、中、中、塊状構造、柱穴ではない
柱穴P3埋土	a 10YR4/6 褐色シルト質粘土	10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 20%塊状 10YR5/8 黄褐色砂質粘土 7%粒状	軟質、中、塊状構造、若干のスミ片
柱穴P4埋土	a 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 5%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉粒微量
	b 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
柱穴P5埋土	a 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 2%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉粒微量
	b 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
柱穴P6埋土	a 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土	10YR4/6 褐色粘土 3%粉状	やや硬質、しまりややあり、粒塊状構造
柱穴P7埋土	a 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、土器
	b 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
柱穴P8埋土	a 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 3%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉粒微量
柱穴P9埋土	a 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 2%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
柱穴P10埋土	a 10YR4/6 褐色粘土	10YR4/4 褐色粘土 3%粉状 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 2%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉粒微量
柱穴P11埋土	a 10YR3/4 暗褐色粘土	2.5YR4/8 赤褐色粘土 1%粒状 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 1%粉状	やや硬質、しまりややあり
柱穴P12埋土	a 10YR3/3 暗褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 2%粉状	木炭粒(径5mm)5%
柱穴P13埋土	a 10YR4/6 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 3%粉粒状	きわめて軟質、しまりなし、木炭粉1%

HH01竪穴住居跡カマド(新)土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
カマド埋土	K 7 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土	10YR5/6 黄褐色砂質粘土 3%粒状	軟質、疎、塊状構造、焚口、煙道への埋土
カマド埋土	K13 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土	10YR4/6 褐色砂質粘土 5%粒・塊状 10YR5/6 黄褐色砂質粘土 2%粒状	軟、疎、塊、若干のスミ片
カマド埋土	K15 10YR4/4 褐色シルト質粘土	7.5YR4/6 褐色粘土 15%塊状	固、中、塊状構造、焼痕面
カマド埋土	K16 7.5YR4/6 褐色粘土	5YR5/8 明赤褐色粘土 20%塊状	軟質、疎、塊状構造、粘土堆積層

HH01竪穴住居跡カマド(旧)土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
カマド煙道部埋土	a 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土	10YR2/1 黒色シルト質粘土 5%(攪乱土) 10YR5/8 黄褐色砂質粘土 3%粒状 7.5YR4/6 褐色粘土 5%塊状	中、中、塊状構造
カマド煙道部埋土	b 1 10YR4/6 褐色シルト質粘土	7.5YR4/6 褐色粘土 10%塊状	中、中、塊状構造、下の粘土の上の土
カマド煙道部埋土	b 2 5YR4/8 赤褐色粘土	7.5YR4/6 褐色粘土 10%塊状	固、疎、塊状構造、底面がすっかり焼けてボロボロになっている
カマド焼痕部埋土	K 1 10YR5/8 黄褐色砂質粘土	10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 5%塊状	固、中、密、塊状構造、石の崩壊に伴い周囲の土(地山?)が下がって流れ込んできたものか?煙道口の壁の立ち上がりの線が見えない
カマド焼痕部埋土	K 2 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土	10YR5/8 黄褐色砂質粘土 15%塊~大塊状 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 10%塊~大塊状	軟質、疎、塊状構造、若干のスミ片
カマド焼痕部埋土	K 3 10YR4/6 褐色シルト質粘土	10YR5/6-5/8 黄褐色砂質粘土 10%塊状 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 5%塊状	軟質、中、疎、塊状構造
カマド焼痕部埋土	K 4 10YR5/6-5/8 黄褐色砂質粘土(全体的に塊状でボクボクしている)	10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 5%塊状	固、中、中、疎、塊状構造、天井部分が崩れたものか、大礫を含む、粘土の塊も入る 天井部分の石組(煙出口?)が崩壊したためか?大量の礫(花崗岩自然礫)がはいっている
カマド焼痕部埋土	K 5 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土	10YR5/8 黄褐色砂質粘土 1%粒状	軟質、疎、塊状構造、スミ片、粘土塊、本来の煙道の埋土か?
カマド焼痕部埋土	K 6 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土	10YR5/8 黄褐色砂質粘土 10%粒状	軟質、疎、塊状構造

〈埋土〉

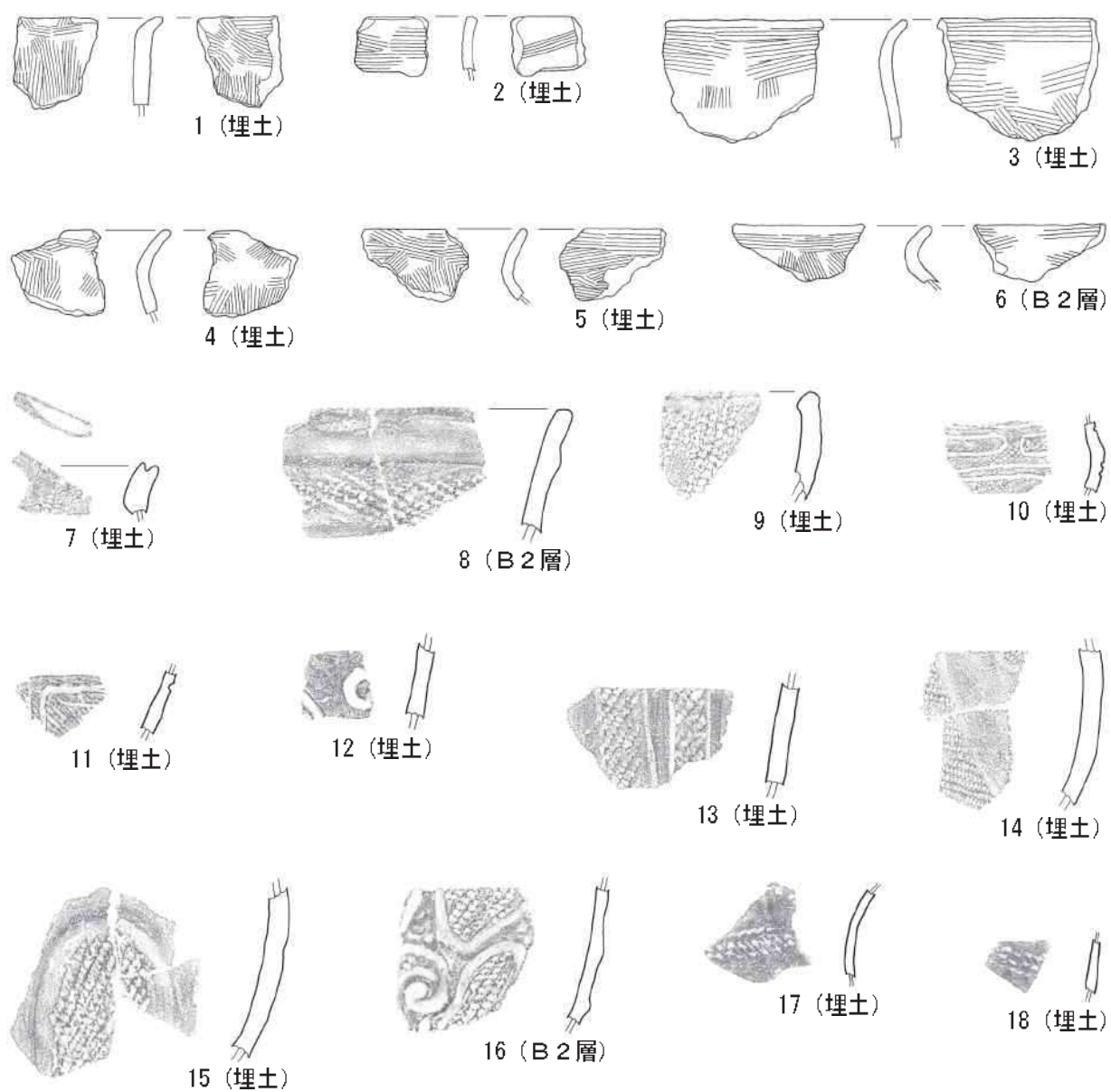
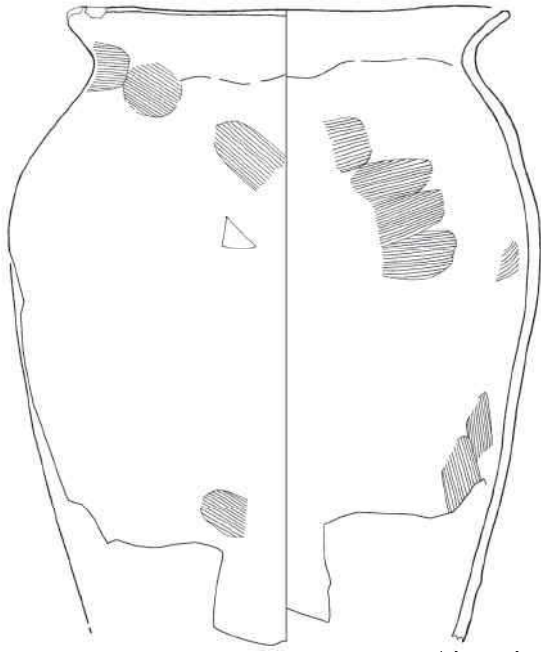
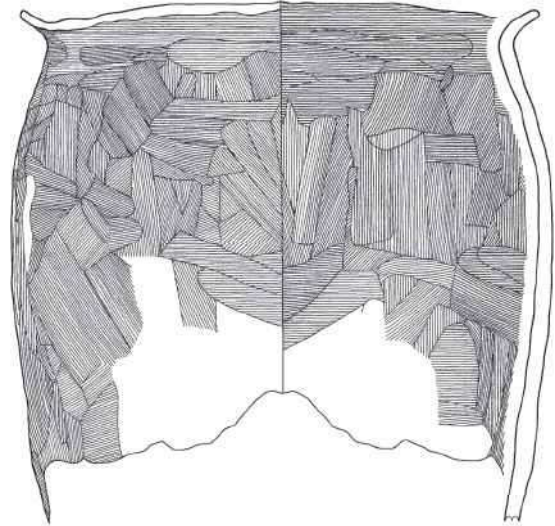


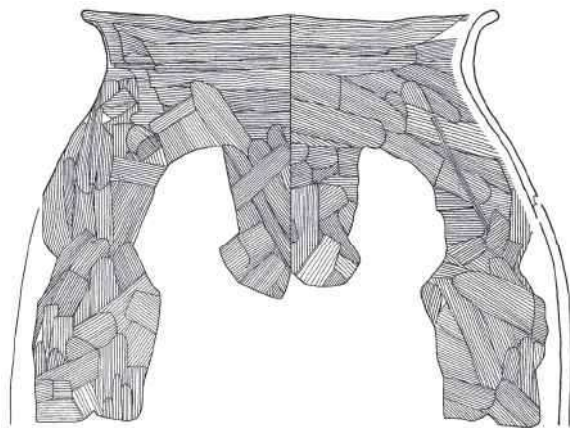
図148 HH01竪穴住居跡出土遺物 (1)



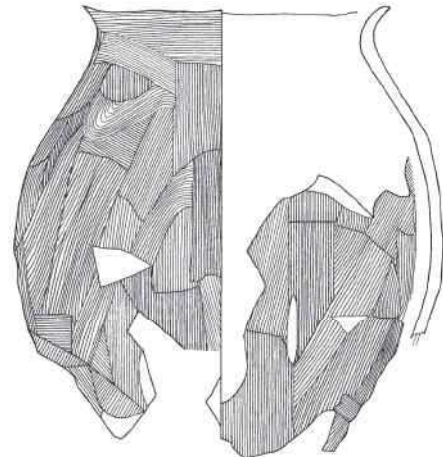
21 (カマド)



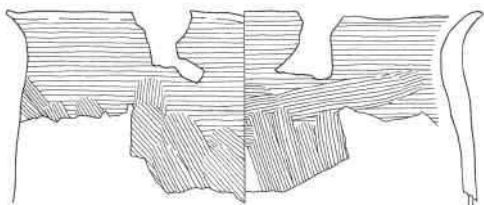
22 (床面)



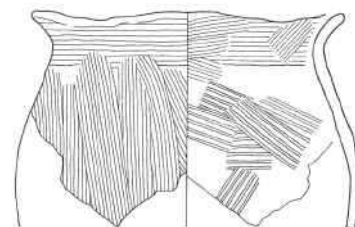
23 (床面)



24 (カマド)



25 (床面)



26 (カマド)

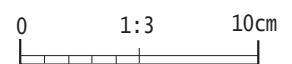
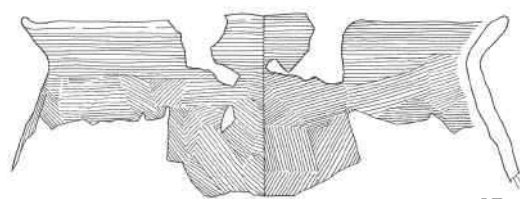
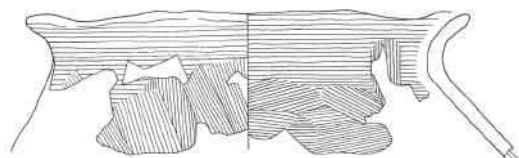


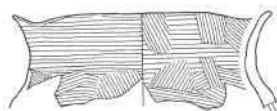
図149 HH01竪穴住居跡出土遺物 (2)



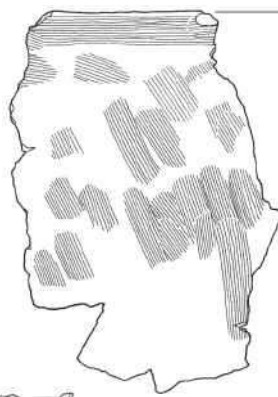
27 (床面)



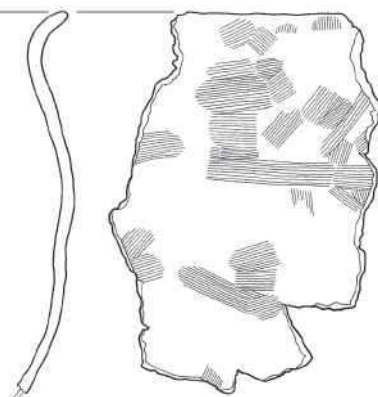
28 (カマド)



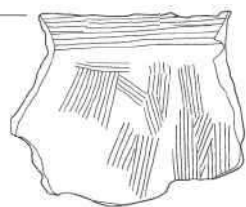
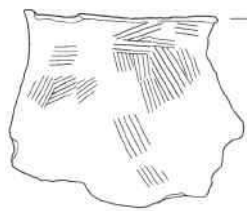
29 (カマド)



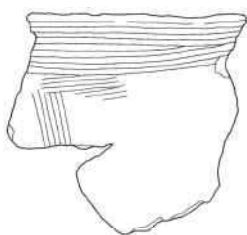
30 (床面)



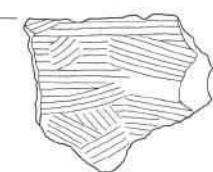
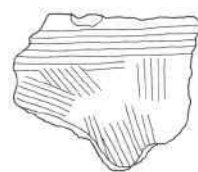
31 (カマド)



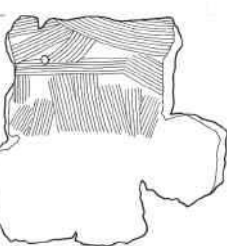
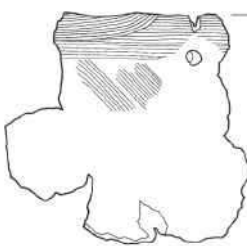
32 (カマド)



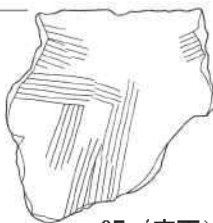
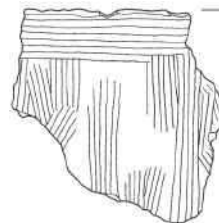
33 (カマド)



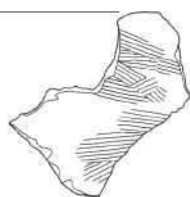
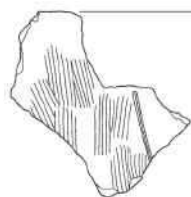
35 (床面)



34 (カマド)



37 (床面)



36 (床面)

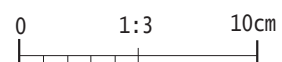
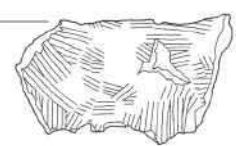
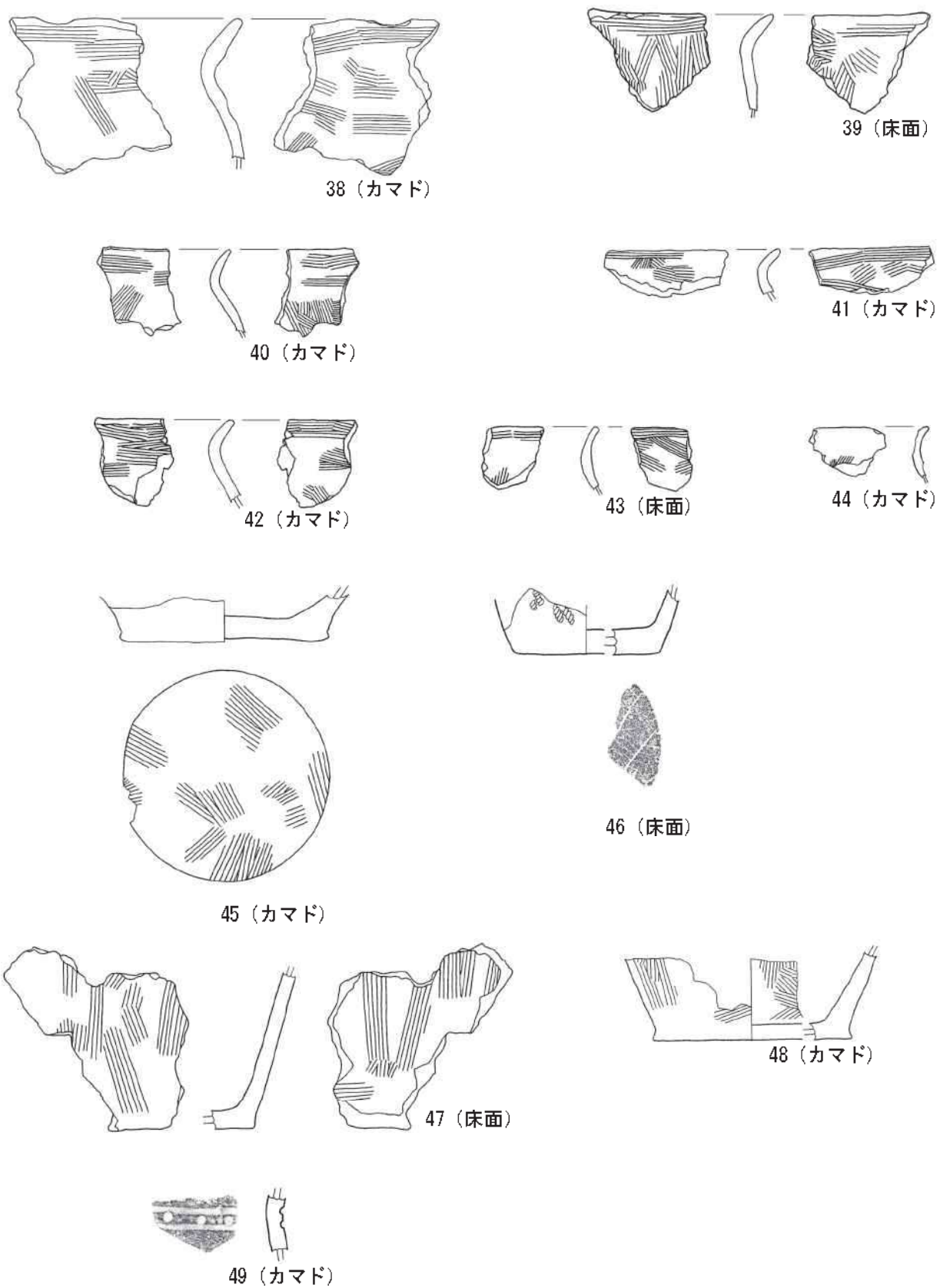


図150 HH01竪穴住居跡出土遺物 (3)



0 1:3 10cm

図151 HH01竪穴住居跡出土遺物 (4)

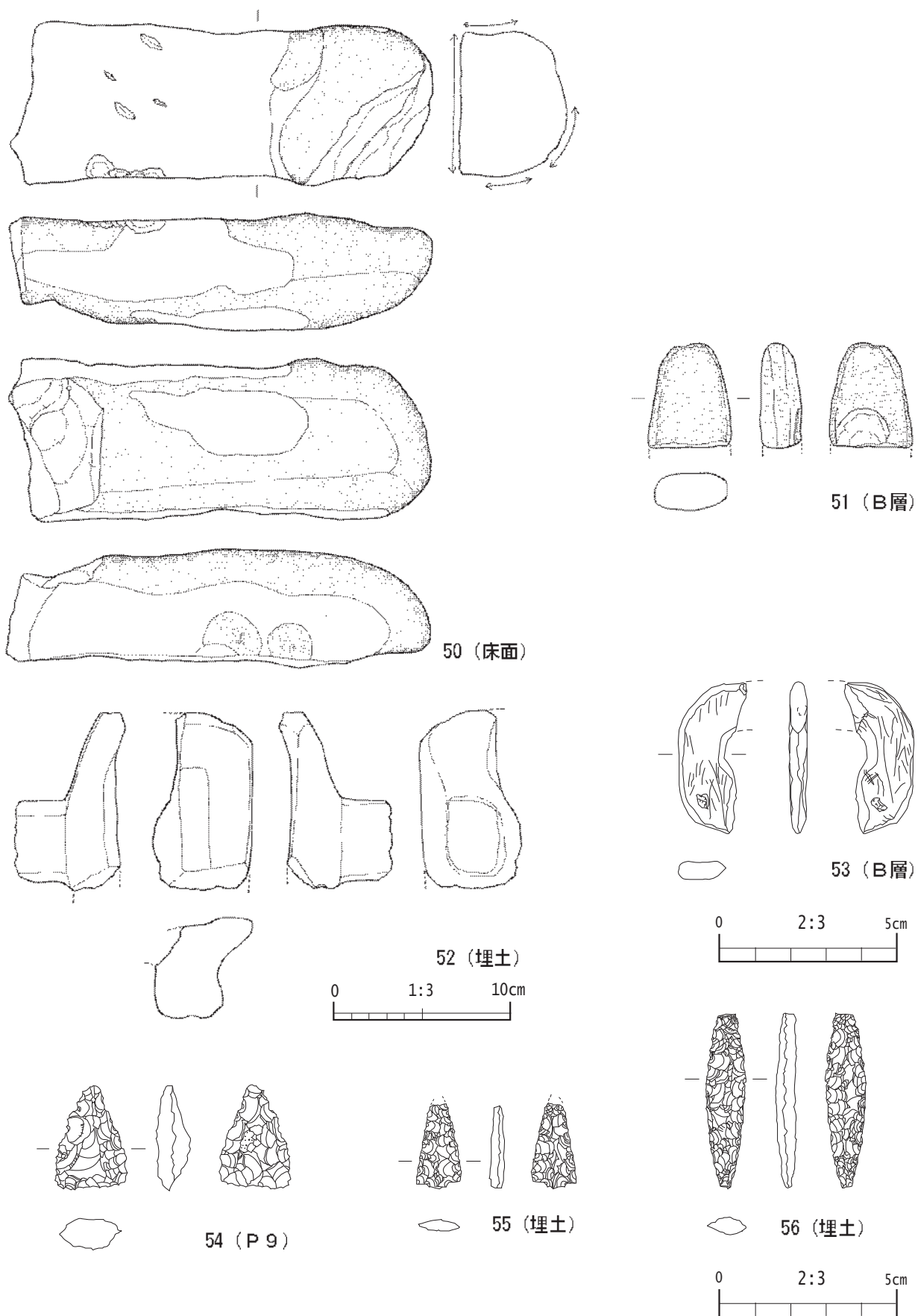
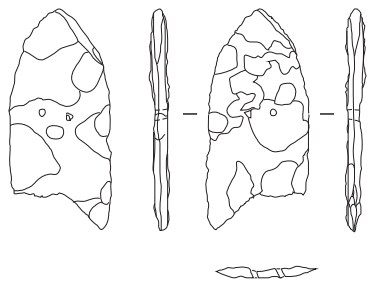
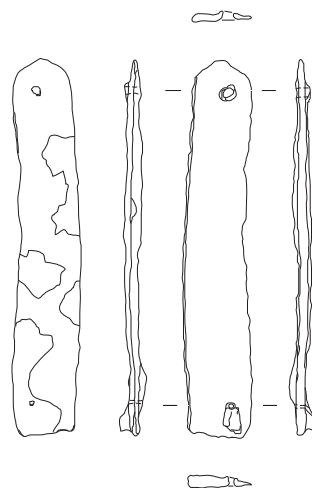


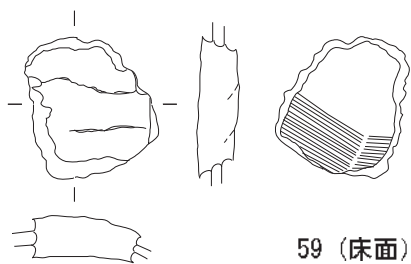
図152 HH01竪穴住居跡出土遺物 (5)



57 (A層)



58 (埋土)



59 (床面)

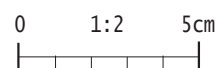


图153 HH01竖穴住居跡出土遺物 (6)

HH02 竪穴住居跡 (図154)

HH01の西に位置する。平面形は不整な隅丸方形である。規模は、東西4.0m、南北3.5mを測る。埋土は4層に大別される。北壁にカマドを設ける。床面中央に隅丸方形の大形土坑を伴う。柱穴跡、周溝などは検出していない。

カマド跡 (図156)

北壁の中央に位置する。割り貫き式である。煙道は水平に掘り込まれ、煙出しは垂直に立ち上がる。袖石の据方を確認している。

P1 土坑跡 (図154、155)

床面の南に位置する。平面形は隅丸方形である。規模は、南北2.5m、東西1.5m、深さ1.4mを測る。8割かた埋められた段階で二次利用されている。床面の東側で焼土遺構、周溝を検出している。埋土、焼土面から遺物は出土していない。

出土遺物 (図157～159)

＜埋土＞ 1は土師器甕の口縁部である。短く、胴部は張出す。2は弥生土器である。平行沈線で施文された浅鉢である。3～11は縄文土器である。3～6は口縁部である。3、4は沈線と刺突列を伴う。5は横位の隆帯と縄文で施文される。6は撚糸文に沈線が伴う。7は沈線で区画し、縄文と無文帯を分ける。8は平行沈線で縄文と無文帯を分ける。9は沈線と刺突列を伴う。10は隆沈線で施文される。11は無文で、底面に網代痕を残す底部である。

＜床面＞ 12～22は土師器の甕である。12～16は口縁部が短く、胴部の張りの弱い長胴型の甕である。17～19の口縁部はいずれも短い。17、18の胴部の張出しは弱く、19は強く張出す。20、21の底部の張出しは弱い。

22～26は縄文土器である。22は斜縄文で施文される小形の鉢である。23は沈線文である。24は沈線と刺突列が伴う。25は撚糸文で施文される。26は台付鉢の底部と思われる。

27は鉄製品の刀子である。

28は土製品である。土偶の体部である。刺突列で施文される。

29は剥片石器である。平基の石鏃である。

30、31は礫石器である。30は磨石である。31は敲打石である。

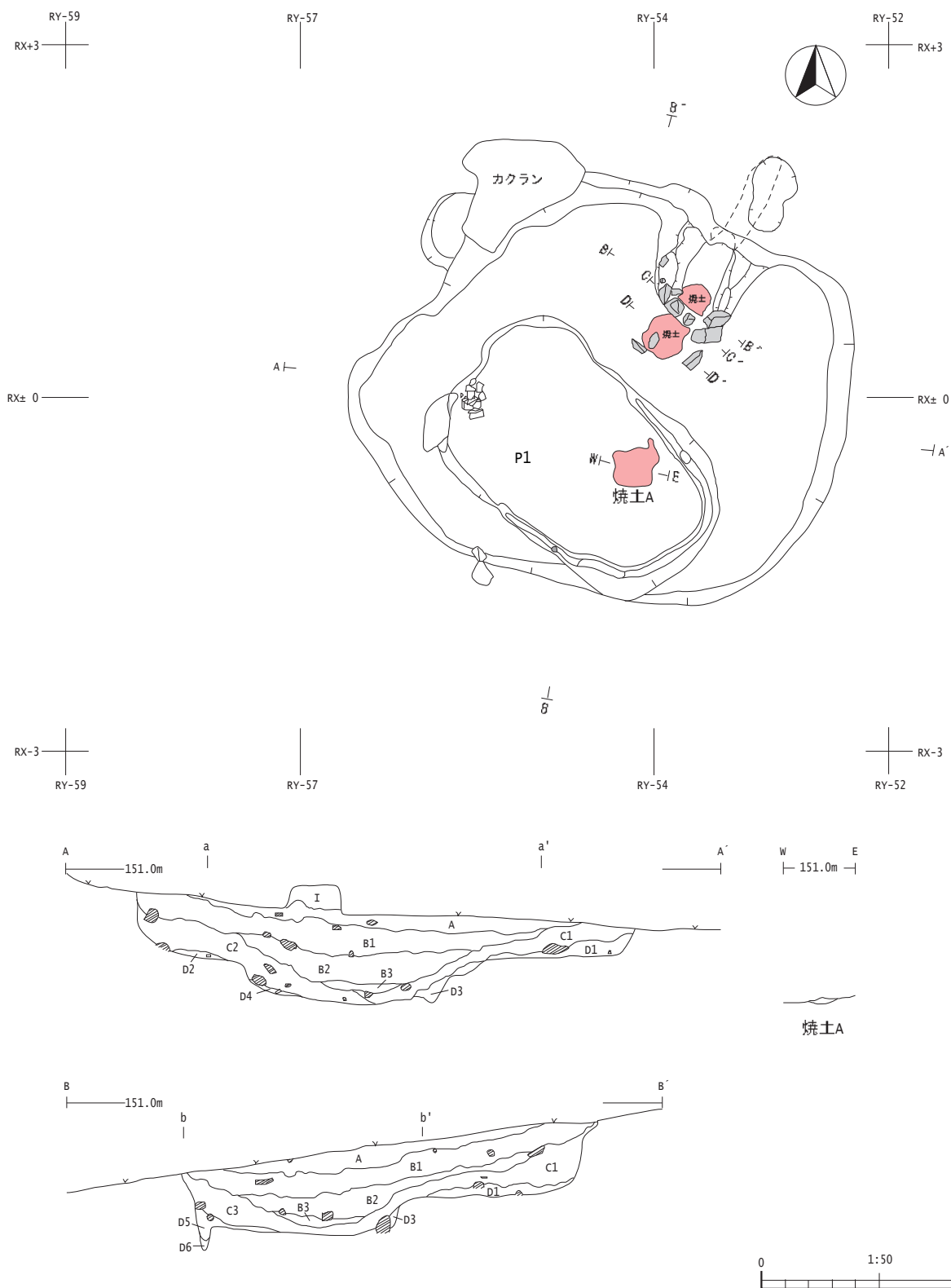


図154 HH02竪穴住居跡平・断面

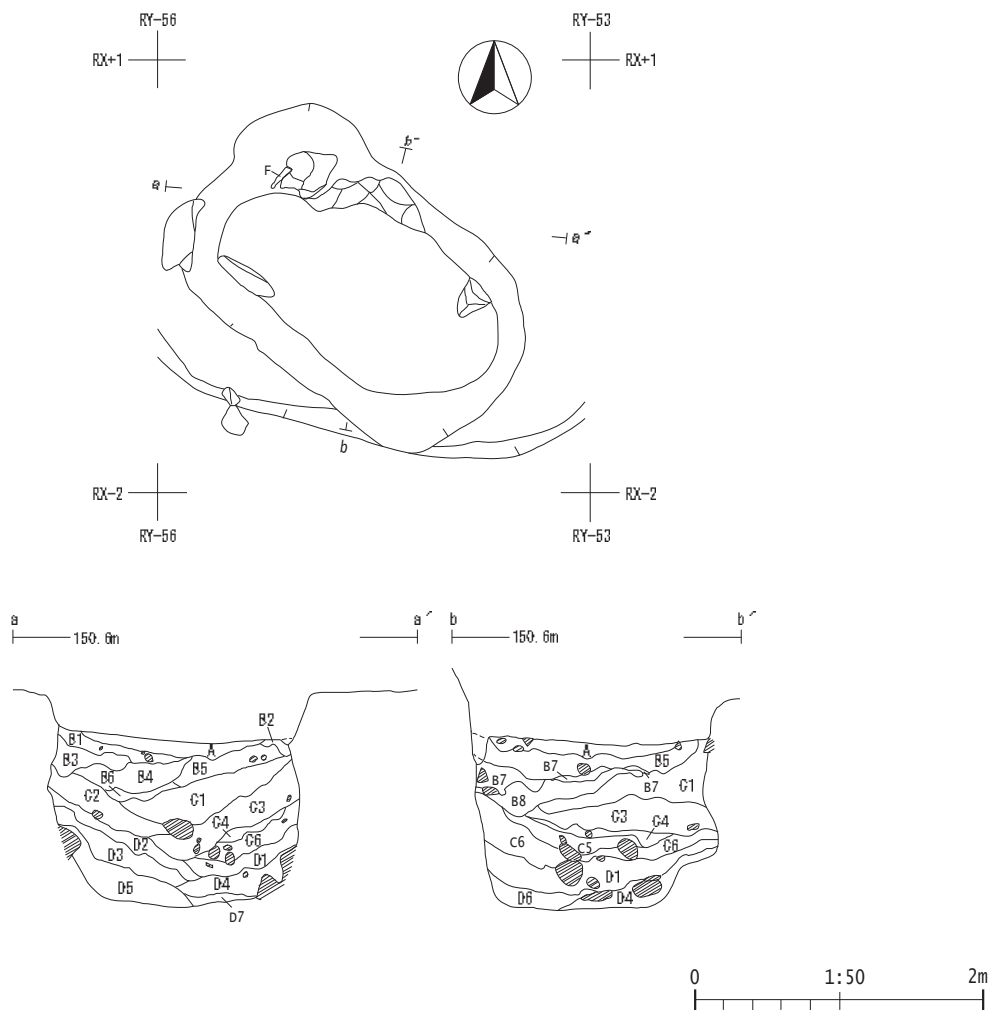


図155 HH02 P 1 土坑跡平・断面

HH02竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土 A	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR2/3 黒褐色壤土 15%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粉状構造、粘性少ない、自然堆積層と見られる黒褐色土
竪穴埋土 B 1	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、粉粒状構造、礫(拳大)
竪穴埋土 B 2	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 10%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、粉粒状構造、礫多量(花崗岩、手の平大)
竪穴埋土 B 3	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまりややあり、底だまり黒褐色土
竪穴埋土 C 1	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 10~25%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、粉状構造、低住床面付近で木炭粒1%、礫
竪穴埋土 C 2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 10%粉状(層状)	やや軟質、しまりやや弱、礫
竪穴埋土 C 3	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 10%粉状 10YR5/6 黄褐色砂壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、全体にザラザラ花崗岩砂粒含む
竪穴埋土 D 1	10YR3/3 暗褐色壤土	10YR2/3 黒褐色 5%粉状	やや軟質、しまり弱、粉状構造、土師器
竪穴埋土 D 2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 1%	やや軟質、しまりやや弱、木炭微量
竪穴埋土 D 3	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状 10YR5/6 黄褐色砂壤土 7%	軟質、しまりなし、低住面壁下当初埋土、壁下溝埋土
竪穴埋土 D 4	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%	やや軟質、しまりやや弱、土師器
竪穴埋土 D 5	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 7%粉状	きわめて軟質
竪穴埋土 D 6	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%粉状	きわめて軟質、溝埋土
竪穴埋土 I	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色 5%粉状	軟質、しまり弱、表土旧耕作土
焼土A	5YR4/8 砂壤土焼土	10YR4/6 壤土粉状 2%	現地性焼土、最大厚さ40mm

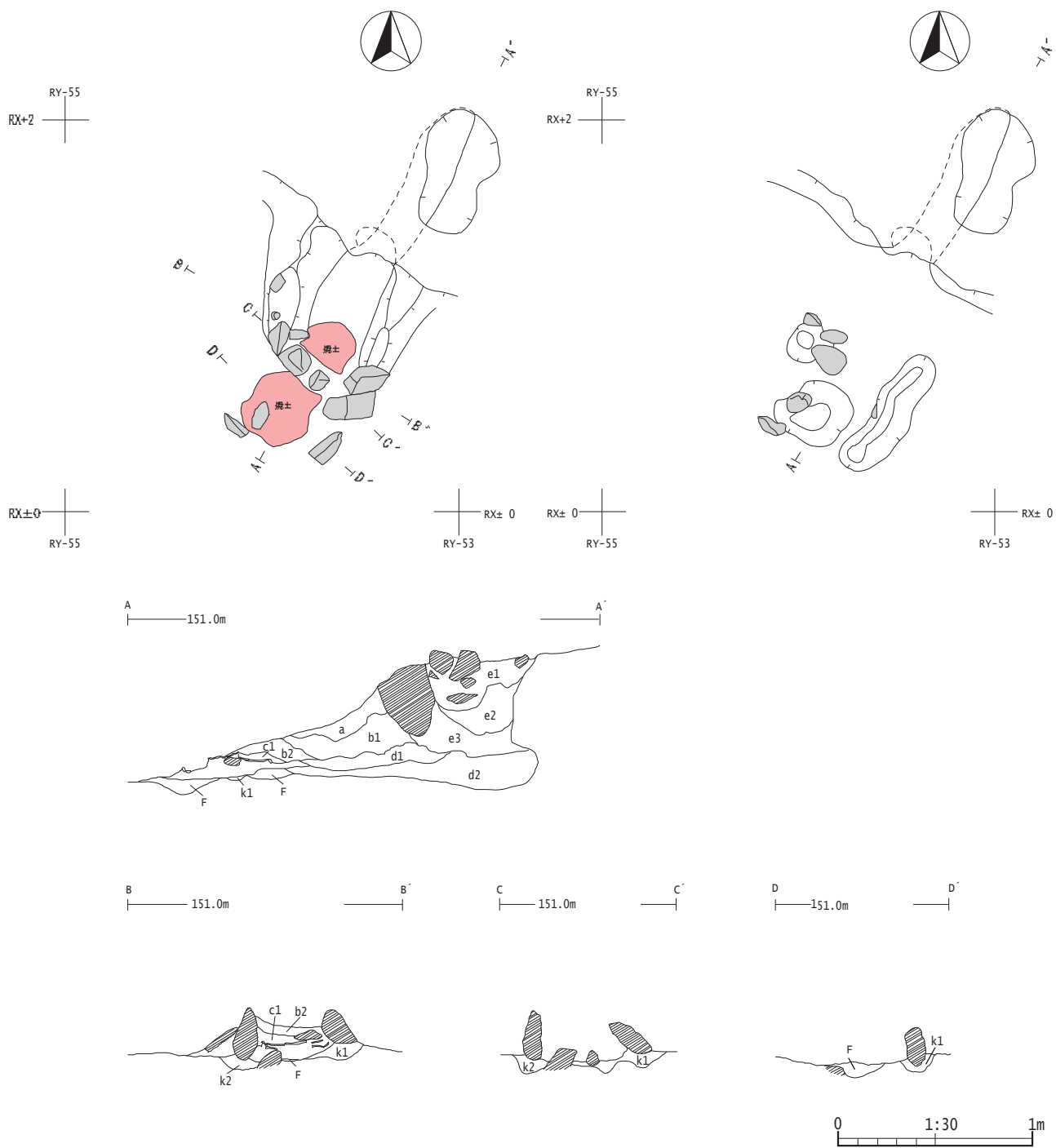


図156 HH02カマド平・断面

HH02竪穴住居跡土坑跡埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR5/6 黄褐色砂壤土	5YR4/8 赤褐色壤土(焼土) 2%粉粒状 10YR4/6 褐色壤土 3%塊状	やや硬質、しまりあり、粘性なし、木炭粉微量
土坑埋土	B 1 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色壤土 1%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性なし、花崗岩、小礫
土坑埋土	B 2 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 5%粉状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粒状	軟質、しまりなし、粘性なし
土坑埋土	B 3 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 25%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少ない
土坑埋土	B 4 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少ない
土坑埋土	B 5 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 2%粒塊状 10YR6/8 明黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性なし、木炭微量、花崗岩、礫(拳大)
土坑埋土	B 6 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 15%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少し
土坑埋土	B 7 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり、木炭1%
土坑埋土	B 8 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR6/6 明黄褐色砂壤土 3%粉粒状	軟質、しまり弱、粘性なし、花崗岩、礫(中)
土坑埋土	C 1 10YR4/4 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉粒状 10YR5/6 黄褐色砂壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性ややあり、木炭粉1%
土坑埋土	C 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまり弱、粘性少ない
土坑埋土	C 3 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 7%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少しあり
土坑埋土	C 4 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色壤土 15%粉状	やや軟質、粘性あり、しまりややあり、基本土粉粒状構造
土坑埋土	C 5 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色埴壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり、木炭粉微量
土坑埋土	C 6 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 1%粉状 10YR3/4 暗褐色壤土 5%塊状	軟質、しまりやや弱、粘性少々あり
土坑埋土	D 1 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 10%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性なし、花崗岩、礫
土坑埋土	D 2 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 25%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり
土坑埋土	D 3 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粒状	やや軟質、しまりやや弱
土坑埋土	D 4 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%粉状	きわめて軟質、しまりなし、粘性なし
土坑埋土	D 5 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 15%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少ない
土坑埋土	D 6 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%	やや硬質、しまりややあり、粘性少々あり
土坑埋土	D 7 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 5%	やや軟質、しまりやや弱、粘性少ない

HH02竪穴住居跡カマド土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
カマド埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、粉粒状構造、木炭粉微量、焼土粒微量、P39
カマド埋土	b 1 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粒塊状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、粒塊状構造、木炭粒(径2~5mm)1%、P39
カマド埋土	b 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉状	b 1よりやや硬質、しまりあり、粘性少、木炭粉微量、焼土粒微量、P39
カマド埋土	c 1 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	b 2層よりやや軟質、しまり弱、タギグチの土器を埋めている層である、P39
カマド埋土	c 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 3%粉状 5YR4/8 赤褐色焼土 2%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり 粉状構造、木炭、P48
カマド埋土	d 1 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%	やや硬質、ややしまりあり、木炭粉微量、c 1層より混入土が多く硬い、P39
カマド埋土	d 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	軟質、しまり弱、粘性少あり、木炭粉1%、P53
カマド埋土	e 1 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉粒状	やや軟質、しまりややあり、粘性少、礫、P40
カマド埋土	e 2 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 10%粉粒状	やや軟質、しまり弱、粘性少々あり、P53
カマド埋土	e 3 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 15%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり、木炭粉微量、P53
カマド埋土	k 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性ややあり、P48
焼土	F 5YR4/8 赤褐色砂壤土(焼土)	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性全くなし、礫

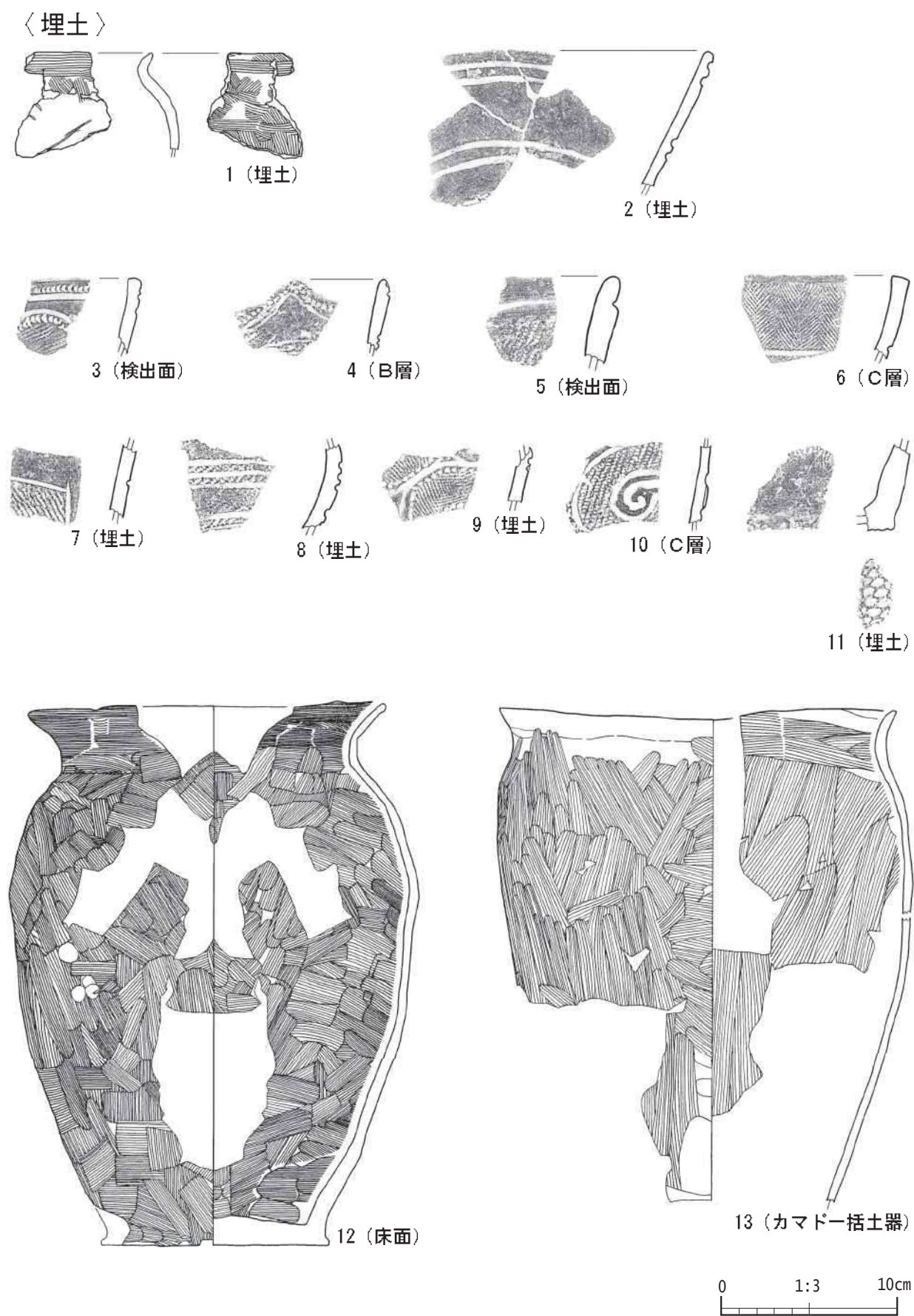


図157 HH02竪穴住居跡出土遺物 (1)

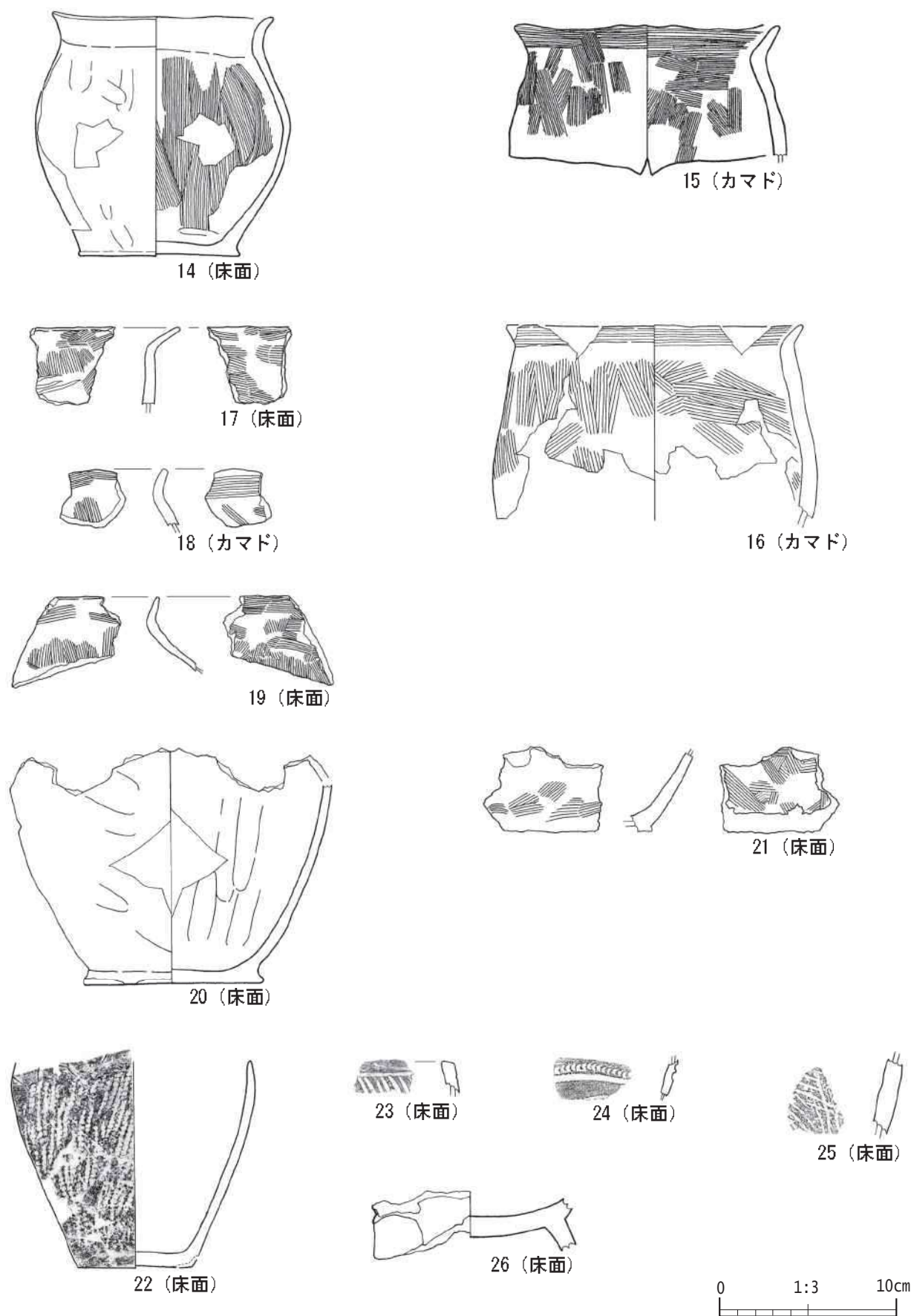


図158 HH02竪穴住居跡出土遺物 (2)

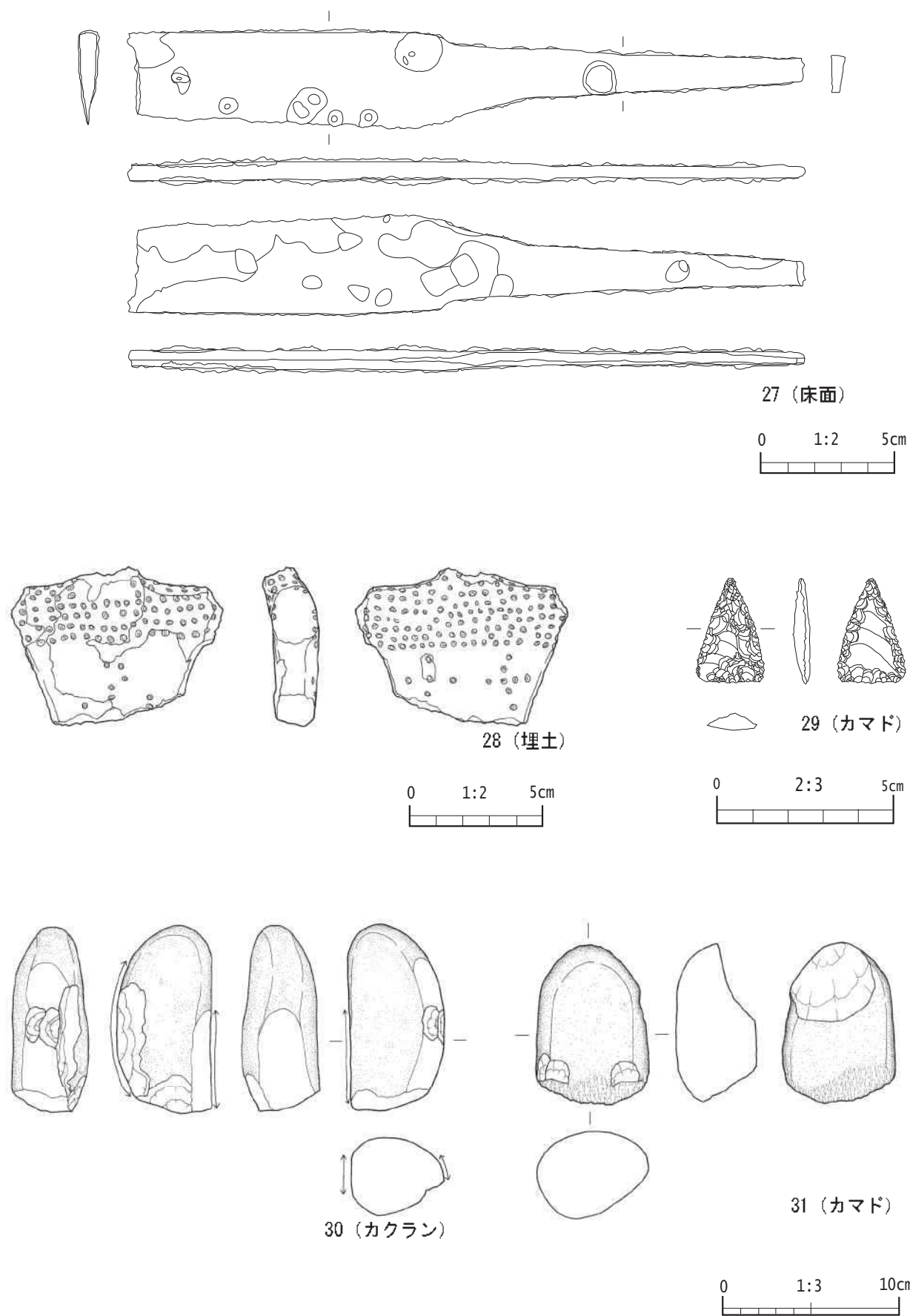


図159 HH02竪穴住居跡出土遺物 (3)

HH03 竪穴住居跡 (図160)

HH02の西に位置する。平面形は隅丸方形と推測する。規模は、東西3.9mを測る。埋土は4層に大別される。北壁にカマドを設ける。床面の西端で焼土遺構を、東壁際で小土坑跡を1基検出している。周溝は出土していない。

カマド (図161)

北壁の中央に位置する。煙道、煙出しともに下半部しか残されていない。煙道は上向きに掘られ、煙出しはやや傾斜する。炉石の据方を確認している。

焼土遺構については、遺物も共伴せず、炉などに使用された施設ではないことを確認した。

出土遺物 (図162、163)

1～5は土師器の甕である。1、2は口縁部で、いずれも短い。3の底部の張出しは弱い。4、5は口縁部は短く、胴部の張出しも弱い長胴型の甕である。

6は鉄製品の角釘である。

7、8は土製品である。7は紡錘車である。8は支脚である。

9、10は剥片石器である。9は平基の石鏃である。10は不定形石器である。側縁に直刃、凹刃を調整する。

11は礫石器である。磨製石斧である。

XF05 焼土跡 (図160)

HH03の東側に位置する。平面形は不整円形である。規模は、径約30cmである。F層が焼土層である。遺物は出土していない。炉として使用されたどうかは不明である。時期は不明である。



図160 HH03竪穴住居跡平・断面

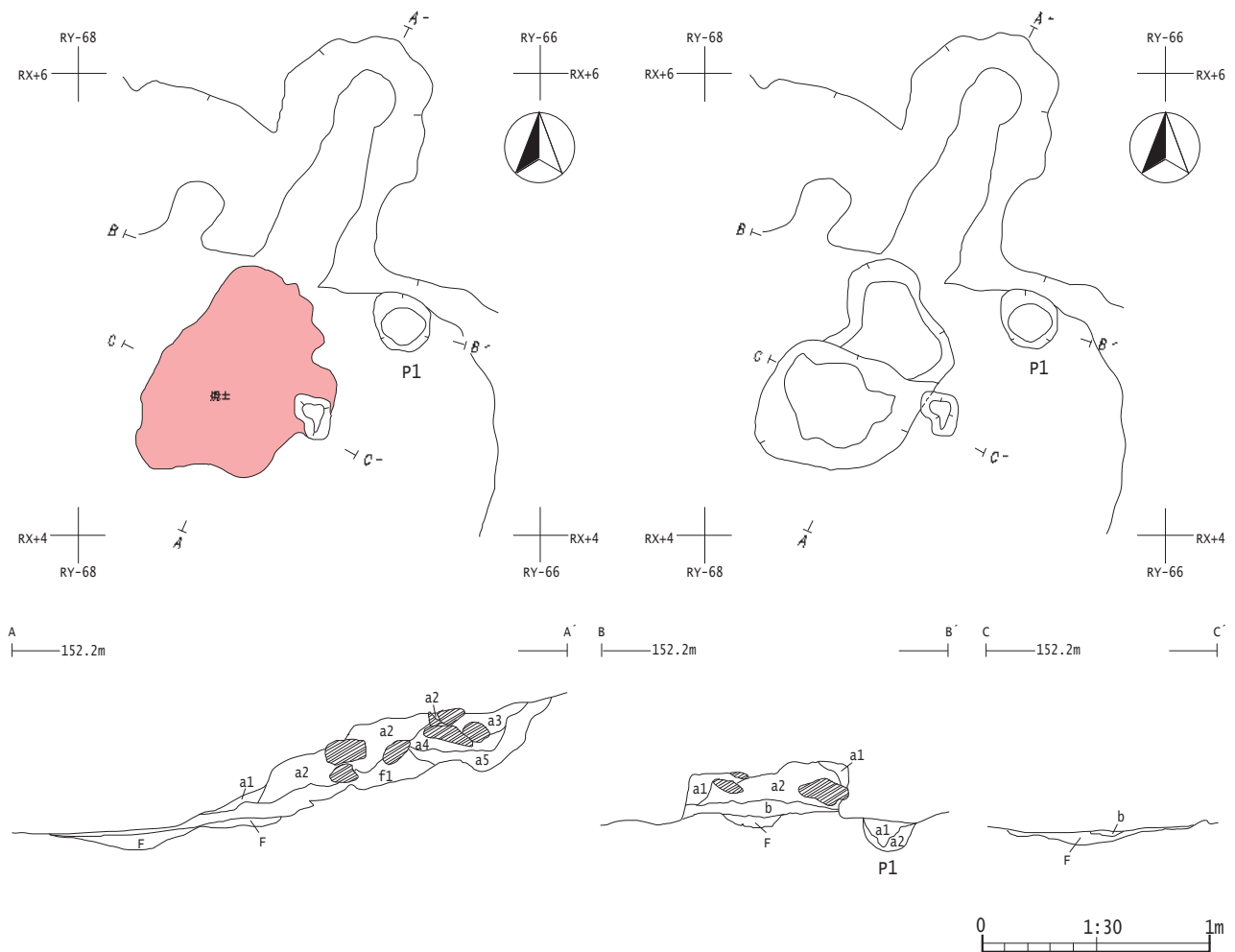


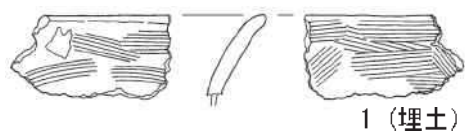
図161 HH03竪穴住居跡カマド平・断面

HH03竪穴住居跡土層観察表

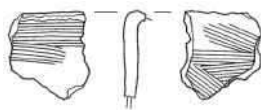
層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 1 10YR3/3 暗褐色シルト質壤土		軟質・中、密・中、レンズ状、最終的な堆積相対的に明るいう色調の層
竪穴埋土	A 2 10YR3/2 黒褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土 30%粒状	中、軟質、密、下端がやや不整だが中央が厚く自然堆積と思われる、上下に比べて黒っぽい層
竪穴埋土	A 3 10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	7.5YR4/3 褐色シルト質壤土 30%粒状	中、軟質、密・中、東側での堆積の方がやや厚い、焼土粒子、炭化粒子を微量含む、相対的に赤っぽい印象
竪穴埋土	B 1 10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 7%粒状	中、軟質、中、密、床面に部分的に堆積、B3層にのっている、土器片
竪穴埋土	B 2 7.5YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土 30%粒状	軟質・中、疎・中、西壁際でB3層にのる形で堆積、焼土の層でボソボソしている
竪穴埋土	B 3 10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR2/1 黒色シルト質壤土 35%粒状	軟質、中・疎、東西ベルト西側のみに堆積、B1層と堆積の関係が不自然、炭化物を多く含むが微細
竪穴埋土	C 1 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 30%粒状	中、軟質、中
竪穴埋土	C 2 10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR8/6 黄褐色シルト質壤土 30%塊状 10YR4/6 褐色シルト質壤土 5%塊状	軟質・中、中、C1層B層群との上下関係は明らかでない、相対的にブロックのため黄色っぽい
竪穴埋土	D 1 10YR1.7/1 黒色シルト質壤土		軟質、中・密、平面状、カマドの使用によって生じたと思われる炭化物の多い層＝生活面
東側焼土	F 5YR3/4 暗赤褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土 7%粒状	軟・中、中、単層(堆積しているというよりは火をうけた土の面)

HH03竪穴住居跡カマド土層観察表

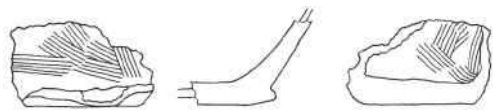
層 名		基 本 土	混 入 土	固さ・構造・混入物
カマド埋土	a 1	10YR4/6 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 25%粒塊状	軟質、中、中、以下の土層を覆うように堆積、a 2層に比べブロックの量が少なくかつ小さい、砂っぽいかんじ、微細な炭化物、花崗岩の礫を含む
カマド埋土	a 2	10YR4/6 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 45%塊状	中、硬質、中、密、住居壁際と厚く堆積、大きめの炭化物粒子を含む、花崗岩の礫を含む
カマド埋土	a 3	10YR4/6 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 50%塊状	軟質、中、中、レンズ状に近い、炭化物やや多い、ブロックの多さは特異、そのため固く感じるが土そのものはしまり弱い
カマド埋土	a 4	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 3%塊状	軟質、中、疎、ほぼレンズ状、微量の炭化物含む、土器が混じる、上下の土層に比べ黒っぽい
カマド埋土	a 5	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 7%塊 10YR6/6 明黄褐色 15%粒状	中、軟質、中、ほぼレンズ状、ただしa4～a5層とも自然の体積としては非常に不自然、地山花崗岩の風化粒子を多く含んでいるかんじ
カマド埋土	F	10YR3/2 黒褐色シルト質壤土	5YR5/8 明赤褐色シルト質壤土(焼土) 5%粒塊状	軟質、中、密、平面状、炭化物多い、生活時の堆積か、ベルト裏面には焼土の流入無くより黒っぽい部分が見られ、住居の土層中D1層がこれに該当すると思われる
柱穴P1埋土	a 1	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 20%粒状 7.5YR5/8 明褐色シルト質壤土 3%粒塊状	中、軟質、中、疎、柱穴とするにはやや不整、径5mmほどの灰色の丸みのある砂利を15%程度含む
	a 2	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土 30%粒状	中、中、疎、A1層と同様の砂利を7%程度含む



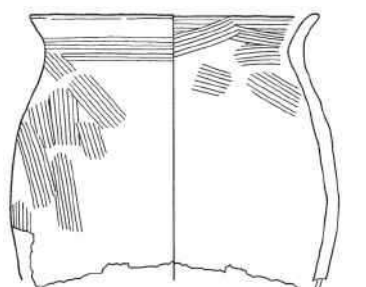
1 (埋土)



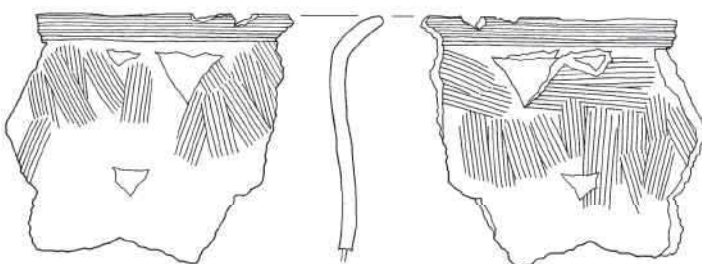
2 (埋土)



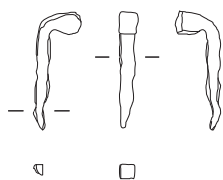
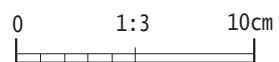
3 (埋土)



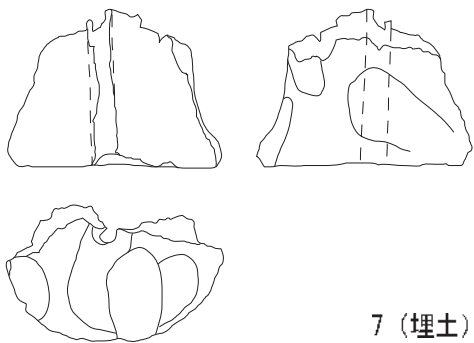
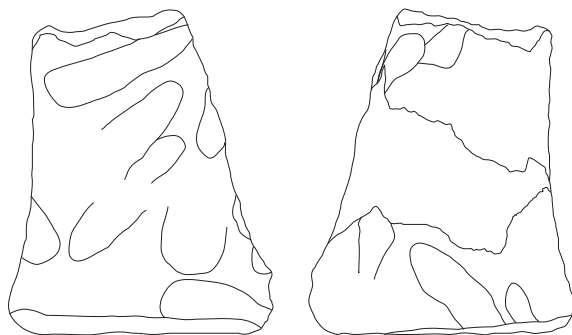
4 (床面)



5 (床面)



6 (床面)



7 (埋土)

8 (C層)

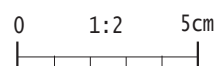


圖162 HH03豎穴住居跡出土遺物(1)

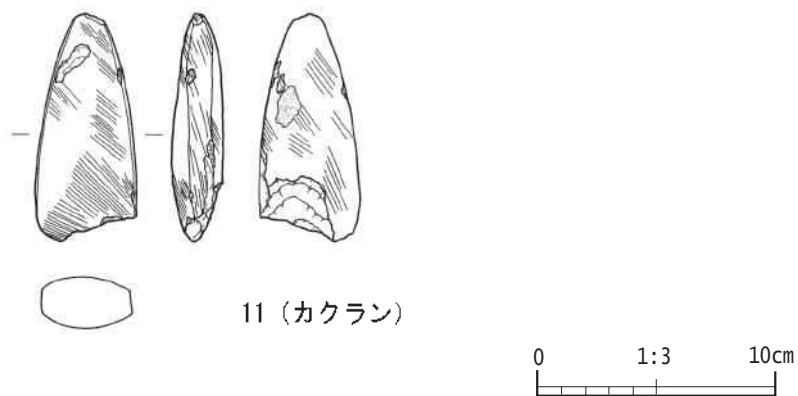


図163 HH03竪穴住居跡出土遺物 (2)

HH04 竪穴住居跡 (図165)

HH03の北に位置する。平面形は隅丸方形と推測する。規模は、南北3.0mを測る。埋土は4層に分かれる。床面で焼土遺構、小土坑跡を検出している。カマド、周溝などは出土していない。4基の焼土遺構は、いずれも原位置のものと思われるが、その性格は不明である。

出土遺物 (図164)

1は縄文土器である。平行沈線で区画し、縄文と無文を分ける。

2～4は土師器甕の口縁部である。いずれも短く、胴部の張出しは弱い。

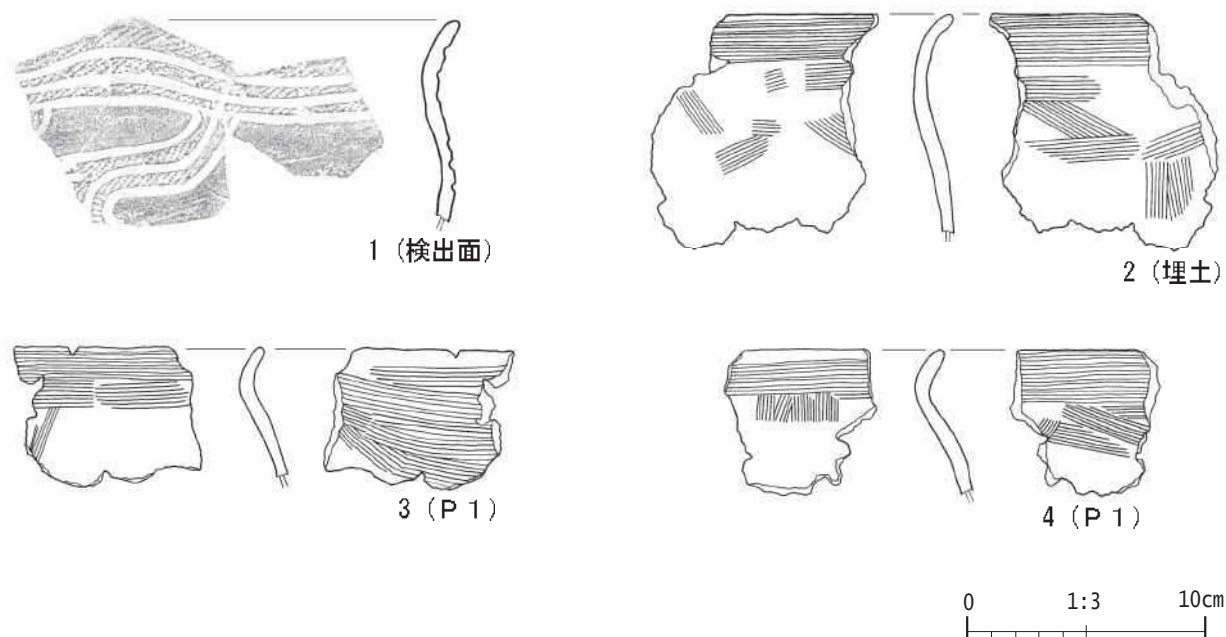


図164 HH04竪穴住居跡出土遺物

HH04竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR3/4 暗褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 1%粉状	硬質、しまりやや弱、木炭粉微量
竪穴埋土	B 10YR4/4 褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 3%粉状 5YR4/8 赤褐色焼土(焼土) 1%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少ない、土器、木炭粉
竪穴埋土	C 10YR4/6 褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 5%粉状均一	やや軟質、しまりあり、粘性少、粉状構造、木炭粉少量
攪乱土	D 10YR3/4 暗褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 10~25%粒塊状(径1~8cm)	バックフォーによる攪乱土、土器少量、木炭焼土粒微量

HH04竪穴住居跡焼土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土1	F 2.5YR4/8 赤褐色焼土(純焼土層) (層厚最大4.5cm)		硬質、しまりあり、粘性少ない
焼土2	F 1 10YR4/6 褐色焼土	2.5YR4/8 赤褐色焼土 20%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
	F 2 2.5YR4/8 赤褐色焼土(純焼土層)		かなり硬質、しまりあり、粘性少、最大厚7cm
焼土3	F 2.5YR4/8 赤褐色焼土(純焼土層)		硬質、しまりあり、粘性少、ややよごれている
焼土4	F 10YR4/4 褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 3% 2.5YR4/8 赤褐色焼土粉 15%粉粒状	木炭
柱穴P1埋土	a 10YR4/6 褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 2%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、木炭粒(径3~5mm)2%
	b 10YR4/6 褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、土器木炭粒微量
	F 10YR4/6 褐色焼土	5YR4/8 赤褐色焼土 10%粉粒状 10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 1%塊状	やや硬質、しまりあり、木炭粒2%
柱穴P2埋土	a 10YR3/4 暗褐色焼土	10YR5/6 黄褐色 2%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭微量
	b 10YR4/6 褐色シルト質焼土	10YR3/4 暗褐色焼土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中
	c 7.5YR4/6 褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質焼土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭1%、焼土粉3%

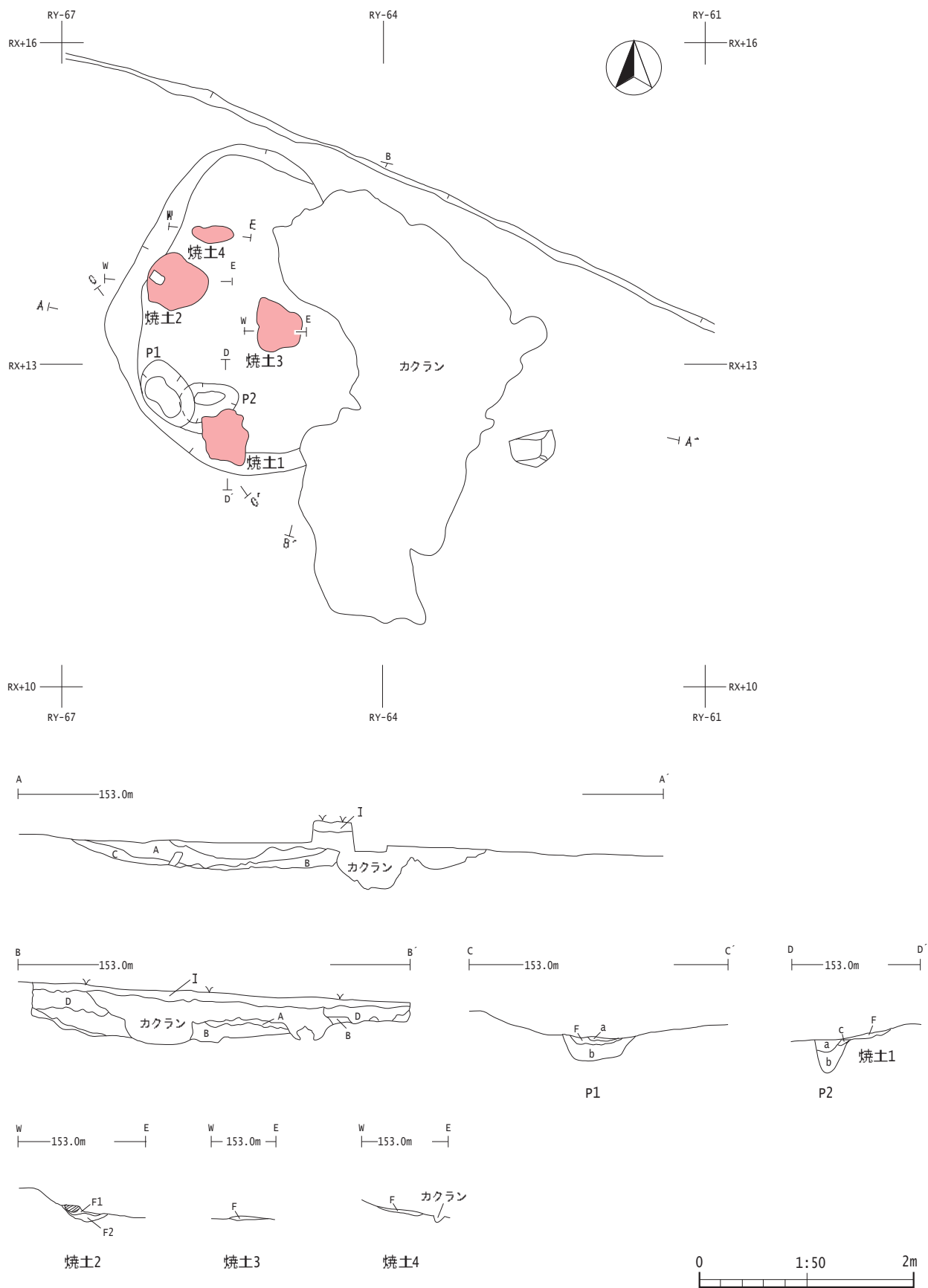


図165 HH04竪穴住居跡平・断面

HH05 竪穴住居跡 (図166)

調査区の西端に位置する。平面形は隅丸方形である。規模は、東西5.0m、南北推計3.5mを測る。埋土は4層に大別される。北壁にカマドを設ける。床面からは3基のやや大きめな土坑跡の他に小土坑跡を検出している。また、カマド周辺で焼土遺構が出土している。

カマド跡 (図168)

北壁の中央に位置する。火床部、袖石を確認する。煙道、煙出しはカクランを受け、煙道の一部のみ確認している。煙道は上向きに掘られている。Fが焼土層である。袖石の据え方を確認している。

焼土遺構 1、2、3 (図168)

カマド周辺の小規模な3基の焼土遺構は、とくに炉として使用された痕跡はなく、その性格は不明である。

出土遺物 (図169～171)

1は縄文土器の口縁部である。沈線区画文で縄文、無文を分ける。

2～8は土師器の甕である。2は短い口縁部で、胴部の張出しは弱い。3は胴部、底部の張出しの弱い甕である。4～7の口縁部はいずれも短く、4、5の胴部の張出しは強めである。8は明瞭な張出しをもつ底部である。底面に木葉痕を残す。

9は縄文土器の口縁部である。斜縄文で施文される。

10～16は土製品である。10は支脚である。中心に穿孔痕をもつ。11～16は用途不明の土製品である。筒状の形状で、胎土は赤褐色に焼け、明瞭な輪積痕をもつ。

17～19は鉄製品である。17は釣り針である。18は刀子である。19は紡錘車である。

20は礫石器である。端部に敲打痕をもつ敲打石である。

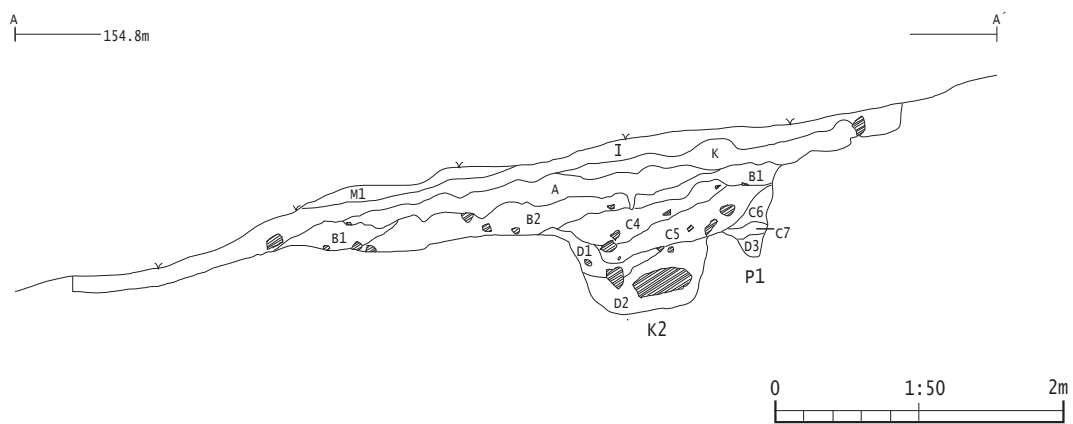
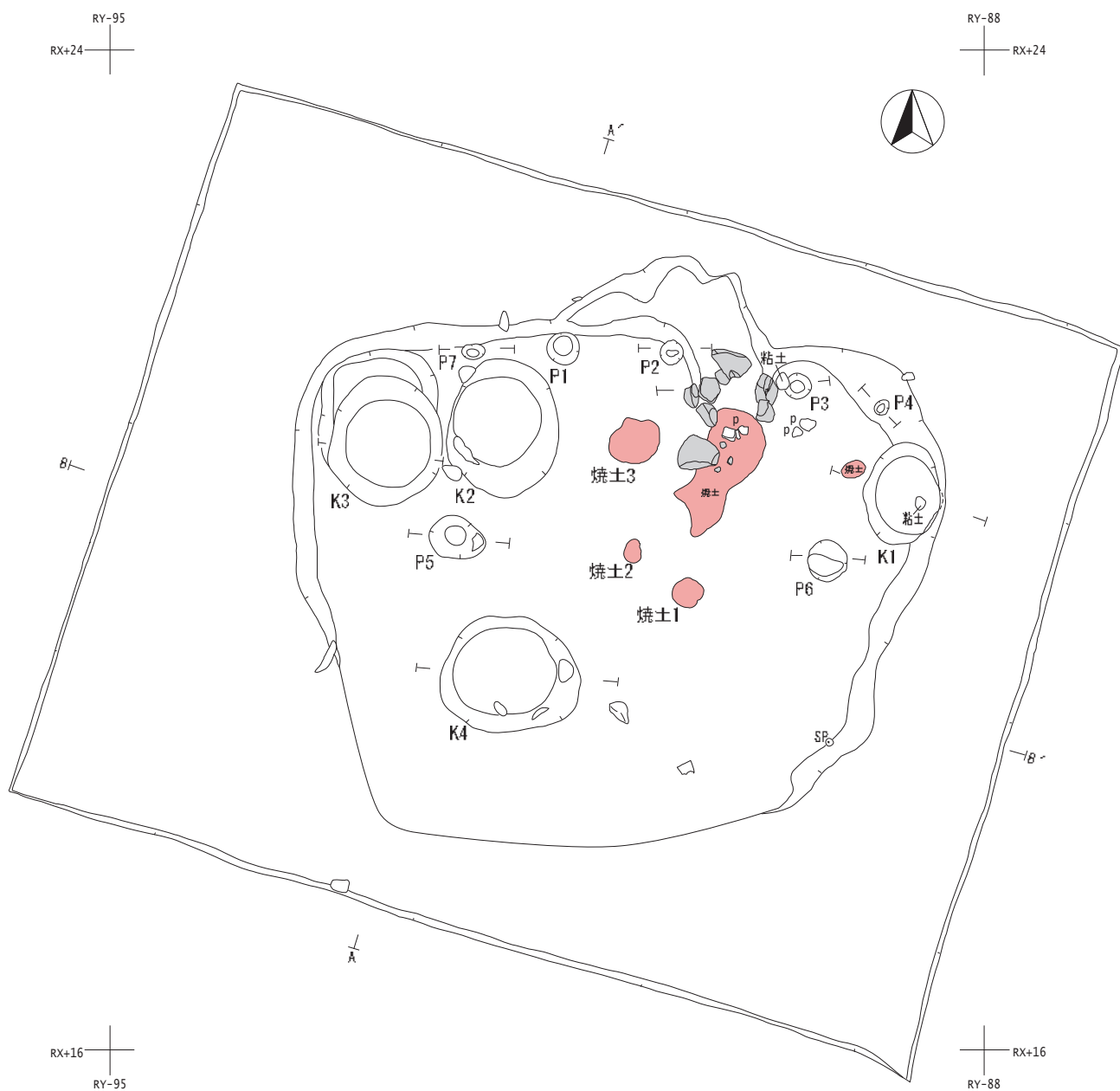


图166 HH05竖穴住居跡平·断面

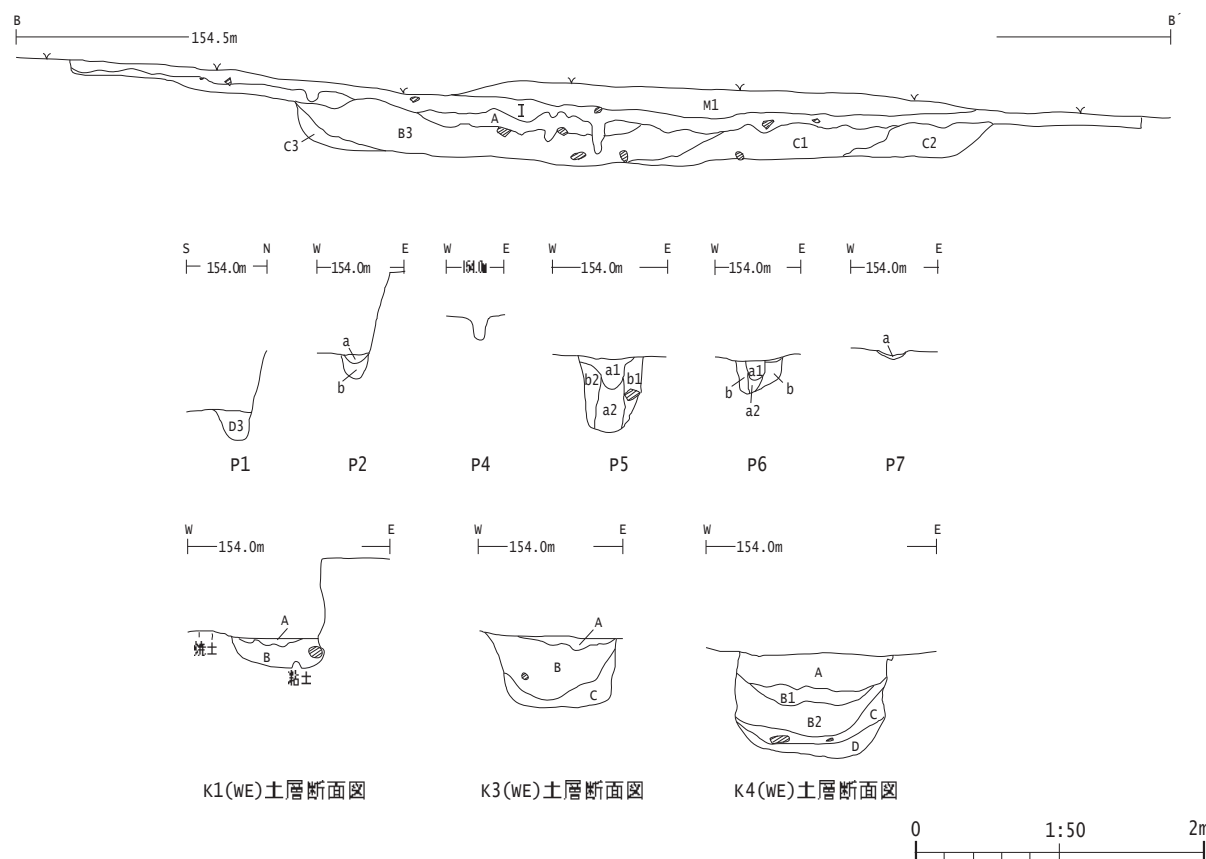


図167 HH05竪穴住居跡断面

HH05竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR2/2 黒褐色礫土	10YR3/4 暗褐色礫土 3%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性少々あり、粉粒状構造、黒褐色土(自然堆積層と考えられる)、斑点状に見える部分もある
竪穴埋土	B 1 10YR3/4 暗褐色礫土	10YR2/2 黒褐色礫土 2%粉状 10YR5/6 黄褐色砂礫土 3%粉状	硬質、しまりあり、粘性少々あり、木炭微量
埋土主体土	B 2 10YR3/4 暗褐色礫土	10YR4/4 褐色砂礫土 5%粉状 10YR5/6 黄褐色砂土 5%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり、木炭粒2%、礫多量
竪穴埋土	C 1 10YR3/4 暗褐色砂礫土	10YR2/3 黒褐色礫土 3%粉状 10YR5/6 黄褐色砂土 7%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉1%
竪穴埋土	C 2 10YR3/4 暗褐色砂礫土	10YR5/6 黄褐色砂土 2%(均一)	やや軟質、しまり弱、木炭粉微量
竪穴埋土	C 3 10YR3/4 暗褐色砂礫土	10YR5/6 黄褐色砂土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、木炭粉微量
竪穴埋土	C 4 10YR3/4 暗褐色礫土	10YR5/6 黄褐色砂土 10%塊状(層状)	やや軟質、しまりやや弱、粘性少ない、木炭粉2%、礫
竪穴埋土	C 5 10YR3/4 暗褐色砂礫土	10YR5/6 黄褐色砂土 3%粉状	軟質、しまり弱、礫、木炭粉1%
竪穴埋土	C 6 10YR5/6 黄褐色砂礫土	10YR4/4 褐色礫土 1%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性なし、礫
竪穴埋土	C 7 10YR4/6 褐色砂礫土	10YR3/3 暗褐色礫土 3%粒状 10YR5/6 黄褐色砂土 2%粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量
竪穴埋土	D 1 10YR3/3 暗褐色砂礫土	10YR5/6 黄褐色砂礫土 2%粉状(均一)	軟質、しまり弱、粘性弱、木炭粉5%
竪穴埋土	D 2 10YR4/4 褐色砂礫土	10YR5/6 黄褐色砂土 7%粉状(均一)	軟質、しまり弱、粘性なし、木炭粒(径1~3cm)1%、大型礫
竪穴埋土	D 3 10YR5/6 黄褐色砂礫土	10YR4/4 褐色礫土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱
表土	I 10YR3/4 暗褐色礫土	10YR5/6 黄褐色砂礫土 5%粉状 10YR2/3 黒褐色礫土 3%粉状	軟質、しまり弱、粘性少ない
攪乱土	K 10YR4/4 褐色礫土	10YR5/6 黄褐色砂礫土 30%粒塊状 10YR3/4 暗褐色礫土 5%粒状	硬質、しまりあり

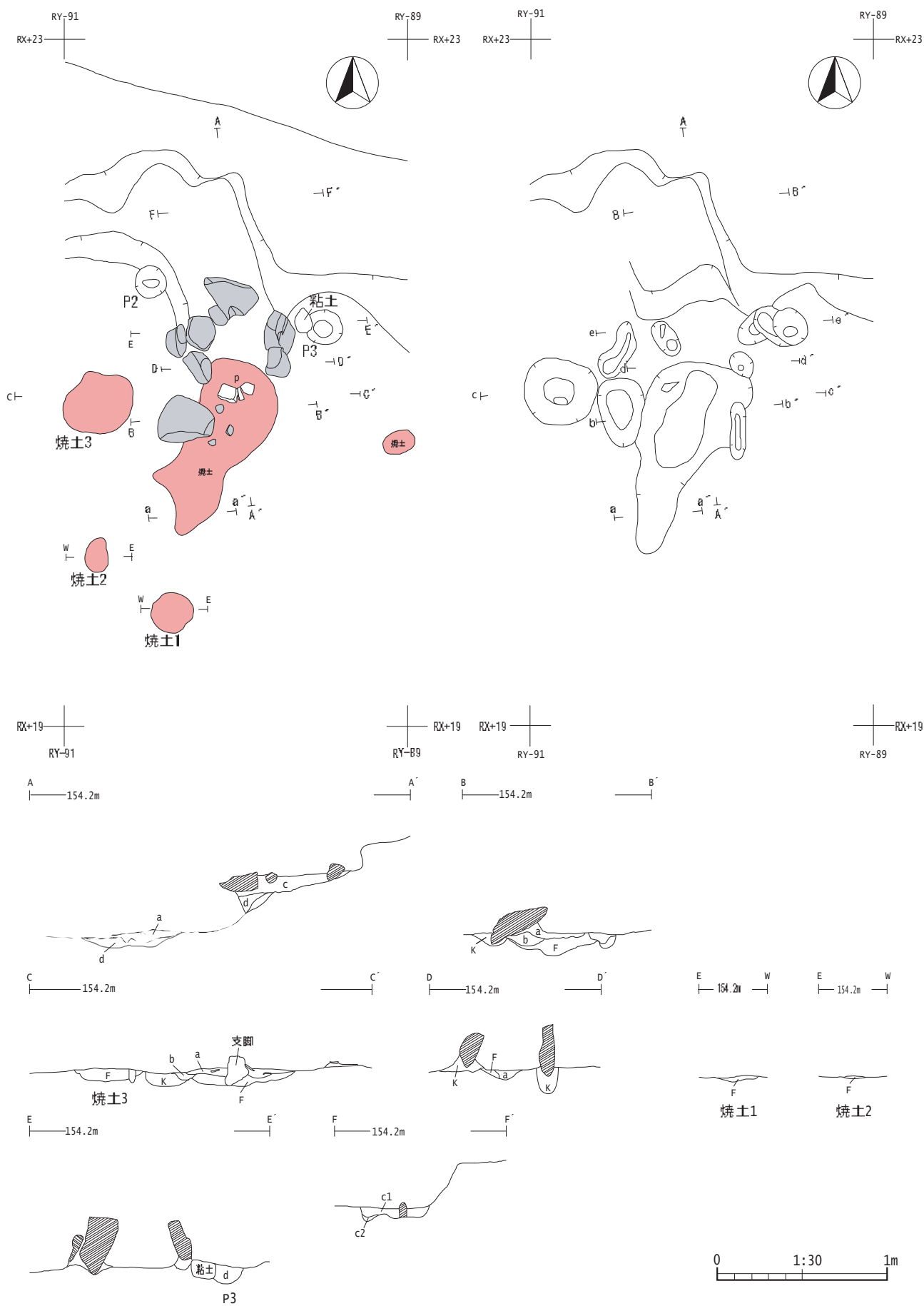


図168 HH05竪穴住居跡カマド平・断面

HH05竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P2埋土	a 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々
	b 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり
柱穴P3埋土	d 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状	軟質、しまりなし、木炭粉微量
柱穴P4埋土			
柱穴P5埋土	a 1 10YR2/3 黒褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉状	軟質、しまりなし、粘性少々、木炭粉7%
	a 2 10YR2/3 黒褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%粉状	軟質、しまりなし、粘性少々、木炭粉1%
	b 1 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 1%	硬質、しまりあり、粘性少々、礫
	b 2 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色壤土 3%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性少、木炭粉
柱穴P6埋土	a 1 10YR2/3 黒褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 1%	軟質、しまりなし、粘性少
	a 2 10YR2/3 黒褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 5%	軟質、しまりなし、粘性少
	b 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 2%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性少ない
柱穴P7埋土	a 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少

HH05土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土K1	a 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 10%粉状 10YR5/8 黄褐色砂土 3%粉状	軟質、しまり弱、粘性少ない
	b 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂土 2%粉状	軟質、しまり弱、粘性なし、表面に粘土塊が見られる
土坑埋土K3	A 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり、木炭粉粒微量
	B 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色壤土 10%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少ない、土器、石
	C 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 1%	やや軟質、しまりやや弱、粘性少ない、土器、木炭粉微量
土坑埋土K4	A 10YR3/3 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、木炭粉粒2%
	B 1 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性ややあり
	B 2 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭微量
	C 10YR3/3 暗褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 3%	やや軟質、しまりやや弱、土器、木炭2%、礫
	D		

HH05焼土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土F1	F 5YR4/8 赤褐色砂壤土(焼土)		
焼土F2	F 5YR4/8 赤褐色砂壤土(焼土)		最大厚1cm
焼土F3	K 10YR3/4 暗褐色(焼土)	10YR5/6 黄褐色砂壤土 10%粉状	軟質、しまり弱、粘性少
	F 2.5YR4/8 赤褐色砂壤土(焼土)		最大厚3cm

HH05竪穴住居跡カマド土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
カマド埋土	a 5YR4/8 赤褐色砂壤土焼土		
構築土	b 10YR4/6 褐色砂壤土	2.5YR4/8 赤褐色焼土 7%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少
構築土	c 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性少
カマド埋土	d 2.5YR4/8 赤褐色砂壤土焼土		
構築土	K 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 5%粉状	軟質、しまり弱、粘性少

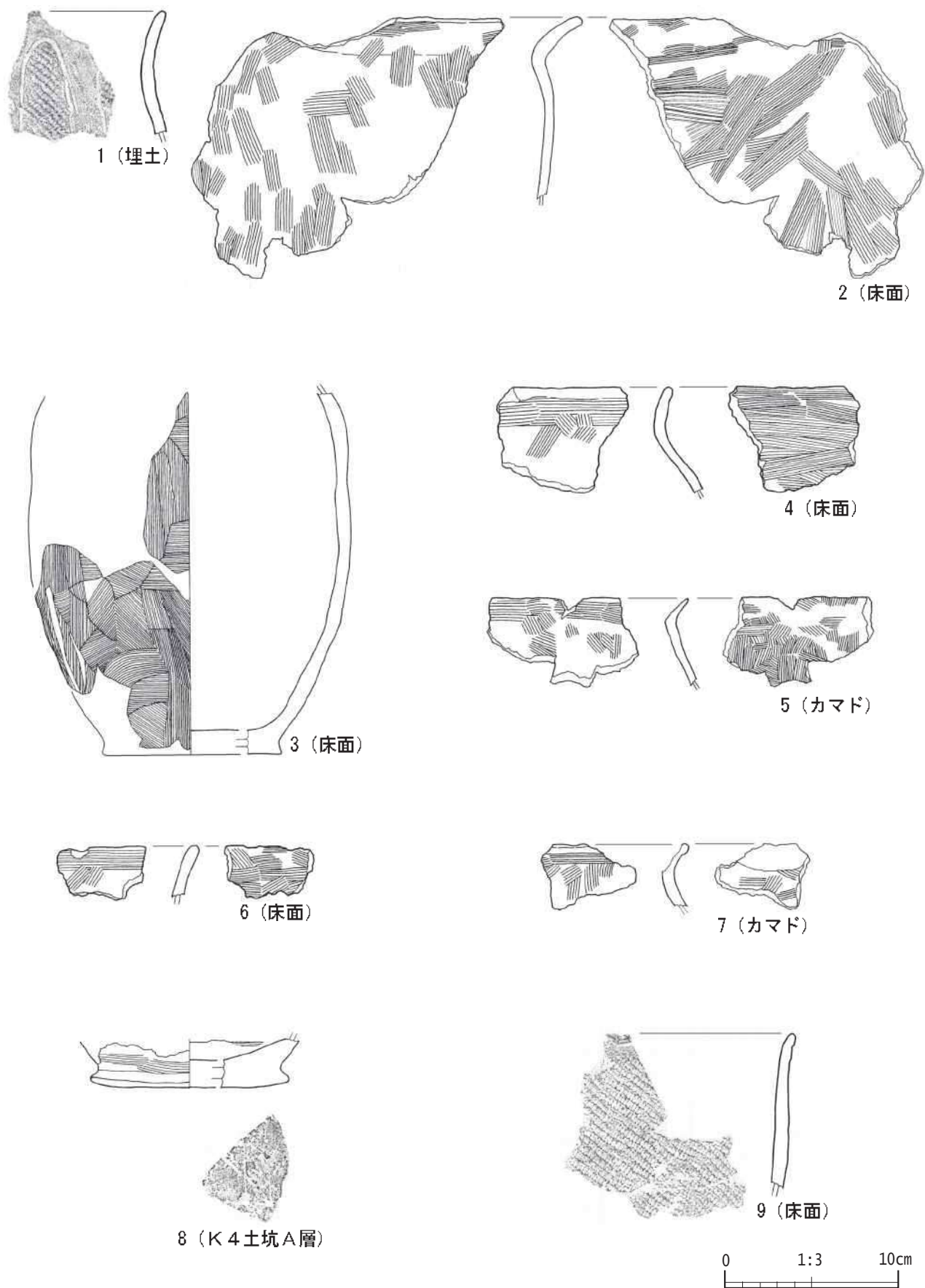


図169 HH05 竪穴住居跡出土遺物 (1)

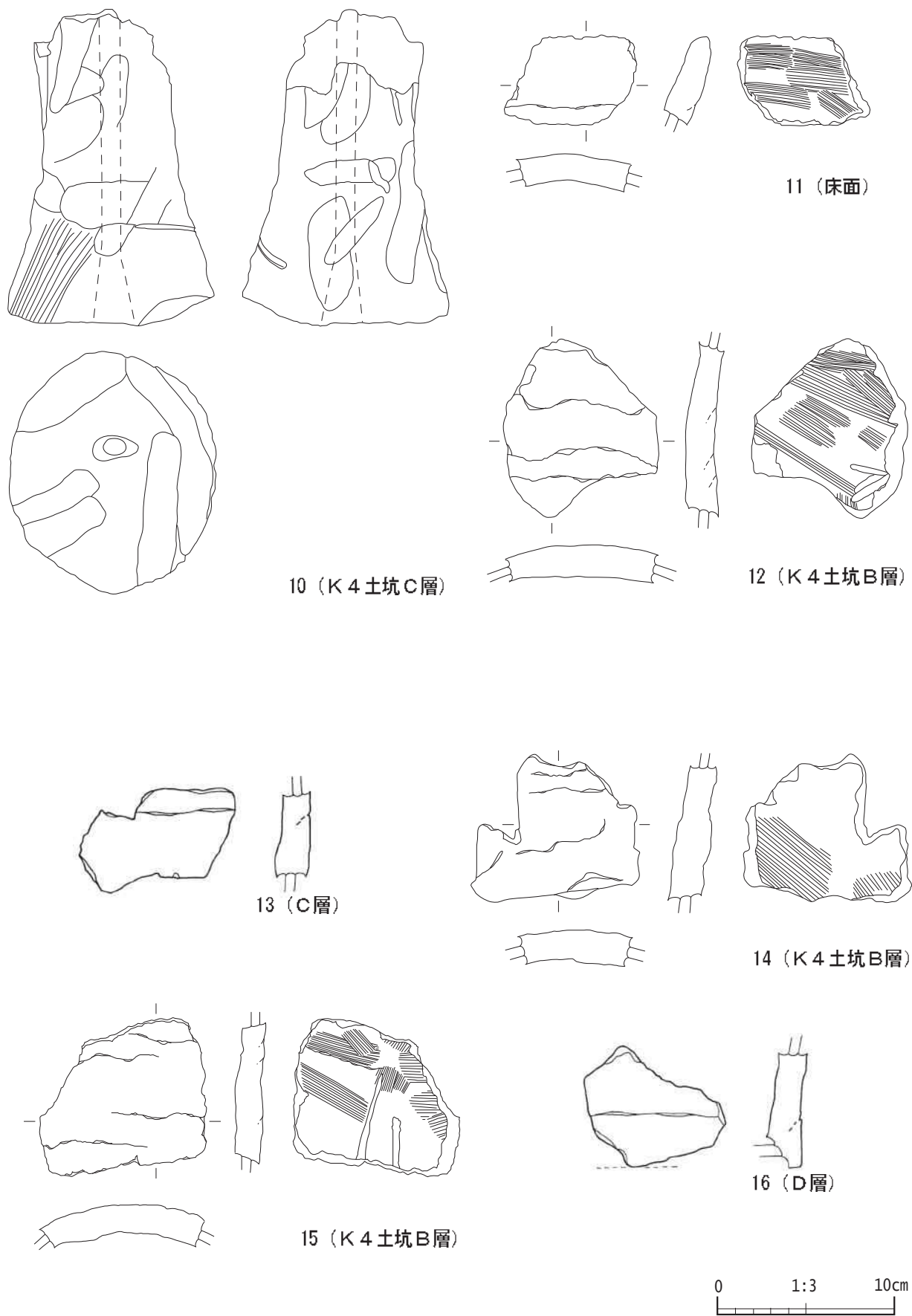


图170 HH05竖穴住居跡出土遺物 (2)

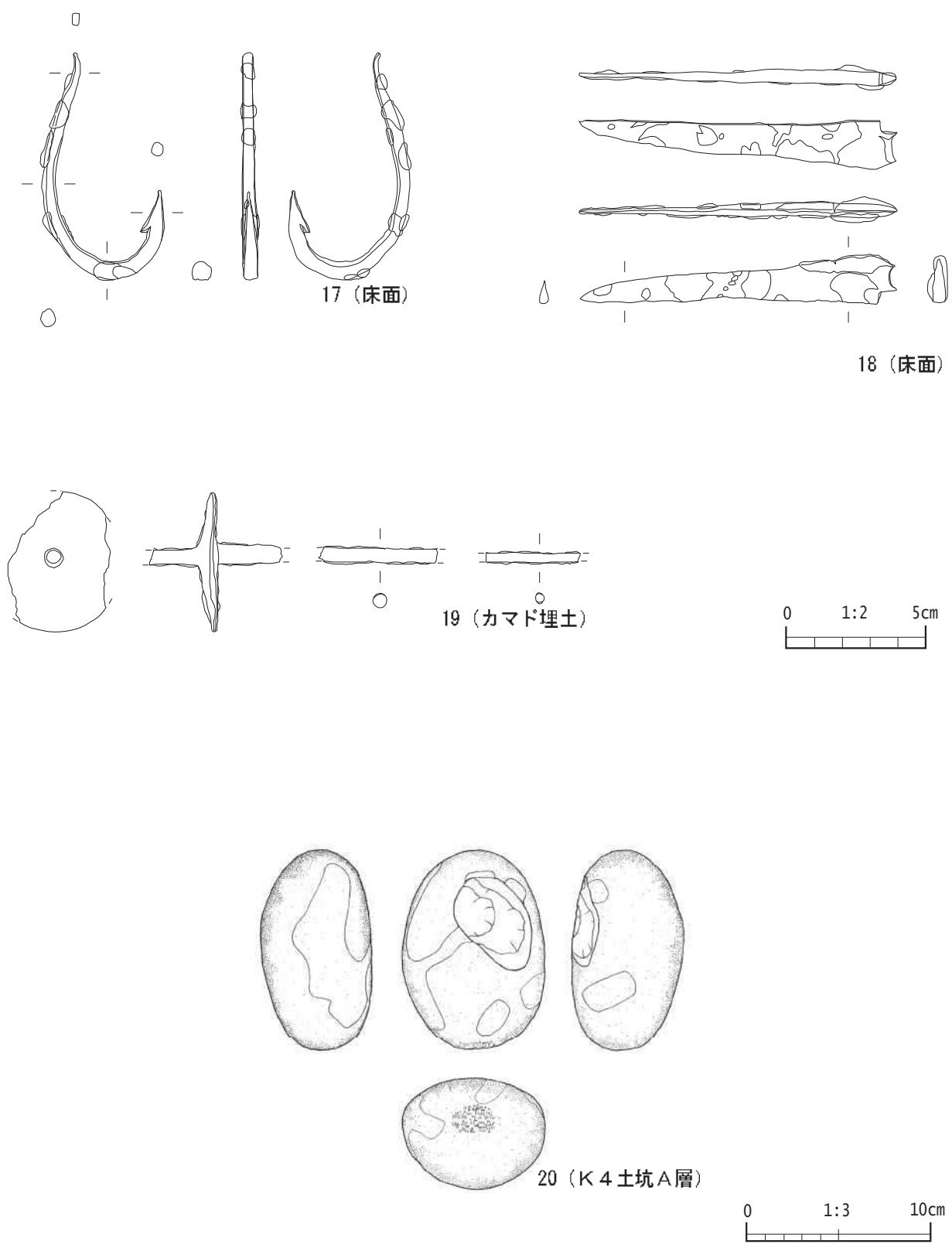


図171 HH05竪穴住居跡出土遺物 (3)

J H 3 2、J H 3 3 竪穴住居跡

調査区東の北端に位置する。J H 3 2はJ H 3 3を切る。

J H 3 2 竪穴住居跡 (図172)

平面形は楕円形である。規模は、東西4.5mを測る。埋土は2層に分かれる。床面中央、東寄りに炉を設ける。床面主に周辺部から小土坑跡を検出している。

炉跡 (図173)

二つの円形の石組で構成される複式炉である。規模は、南北1.0m、東西0.7mである。F 2層が焼土層である。掘方を確認している。

出土遺物 (図174、175)

1～12は縄文土器である。

＜埋土＞ 1～4は体部片である。1、2は平行沈線と縄文で施文される。3は隆沈線で施文される。4は撚糸文である。

＜床面＞ 5、6は口縁部である。5は平行沈線の間に刺突列が入る。6は隆沈線で施文される。7～9は体部片である。7、8は沈線による区画と縄文で施文する。9は隆沈線による渦文である。

10～12は底部である。10は底面に木葉痕、11、12は網代痕を残す。

13～16は礫石器である。13、14は小形の磨製石斧である。いずれも未調整面を残す未製品である。15は敲石である。16は敲打磨石である。両側面に調整磨面をもつ。

時期は縄文時代中期に伴う。

J H 3 3 竪穴住居跡 (図172)

J H 3 2の東に位置する。J H 3 2に切られる。

平面形は楕円形と推測する。規模は、東西4.5mを測る。埋土は2層である。床面中央に炉跡を設ける。おもに床面周辺で小土坑跡を検出している。周溝は出土していない。

炉跡 (図176)

石囲炉である。主軸方向は北東と思われる。南側のみの検出で、性格な規模は不明である。検出規模は南北50cmを測る。F層がやや固く焼き締まった焼土層である。掘方を確認している。

出土遺物 (図177、178)

1～16は縄文土器である。1～8は口縁部である。1、2は沈線で区画し、縄文を施す。3～5は横位沈線で区画する。6は縄文に沈線で描く。7、8は隆沈線で施文する。9～15は体部片である。9は縄文に横位の平行沈線を引く。10は沈線で区画、縄文を施す。11～13は隆沈線による施文である。14、15は撚糸文による施文である。16の底部は、斜縄文で施文され、底面は無文である。

17～22は剥片石器である。17、18は平基の石鏃である。19、20は凹基の石鏃である。

21は凸基の石鏃である。22は石匙である。

23～25は礫石器である。23は形状、作りは磨製石斧であるが、刃部は丸み、擦痕を残す。石斧を再利用したものか。24、25は砥石である。24は両面にくぼみを残す。26は側縁に擦痕を残す磨石である。

時期は縄文時代中期に伴う。

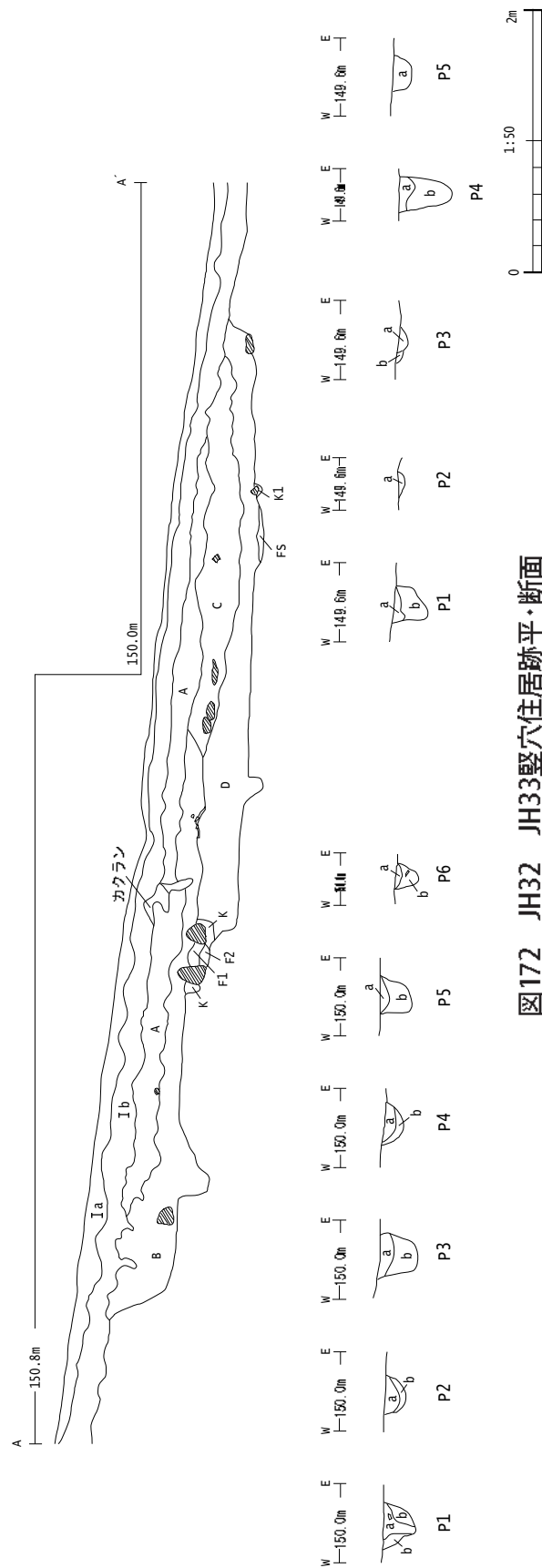
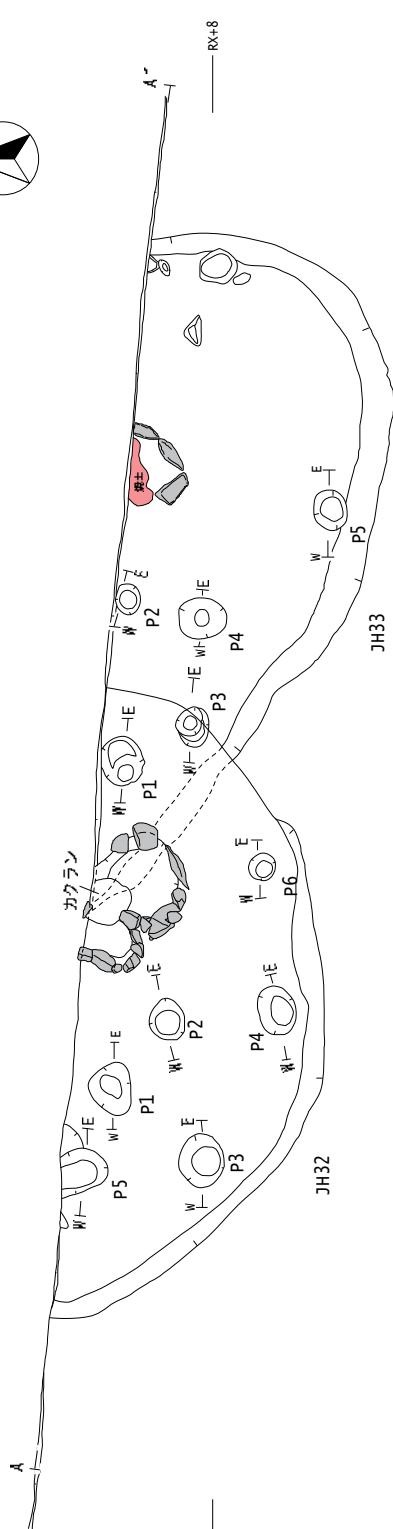


図172 JH32 JH33竪穴住居跡平・断面

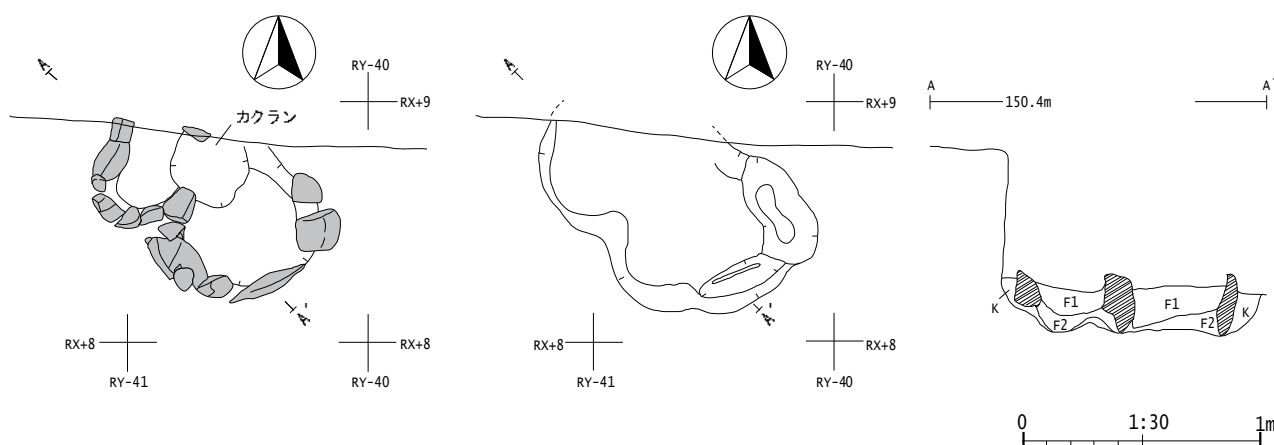


図173 JH32竪穴住居跡炉跡平・断面

JH32竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
表土	I a	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、粘性中
表土	I b	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状 10YR3/3 暗褐色壤土 3%粉状	やや軟質、ややしまり弱、粘性中
竪穴埋土	A	10YR4/4 褐色壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 3%粒塊状 10YR4/6 褐色壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、土器多量、木炭粉微量、この層はW40-N5最終埋土C層を覆土している
竪穴埋土	B	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中~大ややあり、土器、木炭粉微量

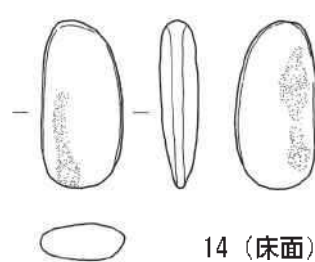
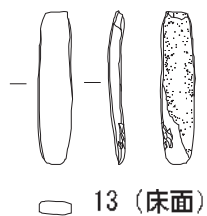
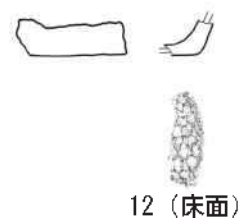
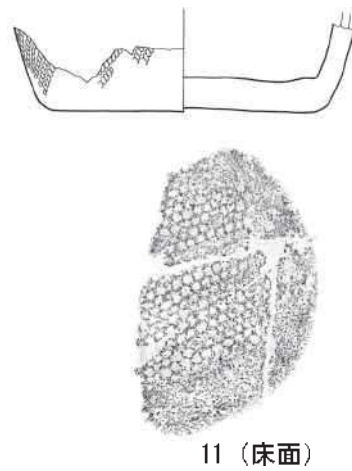
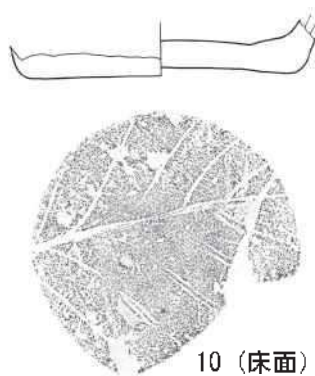
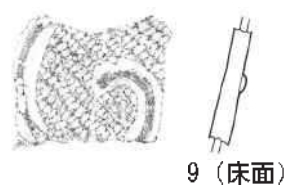
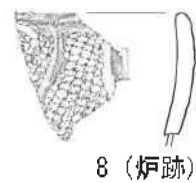
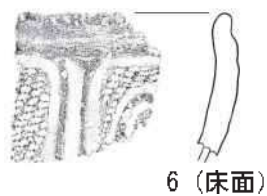
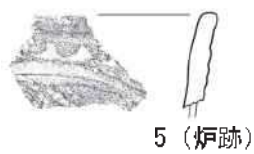
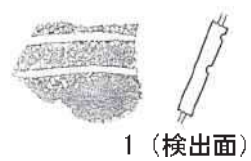
JH32竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、ややしまり弱、粘性少々、土器、木炭微量
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%	やや硬質、しまりややあり、木炭微量
柱穴P2埋土	a	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%塊状	やや硬質、しまりややあり、木炭微量
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや硬質、しまりややあり、木炭
柱穴P3埋土	a	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、木炭
	b	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや硬質、ややしまりあり、粘性あり、木炭
柱穴P4埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、木炭
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性あり、木炭
柱穴P5埋土	a	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、木炭微量
	b	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	やや硬質、ややしまりあり、粘性あり、木炭微量
柱穴P6埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
	b	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉

JH32竪穴住居跡炉跡土層観察表

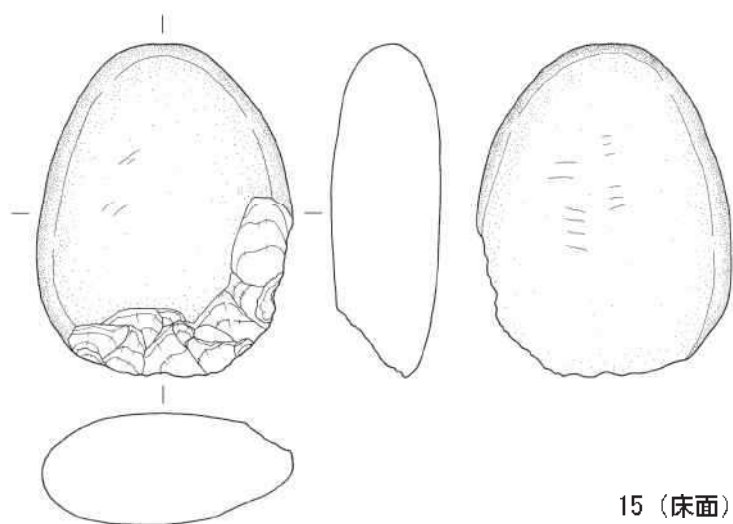
層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土	F 1	10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色焼土 10%粉粒状(最大径5mm)	木炭粉微量
焼土	F 2	5YR4/8 赤褐色焼土純層		
炉構築土	K	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粒状	やや硬質、しまりあり、粘性中~大

〈埋土〉

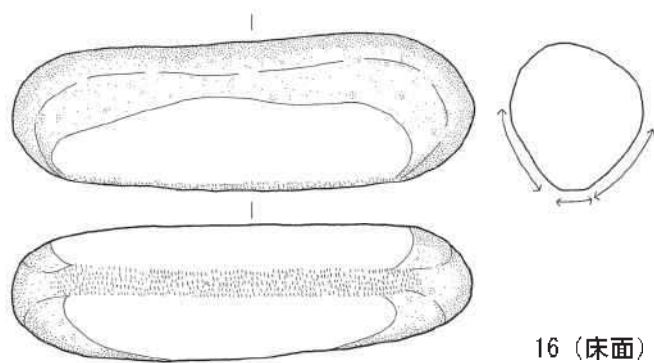


0 1:3 10cm

図174 JH32竪穴住居跡出土遺物(1)



15 (床面)



16 (床面)

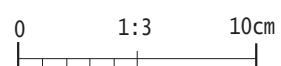


図175 JH32竪穴住居跡出土遺物(2)

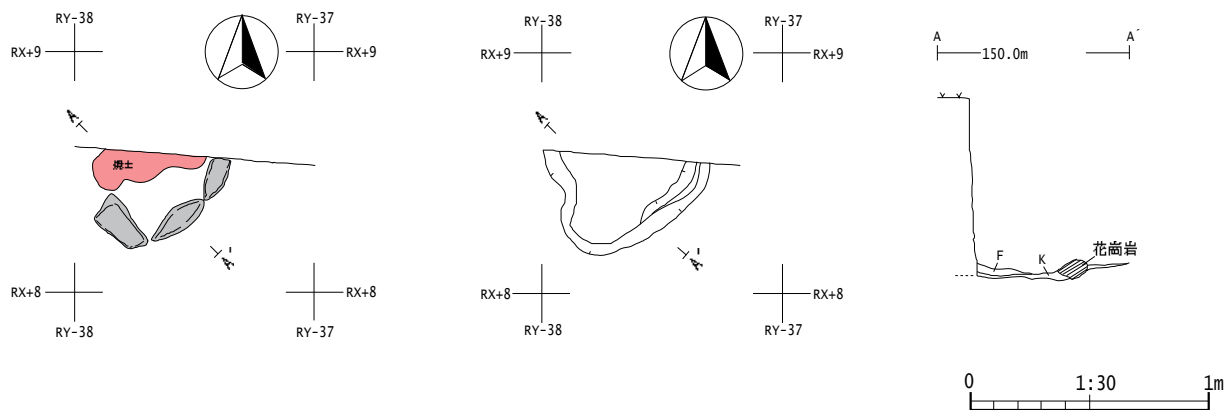


図176 JH33竪穴住居跡炉跡平・断面

JH33竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	C	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粒塊状 10YR3/3 暗褐色壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、土器、木炭粉微量、礫
竪穴埋土	D	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粒微量
柱穴P1埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや硬質、ややしまりあり、粘性大
	b	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性大、木炭粉微量
柱穴P2埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性大、木炭粉微量
柱穴P3埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粒状 10YR4/4 褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉
	b	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土	
柱穴P4埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性大
	b	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粒塊状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量
柱穴P5埋土	a	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 1%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性大、木炭粉微量

JH33竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土	F	5YR4/8 赤褐色焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性中
構築土	K	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、粘性中

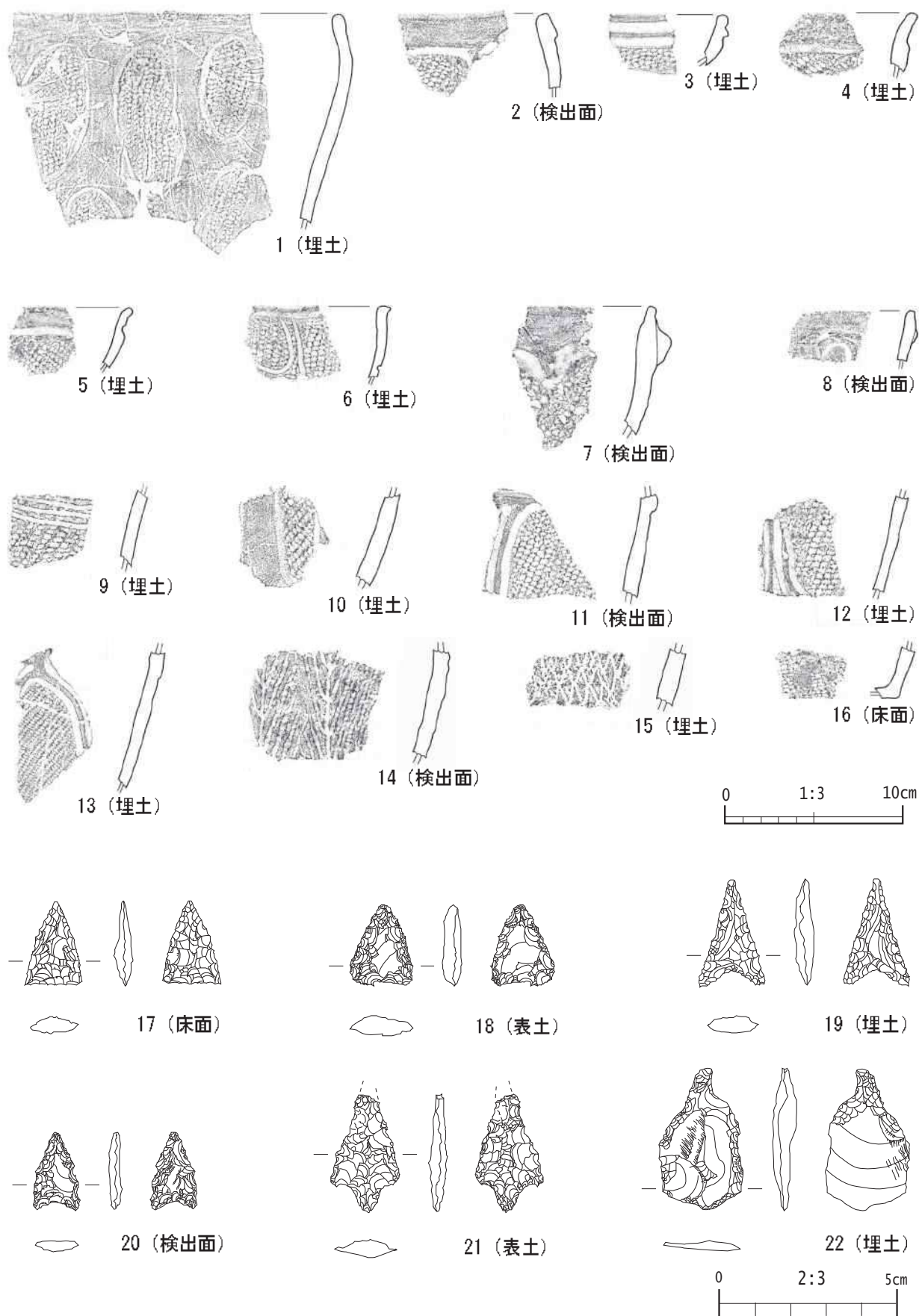


図177 JH33竪穴住居跡出土遺物 (1)

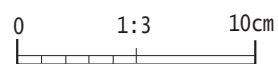
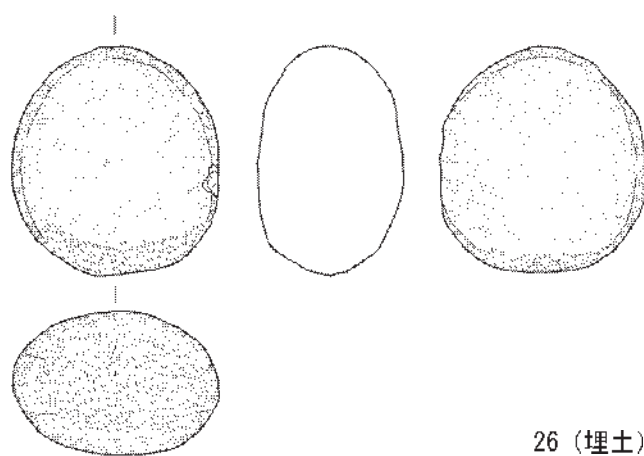
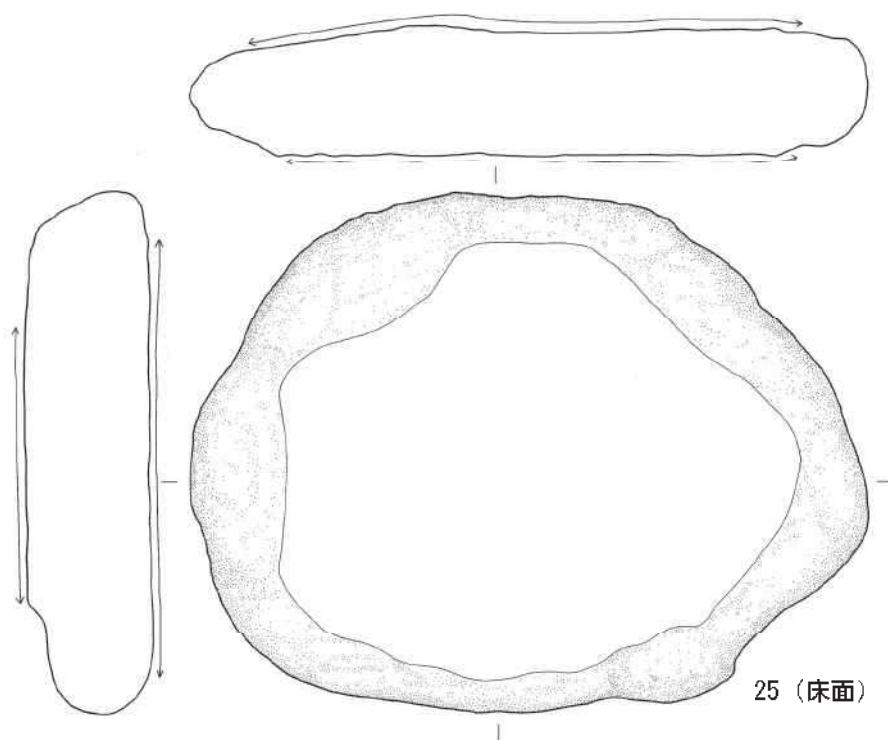
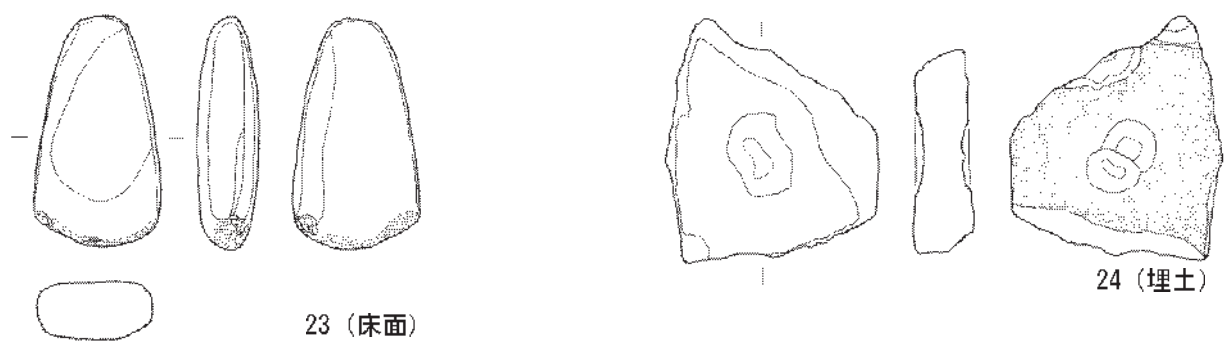


图178 JH33竖穴住居跡出土遺物(2)

JH34 竪穴住居跡 (図179)

HH01の東に位置し、HH01に切られる。平面形は隅丸方形である。規模は、南北5.5m、東西推計4.5mを測る。埋土は3層に大別される。床面中央、南東端に炉を設ける。床面の中央部で焼土遺構、周辺で小土坑跡を検出している。周溝は検出していない。

炉跡(図180)

方形の石囲炉である。前庭部をもつ複式炉である。規模は東西1.6m、南北0.8mを測る。F層が焼土層である。方形の掘方を確認している。

出土遺物 (図181～184)

1～29は縄文土器である。

＜埋土＞ 1～10は口縁部である。1は波状口縁である。沈線による区画と縄文を伴う。2は斜縄文で施文される。3は横位の隆帯の下に縄文を施文する。4は縄文に沈線で描く。5、6は隆沈線で施文する。7は口唇部に円形の圧痕をもち、撚糸文で施文される。8、9はS字状連鎖文を伴う。

10は横位の隆帯に連続圧痕を施す。11～23は体部片である。11～14は沈線による区画と縄文を伴う。15～22は隆沈線で渦文が施文される。23は環状の把手をもつ。

＜床面＞ 24は沈線による区画文を縄文と刺突列で埋める。25は沈線による区画文を伴う。26は口唇部に粘土紐が貼付される。27は鋸歯状の切込みが入る。28、29の底部は、底面に網代痕を残す。

30～36は礫石器である。30～32は砥石である。33、34は敲打磨石である。35は全面に磨面をもつ磨石である。36は石斧の未製品と思われる。

37～40は剥片石器である。37は石錐である。38～40は凹基の石鏃である。

時期は縄文時代中期に伴う。

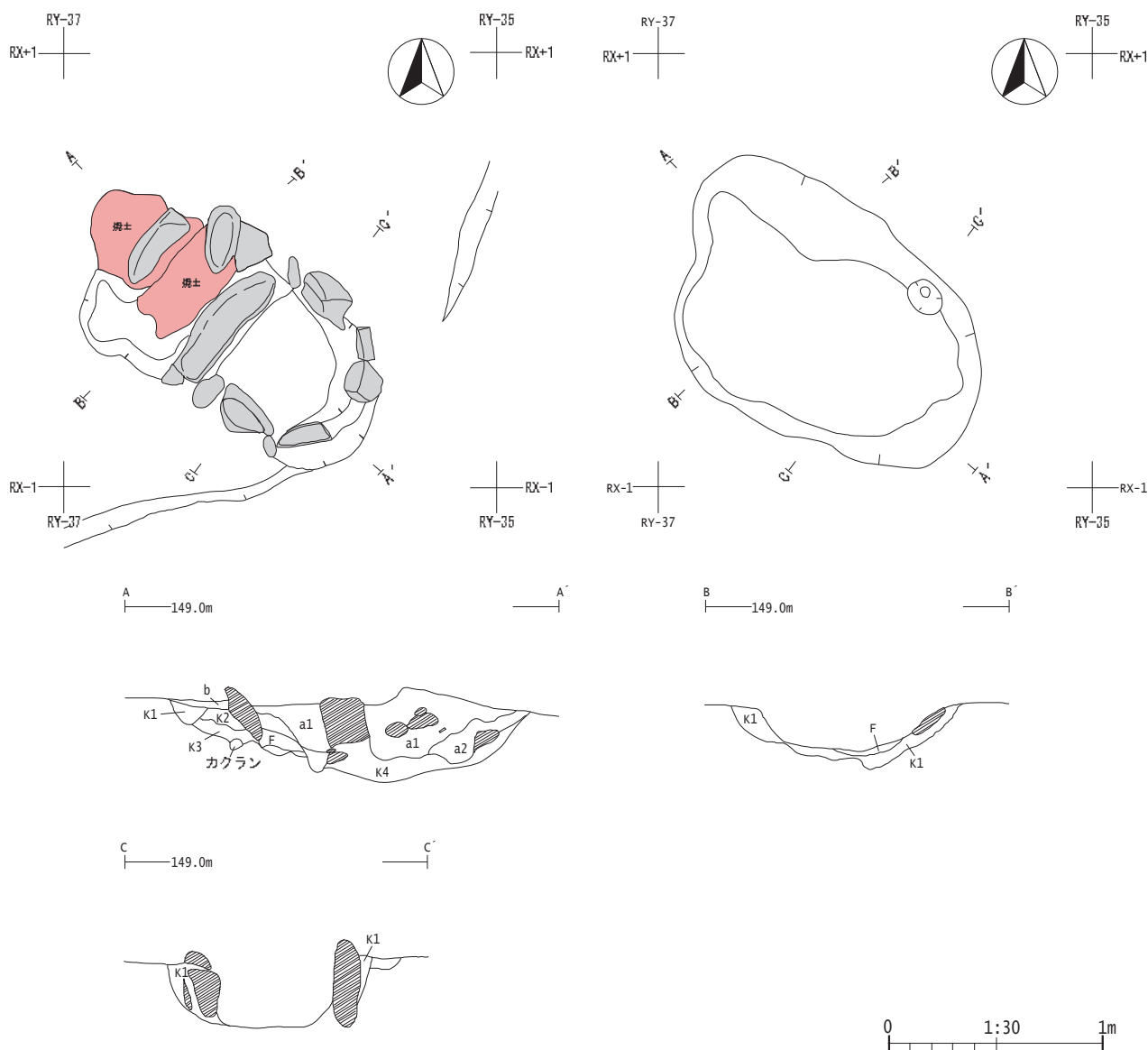


図180 JH34竪穴住居跡炉跡平・断面

JH34竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉1%
竪穴埋土	B 1 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉1%
竪穴埋土	B 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、粘性中、木炭粉微量
竪穴埋土	C 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉粒状 5YR4/8 赤褐色壤土 1~2%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、A、B 1よりやや軟らかい

JH34竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a 1 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、土器、木炭粉3%、礫、円礫
	a 2 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、木炭粉微量
炉跡埋土	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色 1%塊状	硬質(a層より硬くしまりあり)、木炭微量
	F 5YR4/8 赤褐色焼土		
	K 1 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、粘性少、P84
	K 2 7.5YR4/6 褐色壤土	2.5YR4/8 赤褐色 30%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性少
	K 3 2.5YR4/8 赤褐色焼土	10YR4/6 褐色壤土 1%粉状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	硬質、しまりあり、粘性少
	K 4 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状 10YR4/4 褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり

〈埋土〉

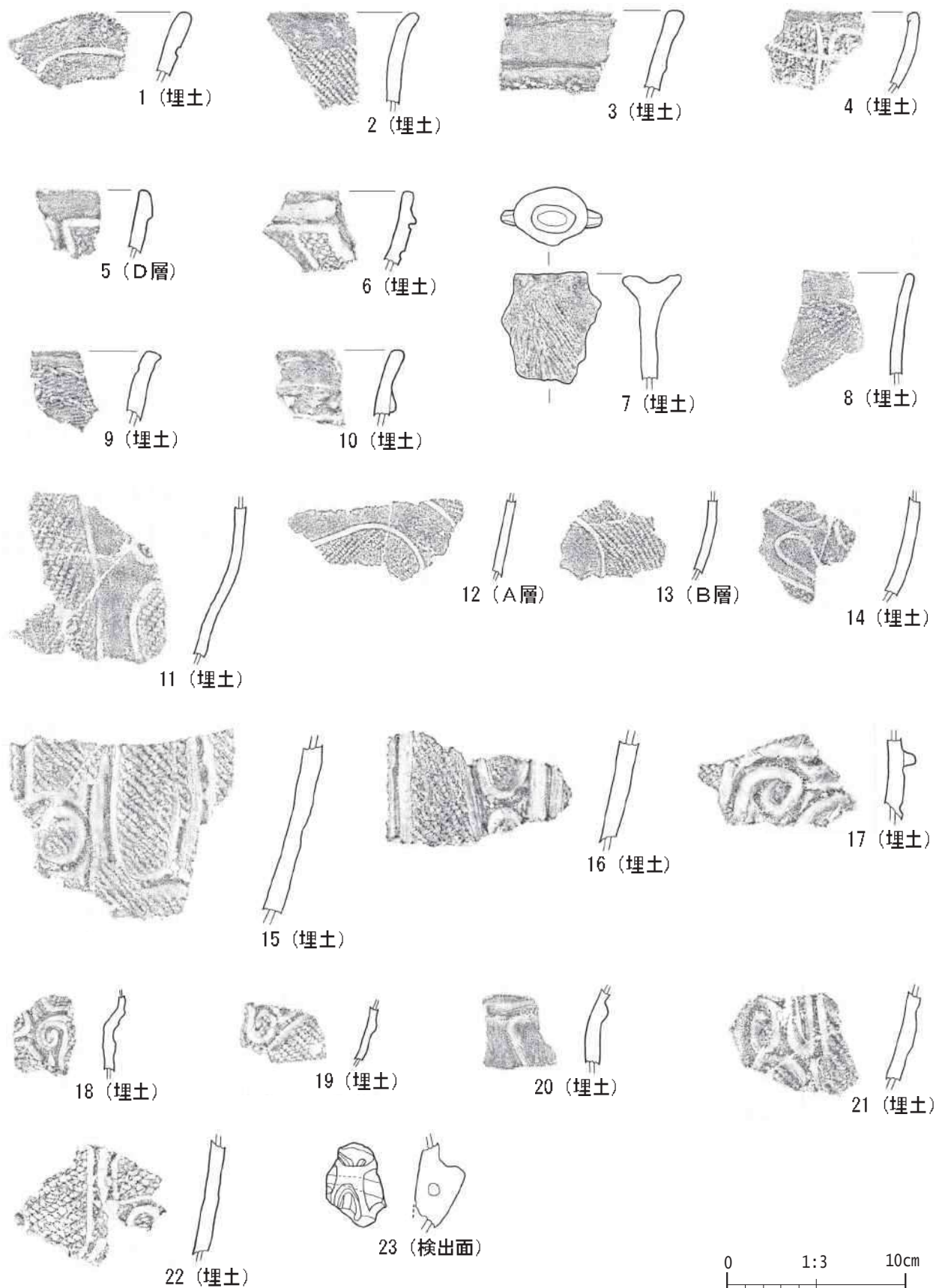


図181 JH34竪穴住居跡出土遺物(1)

〈床面〉

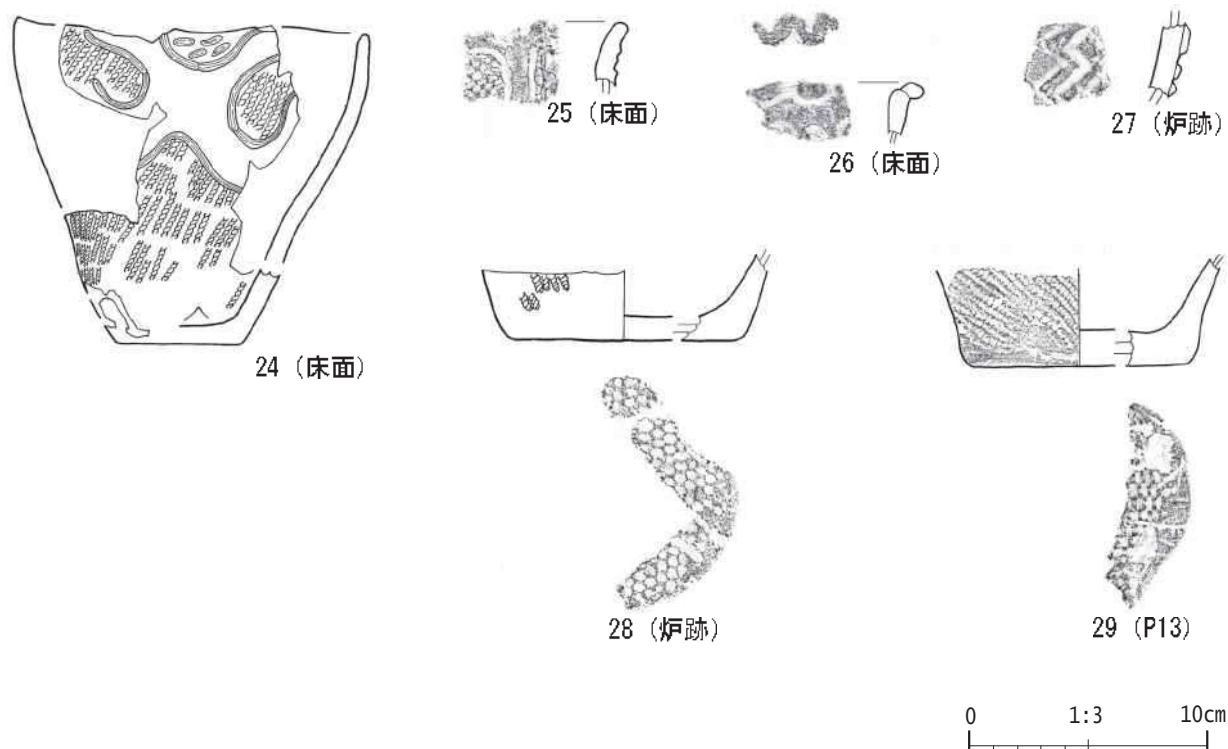


図182 JH34竪穴住居跡出土遺物(2)

JH34竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
柱穴P2埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量
柱穴P3埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱
柱穴P4埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、土器、木炭粉
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉粒状	やや硬質、しまりややあり
柱穴P5埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状 2.5YR4/8 赤褐色壤土 2%粒塊状	やや軟質、しまり弱、粘性中、土器、木炭粉1%
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粒塊状 10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質(aより硬い)、木炭粉微量
柱穴P6埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉粒1%
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量
柱穴P7埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量
柱穴P8埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粒1%
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状 10YR4/4 褐色壤土 1%粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量
柱穴P9埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉1%
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粒塊状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
柱穴P10埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、木炭粉微量

JH34竪穴住居跡焼土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土A	F 2.5YR4/8 赤褐色シルト質壤土 焼土		硬質、しまりあり
焼土B	a 10YR4/6 褐色壤土		
	F 2.5YR4/8 赤褐色シルト質壤土 (焼土)		きわめて硬質
焼土C	F 1 10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色焼土 30%粉状	やや硬質、しまりややあり、焼土混土
	F 2 5YR4/8 赤褐色シルト質壤土 (焼土純層)		純焼土

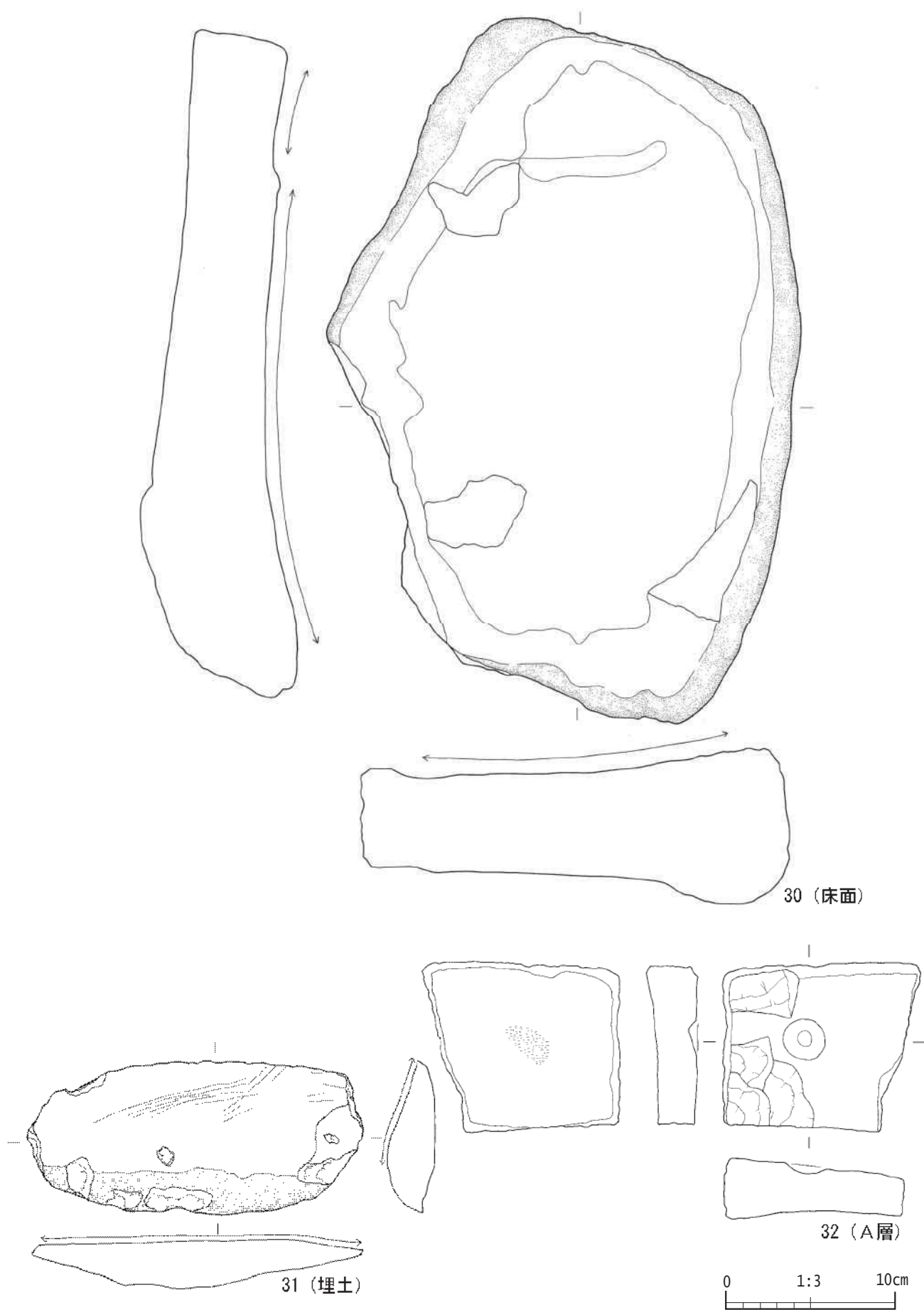


图183 JH34竖穴住居跡出土遺物 (3)

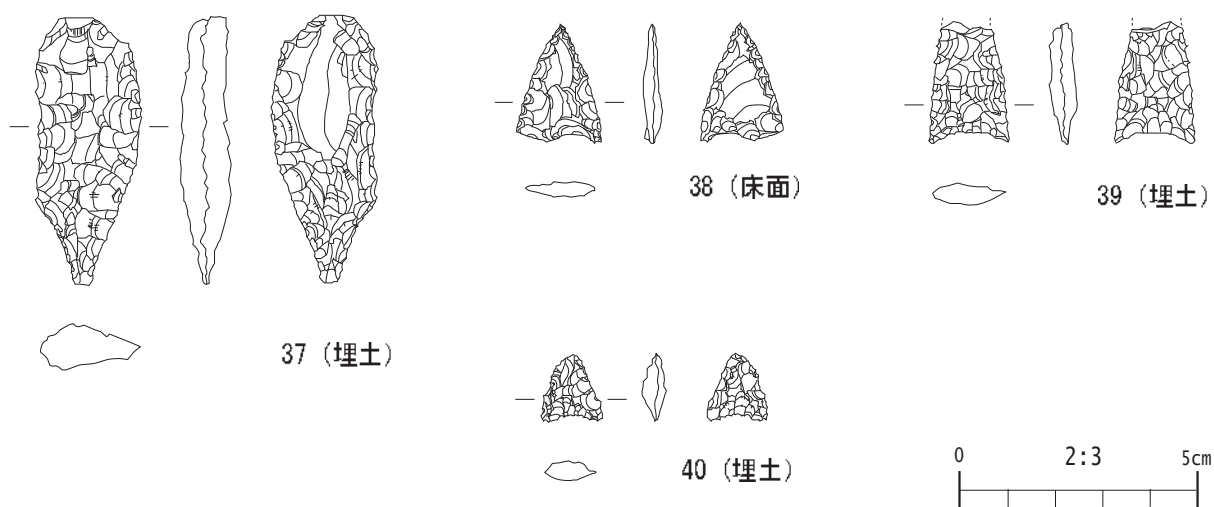
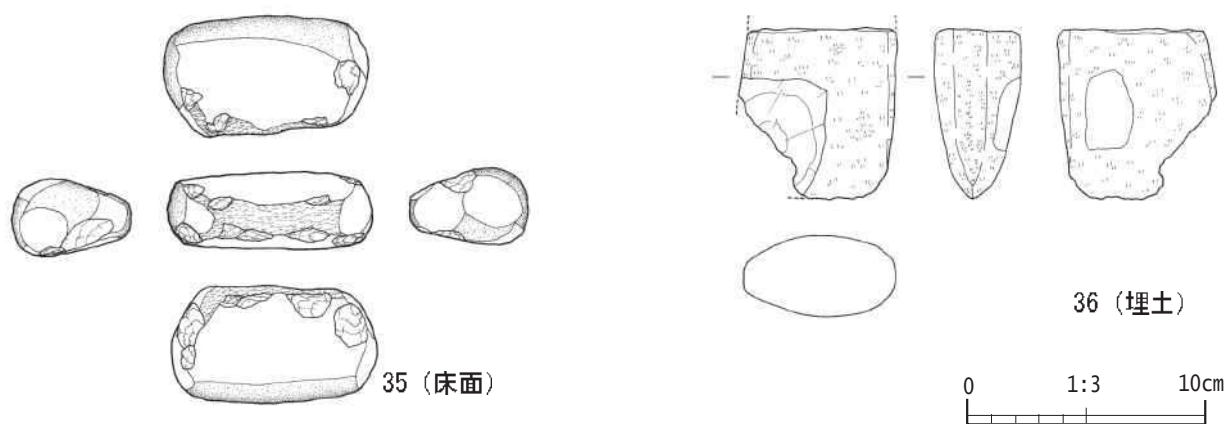
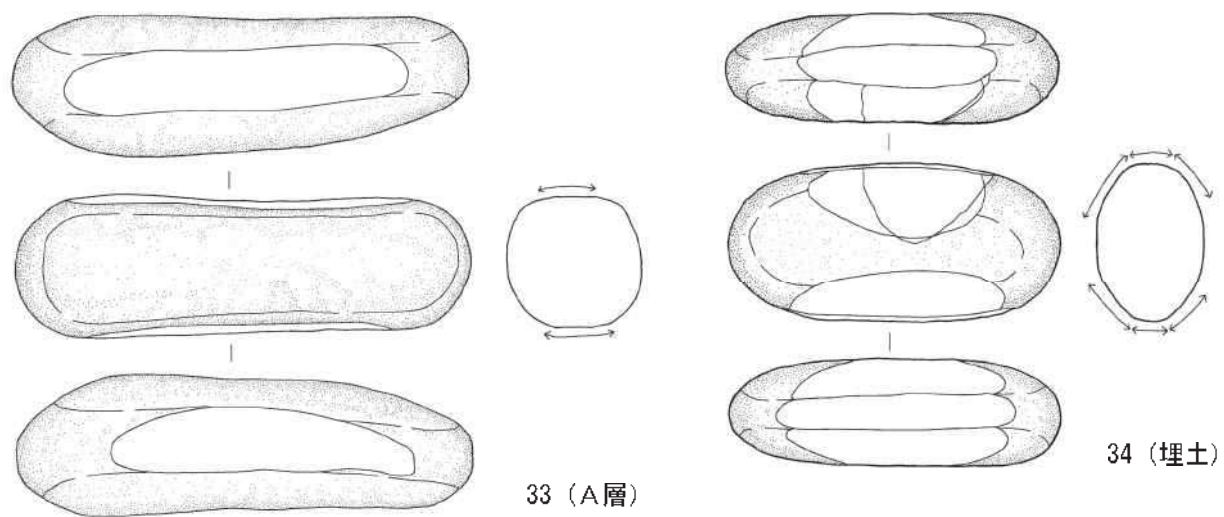


図184 JH34竪穴住居跡出土遺物 (4)

J H 3 5 竪穴住居跡、J F 0 5、J F 0 6 炉跡、X K 1 8 土坑跡

J H 3 5 竪穴住居跡 (図185)

H H 0 1 の南西に位置する。J H 3 6 と J H 3 8 を切る。平面形は楕円形である。南北3.5m、東西3.0mを測る。埋土は3層に分かれる。床面の中央南東寄りで炉跡Aを検出し、周辺で小土坑跡が出土している。周溝は検出していない。また、遺構外の北壁際で炉跡(J F 0 5)、南側で、炉跡(J F 0 6)と土坑跡(X K 1 8)を検出している。

炉跡 (図186)

竪穴床面南東端に位置する。楕円形の掘方のみの検出である。規模は、南北70cm、東西60cmを測る。

出土遺物 (図188)

1～6は縄文土器である。1はわずかに内湾しながら立ち上がる深鉢である。斜縄文で施文され、頸部に磨り消しが入る。2は縄文に平行沈線が入る口縁部である。3、4は隆沈線で施文される口縁部と体部片である。5、6は口縁部である。5は隆沈線で施文され、6は斜縄文を伴う。

時期は縄文時代中期に伴う。

J F 0 6 炉跡 (図186)

J H 3 5 炉跡の南に位置する。楕円形の掘方のみの検出である。規模は、南北90cm、東西70cmを測る。遺物は出土していない。

時期は不明である。

J F 0 5 炉跡 (図185)

J H 3 5 の北壁際に位置し、J H 3 5 に切られる。平面形は不明である。規模は、東西60cmを測る。F層が焼土層である。遺物は出土していない。

時期は不明である。

X K 1 8 土坑跡 (図185)

J F 0 6 の東に位置する。平面形は不正円形である。規模は、径約40cm、深さ50cmを測る。埋土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

時期は不明である。

JH35竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりややあり、粘性中
柱穴P2埋土	a	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや硬質、ややしまりあり、粘性大
柱穴P3埋土	a 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
	a 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	軟質、しまり弱、粘性中、木炭粉
柱穴P4埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉
柱穴P5埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中

XK18土坑跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	a	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりややあり、粘性中
	b	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや硬質、ややしまりあり、粘性大
	c	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中

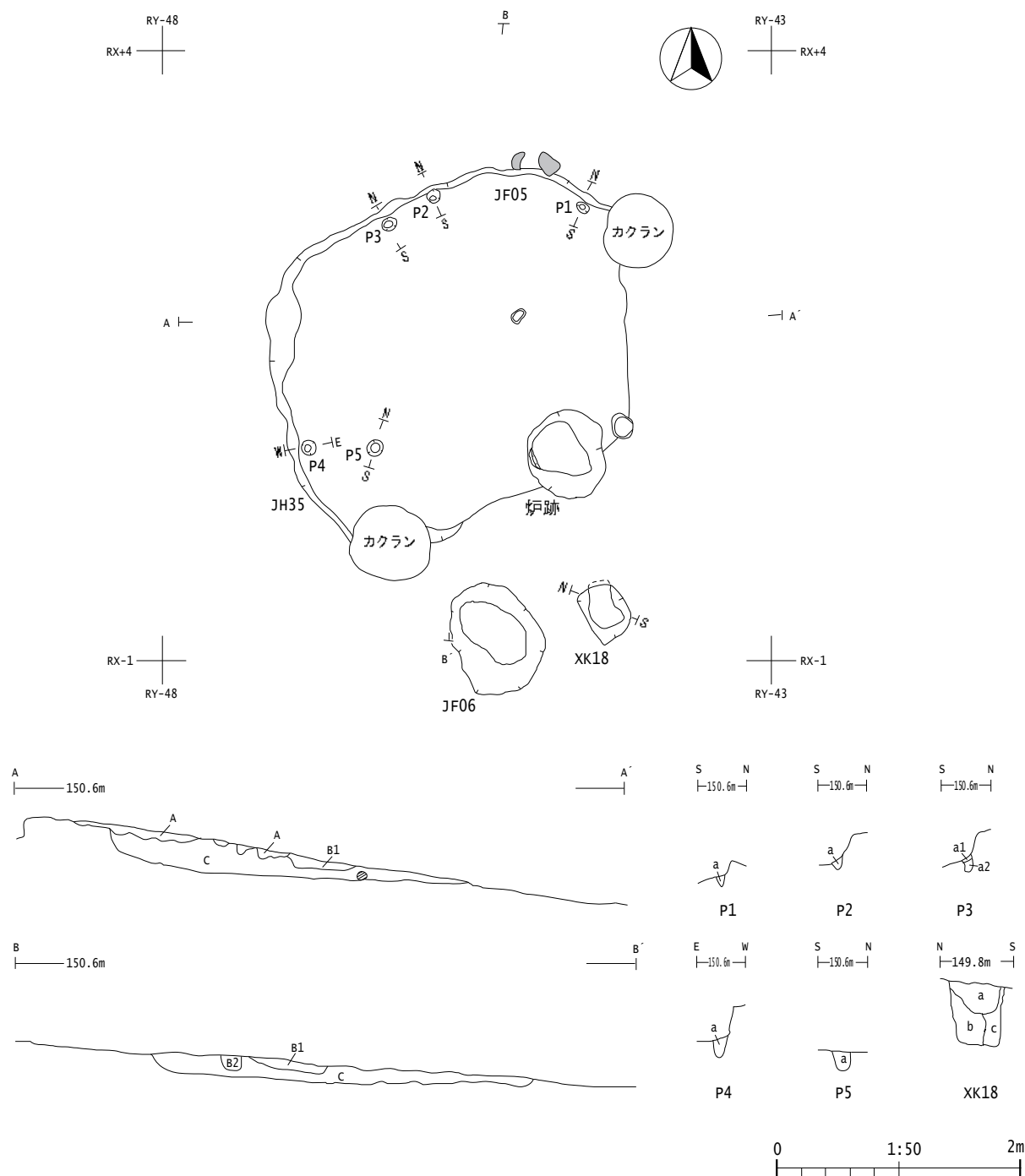


図185 JH35竪穴住居跡 JF05 JF06炉跡 XK18土坑跡平・断面

JH35竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	7.5YR4/4 褐色シルト質壤土 15%焼状	軟質・中、中・疎、W50-N0A住にも同様に堆積しており下端が不整で耕作土か、黒っぽい
竪穴埋土	B 1 7.5YR3/4 暗褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 40%焼状	中、中・疎、レンズ状、炭化物多量
竪穴埋土	B 2 10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 10%焼状	軟質・中、中、柱状、のちに掘り込まれたものか？炭化物多量
竪穴埋土	C 7.5YR3/4 暗褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 30%焼状 7.5YR3/4 暗褐色シルト質壤土 10%焼状	中、中、当初この竪穴を埋めた人為堆積と思われる状況、炭化物やや多い、上位の各層に比べて色調明るい

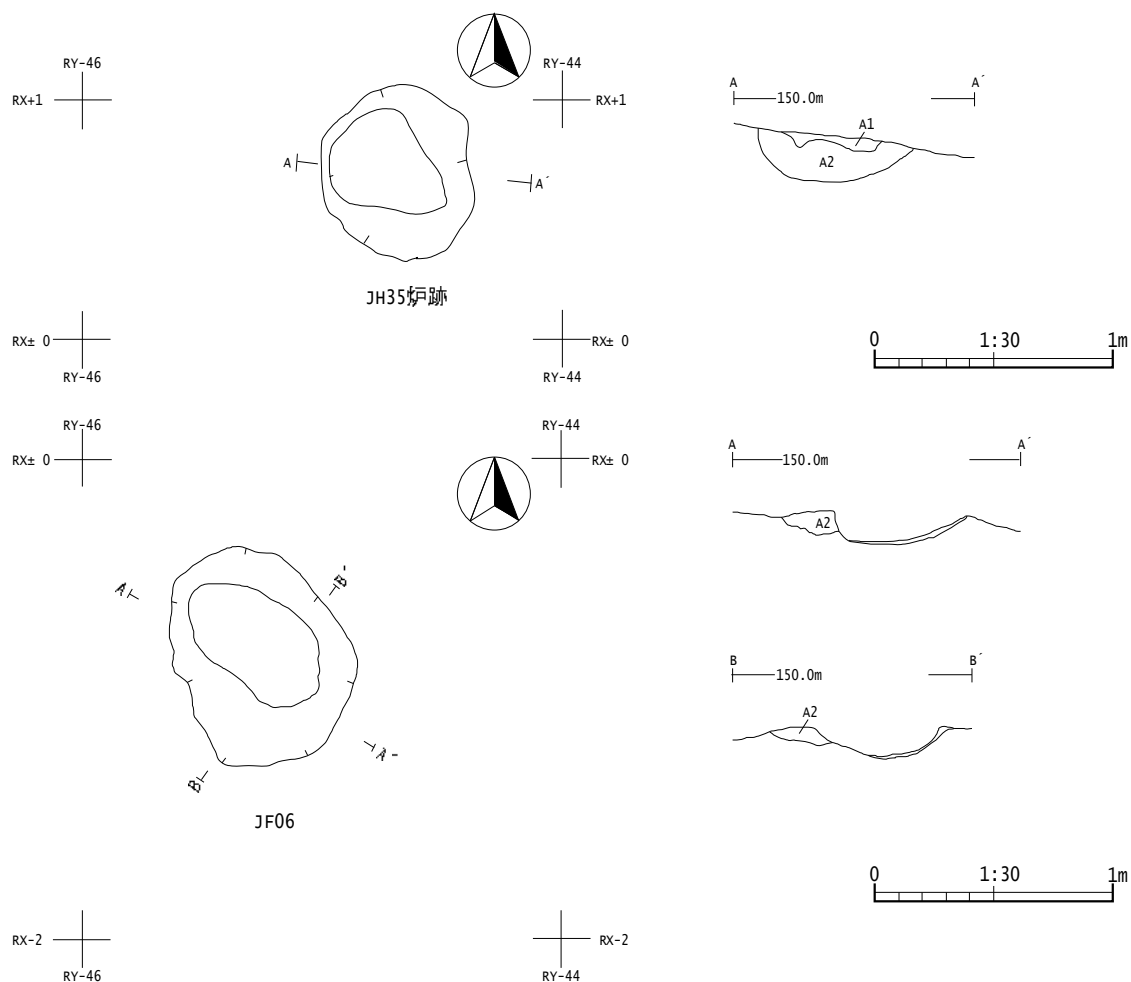


図186 JH35竪穴住居跡炉跡 JF06炉跡平・断面

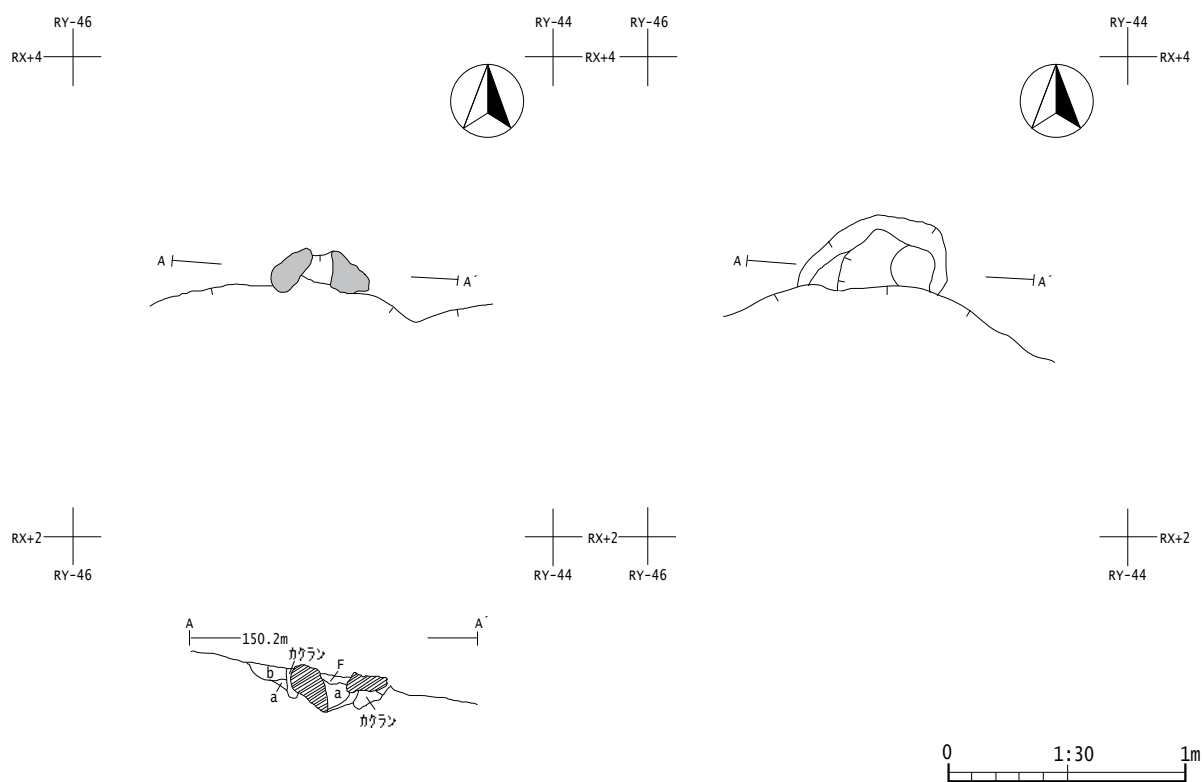
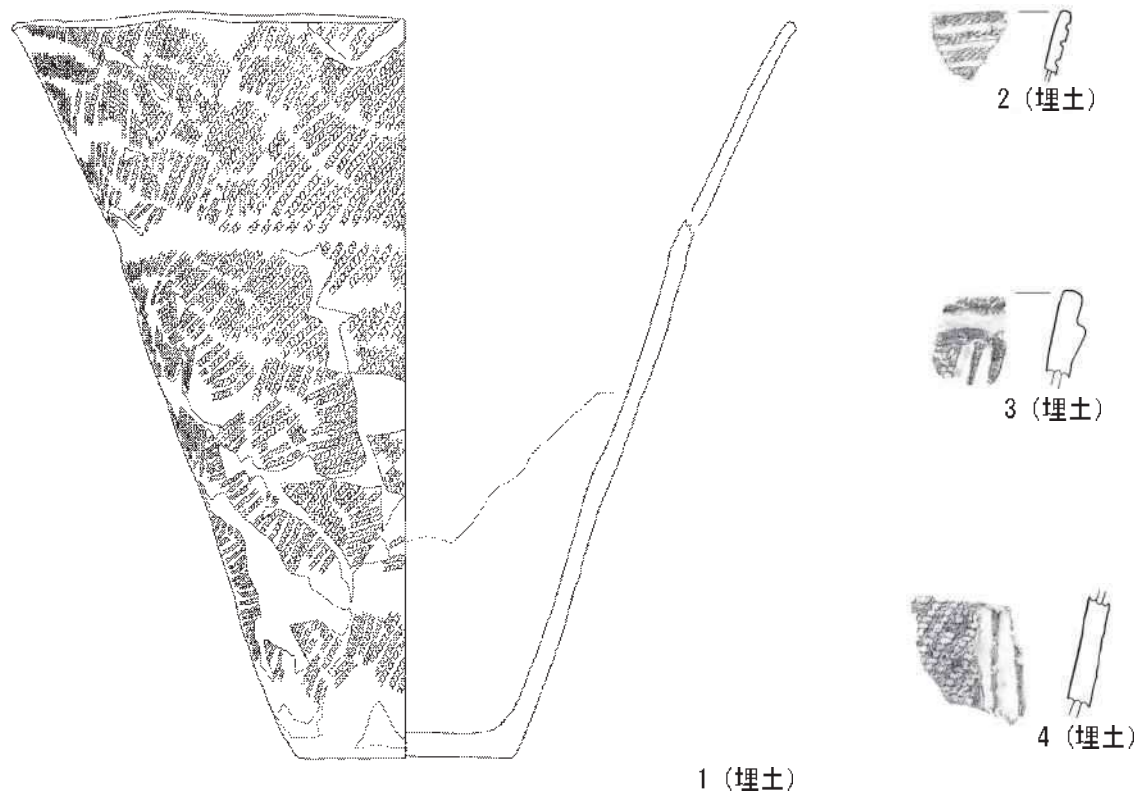


図187 JF05炉跡平・断面

〈埋土〉



〈床面〉



0 1:3 10cm

図188 JH35竪穴住居跡出土遺物

JH35竪穴住居跡炉跡 JF06炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	A 1 7.5YR4/4 褐色シルト質壤土	5YR4/8 赤褐色シルト質壤土 45%粒塊壤	中・軟質、中、平面状、微細な炭化物粒子
炉跡埋土 JF06	A 2 5YR4/4 にぶい赤褐色シルト質壤土	7.5YR3/4 暗褐色シルト質壤土 15%塊状(西側上部に多く入る) 7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 7%粒状	中・軟質、中・密、ほぼレンズ状、炭化物微量

JF05炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土 5%粉状	やや硬質、しまりややあり
炉跡埋土	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりややあり
炉跡埋土	F 注記なし		

XK13、XK14、XK15、XK16土坑跡（図189）

JH35の西側に位置する4基の土坑群である。後述するJH36、JH39を切る。
XK13からは縄文土器が出土している。

出土遺物（図190）

1、2は隆沈線で施文された口縁部、体部片である。

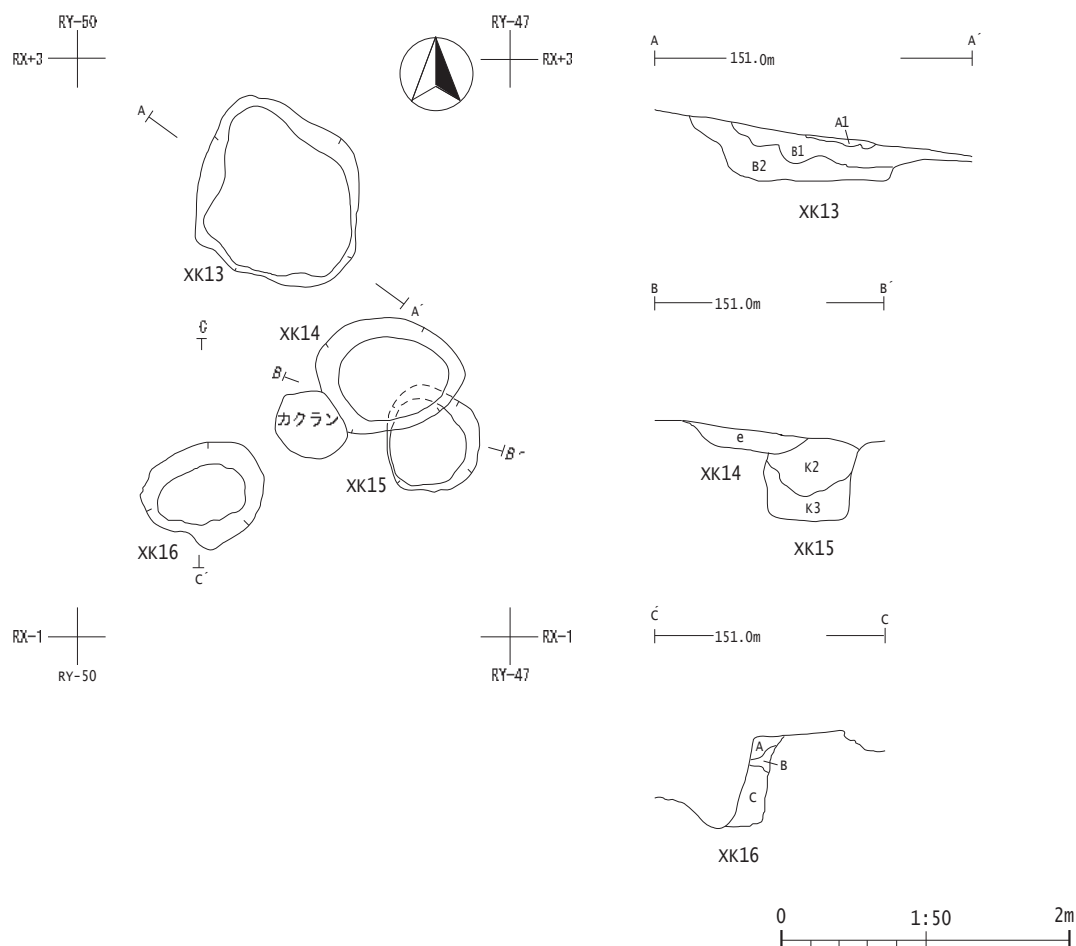


図189 XK13 XK14 XK15 XK16土坑跡平・断面

土坑群土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土 JH36	A 1 7.5YR3/3 暗褐色シルト質壤土	7.5YR4/4 褐色シルト質壤土 10%粒状	軟質、中・疎、下面は不整に乱れ、W50-NO B位上にも堆積している。耕作土/根による攪乱層黒っぽい
土坑埋土 XK13	B 1 7.5YR4/3 褐色シルト質壤土	7.5YR4/4 褐色シルト質壤土 30%粒状・小塊状	中、中、土坑Dの上部層、炭化物多量(種実状のもの多い)、焼土粒子、薄汚れたかんじの層
	B 2 7.5YR4/3 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 3%塊状	中、中・密、土坑Dの下部に堆積
土坑埋土 XK14	e 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR2/3 黒褐色壤土 15%粉状	
	10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色焼土 3%粉状	
土坑埋土 XK15	K 1 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
	K 2 10YR4/6 褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
	K 3 注記なし	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粒塊状	
XK16土坑跡	注記なし		

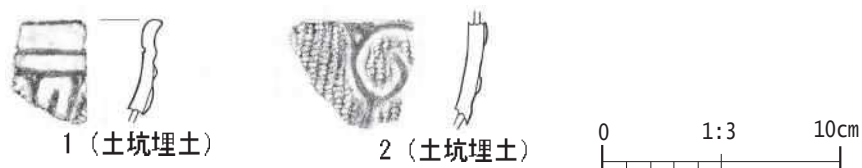


図190 XK13土坑跡出土遺物

JH36 竪穴住居跡 (図192)

JH35の西に位置する。JH35に切られ、土坑群(XK13、14、15)にも切られる。平面形は楕円形である。規模は、南北3.0m、東西推計4.0mを測る。埋土は1層である。床面から検出した遺構はp1土坑跡のみである。

出土遺物 (図191)

1～5は縄文土器である。1～4は口縁部である。1～3は平行沈線と縄文で施文される。4は口縁の環状の突起部で、縦位の沈線文を伴う。5は環状の把手を伴う頸部で、隆沈線文を伴う。

時期は縄文時代中期に伴う。

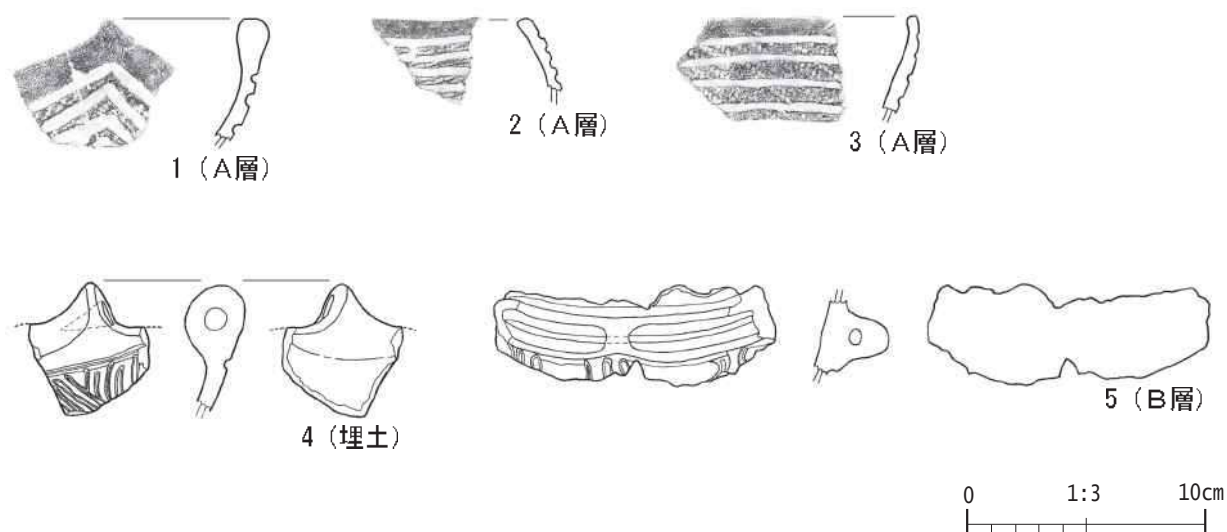


図191 JH36竪穴住居跡出土遺物

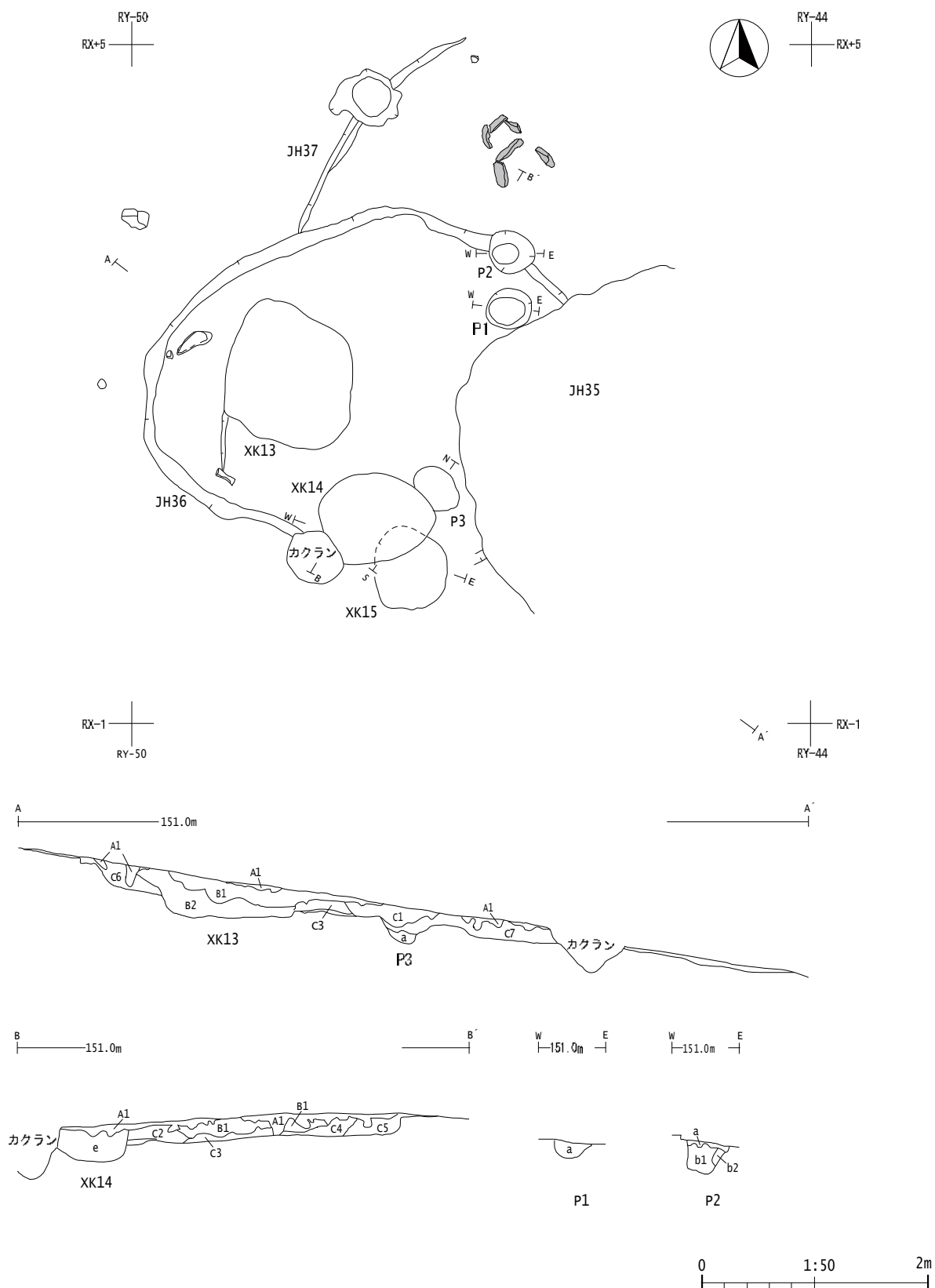


図192 JH36 JH37竪穴住居跡平・断面

JH36竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 1	7.5YR3/3 暗褐色シルト質壤土	7.5YR4/4 褐色シルト質壤土 10%粒状	軟質、中～疎、下面は不整に乱れ、W50-NO B往上にも堆積している。耕作土/根による攪乱層黒っぽい
土坑埋土 XK13	B 1	7.5YR4/3 褐色シルト質壤土	7.5YR4/4 褐色シルト質壤土 30%粒状・小塊状	中、中、土坑Dの上部層、炭化物多量(種実状のもの多い)、粘土粒子、薄汚れたかんじの層
	B 2	7.5YR4/3 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 3%塊状	中、中～密、土坑Dの下部に堆積
竪穴埋土	C 1	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土	7.5YR4/3 褐色シルト質壤土 3%塊状	軟質、中、中、下端やや不整なレンズ状、分布中央では床面に接する、炭化物多量(種実状のもの)
竪穴埋土	C 2	7.5YR4/4 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 30%粒状	中、中～密、炭化物微量、ブロックのために他の層より一見明るく見える
竪穴埋土	C 3	7.5YR4/4 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 50%塊状	中～硬質、中、床面にまばらに堆積、地山のブロックの大きいものの層
竪穴埋土	C 4	7.5YR4/4 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 7%塊状 7.5YR3/3 暗褐色シルト質壤土 3%塊状	中～硬質、中～密、炭化物やや多いが粒子は小さい
竪穴埋土	C 5	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 15%塊状(径2-3cm)	中～硬質、密、中、三角堆積状、炭化物、地山土に起源すると思われる
竪穴埋土	C 6	10YR4/4 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 10%小塊状	中～硬質、密、中、三角堆積状、炭化物、きわめて硬い土だが地山土とは色調が異なる
竪穴埋土	C 7	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 7%塊状 5YR5/8 明赤褐色シルト質壤土(焼土) 30%粒状	中、中、ピットA内にまで堆積していることから、一気に堆積したものと思われる

JH36竪穴住居跡焼土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
P1	a	注記なし		
P2	a	10YR4/4 褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中
	b 1	10YR4/6 褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中
	b 2	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性中
P3	a	注記なし		
XK14	e	7.5YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土粒塊状	やや硬質、しまりあり、焼土粒微量

JH37 竪穴住居跡 (図193)

JH36の北に位置し、同遺構に切られる。西側の壁と炉跡を検出している。

炉跡 (図193)

方形の石囲炉である。前庭部をもつ複式炉である。規模は、南北60cm、東西40cmを測る。焼土は検出されず、使用された形跡はない。方形の掘方を確認している。

遺物は出土していない。

時期は、縄文時代中期に伴う。

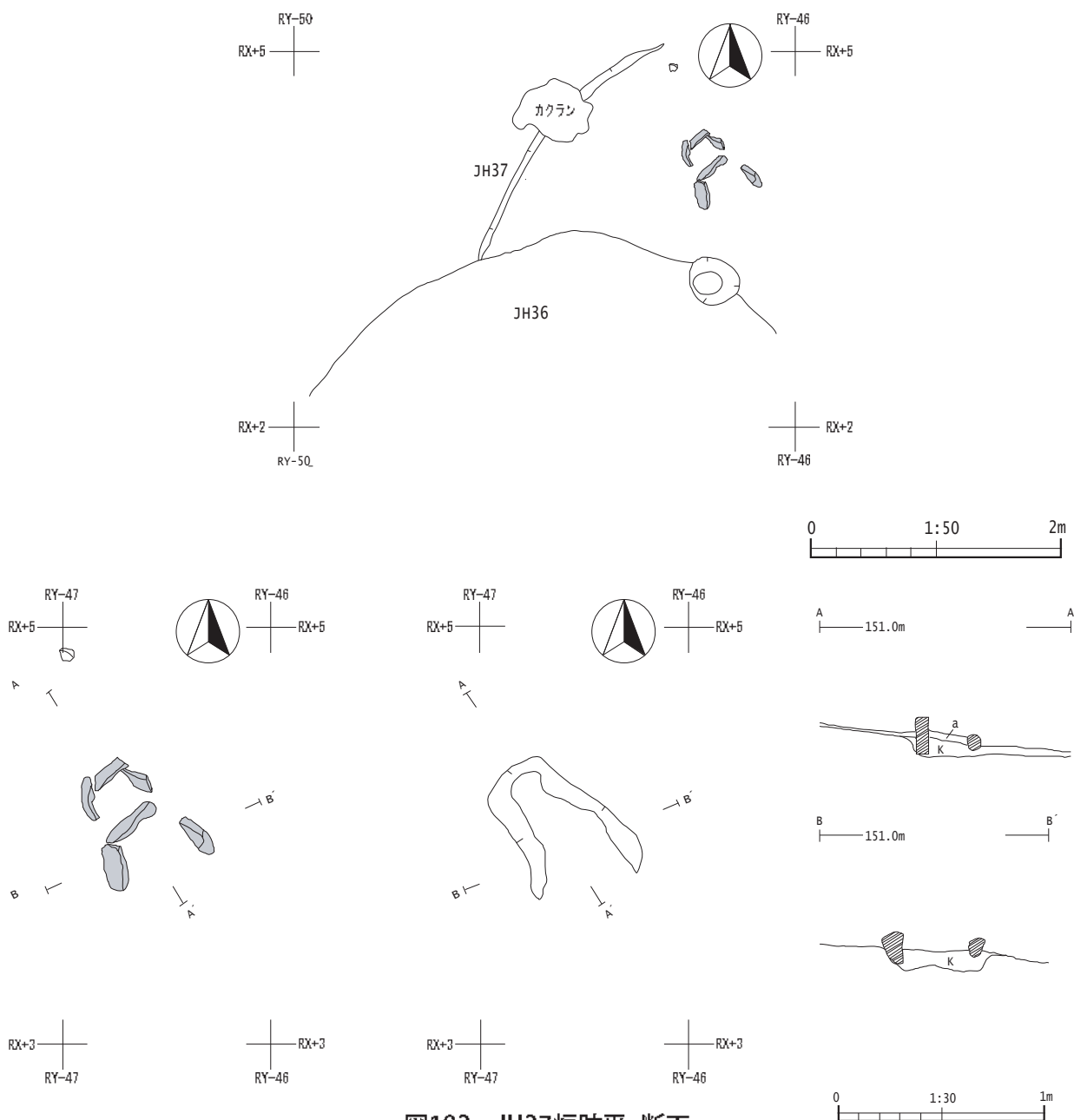


図193 JH37炉跡平・断面

JH37竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 3%	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量
	K 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、木炭微量

JH38 竪穴住居跡 (図194)

JH35の東に位置する。JH35を切る。平面形は隅丸方形である。規模は、南北3.0m、東西2.5mを測る。埋土は4層に細別される。床面中央、南東寄りに炉を設ける。床面周辺部で小土坑跡を検出している。周溝は出土していない。

炉跡 (図195)

新旧の石囲炉が重複する。北側に旧炉の石組が残る。新炉は方形の石囲炉である。二部に分かれる複式炉である。規模は、70cm、東西40cmを測る。F1、F2が新炉の焼土層である。F3は旧炉の焼土層である。方形の掘方を確認している。

出土遺物 (図196、197)

1～6は縄文土器である。1は斜縄文で施文された口縁部である。2は沈線と刺突列を伴う体部片である。3は沈線による区画文を縄文で埋める。4は斜縄文で施文される。底面に網代痕を残す。5は隆沈線で施文される。6は沈線で区画し、縄文、無文帯を分ける。

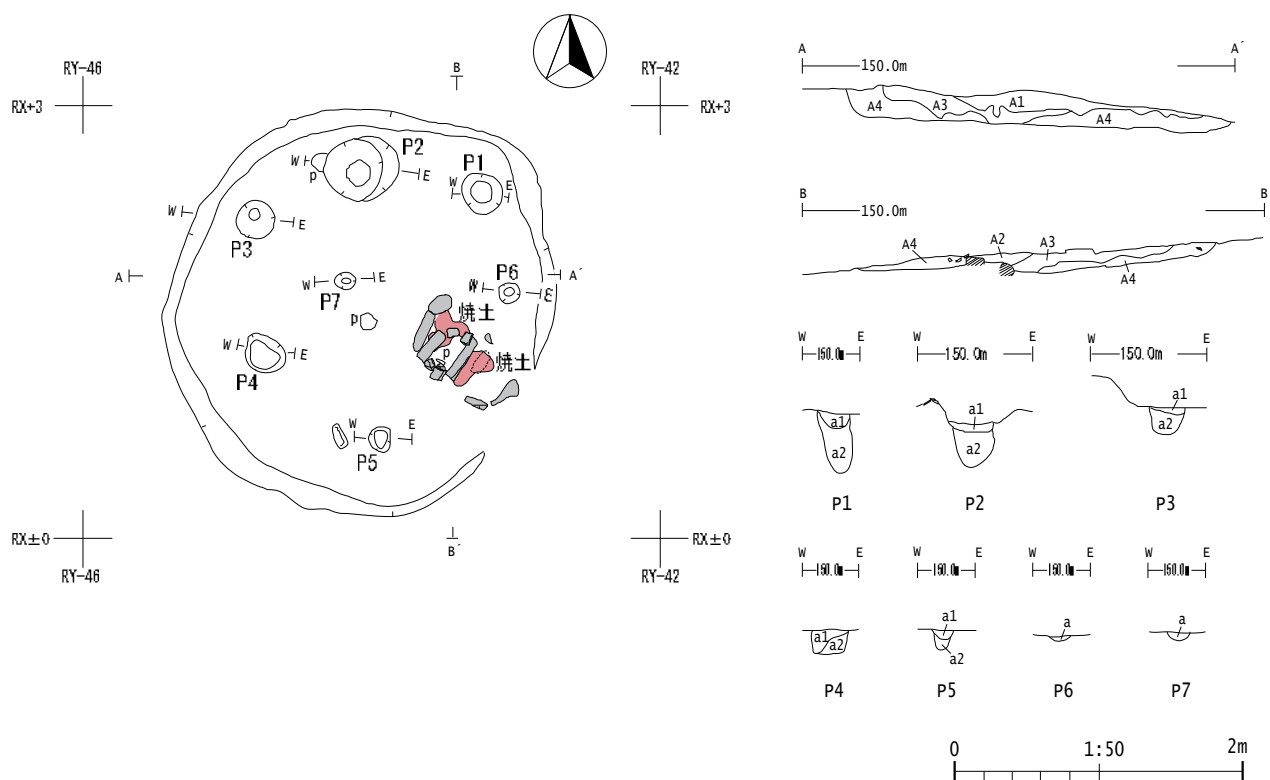


図194 JH38竪穴住居跡平・断面

JH38竪穴住居跡土層観察表

層 名		基 本 土	混 入 土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 1	7.5YR4/6 褐色シルト質壤土	7.5YR5/8 明褐色シルト質壤土 5%塊状	軟質、中・疎、ほぼレンズ状自然堆積、焼土粒、炭化物、一帯黒っぽい層
竪穴埋土	A 2	10YR4/4 褐色シルト質壤土	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土 1%塊状	軟質、中・疎、土器片多量、炭化物、焼土粒、
竪穴埋土	A 3	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土	7.5YR5/8 明褐色シルト質壤土 1%塊状	軟質、中・中、ほぼレンズ状、自然堆積、均質なかんじの層
竪穴埋土	A 4	7.5YR5/6 明褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 40%塊状 7.5YR5/8 明褐色シルト質壤土 1%塊状	硬質、中・中、硬い塊状構造、炭化物

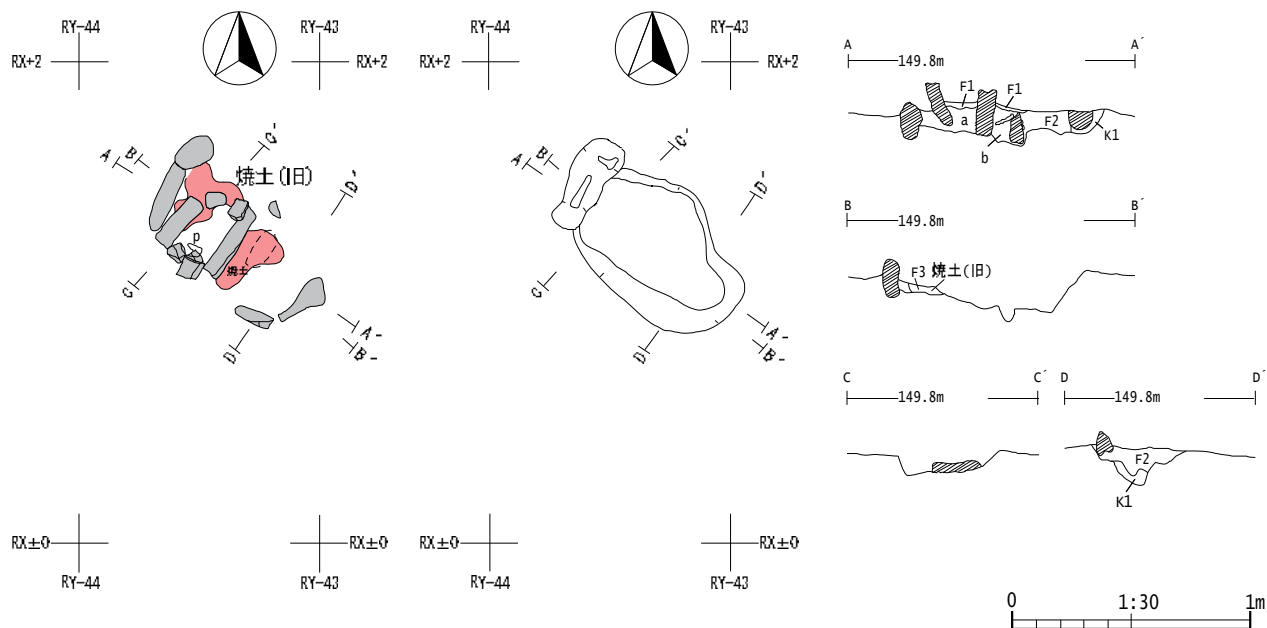


図195 JH38竪穴住居跡炉跡平・断面

JH38竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層 名		基 本 土		混 入 土		固さ・構造・混入物	
柱穴 P 1 埋土	a 1	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりややあり、粘性中	
	a 2	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	軟質、しまり弱、粘性中、木炭粉	
柱穴 P 2 埋土	a 1	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土	10YR4/6	褐色壤土 2%粉状	やや硬質、ややしまりあり、粘性大	
	a 2	10YR4/6	褐色壤土	10YR4/4	褐色壤土 5%粉粒状	軟質、しまり弱、土器	
柱穴 P 3 埋土	a 1	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中	
	a 2	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	軟質、しまり弱、粘性中、木炭粉	
柱穴 P 4 埋土	a 1	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中	
	a 2	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土	10YR4/6	褐色壤土 1%	硬質、しまりあり、粘性中	
柱穴 P 5 埋土	a 1	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性中	
	a 2	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、粘性中	
柱穴 P 6 埋土	a	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中	
柱穴 P 7 埋土	a	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 3%粉状	軟質、しまり弱	

JH38竪穴住居跡炉跡土層観察表

層 名		基 本 土	混 入 土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中
炉跡埋土	b	10YR5/6 黄褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 3%粉状	やや硬質、しまりややあり
焼土	F1	10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色焼土 5%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
焼土	F2	10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色焼土 3% 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性中、木炭粉微量
焼土(旧)	F3			

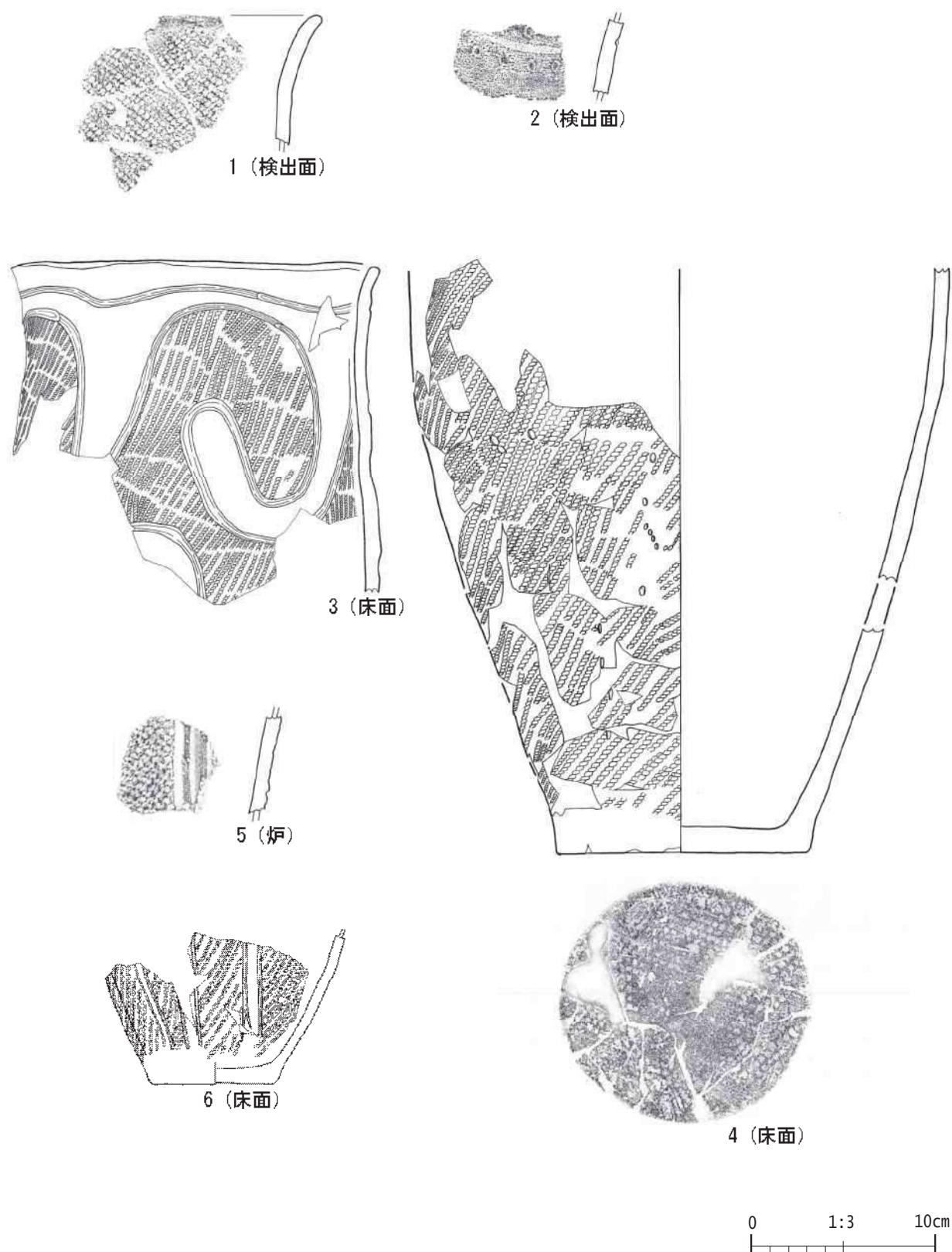
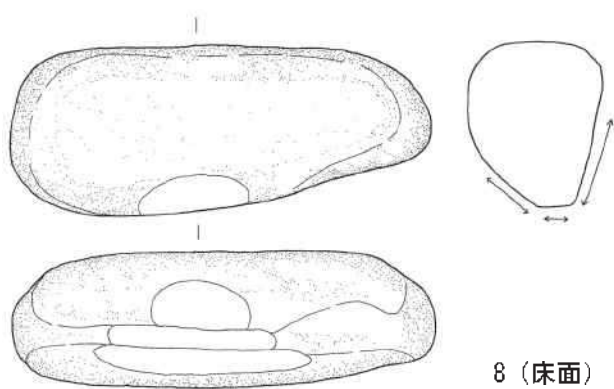
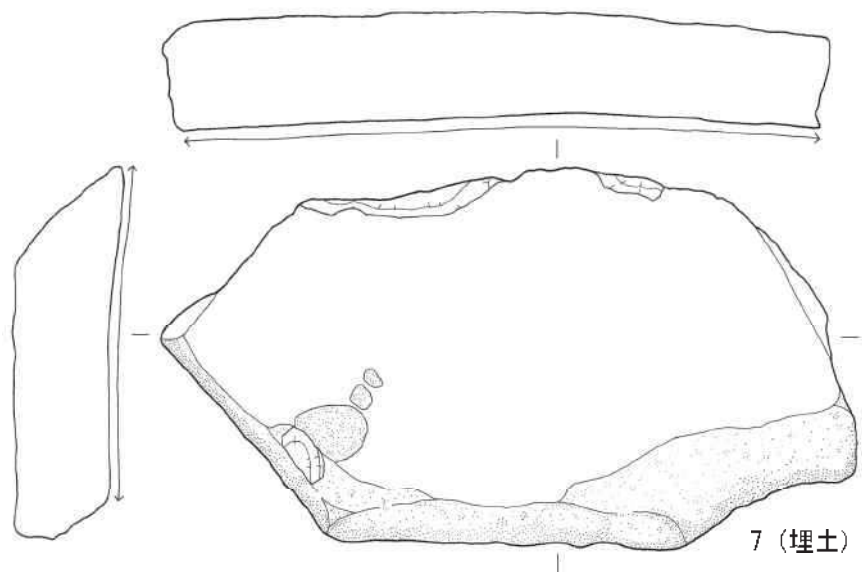


図196 JH38竪穴住居跡出土遺物 (1)



0 1:3 10cm

图197 JH38竖穴住居跡出土遺物 (2)

J H 3 9 竪穴住居跡 (図198)

J H 3 6 の南に位置する。J H 4 0 と重複し、同遺構を切る。平面形は楕円形と推測する。規模は、南北3.8m、東西推計2.8mを測る。埋土は3層に分かれる。床面中央、南東寄りに炉を設ける。床面の二ヵ所で焼土遺構を確認している。床面の土坑跡、周溝は確認していない。

炉跡 (図199)

方形の石囲炉である。規模は東西90cm、南北70cmを測る。F層が軟質な焼土層である。

焼土 1, 2 (図198)

焼土 2 は炉の西側に位置する。平面形は不整楕円形である。規模は、60cm×45cm、層厚3.0cmを測る。

焼土 1 は炉の北に位置する。平面形は不整楕円形である。規模は、40cm×30cm、層厚4cmを測る。F層は、粉粒状の焼土の混じる褐色土である。

出土遺物 (図200、201)

1～12は縄文土器である。1～6は口縁部である。1～3は沈線による区画文を縄文で埋める。4は表は沈線で縄文と無文帯を分け、裏面には隆帯で渦文を貼付する。5、6は隆沈線で施文する。7～12は体部片である。7は沈線で方形区画文を施し、縄文、無文帯を分ける。8～10は沈線で区画し、縄文、無文帯を分ける。11は縄文に沈線で描く。12は隆沈線で施文する。

13～17は礫石器である。13は敲打磨石である。側面全面に磨面をもつ。14～17は砥石である。

時期は縄文時代中期に伴う。

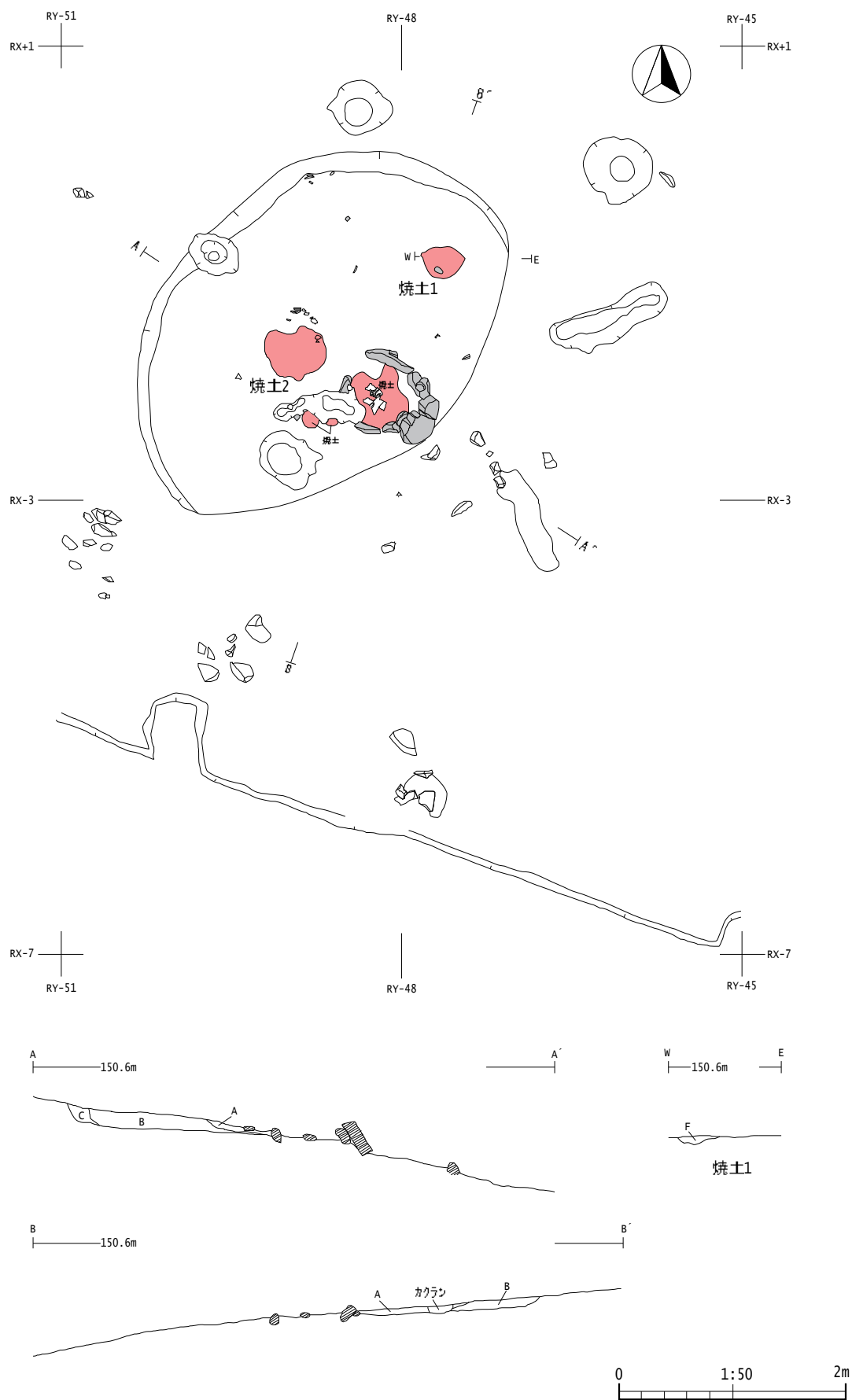


図198 JH39竪穴住居跡平・断面

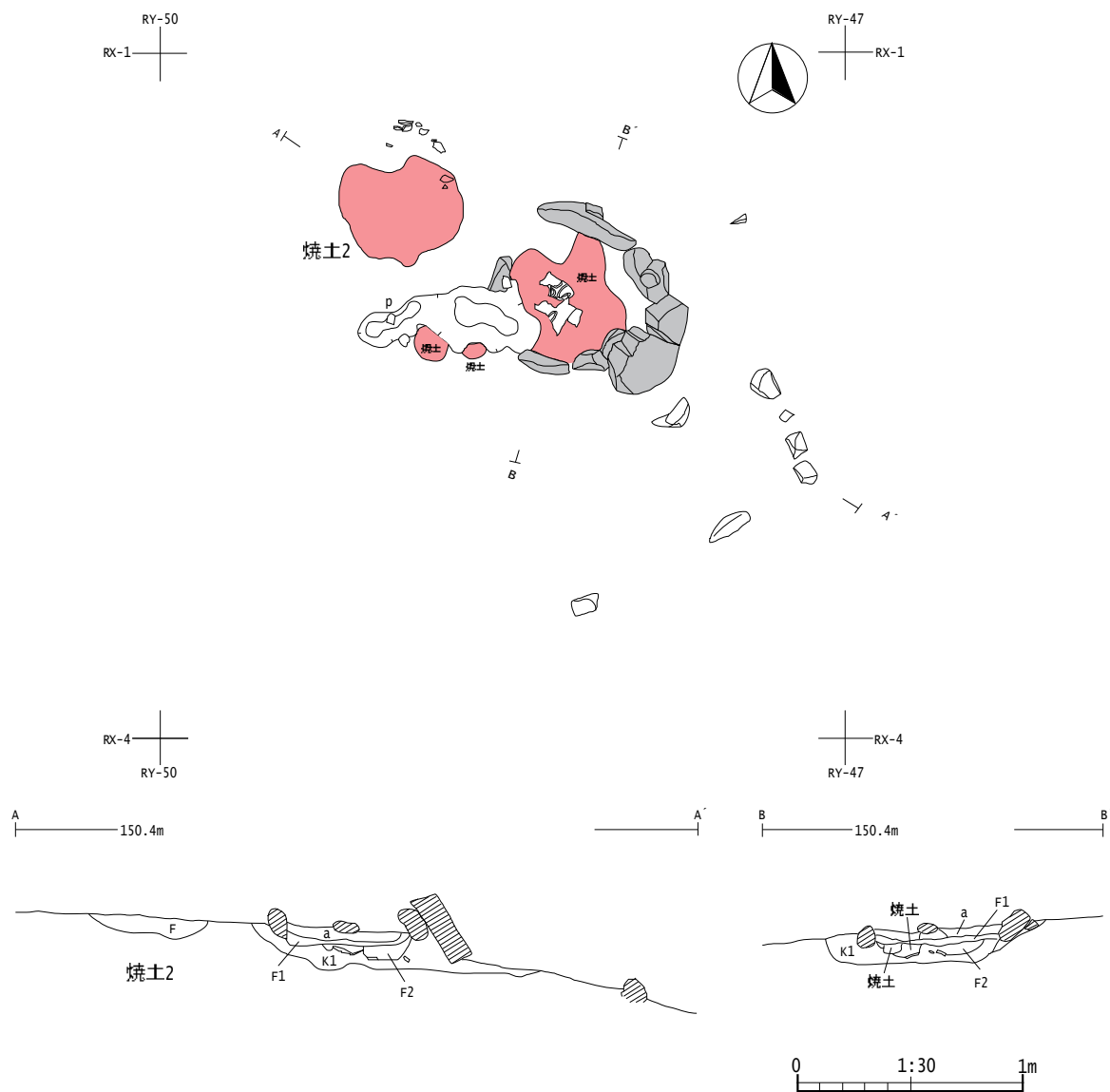


図199 JH39竪穴住居跡炉跡平・断面

JH39竪穴住居跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR3/3 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量
竪穴埋土	B	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 5%粉状 10YR2/3 黒褐色壤土 2%粉状 5YR5/8 明赤褐色壤土 2%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉、木炭塊2%
竪穴埋土	C	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 5%粉状	やや軟質、しまりややあり、木炭粉微量

JH39竪穴住居跡焼土土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土1	F	10YR4/6 褐色壤土	5YR5/8 明赤褐色焼土 30%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、木炭粉微量
焼土2	F	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色焼土 7%粉粒状	やや硬質、ややしまりあり、粘性少、木炭粉1%

JH39竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a	10YR3/3 暗褐色壤土	5YR5/8 明赤褐色焼土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱
焼土混土	F 1	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR2/3 黒褐色焼土 10%粉状 2.5YR4/8 赤褐色焼土 10%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、粉粒状構造
焼土混土	F 2		2.5YR4/8 赤褐色焼土	硬質、しまりあり
	K	注記なし		

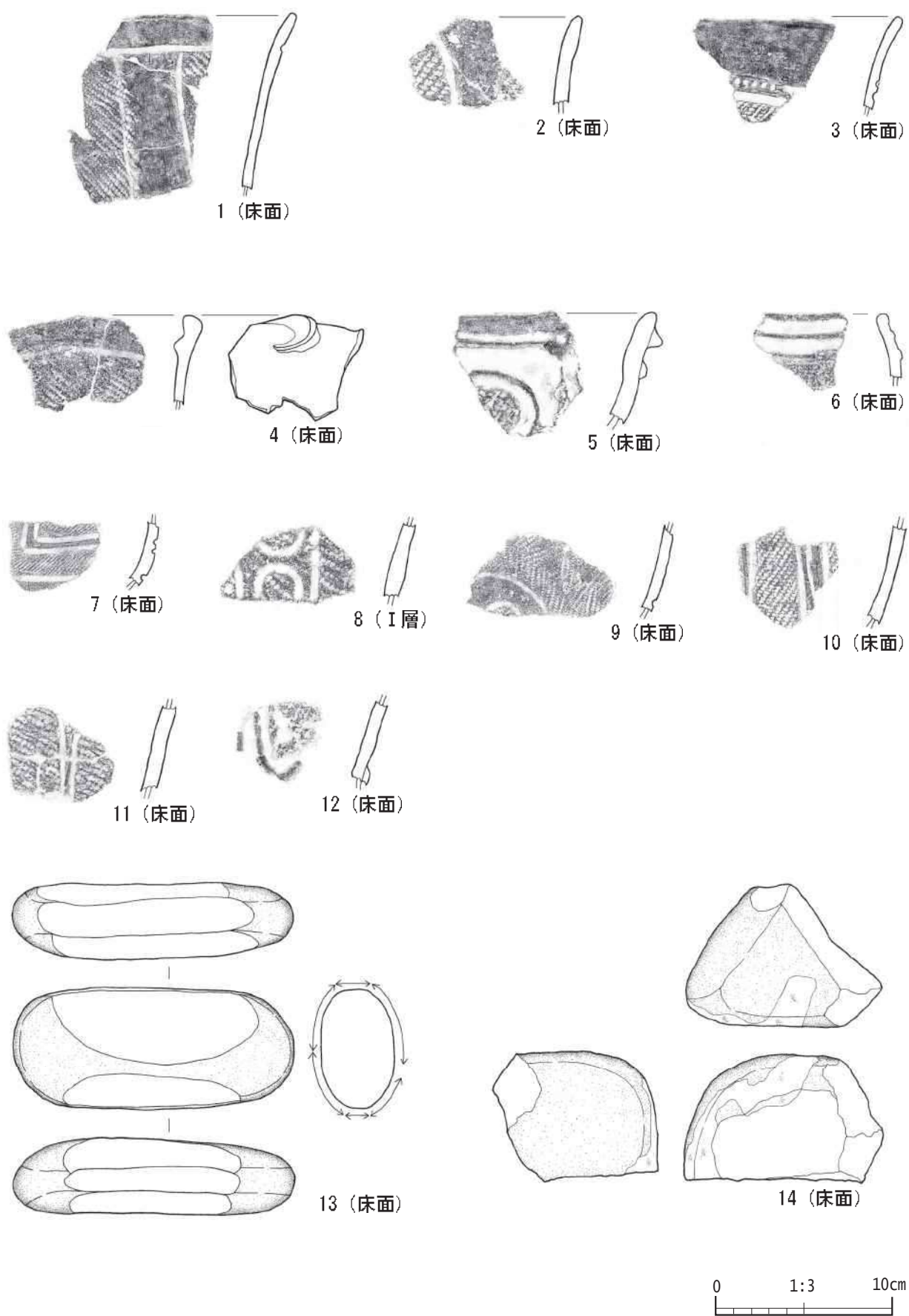


图200 JH39竖穴住居跡出土遺物 (1)

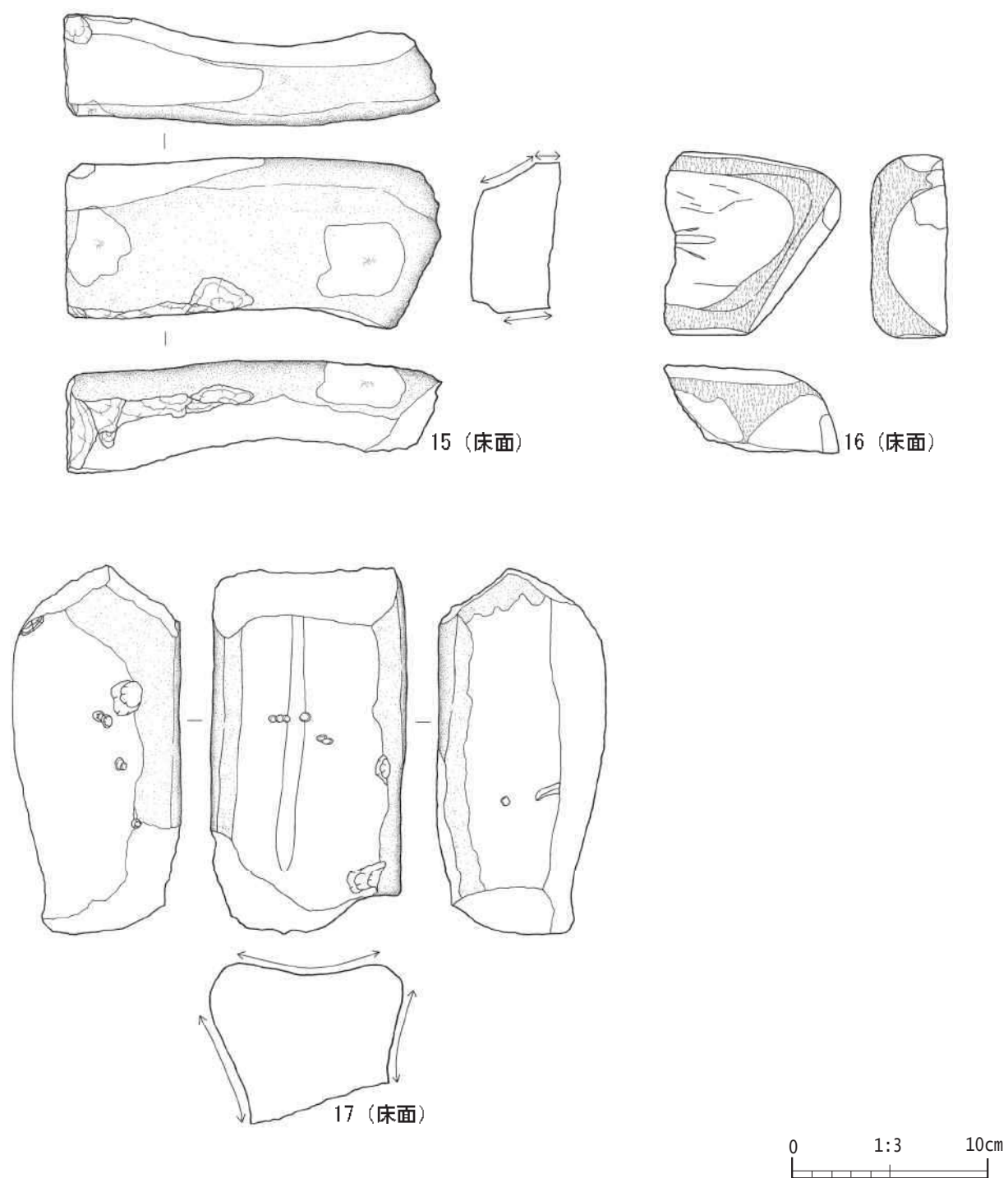


图201 JH39竖穴住居跡出土遺物 (2)

JH40 竪穴住居跡、JK21 土坑跡 (図203)

JH39と重複し、同竪穴に切られる。JK21土坑跡を切る。平面形は隅丸方形である。規模は、南北3.5m、東西3.4mを測る。埋土は1層である。床面の南東端で炉跡を検出している。床面周辺部では土坑跡、溝跡などが出土している。

炉跡 (図204)

最初に土器の混じる円形の焼土検出している。精査の結果、I～III部で構成される複式炉の掘方を確認している。規模は、南北1.4m、東西最大幅0.7mを測る。r6が軟質な焼土層である。

出土遺物 (図202)

1～5は縄文土器である。1は斜縄文で施文された口縁部である。2は沈線で縄文と無文帯を分ける体部片である。3～5は沈線による区画文で縄文、無文帯を分ける口縁部、体部片である。

時期は縄文時代中期に伴う。

JK21 土坑跡 (図203)

平面形は楕円形と思われる。規模は、南北約2.0mを測る。埋土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

時期は、切り合いから縄文時代に伴う。

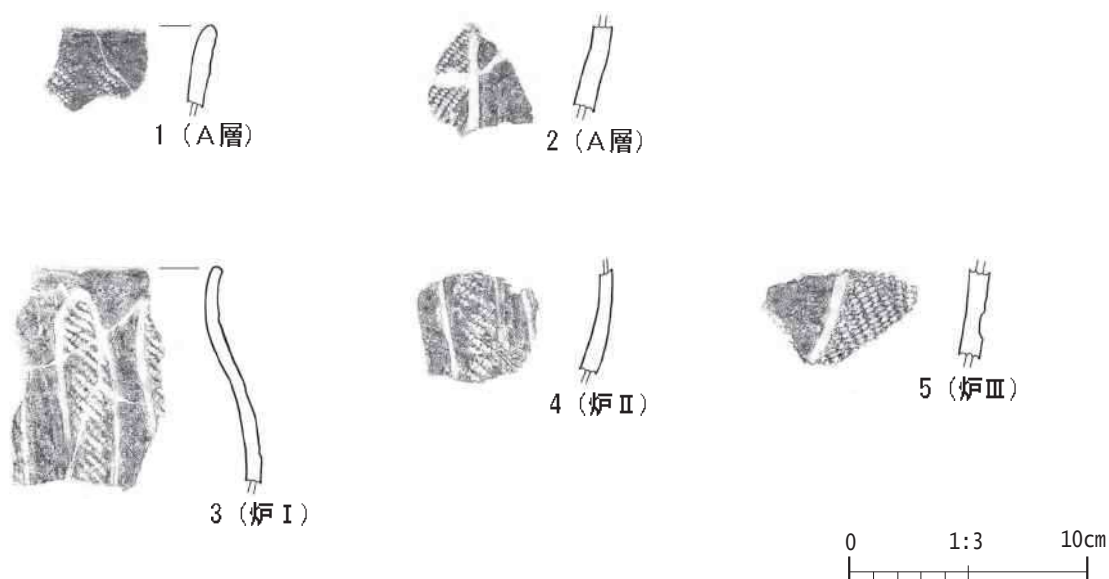


図202 JH40竪穴住居跡出土遺物

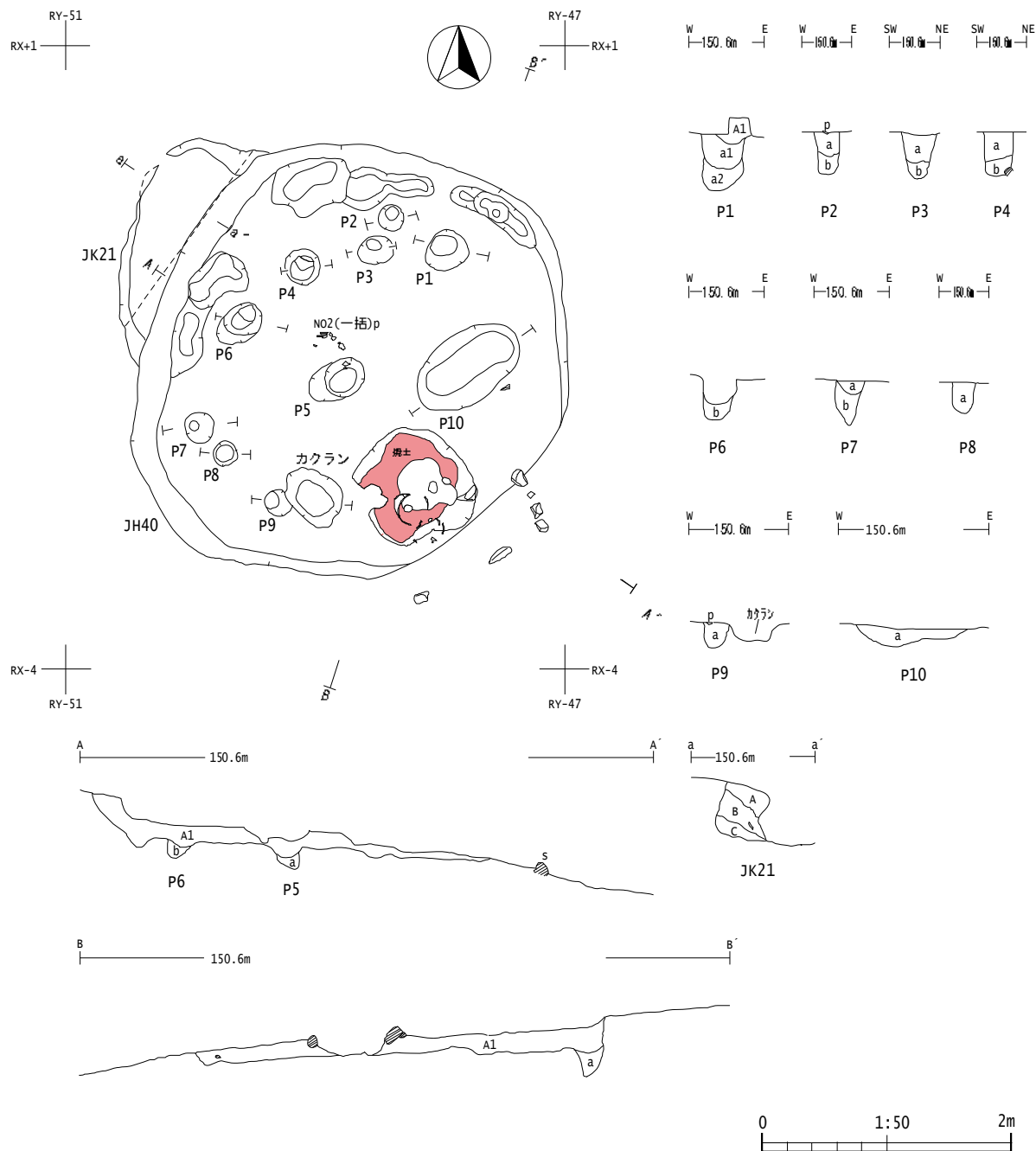


図203 JH40竪穴住居跡平・断面

JH40竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層 名		基 本 土		混 入 土		固さ・構造・混入物	
柱穴 P 1 埋土	a 1	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉微量	
	a 2	10YR4/6	褐色壤土	10YR3/4	暗褐色壤土 3%粉状	軟質、しまり弱、粘性あり、木炭粉微量	
柱穴 P 2 埋土	a	10YR4/6	褐色シルト質壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	やや硬質、しまりあり、粘性あり、土器	
	b	10YR4/6	褐色シルト質壤土	10YR3/4	暗褐色壤土 5%粉状	やや軟質、しまりやや弱	
柱穴 P 3 埋土	a	10YR4/6	褐色シルト質壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 2%粉粒状	やや硬質、しまりあり、粘性大	
	b	10YR4/6	褐色壤土	10YR3/4	暗褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性あり	
柱穴 P 4 埋土	a	10YR4/6	褐色シルト質壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや硬質、ややしまりあり、粘性あり	
	b	10YR4/6	褐色壤土	10YR3/4	暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、ややしまり弱、粘性あり	
柱穴 P 5 埋土	a						
柱穴 P 6 埋土	b	10YR4/6	褐色壤土	10YR3/4	暗褐色壤土 3%粉状	やや軟質、ややしまりあり、粘性あり	
柱穴 P 7 埋土	a	10YR4/6	褐色シルト質壤土	10YR3/4	暗褐色壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり	
				10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 1%粉状		
	b	10YR4/6	褐色シルト質壤土	10YR3/4	暗褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり	
柱穴 P 8 埋土	a	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりややあり、粘性ややあり	
柱穴 P 9 埋土	a	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 2%	やや軟質、しまりやや弱、粘性ややあり	
柱穴 P 1 0 埋土	a	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、木炭粉 1%	

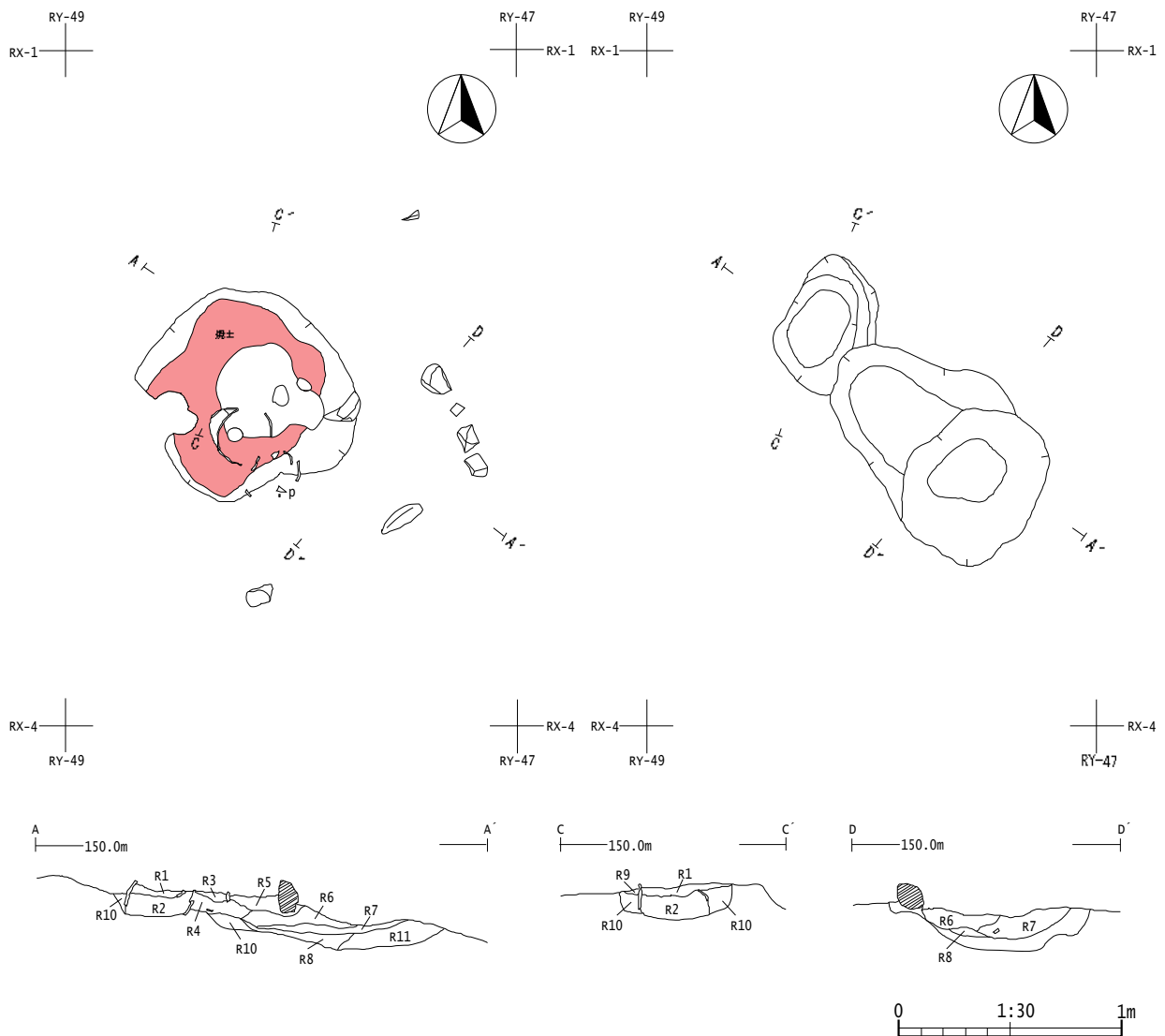


図204 JH40竪穴住居跡炉跡平・断面

JK21土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性中、木炭粉微量
土坑埋土	B 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性中、木炭粉微量、土器
土坑埋土	C 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性中

JH40竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	R 1 10YR4/4 褐色シルト質埴土	5YR4/6 赤褐色埴土 5%塊状 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 10%塊状	軟質、疎、塊状構造、土器
炉跡埋土	R 2 10YR4/6 褐色砂質埴土	10YR5/6 黄褐色砂質埴土 7%粒~小塊状	中、中、塊状構造、やや粘性あり
炉跡埋土	R 3 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土	10YR4/6 褐色砂質埴土 15%粒塊状	軟質、中、疎、塊状構造、Ⅱ部埋土
炉跡埋土	R 4 10YR4/6 褐色砂質埴土	10YR5/6 黄褐色砂質埴土 3%粒状	中、中、塊状構造、土器 1片
炉跡埋土	R 5 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土	10YR4/4 褐色シルト質埴土 2%粒~小塊状	軟質、疎、塊状構造、灰石を埋めたもの?
炉跡埋土	R 6 5YR4/8 赤褐色埴土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 10%塊状	軟質、疎、塊状構造
炉跡埋土	R 7 10YR3/3 暗褐色シルト質埴土	10YR5/8 黄褐色砂質埴土 3%粒状	軟質、疎、塊状構造、掘り形の埋土?攪乱
炉跡埋土	R 8 10YR5/8 黄褐色砂質埴土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴土 1%粒塊状	中、固、中、塊状構造、掘りすぎ?
炉跡埋土	R 9 10YR4/4 褐色シルト質埴土	10YR5/6 黄褐色砂質埴土 3%粒状	中、疎、塊状構造、石の据え方穴
炉跡埋土	R 10 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土		軟質、中、塊状構造、攪乱
炉跡埋土	R 11 10YR3/3 暗褐色シルト質埴土	10YR5/8 黄褐色砂質埴土 15%粒塊状	軟、中、中、疎、塊状構造、攪乱土が入った層(Ⅲ部の掘り方)

J H 4 1、4 2、4 3 竪穴住居跡

J H 3 9 の東に 3 棟が並ぶ。J H 4 1 が J H 4 2 を切り、J H 4 2 が J H 4 3 を切る。

J H 4 1 竪穴住居跡、X K 1 9 土坑跡（図205）

平面形は隅丸方形である。規模は、東西4.3m、南北推計3.0mを測る。埋土は 2 層である。床面中央、南東端に炉を設ける。床面中央で柱穴状の土坑跡を検出している。周溝は出土していない。

炉跡（図206）

方形の石囲炉である。規模は、東西1.0m、南北0.5mを測る。炉の火床部に土器を埋設する。楕円形の掘方、炉石の据跡を確認している。埋設された土器は、底部だけ残っていたが、もろく図化できなかった。

出土遺物（図207、208）

1～17 は縄文土器である。

＜埋土＞ 1 と 5 は口縁部である。1 は山形口縁で、隆帯で頂部に渦文を施す。2 は隆帯を巡らし、斜縄文を施文する。3 は横位の沈線の下に刺突列が入る。4 は隆沈線による施文である。5 は縄文に平行沈線が斜めに入る。6 は撚糸文で施文する体部片である。7 は縄文に沈線が入る底部である。

＜床面＞ 8～10 は口縁部である。8 は粘土紐を口唇部の表、裏と口縁部に貼付し、刻みを入れる。9、10 は斜縄文で施文される。11 は隆沈線で施文される。12 は横位の隆帯に連続圧痕が入り、撚糸文で施文される。13～16 は撚糸文による施文である。17 は原体圧痕と思われる。

18～24 は剥片石器である。18～21 は凹基の石鏃である。22、23 は平基の石鏃である。24 は石匙である。

時期は縄文時代中期に伴う。

X K 1 9 土坑跡（図205）

平面形は不整楕円形である。規模は、東西1.3m、南北1.0m、深さ30cmを測る。明瞭な掘方を持たず、底面も平坦ではない。遺物は出土していない。

時期は不明である。

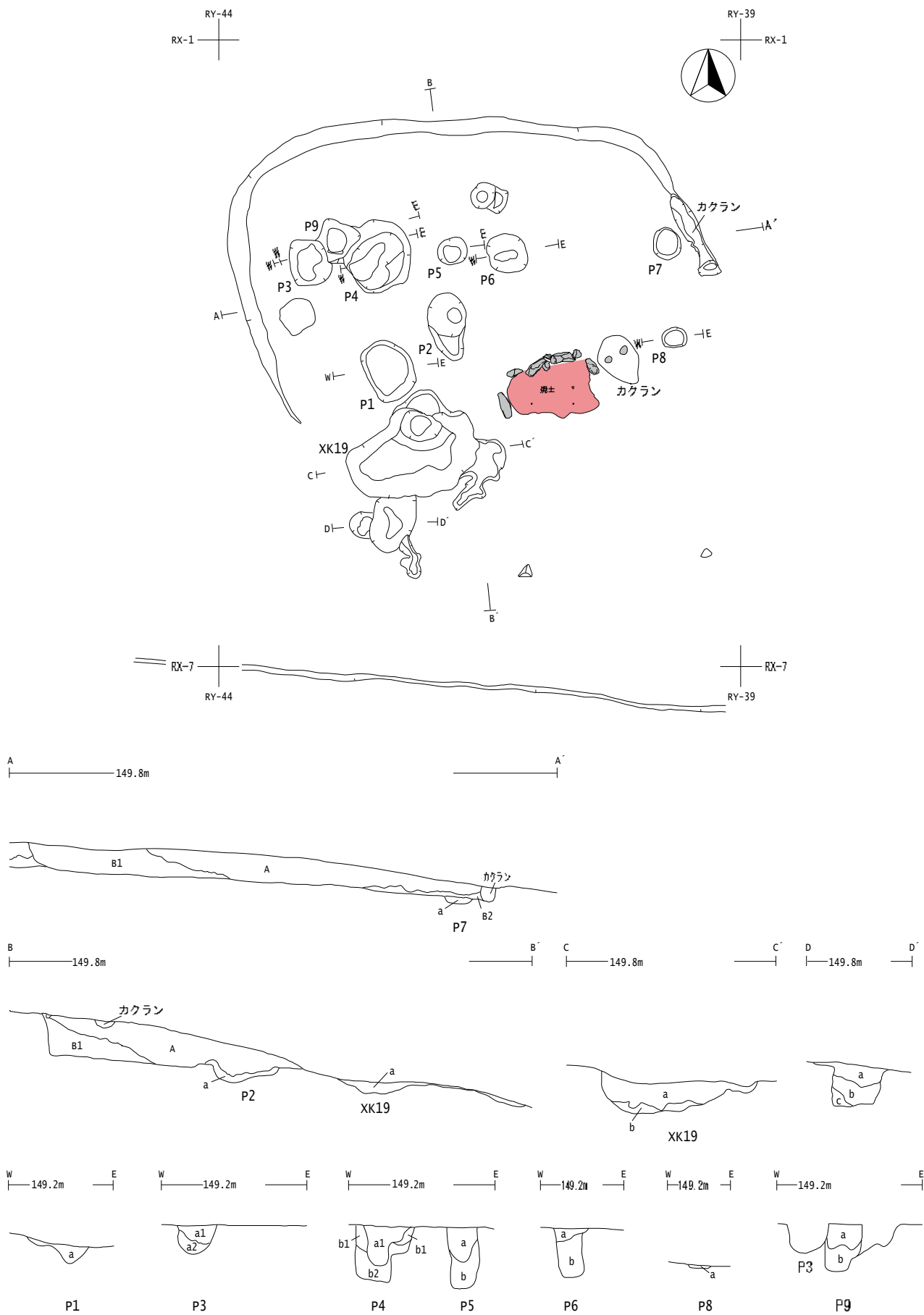


図205 JH41竪穴住居跡 XK19土坑跡平・断面

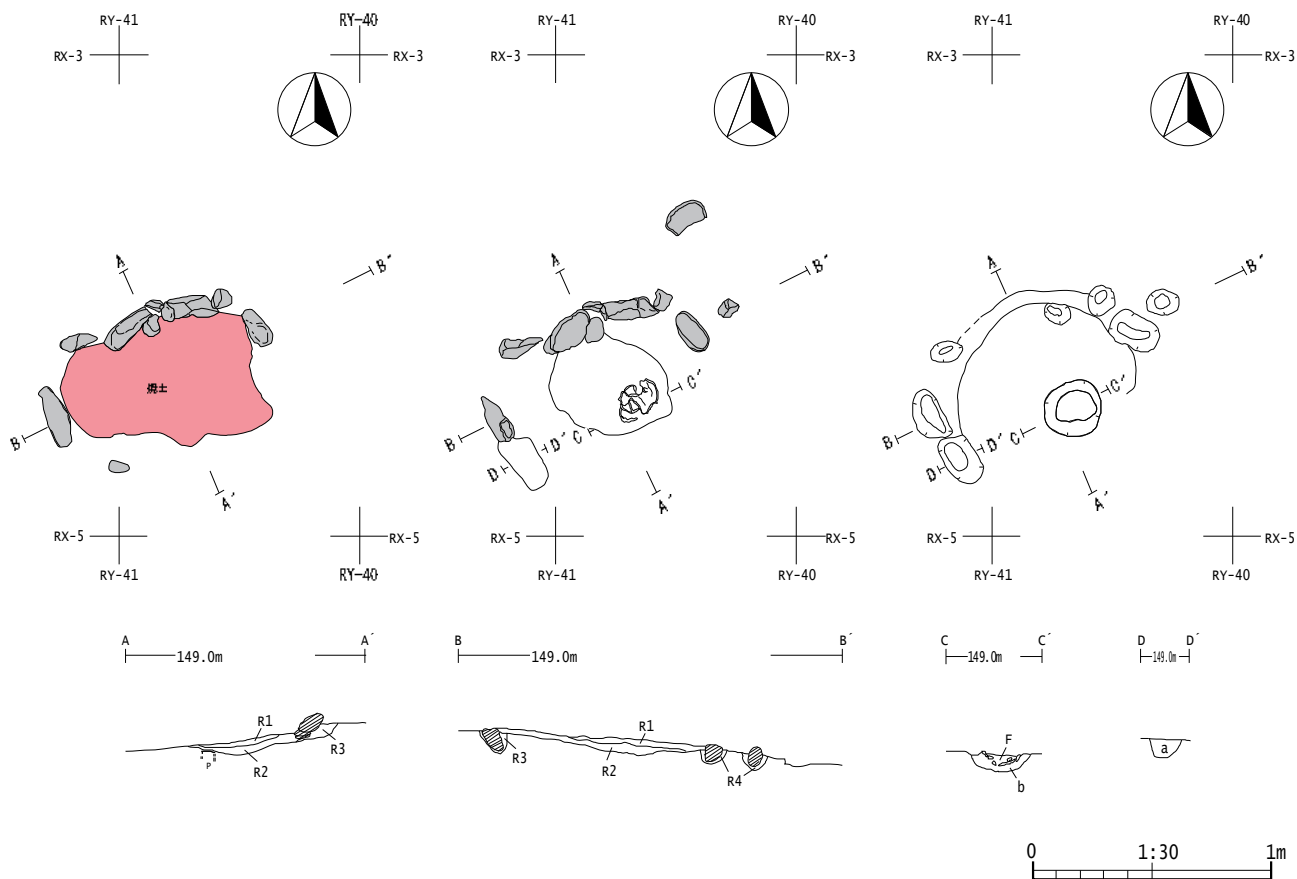


図206 JH41竪穴住居跡炉跡平・断面

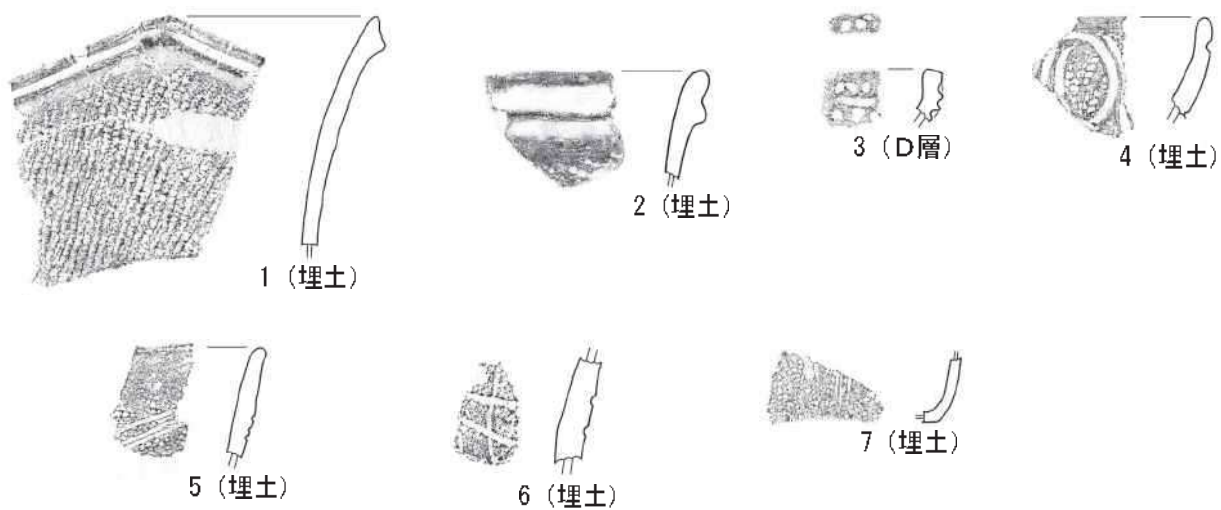
JH41竪穴住居跡土層観察表

層 名		基 本 土		混 入 土		固さ・構造・混入物	
竪穴埋土	A	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6	黄褐色壤土 2%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性少	
竪穴埋土	B1	10YR4/6	褐色壤土	10YR5/6 10YR3/4	黄褐色壤土 3%粒状 暗褐色壤土 2%粉状	やや硬質、しまり少々あり、粘性少	
竪穴埋土	B2	10YR5/6	黄褐色壤土	10YR4/6	褐色壤土 7%粉状	やや硬質、ややしまりあり、粘性少々あり	
P7	a	10YR5/8	黄褐色シルト質壤土	10YR5/6	黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、土器、木炭粉1%	

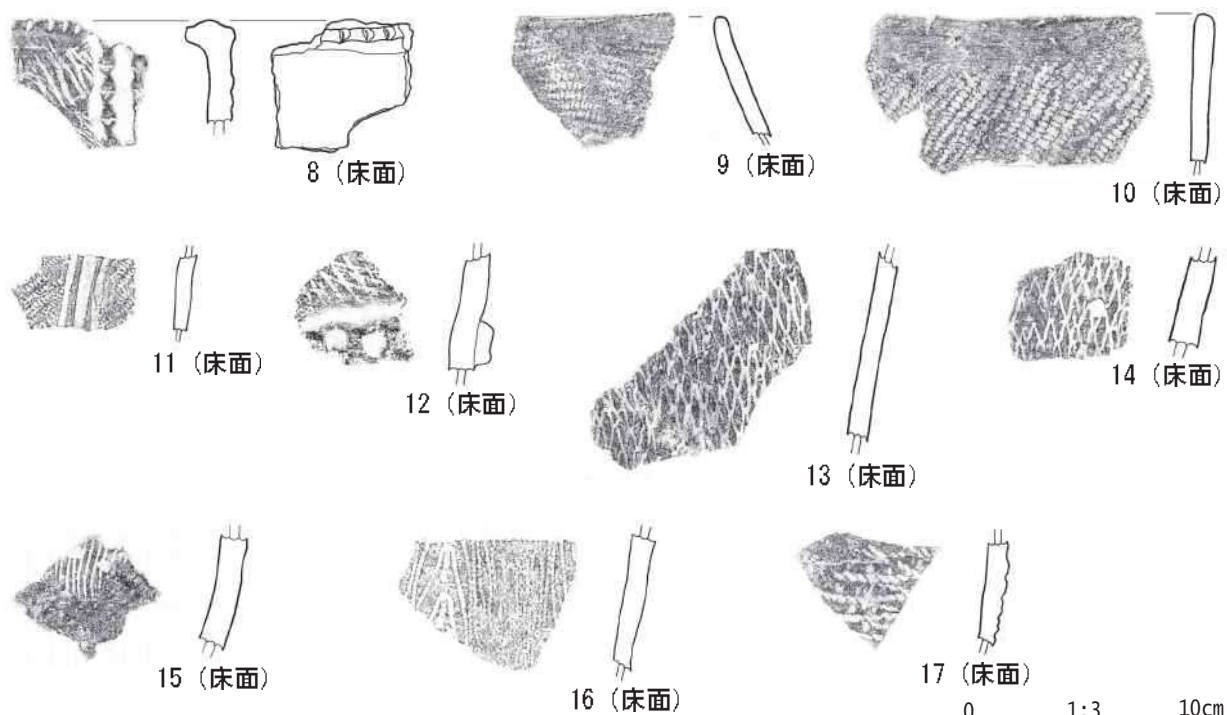
JH41竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層 名		基 本 土		混 入 土		固さ・構造・混入物	
柱穴P 1埋土	a	7.5YR3/4 暗褐色壤土		10YR4/6 褐色砂壤土	2%粉状	やや硬質、しまりあり	
柱穴P 3埋土	a 1	10YR4/6 褐色シルト質壤土		10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	3%粉粒状	やや軟質、しまりややあり、粘性ややあり、木炭粒微量	
	a 2	10YR4/6 褐色シルト質壤土		10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	1%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性ややあり、木炭粉微量	
	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土		10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性ややあり、土器	
	b 1	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土		10YR4/6 褐色シルト質壤土	2%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性あり	
柱穴P 4埋土	b 2	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土		10YR4/6 褐色シルト質壤土	1%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性あり	
	a	7.5YR3/4 暗褐色シルト質壤土		10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、木炭粉	
柱穴P 5埋土	b	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土		10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10%	やや軟質、しまりややあり	
	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土		10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	2%粉状	やや硬質、ややしまりあり、粘性ややあり	
	b	10YR4/6 褐色シルト質壤土		10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	7%粉粒状	やや軟質、しまりあり、粘性ややあり、土器	
柱穴P 6埋土	a	10YR4/6 褐色壤土		10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性やや少	
柱穴P 7埋土	a	10YR4/6 褐色壤土		10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性やや少	
柱穴P 8埋土	a	10YR4/6 褐色壤土		10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性やや少、木炭粉粒1%	
柱穴P 9埋土	b	10YR4/6 褐色壤土		10YR5/8 黄褐色シルト質壤土	7%粉粒状	やや軟質、ややしまり弱、粘性ややあり、木炭微量	

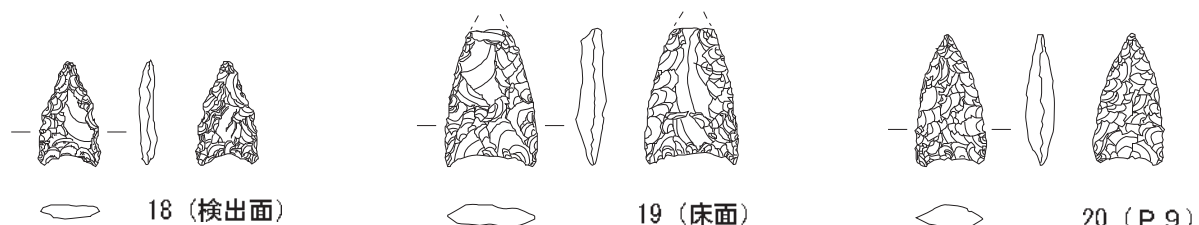
〈埋土〉



〈床面〉



0 1:3 10cm



0 2:3 5cm

図207 JH41竪穴住居跡出土遺物(1)

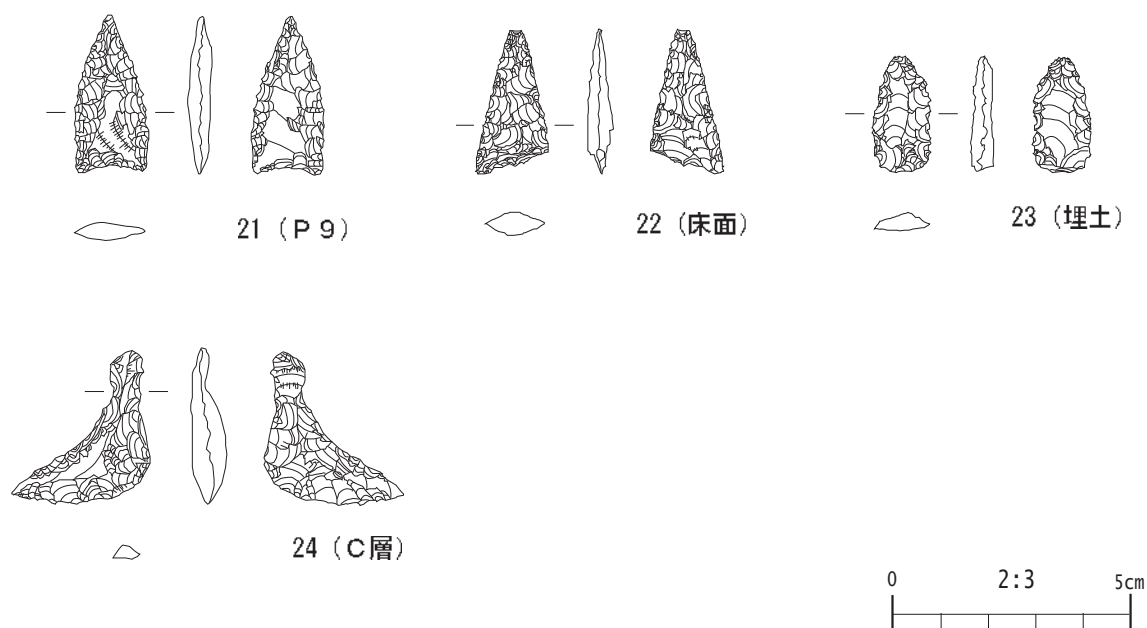


図208 JH41竪穴住居跡出土遺物 (2)

XK19土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土 a	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 10%塊状	やや硬質、しまりあり、土器片多量
土坑埋土 b	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色 5%粉状	やや硬質、しまりあり

JH41竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土 R1	10YR3/2 黒褐色シルト質埴土	7.5YR5/6 明褐色焼土 5%塊状	軟質、疎、塊状構造、攪乱土と混じる
炉跡埋土 R2	7.5YR5/8 明褐色焼土	5YR4/8 赤褐色焼土 2%塊~小塊状	中、中、塊状構造、土器片少量
炉跡埋土 R3	10YR3/4 暗褐色砂質埴土	10YR5/8 黄褐色砂質埴土 5%粒状	軟質、中、塊状構造、石の据え方
炉跡埋土 R4	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土 5%塊状	軟質、疎、塊状構造
炉跡埋土 a	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土	10YR5/8 黄褐色砂質埴土 1%粒状	軟質、中、塊状構造、石の痕跡なし
炉跡埋土 F	5YR4/8 赤褐色焼土		中、中、塊状構造
炉跡埋土 b	10YR7/6 明黄褐色砂質埴土	5YR4/8 赤褐色焼土 10%粒~塊状	固、中、塊状構造、土器の埋めた穴

JH42 竪穴住居跡 (図210)

JH41の西側に位置する。JH41に切られる。平面形は楕円形と推測する。規模は、南北2.5mを測る。埋土は3層に分かれる。

床面から小土坑跡を3基検出している。炉跡、周溝などは出土していない。遺物は縄文土器片が出土しているが、図化できるものはなかった。

時期は、切合いから、縄文時代中期に伴う。

JH43 竪穴住居跡 (図210)

JH42の西に位置する。JH42に切られる。平面形は楕円形と推測する。規模は南北1.7mを測る。埋土は2層である。床面から小土坑跡を2基検出している。炉跡、周溝などは出土していない。

出土遺物 (図209)

1～4は縄文土器である。1～3は口縁部である。1は円形のくぼみをもつ。刺突痕か。2は口唇部に溝が入り、斜縄文で施文される。3は斜縄文で施文される。4の底部は、底面が磨滅し、不明瞭である。

縄文時代中期に伴う。

JH42 JH43竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A	10YR4/6 褐色壤土 10YR4/4 褐色壤土 1%粉状 10YR5/8 黄褐色壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性少々、粉状構造、土器、フレーク、木炭微量
竪穴埋土	B	10YR4/6 褐色壤土 10YR5/8 黄褐色壤土 2%粉状 10YR4/4 褐色壤土 3%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性少々、粉状構造、土器、木炭微量
竪穴埋土	C	10YR4/6 褐色壤土 10YR4/4 褐色壤土 3%粉状	やや硬質、ややしまりあり、粘性少ない、土器、木炭微量、花崗岩白色砂粒2%
竪穴埋土	D	10YR4/6 褐色壤土 10YR4/4 褐色壤土 5%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、木炭、花崗岩白色砂粒5%

JH42竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a	10YR4/6 褐色壤土 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 5%	やや軟質、しまり弱、粘性少ない
柱穴P2埋土	a	10YR4/6 褐色壤土 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%	やや軟質、しまり弱、粘性少ない、木炭粉微量
柱穴P3埋土	a	10YR4/6 褐色壤土 10YR5/8 黄褐色シルト質壤土 1%	やや軟質、しまりやや弱、粘性少、土器片、木炭粉1%、花崗岩礫

JH43竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴Pa埋土	a1	10YR4/4 褐色シルト質壤土	軟質、中・疎、塊状構造
	a2	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	軟質、疎、塊状構造、地山の花崗岩風化礫入る
柱穴Pb埋土	a	10YR4/4 褐色シルト質壤土 10YR5/8 黄褐色砂質壤土 1%粒状	軟質、疎、塊状構造

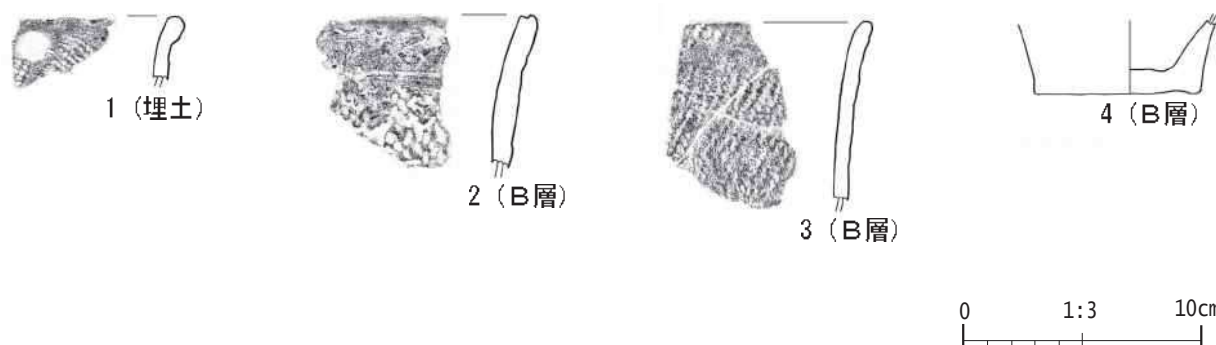


図209 JH43竪穴住居跡出土遺物

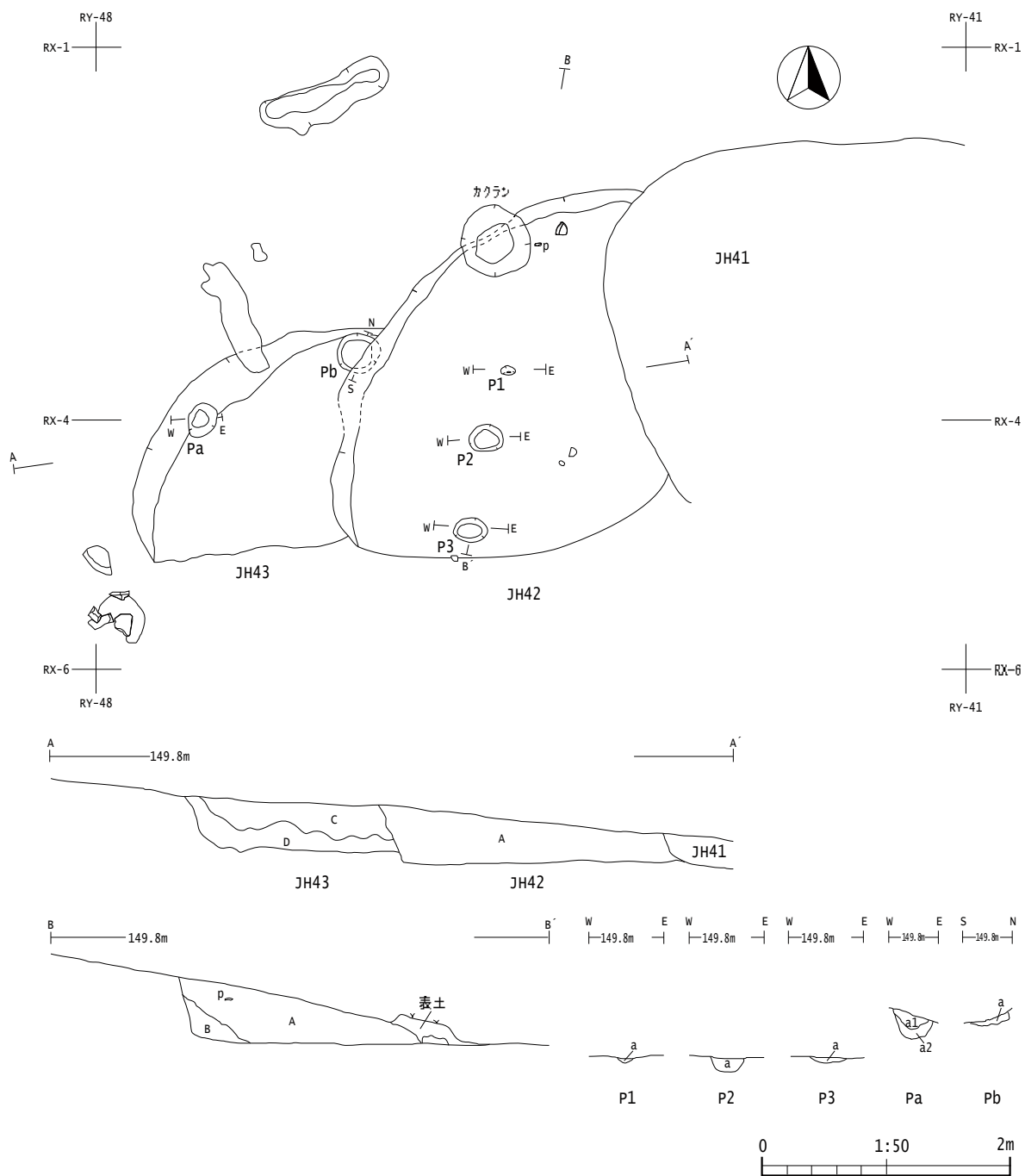


図210 JH42 JH43 竪穴住居跡平・断面

JH44 竪穴住居跡 (図212)

HH02の北に位置する。竪穴の壁は削平され、周溝のみを検出する。平面形は円形と推測される。検出規模は、南北4.0mを測る。埋土は1層である。床面中央、東側で炉跡を検出し、床面西側で小土坑跡が出土している。深い周溝が特徴的である。

炉跡 (図212)

方形の石囲炉である。規模は、東西70cm、南北60cmを測る。Fが焼土層である。楕円形の掘方を確認している。

出土遺物 (図211)

1～8は縄文土器である。

＜検出面＞ 1～8は口縁部である。1は平行沈線間を沈線で連絡する。沈線の上下は無文である。2～4も平行沈線と縄文で施文する。5、6は斜縄文で施文される。

＜床面＞ 7は浅鉢である。平行沈線で区画し、沈線間をS字状沈線で連絡する。沈線の上下は無文である。8は隆沈線で施文される口縁部である。

時期は縄文時代後期前葉に伴う。

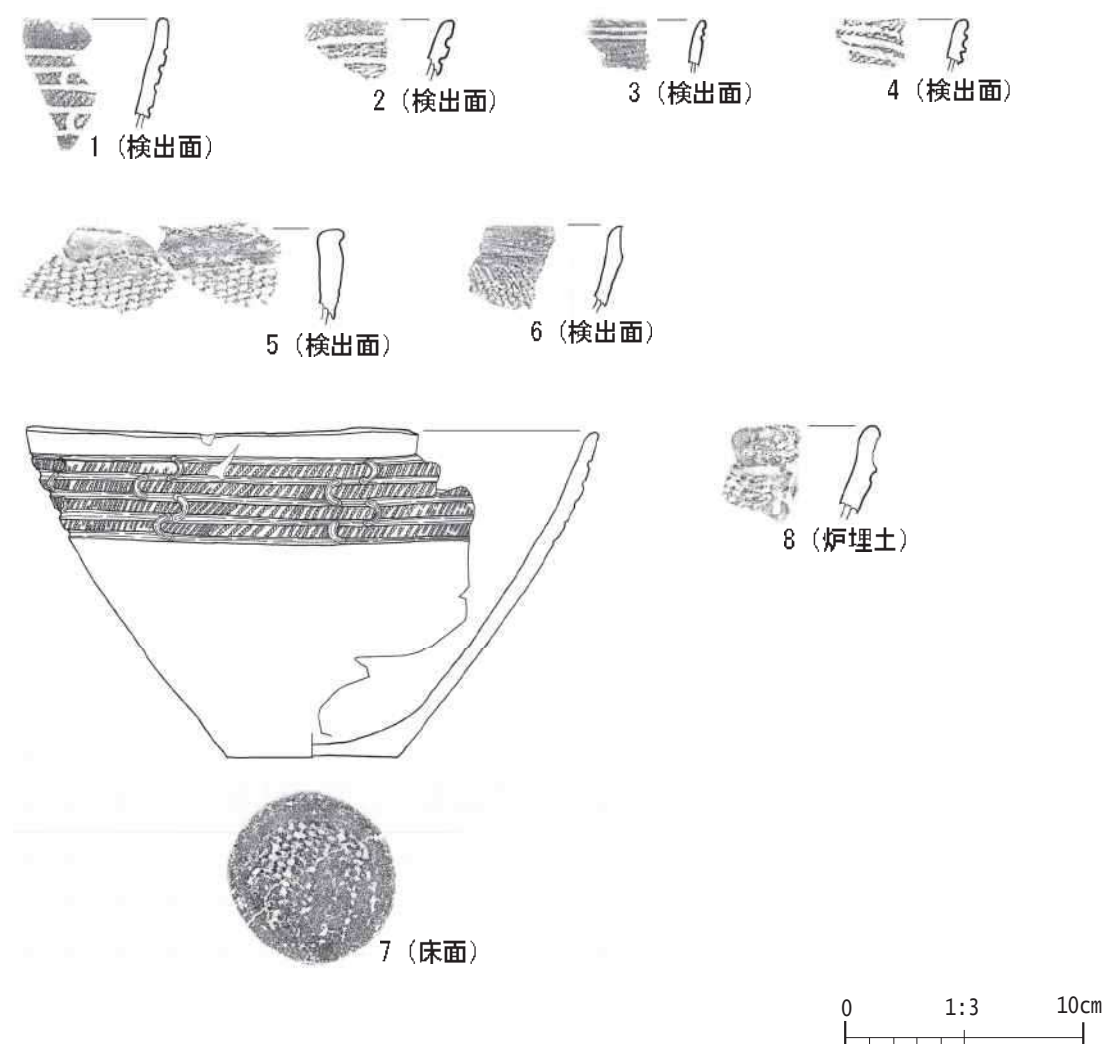


図211 JH44竪穴住居跡出土遺物

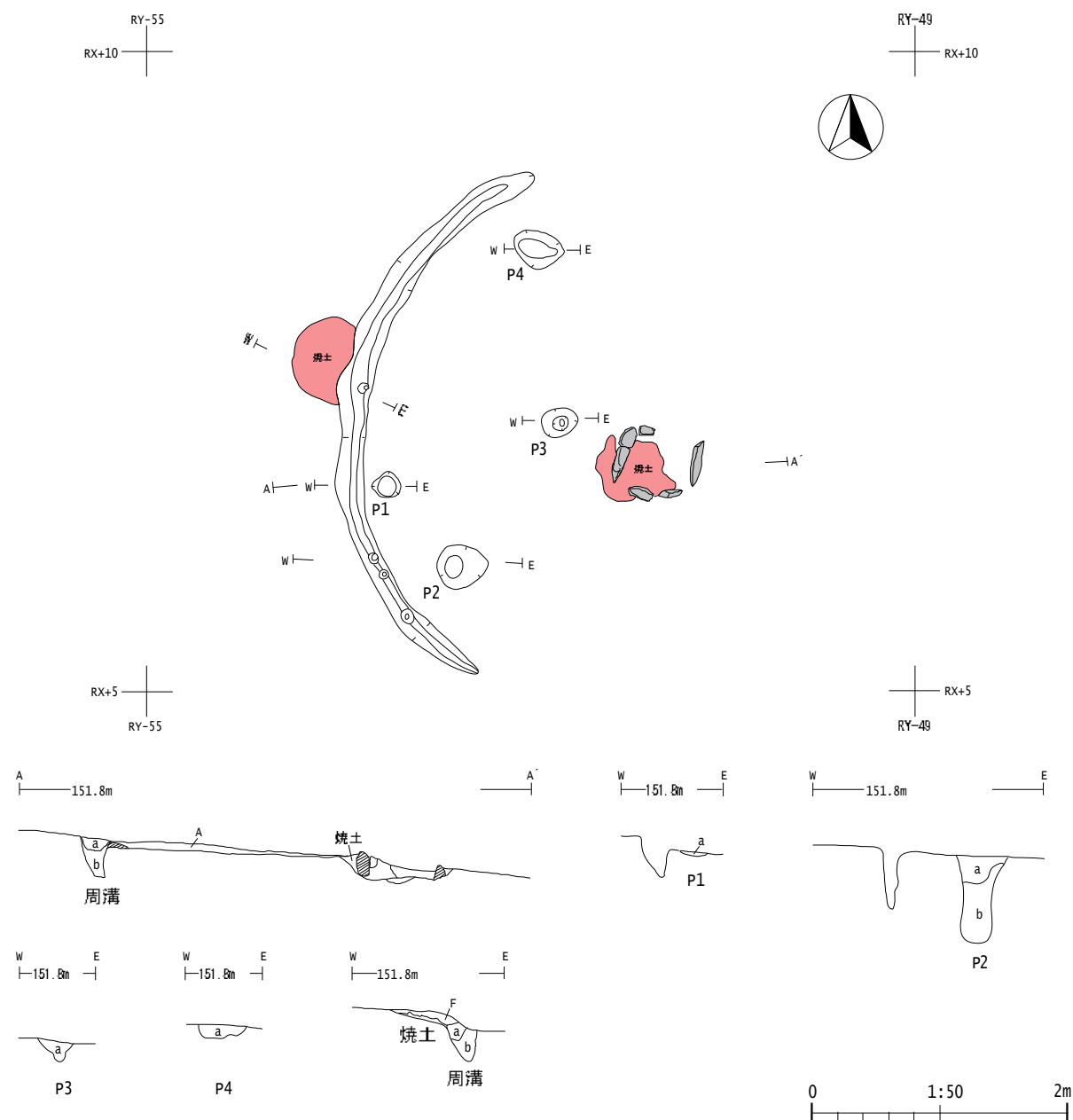


図212 JH44竪穴住居跡平・断面

JH44竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 10% 10YR3/4 暗褐色壤土 1%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり
周溝	a 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性ややあり、木炭粉微量
	b 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 15%粉粒状	やや軟質、ややしまりやや弱、粘性あり、木炭粉1%
焼土	F 5YR4/8 赤褐色シルト質壤土焼土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりややあり、粘性ややあり

JH44竪穴住居跡柱穴埋土土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
柱穴P1埋土	a 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりややあり、粘性あり
柱穴P2埋土	a 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまり弱、粘性あり
	b 10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉粒状	軟質、しまり弱、粘性あり、土器
柱穴P3埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 7%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり
柱穴P4埋土	a 10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 3%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々あり

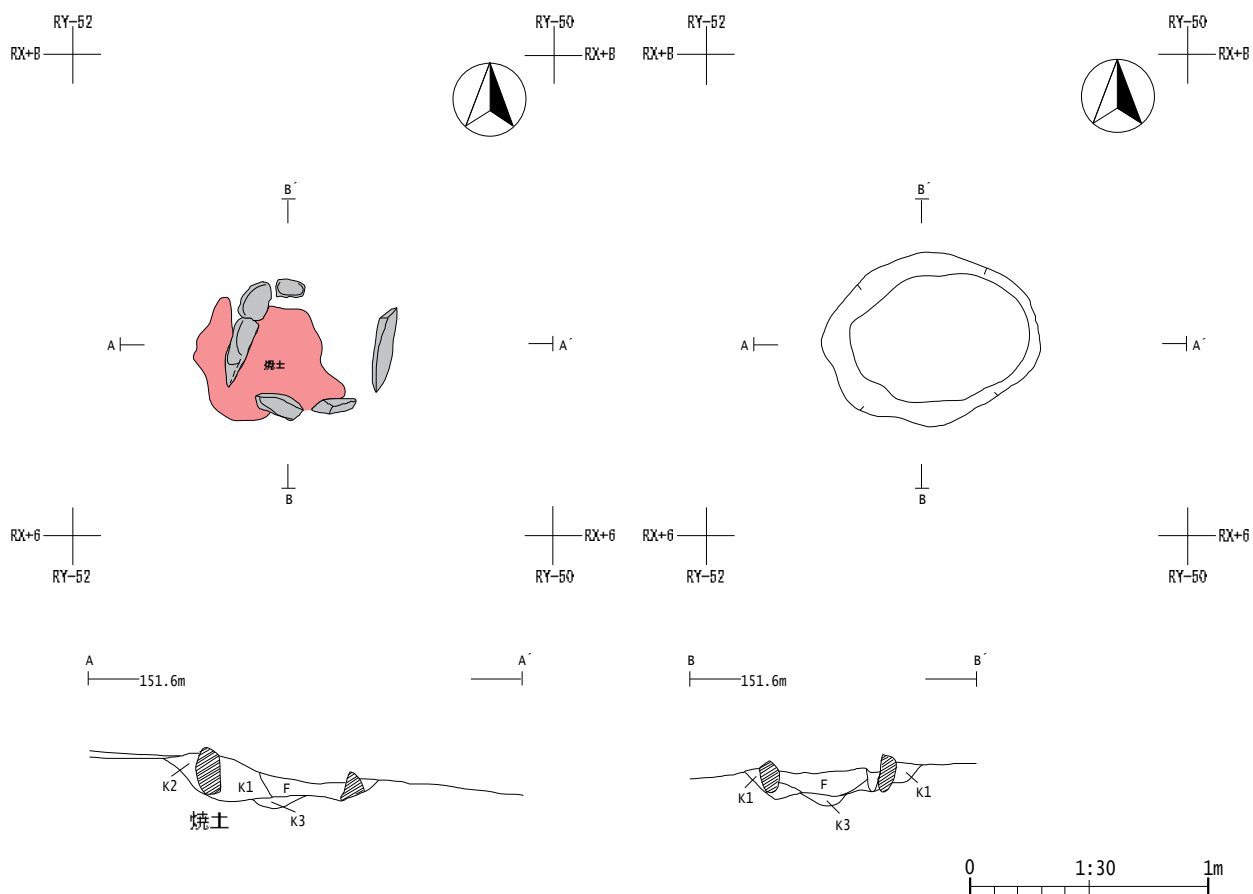


図213 JH44竪穴住居跡炉跡平・断面

JH44竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	K1	10YR4/6 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉状	硬質、しまりあり、粘性あり
炉跡埋土	K2	10YR4/6 褐色壤土	5YR4/8 赤褐色壤土 7%粉粒状	硬質、しまりあり、粘性ややあり
炉跡埋土	K3	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%	やや硬質、しまりややあり、木炭粉微量
炉跡埋土	F	注記なし		

J H 4 5 竪穴住居跡、J K 2 0 土坑跡

J H 4 5 竪穴住居跡（図214）

J H 4 4 の西に位置する。平面形は隅丸方形と思われる。規模は、南北3.5m、東西推計3.0mを測る。埋土は2層に分かれる。床面中央、東寄りに炉を設ける。床面で大形土坑跡（J K 2 0）を検出している。周溝は出土していない。

炉跡（図215）

方形の石囲炉である。規模は、東西70cm、南北40cmを測る。Fがやや固く焼き締まった焼土層である。楕円形の掘方を確認している。

縄文時代中期に伴う。

J K 2 0 土坑跡（図214）

平面形は円形である。フラスコ形の土坑である。規模は、上径0.8m、底径1.0m、深さ1.0mを測る。中心部に石を立てる。埋土は5層に分かれる。a層は石の掘方である。

出土遺物（図216）

1～7は縄文土器である。1は沈線で区画し、縄文と無文域を分ける体部片である。2～7は口縁部である。2～3は平行沈線と縄文で施文する。4は沈線で縄文と無文帯を分ける。5、6は隆沈線で施文する。7は斜縄文で施文される。

8は土製品である。刺突列で飾られる。土偶の脚部か。

9は円形のくぼみを持つ扁平礫である。

時期は縄文時代中期に伴う。

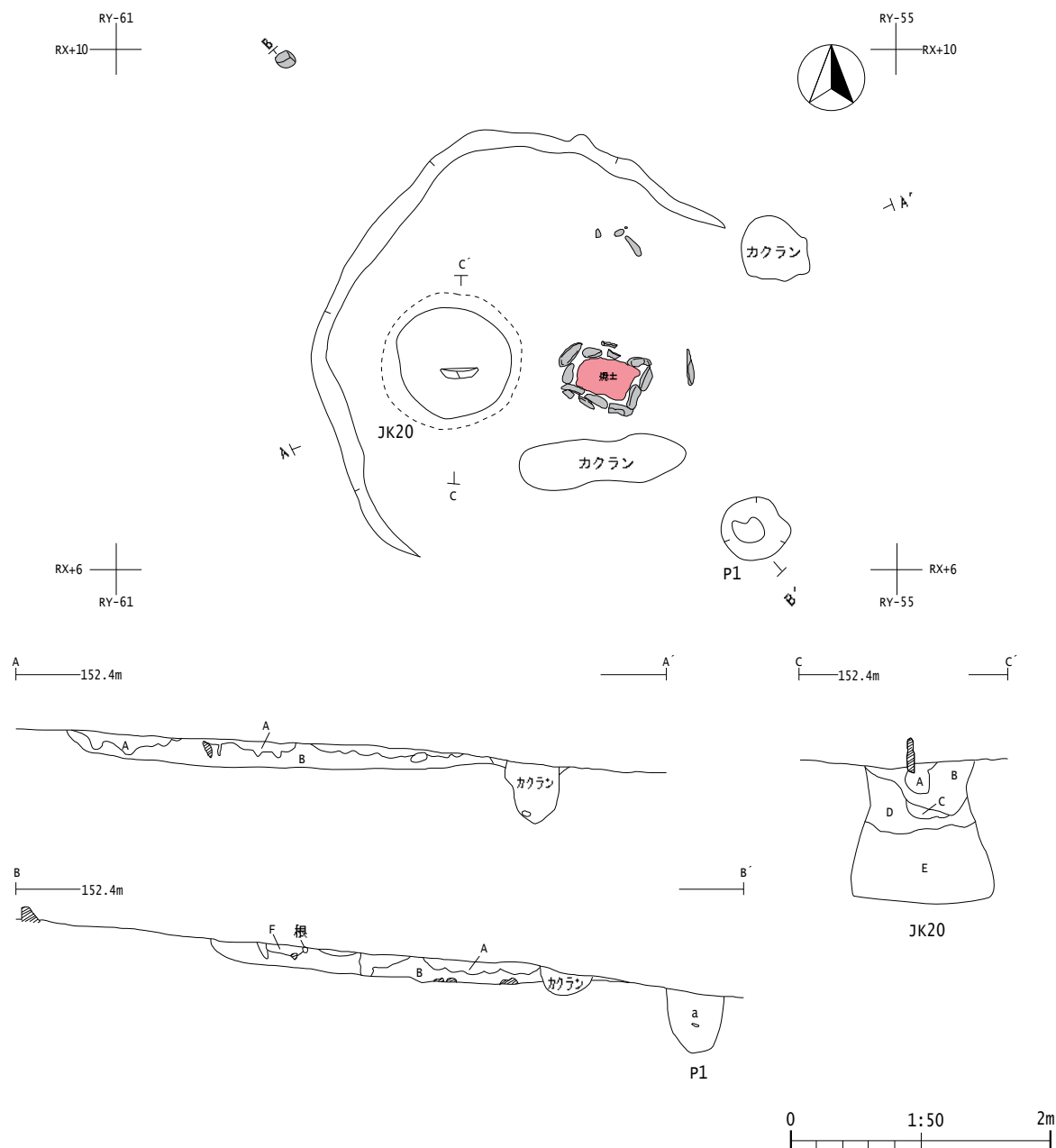


図214 JH45竪穴住居跡 JK20土坑跡平・断面

JH45竪穴住居跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
竪穴埋土	A 10YR4/4 褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土 1%粉状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粒状	やや軟質、ややしまり弱、粘性少
竪穴埋土	B 10YR4/6 褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 3%粉状	やや硬質、ややしまりあり、木炭粒1%、5YR4/6赤褐色壤土を粉状に部分的に1%含む
竪穴埋土	F 10YR4/6 褐色壤土	5YR4/6 赤褐色壤土 3%粉状均一	やや硬質、しまりややあり
P1埋土	a 10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粉粒状	やや軟質、しまり弱、粘性大

JK20土坑跡土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
土坑埋土	A 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性少々、木炭粉
土坑埋土	B 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 10%層状塊状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、土器、木炭粉
土坑埋土	C 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 20%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり
土坑埋土	D 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 3%粒状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、土器1%、木炭粉粒
土坑埋土	E 10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 1%	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり、土器、木炭粉

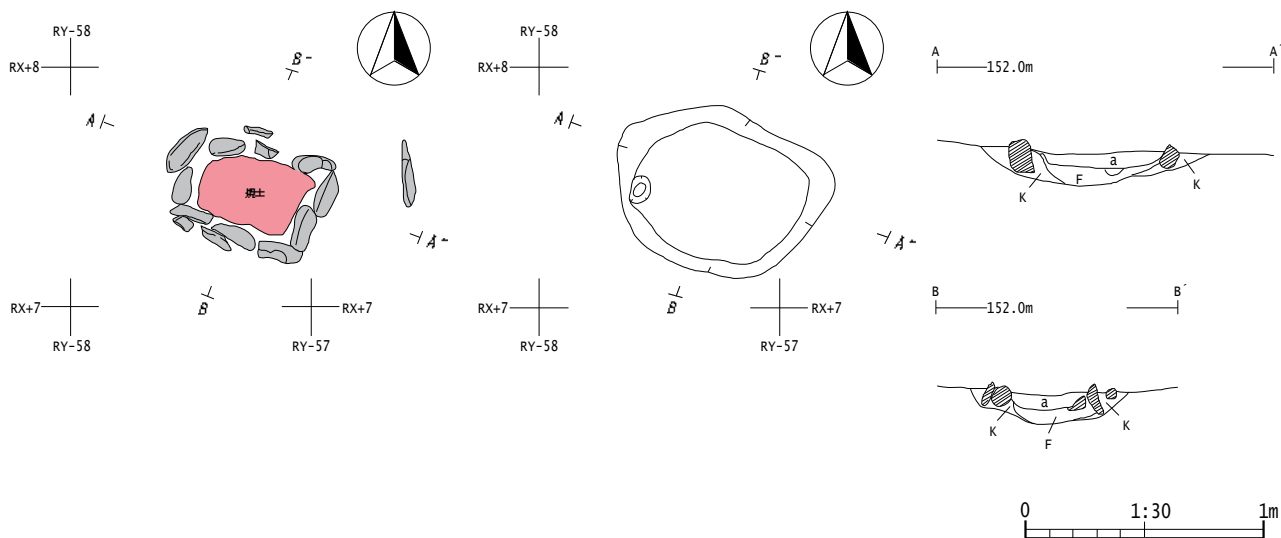


図215 JH45竪穴住居跡炉跡平・断面

JH45竪穴住居跡炉跡土層観察表

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉跡埋土	a	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状 10YR3/4 暗褐色壤土 2%粉状	やや軟質、しまりやや弱、粘性あり
炉跡埋土	F	5YR4/8 赤褐色シルト質壤土焼土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 2%粉状	やや硬質、しまりあり、粘性あり、木炭粉
炉跡埋土	K	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5%粉粒状	やや硬質、しまりややあり、粘性あり

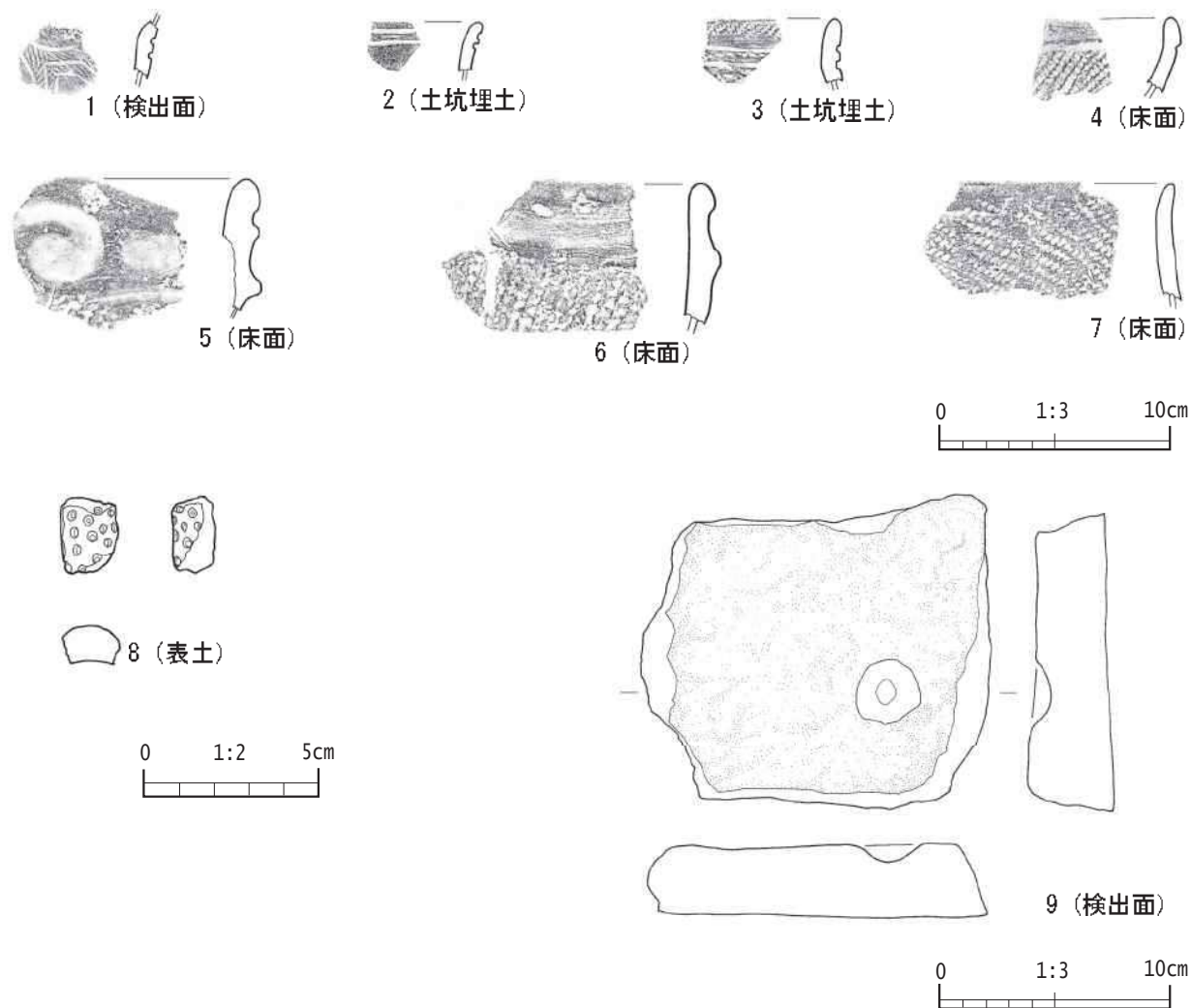


図216 JH45竪穴住居跡出土遺物

遺構外出土遺物＜平成9年度（1997）調査区＞

＜表土＞（図217、218）

1は土師器坏の口縁部である。ロクロ成形し、内黒処理を施す。

2～10は縄文土器である。2は平行沈線で縄文、無文を分け、3は縄文に沈線で区画文を描く。

4～6は沈線で縄文、無文を区画する口縁部である。7、8は隆沈線と縄文で施文する。9は刺突列の下に結節縄文が施される。10は隆沈線で施文された底部である。

平安時代（1）、縄文時代後期（2、3）、縄文時代中期（4～10）に伴う。

11～22は石製品、石器である。

11は石製品である。穿孔され、研磨される。垂飾りの一部かと思われる。12は剥片石器である。凸基の石鏃である。13～15は石斧である。16は楕円礫の端部に刃部を作りだす。17は砥石である。18は石製品の石皿である。19～22は敲打磨石である。23は磨石である。

＜検出面＞（図219～221）

24～36は縄文土器である。24、25は山形口縁である。沈線で区画文を描き、縄文、無文を分ける。26、27は沈線で区画し、縄文、刺突列を伴う。28～31は隆沈線で施文する。32、33は縄文に沈線区画文が入る。34は斜縄文で施文される。35は撚糸文を施す。36は不整なS字状連鎖文で施文される。

縄文時代後期（24、25）、縄文時代中期（26～34）、縄文時代前期（35、36）に伴う。

37は石製品である。孔を穿ち、研磨する。垂飾りの一つと思われる。38～50は礫石器である。38～43は石斧である。44、45は敲打磨石である。46は敲石である。47～49は砥石である。

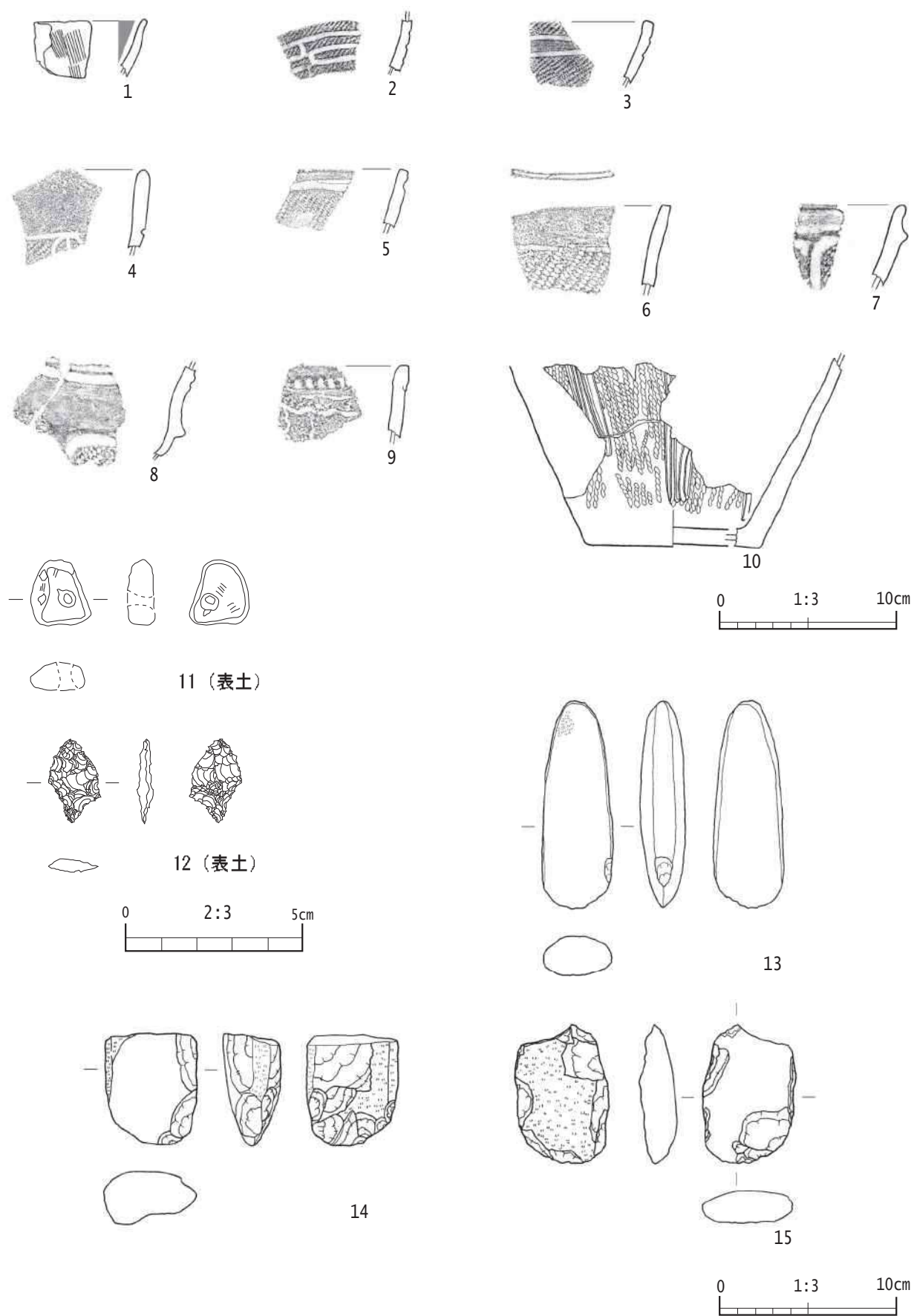


图217 遺構外出土遺物1997 (1) 表土

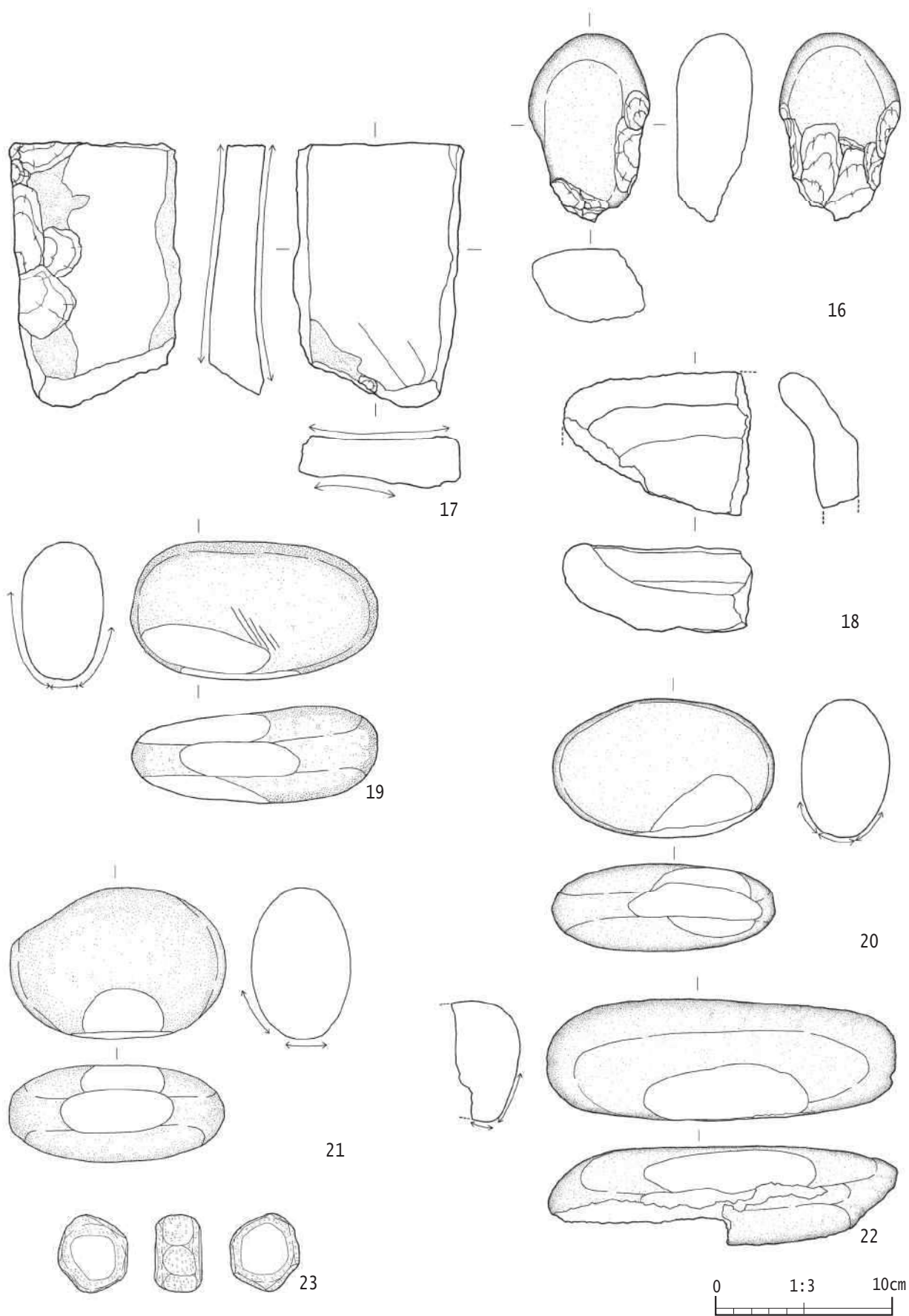


图218 遺構外出土遺物1997 (2) 表土

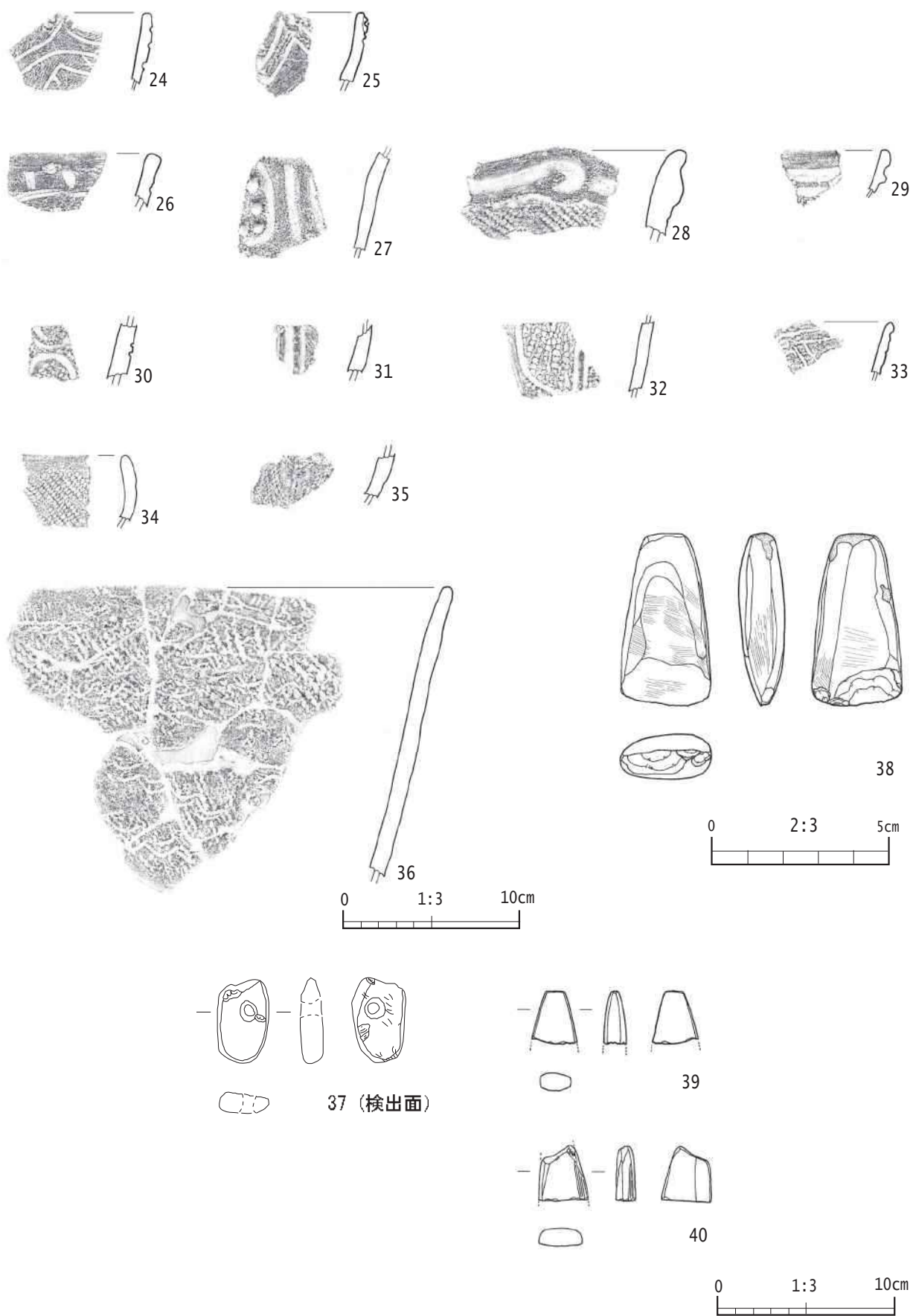


図219 遺構外出土遺物1997 (3) 検出面

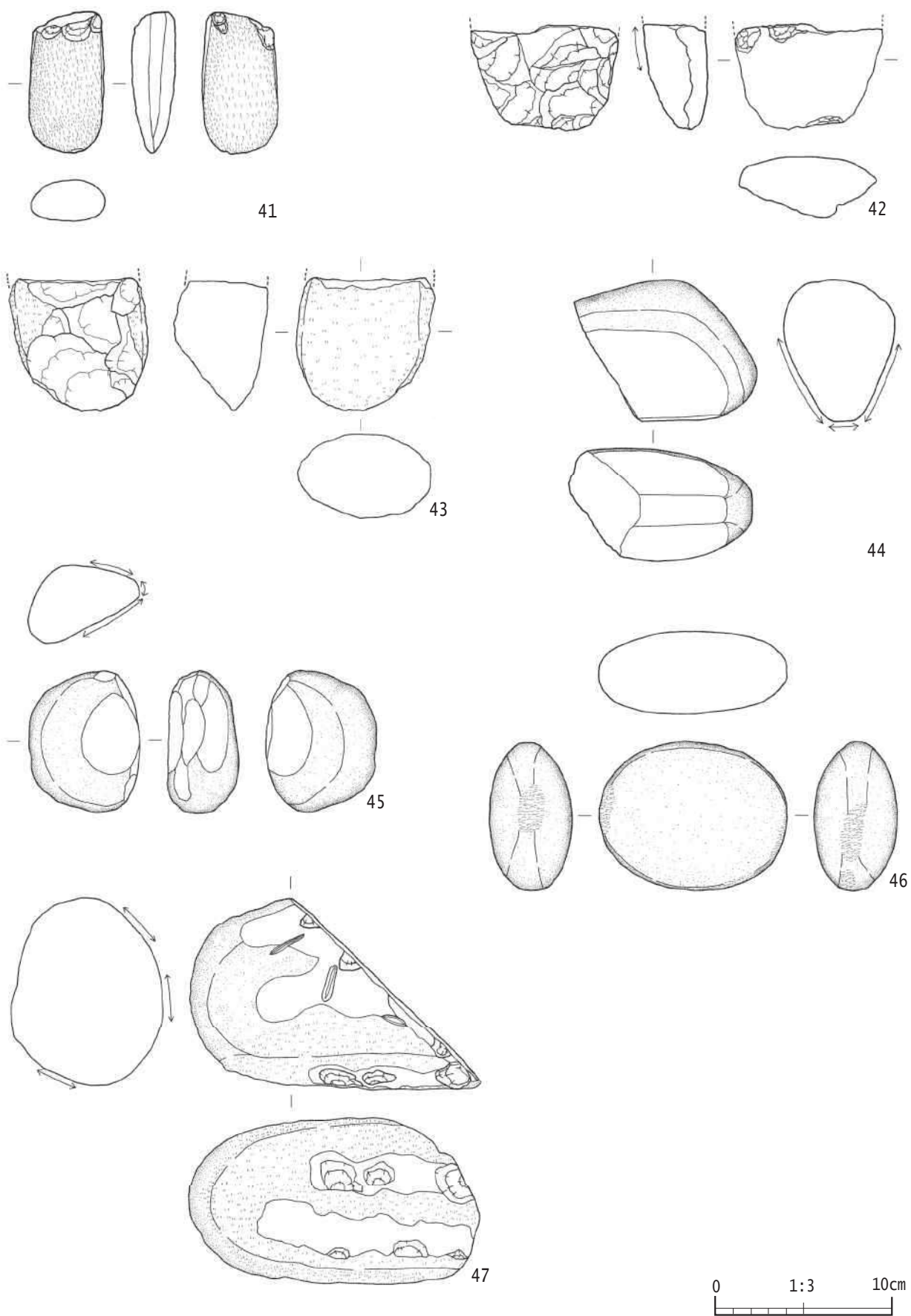
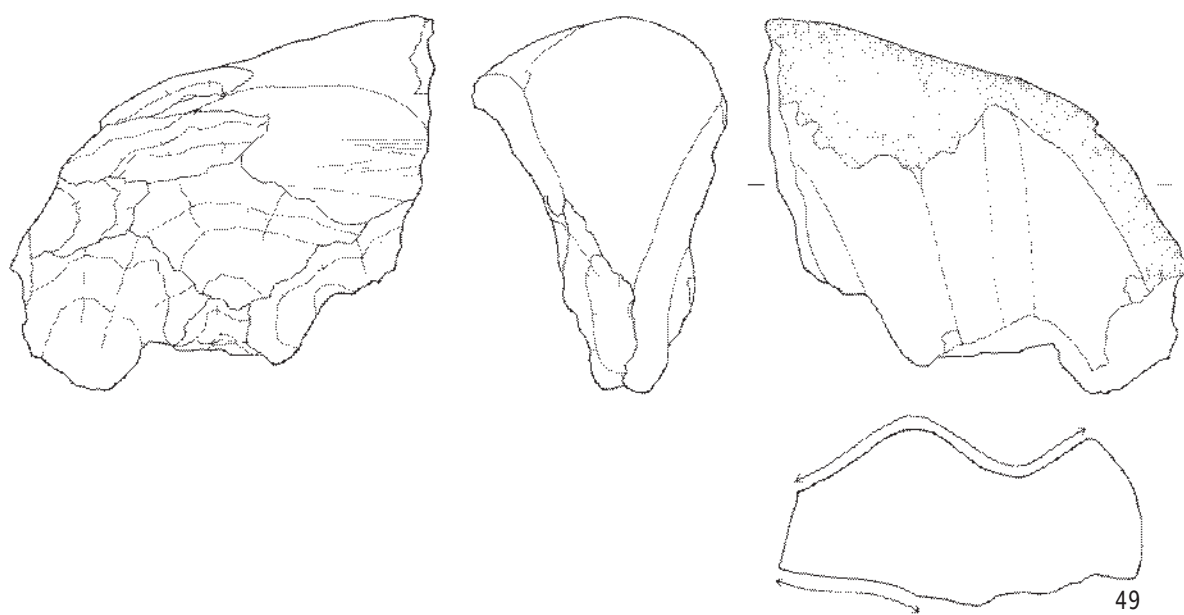


図220 遺構外出土遺物1997 (4) 検出面



48



49

0 1:3 10cm

図221 遺構外出土遺物1997 (5) 検出面

4 調査のまとめ

4-1 平安時代の遺構

平安時代の住居跡は5棟確認されている。すべて尾根の西側、平成9年度の調査区から出土している。重複はなく、出土土器などから同時期の竪穴と思われる。

竪穴住居跡の構造は、壁にカマドを設け、床面に大きめの土坑を伴う。市内当該期の竪穴の調査例では、竪穴の内外に鍛冶炉のような炉跡を伴う例が多いが、今回の調査では確認されていない。出土遺物は土師器の甕が主体をなす。器形は口縁部が短めで、外反する。底部の張出しは弱い。土師器坏は1点のみ出土、内黒処理。体部はわずかに内湾し、口縁部は外反気味である。須恵器は欠片も出土していない。

鉄製品は釣り針、刀子、鉄鏃などが出土している。前述のように鍛冶炉などが確認されておらず、羽口、鉄滓なども出土していない。この製鉄関連の遺構、遺物を欠いていることや、住居内に貝層が形成されていたことなどが特徴として挙げられる。このことは集落の「漁業」的性格を表しているものと推測されるが、土師器坏の数が極端に少なく、須恵器がまったく出土していないことと関連するの否かは不明である。

集落の時期は、土師器の形状からすると、「磯鶏館山1995」のⅢ類、「赤前Ⅲ1999」のⅢ類に相当し、9世紀後半から10世紀代に伴うものと思われる。

4-2 縄文時代の遺構

縄文時代の竪穴住居跡は46棟検出している。

縄文時代後期

西側の平成9年の調査区で1棟出土している。竪穴の円形の明瞭な形状と深い周溝が特徴的である。縄文時代後期前葉に伴う。

縄文時代後期の遺構、遺物は、「高浜Ⅳ地神遺跡2006」、「大又沢Ⅱ遺跡2003」などで報告されている。

縄文時代中期

集落の主体をなし、調査区の中央（平成8年から平成9年の調査区）に集中する。出土土器は、大木8b、大木9、大木10に伴うものが大半を占め、縄文時代中期後半の集落であることが判明した。

縄文時代中期の遺構は、市内に広く分布しており、周辺では「崎山貝塚」、「早稲枋Ⅱ遺跡」などで集落が報告されている。

縄文時代前期

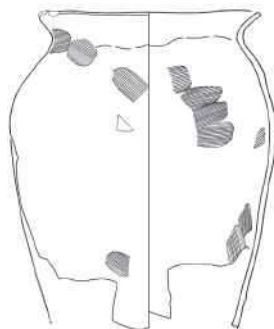
調査区中央（平成8年度調査区）で4棟（JH28、JH21、JH09、JH07）検出している。そのなかでもJH28の竪穴の方形の明瞭な形状が特徴的である。出土土器は大木1～4に伴い、前期前半に伴う。

縄文時代前期の遺構は、重茂半島の「千鶏Ⅳ遺跡1999」で集落跡、遺物包含層が報告されている。

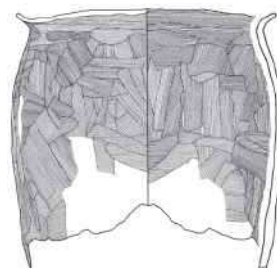
HH01



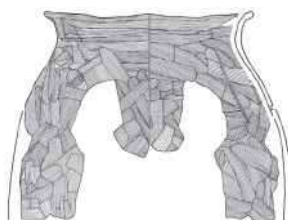
148-19



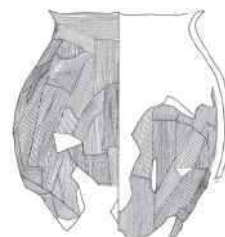
149-21



149-22



149-23

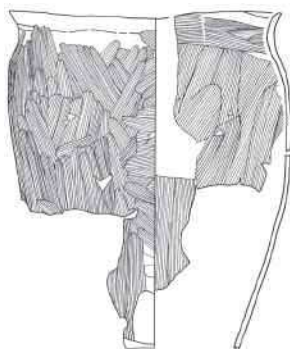


149-24

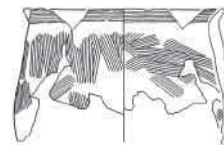
HH02



157-12



157-13



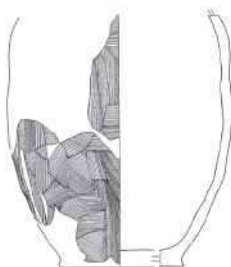
158-16

HH03



162-4

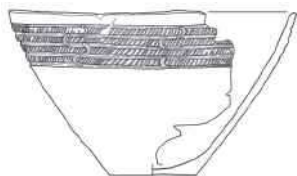
HH05



169-3

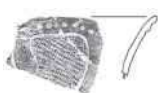
挿図1 坏・土師器

JH44



211-7

JH05



22-2

JH18



69-1

JH22



97-65

JH23



103-21



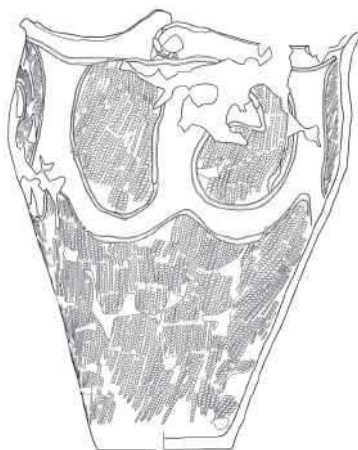
103-1

JH24



107-2

JX01

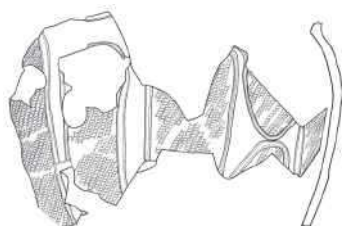


88-40



89-41

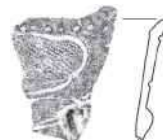
JH12



37-1



37-2



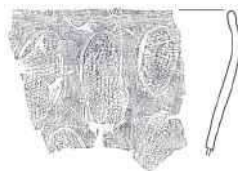
37-7

JH34



182-24

JH33



177-1

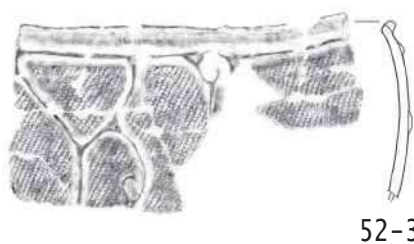
JH38



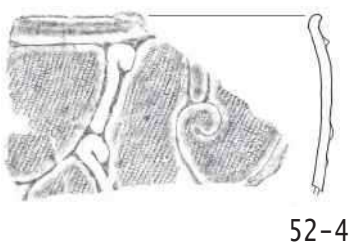
196-3

挿図2 縄文土器(1)

JH30

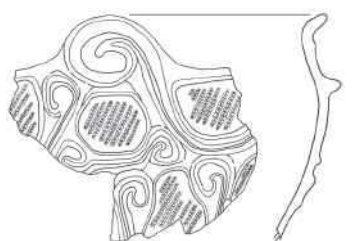


52-3



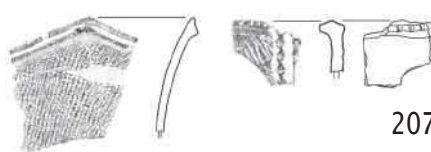
52-4

JH17



65-2

JH41



207-1

207-8

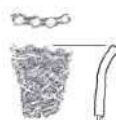
JH28



117-20



117-12



117-9



117-13

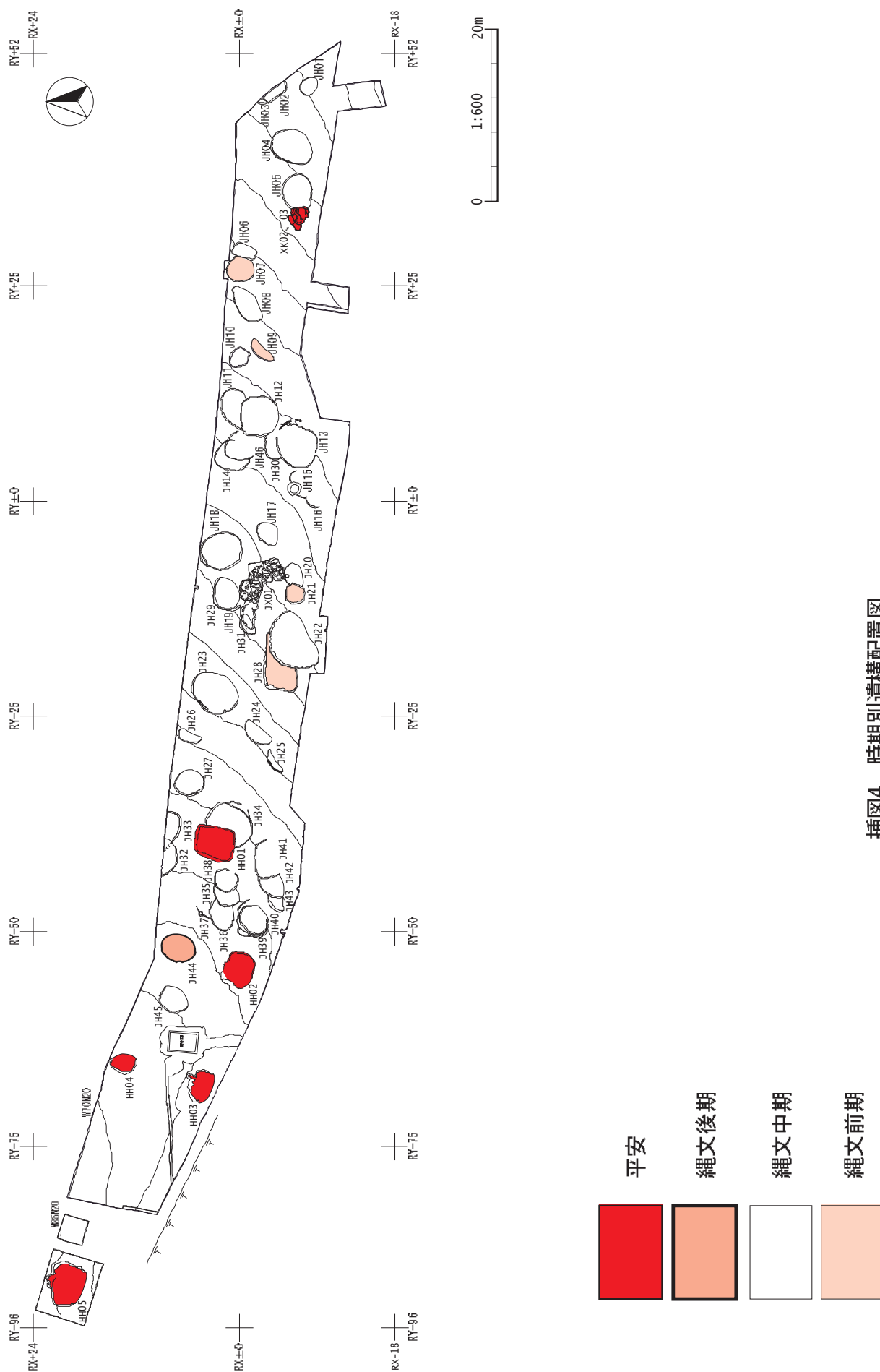


118-32

挿図3 縄文土器 (2)

参考文献

- 「岩手の土器」(岩手県立博物館 1982)
- 「磯崎館山遺跡」(宮古報文43 1995)
- 「崎山貝塚一範 図解調査報告書」(宮古報文44 1995)
- 「花輪壺沢遺跡」(宮古報文34 1992)
- 「赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡―水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―」(宮古報文53 1999)
- 「千鶴Ⅳ遺跡-水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-」(宮古報文54 1999)
- 「大又沢Ⅱ遺跡―東北電力宮古へりボート移設工事関係発掘調査報告書―」(宮古報文59 2003)
- 「高浜Ⅵ地神遺跡―高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書―」(宮古報文65 2006)
- 「近内館」(宮古報文71 2007)



自然科学分析

— H H O 1 豎穴住居跡出土遺物 —

1. 試料

試料は No.1 ～ 4 の 4 点で、平安時代（9 世紀）のものとされる W40 - 0 住居址から検出されたものである。このうち No.1 ～ 3 は住居を構築する際に床に貼った土の中から検出されたものの一部であるが、その性格は明らかにされていない。No.4 は床面から検出されたもので、住居の構築材の可能性もある。

2. 方法

試料を室内で自然乾燥させたのち木口・柾目・板目の 3 断面を作製、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡（無蒸着、加速電圧 10Kv）で観察・同定した。同時に電子顕微鏡写真図版（図版 1）も作製した。良好な破断面が得られず図版の仕上がりが悪いものがあることをお断りしておく。なお、電子顕微鏡観察に当たっては（株）ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石試験分析センターのご協力をいただいた。記して感謝致します。

3. 結果

試料の観察が十分できなかったため確実な同定ができず類似種としたものもあったが、以下の 3Taxa（分類群、ここでは属と節という異なった階級の分類単位を総称している）に固定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、各 Taxa の科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生動物 木本Ⅰ・Ⅱ」（1989）にしたがい、一般的性質などについては「木の辞典 第 1 巻～第 17 巻」（1979～1982）も参考にした。

・ヤナギ属類似種（cf. *Salix* sp.）ヤナギ科 No.4

散孔材で、道管は年輪全体にはほぼ一様に分布する。道管は横断面では楕円形、単独および 2 ～ 6 個が複合、単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列。放射組織は単列、10 ～ 15 細胞高、異性のようであるが確実ではない。年輪界は不明瞭。

ヤナギ属は国内に約 35 種が知られ、種間雑種も多く分類の困難な植物群である。属としては全国に分布し、時に植栽される落葉低木または高木である。ネコヤナギ（*Salix gracilistyla*）などのよう水辺に生育する種が多いが、バッコヤナギ（*S. bakko*）、ノヤナギ（*S. subopposita*）などのように乾燥した立地に生育するものや、岩場に生育するものもある。材は一般に軽軟で、割裂性が大きく、保存性は低い。大径木が少ないため小細工物にする程度で、特に重要な用途は知られていない。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* sp.）

ブナ科 No.1,2

環孔材で孔圏部は 1 ～ 2 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は横断面では円形～楕円形、小道管は横断面では多角形、ともに単独。単穿孔をもち、放射組織は同性、単列、1 ～ 20 細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

コナラ節はコナラ亜属（落葉ナラ類）の中で果実（いわゆるドングリ）が 1 年目に熟するグループで、カシワ（*Quercus dentata*）・ミズナラ（*Q. crispula*）・コナラ（*Q. serrata*）・ナラガシワ（*Q. aliena*）といくつかの変・品種を含む。ミズナラ・カシワ・コナラは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州（岩手・秋田県以南）・四国・九州に分布する。このうち平野部で普通に見られるのはコナラである。コナラは樹高 20m になる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・樽材などの用途が知られ、薪炭材としてはクヌギ（*Q. acutissima*）に次ぐ優良材である。

・エゴノキ属類似種 (Styrax sp.) エゴノキ科 No.3

散孔材で、横断面では楕円形、2～4個が複合または単独で配列、年輪界付近で管径を減ずる。道管は階段穿孔をもち、段 (bar) 数は少ない。放射組織は異性Ⅱ型、1～3細胞幅。年輪界は不明瞭。

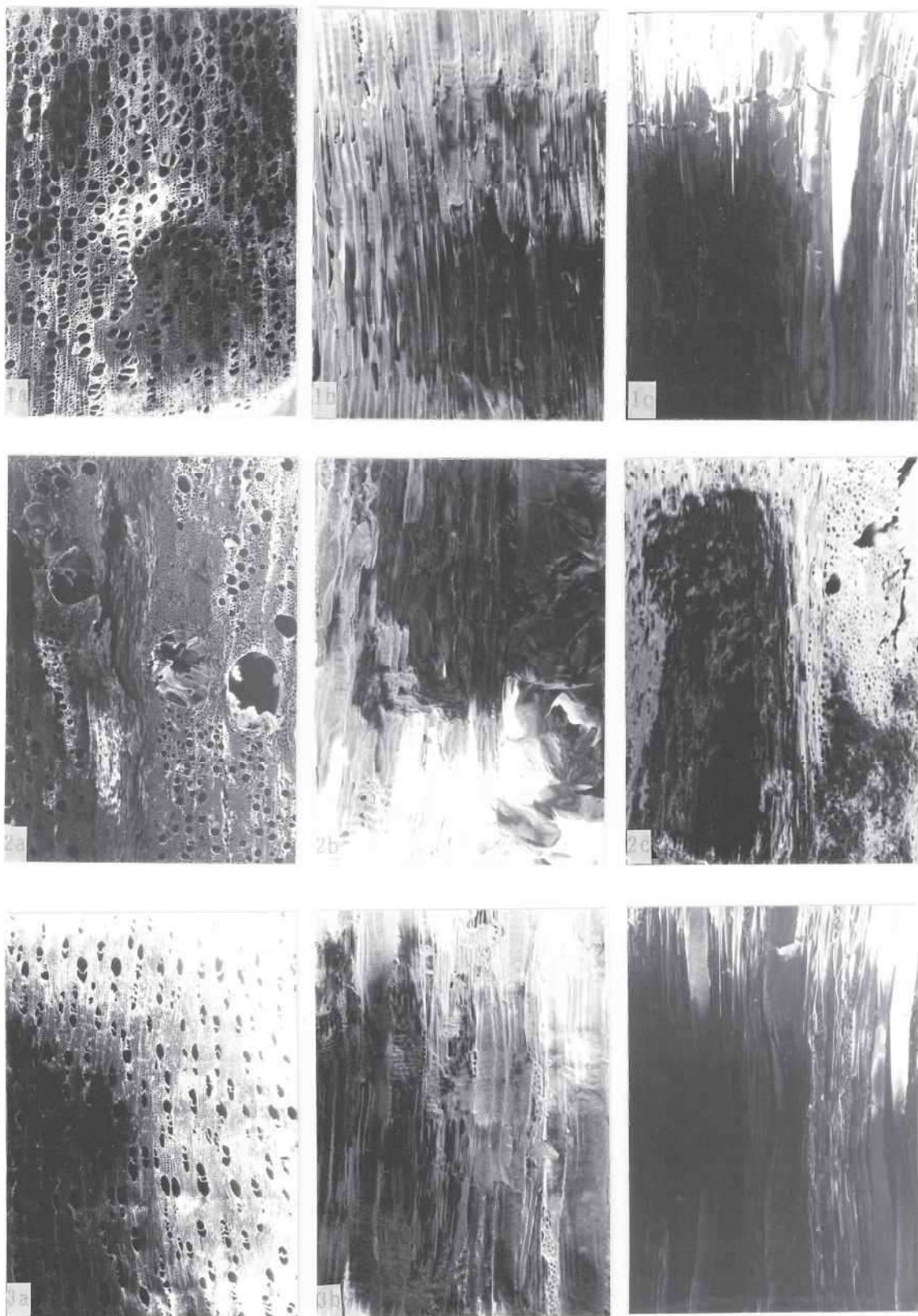
エゴノキ属にはエゴノキ (Styrax japonica)、ハクウンボク (S. obassia)、コハクウンボク (S. shiraihana) の3種がある。エゴノキは北海道 (渡島)・本州・四国・九州・琉球に、ハクウンボクは北海道 (北見・石狩以南)・本州・四国・九州に、コハクウンボクは本州 (栃木県以南)・四国・九州に分布する落葉高木～低木である。材はやや重硬で割裂しにくく、加工はやや容易、旋作・器具・薪炭材などに用いられる。

引用文献

平井 信二 1979～1982 「木の事典 第1巻～第17巻」, かなえ書房.

佐竹 義輔・原 寛・亘理 俊次・富成 忠夫 (編) 1989 「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」

平凡社, 321,305pp.



図版1 1. ヤナギ属類似種 No.4 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 No.1
3. エゴノキ属類似種 No.3 a:木口 x40 b:柁目 x100 c:板目 x100

はじめに

早稲栃遺跡は宮古市街地の北約3km、早稲栃地区の山麓緩斜面に張り出す尾根上に立地する。調査地区の標高は140m前後で東方約2kmで海岸線に至る。これまでの調査で、縄文時代中期と平安時代の集落が確認されている。今回分析を行う試料は、10世紀前半と考えられる住居跡の埋土中から検出された、廃棄貝層中の種子である。この貝層はムラサキインコやイガイを主とする小規模なもので、住居跡が廃絶された後の埋没初期に廃棄されたものであると考えられている。今回は、貝層中の種実の種類を知り、当時の植物利用に関する情報を得るため、種実同定を実施する。

1. 試料

試料は、貝層中から浮遊選別によって得られた試料64点である。試料1点あたり、十数個から百個程度の炭化物？が入っている。ただし、同一試料で複数袋あるものが数点存在するため、試料数は51であった。試料の詳細は結果と合わせて表1に示す。

2. 分析方法

双眼実体顕微鏡下で、その形態的特徴から種類を同定する。

3. 結果

結果を表1に示す。試料中のほとんどは微細な材片や菌核、土塊などで種実は非常に少なかった。この中でも菌核は、1mm程度の球体やこれらが互いに癒着した集合体であるが、これが各試料とも多くみられた。菌核は胞子が休眠状態にある時に作られるもので、種実のように見えるが、土壌中にはよく見られるものである。以下に検出された種類の形態的特徴を述べる。

・マツ属 (Pinus) マツ科

種子が検出された。種子は大きさ5mm程度。倒卵形で灰色。表面は厚くて堅い。

・イネ (Oryza sativa L.) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさ4mm程度。楕円形であるが、胚の痕跡部分が欠けたように見える。表面には数本の筋がみられる。

・アワ - ヒエ (Setaria itarica Beauv. - Echinochloa crus - galli Beauv.) イネ科

炭化した胚乳が検出された。円盤状で大きさは1mm程度。一端に「へそ」がある。

・タデ属 (Polygonum)

果実が検出された。大きさは2mm程度。3稜形で黒色。表面は薄くて堅く、光沢がある。

・アカザ科 (Chenopodiaceae)

種子が検出された。黒色。側面観は円形で、上面観は凸レンズ形を呈している。大きさは1mm程度。側面に「へそ」がある。表面は細胞が亀甲状に配列している構造がみられる。

・ナデシコ科 (Caryophyllaceae)

種子が検出された。黒色で、大きさは1mm程度。表面には荒い突起が密に配列している。

・タケニグサ (Macleaya cordata (Willd.) R.Br.) ケシ科タケニグサ属

種子が検出された。淡黄色で楕円形。大きさは1mm程度。表面には丸い窪みが密に配列する。表面は薄くて堅い。

- ・ エノキグサ (Acalypha australis L.) トウダイグサ科エノキグサ属

種子が検出された。卵型で大きさは1mm程度。先端部はやや尖る。表面は薄くて堅く、細かな窪みが配列し、ざらつく。

4. 考察

同定の結果、全体的に種実遺体は少なかった。種実以外の微細な炭化材や土壌塊も検出されたが、菌核も多かった。菌核は土壌中に普遍的に見られるものであるから、当時の環境の指標にはならない。

検出された種類のうち、栽培に関連するのは、アワ・ヒエとイネである。両方とも炭化していることから、火熱に遭い、食用には不適になったことから破棄されたなどの理由が考えられる。

いずれも各地の遺跡から多くの出土例が報告されている。

一方、マツ属、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、タケニグサ、エノキグサは炭化していないことから、周辺植生に由来するものと考えられ、埋積が進む中で入り込んだものと考えられる。このうち、マツ属をのぞくものは草本類である。これらは、人里などに開けた草地を作るいわゆる「人里植物」にあたる種か、あるいは人里植物の種を多く含む分類群である。したがって、集落周辺に生育している状況とは調和的であり、集落内にこれらが生育していたものと考えられる。

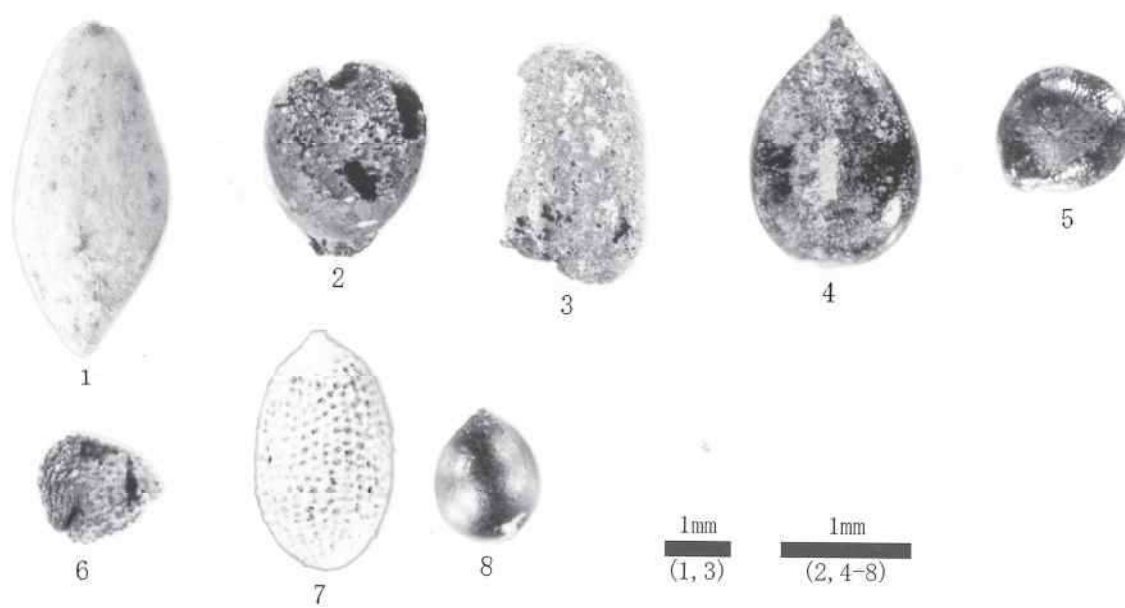
マツ属は、伐採や災害などで植生が破壊されたとき、先駆的に進入して生育する種類で、人里近くなどにしばしば二次林を形成する。今回検出されたマツ属も、遺跡付近に生育していたことが考えられ、周辺にはマツ二次林が存在していた可能性がある。

表1 種実同定結果

番号	試料名	同定結果(個数)
No. 6	Ⅲ区北東コーナーカクラン土中	-
No. 7	北東面カクラン土ロ	アカザ科(6)
No. 8	北東北カクラン土ロ	-
No. 9	貝層表直クリーニング土	マツ属(1)
		タデ属(1)
		アカザ科(2)
		タケニグサ(1)
No. 10	貝層 1層目	タケニグサ(1)
No. 11	貝層 2層目	-
No. 13	貝層 4層目	ナデシコ科(1)
No. 14	貝層 4層目ベルト分	-
No. 15	貝層 5層目	-
No. 20	貝層 8層目	-
No. 23	貝層 9層目	-
No. 27	貝層 10層目	タケニグサ(2)
No. 28	貝層 10層目	-
No. 29	貝層 11層目	-
No. 30	貝層 11層目	-
No. 31	貝層 11層目	-
No. 32	貝層 11層目	-
No. 34	貝層 11a層目	-
No. 35	貝層 11a層目	-
No. 37	貝層 12層目	-
No. 38	貝層 13層	-
No. 40	貝層 15層	-
No. 44	貝層 17層	-
No. 50	貝層 20層	-
No. 51	貝層 20層目	-
No. 52	貝層 20層	-
No. 53	貝層 21層目	-
No. 54	貝層 21層	-
No. 55	貝層 21層目	-
No. 56	貝層 22層	アワ・ヒエ(2)
No. 57	貝層 22層目	-
No. 59	貝層 23層目	-
No. 60	貝層 23層	イネ(1)
No. 61	貝層 24層目	-
No. 62	貝層 24層	-
No. 63	貝層 24層目	アワ・ヒエ(1)
No. 64	貝層 24層	アワ・ヒエ(3)
No. 65	貝層 25層目	エノキグサ(1)
No. 66	貝層 25層	-
No. 67	貝層 25層目	アワ・ヒエ(1)
		アカザ科(1)
No. 68	貝層 25層	イネ(1)
		アワ・ヒエ(1)
No. 69	貝層 26層目(AⅡ層)	アワ・ヒエ(1)
		タデ属(1)
No. 70	貝層 26層(AⅡ層)	アカザ科(2)
No. 71	貝層27層	-

※種実以外の炭化不能炭化物片(材片、菌類など)は計数していない。

図版 1 種実遺体



- 1. マツ属(試料番号9)
- 3. イネ(試料番号68)
- 5. アカザ科(試料番号7)
- 7. タケニグサ(試料番号27)

- 2. アワヒエ(試料番号64)
- 4. タデ属(試料番号9)
- 6. ナデシコ科(試料番号13)
- 8. エノキグサ(試料番号64)

写 真 图 版



平成7年度（1995）調査区（東から）



J H 0 1 竪穴住居跡

写真図版 2



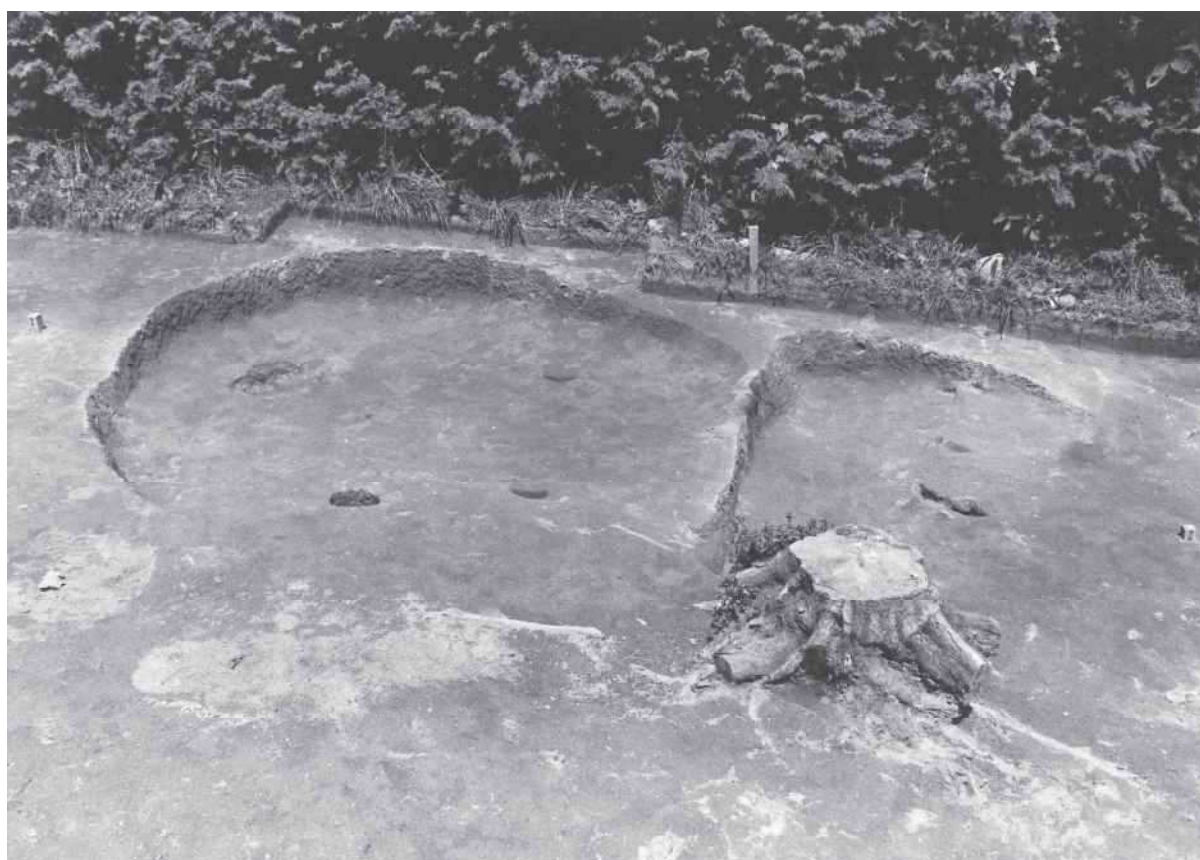
JH02, 03 竪穴住居跡



JH04 竪穴住居跡



J H 0 5 豎穴住居跡



J H 0 6, 0 7 豎穴住居跡

写真図版 4



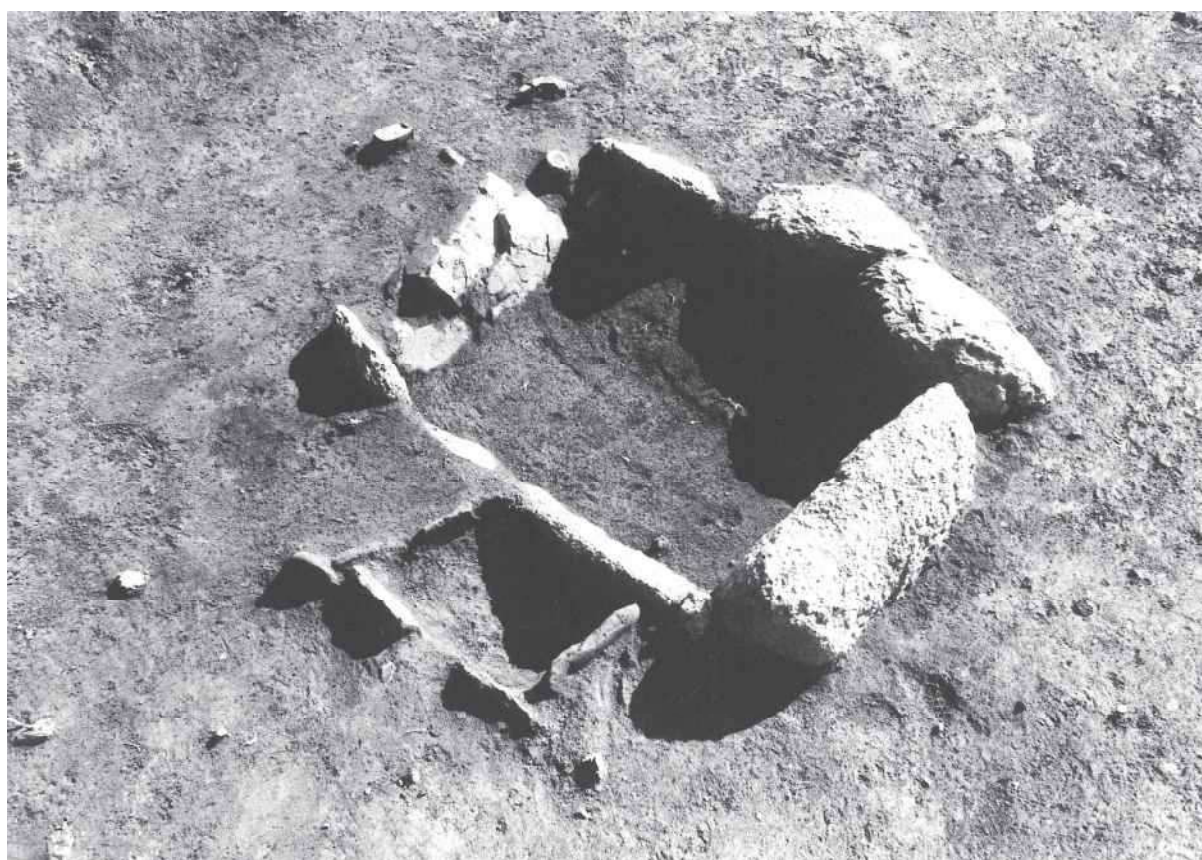
JH08 竪穴住居跡



JH10 竪穴住居跡

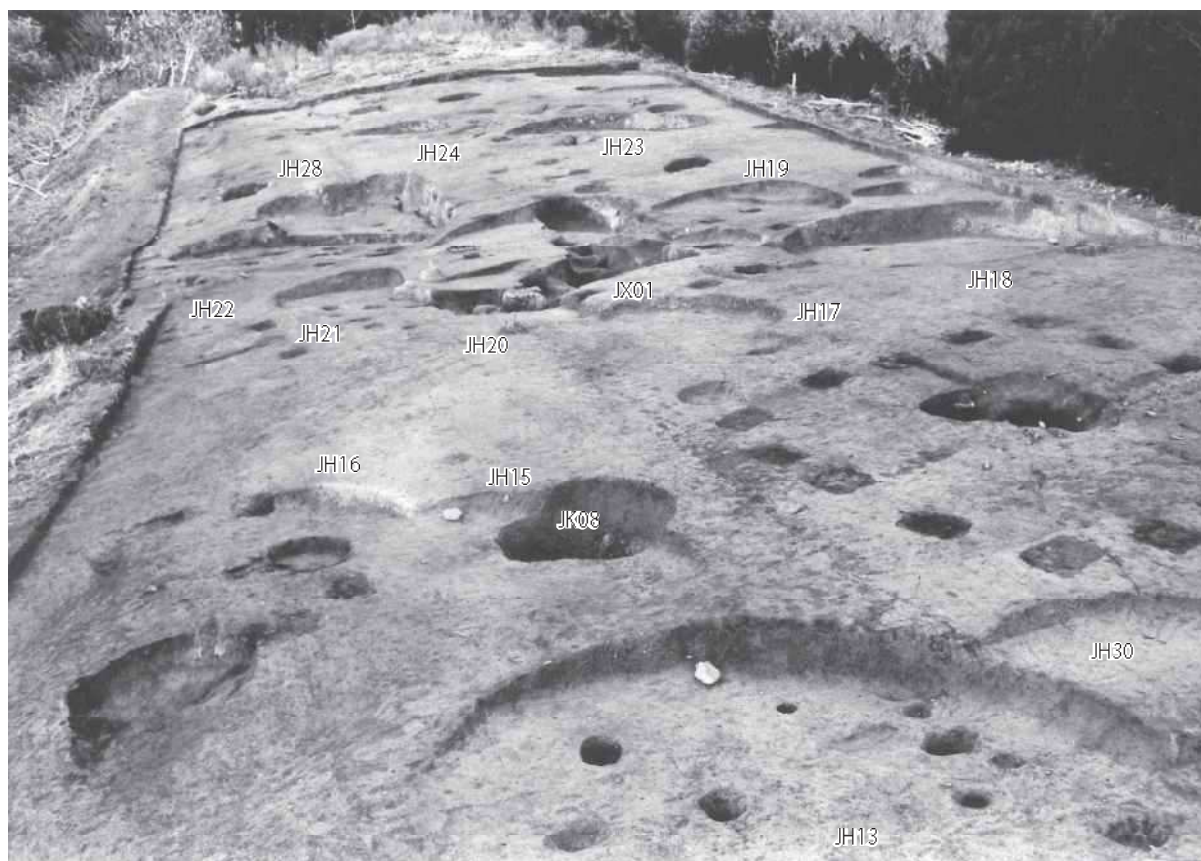


J H 1 1, 1 2 豎穴住居跡



J H 1 2 豎穴住居跡炉跡

写真図版 6



平成8年度（1996）調査区全景



JH13 竪穴住居跡



J H 1 7 豎穴住居跡



J H 2 0 豎穴住居跡

写真図版 8



J X 0 1 粘土採掘土坑跡



J X 0 1 粘土採掘土坑跡土層断面



J X 0 1 粘土採掘土坑跡 埋甕



J H 2 2 竪穴住居跡

写真図版10



J H 2 3 豎穴住居跡



J H 2 7 豎穴住居跡



J H 2 8 豎穴住居跡



J H 2 9 豎穴住居跡

写真図版12



J H 3 1 豎穴住居跡



J H 4 6 豎穴住居跡



J F 0 3 炉跡



J F 0 4 炉跡

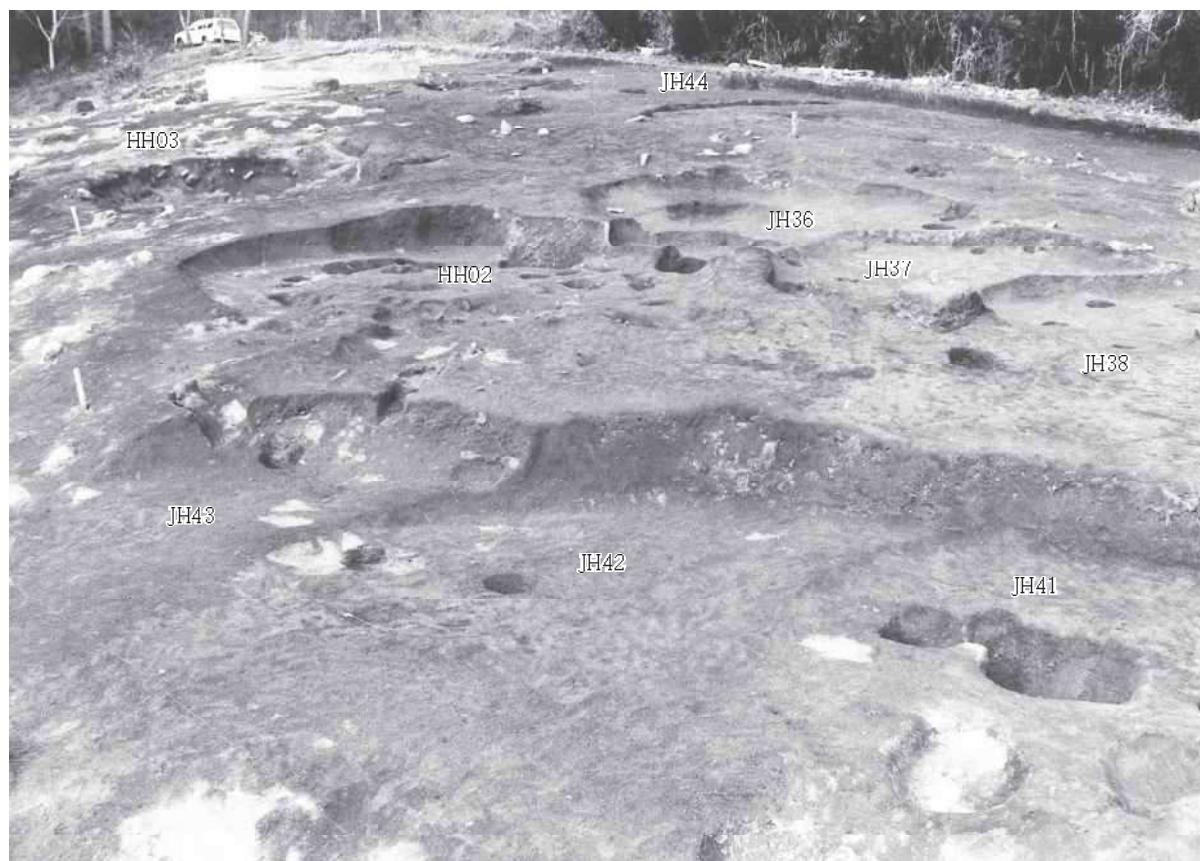


J K 1 5 土坑跡



J K 1 6 土坑跡

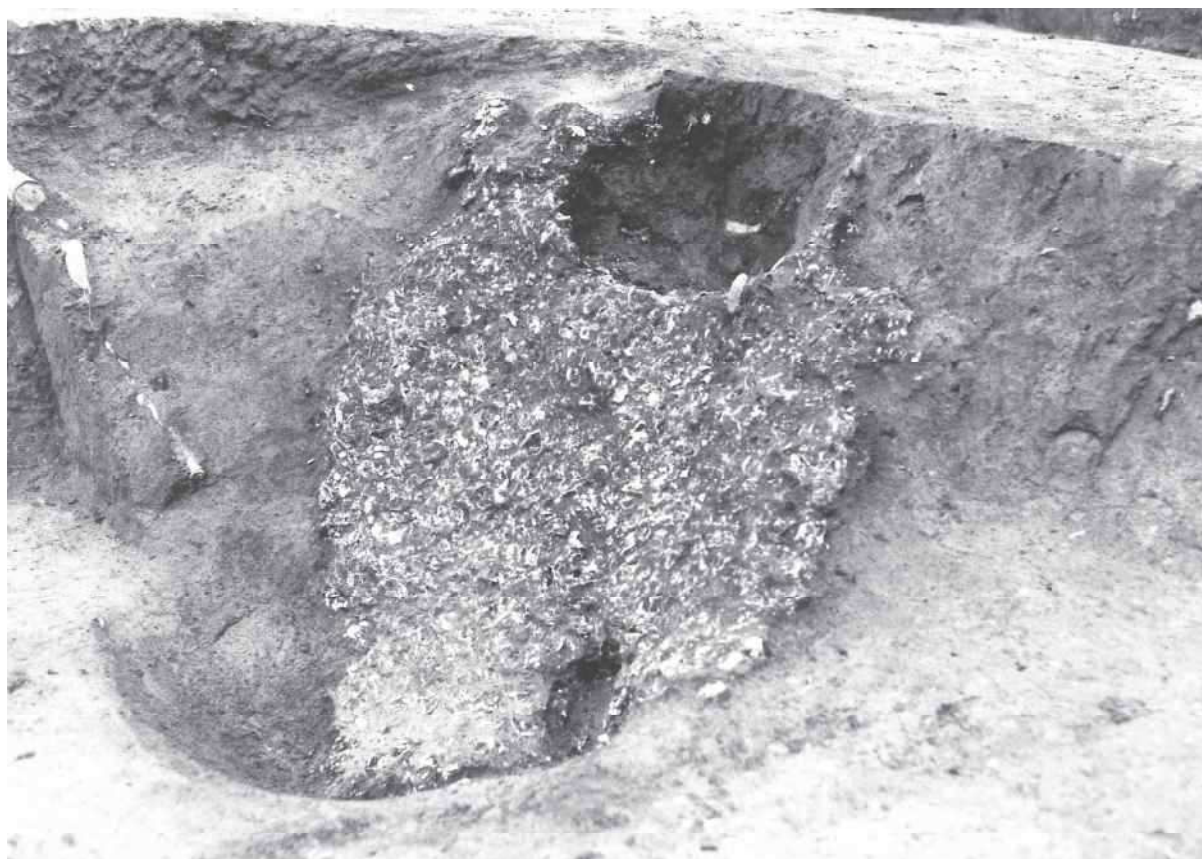
写真図版14



平成9年度（1997）調査区（東から）



HH01 竪穴住居跡



HH0 1 豎穴住居跡貝層



HH0 2 豎穴住居跡

写真図版16



HH02 竪穴住居跡カマド



HH05 竪穴住居跡



J H 3 2, 3 3 豎穴住居跡



J H 3 4 豎穴住居跡



JH 38 豎穴住居跡



JH 40 豎穴住居跡



J H 4 4 豎穴住居跡



J H 4 5 豎穴住居跡

写真図版20



HH01
148-19



HH01
149-22



149-21



148-20



HH01
149-23

坏・土師器 (1)



157-12



HH02
157-13



158-14



149-24



169-3



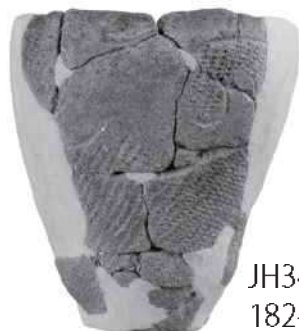
158-20

土師器 (2)

写真図版22



JH44
211-9



JH34
182-24



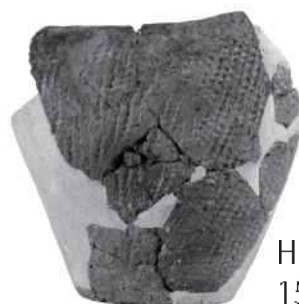
JH22
97-65



JH38
196-3



JH12
37-1



HH02
158-22

縄文土器 (1)



JX01
88-40



JX01
89-41

縄文土器 (2)



JH35
188-1



JH21
82-4



JH29
124-3

縄文土器 (3)



JH12
38-14



JH38
196-4

縮尺 1/3

縄文土器 (4)



159-28L



HH02
159-28R



152-53L



HH01
152-53R



219-37L



HH01
219-37R



135-33L



96表土
135-33R



217-11L



97表土
217-11R

縮尺 3/4 原寸

土偶・石製品



171-17



153-55



153-56



171-19



162-6



171-18



159-27

縮尺 $\div 1/2$

鉄製品

報告書抄録

ふりがな	わせとち3いせき
書名	早稲枳Ⅲ遺跡
副書名	果樹園改良事業（個人）関係埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	114
編著者名	阿部 豊
編集機関	岩手県宮古市教育委員会文化課
所在地	〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1
発行年月日	令和3年2月5日（2021年）

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	市町村					
早稲枳Ⅲ遺跡	岩手県 宮古市 崎山第5地割 17	3202	LG23-0369	39度 39分 31秒	141度 56分 05秒	1995/6/12～ 1995/9/27 1995/6/10～ 1996/12/24 1997/7/1～ 1997/12/26	470 m ² 650 m ² 700 m ²	果樹園 改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺構
早稲枳Ⅲ遺跡	集落跡	平安時代 縄文時代前期～中期 ～後期	竪穴住居跡 土坑跡 平安時代の貝層	土師器、鉄製品 土製品 縄文土器 石器、土製品

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

1	1979	『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』	67	2006	『八木沢古館・八木沢中田遺跡・八木沢駅跡Ⅰ遺跡―市道岸ノ前 ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書―』
2	1980	『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』	68	2006	『木戸井内Ⅳ遺跡―宮古市生活圏市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書―』
3	1983	『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅰ』	69	2006	『菅ノ沢遺跡発掘調査―市内遺跡発掘調査報告書Ⅵ―』
4	1984	『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅱ』	70	2007	『山口路跡―市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査 報告書―Ⅰ』
5	1984	『赤前遺跡群第Ⅰ次・第Ⅱ次発掘調査報告書』	71	2007	『近内館跡―宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書―Ⅰ』
6	1985	『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅲ』	72	2007	『半沢遺跡・大付遺跡第Ⅰ次調査―市内遺跡発掘調査報告書Ⅶ―』
7	1985	『金浜館跡発掘調査報告書』	73	2007	『松川路跡第Ⅱ次調査―宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘 調査報告書―Ⅰ』
8	1986	『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅳ』	74	2008	『荷竹日向Ⅳ遺跡―市道向川原南竹線道路工事関係発掘調査報告書』
9	1986	『宮古市遺跡分布図―昭和60年度版―Ⅰ』	75	2008	『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅴ』
10	1986	『中谷地・島田遺跡調査報告書』	76	2009	『国指定史跡崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報(骨角器篇)』
11	1987	『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』	77	2010	『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅵ』
12	1987	『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』	78	2011	『宮古市遺跡分布調査報告書Ⅶ』
13	1987	『崎山遺跡群Ⅰ―昭和60年度発掘調査概報―Ⅰ』	79	2012	『室茂路遺跡群―第Ⅱ次発掘調査報告書―Ⅰ』
14	1988	『青猿Ⅰ・下在奈Ⅱ・千徳城遺跡群(混合跡)―昭和62年度発掘調査報告書―Ⅰ』	80	2014	『八木沢駅跡Ⅰ遺跡・八木沢駅跡Ⅱ遺跡・市道磯崎金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書―』
15	1988	『崎山遺跡群Ⅱ―昭和62年度発掘調査概報―Ⅰ』	81	2014	『條々沢Ⅰ遺跡・山口駅跡Ⅰ遺跡・山口駅跡Ⅱ遺跡・市道條々沢線道路改良工事関係発掘調査報告書―』
16	1989	『千熱遺跡―昭和62年度発掘調査報告書―Ⅰ』	82	2014	『赤坂東遺跡―山口南院新築建設工事関係発掘調査報告書―Ⅰ』
17	1989	『トロノ木Ⅰ遺跡―第Ⅰ～Ⅶ次発掘調査報告書―Ⅰ』	83	2015	『千徳城遺跡群―築工務店建設工事関係発掘調査報告書―Ⅰ』
18	1989	『崎山遺跡群Ⅲ―昭和63年度発掘調査概報―Ⅰ』	84	2015	『黒森町Ⅰ遺跡―宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」新修施設建設工事関係発掘調査報告書―Ⅰ』
19	1989	『高根遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―Ⅰ』	85	2015	『菅ノ沢遺跡・備路Ⅰ遺跡―市道長根柏崎線道路改良工事関係発掘調査報告書―Ⅰ』
20	1989	『崎山Ⅱ遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―Ⅰ』	86	2016	『千徳城遺跡群―アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
21	1989	『崎山トロノ木Ⅳ遺跡―昭和63年度調査報告書―Ⅰ』	87	2016	『室茂路遺跡群―室茂小学校校庭グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―(第Ⅲ次調査)』
22	1990	『磯崎遺跡―平成元年度発掘調査報告書―Ⅰ』	88	2016	『室茂路遺跡群―室茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―(第Ⅳ次調査)』
23	1990	『崎山遺跡群Ⅳ―平成元年度発掘調査報告書―Ⅰ』	89	2016	『室茂路遺跡群―室茂漁業協同組合室茂給油所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―(第Ⅴ次調査)』
24	1990	『磯崎館山遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―Ⅰ』	90	2016	『下大谷地Ⅵ・大谷地Ⅰ遺跡―市道下大谷地花輪線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
25	1990	『鍛ヶ崎館山貝塚―平成元年度発掘調査報告書―Ⅰ』	91	2016	『千熱Ⅲ遺跡―千熱地区漁業集落防災機能強化事業関係発掘調査報告書―Ⅰ』
26	1991	『崎山遺跡群Ⅴ―平成Ⅱ年度発掘調査概報―Ⅰ』	92	2016	『金浜路跡―市道磯崎金浜線(金浜工区)道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
27	1991	『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群―平成元年・Ⅱ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	93	2016	『乙部Ⅱ遺跡―田老地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
28	1990	『松崎町遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―Ⅰ』	94	2017	『高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡―災害公営住宅整備事業(高浜)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
29	1991	『松川Ⅰ遺跡―平成Ⅱ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	95	2017	『川原清水野・下川Ⅰ遺跡―市道線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
30	1992	『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成Ⅱ年度) 発掘調査報告書Ⅰ』	96	2017	『沼里路跡―整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
31	1992	『室茂路遺跡群―第Ⅰ次調査報告書―Ⅰ』	97	2017	『日の出町Ⅱ遺跡―災害公営住宅整備事業(日の出町)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
32	1992	『黒森町Ⅰ遺跡―平成Ⅱ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	98	2017	『拝殿館遺跡―市道北部環状線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
33	1992	『高根遺跡―平成Ⅲ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	99	2017	『赤前Ⅲ遺跡・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ棚沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小根内Ⅲ遺跡―文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
34	1992	『磯沢遺跡―平成Ⅱ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	100	2019	『千熱Ⅳ遺跡(第Ⅱ次調査)―東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅰ―』
35	1992	『大付遺跡―平成Ⅲ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	101	2019	『折笠館・中里遺跡・松川Ⅰ遺跡・和井内清水遺跡・室茂路遺跡群―上下水道部生活排水課市役浄化槽整備事業に伴う発掘調査報告書―Ⅰ』
36	1992	『稲越Ⅰ遺跡・宇野Ⅱ遺跡―農林課関係(代)地区埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』	102	2019	『赤前Ⅰ・半子沢遺跡―東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅱ―Ⅰ』
37	1992	『崎山遺跡群Ⅵ―平成Ⅲ年度発掘調査概報―Ⅰ』	103	2019	『白石遺跡(第Ⅷ次・Ⅸ次調査)―崎山地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
38	1993	『秋沢Ⅱ遺跡―平成Ⅳ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	104	2019	『松田松長根Ⅰ遺跡―東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅲ―Ⅰ』
39	1993	『早稲橋Ⅱ遺跡―第Ⅰ次・第Ⅱ次発掘調査報告書―Ⅰ』	105	2019	『高浜Ⅴ下地神遺跡―東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う倉庫建築関係発掘調査報告書―Ⅰ』
40	1993	『崎山遺跡群Ⅶ―平成Ⅳ年度発掘調査概報―Ⅰ』	106	2020	『松田松長根Ⅰ遺跡―新田平乙部地区道路整備関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
41	1994	『崎山遺跡群Ⅷ―平成Ⅴ年度発掘調査概報―Ⅰ』	107	2020	『神田沢遺跡―神田沢地区宅地造成関係発掘調査報告書―Ⅰ』
42	1995	『赤前Ⅰ・半子沢遺跡―平成Ⅳ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	108	2020	『早稲橋Ⅱ遺跡(第Ⅷ次調査)―宮古市消防対策課防火水槽築造関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
43	1995	『磯崎館山遺跡発掘調査報告書』	109	2020	『島田Ⅲ遺跡―市道河南高浜線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』
44	1995	『崎山貝塚―範囲確認調査報告書―Ⅰ』	110	2020	『赤前Ⅴ棚沢遺跡(第Ⅱ次・第Ⅲ次調査)―東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅳ―Ⅰ』
45	1995	『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・塚ノ神遺跡―市道清の沢線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』	111	2020	『津軽石大森遺跡―津軽石地区津波復興拠点整備事業関係発掘調査報告書―Ⅰ』
46	1995	『花原市遺跡―平成Ⅳ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	112	2020	『室茂路遺跡群―東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅴ―(第Ⅵ次調査)』
47	1995	『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』	113	2020	『窪内Ⅰ遺跡―東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書Ⅵ―Ⅰ』
48	1996	『大付遺跡―平成Ⅴ年・Ⅵ年度発掘調査報告書―Ⅰ』	114	2021	『早稲橋Ⅲ遺跡―果樹園改良事業(個人) 関係発掘調査報告書―Ⅰ』
49	1997	『花原市遺跡―平成Ⅷ年度発掘調査報告書―Ⅰ』			
50	1997	『白石遺跡―第Ⅵ次発掘調査報告書―Ⅰ』			
51	1998	『赤畑・天神山・山口館―北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書―Ⅰ』			
52	1998	『赤畑遺跡―平成Ⅸ年度発掘調査報告書―Ⅰ』			
53	1999	『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ棚沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小根内Ⅲ遺跡―水産課津軽石環状整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』			
54	1999	『千熱Ⅳ遺跡―水産課千熱地区漁港施設総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』			
55	1999	『崎山貝塚―第Ⅻ次・Ⅼ次内容確認調査概報』			
56	2000	『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡―特別高圧送電線ラサ工業 宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』			
57	2002	『山口路跡―北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―Ⅰ』			
58	2002	『小沢Ⅱ大上遺跡―市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ―Ⅰ』			
59	2003	『大又沢Ⅵ遺跡―東北電力宮古へり ポート移設工事関係発掘調査 報告書―Ⅰ』			
60	2003	『上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡―市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ―Ⅰ』			
61	2003	『早稲橋Ⅱ遺跡第Ⅵ次調査―市内遺跡発掘調査報告書Ⅳ―Ⅰ』			
62	2003	『下在奈Ⅰ遺跡―平成Ⅳ年度発掘調査報告書―Ⅰ』			
63	2004	『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡―市道開伊崎線道路改良工事関係発掘調査 報告書―Ⅰ』			
64	2005	『松川路跡―瑞雲寺高床整備関係発掘調査報告書―Ⅰ』			
65	2006	『高浜Ⅵ地神遺跡―高浜Ⅳ丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書―Ⅰ』			
66	2006	『崎山貝塚第Ⅻ次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第Ⅶ次調査―市内遺跡発掘 調査報告書Ⅴ―Ⅰ』			

宮古市埋蔵文化財調査報告書 114

早稻枋Ⅲ遺跡

－ 果樹園改良事業(個人)関係発掘調査報告書 －

発 行 令和3年2月5日(2021)
宮古市教育委員会
〒027-8501 岩手県宮古市宮町一丁目1番30号

編 集 宮古市教育委員会文化課
〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1
TEL 0193-65-7527 Fax 0193-65-7508

発 行 ショウジ印刷株式会社
〒027-0084 岩手県宮古市末広町4番10号
TEL 0193-62-1326 Fax 0193-62-0271